

独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
第4冊

旧練兵場遺跡Ⅳ

2014.3

香 川 県 教 育 委 員 会
独立行政法人国立病院機構善通寺病院



調査地遠景（香色山より）



6-1 区 S K 18 人骨完掘状況（西北から）



6-1 区調査状況（東から）



6-2 区調査状況（東から）



7-1 区調査状況（東から）



7-3 区西部 調査状況（東から）



7-1 区空中写真（東が下）

序 文

旧練兵場遺跡は、県内で最大規模を誇る集落遺跡として知られています。今回、独立行政法人国立病院機構善通寺病院の統合事業に伴い、平成8年より断続的に行われた調査によって、数多くの重要な知見が得られています。本書は、平成21年度より実施された27次、28次調査の一部についての報告です。

今回報告する箇所が発掘調査では、弥生時代中期から中世にわたる数多くの遺構と遺物を確認しました。中でも弥生時代中期後半の墓が検出されたことは特筆されます。香川県では弥生時代中期の墓制は不明確であり重要な知見となります。このほかの成果についても、各時代の社会や経済を考える資料となるものです。本報告書が香川県はもとより全国の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、独立行政法人国立病院機構善通寺病院をはじめとした関係機関並びに地元関係者各位には、多大な援助と協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、埋蔵文化財の保護について今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年3月

香川県埋蔵文化財センター

所長 真鍋 昌宏

例 言

1. 本書は、香川県善通寺市仙遊町に所在する旧練兵場遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会が独立行政法人国立病院機構から委託され、香川県教育委員会を調査主体とし、香川県埋蔵文化財センターを調査担当として実施した。調査・報告書作成に伴う費用は、全て独立行政法人国立病院機構本部及び同善通寺病院が負担した。
3. 現地調査及び報告書作成に当たって、下記の関係機関や多くの方々の協力や教示を賜った。記して謝意を表したい。
独立行政法人国立病院機構本部 同善通寺病院 善通寺市教育委員会 地元自治会
松井章（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）、村上恭通（愛媛大学）、
岩本崇（島根大学）、古市光信
4. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
本報告書の整理作業は、遺構・土器については木下晴一が、石器・金属器・玉類については森下友子が担当した。執筆は各担当が行い、森下執筆分については、該当する段落の末尾に（森下）と記している。編集作業は木下晴一が担当した。また、弥生時代の人骨について九州大学大学院中橋孝博氏より玉稿を頂いた。また、動物遺存体の同定にあたっては熊本大学埋蔵文化財調査室（当時）石丸恵利子氏の鑑定をいただいた。
5. 本報告書の遺構名は、基本的に現地での調査時に使用したものを踏襲する。したがって、遺構検出時に土坑と認識したものが、調査の進捗によって墓と確定した場合でも、土坑の遺構番号が付されたままとなっている。なお、報告書作成作業で欠番になったものや、新たに追加したものが含まれる。
6. 本報告書の測地系は、既往の調査区との整合を図るため旧来の日本測地系を使用している。なお、平面直角座標は第Ⅳ系を使用している。
7. 本報告書の実測図は、以下の縮尺を基本としている。
土器（1/4）・石器（1/2, 1/3）・金属器（1/2）・土製品（1/4, 1/2）
8. 実測遺物に、赤色顔料や摩滅痕等の特徴が認められるものについては、実測図中にアミ掛けで表現した。
9. 本報告書における弥生土器および古墳時代初頭の土師器の年代観については、信里芳紀「弥生中期後半から古墳時代初頭の土器編年」（香川県教育委員会ほか『独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 旧練兵場遺跡Ⅱ（第19次調査）』、2011年）

に拠ったが、細片の遺物で年代考証を行うことが多かったことから、年代に幅をもたせて表現している。

10. 本報告書においては、出土位置を記録して取り上げた遺物の地点を、参考のために遺構断面図に投影して表記している場合があることをおことわりする。
11. 本報告に当たって、実測・分析・保存処理等を下記の機関等に業務委託した。
土器実測・トレース（株式会社アコード）
土壌分析（株式会社パレオ・ラボ）
金属器保存処理（株式会社文化財サービス、パリノ・サーヴェイ株式会社）
遺物写真撮影（岡村印刷工業株式会社）
12. 調査で作成した記録類及び出土遺物は、香川県埋蔵文化財センターで一括して保管しているので、活用されたい。

地図は国土地理院地形図を使用しました。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	1
第3節 整理調査の経過	3

第2章 遺跡の立地と環境及び既往調査の概要

第3章 調査の成果

第1節 層序	13
第2節 6-1 区の調査	21
第3節 6-2 区の調査	60
第4節 6-3 区の調査	93
第5節 7-1 区の調査	99
第6節 7-3 区の調査	136
第7節 7-4,5 区の調査	160
第8節 7-6 区の調査	180

第4章 自然科学的分析

第1節 香川県旧練兵場遺跡出土の弥生時代人骨	200
第2節 旧練兵場遺跡から出土した赤色粘土	202

第5章 まとめ

第1節 遺構の変遷	206
第2節 旧練兵場遺跡周辺の微地形について	207
第3節 弥生時代中期後半の掘立柱建物の平面プラン	216

挿図目次

図 1	調査区割	5	図 56	6-1 区 SX08 平・断面・出土遺物	55
図 2	遺跡の位置 (1)	6	図 57	6-1 区 SX04 平・断面・出土遺物	56
図 3	遺跡の位置 (2)	7	図 58	6-1 区 SX01 平・断面・出土遺物	57
図 4	既往の調査区分布	10	図 59	6-1 区遺構に伴わない遺物 (1)	58
図 5	遺構平面 (全時代)	12	図 60	6-1 区遺構に伴わない遺物 (2)	59
図 6	基本層序概念	13	図 61	6-2 区 遺構平面	60
図 7	6-1 区 土層断面	14	図 62	6-2 区 SH16 平・断面・出土遺物	61
図 8	6-2 区 土層断面	15	図 63	6-2 区 SH23 平・断面・出土遺物	61
図 9	6-3 区 土層断面	16	図 64	6-2 区 SH22 平・断面・出土遺物	62
図 10	7-1 区 土層断面 (1)	17	図 65	6-2 区 SH09 平・断面・出土遺物	63
図 11	7-1 区 土層断面 (2)	18	図 66	6-2 区 SH08 平・断面・出土遺物	64
図 12	7-3 区 土層断面	19	図 67	6-2 区 SH07 平・断面・出土遺物	65
図 13	7-4 区、7-6 区 土層断面	20	図 68	6-2 区 SH15 平・断面・出土遺物	66
図 14	6-1 区 遺構平面	21	図 69	6-2 区 SH03 平・断面・出土遺物	67
図 15	6-1 区 SH23 平・断面・出土遺物	22	図 70	6-2 区 SH10 平・断面・出土遺物	68
図 16	6-1 区 SX09 平・断面・出土遺物	23	図 71	6-2 区 SH02 平・断面・出土遺物	69
図 17	6-1 区 SH15・06・04 平・断面・出土遺物	24	図 72	6-2 区 SH04 平・断面・出土遺物	70
図 18	6-1 区 SH22 (6-2 区 SH21) 平・断面・出土遺物 (1)	25	図 73	6-2 区 SH01 平・断面・出土遺物 (1)	71
図 19	6-1 区 SH22 (6-2 区 SH21) 出土遺物 (2)	26	図 74	6-2 区 SH01 出土遺物 (2)	72
図 20	6-1 区 SH22 (6-2 区 SH21) 出土遺物 (3)	27	図 75	6-2 区 SH06 平・断面・出土遺物	73
図 21	6-1 区 SD12 平・断面・出土遺物	28	図 76	6-2 区 SH11・12 平・断面・出土遺物	74
図 22	6-1 区 SX21 (6-2 区 SH24) 平・断面・出土遺物	28	図 77	6-2 区 SH14 平・断面・出土遺物	75
図 23	6-1 区 SH09 平・断面・出土遺物	29	図 78	6-2 区 SK16 平・断面・出土遺物	76
図 24	6-1 区 SH18 平・断面・出土遺物	29	図 79	6-2 区 SK15 平・断面・出土遺物	76
図 25	6-1 区 SH12 平・断面・出土遺物	30	図 80	6-2 区 SK20 平・断面・出土遺物	77
図 26	6-1 区 SH17 平・断面・出土遺物	31	図 81	6-2 区 SP88 平・断面・出土遺物	77
図 27	6-1 区 SH21 平・断面・出土遺物	32	図 82	6-2 区 SK06 平・断面・出土遺物	78
図 28	6-1 区 SH08 平・断面・出土遺物 (1)	33	図 83	6-2 区 SK09 平・断面・出土遺物	79
図 29	6-1 区 SH08 出土遺物 (2)	34	図 84	6-2 区柱穴・土坑 (1) 平・断面・出土遺物	80
図 30	6-1 区 SH13 平・断面・出土遺物	34	図 85	6-2 区柱穴・土坑 (2) 平・断面・出土遺物	81
図 31	6-1 区 SH03 平・断面・出土遺物	35	図 86	6-2 区柱穴・土坑 (3) 平・断面・出土遺物	81
図 32	6-1 区 SH03 出土遺物	36	図 87	6-2 区柱穴・土坑 (4) 平・断面・出土遺物	82
図 33	6-1 区 SH02・05 平・断面・出土遺物	37	図 88	6-2 区柱穴・土坑 (5) 平・断面・出土遺物	83
図 34	6-1 区 SH07 平・断面・出土遺物	38	図 89	6-2 区柱穴・土坑 (6) 平・断面・出土遺物	84
図 35	6-1 区 SH01 平・断面・出土遺物	39	図 90	6-2 区 SD13 平・断面・出土遺物	84
図 36	6-1 区 SH16 平・断面・出土遺物	40	図 91	6-2 区 SD15・SK25 平・断面・出土遺物	85
図 37	6-1 区 SH19 平・断面・出土遺物	41	図 92	6-2 区 SD03 平・断面・出土遺物 (1)	86
図 38	6-1 区 SH20 平・断面・出土遺物	42	図 93	6-2 区 SD03 出土遺物 (2)	87
図 39	6-1 区 SH14 平・断面	43	図 94	6-2 区 SR (SH06 内落ち込み) 平・断面・出土遺物	88
図 40	6-1 区 SH11 平・断面	43	図 95	6-2 区遺構に伴わない遺物 (1)	89
図 41	6-1 区 SP17・48 平・断面・出土遺物	44	図 96	6-2 区遺構に伴わない遺物 (2)	90
図 42	6-1 区 SP07 平・断面・出土遺物	45	図 97	6-3 区旧倉庫棟調査区 平・断面・出土遺物	92
図 43	6-1 区 SB01 平・断面・出土遺物	46	図 98	6-3 区北調査区 平・断面・出土遺物	93
図 44	6-1 区 SK42 平・断面・出土遺物	46	図 99	6-3 区南調査区 遺構平面	94
図 45	6-1 区 SK18 平・断面・出土遺物	47	図 100	6-3 区 SH01 平・断面・出土遺物 (1)	95
図 46	6-1 区 SK34 平・断面・出土遺物	48	図 101	6-3 区 SH01 出土遺物 (2)	96
図 47	6-1 区柱穴・土坑 (1) 平・断面・出土遺物	49	図 102	6-3 区柱穴・土坑 (1) 平・断面・出土遺物	97
図 48	6-1 区柱穴・土坑 (2) 平・断面・出土遺物	50	図 103	6-3 区柱穴・土坑 (2) 平・断面・出土遺物	98
図 49	6-1 区柱穴・土坑 (3) 平・断面・出土遺物	51	図 104	6-3 区 SD01・02 平・断面・出土遺物	98
図 50	6-1 区柱穴・土坑 (4) 平・断面・出土遺物	52	図 105	7-1 区 遺構平面	99
図 51	6-1 区柱穴・土坑 (5) 平・断面・出土遺物	53	図 106	7-1 区 SH03 平・断面・出土遺物	100
図 52	6-1 区 SD18 断面・出土遺物	54	図 107	7-1 区 SH04 平・断面・出土遺物	100
図 53	6-1 区 SD21 断面・出土遺物	54	図 108	7-1 区 SH12 平・断面・出土遺物	101
図 54	6-1 区 SD08 平・断面・出土遺物	54	図 109	7-1 区 SH06 平・断面・出土遺物	102
図 55	6-1 区 SD07 断面・出土遺物	55	図 110	7-1 区 SH05 平・断面・出土遺物	103

図 111	7-1 区 SH08	平・断面・出土遺物	104	図 170	7-3 区柱穴・土坑(4)	平・断面・出土遺物	150
図 112	7-1 区 SH09	平・断面・出土遺物	105	図 171	7-3 区 SK07	平・断面・出土遺物	151
図 113	7-1 区 SH07	平・断面・出土遺物	105	図 172	7-3 区 SD01～03	平・断面・出土遺物	152
図 114	7-1 区 SH11	平・断面・出土遺物	106	図 173	7-3 区 SD08～10・14	平・断面・出土遺物	153
図 115	7-1 区 SH01	平・断面・出土遺物	107	図 174	7-3 区 SX02～05	平・断面・出土遺物	154
図 116	7-1 区 SH16	平・断面・出土遺物	108	図 175	7-3 区 SX07・10	平・断面・出土遺物	155
図 117	7-1 区 SH02	平・断面・出土遺物	109	図 176	7-3 区 SX08	平・断面・出土遺物	156
図 118	7-1 区 SB01	平・断面	110	図 177	7-3 区 SR01	断面・出土遺物	157
図 119	7-1 区 SB02	平・断面・出土遺物	111	図 178	7-3 区攪乱坑 13	平・断面・出土遺物	159
図 120	7-1 区 SB03	平・断面	112	図 179	7-4 区 SH03	平・断面・出土遺物	160
図 121	7-1 区 SB04	平・断面・出土遺物	112	図 180	7-4、5 区 遺構平面		161
図 122	7-1 区 SB05	平・断面・出土遺物	113	図 181	7-5 区 SH03	平・断面・出土遺物	162
図 123	7-1 区 SB06	平・断面・出土遺物	114	図 182	7-4 区 SH01	平・断面・出土遺物	162
図 124	7-1 区 SK04	平・断面・出土遺物	115	図 183	7-5 区 SH02	平・断面・出土遺物	163
図 125	7-1 区 SK02	平・断面・出土遺物	116	図 184	7-4 区 SH04	平・断面	164
図 126	7-1 区柱穴・土坑(1)	平・断面・出土遺物	117	図 185	7-5 区 SH01	平・断面	164
図 127	7-1 区柱穴・土坑(2)	平・断面・出土遺物	118	図 186	7-4 区 SB01	平・断面・出土遺物	165
図 128	7-1 区柱穴・土坑(3)	平・断面・出土遺物	119	図 187	7-4 区 SB02	平・断面・出土遺物	166
図 129	7-1 区柱穴・土坑(4)	平・断面・出土遺物	120	図 188	7-4 区 SB03	平・断面・出土遺物	166
図 130	7-1 区柱穴・土坑(5)	平・断面・出土遺物	121	図 189	7-4 区 SB04	平・断面	167
図 131	7-1 区柱穴・土坑(6)	平・断面・出土遺物	122	図 190	7-4 区 SB05	平・断面・出土遺物	168
図 132	7-1 区中世の遺構 平面		123	図 191	7-5 区 SB01	平・断面・出土遺物	169
図 133	7-1 区中世の遺構 平・断面・出土遺物		123	図 192	7-5 区 SA01	平・断面・出土遺物	170
図 134	7-1 区 SD 平面		124	図 193	7-4 区 SP93	平・断面・出土遺物	170
図 135	7-1 区 SD07	断面・出土遺物	125	図 194	7-5 区 SP84	平・断面・出土遺物	171
図 136	7-1 区 SD09, 10	断面・出土遺物	125	図 195	7-4 区 SP09	平・断面・出土遺物	172
図 137	7-1 区 SD11	断面・出土遺物	125	図 196	7-4 区柱穴・土坑(1)	平・断面・出土遺物	173
図 138	7-1 区 SD01～03	断面	126	図 197	7-4 区柱穴・土坑(2)	平・断面・出土遺物	174
図 139	7-1 区 SD03(1)	断面・出土遺物	127	図 198	7-5 区柱穴	平・断面・出土遺物	175
図 140	7-1 区 SD03(2)	断面・出土遺物	128	図 199	7-4 区 SK05	平・断面・出土遺物	175
図 141	7-1 区 SD31	断面・出土遺物	128	図 200	7-4 区 SK01	平・断面・出土遺物	176
図 142	7-1 区 SD01	出土遺物	129	図 201	7-4 区 SK04	平・断面・出土遺物	176
図 143	7-1 区 SD02	出土遺物	130	図 202	7-5 区 SD01	断面・出土遺物	177
図 144	7-1 区 SD08	断面・出土遺物	130	図 203	7-4 区 SX01・02	平・断面・出土遺物	177
図 145	7-1 区 SX08	平・断面・出土遺物(1)	131	図 204	7-4 区 SR01	出土遺物	178
図 146	7-1 区 SX08	出土遺物(2)	132	図 205	7-5 区遺構に伴わない遺物		179
図 147	7-1 区 SX04	平・断面・出土遺物	132	図 206	7-6 区 遺構平面		180
図 148	7-1 区 SX01	平・断面・遺物出土状況・出土遺物(1)	133	図 207	7-6 区 SH05	平・断面・出土遺物	181
図 149	7-1 区 SX01	出土遺物(2)	134	図 208	7-6 区 SH01	平・断面・出土遺物	182
図 150	7-1 区 SR01	断面・出土遺物	135	図 209	7-6 区 SH02	平・断面・出土遺物	183
図 151	7-1 区遺構に伴わない遺物		135	図 210	7-6 区 SH03	平・断面・出土遺物	184
図 152	7-3 区 SH07	平・断面・出土遺物	136	図 211	7-6 区 SH04	平・断面・出土遺物	184
図 153	7-3 区 SH13	平・断面・出土遺物	136	図 212	7-6 区 SH06	平・断面・出土遺物	185
図 154	7-3 区 遺構平面		137	図 213	7-6 区 SB04	平・断面	186
図 155	7-3 区 SH05	平・断面・出土遺物(1)	138	図 214	7-6 区 SB05	平・断面・出土遺物	186
図 156	7-3 区 SH05	出土遺物(2)	139	図 215	7-6 区 SB01	平・断面・出土遺物	187
図 157	7-3 区 SH11	平・断面・出土遺物	140	図 216	7-6 区 SB03	平・断面	188
図 158	7-3 区 SH12	平・断面・出土遺物	141	図 217	7-6 区 SB02	平・断面・出土遺物	189
図 159	7-3 区 SH10	平・断面・出土遺物	142	図 218	7-6 区柱穴(1)	平・断面・出土遺物	190
図 160	7-3 区 SH09	平・断面・出土遺物	143	図 219	7-6 区柱穴(2)	平・断面・出土遺物	191
図 161	7-3 区 SH08	平・断面・出土遺物(1)	144	図 220	7-6 区 SK05	平・断面・出土遺物	192
図 162	7-3 区 SH08	出土遺物(2)	145	図 221	7-6 区 SK06	平・断面・出土遺物	192
図 163	7-3 区 SH14	平・断面	145	図 222	7-6 区 SK01	平・断面・出土遺物	193
図 164	7-3 区 SH01	平・断面・出土遺物	146	図 223	7-6 区 SD04・05	断面・出土遺物	193
図 165	7-3 区 SH06	平・断面・出土遺物	146	図 224	7-6 区 SD02	断面・出土遺物	193
図 166	7-3 区 SH02	平・断面	147	図 225	7-6 区 SD06	断面・出土遺物	194
図 167	7-3 区柱穴・土坑(1)	平・断面・出土遺物	147	図 226	7-6 区 SD03	断面・出土遺物	194
図 168	7-3 区柱穴・土坑(2)	平・断面・出土遺物	148	図 227	7-6 区 SD01	断面・出土遺物	195
図 169	7-3 区柱穴・土坑(3)	平・断面・出土遺物	149	図 228	7-6 区 SX06	平・断面・出土遺物	196
				図 229	7-6 区 SX09	平・断面	197

図 230	7-6 区 SX02 平・断面・出土遺物	197
図 231	7-6 区 SX04 平・断面・出土遺物	198
図 232	7-6 区 SR01 断面・出土遺物	199
図 233	7-6 区遺構に伴わない遺物	199
図 234	旧練兵場遺跡出土 弥生人骨の遺存部位	201
図 235	遺跡周辺の地質図	205
図 236	遺構変遷図 (弥生前期)	208
図 237	遺構変遷図 (弥生中期後半)	209
図 238	遺構変遷図 (弥生後期)	210

図 239	遺構変遷図 (弥生終末期～古墳前期)	211
図 240	遺構変遷図 (古墳後期)	212
図 241	遺構変遷図 (古代)	213
図 242	遺構変遷図 (中世)	214
図 243	善通寺周辺の微高地 (金田章裕氏による)	215
図 244	『旧練兵場遺跡Ⅱ』SB13、26 平面図	216
図 245	旧練兵場遺跡 弥生中期後半の掘立柱建物の梁と桁長	218

表目次

表 1	発掘調査体制一覧表	2
表 2	整理調査体制一覧表	4
表 3	既往の調査一覧	8
表 4	検討した粘土資料	202
表 5	点分析の分析結果	203
表 6	堆積物中の珪藻化石産出表	203
表 7	旧練兵場遺跡検出の弥生中期後半の掘立柱建物	217

表 8	土器観察表	221
表 9	瓦観察表	277
表 10	石器観察表	277
表 11	玉類観察表	282
表 12	金属器観察表	286
表 13	動物遺存体一覧表	288

図版目次

巻頭図版 1	調査地遠景 (香色山より) 6-1 区 S K 18 人骨完掘状況 (西北から)
巻頭図版 2	6-1 区調査状況 (東から) 6-2 区調査状況 (東から)
巻頭図版 3	7-1 区調査状況 (東から) 7-3 区西部 調査状況 (東から)
巻頭図版 4	7-1 区空中写真 (東が下)
図版 1	6-1 区調査区西壁断面 6-2 区地山の赤色土壌
図版 2	6-1 区 S X 09 断面 (東から) 6-1 区 S H 04、15 等掘削状況 (南から)
図版 3	6-1 区 S H 04、06 断面 (西北から) 6-1 区 S H 22 完掘状況 (西南から)
図版 4	6-1 区 S H 09 完掘、6-1 区 S H 16 検出状況 (西から) 6-1 区 S H 12 完掘状況 (西から)
図版 5	6-1 区 S H 21 等掘削状況 (東から) 6-1 区 S H 01、07、08 等検出状況 (東から)
図版 6	6-1 区 S H 13 壁溝 遺物出土状況 (東から) 6-1 区 S H 03 掘削状況 (南から)
図版 7	6-1 区 S H 03 掘削状況 (南から) 6-1 区 S H 03 断面 (西から)
図版 8	6-1 区 S H 05、S X 04 等検出状況 (東から) 6-1 区 S P 17、48 遺物出土状況 (南から)
図版 9	6-1 区 S K 18 掘削状況 (東から) 6-1 区 S K 18 断面 (東から)
図版 10	6-1 区 S K 18 人骨完掘状況 (北から) 6-1 区 S K 18 人骨完掘状況 (西から)
図版 11	6-1 区 S K 18 人骨完掘状況 (南から) 6-1 区 S K 18 人骨完掘状況 (南から)
図版 12	6-1 区 S X 08 掘削状況 (東から) 6-2 区 S H 09 完掘状況 (北から)

図版 13	6-2 区 S H 07 遺物出土状況 (南から) 6-2 区 S H 14、15 等掘削状況 (西から)
図版 14	6-2 区 S H 01 等完掘状況 (東から) 6-2 区 S K 06 (東から)
図版 15	6-2 区 S D 13 検出状況 (西から) 6-2 区 S D 13 掘削状況 (東から)
図版 16	6-3 区 (南) 掘削状況 (東から) 6-3 区 S H 01 完掘状況 (西から)
図版 17	6-3 区 (南) S H 01、S P 67 断面 (東から) 7-1 区 S H 12 完掘状況 (南から)
図版 18	7-1 区掘削状況 (西から) 7-1 区 S H 01、02 完掘状況 (東から)
図版 19	7-1 区 S H 02 焼土集中状況 (東から) 7-1 区 S B 05 (東北から)
図版 20	7-1 区 S P 15 遺物出土状況 (東から) 7-1 区 S D 03 遺物出土状況
図版 21	7-1 区 S D 03 検出状況 (西から) 7-1 区 S D 03 等掘削状況 (西から)
図版 22	7-1 区 S D 03 等掘削状況 (東から) 7-1 区 S X 08 遺物出土状況 (北から)
図版 23	7-1 区 S X 01 遺物出土状況 (西から) 7-1 区 S X 01 遺物出土状況 (東から)
図版 24	7-1 区 S X 04 断面 (北から) 7-1 区 S R 01 掘削状況 (東北から)
図版 25	7-3 区 S H 05 床面の遺物 (左の凹地は攪乱 13) 7-3 区 S H 05、08 完掘状況 (北から)
図版 26	7-3 区 S H 12 遺物出土状況 (東から) 7-3 区 S H 09、10、11 掘削状況 (北から)
図版 27	7-3 区 S H 06～08 掘削状況 (北から) 7-3 区東部 遺構掘削状況 (北から)
図版 28	7-3 区 S D 10、14 掘削状況 (南から)

- | | | | |
|-------|----------------------------------|----------|-----------------------------|
| | 7-3 区 S X 08 遺物、焼土等検出状況（北から） | | 7-6 区 S H 03、04 掘削状況（西から） |
| 図版 29 | 7-5 区完掘状況（北から） | 図版 36 | 7-6 区 S H 06 断面（東から） |
| | 7-5 区完掘状況（南から） | | 7-6 区 S B 01～03 等掘削状況（南から） |
| 図版 30 | 7-4 区南半 掘削状況（西から） | 図版 37 | 7-6 区 S K 05 遺物出土状況（北から） |
| | 7-4 区 S B 01 完掘状況（西から） | | 7-6 区 S X 04 遺物出土状況（東から） |
| 図版 31 | 7-4 区 S P 93 掘削状況（南から） | 図版 38～48 | 出土遺物 |
| | 7-4 区 S P 93 掘削状況（北から） | 図版 49 | 動物遺存体 |
| 図版 32 | 7-4 区 S P 93 掘削状況（南から） | 図版 50 | 元素マッピング図および粒子・珪藻化石の顕微鏡写真 |
| | 7-4 区 S P 09 遺物出土状況（東南から） | 図版 51 | 旧練兵場遺跡周辺 等高線図 |
| 図版 33 | 7-4 区 S K 01 遺物出土状況（東南から） | 図版 52 | 久安元年における普通寺領の土地利用（金田章裕氏による） |
| | 7-6 区東部 掘削状況（東から） | | 普通寺付近の明治前期の地目・地位等級 |
| 図版 34 | 7-6 区 S H 05 掘削状況（北から） | | |
| | 7-6 区 S H 01、S B 02、03 検出状況（南から） | | |
| 図版 35 | 7-6 区 S H 02、06 等掘削状況（東北から） | | |

付図

旧練兵場遺跡Ⅳ 遺構平面 (S=1/200)

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

新病院統合事業は、善通寺病院の敷地の西部にあった臨床研修研究棟及び機能訓練棟、南西部にあった屋内体育館及び看護学校教場棟等を解体・撤去して、新病棟等を建設するという事業計画である。

このうち看護学校については、平成8、9年度に用地の発掘調査を実施し、平成13年度までに新しい施設が建設された。

その他の施設については、平成10年度に厚生労働省四国厚生支局（旧厚生省四国医務支局）から香川県教育委員会に対して、用地内の埋蔵文化財の有無及び取り扱い等についての照会が行われ、両者間での本格的な調整作業が開始された。

この間、善通寺市善通寺町に所在していた香川小児病院が統合されることとなったほか、病院建物の設計変更に伴い、平成21年度以降に新たに5,277㎡の調査が必要となった。

調整に際しては、病院敷地全体が周知の埋蔵文化財包蔵地という特殊な環境であるため、香川県教育委員会では事業予定地における試掘調査を実施することで、遺構・遺物の存否を確認し、保護措置の方法についての判断を行った。

上記の確認調査の結果にもとづいて、より詳細な調整が行われ、掘削工事等によって埋蔵文化財に影響を及ぼす箇所について、本格的な発掘調査を行うことで合議に至った。

第2節 発掘調査の経過

本報告書に係る発掘調査は、平成22年11月1日から平成24年3月31日までの期間で実施した。この期間、平成22年11月から調査班1班が調査を開始し、平成23年1月から1班が合流し年度末まで2班体制で調査を行った。平成23年度は、4月から10月まで2班体制で調査を行い、11月から3班体制で調査を行った。

発掘調査の対象となった箇所については、新しい施設や設備等の詳細な配置図と設計図が未完成であったため、施設建設予定地の全域にわたって全面調査を実施した。調査は、円滑な工程管理が図れるように、対象地全体を平成22年度は1～3区、平成23年度は1～14区に小区分した上で実施した。なお、調査中に遺構の現状保存協議は実施しておらず、調査範囲内の遺構は記録作成を行った後、ほぼ全て消滅した。調査地区および調査担当を図1、表1に示す。

このように複数の調査班によって作業を進めるため、調査の進め方や記録の作成にばらつきが生じる可能性が懸念された。とりわけ遺構が密集し、埋土の判断が困難な当遺跡においては、現地作業中だけでなく整理作業時においても遺構の組み合わせや認定に変更が生じる場合があることから、柱穴一つ一つにおいても埋土の情報を記載し断面写真を撮っておくことが必要である。この点については、共通の約束事として調査を行った。また、特に3班体制となった平成23年度11月以降は、調査を円滑に進捗させるために現地において遺構面の認定や調査手法の統一を図るための調査員会議を複数回実施した。しかし、実際は調査班1班を構成する2名の調査員が調査区を分割して調査を担当することとなり、個人の担当分の調査に忙殺される状況となる結果、横の連携を十分に発揮できなかった部分があることは

否めず、今後に課題を残すものとなった。

平成 21 年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
総括 課長 春山 浩康 課長補佐 武井 壽紀 総務・生涯学習推進グループ 副主幹 香西としみ 主任 林 照代 文化財グループ 主幹(兼)課長補佐 藤好 史郎 主任文化財専門員 森 格也 文化財専門員 小野 秀幸	総括 所長 大山 眞充 次長 深谷 右 総務課 課長 深谷 右 (兼務) 副主幹 林 文夫 主任 宮田久美子 主任 古市 和子 調査課 課長 西岡 達哉 主任文化財専門員 北山健一郎 文化財専門員 木下 晴一 文化財専門員 森下 友子 文化財専門員 松本 和彦 調査技術員 木全加珠美 調査技術員 藤井菜穂子

平成 22 年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
総括 課長 石垣 恵一 課長補佐 亀山 隆 総務・生涯学習推進グループ 副主幹 香西としみ 主任主事 西本 優子 文化財グループ 主幹(兼)課長補佐 藤好 史郎 主任文化財専門員 森下 英治 文化財専門員 小野 秀幸	総括 所長 大山 眞充 次長 深谷 右 総務課 課長 深谷 右 (兼務) 副主幹 林 文夫 主任 福井 良子 主任 古市 和子 調査課 課長 西岡 達哉 主任文化財専門員 森 格也 主任文化財専門員 木下 晴一 文化財専門員 森下 友子 文化財専門員 蔵本 晋司 文化財専門員 佐藤 竜馬 文化財専門員 松本 和彦 調査技術員 木全加珠美 調査技術員 白木 亨 調査技術員 東瀨 愛

調査担当者一覧

調査区	主たる調査担当者
6-1 区	北山健一郎、松本和彦
6-2 区	森下友子、木下晴一
6-3 区	北山健一郎
7-1 区	東部：松本和彦、西部：木下晴一
7-3 区	西部：松本和彦、東部：木下晴一
7-4 区	木下晴一
7-5 区	松本和彦
7-6 区	木下晴一

調査補助員

井上加奈子
木下美千代
植本佳奈子
東原輝明
現場整理作業員
鳥谷真紀子
工藤勇太
柴垣智美
木下美千代

表 1 発掘調査体制一覧表

第3節 整理調査の経過

本報告書に係る出土品等の整理作業は、平成23年3月から開始し、平成25年3月31日までの期間で実施した。なお、平成22、23年度に発掘調査を実施した箇所の中の未報告部分および平成24年度に発掘調査を実施した箇所の整理作業は、次年度以降に継続される予定である。

調査成果の報告にあたり、手順や記載順序については既往の旧練兵場遺跡の報告書（『旧練兵場遺跡Ⅱ』、『旧練兵場遺跡Ⅲ』）に準拠することとしたが、本報告書においては、細分した調査区毎に時代別に記述を進めることとした。それは、複数年度にわたる整理作業を同一の調査員が従事するかどうか不

平成23年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
<p>総括</p> <p>課長 炭井 宏秋 課長補佐 亀山 隆</p> <p>総務・生涯学習推進グループ</p> <p>副主幹 香西としみ 主任主事 丸山 千晶</p> <p>文化財グループ</p> <p>課長補佐 西岡 達哉 主任文化財専門員 森下 英治 文化財専門員 松本 和彦</p>	<p>総括</p> <p>所長 藤好 史郎 次長 真鍋 正彦</p> <p>総務課</p> <p>課長 真鍋 正彦（兼務） 副主幹 林 文夫 主任 古市 和子 主任 中川 美江</p> <p>資料普及課</p> <p>課長 森 格也 主任文化財専門員 木下 晴一 文化財専門員 信里 芳紀 嘱託 伊井 恵子 今井 真紀 岡崎江伊子 香川 和子 川井 佐織 北濱 敦子 竹内 悦子 斉藤 寛子</p>

平成24年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
<p>総括</p> <p>課長 炭井 宏秋 副課長 木虎 淳</p> <p>総務・生涯学習推進グループ</p> <p>副主幹 松下由美子 主任主事 丸山 千晶</p> <p>文化財グループ</p> <p>課長補佐 西岡 達哉 主任文化財専門員 森下 英治 文化財専門員 松本 和彦</p>	<p>総括</p> <p>所長 藤好 史郎 次長 真鍋 正彦</p> <p>総務課</p> <p>課長 真鍋 正彦（兼務） 副主幹 林 文夫 主任 宮武ふみ代 主任 中川 美江</p> <p>資料普及課</p> <p>課長 森 格也 主任文化財専門員 木下 晴一 文化財専門員 森下 友子 嘱託 市川 孝子 矢口 敦子 木下美千代 徳永 貴美 伊藤 真紀 森 后代 土居乃里子 永森 彩佳</p>

平成 25 年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
総括	総括
課長 増田 宏	所長 真鍋 昌宏
副課長 木虎 淳	次長 前田 和也
総務・生涯学習推進グループ	総務課
副主幹 松下由美子	課長 前田 和也 (兼務)
主任主事 丸山 千晶	主任 宮武ふみ代
文化財グループ	主任 俣野 英二
課長補佐 片桐 孝浩	主任 中川 美江
主任文化財専門員 山下 平重	資料普及課
文化財専門員 松本 和彦	課長 森 格也
	主任文化財専門員 木下 晴一
	文化財専門員 森下 友子
	嘱託 市川 孝子
	加藤 恵子
	川井 佐織
	木下美千代
	徳永 貴美
	香西 栄理
	森 后代
	高橋 千恵
	森国 愛子

表 2 整理調査体制一覧表

透明で、年度によって整理作業を完結させる必要があるためである。

整理作業においては、発掘調査時に認定していた遺構の組み合わせ（竪穴住居の主柱穴の配置や掘立柱建物の柱の組み合わせ等）を白紙に戻し、例えば柱穴については、調査時に撮影した土層断面の写真や出土遺物に関する情報から再度検討しなおした。

報告遺物の抽出については、例えば明らかに古代の遺構に含まれる弥生土器等は、実測可能であっても報告対象からはずす一方、遺構の年代を示す可能性のある遺物については、小片であっても実測するようにした。しかし、上層遺構が認識できなかったために混入したと思われる遺物等を排除することは不可能で、遺構の組み合わせ等が確定できない状況で報告遺物の抽出を行わざるをえなかった遺構もあるため、結果として遺構の年代を示さない遺物を数多く実測することとなった。



図1 調査区割

第2章 遺跡の立地と環境及び既往調査の概要

遺跡周辺の地理的環境、歴史的環境については、既刊の『旧練兵場遺跡Ⅱ』、『旧練兵場遺跡Ⅲ』を参照されたい。

これまでに調査が行われた地点、概要、文献一覧を図4、表4に示す。

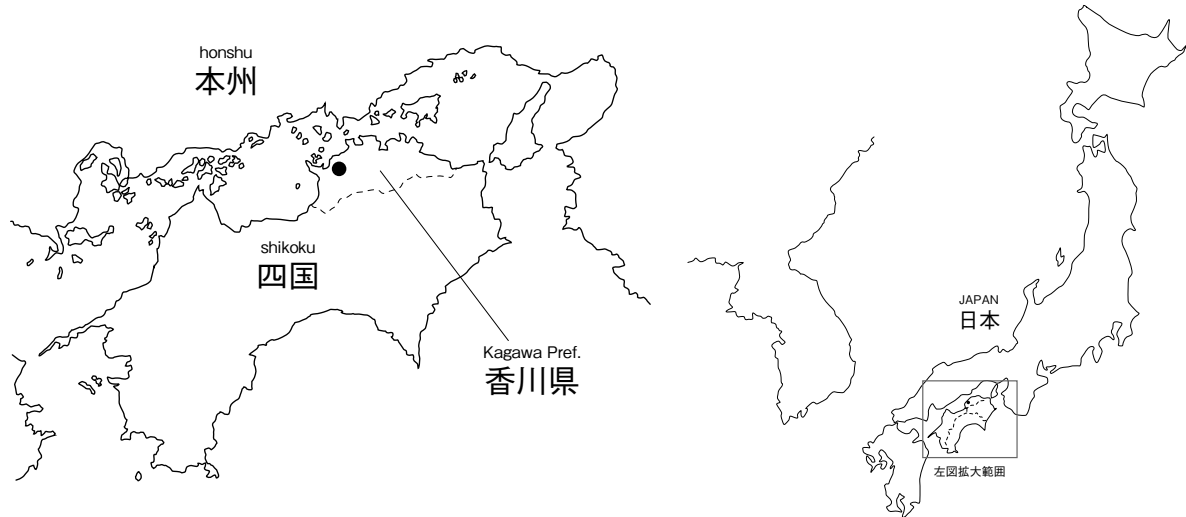


図2 遺跡の位置(1)



図3 遺跡の位置 (2)

調査番号	年度	調査種別	調査要因	調査主体	調査面積	調査概要	文献	備考
8308	s58	1	確認調査	範囲確認調査	普通寺市教委	1200	弥生終末期の堅穴住居1棟、古代末～中世の溝を検出	1.10 仲村廃寺1
8404	s59	2	本発掘調査	弘田川河川改修	普通寺市教委	3635	弥生中期～終末期の堅穴住居38棟、鏡片・銅鏃・ガラス玉出土	2.11 彼ノ宗
8507	s60	3	本発掘調査	個人住宅建設	普通寺市教委	135	弥生後期後半の箱式石棺・土器棺墓を確認	3.11 仙遊
8703	s62	4	本発掘調査	下水道建設	県教委	22	弥生中期末の堅穴住居1棟・掘立柱建物1棟を確認	11 旧練兵場
8811	s63	5	確認調査	範囲確認調査	普通寺市教委	1137	弥生中期～終末期の堅穴住居、古墳時代後期の堅穴住居を確認	4.12 仲村廃寺2
9109	h3		確認調査	四国農業試験場施設整備	県教委	146	弥生時代後期の堅穴住居、弥生中期の掘立柱建物を検出	13
9205	h4		確認調査	四国農業試験場施設整備	県教委	66	弥生後期～古墳時代堅穴住居4棟、土坑、柱穴を確認	14
9204	h4		工事立会	普通寺病院サービス棟建設	県教委	41	古墳時代後期の堅穴住居、平安時代の溝、弥生～古墳時代の土器だまりを検出	14
9210	h4	6	本発掘調査	弘田川河川改修	県教委	460	弥生後期～古墳時代堅穴住居多数、包含層中から小銅鏃片が出土。	14 弘田川西岸
9305	h5	7	本発掘調査	普通寺病院保育所建設	県教委	305	弥生時代後期～古墳時代前期の堅穴住居14棟を検出	15.28
9309	h5		工事立会	四国農業試験場施設整備	県教委	70	全域で弥生～古代の遺構を確認	15
9309-2	h5		確認調査	弘田川河川改修	県教委		弘田川の堆積層を確認	28
9310	h5		工事立会	普通寺病院水道管理設工事	県教委	100	弥生前期末の貯蔵穴2基、弥生後期の堅穴住居4棟検出	28
9310-2	h5		工事立会	普通寺病院下水道管理設工事	県教委	120	弥生時代後期の堅穴住居5棟、中世の溝等を確認	28
9310-3	h5	8	本発掘調査	普通寺病院看護学校増築	県教委	150	弥生中期～終末期の堅穴住居9棟、古墳時代の掘立柱建物を確認	15.28
9404	h6	9	本発掘調査	四国農業試験場品質管理施設建設	県教委	120	弥生中期の掘立柱建物1棟、弥生後期の堅穴住居2棟、古墳時代後期の堅穴住居1棟確認	16.29
9412	h6	10	本発掘調査	四国農業試験場バイブライン設置工事	県教委	100	全域で弥生～中世の遺構を確認	16.29
9504	h7	11	本発掘調査	弘田川河川改修	県教委	6390	弥生～古墳時代の堅穴住居62棟、弥生中期の独立棟持柱建物を確認	33 弘田川西岸
9504-2	h7	12	本発掘調査	普通寺病院研修棟建設	県教委	690	弥生中期～終末期の堅穴住居群、弥生後期初頭の掘立柱建物群を確認	17.30
9511	h7	13	本発掘調査	四国農業試験場タンパク機能解析実験棟建設	県教委	300	弥生後期の堅穴住居2棟、弥生中期の掘立柱建物1棟、古墳時代後期の溝1条確認。	17.31
9511-2	h7		工事立会	普通寺病院備蓄倉庫建設	県教委	780	弥生後期から終末期の堅穴住居等を確認	32
9610	h8	14	本発掘調査	普通寺病院看護学校新築	県教委	6000	弥生後期の堅穴住居・溝跡、条里型地割坪界溝を検出	34
9710	h9	15	本発掘調査	普通寺病院雨水管敷設工事	県教委	30	弥生～古代の旧河道を検出	32
9704	h9		工事立会	普通寺病院水源地建設	県教委	300		32
9809	h10	16	本発掘調査	普通寺病院看護学校付帯工事	県教委	30	弥生～古代の旧河道を検出	20
9808	h10		確認調査	確認調査	普通寺市教委	30	弥生中期～後期の柱穴群を確認	5 彼ノ宗
9909	h11		工事立会	四国農業試験場排水設備工事	県教委	800	弥生中期後半～後期の堅穴住居を検出	21
9911	h11	17	工事立会	老人ホーム建設	普通寺市教委	201	旧河道から弥生中期が一括出土	21
0006	h12	18	本発掘調査	市営住宅建設	普通寺市教委	1068	弥生後期堅穴住居、旧河道を検出	6
0101	h12		工事立会	四国農業試験場西門・水路改修	県教委	122592		22
0104	h13	19	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	3250	弥生中期～後期の堅穴住居・掘立柱建物多数、旧河道検出	35.39
0107	h13	20	本発掘調査	特別養護老人ホーム仙遊荘建替	普通寺市教委	1430		7.23
0202	h13	21	本発掘調査	市営住宅付帯工事	普通寺市教委	46	弥生後期の堅穴住居3棟確認	8
0206	h14		工事立会	普通寺病院電柱設置工事	県教委	10		24
0204	h14	22	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	4854	弥生中期～後期の堅穴住居・掘立柱建物、古墳時代後期の堅穴住居群検出。鏡片出土	24.44
0504	h15	23	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	3616	弥生中期～終末期の堅穴住居72棟をはじめ、掘立柱建物等を多数確認。扁平紐式銅鏃片、船載内行花文鏡片出土。	25.44
0312	h15	24	確認調査	公民館建設	普通寺市教委	70	弥生後期の堅穴住居、古墳時代の包含層を検出	9.44
0312-2	h15		工事立会	近畿中国四国農業研究センター下水道建設	県教委	200	弥生後期の堅穴住居、旧河道を検出	25
0404	h16	25	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	3547	弥生後期～終末期の堅穴住居、弥生中期の掘立柱建物群を検出。扁平紐式銅鏃片、船載内行花文鏡片が出土	26.41 .44
0406	h16		工事立会	近畿中国四国農業研究センター電気設備埋設	県教委	6	弥生後期堅穴住居1棟検出	26
0804	h20	26	本発掘調査	普通寺養護学校移転整備事業	県教委	2760	弥生中期～終末期の堅穴住居多数、条里型地割に合致する大溝を検出。鏡片が出土。	42
0905	h21		確認調査	個人住宅建設	市教委	107.5	弥生後期・古墳後期の包含層検出	43
0911	h21	27	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	840	弥生中期～終末期、古墳後期の堅穴住居、掘立柱建物を検出	本書
1004	h22	28	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	3480	弥生中期～終末期、古墳後期、古代の堅穴住居、掘立柱建物、溝を検出	一部份書
1104	h23	29	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	907	弥生中期～古墳前期の旧河道、古代道路状遺構を検出	45
1111	h23	30	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	413	飛鳥時代の大形総柱建物を検出	45
1209	h24	31	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	40	条里型地割に合致する溝を検出	46

表3 既往の調査一覧

- 尽誠学園史学会 1959「国立病院前庭遺跡発掘調査概報」『西讃史談』1
- 六車恵一 1956「讃岐弥生式土器集成図録」『文化財協会報』特別号1 香川県文化財保護協会
- 矢原高幸 1973『普通寺市の古代文化』普通寺市
1. 普通寺市教育委員会『仲村廃寺発掘調査報告（旧練兵場遺跡内）』1984.3
 2. 普通寺市教育委員会『彼ノ宗遺跡～弘田川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～』1985.3
 3. 普通寺市教育委員会『仙遊遺跡発掘調査報告書-旧練兵場遺跡仙遊Ⅰ地区-』1986.3
 4. 普通寺市教育委員会『仲村廃寺～旧練兵場遺跡における埋蔵文化財確認調査報告書～』1989.3
 5. 普通寺市教育委員会『山南遺跡・彼ノ宗遺跡発掘調査報告書～普通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5～』1999.3
 6. 普通寺市教育委員会『旧練兵場遺跡 市営西仙遊町住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2001.1
 7. 普通寺市教育委員会『旧練兵場遺跡 特別養護老人ホーム仙遊荘建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2002.3
 8. 普通寺市教育委員会『普通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7 旧練兵場遺跡』2002.3
 9. 普通寺市教育委員会『普通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9 旧練兵場遺跡』2004.3
 10. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和58年度』1984.12
 11. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和59年度～昭和62年度』1988.3
 12. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成63年度』1989.3
 13. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成3年度』1992.3
 14. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成4年度』1993.3
 15. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成5年度』1994.3
 16. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成6年度』1995.3
 17. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成7年度』1996.3
 18. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成8年度』1997.3
 19. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成9年度』1999.2
 20. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成10年度』2000.3
 21. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成11年度』2001.3
 22. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成12年度』2002.3
 23. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成13年度』2003.3
 24. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成14年度』2003.11
 25. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成15年度』2005.3
 26. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成16年度』2006.1
 27. 香川県教育委員会『香川県文化財年報 平成19年度』2009.2
 28. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡-平成5年度国立普通寺病院内発掘調査報告-』1994.3
 29. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡Ⅱ-平成6年度四国農業試験場内発掘調査報告-』1995.3
 30. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡Ⅲ-平成7年度国立普通寺病院内発掘調査報告-』1996.3
 31. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡Ⅳ-平成7年度四国農業試験場内発掘調査報告-』1996.3
 32. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡Ⅴ-平成9年度国立普通寺病院内発掘調査報告-』1998.3
 33. 香川県教育委員会『広域基幹河川弘田川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 弘田川西岸遺跡』2008.1
 34. 香川県教育委員会ほか『普通寺病院看護学校建設及び統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 旧練兵場遺跡Ⅰ』2009.2
 35. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『国立普通寺病院改修事業に伴う旧練兵場遺跡発掘調査概報1-平成13年度・平成14年度上半期の発掘成果概要報告-』2003.6
 36. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成8年度』1997.5
 37. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成9年度』1998.6
 38. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成13年度』2002.6
 39. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成14年度』2003.6
 40. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成15年度』2005.3
 41. 香川県埋蔵文化財センター『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』2006.10
 42. 笹川龍一ほか 2010「平成11年度旧練兵場遺跡の調査概要について-普通寺市ふれあいサロン五岳建設工事に伴う発掘調査-普通寺市文化財保護協会報第29号」普通寺市文化財保護協会
 43. 香川県教育委員会『香川県文化財年報 平成21年度』2011.2
 44. 香川県教育委員会ほか『独立行政法人国立病院機構普通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 旧練兵場遺跡Ⅲ』2013.2
 45. 香川県埋蔵文化財センター『香川県埋蔵文化財センター年報 平成23年度』2012
 46. 香川県埋蔵文化財センター『香川県埋蔵文化財センター年報 平成24年度』2013

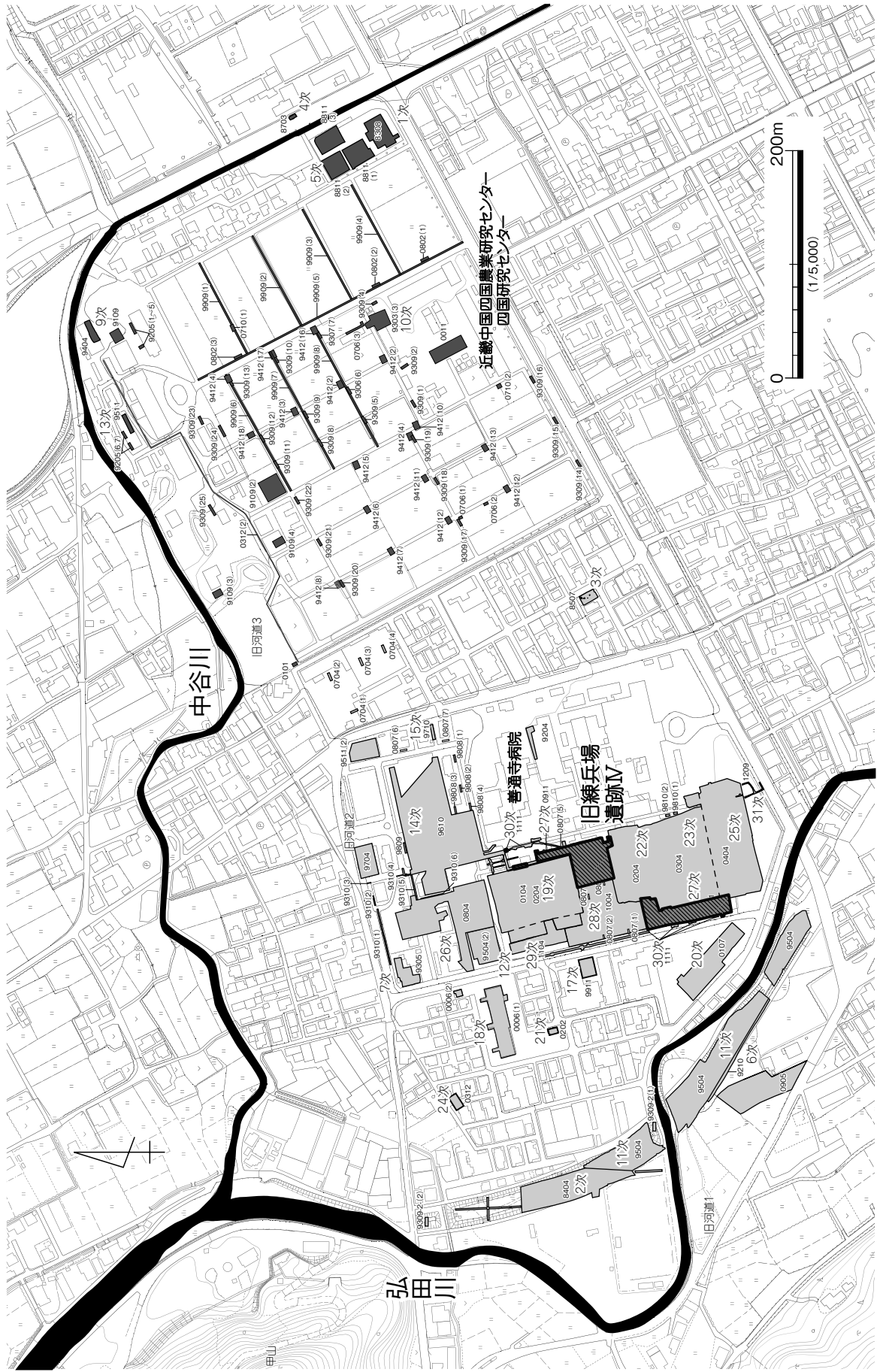


図4 既往の調査区分布

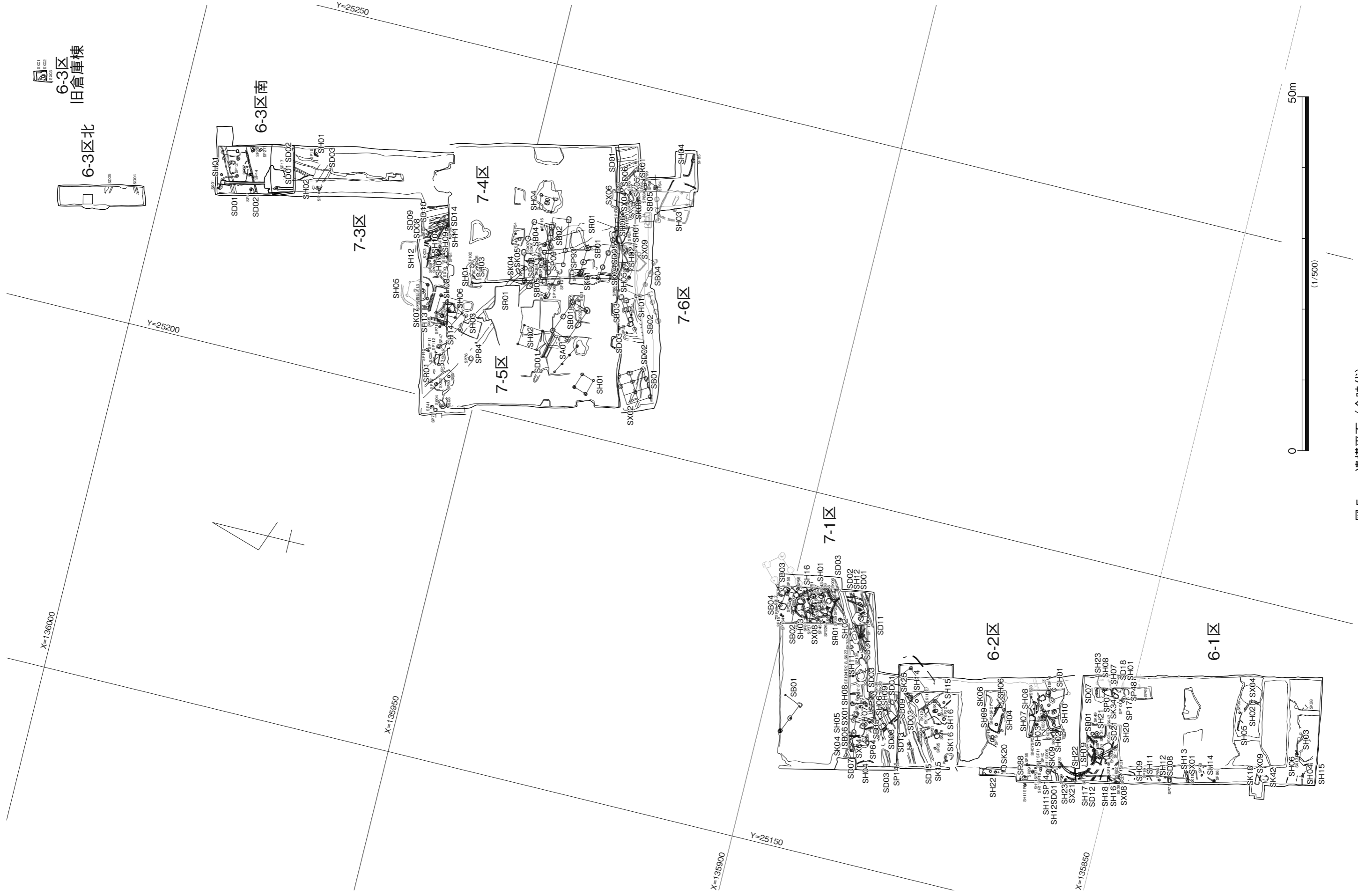


図5 遺構平面 (全時代)

第3章 調査の成果

第1節 層序

旧練兵場遺跡の基本層序については、既刊の報告書に詳述されており、本報告における調査区の知見も基本的に同じである。ここでは『旧練兵場遺跡Ⅲ』の概略を再掲するとともに、若干の補足を行う。

『旧練兵場遺跡Ⅲ』による基本層序は、以下のとおりである。

- I 層 現代の盛土及び攪乱土
- II 層 中世から近世の耕作土・遺構埋没土（灰色シルト）
SR2001（古代）
- III 層 弥生時代中期から古代の遺構埋没土（黒褐色シルト～粘土）
SR4001（縄文晩期末葉から弥生時代前期末葉）
- IV-1 層 縄文時代後期～晩期（黄灰色細粒砂～シルト）
SR4002（縄文後期）
- IV-2 層 縄文前期？～縄文後期（黄褐色粗砂～シルト）
- V 層 砂礫層

V 層の砂礫層は、扇状地の基盤となる砂礫層であり、土器川が形成したものが主体となる。微起伏に富み、現在の地表面近くまで盛り上がったり、地表数メートル下に潜ったりしている。形成年代について詳細なデータはないが、郡家大林遺跡（丸亀市郡家町）では砂礫層の凹地に堆積する木本質泥炭層のC14年代測定の結果、 30500 ± 1040 y B.P. という年代が得られ、郡家一里屋遺跡（丸亀市郡家町）では砂礫層よりも上位から始良丹沢火山灰（AT）の降灰層が検出されるなど、年代の一端が明らかになりつつある。しかし、これらをもって土器川扇状地全体の砂礫層の年代を論じるには、未だ資料不足と考えられる。

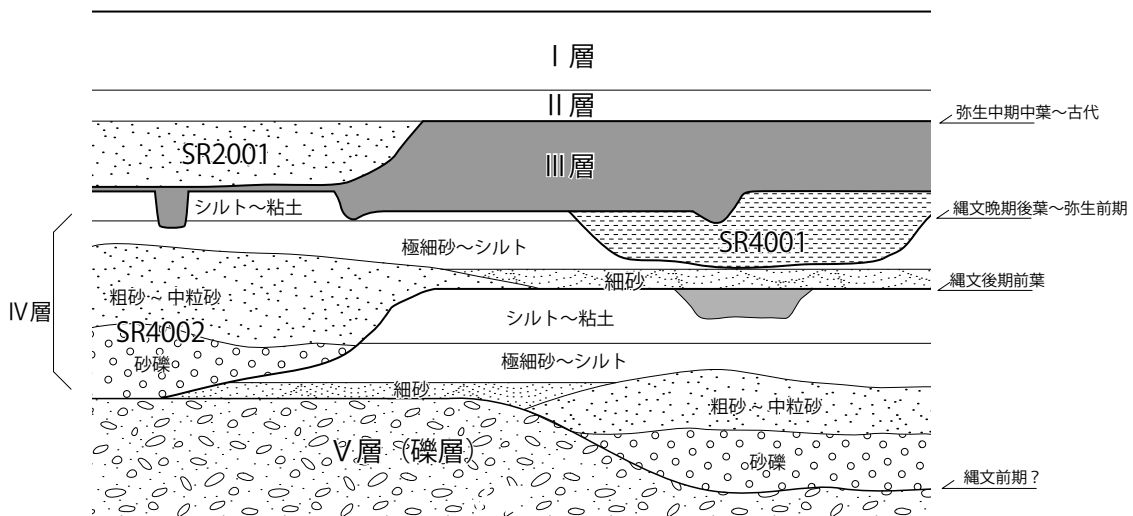


図6 基本層序概念

①西壁

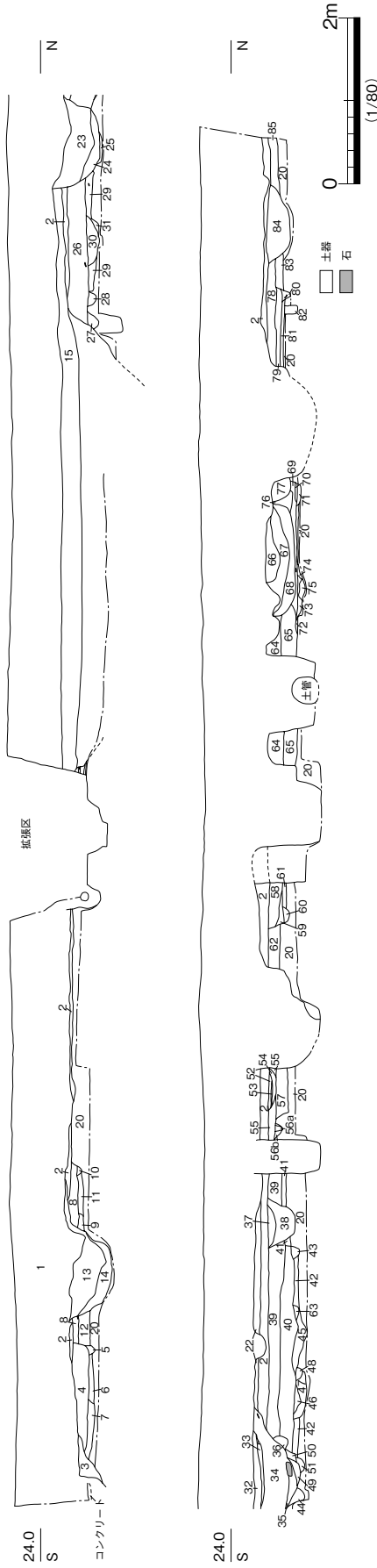
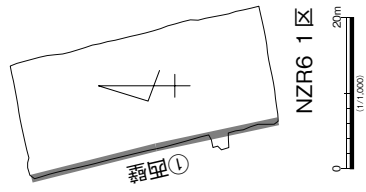


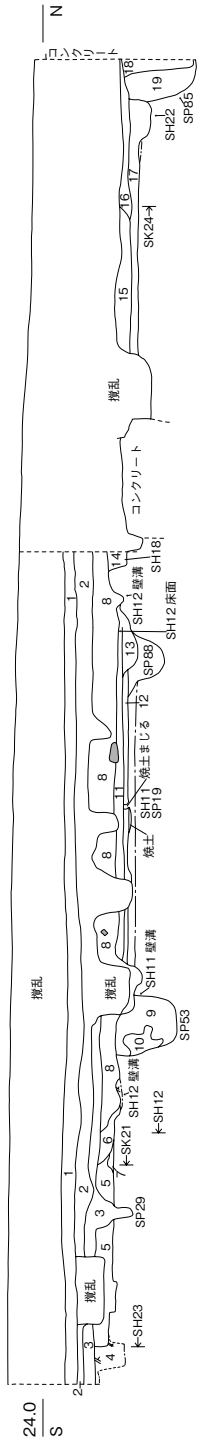
図7 6-1区 土層断面

- ①西壁
- 1 土土 (近現代、旧練兵場跡付含む)
- 2 旧耕作土 10YR5/1 褐色粘質土 下面に鉄分の沈着を認める
- 3 埋石
- 4 SH04 黄土 10YR2/2 亜褐色粘質土 底面1cm以下の地山ブロックをまばらにわずかに含む
- 5 SH04 粘床 10YR6/1 褐色粘質土 底面に地山ブロックを多く含む
- 6 SH04 粘床 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 地山土を五、七、二、三層に付けた状況
- 7 SK09 埋土 (SH04) 中央部から10YR2/3 暗褐色粘質土 一部地山ブロック散在を含む、炭化物を多量に含む
- 8 SH08 黄土 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 底面1cm以下の地山ブロックをまばらに少量含む
- 9 SH08 底面遺構 10YR4/2 暗褐色粘質土
- 10 SH08 粘床 10YR4/1 褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む
- 11 SH08 粘床 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む
- 12 SH15 黄土 10YR2/2 褐色粘質土 ※SH06 の内側埋土の可能性もある。平面ではSH15 墓溝のみの残痕に留まる
- 13 埋石 埋土層 10YR6/4 について黄褐色粘質土 鉄管埋土
- 14 埋石 埋土層 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 一部ブリーナー状を呈する
- 15 SD01 埋土
- 16 SX09
- 17 SX09
- 18 SX09 粘床
- 19 SX09 粘床
- 20 地山土 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 2cm以下の円形プランでまばらに多くまじり、種物痕跡が
- 21 SD01 埋土 2.5Y4/1 黄褐色粘質土 炭化物をわずかに含む、10YR6/1 褐色粘質シルトがクラック状に入る
- 22 旧耕作土? 10YR6/1 褐色粘質土 2層よりやや粗く、下面に沿って従って1cm以下の小石を少量認める
- 23 SD04 埋土層 10YR6/4 について黄褐色粘質土 地山を埋め戻した土、10YR6/1 褐色粘質土ブロックを多く含む。5cm 以下の小塊を少量認める
- 24 SD04 埋土層 5Y5/1 灰黄色粘質シルト 鉄分の沈着を多く認める
- 25 SD04 埋土層 5Y6/1 灰黄色粘質シルト 地山ブロックを少量まばらに含む
- 26 SH13 黄土 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む
- 27 SP96 2.5Y5/1 黄褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む
- 28 SP95 10YR4/1 褐色粘質土 地山ブロックを上部に少量含む
- 29 SK23 2.5Y4/1 黄褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む
- 30 SK23 2.5Y4/2 黄褐色粘質土 黄土を少量含む
- 31 SK23 10YR5/1 褐色粘質シルト 地山ブロックをまばらに少量含む、わずかに焼土を含む
- 32 SK23 10YR5/1 褐色粘質シルト 鉄分の沈着を多く認める
- 33 SX01 5Y6/3 オリーブ黄粘質土
- 34 SX01 2.5Y6/1 黄褐色粘質土 鉄分の沈着を多く認める、わずかに炭化物を含む
- 35 SX01 10Y6/1 灰黄色粘質土 鉄分の沈着を多く認める、わずかに炭化物を含む
- 36 SX01 5Y6/1 灰黄色粘質土
- 37 SD08 上層 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 須藤紫を含む
- 38 SD08 下層 2.5YR4/1 赤灰色粘質土 炭化物をわずかに含む
- 39 SH12 埋土層 2.5Y4/1 黄褐色粘質土 地山ブロックと10YR3/3 暗褐色粘質土ブロックを多く含む
- 40 SH12 埋土層 39層とはほぼ同一層だが、地山ブロックの含有量がやや多い
- 41 SH12 ベッド 粘床 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 地山ブロックをまばらに含む
- 42 SH12 粘床 10YR7/2 について黄褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む
- 43 SH12 墓溝 (内側) 10YR4/1 褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む、焼土を土層付近に多く含む
- 44 SH12 墓溝 (外側) 10YR3/3 暗褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む

- 45 SK20 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 底面と上面に炭化物層を認める。焼土を少量含む
- 46 SP45 10YR4/1 褐色粘質土 炭化物、焼土を少量含む
- 47 SK30 7.5YR3/1 黄褐色粘質土 床面、そして炭化物層を認める。地山ブロックをまばらに多く含む
- 48 SP72 10YR4/1 褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む、わずかに焼土を含む
- 49 SK12 2.5Y3/3 暗褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む、わずかに炭化物を認める
- 50 SH13 黄土 2.5Y3/3 暗褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む
- 51 SH13 黄土 10YR4/1 褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む
- 52 SD09 10YR4/1 褐色粘質土
- 53 SD09 10YR7/6 明黄褐色粘質土
- 54 SD09 2.5Y4/1 灰黄色粘質土
- 55 SH11 黄土 10YR3/1 褐色粘質土 底面付近に地山ブロックをやや多く含む
- 56a 不明遺構 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 地山ブロックを多く含む
- 56b 不明遺構 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 588層より地山ブロックを多く含む
- 57 不明遺構 (SH11?) 10YR4/1 褐色粘質土 径1cm以下の地山ブロックをまばらに多く含む
- 58 SH16 黄土 10YR3/1 褐色粘質土 わずかに焼土を含む
- 59 SH16 黄土 58層とは同じであるが地山ブロックを少量含む
- 60 SH16 墓溝 10YR4/1 褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む
- 61 SH16 粘床 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む
- 62 不明遺構 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む
- 63 SP46 2.5YR4/1 赤灰色粘質土 炭化物、焼土を多く含む
- 64 SH16 黄土 58層と同じ
- 65 SX08 埋土 10YR4/1 褐色粘質土 地山ブロックを多く含む、底面に沿って炭化物を認める
- 66 SD06 上層 2.5Y5/1 灰黄色粘質土 地山ブロックを一定量含む
- 67 SD06 中層 5Y5/1 灰黄色粘質シルト
- 68 SD06 下層 5Y3/1 オリーブ黒粘質土 一部ブリーナー状堆積を認める
- 69 SH18 黄土 2.5Y5/1 黄褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む、底面に沿って炭化物層を認める
- 70 SH18 黄土 5YR5/3 について黄褐色粘質土 炭化物と焼土を多く含む
- 71 SH18 墓溝 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む
- 72 SK38 2.5Y6/3 について黄褐色粘質土
- 73 SK38 2.5YR4/1 赤灰色粘質土 炭化物、焼土を多く含む
- 74 SK38 2.5YR7/3 について黄褐色粘質土 炭化物を認める
- 75 SK38 10YR7/3 について黄褐色粘質土=ほぼ地山の土 底面に炭化物層を認める
- 76 SP34 10YR3/1 褐色粘質土
- 77 SK12 10YR3/1 褐色粘質土
- 78 不明埋土 (須藤紫) 10YR5/1 褐色粘質土 マンガンを含まばらに一定量認める
- 79 SH17 黄土 10YR4/1 褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量認める
- 80 SH17 墓溝 10YR3/1 褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量認める
- 81 SD12 10YR4/3 について黄褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多量に認める
- 82 SD12 10YR4/3 について黄褐色粘質土 壁溝の一部か?
- 83 不明埋土 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 地山ブロックと10YR3/4 暗褐色粘質土ブロックをまばらに多量に含む
- 84 SD05 2.5Y6/1 灰黄色粘質土
- 85 不明埋土 (中間?) 2.5Y6/2 灰黄色粘質土

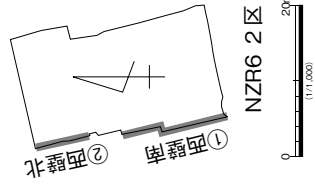
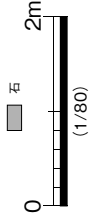


①西壁南

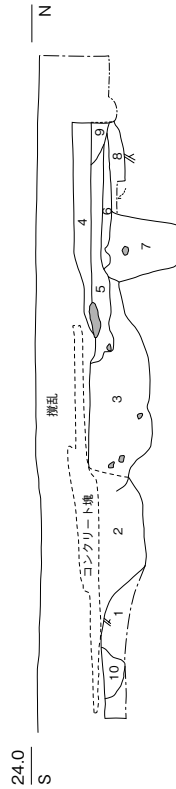


- ①西壁南
- 1 N3/ 増灰色シルト層
- 2 5Y7/1 灰白色シルト層
- 3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト層
- 4 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層 (地山)
- 5 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 6 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 7 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 8 10YR3/2 黒褐色粘質シルト層
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト層
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト層
- 11 2.5Y7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 12 2.5Y7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 13 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 14 2.5Y7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 15 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 16 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 17 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 18 10YR3/2 黒褐色粘質シルト層
- 19 10YR3/1 黒褐色粘質シルト層

- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト層
- 11 2.5Y7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 12 2.5Y7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 13 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 14 2.5Y7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 15 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 16 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 17 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層
- 18 10YR3/2 黒褐色粘質シルト層
- 19 10YR3/1 黒褐色粘質シルト層
- 20 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト層



②西壁北



- ②西壁北
- 1 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂質土
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト質土
- 3 2.5Y5/2 明黄褐色細砂質土
- 4 10YR5/1 相灰色砂泥じり粘質土
- 5 10YR5/2 灰黄褐色/砂泥じり細砂質土
- 6 3層に同じ (SD03 埋土)
- 7 SD13 埋土
- 8 10YR4/1 相灰色粘質土
- 9 2層に同じ
- 10 10YR3/1 黒褐色シルト質土

- ②西壁北
- 1 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂質土 (10YR5/1 相灰色細砂質土がサンクラック状に入る Fe 含、ところにより粗砂粒含む)
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト質土 (地山) プロック含、Fe 含、5cm 以下の砂岩円礫まはら含、攪乱 (土層を擾乱した土) 層に細分したが、ここでは一層、東壁の直下層に対応する)
- 3 2.5Y5/2 明黄褐色細砂質土 (中に中砂のラミニアあり、Fe 多含、Mn 含、4cm 程度の礫まはら含)→SD03 埋土 (黄壁では 3 層に同じ)
- 4 10YR5/1 相灰色砂泥じり粘質土 (Fe 含)
- 5 10YR5/2 灰黄褐色/砂泥じり細砂質土 (20cm 近い礫 1 つ含、Fe 含、細砂のラミニアあり)
- 6 3層に同じ (SD03 埋土)
- 7 SD13 埋土
- 8 10YR4/1 相灰色粘質土 (中砂粒以下を包含、運物細片包含)
- 9 2層に同じ
- 10 10YR3/1 黒褐色シルト質土 (上方に Fe 含、下方に地山プロック含)→遺構断面 (脚柱区にはかからぬ)

図 8 6-2 区 土層断面

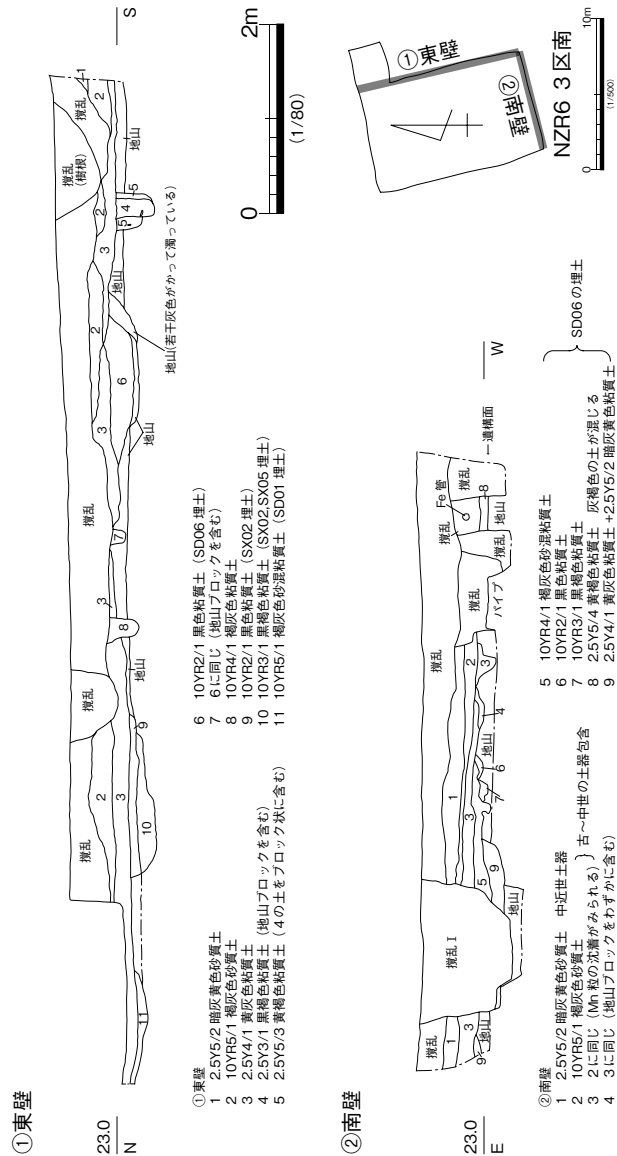


図9 6-3区 土層断面

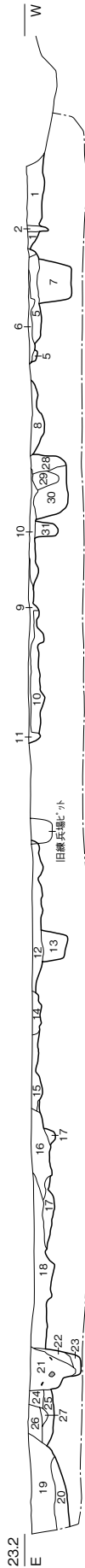
IV層には、遺構に伴うものなのか、包含層出土と認識すべきものなのか不明であるが、稀に縄文土器と考えられる土器片を包含している。また、炭化物が含まれているほか、赤色化した粘土が含まれている。赤色化した粘土は、親指大から人頭大のものが多く、一見すると焼土のようにも見えることから、今回、成因についての理化学的な分析を試みた。詳細は後掲するが、粘土に錆化した鉄分が付着したもの、つまり、自然形成のものという結果が得られた。

III層中には、地表面の微凹地を埋めて平坦化した造作が確認されている。造成土中には弥生時代後期を中心とする細片化し摩滅した土器片を多数包含している。造成の時期は古代と考えられる。

(文献)

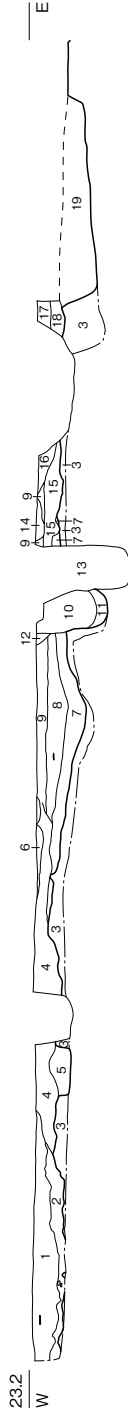
香川県教育委員会ほか『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第12冊 郡家一里屋遺跡』1993年
香川県教育委員会ほか『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第17冊 郡家大林上遺跡』1995年

① 宿舎部分南壁



- ① 宿舎部分南壁
- 1 10Y R4/2 灰青褐色極細砂質土 (Fe 多く含む、下方に 1cm 程の斑状の地山ブロックを含む、SD07 埋土)
 - 2 10YR4/1 褐灰色シルト質土 (Fe 含む、5mm 程の地山ブロックを斑状にわずかに含む、粘跡か)
 - 3 2.5Y6/4 に近い黄色極細砂 (Fe わずかに含む、地山)
 - 4 10YR3/2 黒褐色シルト質土 (Fe 含む、Mn 含む、SH05 葉溝)
 - 5 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質土 (Fe 含む、2cm 程の地山ブロックを斑状に含む、SH05 貼床)
 - 6 10YR4/2 灰青褐色シルト質土 (Fe 含む、Mn 含む、小礫・粗砂わずかに含む、SH05 覆土)
 - 7 10YR 灰青褐色シルト質土 (地山ブロックを互層状に多く含む、弥生中期の SP か)
 - 8 2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂質土 (Fe 多く含む、5mm 程の地山を斑状に含む)
 - 9 10YR3/1 黒褐色シルト質土 (Fe 多く含む、SH 埋土)
 - 10 2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂混じりシルト質土 (2~3cm の地山ブロックを斑状に多く含む、Fe 含む、粗砂含む、SH 貼床)
 - 11 2.5Y3/2 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (Fe 多く含む、砂は細〜粗砂、地山ブロックを斑状にわずかに含む)
 - 12 10YR3/2 黒褐色極細砂質土 (Fe 多く含む、1cm 程の地山ブロックを斑状にわずかに含む、SH11 貼床か、覆土は確認できず)
 - 13 10YR3/2 黒褐色シルト質土 (Fe 多く含む、小礫含む、SP)
 - 14 10YR3/1 黒褐色シルト質土 (2cm 程の地山ブロックが斑状に多く含む、Fe わずかに含む、SK18)
 - 15 10YR3/2 黒褐色シルト質土 (Fe 含む、1~3cm の地山ブロックを斑状にわずかに含む、小礫含む、SH11 の埋土か)
 - 16 10YR4/1 褐灰色シルト質土 (Fe 多く含む、小礫わずかに含む、1cm 程の埋跡跡含む、SH13 埋土)
 - 17 10YR3/1 黒褐色シルト質土 (Fe 多く含む、2cm 程の地山ブロック多く含む)
 - 18 10YR3/2 黒褐色シルト質土 (Fe 多く含む、小礫わずかに含む、焼土塊の集中する箇所あり)

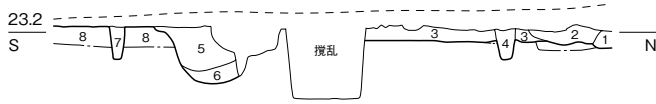
② 北壁



- ② 北壁
- 1 10YR4/2 灰青褐色極細砂混じりシルト質土 (Fe 多く含む、3cm 程の砂状面円礫わずかに含む、小礫わずかに含む)
 - 2 10YR4/2 灰青褐色シルト質土 (Fe 含む、2~3cm 程の地山ブロックを斑状に多く含む)
 - 3 10YR5/4 に近い黄褐色シルト (地山)
 - 4 SD0300
 - 5 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 (Fe 含む) と地山ブロックが互層状に堆積している (過年度調査区の SP)
 - 6 SD02 埋土
 - 7 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 (径 1cm 以下の地山ブロックをまばらに少量含む、SR01 下層)
 - 8 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 (鉄分の沈着をまばらに多く認め、SR01 上層)
 - 9 10YR4/1 褐灰色粘質土 (地山ブロックをまばらに一定量含む、SH 埋土)
 - 10 10YR4/2 灰青褐色粘質土 (地山ブロックをまばらに多く含む、10YR4/1 褐灰色粘質土ブロックを多く含む、SP)
 - 11 10YR4/1 褐灰色粘質シルト (径 1cm 以下の地山ブロックをまばらに多く含む、SP)
 - 12 10YR5/1 褐灰色粘質土 (SP)
 - 13 焼土埋土
 - 14 10YR6/2 灰青褐色粘質土 (地山ブロックとまばらに少量含む、SP79)
 - 15 10YR3/1 黒褐色粘質土
 - 16 10YR7/1 灰白色粘質シルト (鉄分をまばらに少量含む、SD01)
 - 17 10YR7/1 灰白色粘質シルト (鉄分をまばらに少量含む、SD01)
 - 18 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト (鉄分の沈着をほとんど認めない、SD01)
 - 19 SD11 埋土

図 10 7-1 区 土層断面(1)

③調査区西西壁



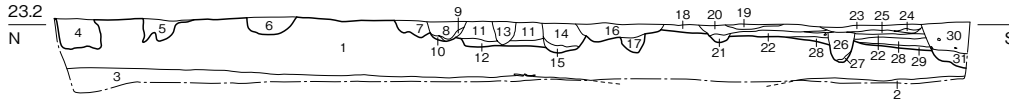
- ③調査区西西壁
- 1 10YR4/1 褐灰色極細砂質土 (Fe 含む .Mn わずかに含む .SD07 埋土)
 - 2 攪乱 (2.5Y5/2 暗灰黄色細砂質土 .Fe わずかに含む .1cm 程の礫わずかに含む .小礫含む .1区西を東西に縦断する攪乱の断面)
 - 3 10YR5/2 灰黄褐色極細砂質土 (Fe 多く含む .Mn 含む .粗砂粒含む .1cm 程の地山ブロックを斑に含む .SH24 埋土)
 - 4 10YR4/1 褐灰色極細砂質土 (Fe 含む .小礫わずかに含む .SP132 埋土)
 - 5 SD03 埋土
 - 6 SD03 埋土
 - 7 10YR4/1 褐灰色シルト質土 (Fe 含む .粗砂粒含む .1 ~ 2cm の地山ブロックを斑に含む .SD24 埋土)
 - 8 2.5Y6/4 に近い黄色シルト質土 (Fe 含む .樹根状のもの多数 .粗砂含む)

- ④調査区外周南側西壁
- 1 10YR5/2 灰黄褐色極細砂質土 (Fe 含む .5cm 程の砂岩歪円礫わずかに含む .SD01 埋土)
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト質土 (Fe 含む .小礫わずかに含む .SD10)
 - 3 10YR2/2 黒褐色粘土混じりシルト質土 (Fe 含む .1cm 程の地山ブロックを斑状に含む .SD10)
 - 4 10YR3/2 黒褐色シルト質土 (Fe 多く含む .小礫含む .Mn 含む .1cm 程の地山ブロックを斑状にわずかに含む)
 - 5 10YR3/1 黒褐色シルト質土 (Fe 多く含む .小礫わずかに含む .Mn 含む .4層とは色調がわずかに違う)
 - 6 10YR4/2 灰黄褐色シルト質土 (Fe 多く含む .Mn 含む .3mm 程の地山ブロックを斑状に含む .SP 埋土)
 - 7
 - 8 10YR4/1 褐灰色シルト質土 (Fe 多く含む .Mn 含む .小礫含む)
 - 9 10YR4/1 褐灰色シルト質土 (2cm 程の地山ブロックを斑状に含む .Fe 含む)
 - 10 2.5Y7/4 浅黄色シルト (Fe・Mn 含む .下方で 4cm 以下の礫を含む)

④調査区外周南側西壁



⑤宿舎部分東壁



- ⑤宿舎部分東壁
- 1 10YR7/4 に近い黄褐色粘質シルト (10YR5/1 褐灰色粘質シルトの亀裂痕跡を多く認める .地山)
 - 2 10YR6/4 に近い黄褐色粘質土 (5cm 以下の小石を多量に含む .地山)
 - 3 7.5YR6/6 橙色粘質シルト砂 (豹柄状に鉄分が沈着 .地山)
 - 4 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 (地山ブロックをまばらに多く含む .攪乱)
 - 5 4層と同じ
 - 6 10YR3/1 黒褐色粘質土 (径 2cm 以下の地山ブロックを下位ほど多く含む .貼床か ? SX02 埋土)
 - 7 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト (径 1cm 以下の地山ブロックをまばらに少量含む)
 - 8 10YR2/1 黒色粘質土 (径 1cm 以下の地山ブロックをまばらに少量含む .SP37)
 - 9 10YR4/1 褐灰色粘質土 (地山ブロックをまばらに多く含む .SP37)
 - 10 10YR4/1 褐灰色粘質土 (地山ブロックをまばらに多量に含む .SP37)
 - 11 7層と同じ (SH03 埋土)
 - 12 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト (地山ブロックをまばらに少量含む .SH03)
 - 13 樹根
 - 14 10YR2/1 黒色粘質土 (下位 1cm 前後の地山ブロックをまばらに多く含む .SP45)
 - 15 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 (地山ブロックをまばらに多く含む .SP45)
 - 16 10YR3/1 黒褐色粘質土 (径 2cm 以下の地山ブロックをまばらに多量に含む .SD06)
 - 17 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 (地山ブロックをまばらに多く含む .SP226)
 - 18 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト
 - 19 10YR4/1 褐灰色粘質土
 - 20 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 (焼土 .炭化物を多量に含む)
 - 21 10YR4/1 褐灰色粘質土 (地山ブロックをまばらに一定量含む)
 - 22 10YR6/4 に近い黄褐色粘質土 (7.5YR5/1 褐灰色粘質土)
 - 23 13層と同じ
 - 24 5YR5/6 明赤褐色焼土
 - 25 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
 - 26 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 (径 1cm 以下の地山ブロックをまばらに多く含む .SP)
 - 27 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト (SP)
 - 28 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 (粘性高い .鉄分の沈着を多く認める .SR01)
 - 29 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 (鉄分の沈着を多く認める .地山ブロックをわずかに含む .SR01)
 - 30 10YR3/2 黒褐色粘質土 (10YR4/1 褐灰色粘質土ブロックをまばらに多く含む .SD01 上層)
 - 31 10YR4/1 褐灰色粘質土 (地山ブロックをまばらに多く含む .SD01 下層)

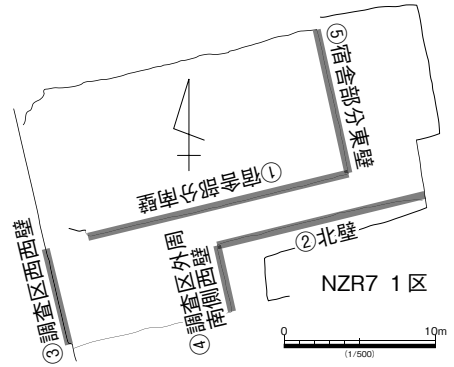
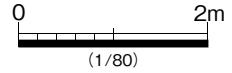


図 11 7-1 区 土層断面 (2)

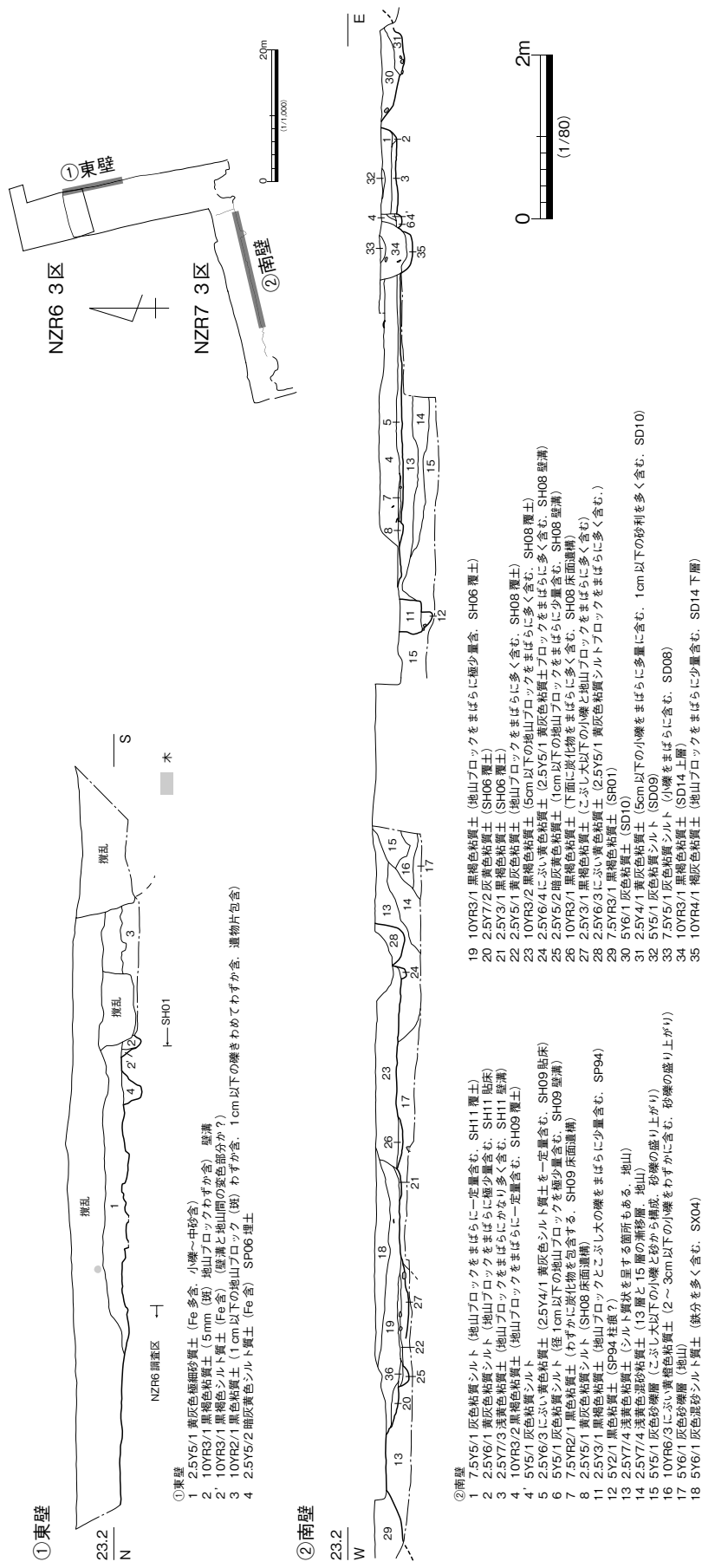


図 12 7-3 区 土層断面

①東壁

23.2
N

①東壁
1- SH01

- 1 2.5Y6/1 黄灰色粘細砂質土 (Fe 多含、小礫~中砂含)
- 2 10YR3/1 黒褐色粘質土 (5cm 以下、地山ブロックわずかな含、砂層)
- 2' 10YR3/1 黒褐色シルト質土 (Fe 多含) (砂層と地山間の紫色部分か?)
- 3 10YR2/1 黒色粘質土 (1cm 以下の地山ブロック含む、1cm 以下の礫をわけてわすか含、遺物片包含)
- 4 2.5Y5/2 暗灰色粘質シルト質土 (Fe 含) SP06 埋土

②南壁

23.2
W

②南壁

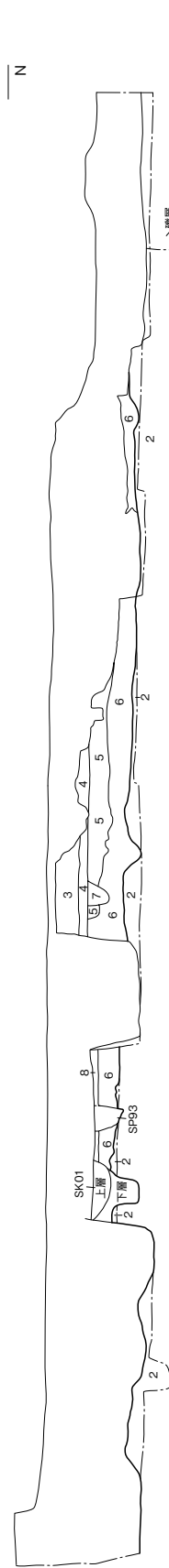
- 1 7.5Y6/1 灰色粘質シルト (地山ブロックをまばらに一定量含む、SH11 覆土)
- 2 2.5Y6/1 黄灰色粘質シルト (地山ブロックをまばらに極少量含む、SH11 粘床)
- 2' 2.5Y7/3 淡黄色粘質土 (地山ブロックをまばらにかなり多く含む、SH11 砂層)
- 4 10YR3/2 黒褐色粘質土 (地山ブロックをまばらに一定量含む、SH09 覆土)
- 4' 5Y5/1 灰色粘質シルト
- 5 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 (2.5Y4/1 黄灰色シルト質土を一定量含む、SH09 粘床)
- 6 5Y5/1 灰色粘質シルト (わずかに灰化物を包含する、SH09 床面遺構)
- 7 7.5YR2/1 黒色粘質土 (わずかに灰化物を包含する、SH09 床面遺構)
- 8 2.5Y9/1 黄灰色粘質土 (地山ブロックとこぶし大の礫をまばらに少量含む、SP94)
- 11 2.5Y9/1 黒色粘質土 (SP94 柱痕?)
- 12 5Y2/1 黒色粘質土 (シルト質分を呈する箇所もある、地山)
- 13 2.5Y7/4 淡黄色粘質土 (シルト質分を呈する箇所もある、地山)
- 14 2.5Y7/4 淡黄色泥砂粘質土 (13 層と 15 層の新形成、地山)
- 15 5Y5/1 灰色砂礫層 (こぶし大以下の小礫と砂から構成、砂礫の盛り上がり)
- 16 10YR6/3 にぶい黄褐色粘質土 (2~3cm 以下の小礫をわずかに含む、砂礫の盛り上がり)
- 17 5Y6/1 灰色砂礫層 (地山)
- 18 5Y6/1 灰色泥砂シルト質土 (鉄分を多く含む、SX04)

②南壁

- 19 10YR3/1 黒褐色粘質土 (地山ブロックをまばらに極少量含む、SH06 覆土)
- 20 2.5Y7/2 灰黄色粘質土 (SH06 覆土)
- 21 2.5Y3/1 黄褐色粘質土 (SH06 覆土)
- 22 2.5Y3/1 黄褐色粘質土 (地山ブロックをまばらに多く含む、SH08 覆土)
- 23 10YR3/2 黒褐色粘質土 (5cm 以下の地山ブロックをまばらに多く含む、SH08 覆土)
- 24 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土 (2.5Y5/1 黄灰色粘質土をまばらに多く含む、SH08 壁溝)
- 25 2.5Y5/2 暗灰色粘質土 (1cm 以下の地山ブロックをまばらに少量含む、SH08 壁溝)
- 26 10YR3/1 黒褐色粘質土 (下面に灰化物をまばらに多く含む、SH08 床面遺構)
- 27 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 (こぶし大以下の小礫と地山ブロックをまばらに多く含む)
- 28 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 (2.5Y5/1 黄灰色粘質シルトブロックをまばらに多く含む)
- 29 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 (SR01)
- 30 5Y6/1 灰色粘質土 (SD10)
- 31 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 (5cm 以下の小礫をまばらに多量に含む、1cm 以下の砂利を多く含む、SD10)
- 32 5Y5/1 灰色粘質シルト (SD09)
- 33 7.5Y5/1 灰色粘質シルト (小礫をまばらに含む、SD08)
- 34 10YR3/1 黒褐色粘質土 (SD14 上層)
- 35 10YR4/1 褐色粘質土 (地山ブロックをまばらに少量含む、SD14 下層)

① 4区西壁

24.0
S

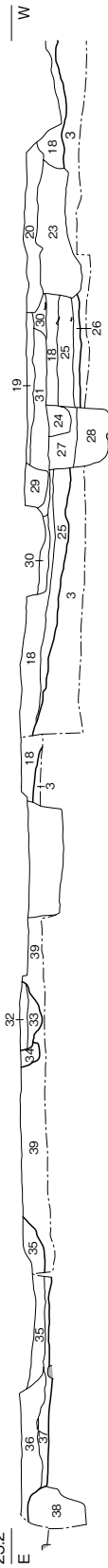


① 4区西壁

- 1 覆層
 - 2 2.5Y6/3にふい、黄色極細砂質土 (小礫わずかに含む、Feわずかに含む、5cm程の砂岩-亜円礫が顔を出すところあり)、地山
 - 3 2.5Y6/2灰黄色極細砂質土 (5mm以下の礫まばらに含む、Fe含む)
 - 4 2.5Y7/2灰黄色極細砂質土 (小礫含む、Feわずかに含む)
 - 5 2.5Y3/1黒褐色シルト質土 (Fe含む、小礫わずかに含む)-SH埋土か? (4区にはかからない)
 - 6 2.5Y4/1黒褐色シルト質土 (Fe多く含む、小礫以下含む)-SR01中層に相当か?
 - 7 2.5Y3/1黒褐色シルト質土 (Fe含む、小礫含む)
 - 8 SK01 下層 10YR3/4 黒褐色シルト質土 (Fe含む)
- SP93 10YR4/1 褐色極細砂混じりシルト質土 (1cm程の地山ブロック含む、Fe含む)

② 6区北壁

23.2
E

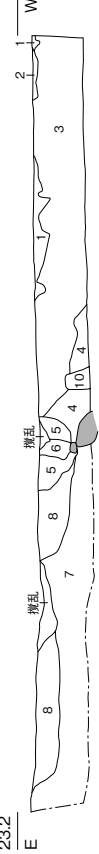


② 6区北壁

- 1 覆層
- 2 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 (Fe含む、SD埋土)
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質土 (細砂粒含む、Fe含む)
- 4 2.5Y6/4にふい、黄色極細砂質土 (Fe多く含む、小礫含む、土器細片含む、SD埋土)
- 5 2.5Y6/2 灰黄色極細砂質土 (Fe多く含む、樹根、サンクラック多い、水平方向に粒徑変化する)
- 6 2.5Y4/1 黒褐色極細砂質土 (1cm以下の礫まばらに含む、Fe含む、Mnわずかに含む、SP埋土)
- 7 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、Mは2.5Y4/2暗灰黄色砂、グレイディングあり細-粗砂)
- 8 2.5Y6/3 灰黄色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションなし、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 9 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 10 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 11 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 12 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 13 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 14 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 15 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 16 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 (Fe含む、小礫含む、SP埋土)
- 17 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 (Fe含む、SD埋土)
- 18 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質土 (細砂粒含む、Fe含む)
- 19 10YR3/1 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (Fe多く含む、Mn含む、20cm程の礫まばらに含む、SD埋土)
- 20 2.5Y4/1 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (Fe含む、20cm以下の地山ブロックわずかに含む、SD埋土)
- 21 10YR3/1 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (Fe含む、30cm程度斑の地山ブロック多く含む、SP埋土)
- 22 2.5Y4/1 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (Fe含む、小礫わずかに含む、小礫わずかに含む、Fe含む)
- 23 2.5Y3/1 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (30cmほどの地山ブロックわずかに含む、小礫わずかに含む、Fe含む)
- 24 2.5Y3/2 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (Fe多く含む、0.5cm以下の礫まばらに含む)
- 25 2.5Y3/1 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (小礫わずかに含む、Fe含む)
- 26 2.5Y3/1 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (小礫含む、Fe含む、20cm程斑の地山ブロックわずかに含む、25層より色調暗く粘質味を帯びる)
- 27 2.5Y3/2 黒褐色極細砂混じりシルト質土 (Fe多く含む、Fe含む、24層よりやや砂質)
- 28 10YR3/1 黒褐色極細砂質土 (Fe多く含む、小礫わずかに含む)
- 29 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (Fe多く含む、小礫わずかに含む)
- 30 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (Fe多く含む、小礫わずかに含む)
- 31 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (Fe多く含む、小礫わずかに含む)
- 32 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (Fe多く含む、小礫わずかに含む)
- 33 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (Fe多く含む、小礫わずかに含む)
- 34 2.5Y4/1 黒褐色極細砂質土 (Fe含む、1cm斑の地山ブロック多く含む、SD下層)
- 35 SD01 上層-下層
- 36 SD01 最下層
- 37 SD01 最下層 (溝底)
- 38 SP01
- 39 2.5Y6/6 明黄褐色シルト質土 (Fe含む、Mn含む)

② 6区北壁

23.2
E



② 6区北壁

- 1 10YR3/2 黒褐色極細砂質土 (0.5cm程の地山ブロック含む、Fe多く含む、中砂粒まばらに含む)
- 2 覆層 (0.5cm~20cmの円、亜円礫主体、Mは2.5Y6/1黄灰色細砂質土、土器片多く含む)
- 3 2.5Y6/4にふい、黄色極細砂質土 (Fe多く含む、樹根、サンクラック多い、水平方向に粒徑変化する)
- 4 2.5Y6/2 灰黄色極細砂質土 (Fe多く含む、樹根、サンクラック多い、水平方向に粒徑変化する)
- 5 2.5Y4/1 黒褐色極細砂質土 (1cm以下の礫まばらに含む、Fe含む、Mnわずかに含む、SP埋土)
- 6 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、Mは2.5Y4/2暗灰黄色砂、グレイディングあり細-粗砂)
- 7 2.5Y6/3 灰黄色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションなし、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 8 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 9 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 10 2.5Y3/1 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 11 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 12 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 13 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 14 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 15 2.5Y3/2 黒褐色極細砂質土 (5cm以下の砂岩-亜円礫、インフレーションあり、砂並ひ散らしている、Mは2.5Y5/3黄褐色中砂)
- 16 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 (Fe含む、小礫含む、SP埋土)

図 13 7-4区、7-6区 土層断面

第2節 6-1区の調査

概要

善通寺病院の南西隅付近の東西幅約15m、南北幅34mの長方形の調査区である。調査面積は約506

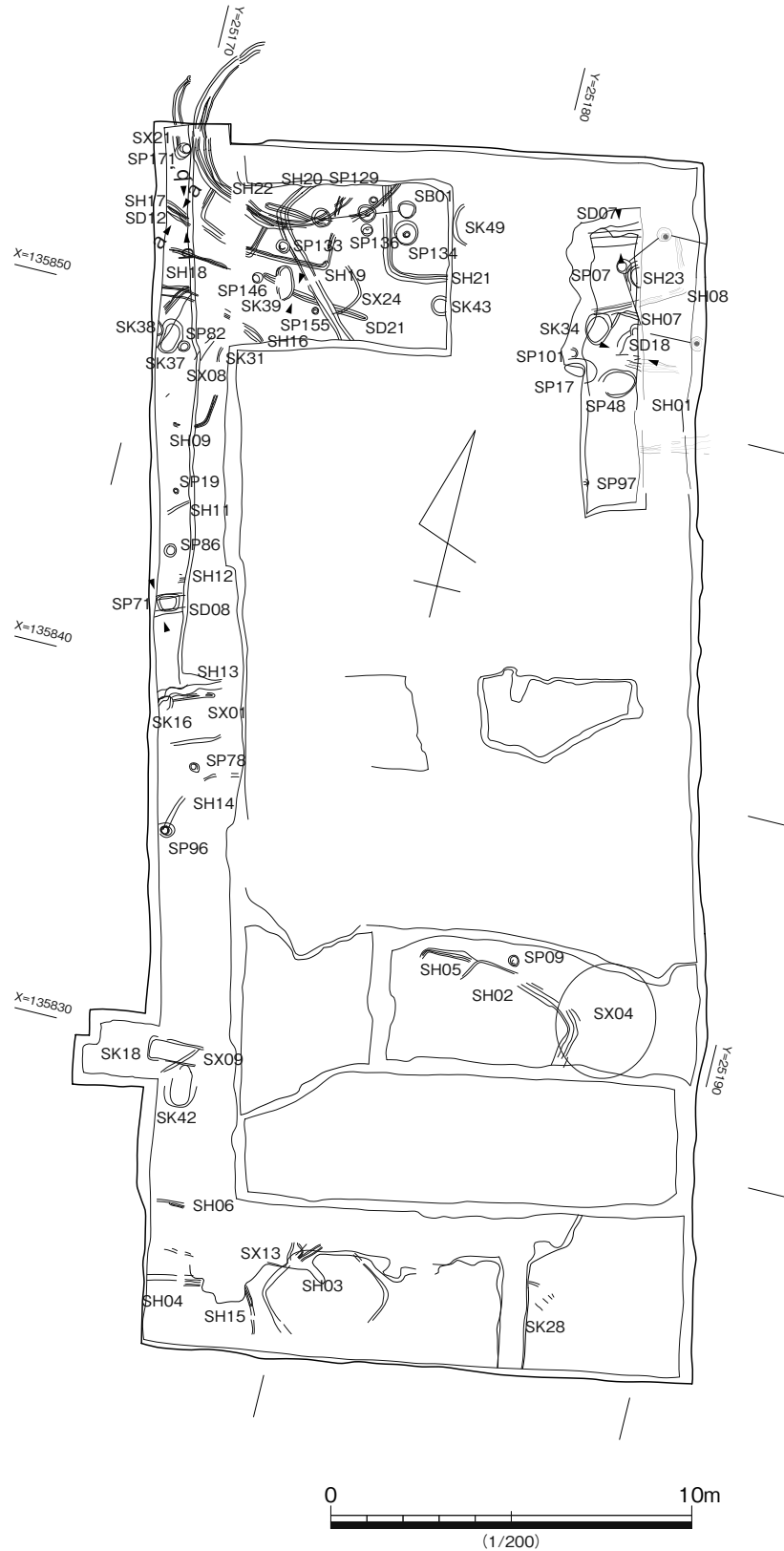


図14 6-1区 遺構平面

m²であるが、遺構面が破壊されてしまっている範囲が広く、断片的に遺構が残存している状況である。

6-1区からは、竪穴住居跡25棟、掘立柱建物2棟などを検出した。注目されるのは、弥生時代中期の土坑墓である。香川県内においては当該期の墓制については不明な点が多く、貴重な検出例である。

6-1区 SH23 (図15)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』において、「W区 SH4009」として報告された竪穴住居跡の西側部分に当たる。「W区 SH4009」は、3基の柱穴が検出され6基からなる支柱穴が復原されたが、6-1区において支柱穴の1基と既検出の柱穴の残り部分が検出された(6-1区 SP113、117)。1・2は、6-1区 SP113から出土した遺物である。いずれも弥生時代中期後半のものである。

6-1区 SX09 (図16)

弥生時代の人骨が検出された6-1区 SK18の全容を把握するために、調査区を一部西側に拡張した部分で検出した竪穴住居跡である。遺構検出時には性格不明遺構(SX)と把握したが、のちに竪穴住居であることが確定した。北側は6-1区 SD01、南及び西側は近現代の溝によって壊されている。

壁溝・ベッド状遺構の一部・支柱穴と考えられる柱穴1基を検出している。平面形状は円形になる可能性が高いが確定できない。埋土から弥生土器細片が28リットル入りコンテナ1箱分ほど出土しているが、図化可能な遺物はほとんどない。一方、支柱穴と考えられる6-1区 SP157からは、完形品の4分の1～2分の1ほどの、比較的大きな破片がまとまって出土している。広口壺・甕・台付鉢・鉢・土製支脚等があり、弥生時代後期前半のものである。

6-1区 SH15・SH06・SH04 (図17)

6-1区の西南隅から3棟の竪穴住居跡を重複して検出した。周囲が攪乱を受け寸断されているため重複関係の理解が難しく、とくに6-1区 SH04の平面形状の確定に苦慮することとなった。層位関係から6-1区 SH15、6-1区 SH06、6-1区 SH04の順序で構築されたことがわかる。

6-1区 SH15は、壁溝と支柱穴の可能性のある柱穴を検出しており、平面形は直径6mほどの円形に

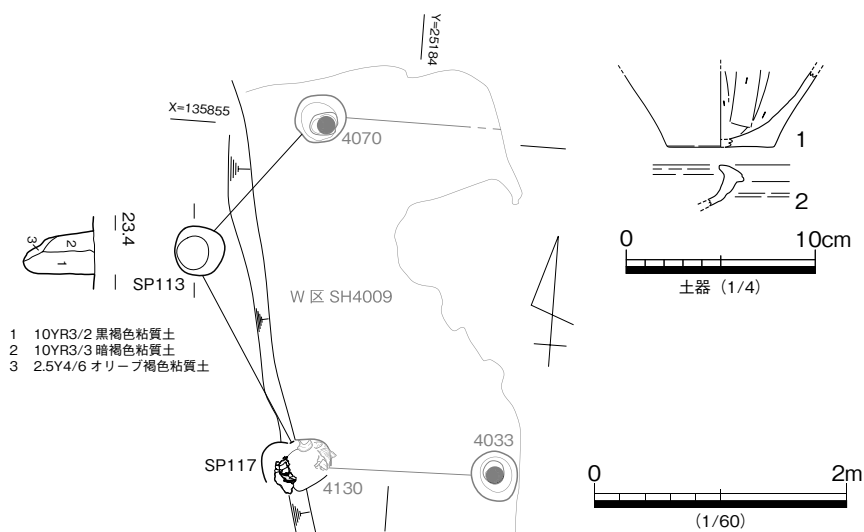


図15 6-1区 SH23 平・断面・出土遺物

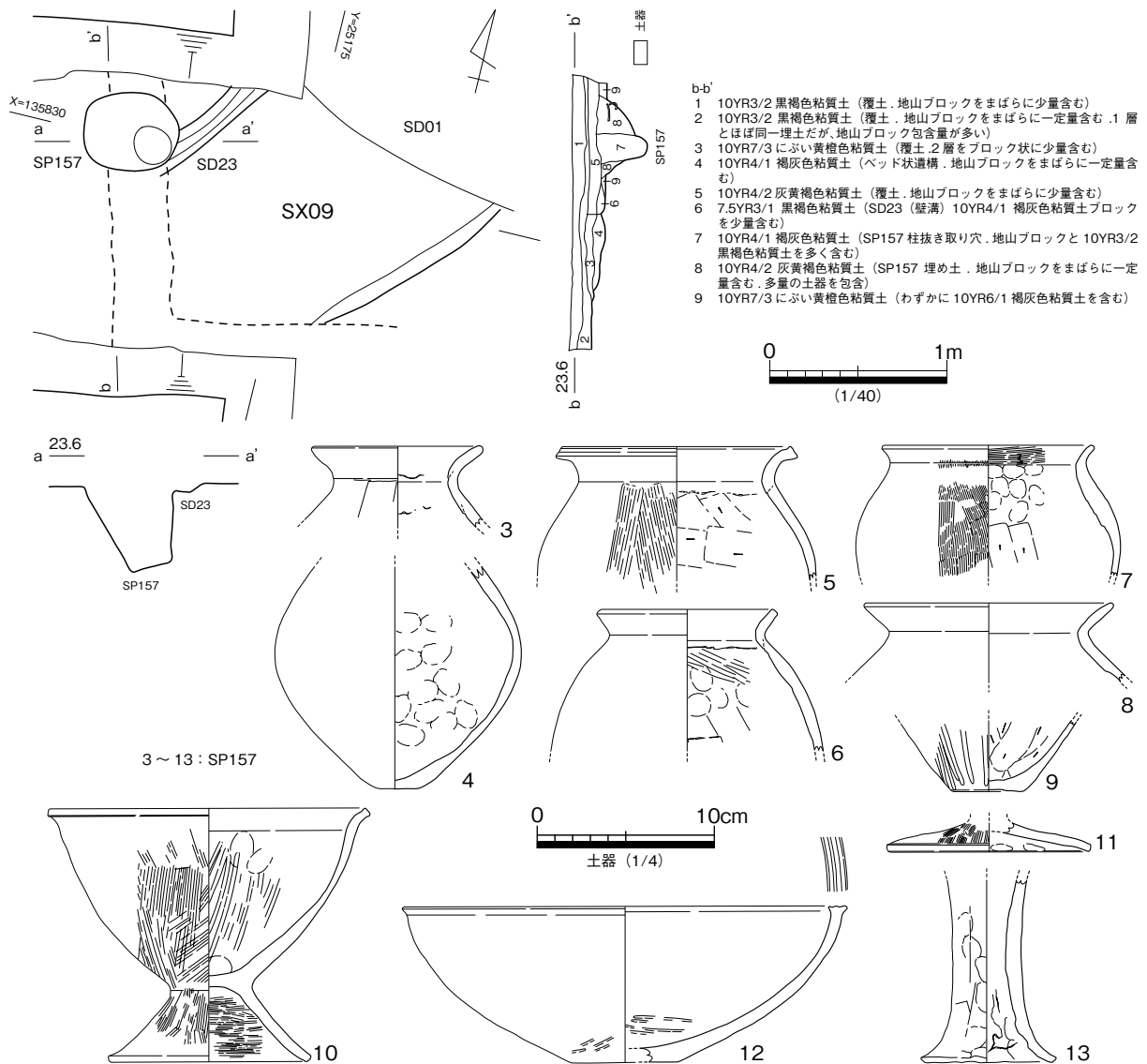


図 16 6-1 区 SX09 平・断面・出土遺物

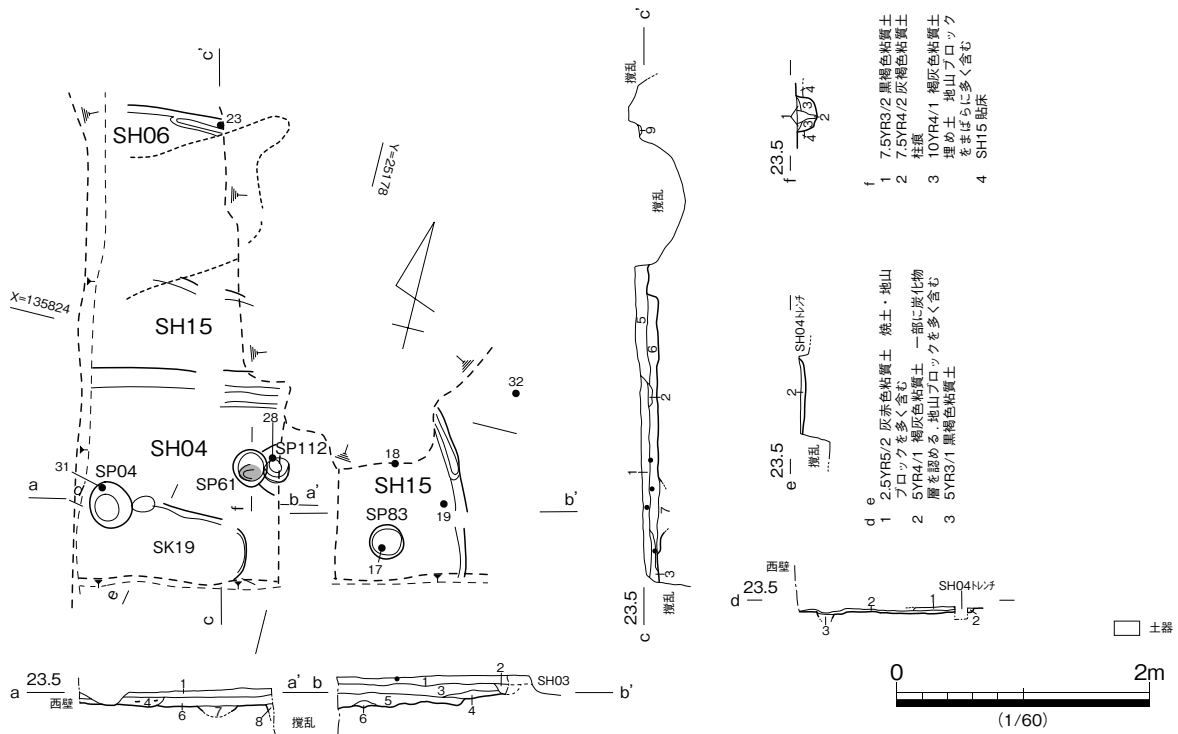
なると考えられる。200 点を越える弥生土器細片が出土し、うち 3 点を図化した。遺構の年代を確定する遺物に恵まれない。

17 は鉄鏃である。茎先端を欠損する。方頭形を呈し、茎に向かって細くなり、二等辺三角形を呈する。18、19 は暗緑色を呈する滑石製の白玉である (森下)。

6-1 区 SH06 は壁溝の一部を検出したが、平面形状は不明である。150 点ほどの弥生土器細片が出土し、3 点を図化している。20 の広口壺、22 の鉢は弥生時代終末期のものと思われるが、6-1 区 SH04 との層位関係から混入したものと思われる。

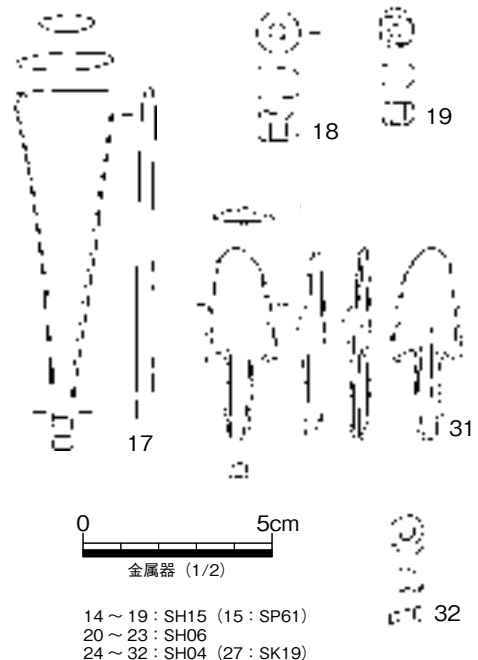
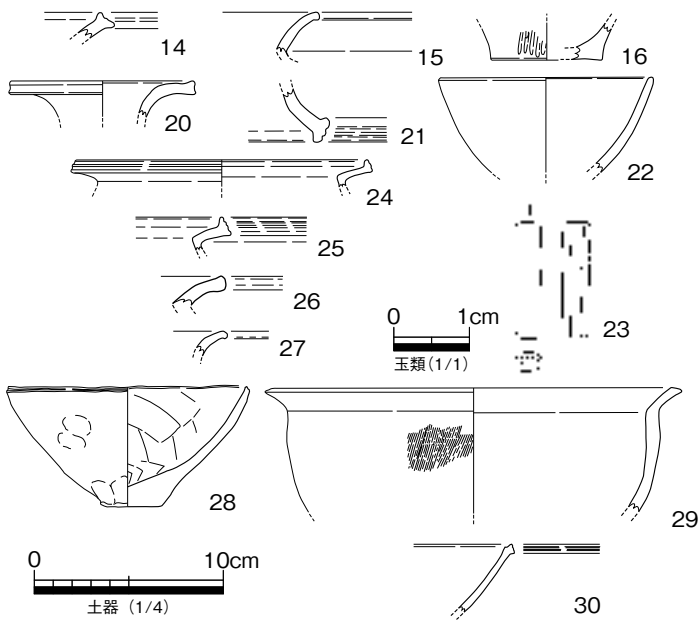
23 は碧玉製の管玉である。緑色を呈する。孔の内部には段差はなく、片方が広がる。片面からの穿孔によるものと考えられる (森下)。

6-1 区 SH04 は、方形を呈する竪穴住居跡である。支柱穴は未確認、6-1 区 SK19 は中央土坑と考えられる。28 は床面直上からほぼ完形の状態で出土した鉢である。埋土から出土した 29 の鉢とともに弥生時代後期後半に属する。



- a-a' c-c'
- 10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロックをまばらに少量含む -SH04 埋土
 - 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト -SH04 壁溝
 - 5YR4/1 褐灰色粘質土 焼土・炭化物層が互層に堆積 -SH04 中央土坑
 - 5YR4/1 褐灰色粘質土 炭化物層と地山ブロック層が互層に堆積 わずかに中央土
 - 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロックをまばらに多く含む -SH06 埋土
 - 10YR4/1 褐灰色粘質土 地山ブロックをまばらに多量に含む -SH15 埋土
 - 10YR5/1 褐灰色粘質土 地山ブロックをまばらに多量に含む (6層より多い) -SH15 中央土坑
 - 地山土
 - 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 -SH06 壁溝

- b-b'
- 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロックをまばらにわずかに含む
 - 2.5Y7/4 浅黄色粘質シルト -SH04 壁溝
 - 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 地山ブロックをまばらに多量に含む -SH04 埋土
 - 2.5Y6/2 灰黄色粘質シルト -SH15 埋土
 - 10YR4/2 灰黄色粘質土 地山ブロックと 10YR6/1 褐灰色粘質土ブロックをまばらに多く含む -SH15 埋土
 - 2.5Y7/4 浅黄色粘質土 -SH15 埋土



- 14 ~ 19 : SH15 (15 : SP61)
 20 ~ 23 : SH06
 24 ~ 32 : SH04 (27 : SK19)

図 17 6-1 区 SH15・06・04 平・断面・出土遺物

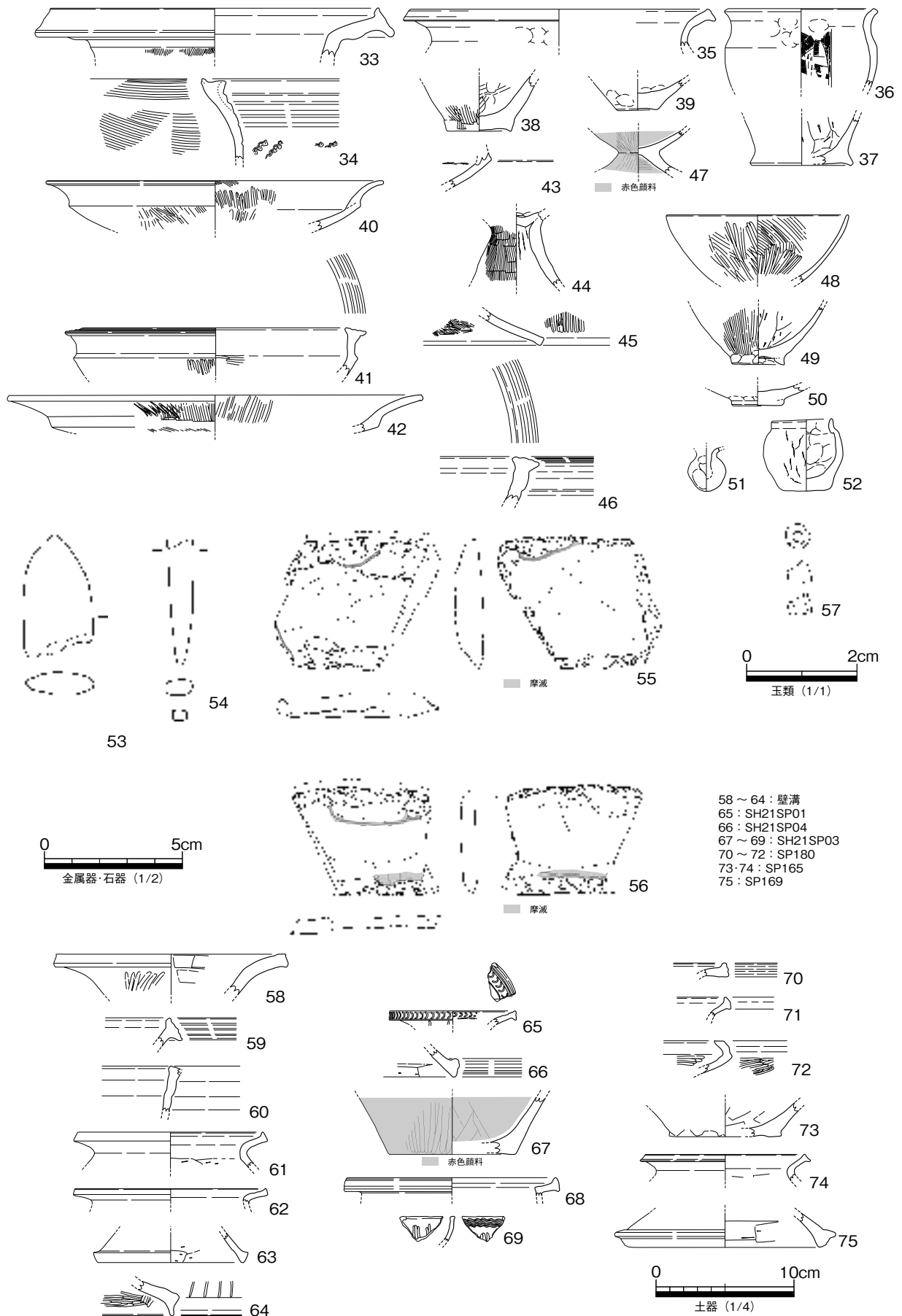


图 19 6-1 区 SH22 (6-2 区 SH21) 出土遺物 (2)

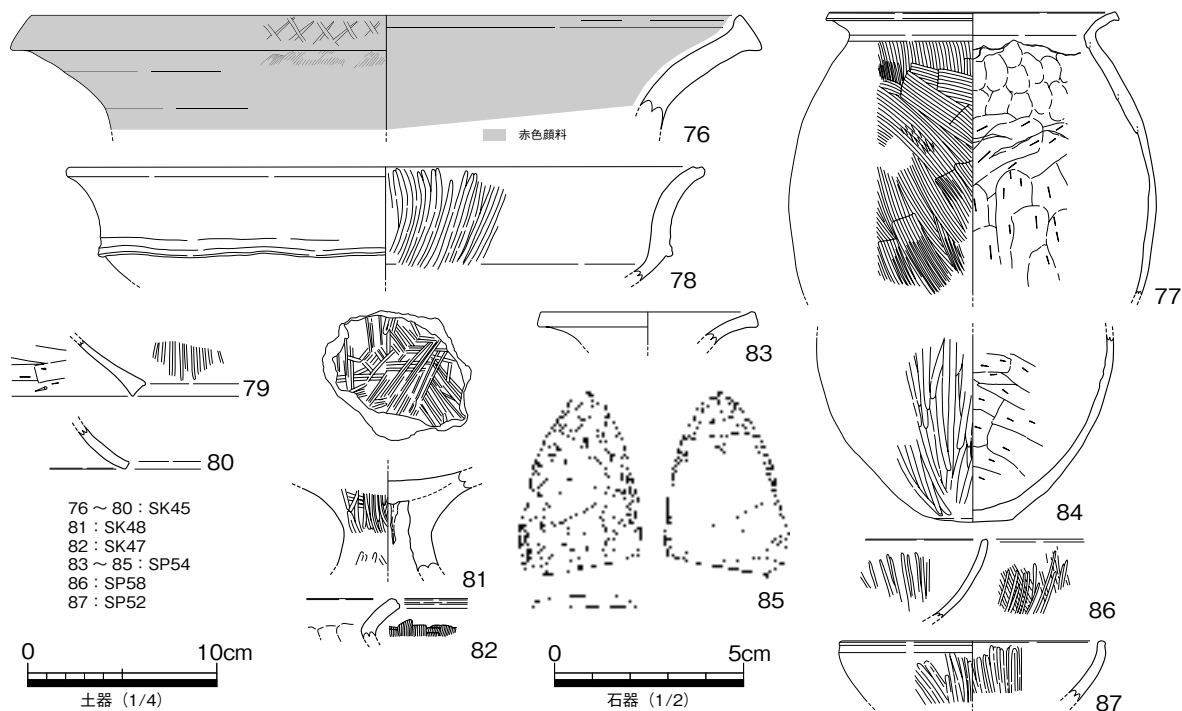


図 20 6-1 区 SH22 (6-2 区 SH21) 出土遺物 (3)

31 は銅鏃である。逆刺と茎をもつ。片方の逆刺の一部は欠損する。鏃中央部には茎から連続する稜があることから、連鑄式の鑄造であることがわかる。長さ 4.9cm、最大幅 1.7cm、最大厚 0.4cm を測る。32 は滑石製の白玉である。端部はいびつである。暗緑色を呈する (森下)。

6-1 区 SH15、6-1 区 SH06 の年代を知る手かかりは少ないが、弥生時代後期のものと考えられる。

6-1 区 SH22 (6-2 区 SH21) (図 18 ~ 20)

6-1 区北西隅から 6-2 区で検出した竪穴住居跡である。直径約 5.4 m の円形で、南側に張り出しをもつ。東北側半分が攪乱によって壊され、柱穴埋土も似ていることもあり、支柱穴配置は不明である。また、平面図に掲げる遺構のうち竪穴住居に伴うものとそうでないものとの分離もできていない。

図 19、20 の遺物実測図のうち、33 ~ 64 は埋土、貼床上面、壁溝から出土したものである。65 以下は、6-1 区 SH22 の範囲と重なる位置にある柱穴・土坑から出土したものである。埋土・貼床上面・壁溝から出土した遺物は時期幅があるが、新しいものは弥生時代後期後半にまとまるものと考えられる。このうち 33、62 は香東川下流域、64 は備中の特徴を示すものである。なお、未図化であるが、内面に朱が付着する土器細片が 3 点出土している。

53 は鉄鏃の先端部と考えられる。54 も鉄製品である。両端を欠損し、片方が幅広になる。断面形はいびつな方形である。53 の茎の可能性もあるが、接合不可能である。55、56 はサヌカイト製の石包丁である。55 は両面とも背部の下の一部、側面の一部が摩滅する。右図の右側面は割れ面の一部に細かい加工が施される。56 は両端部を欠損する。背部下部と刃部上部の一部が摩滅する。57 は滑石製の白玉である。形状はいびつである。暗緑色を呈する (森下)。

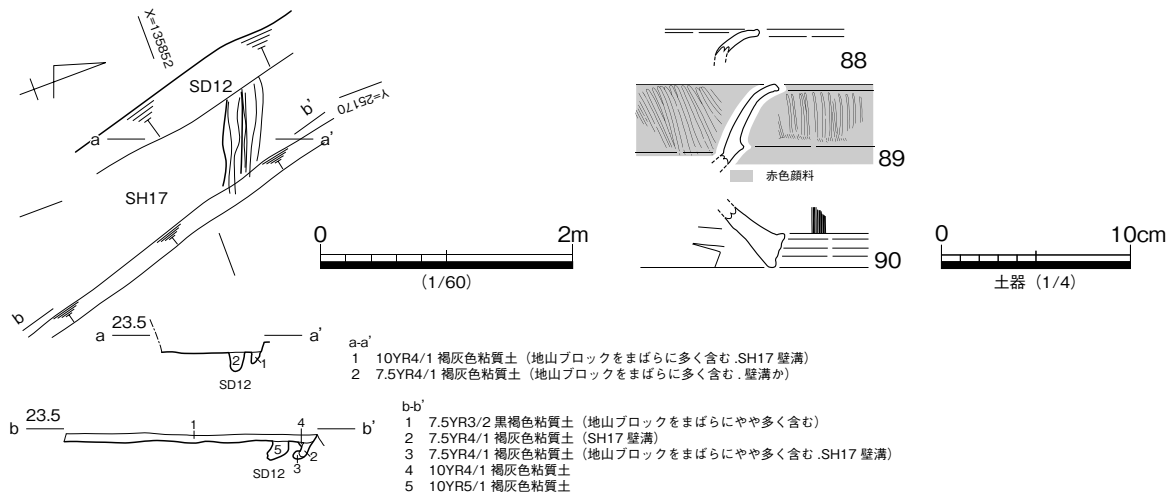


図 21 6-1 区 SD12 平・断面・出土遺物

6-1 区 SD12 (図 21)

6-1 区 SH17 壁溝の内側で検出した溝状遺構である。6-1 区 SH17 貼床除去後に検出したもので、幅 10、深さ 15cm を測る。6-1 区 SH17 以前の堅穴住居に伴う壁溝と考えられる。89 の高杯から弥生時代後期前半の時期が考えられる。90 の高杯脚部は、凹線文帯の上部に縦方向の櫛描文を施したもので外来系 (吉備) のものである。

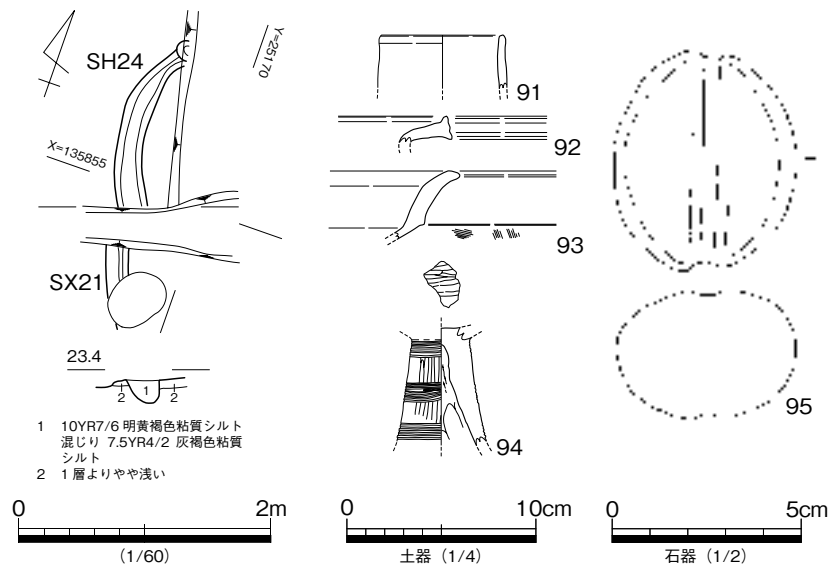


図 22 6-1 区 SX21 (6-2 区 SH24) 平・断面・出土遺物

6-1 区 SX21 (6-2 区 SH24) (図 22)

6-2 区 SH23 の埋土除去後に検出した溝状遺構である。遺構検出時には性格不明遺構 (SX) としたが、平面形状から円形の堅穴住居に伴う壁溝と考えられ、幅 26、深さ 18cm、検出長 2m を測る。出土遺物は僅少で時期幅があるが、93 の高杯から弥生時代後期後半の時期が考えられる。94 の高杯脚部は、多条のヘラ描き沈線を 3 段配置するもので外来系のもと思われる。

95 は、砂岩製の石錘である。石は楕円形を呈し、長軸に 1 条の溝がある (森下)。

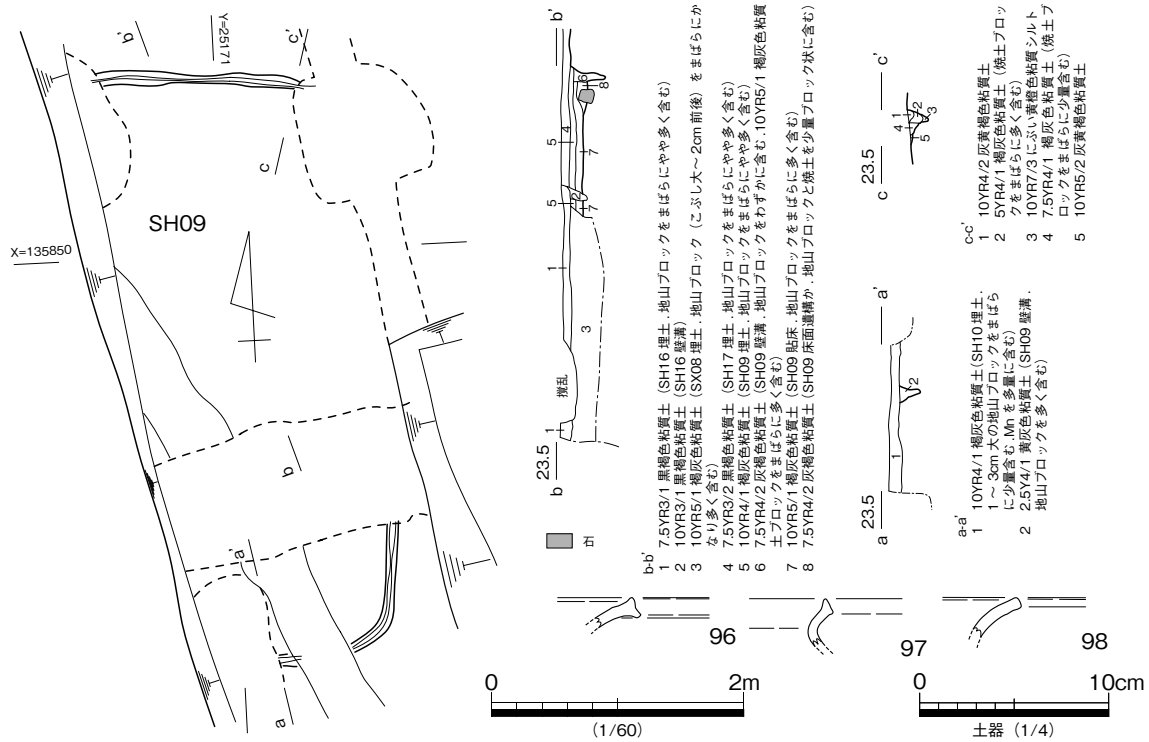


図 23 6-1 区 SH09 平・断面・出土遺物

6-1 区 SH09 (図 23)

幅 10、深さ 20 ~ 25cm の壁溝を検出。1 辺 4.7 m の方形もしくは長方形の竪穴住居跡である。層位関係から 6-1 区 SH16 が最も新しく、6-1 区 SX08・6-1 区 SH17 (両者の前後関係は不明)、6-1 区 SH09 の順序で古い。出土遺物は少なく、壁溝出土のもの 1 点 (96) と貼床出土のもの 2 点 (97、98) を図化し

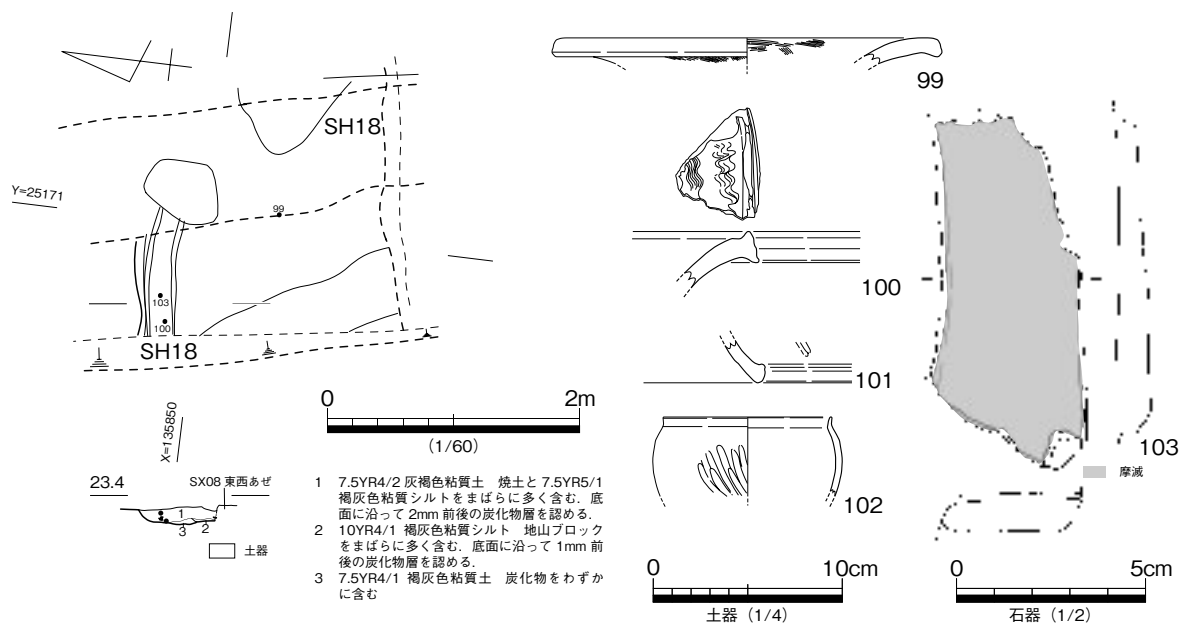


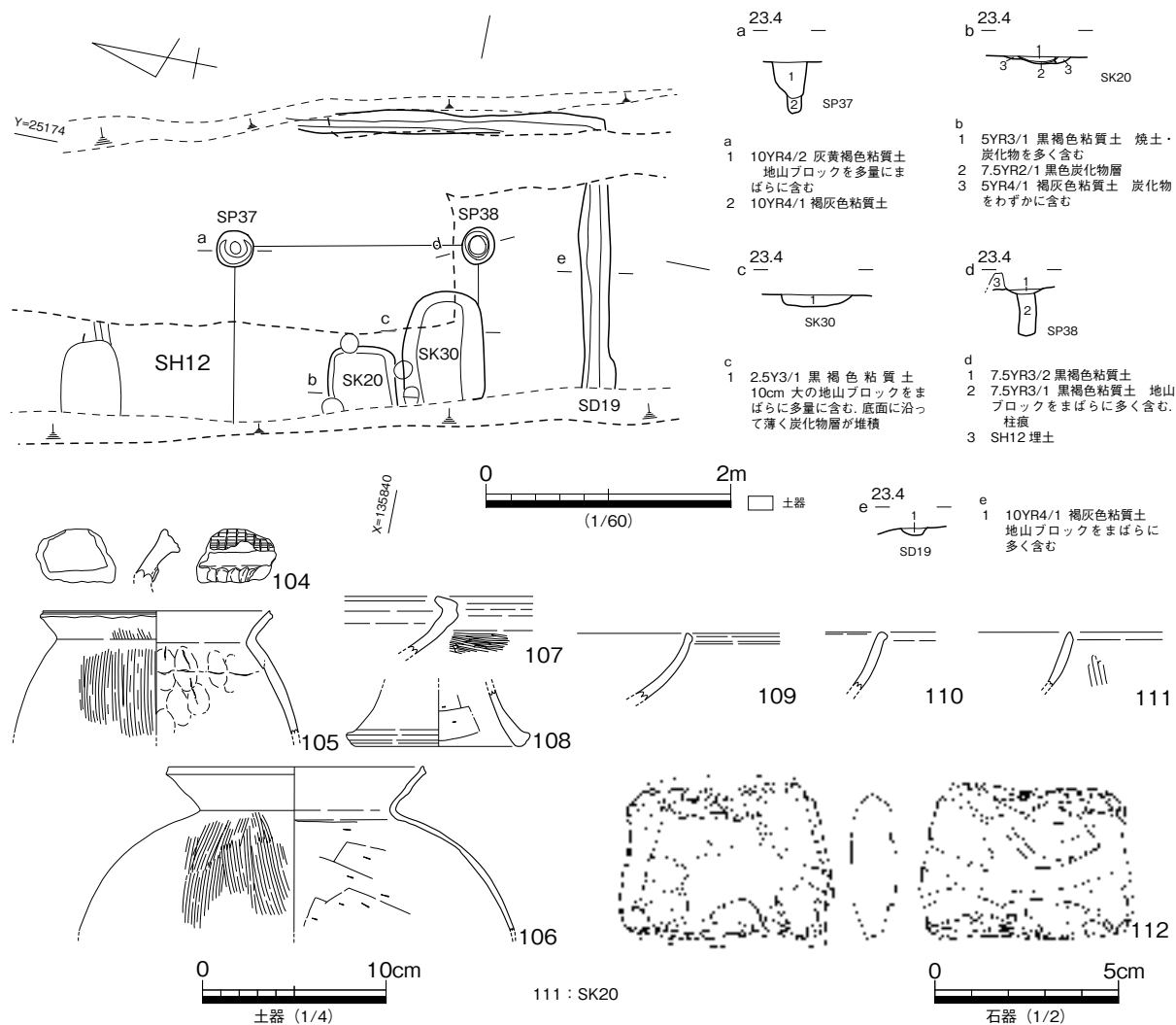
図 24 6-1 区 SH18 平・断面・出土遺物

た。弥生時代後期後半のものと考えられる。

6-1 区 SH18 (図 24)

直線状を呈する壁溝をわずかに検出できたのみで、平面形状・規模は不明である。60 点近い土器片が出土したが細片が多い。弥生時代終末期のものと考えられる。

103 は、結晶片岩製の砥石である。1 面は摩滅するが、大部分が欠損する (森下)。



6-1 区 SH12 (図 25)

1 辺 4 m ほどの方形もしくは長方形の竪穴住居跡である。3 辺の一部で壁溝、支柱穴 2 基、中央土坑を検出した。南側の 6-1 区 SH13 との層位関係は不明であるが、出土遺物から 6-1 区 SH13 よりも古い。中央土坑 (6-1 区 SK20) は東半分のみ検出したが、隅丸長方形で深さ 7 cm のものである。南接する 6-1 区 SK30 も底面に薄く炭化物が堆積しており、いわゆる「10 型中央土坑」にあたると思われる。時期幅のある遺物が出土しているが、床面から出土した 106 の甕は、球胴化が進み上半までヘラ削りをした薄手のつくりのもので古墳時代前期のものである。6-1 区 SH12 の年代を示すものとする。

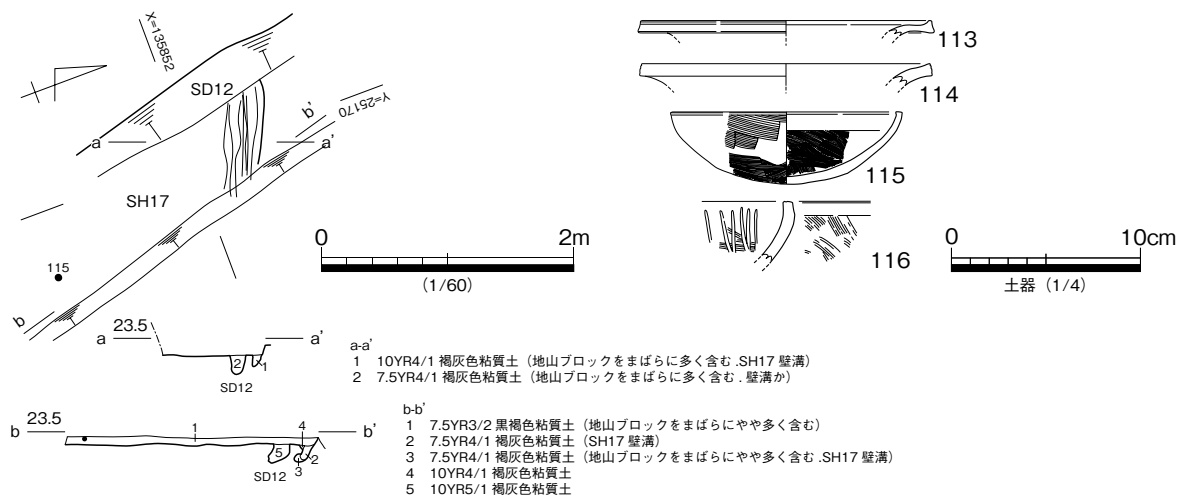


図 26 6-1 区 SH17 平・断面・出土遺物

112 は、サヌカイト製の楔状石核である。上下端に潰れがみられる。両側面は割れ面である（森下）。

6-1 区 SH17 (図 26)

直線状をなす 1 辺の掘り方および壁溝を検出した。6-1 区 SH09 より新しく、6-1 区 SH16 より古い。弥生土器細片が多数出土している。115、116 の鉢は口縁端部を水平方向に平らにしたもので、弥生時代終末期のものである。

6-1 区 SH21 (図 27)

方形の竪穴住居跡である。直角に屈曲する幅 25、深さ 6 cm の壁溝と支柱穴と考えられる深さ 60 cm の柱穴（6-1 区 SP147）を検出した。時期幅のある遺物が出土しているが、最新のものとして TK23 型式併行と考えられる須恵器杯、高杯が出土しており、この時期の竪穴住居と考えられる。

125 は鉄釘、126 は刀子である。125 は両端を欠損する。断面形はいびつな四角形を呈する。126 は形状から刀子と考えられるが、刃部と考えられる部分の断面形は丸みを帯びた四角形を呈する。127、128 はサヌカイト製の石鏃、129 は結晶片岩製の柱状片刃石斧、130 は砂岩製の砥石である。127・128 は凹基式である。129 は刃部の一部で、刃部先端・基部を欠損する。130 は 1 面を欠損する。残りの 3 面は研磨による摩滅がみられる。131、132 は滑石製の白玉である。暗緑色を呈する（森下）。

6-1 区 SH08 (図 28、29)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』において、「W 区 SH4001」として報告された竪穴住居跡の西側部分に当たる。6-1 区では埋土と壁溝の一部を検出した。出土遺物は、弥生時代後期のものと古墳時代後期のものに大別される。133 は壁溝から出土した縄文時代後期の土器片である。磨り消し縄文にヘラによる渦巻き文を施している。混入遺物である。139、140 は土師器甕である。140 には口縁部外面に焼成時の剥離痕が認められる。141～144 は土師器甕である。144 は破片のため底部の孔の形状はわからない。148、149 は備讃Ⅳ C 式の製塩土器である。混入と考えられる。151 は須恵器杯蓋である。TK47 型式期に併行するものと考えられる。以上から 6-1 区 SH08 は TK47 型式期に併行する時期と考えられる。

6-1 区 SP14、20、30、31 は、6-1 区 SH08 の埋土掘削中に検出したもので、支柱穴の推定位置とはず

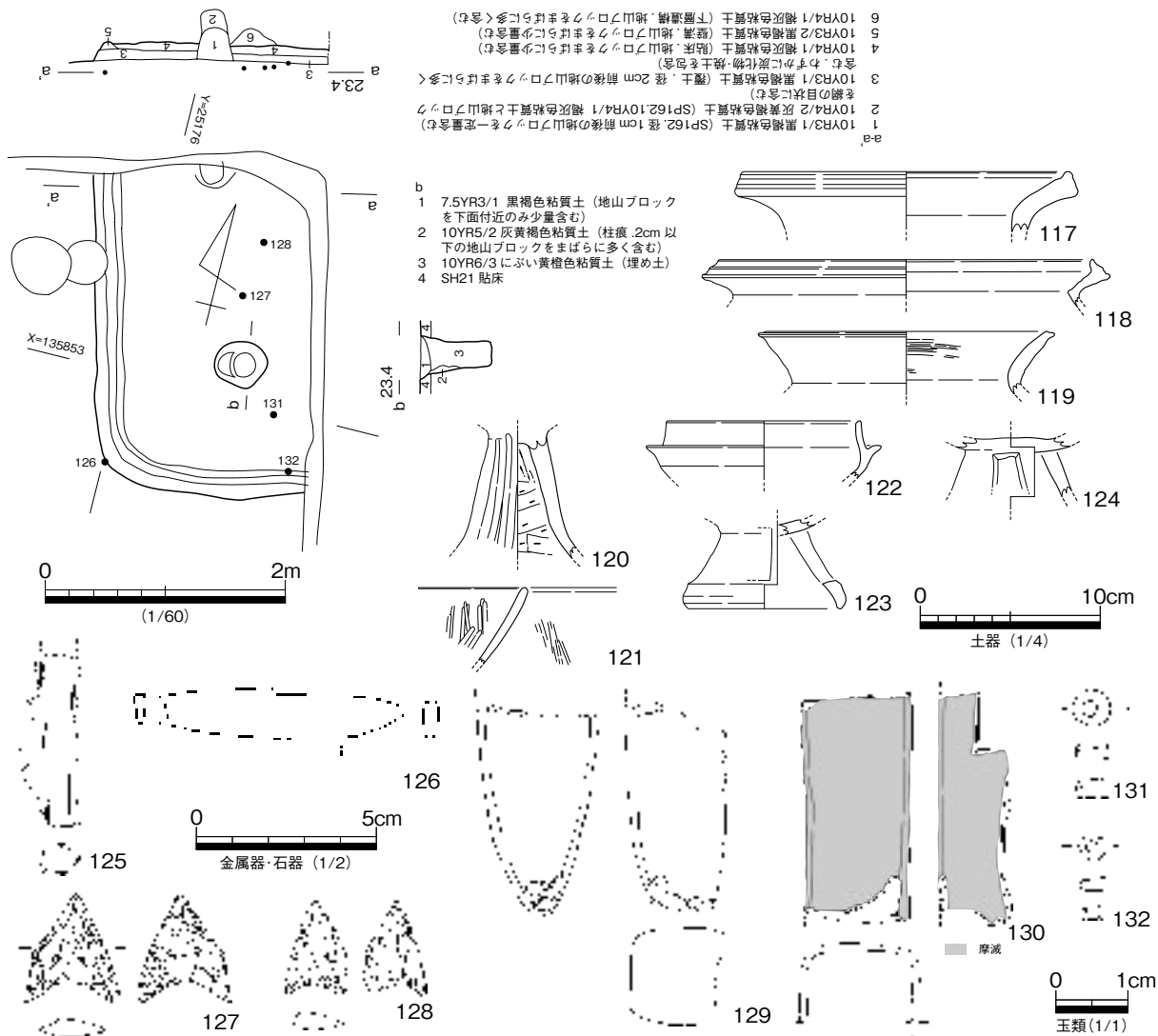


図 27 6-1区SH21 平・断面・出土遺物

れるものの、6-1区SH08に伴うものと考えられる。6-1区SP14は40片ほどの弥生土器細片と1片の須恵器片が出土している。弥生土器鉢（166）と鉄鉢状をなす土師器鉢（167）を図化している。6-1区SP20の図化遺物は弥生時代後期の壺片であるが、未図化遺物に器種不明の須恵器片、備讃V式に属する薄手の製塩土器片が出土している。6-1区SP30、31は切り合いがあり、SP30が新しい。SP30からは器種不明の須恵器片が出土している。図化遺物はいずれも遺構の年代を示すものではない。

いずれも暗緑色を呈する滑石製の白玉13点（152～164）、サヌカイト製の石鏃（165）が出土した。165は基部・先端の両端を欠損する（森下）。

6-1区SH13（図30）

方形の平面形を呈する竪穴住居跡である。壁溝の一部も検出している。6-1区SH12および6-1区SH14と重複するが、前者との層位関係は不明、後者より古い。住居内に6-1区SX10と6-1区SK23があるが、貼床に伴う凹地と考えられる。また、6-1区SP47は支柱穴の可能性はある。

土師器直口壺、甕、甗、鉢のほか、備讃Vb式の製塩土器片2点、TK47型式に併行する須恵器杯、壺が出土している。このことから、6-1区SH13はTK47型式に併行する時期のものと考えられる。なお、

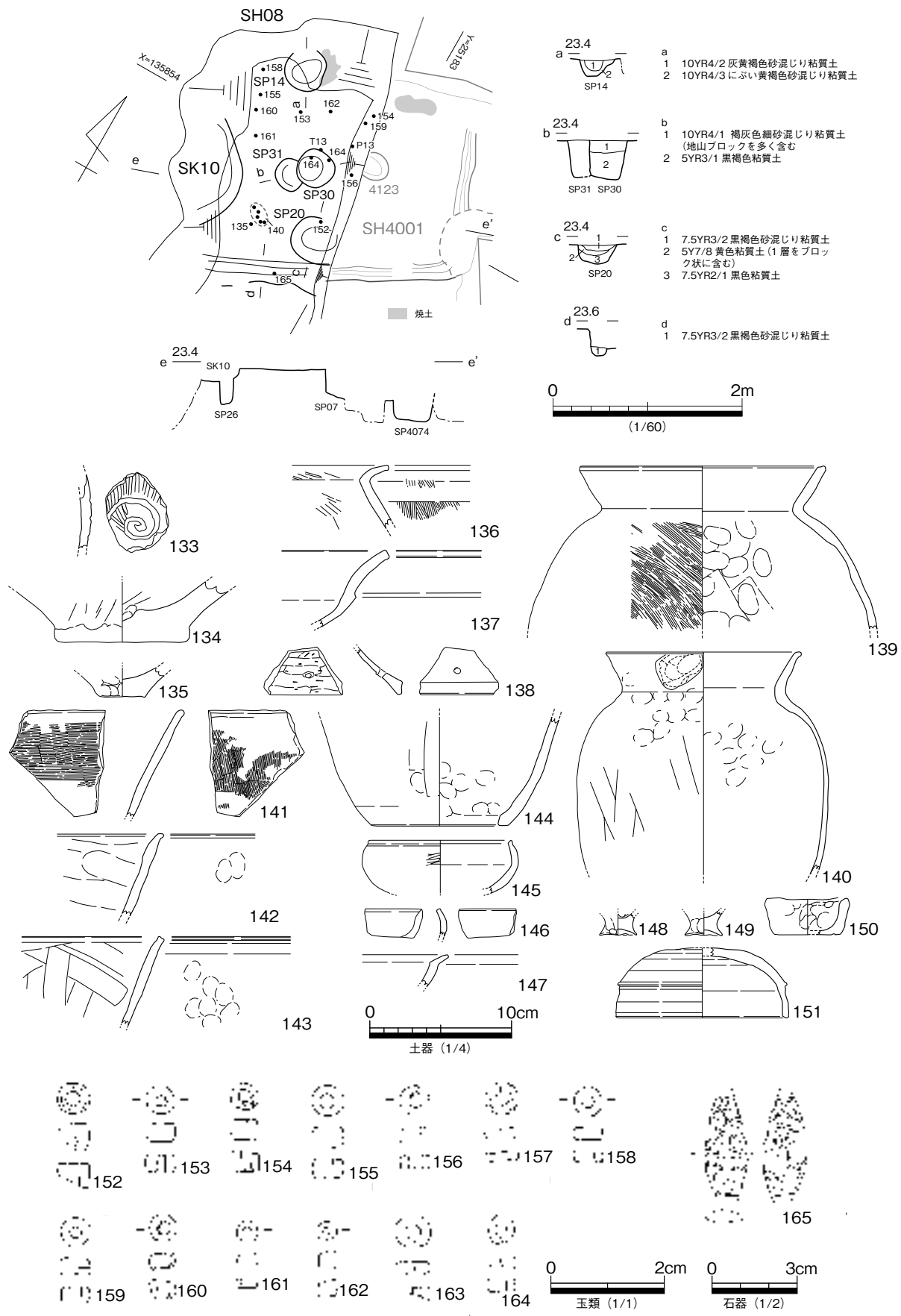


図28 6-1区SH08 平・断面・出土遺物(1)

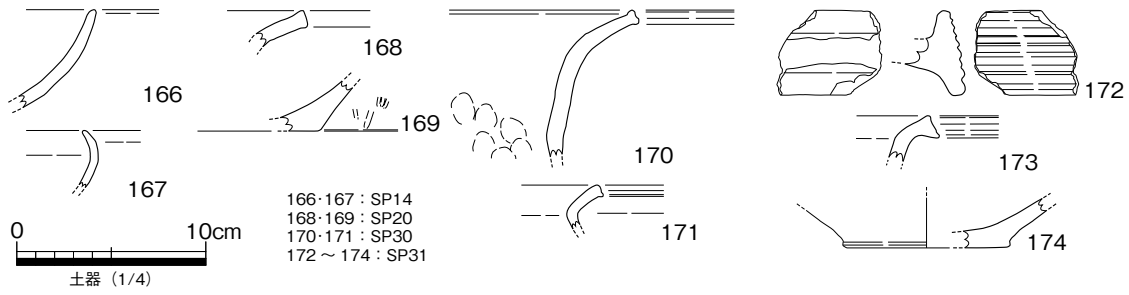


図 29 6-1 区 SH08 出土遺物 (2)

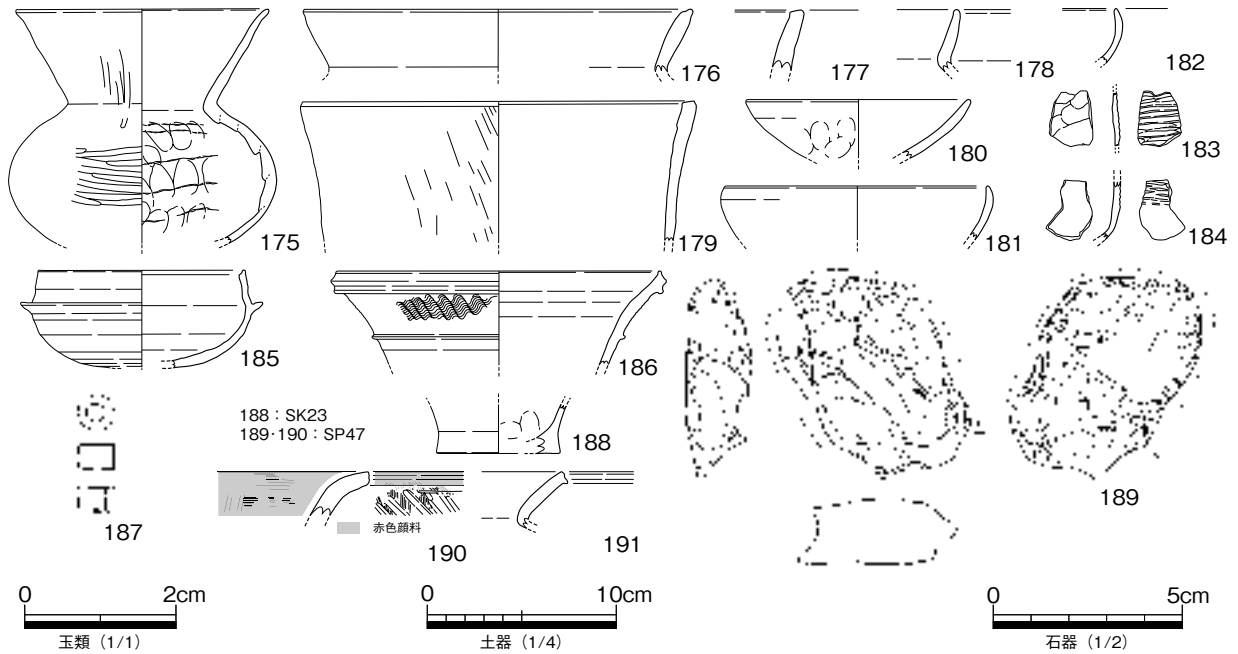
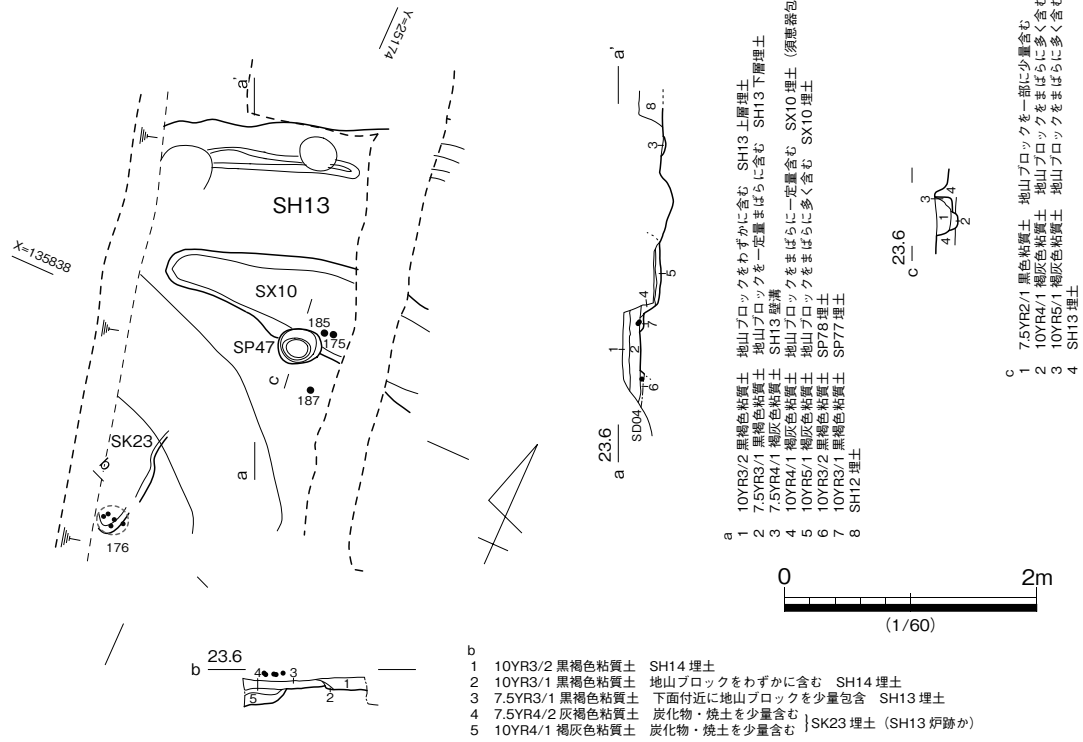


図 30 6-1 区 SH13 平・断面・出土遺物

6-1区 SP47 から出土した 161、160 は、貼床と認定した 6-1区 SX10 との切り合い関係から SX10 より新しく、SX10 から古墳時代後期の遺物が出土していることから、混入と考えられる。

187 は、滑石製の白玉である。暗緑色を呈する（森下）。

6-1区 SH03 (図 31、32)

隅丸方形の平面形を呈する 竪穴住居である。拡張されており、1 辺 2 m の建物の後に 1 辺 2.9 m の建物がやや方向を違って重複する。初期の建物は、中央のやや大型の土坑状の遺構 (6-1区 SK17) と複

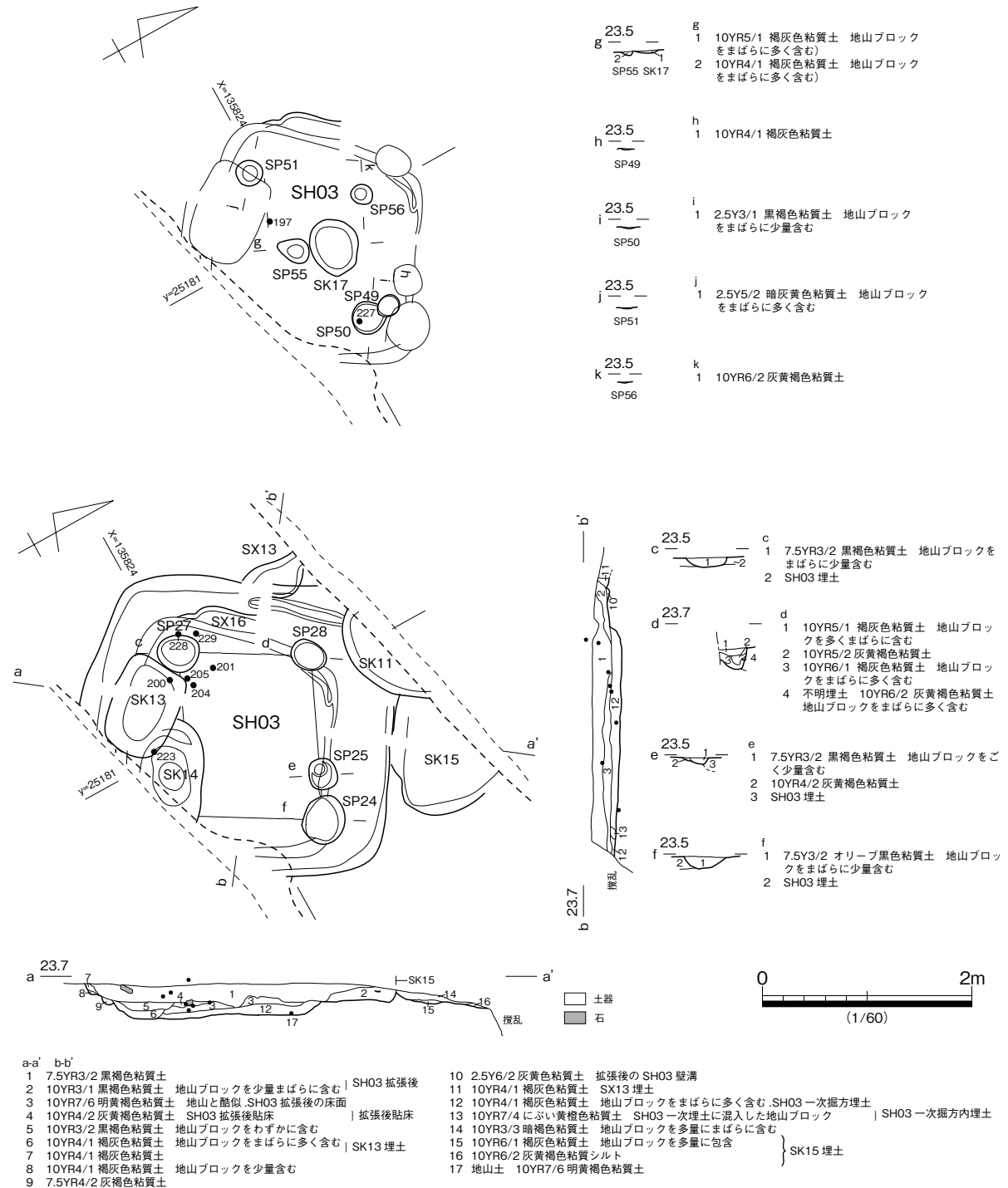


図 31 6-1区 SH03 平・断面

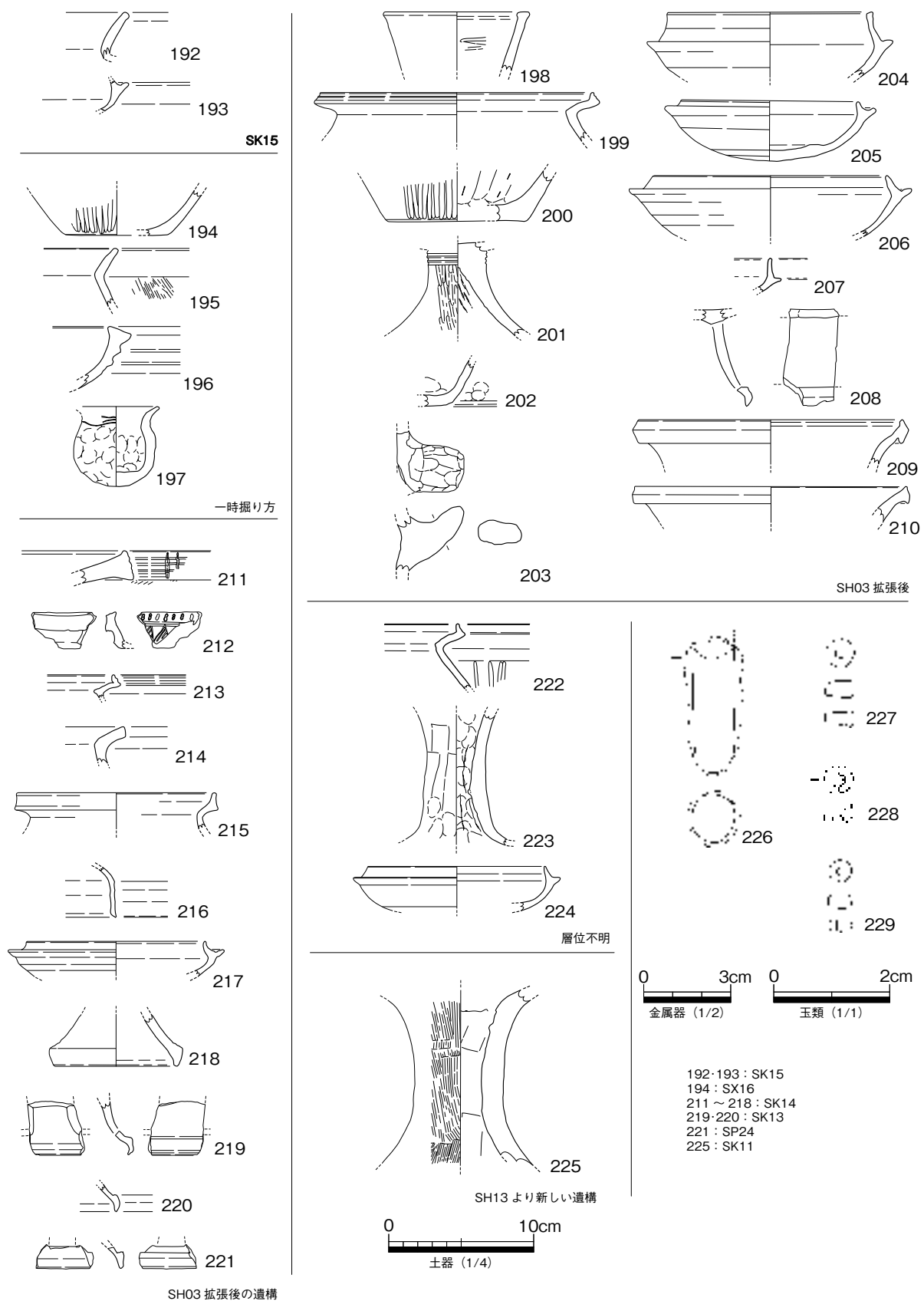


図 32 6-1 区 SH03 出土遺物

数の柱穴（6-1区 SP49～51、55、56）を検出した。これらはいずれも 10cm以下の深度で、支柱穴を構成するような規格性は見られない。拡張後のものからは柱穴（6-1区 SP24、27、28）と土坑（6-1区 SK13）を検出している。拡張後の竪穴住居の柱穴も 10cm以下の深度であり、方形の配置をとると推定できるものの建物の輪郭と方向を違えることから、支柱穴とするには躊躇する。

図 32 は、6-1区 SH03 出土遺物と 6-1区 SH03 周辺の遺構から出土した遺物実測図である。192、193 は切り合い関係により 6-1区 SH03 より古い 6-1区 SK15 から出土したもの、194～197 は初期の建物の掘り方より出土したもの、198～210 は拡張後の埋土、211～221 は拡張後に関わる遺構出土のもの、222～224 は層位不明のもの、225 は 6-1区 SH03 よりも新しい 6-1区 SK11 から出土したものである。

出土遺物のうち、須恵器は MT15 型式併行期のものと TK209 型式併行期のものに二分される。これらは層位的に分離はできていないけれども、拡張前後の時期差を示しているものと考えられる。なお、212 は混入した弥生土器である。金雲母を多量に含む特徴的な胎土であることに加え、見慣れない形態である。無頸壺の口縁部ではないかと思われる。

226 は鉄釘である。断面形は円形を呈し、径 1.4～1.7cm を測る。片方の端部を欠損する。227～229 は滑石製の白玉である。227・228 は暗緑色、229 は灰色を呈する（森下）。

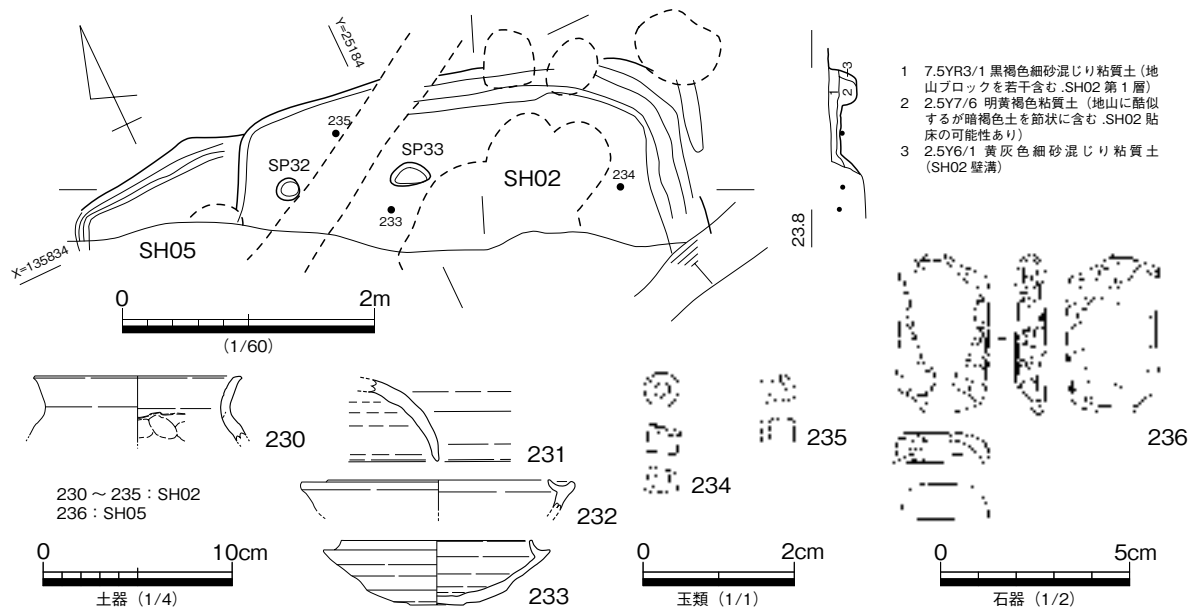


図 33 6-1区 SH02・05 平・断面・出土遺物

6-1区 SH02、05 (図 33)

切り合い関係のある 2 棟の竪穴住居跡である。6-1区 SH02 は方形もしくは長方形の平面形で一部に壁溝が巡る。1 辺 3.6 m をはかる。土師器甕、須恵器蓋杯、杯身等が出土しているが、須恵器は TK209 型式併行のものと考えられる。

234、235 は滑石製の白玉である。暗緑色を呈する。235 は半分欠損する（森下）。

6-1区 SH05 は、6-1区 SH02 とは明瞭に区別できる埋土をもち、6-1区 SH02 よりも古い。時期を特定できる遺物に恵まれないが、236 が出土している。

236 は、結晶片岩製の扁平片刃石斧である。片方の側面は自然面のままで未研磨であるが、もう片方の側面と刃部はよく研磨されている。基部は敲打によって潰れており、端部が欠損する（森下）。

6-1 区 SH07 (図 34)

6-1 区 SH01、08 と後世の攪乱によって壊されているため、竪穴住居跡であることを示す証左が得られないが、底面が平坦になる埋土から、下面を床とする竪穴住居跡と考える。平面形・規模ともに不明である。須恵器の小片少数と弥生土器、土師器の小片多数が出土している。図 34 の須恵器(240)から TK217 型式併行期の竪穴住居跡と考える。

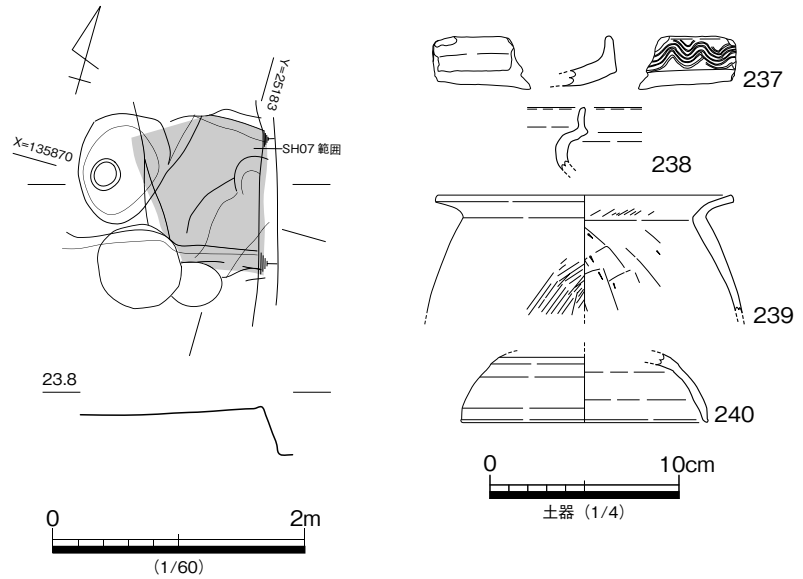


図 34 6-1 区 SH07 平・断面・出土遺物

6-1 区 SH01 (図 35)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』において、「W 区 SH4002」として報告された竪穴住居跡の西側部分に当たる。壁溝の一部を検出した。層位関係より 6-1 区 SH07 より新しい。また、北辺付近で土器片が折り重なるように堆積し、集中する部分がある (6-1 区 SX02)。比較的大きな破片の弥生土器が多く、これらは終末期のものに限定されるようであるが、土器群中には少数の須恵器片が含まれている。6-1 区 SH01 を埋めた際に混入したものであろう。図化遺物の土器のうち 241 以外は 6-1 区 SX02 出土のものであるため、6-1 区 SH01 の年代を示すものではない。埋土中に須恵器片が含まれていること、「W 区 SH4002」での認識を合わせて古墳時代後期の竪穴住居跡と把握しておきたい。

249 はサヌカイト製石鏃、250 は同製スクレイパー、251 は同製 2 次加工のある剥片である。249 は凹基式である。250 は両端部・上部が欠損する。両面からの細かい調整によって刃部が作り出され、刃部の上部が摩滅する。251 は上端に敲打による潰れがみられ、下端には調整が施される。左図の右側面には右図の面からの加撃による剥離面が 2 面以上みられる (森下)。

6-1 区 SH16 (図 36)

3 辺で壁溝の一部を検出した。方形もしくは長方形の平面形の竪穴住居跡である。南側は当初は別の竪穴住居 (6-1 区 SH10) と認識していたが、調査の進捗によって 1 棟の住居であることが判明した。6-1 区 SP43 (深さ 56cm) が主柱穴になる可能性が高く、4 本柱の柱穴配置になると思われる。

実測遺物は弥生時代中期後半から後期のものであるが、層位関係から弥生時代終末期より新しい遺構であると考えられる。出土遺物中には 2 点の須恵器片 (うち 1 点は杯の口縁端部) が含まれており、古墳時代後期の竪穴住居跡と把握しておきたい。

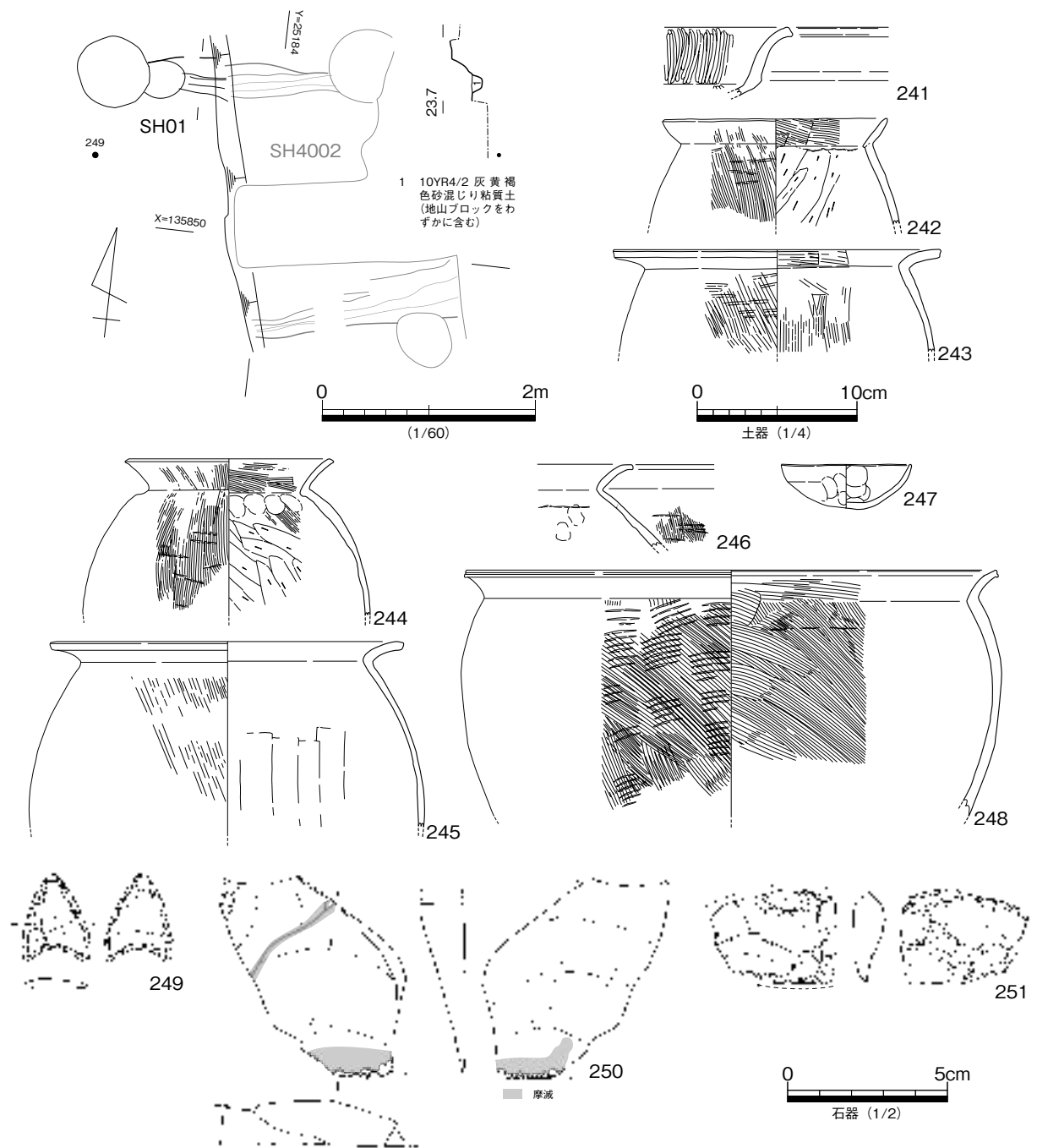


図 35 6-1 区 SH01 平・断面・出土遺物

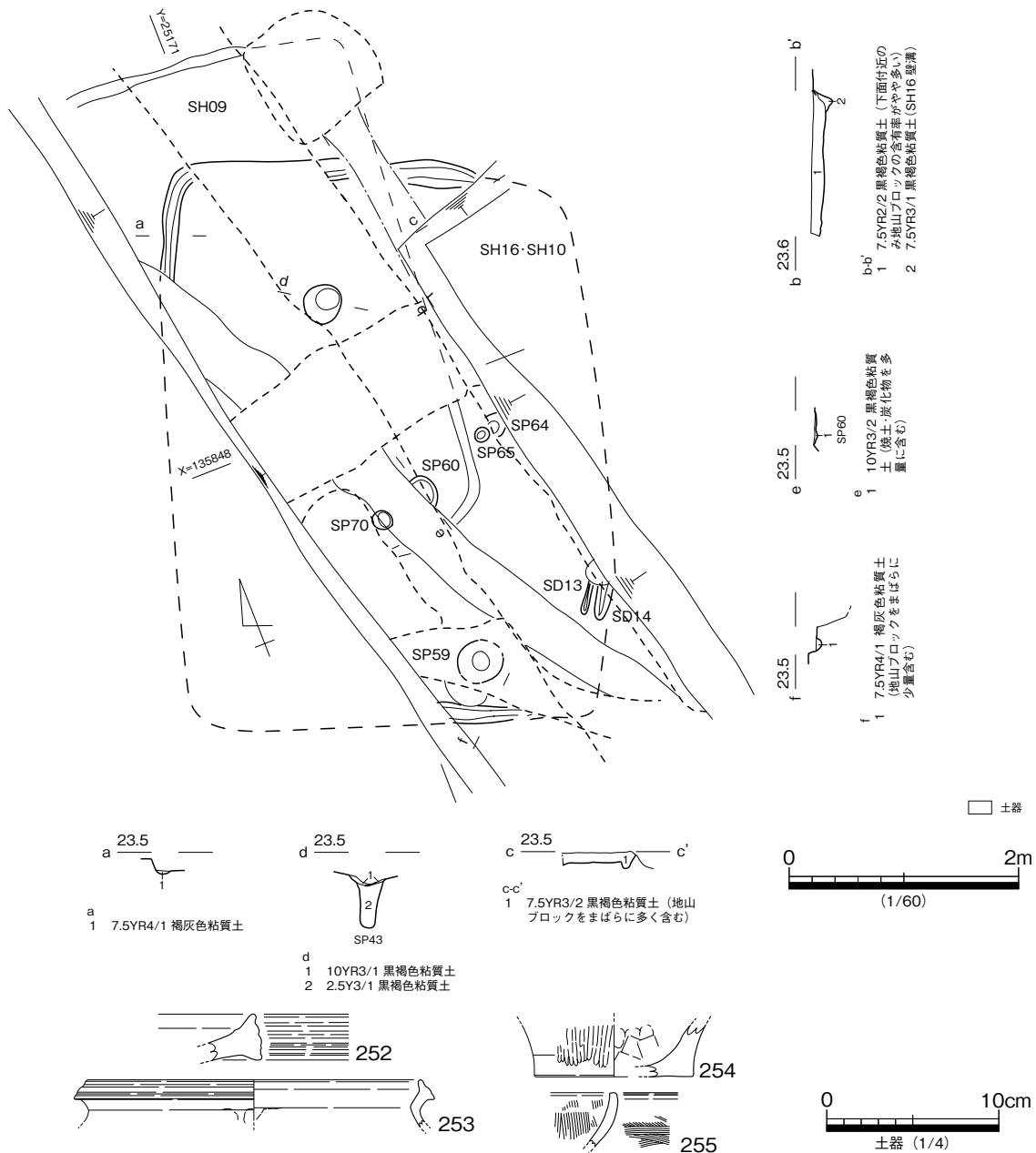


図 36 6-1 区 SH16 平・断面・出土遺物

6-1 区 SH19 (図 37)

方形もしくは長方形の平面形の竪穴住居跡である。2 辺の壁溝のみを検出した。出土遺物の大半は弥生時代後期のものであるが、須恵器片が複数含まれる。1 点は壁溝から出土したため混入とは考えにくい。なお、出土遺物には内面に朱が付着する細片 4 点が含まれている。6-1 区 SH20 に切られる。検出の順序、位置関係から 6-1 区 SP158 が支柱穴になると考える。

276 は滑石製の白玉である。暗緑色を呈する (森下)。

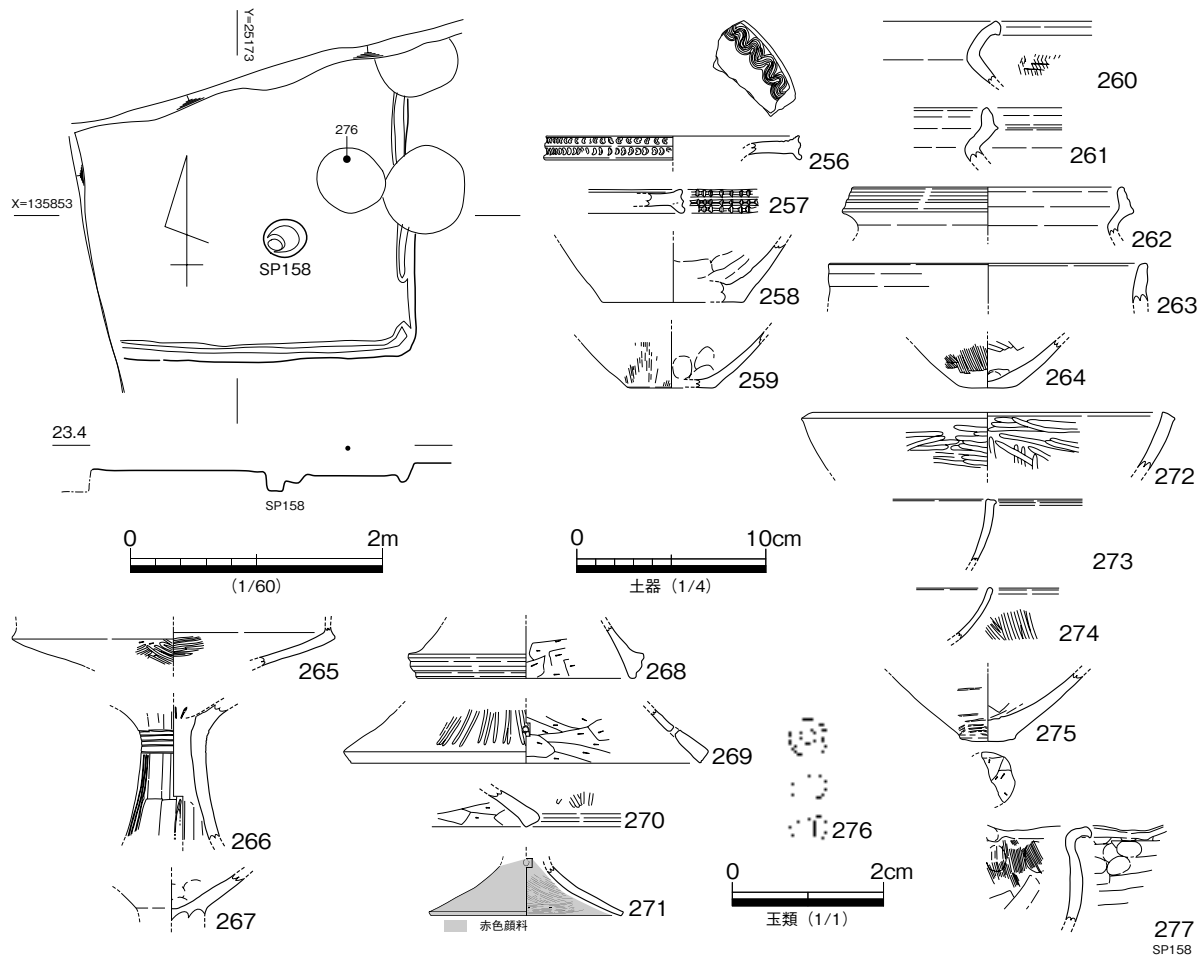


図 37 6-1区 SH19 平・断面・出土遺物

6-1区 SH20 (図 38)

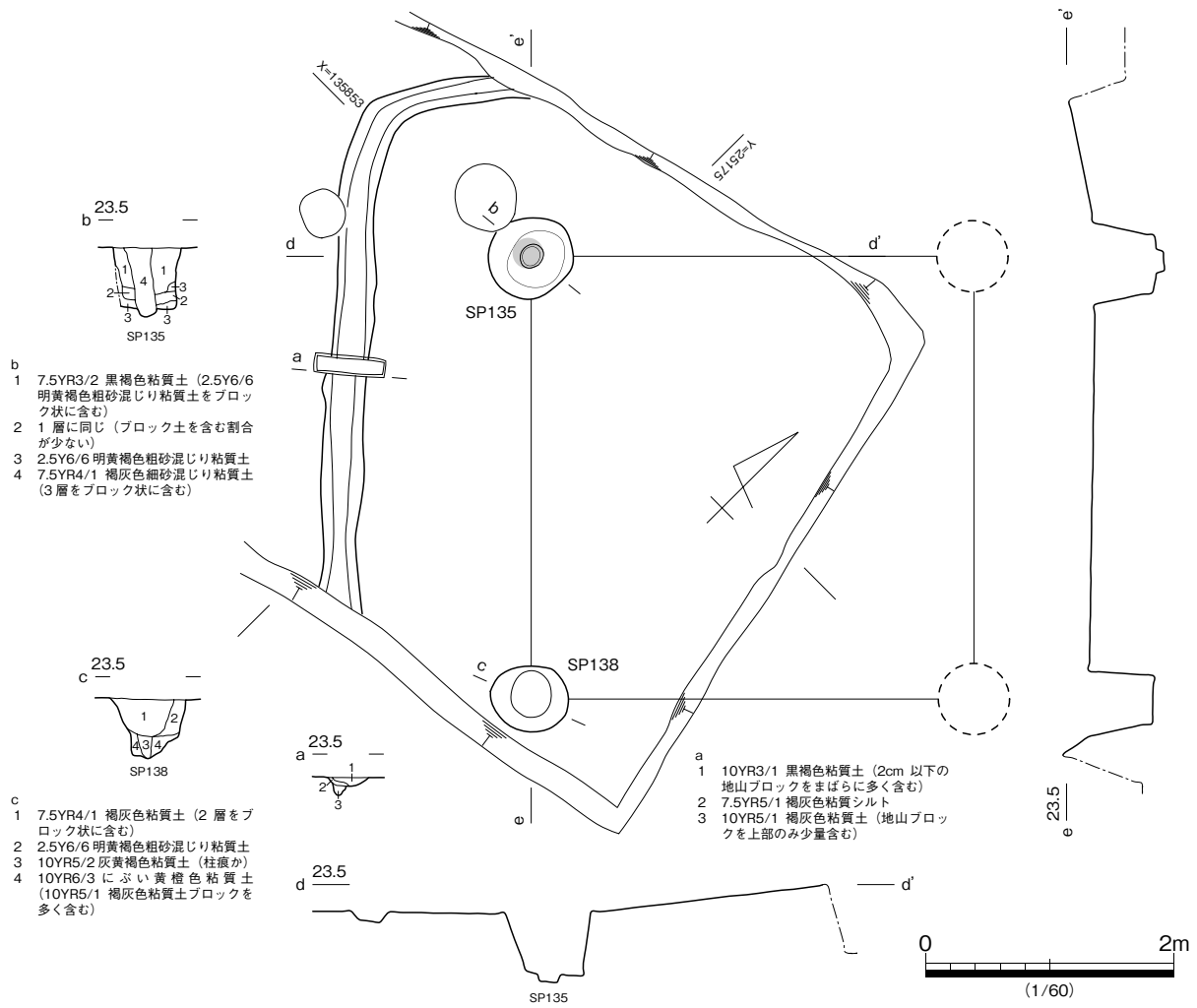
方形もしくは長方形の平面形の竪穴住居跡である。貼床や埋土は遺存せず壁、溝と支柱穴のみを検出した。深さ56cmを測る6-1区 SP135と50cmの6-1区 SP138が支柱穴で、攪乱によって壊されている部分に2基の柱穴のある4本柱の支柱穴に復元できる。

図38の278～284は壁溝、285～289は6-1区 SP135、290、291は6-1区 SP138から出土した遺物である。実測遺物の大半は弥生時代中期後半～後期の土器片であるが、283が壁溝から出土しているほか、6-1区 SP135の出土遺物のなかに複数の須恵器細片がふくまれていることから、6-1区 SH20は、283が示す8世紀に下る竪穴住居であると考えられる。

284は鉄釘である。両端を欠損する。断面形は円形で、径は0.35cmを測る(森下)。

6-1区 SH14 (図 39)

覆土の一部を検出した。平面形は弧状を呈するが詳細不明である。6-1区 SH13と切り合い関係にあり、SH13より新しい。図化可能な土器片はないが、多数の弥生土器・土師器細片に混じり、立ち上がりを有する須恵器杯の細片や備讃V式の製塩土器細片2点が含まれている。古墳時代後期の竪穴住居である。



- b
- 1 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 (2.5Y6/6 明黄褐色粗砂混じり粘質土をブロック状に含む)
 - 2 1層に同じ (ブロック土を含む割合が少ない)
 - 3 2.5Y6/6 明黄褐色粗砂混じり粘質土
 - 4 7.5YR4/1 褐灰色細砂混じり粘質土 (3層をブロック状に含む)

- c
- 1 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 (2層をブロック状に含む)
 - 2 2.5Y6/6 明黄褐色粗砂混じり粘質土
 - 3 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 (柱痕か)
 - 4 10YR6/3 にぶい黄橙色粘質土 (10YR5/1 褐灰色粘質土ブロックを多く含む)

- a
- 1 10YR3/1 黒褐色粘質土 (2cm以下の地山ブロックをまばらに多く含む)
 - 2 7.5YR5/1 褐灰色粘質シルト
 - 3 10YR5/1 褐灰色粘質土 (地山ブロックを上部のみ少量含む)

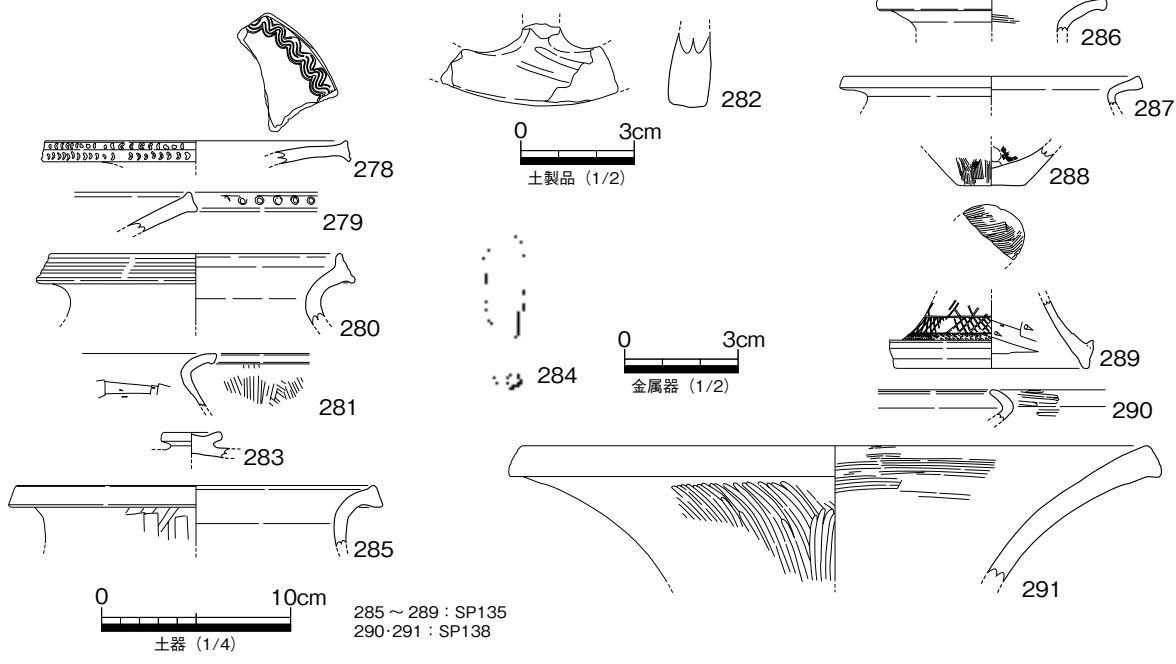


図 38 6-1 区 SH20 平・断面・出土遺物

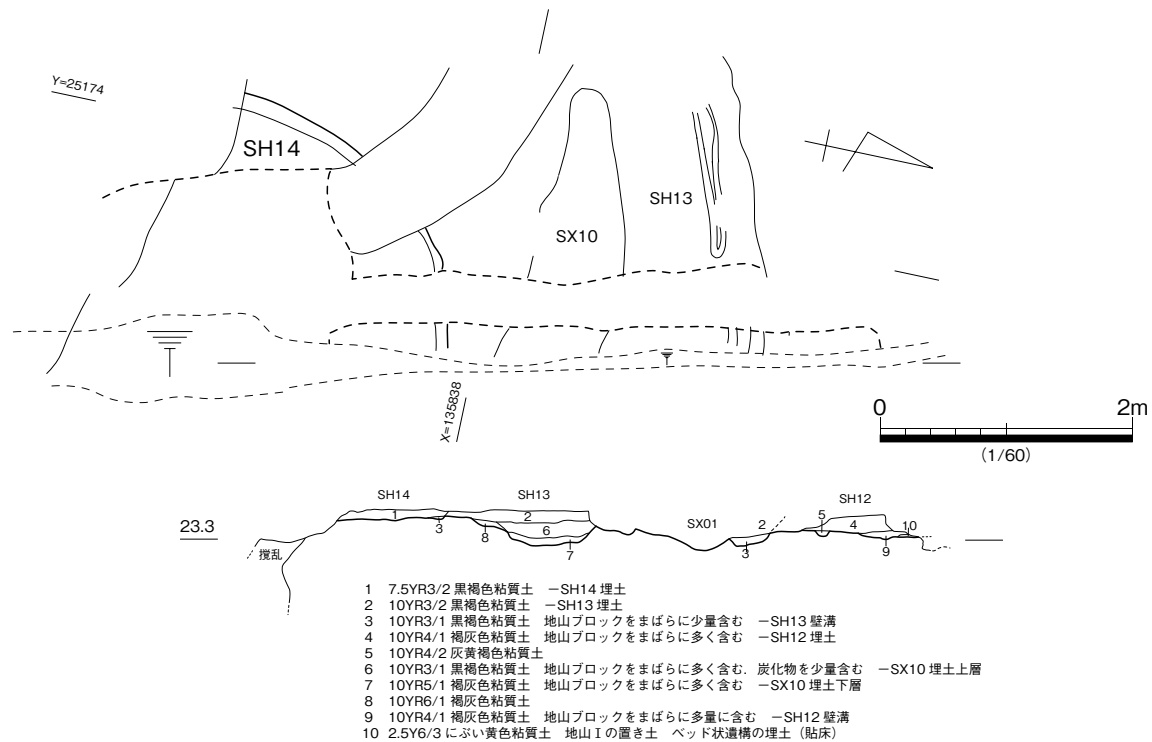


図 39 6-1 区 SH14 平・断面

6-1 区 SH11 (図 40)

6-1 区 SH12 に切られる竪穴住居の貼床と考えられる層から存在が確認できる。ごく一部の検出にとどまり、平面形・規模ともに不明である。80 点あまりの土器細片が出土しているが、時代を特定するものではなく、6-1 区 SH12 (古墳時代前期) よりも古いということしかわからない。

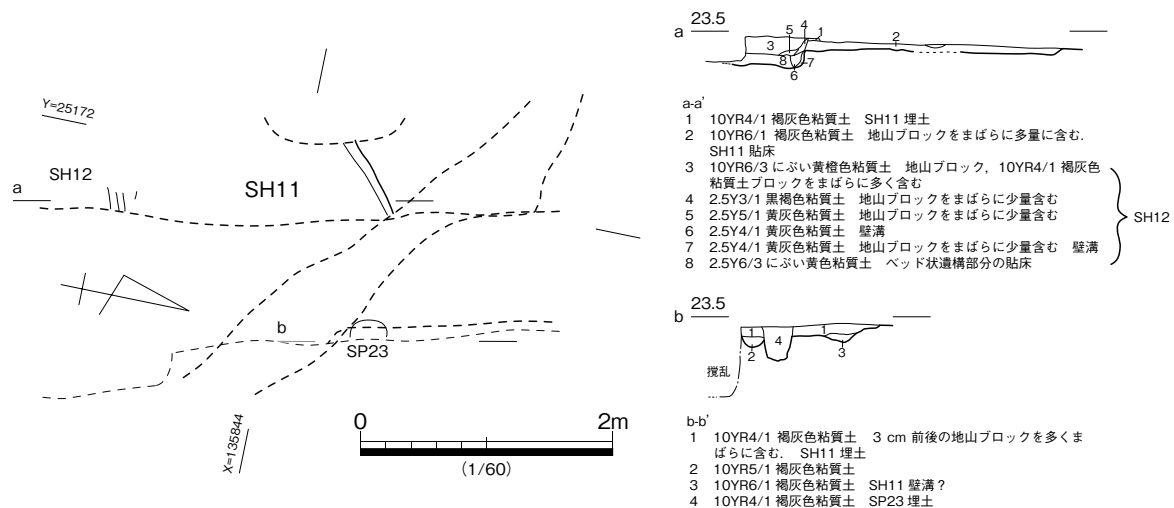


図 40 6-1 区 SH11 平・断面

6-1 区 SP17・SP48 (図 41)

6-1 区 SP17 と 6-1 区 SP48 は隣接する柱穴である。6-1 区 SP48 上面は、6-1 区 SP17 を覆う浅い凹地となっていた模様で、複数の土器片を包含していた (図 41 の 294 ~ 297)。292 は、弥生土器片を円形に打ち欠いて孔を穿とうとしたものであるが、位置がずれたために孔が貫通していない。298 は台付鉢、299 は器台である。

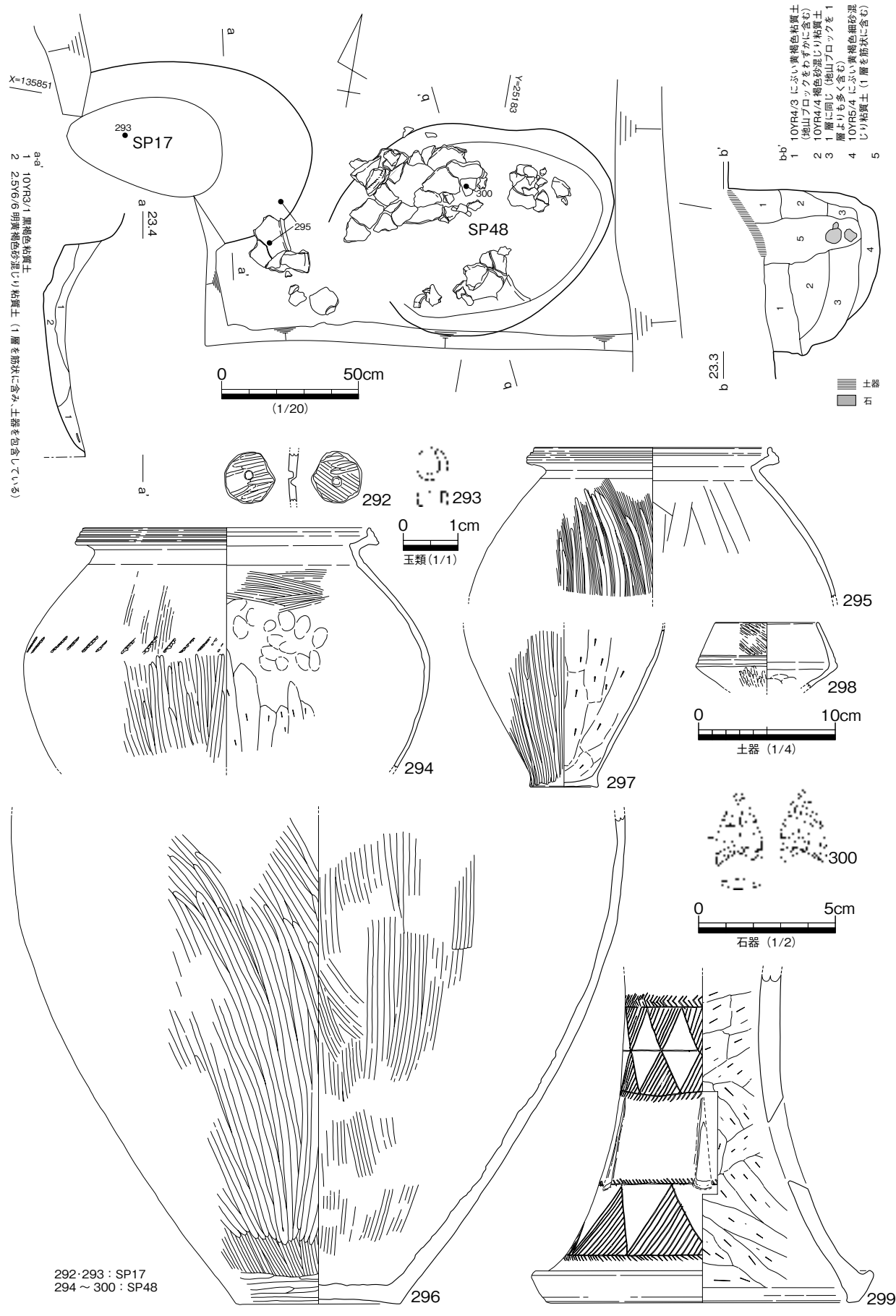


図 41 6-1 区 SP17・48 平・断面・出土遺物

293は滑石製の白玉である。暗緑色を呈する。300はサヌカイト製の石鏃である。凹基式である(森下)。出土遺物の様相から6-1区SP17と48は弥生時代中期後半のものと考えられる。なお、周囲には明確な時期は不明であるものの、6-1区SP17・SP48と類似する埋土と規模をもつ数基の柱穴が存在する。しかし、これらには掘立柱建物を復原し得るような配置は見られない。

6-1区 SP07 (図42)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』において、「W区 SB4004のSP4050」として報告された柱穴の西側部分に当たる。時期幅のある遺物が出土しているが、304の須恵器杯が最も新しいものと考えられる。TK209型式に併行する時期のものである。

306は埋土上層から出土した滑石製の白玉である。暗緑色を呈する(森下)。

なお、『旧練兵場遺跡Ⅲ』において、「W区 SB4004」として想定された柱穴は6-1区では検出されていない。

6-1区 SB01 (図43)

近似する規模で、埋土も共通する柱穴が3基並んでいることから掘立柱建物を復原した。北側の攪乱部分に延びるものと推定される。図化遺物はいずれも弥生時代後期を中心とする遺物となったが、いずれの柱穴からも須恵器細片が出土している。6-1区SH20が検出される以前から柱穴の存在が確認されていたことから、6-1区SH20よりも新しい遺構であると考えられるが、明確な時期は不明である。

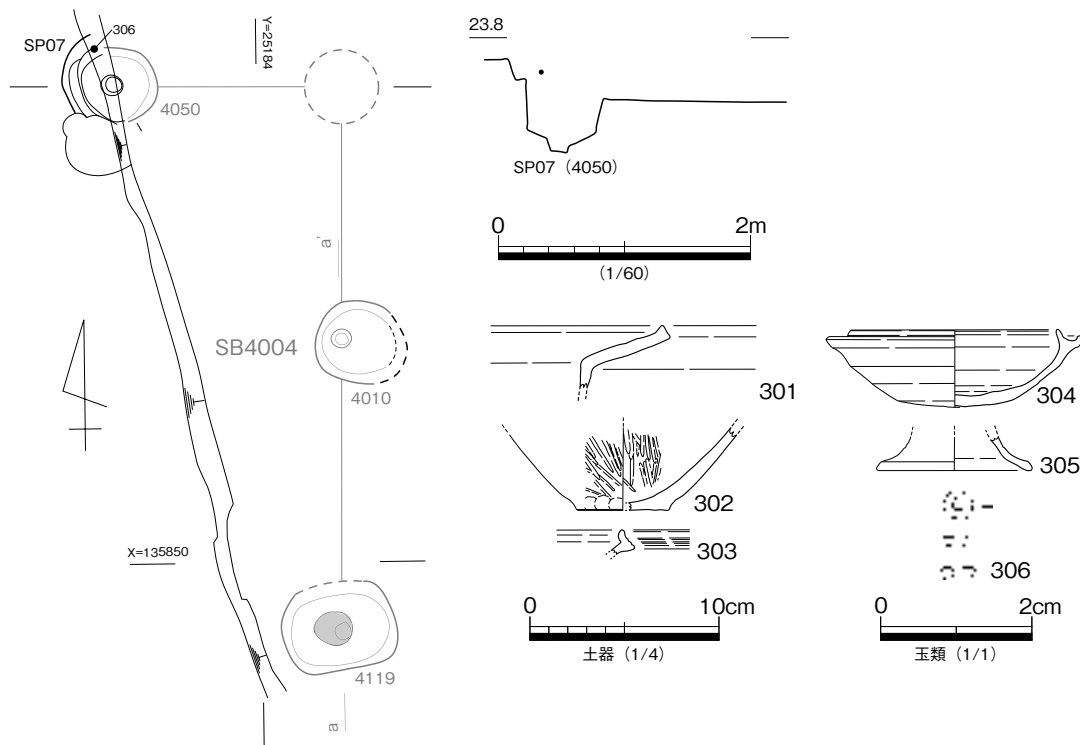


図42 6-1区 SP07 平・断面・出土遺物

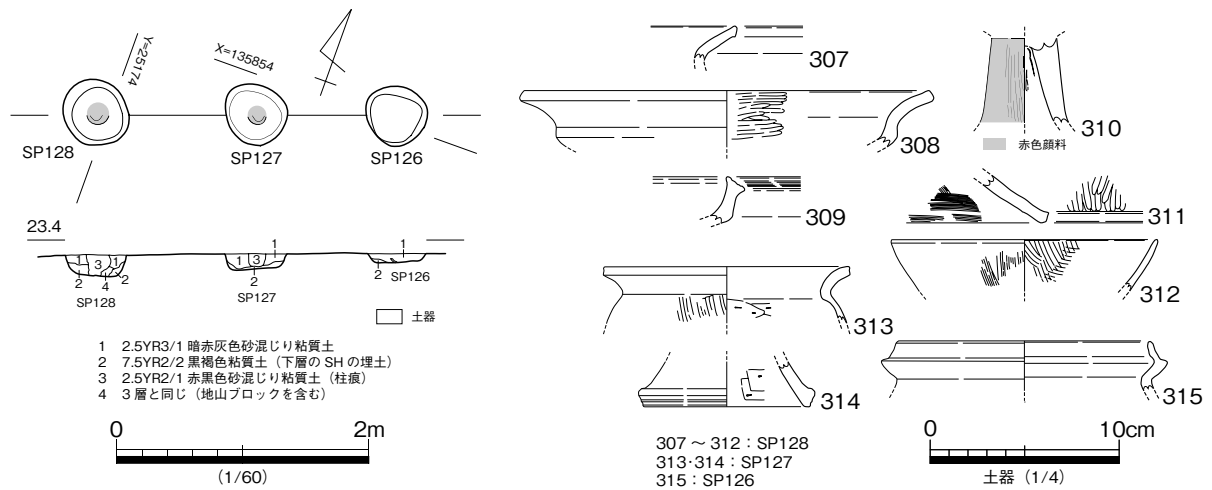


図 43 6-1 区 SB01 平・断面・出土遺物

W 区 SB4001、W 区 SB4002 (『旧練兵場遺跡Ⅲ』)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』において、W 区 SB4001 および W 区 SB4002 を構成する柱穴が 6-1 区に存在すると想定されているが、いずれの柱穴も確認できていない。

6-1 区 SK42 (図 44)

長軸 1.2、短軸 1.0 m (深さ 0.3 m) の楕円形の平面形と考えられる土坑である。後述する 6-1 区 SK18 に壊されている。遺物は床面付近で出土した 316 の 1 点のみである。316 は弥生時代中期後半の弥生土器台付鉢で摩滅している。6-1 区 SK18 が、弥生時代中期後半の土坑墓であることが確定し、本遺構も規模・形状が類似することから、土坑墓の可能性を考えて精査したが、肯定的な情報も否定的な情報も得られなかった。

6-1 区 SK18 (図 45)

検出時には土坑 (SK) と認識していたが、調査の進捗により弥生時代中期の土坑墓であることが判明した。東側が攪乱によって壊されているため全容は不明であるが、短辺 0.6、長辺 1.5 m 以上の長方形の平面形で、深さ 0.2 m を測る。底面は平坦ではなくやや舟底状を呈し、土層の断面観察によっても木棺を据えた痕跡は認められない、小口板の掘り方も認められないことから、土坑墓と判断した。

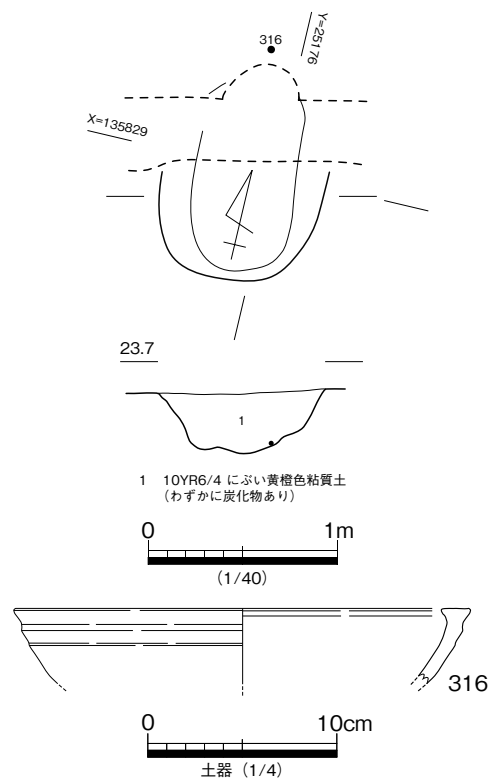


図 44 6-1 区 SK42
平・断面・出土遺物

仰臥屈葬した男性の人骨が出土している。人骨の遺存状態は不良で、頭蓋骨、左右鎖骨、左右上腕骨、右前腕骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右腓骨、肋骨などが遺存していた。人骨の状況や埋葬状況や人骨に関する所見については、現地において調査を指導され、骨のクリーニング作業の労をとっていただいた中橋孝博博士（九州大学大学院比較社会文化研究院）の玉稿を後掲している。

出土遺物は、40片あまりの注記可能な大きさの破片、25片あまりの注記不可能な細片が出土している。また、石片数点（石鏃1点を含む）および歯（ネズミ科の下顎切歯）が出土している。副葬品はない。凶化した遺物は3点である。317は弥生土器壺である。体部最大径付近に刻み目を施した突帯を2条付す形態と推定する。6-1区SX09の下位に位置し、6-1区SK42を壊していることも合わせて、弥生時代中期中葉から後半のものと考えられる。

320はサヌカイト製の石錐である。錐部先端を欠損する（森下）。

発掘調査時の所見から、6-1区SK18は土坑墓であると判断しているが、中橋博士の所見では、左膝関節にやや乱れが認められ、左右とも脛骨と腓骨が通常的位置関係より離れている。足根骨である可能性のある骨が、強屈した膝のさらに西方や、下腿の中ほどに分離して検出されていることから、埋葬後

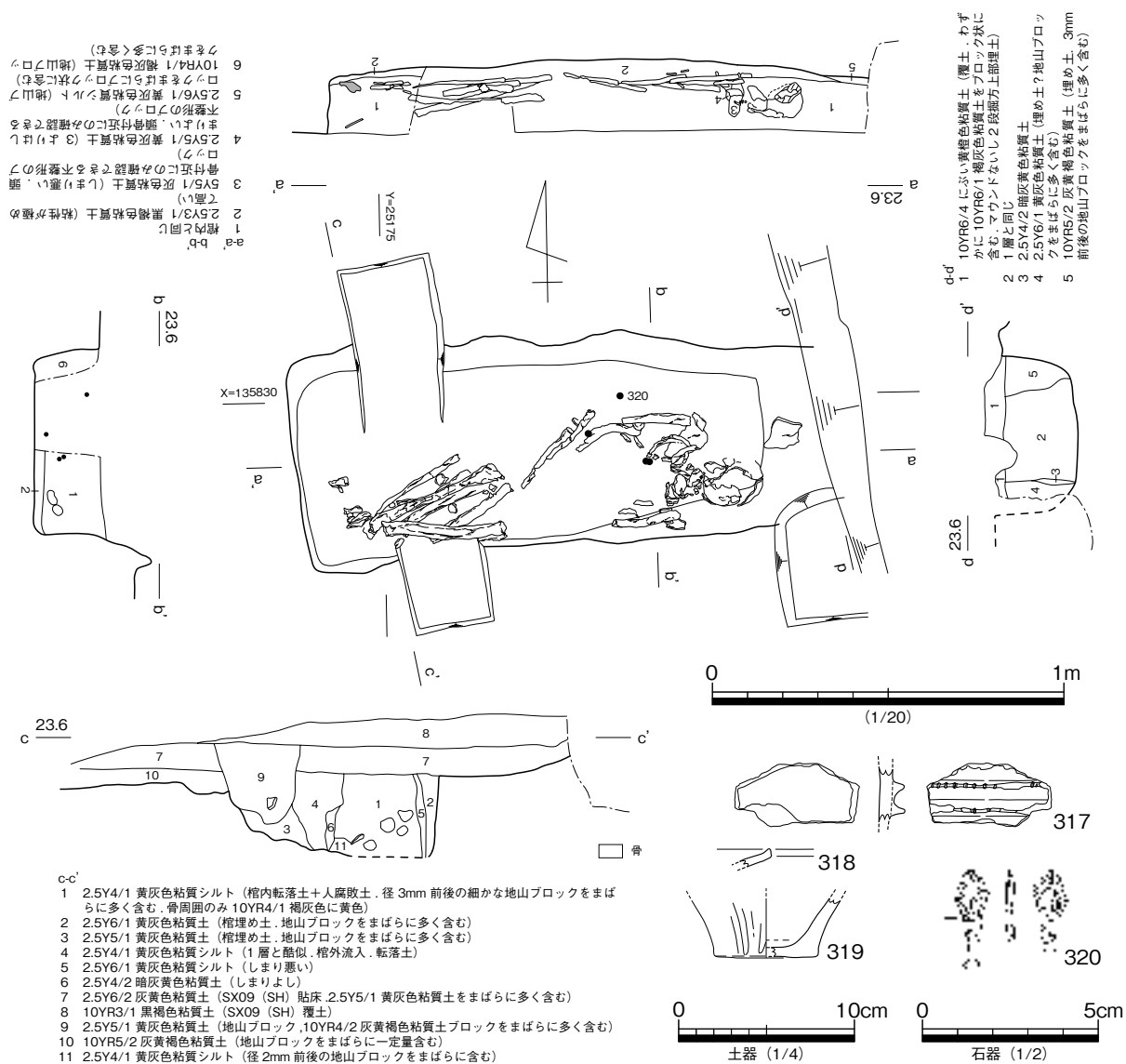


図 45 6-1区SK18 平・断面・出土遺物

しばらくの期間は遺体周辺に空間が確保されていた状況を想定されている。この所見と発掘調査時の観察との関係を考えて、1. 土坑墓という所見が誤りで木棺墓であった。2. 土坑の上面に木板を覆う構造で、一定期間空間が存在した。3. 何らかの葬送儀礼に伴い遺体が人為的に動かされた。4. 動植物による擾乱により骨が動いたなどの理由が考えられる。しかしながら、これらの状況については証明することが困難であるため、今後類例の増加を待つこととしたい。

6-1 区 SK34 (図 46)

6-1 区 SH07 掘り方除去後に検出した土坑である。平面形は楕円形で、径 70～90 (深さ 42) cm の規模である。時期幅のある遺物が出土したが、弥生土器は摩滅するものが多い。326 は細片であるが、TK10 型式併行と考えられる須恵器蓋で、6-1 区 SK34 の所属年代を示すものと考えられる。

6-1 区 柱穴・土坑 (図 47～51)

図 47 は、6-1 区 SH09 から 14 付近で検出したものである。

6-1 区 SP97 327 の弥生時代中期後半の甕のほかに弥生土器片 2 点が出土している。

6-1 区 SK28 6-1 区 SH03 の東側に所在する。328 の明瞭な平底の弥生土器底部のほか、10 点あまりの弥生土器細片が出土している。

6-1 区 SK16 弥生時代終末期と考えられる鉢 (329) が、ほぼ完形で出土している。

6-1 区 SP78 深さ 41cm を測る柱穴である。6-1 区 SH13 の貼床に切られる。330 は土師器甕の細片である。

6-1 区 SP96 深さ 46cm を測るしっかりとした柱穴である。弥生時代後期後半の高杯細片が出土している。

6-1 区 SP71 6-1 区 SH12 構築前の柱穴である。弥生時代後期の甕や鉢の細片が出土している。

6-1 区 SP86 30 点あまりの弥生土器細片が出土している。

このほか、6-1 区 SP09 から鉄釘 (336) が出土した。両端を欠損する。断面形は長方形である (森下)。

6-1 区 SP101 からサヌカイト製の石鏃 (337) が出土した。基部を欠損する (森下)。

6-1 区 SX13 からサヌカイト製の楔状石核 (338)、流紋岩製の砥石 (339) が出土した。338 は体部の一部が摩滅しており、抉りがあることから、当初は石包丁であったと考えられる。下端に敲打による潰れや粗い剥離痕があり、割れ面側からの剥離痕がみられることから、石包丁として使用されたあと楔状石核として再利用されたと考えられる。339 は 1 面が摩滅する (森下)。

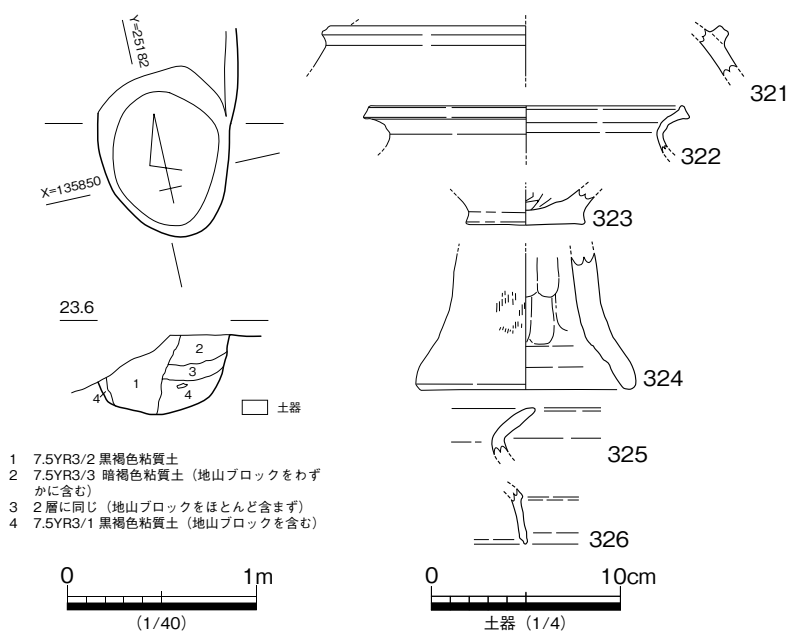


図 46 6-1 区 SK34 平・断面・出土遺物

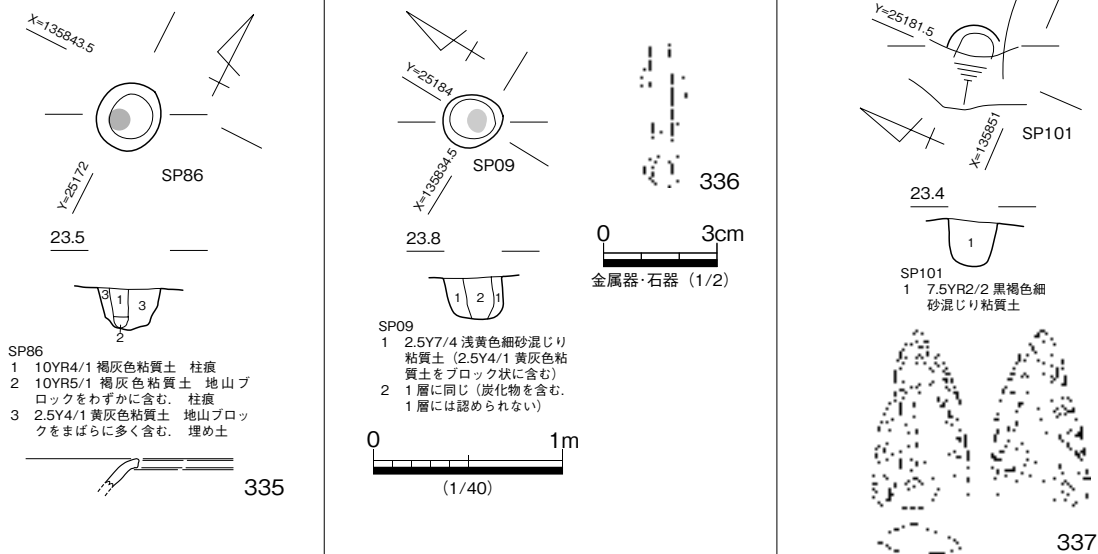
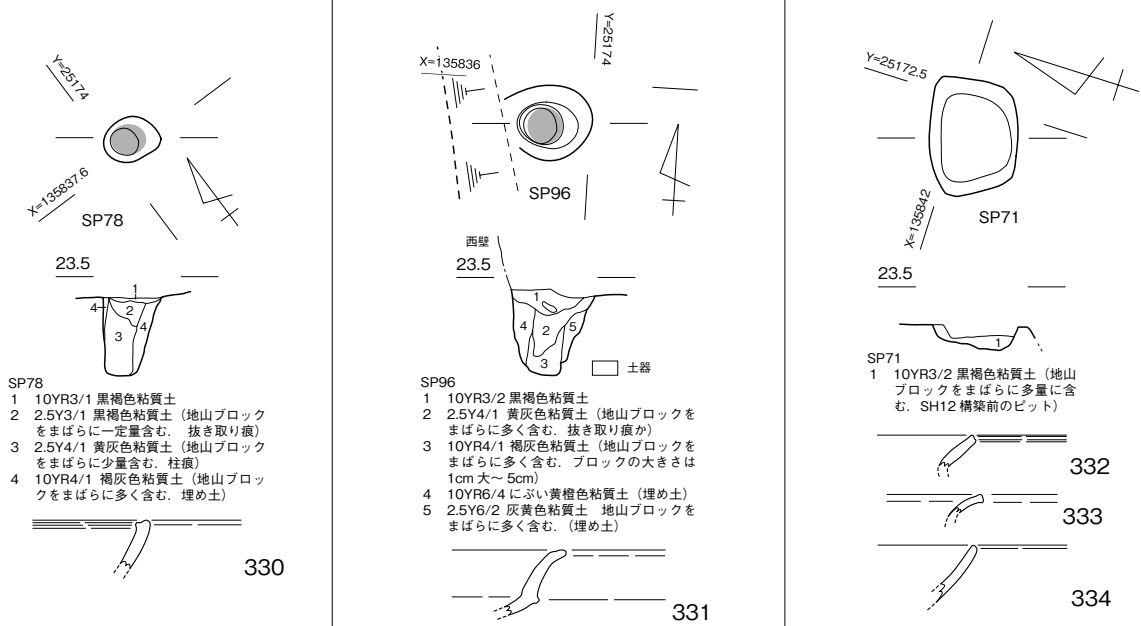
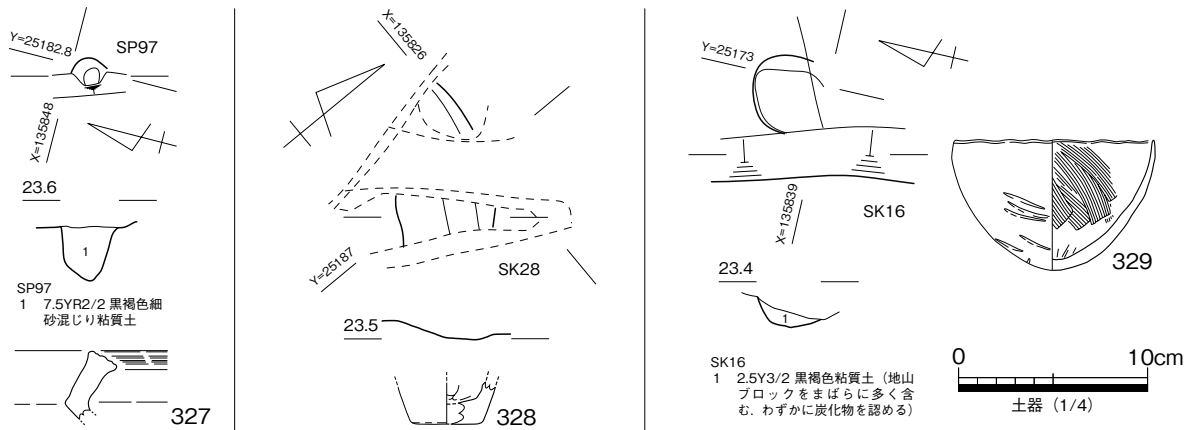


図 47 6-1 区柱穴・土坑 (1) 平・断面・出土遺物

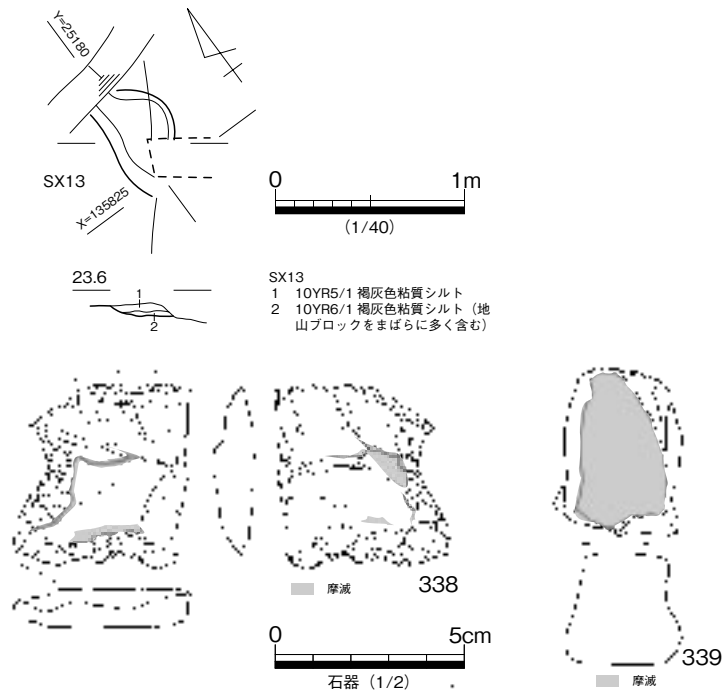


図 48
6-1 区柱穴・土坑 (2)
平・断面・出土遺物

図 49 は、6-1 区 SH09 から 16、18 付近で検出したものである。

6-1 区 SP19 弥生土器高杯の口縁部ほか数点の弥生土器細片が出土している。

6-1 区 SP82 20 点弱の弥生土器細片のほか、弥生時代後期の壺や甕の口縁部が出土している。

6-1 区 SP146 10 点余りの弥生土器細片のほか、弥生時代中期後半から後期初頭の土器片が出土している。

6-1 区 SK31 10 点余りの弥生土器細片のほか、弥生時代後期の壺や鉢の破片が出土している。

6-1 区 SK37、38 浅い皿状の断面形の土坑である。切り合い関係があり 6-1 区 SK37 が新しい。埋土中に焼土や炭化物を含む。出土遺物の年代観や位置関係から 6-1 区 SH09 の中央土坑の可能性はあるけれども確証がない。6-1 区 SK37 からは 50 点あまり、6-1 区 SK38 からは 10 点あまりの弥生土器片が出土している。350 の鉢は、6-1 区 SK37 出土のものと 6-1 区 SK38 出土の破片が接合している。

図 50 は、6-1 区では遺構面が比較的良好に遺存していた西北部の 6-1 区 SH19～22 付近で検出したものである。

6-1 区 SP133 は、6-1 区 SP132 および 131 と見かけのうえで一直線に並ぶけれども、規模に隔絶があるため柵列や掘立柱建物を構成するとは考えられない。40 点あまりの弥生土器細片とともに弥生時代終末期の高杯脚端部が出土している。香東川下流域産のものである。

6-1 区 SP134 は、柱痕底までの深さ 46cm を測る柱穴である。多数の弥生土器片に混じって数点の須恵器片が出土している。須恵器片からは年代を決められない。353 は土師器甕である。

流紋岩製の砥石 (354) が出土した。摩滅のため中央部が凹む (森下)。

6-1 区 SP129 からは 20 点あまりの弥生土器細片が出土している。355 は弥生土器甕の口縁部である。

6-1 区 SP136 30 点あまりの弥生土器細片が出土している。356、357 は弥生時代中期後半と考えられるが、6-1 区 SP136 は弥生時代後期の遺物を包含する 6-1 区 SX19 を壊して掘削していることから、遺構の年代を示すものではない。

6-1 区 SK39 深さ 18cm ほどの土坑である。埋土中に焼土塊を含む。10 数点の弥生土器片が出土して

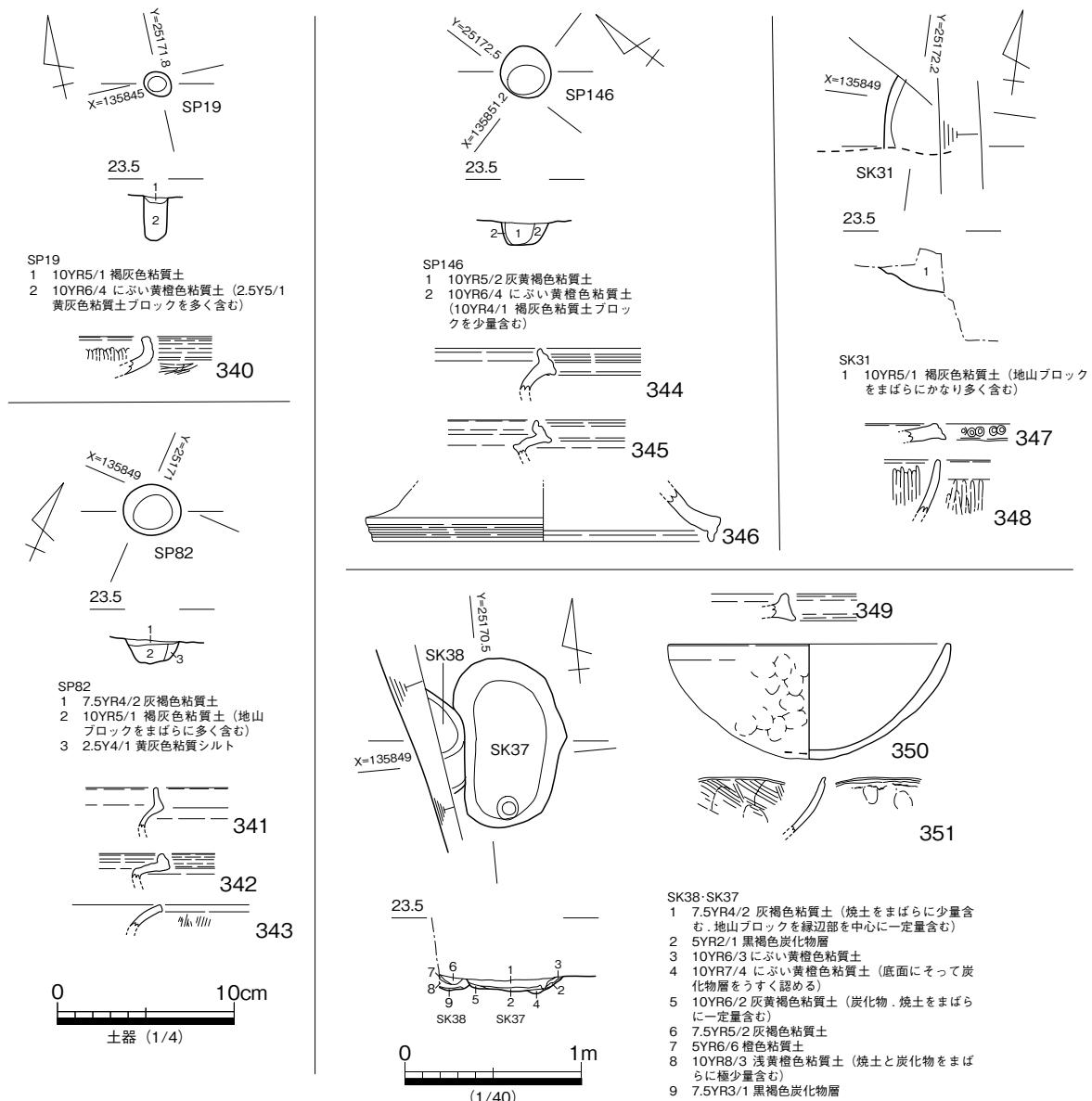


図 49 6-1 区柱穴・土坑 (3) 平・断面・出土遺物

いる。図化した高杯は弥生時代中期後半のものであるが、本遺構に壊される 6-1 区 SD21 が弥生時代後期のものと考えられることから混入したものであり、6-1 区 SK39 は弥生時代後期以降のものである。

6-1 区 SP155 359 の香東川下流域産の弥生土器甕の細片 1 点が出土している。

6-1 区 SX19 平面形は 1 辺 1.2 m ほどの歪な方形、断面形は皿状で底面は平坦をなす。6-1 区 SH20 の支柱穴 (6-1 区 SP135) より古い。弥生土器片多数を包含する。364 の鉢はほぼ完形で出土した。弥生時代後期の遺構である。

滑石製の白玉 (365) が出土した。365 は暗緑色を呈する (森下)。

6-1 区 SK43 弥生土器片が 6 点出土している。366 は弥生時代中期後半の新しい段階の甕と考えられる。しかし、埋土に関する情報がないこともあり、本資料が 6-1 区 SK43 の年代を示すかどうか確認がない。

6-1 区 SP171 図化遺物は弥生時代中期後半から後期初頭の様相を示すが、6-1 区 SP171 は、弥生時代後期後半の遺構と考えられる 6-1 区 SX21 を壊しており、それよりも新しい遺構である。

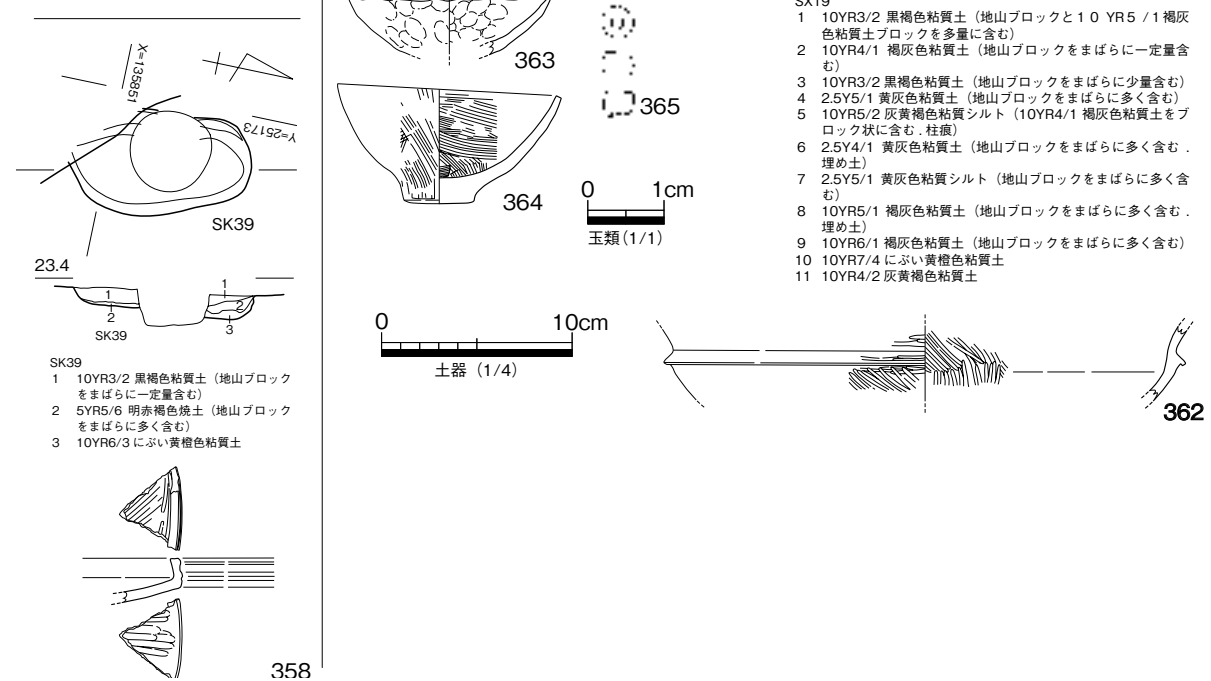
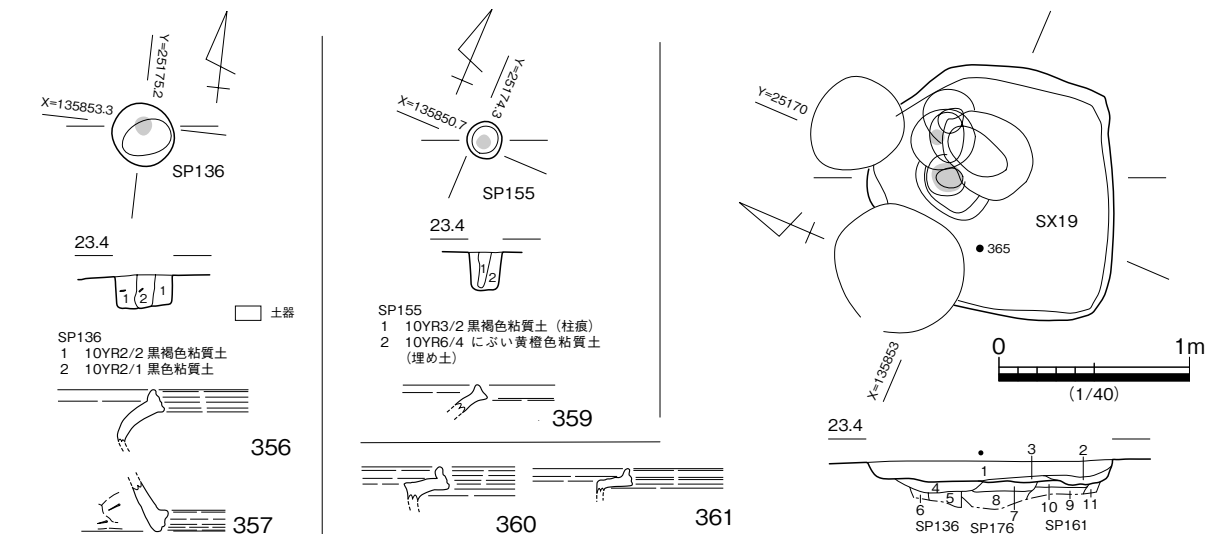
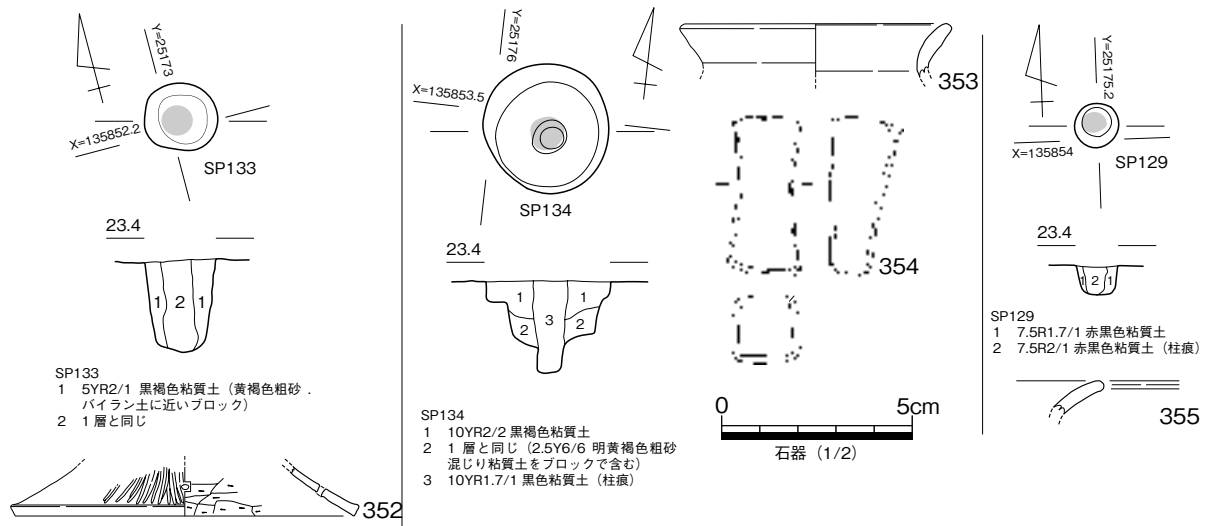


図 50 6-1 区柱穴・土坑 (4) 平・断面・出土遺物

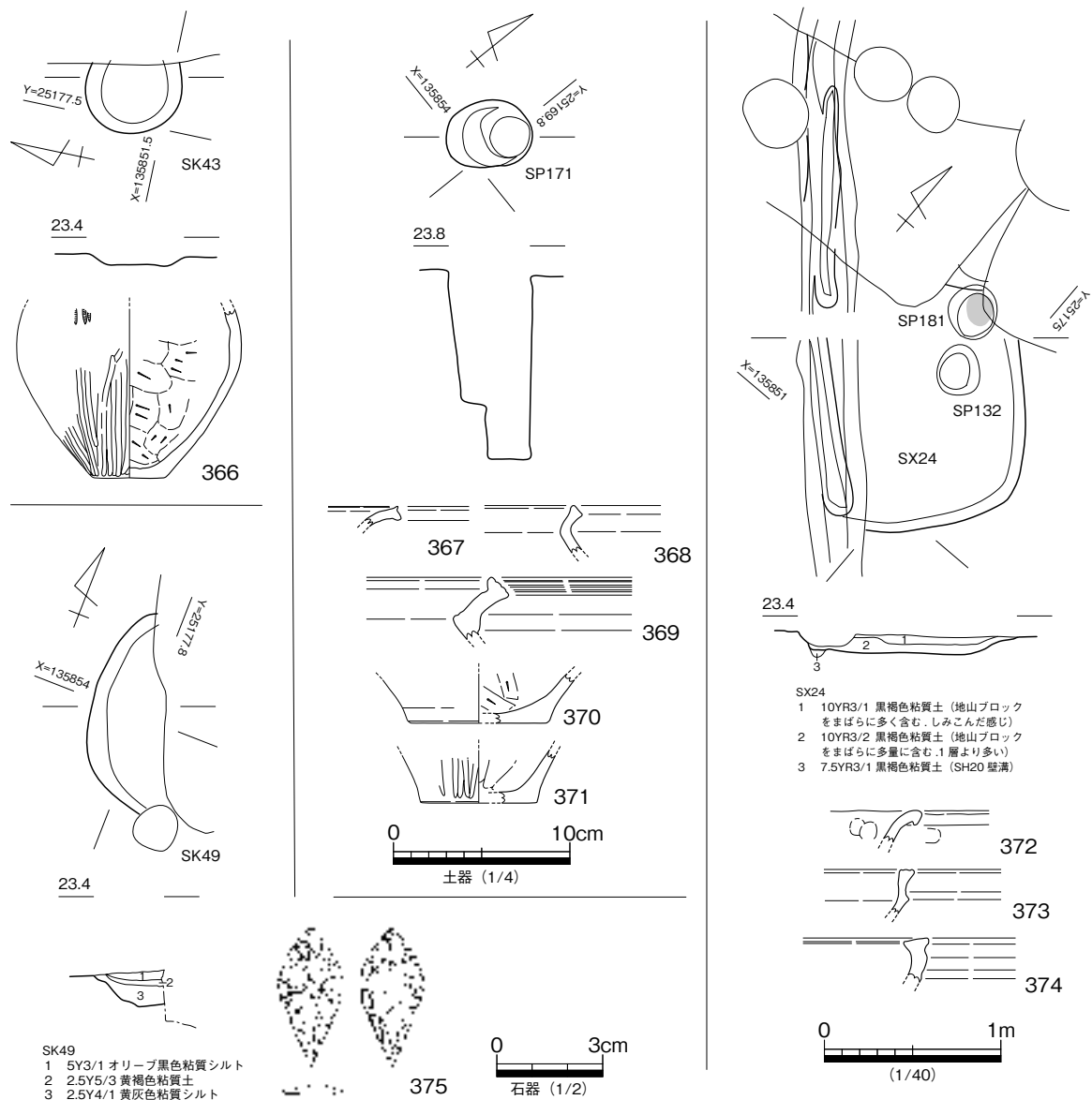


図 51 6-1 区柱穴・土坑 (5) 平・断面・出土遺物

6-1 区 SX24 6-1 区 SX19 と同様で、1 辺 1.3 m ほどの方形の落ち込みである。底面は平坦である。6-1 区 SX19 に壊される。図化遺物は年代幅があるが、373 の高杯が最も新しい様相を示す。しかしながら、未図化遺物中に口縁部に鋸歯文のある複合口縁壺の細片が含まれており弥生時代終末期の遺構と見られる。

6-1 区 SK49 病院施設によって壊された部分に遺存する土坑である。器種不明の弥生土器細片多数が出土している。

サヌカイト製の石鏃 (375) が出土した。凸基式である (森下)。

6-1 区 SD18 (図 52)

平成 15 年度調査 W 区 SD4007 (『旧練兵場遺跡Ⅲ』では未報告) の続きの溝状遺構である。6-1 区 SH07、SH01 掘削後に検出したもので、溝の規模も十分に把握できないほどの小範囲の検出に留まった。弥生時代中期後半 (376、377) の遺物が出土している。

6-1 区 SD21 (図 53)

幅 14、深さ 7 cm の小溝、直線の流路で検出長は 3.1 m である。6-1 区 SH20 および 6-1 区 SK39 に壊される。竪穴住居の壁溝の可能性が考えられる。30 点あまりの弥生土器細片が出土している。このうち明瞭な平底を呈する壺 2 点を図化した。いずれも外面にヘラミガキを施している。

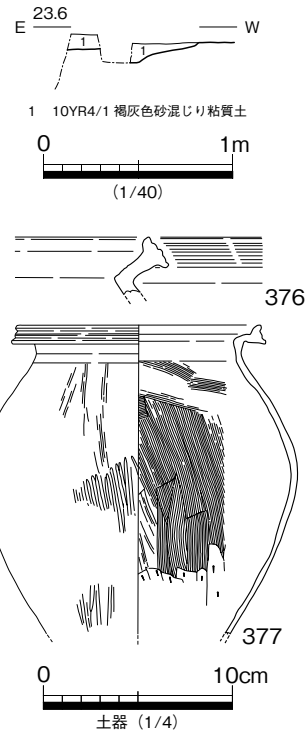


図 52 6-1 区 SD18 断面・出土遺物

6-1 区 SD08 (図 54)

6-1 区 SH12 を切る幅 50、深さ 20cm の溝状遺構である。380 は中世の土師質土器碗の口縁部と考えられるが、本遺構出土の多数の土器片の中には、これ以外に中世の土器片は含まれない。したがって、380 は混入であり、TK10 型式併行と考えられる 381 の須恵器杯が 6-1 区 SD08 の年代を示すものとする。

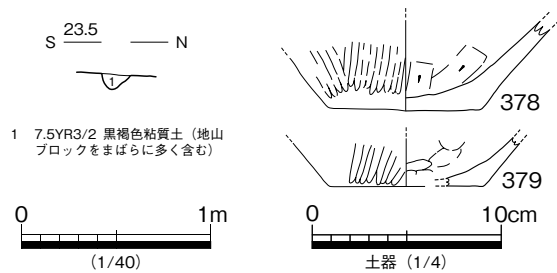


図 53 6-1 区 SD21 断面・出土遺物

6-1 区 SD07 (図 55)

6-1 区 SH08 を切る東西方向の溝状遺構である。埋土は 6-1 区 SH08 と酷似する。弥生土器、土師器、須恵器の細片多数を包含する。384 の須恵器杯から TK209 型式併行期の遺構と考えられる。

385 はサヌカイト製の石鏃である。基部を欠損する (森下)。

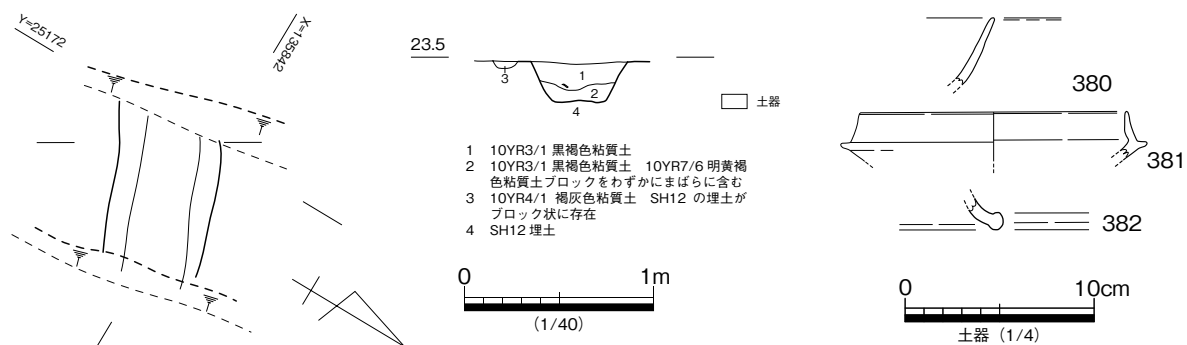


図 54 6-1 区 SD08 平・断面・出土遺物

6-1 区 SX08 (図 56)

平面形は不整な楕円形、断面形は緩やかな舟底状を呈する。6-1 区 SH16 より古く、6-1 区 SH09、6-1

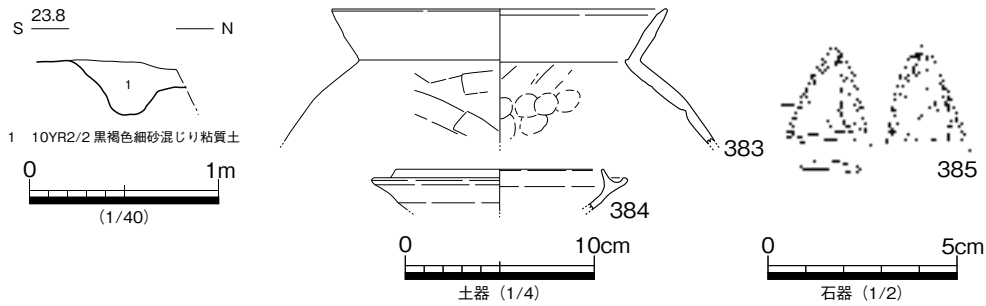


図 55 6-1 区 SD07 断面・出土遺物

区 SH18 より新しい。周辺の他の遺構に比べて相対的に多量の土器細片を包含していたが、ほとんど接合することができない。時期幅のある遺物が出土しているが、390 の甕や 388 の壺底部、395 の鉢等の弥生時代終末期のものが最も新しいものと考えられ、遺構の年代を示すと考えられる。なお、393 はいわゆる装飾高杯の脚端部と考えられる。遺構の性格は不明である。

396 はサヌカイト製の石鏃である。凸基式である（森下）。

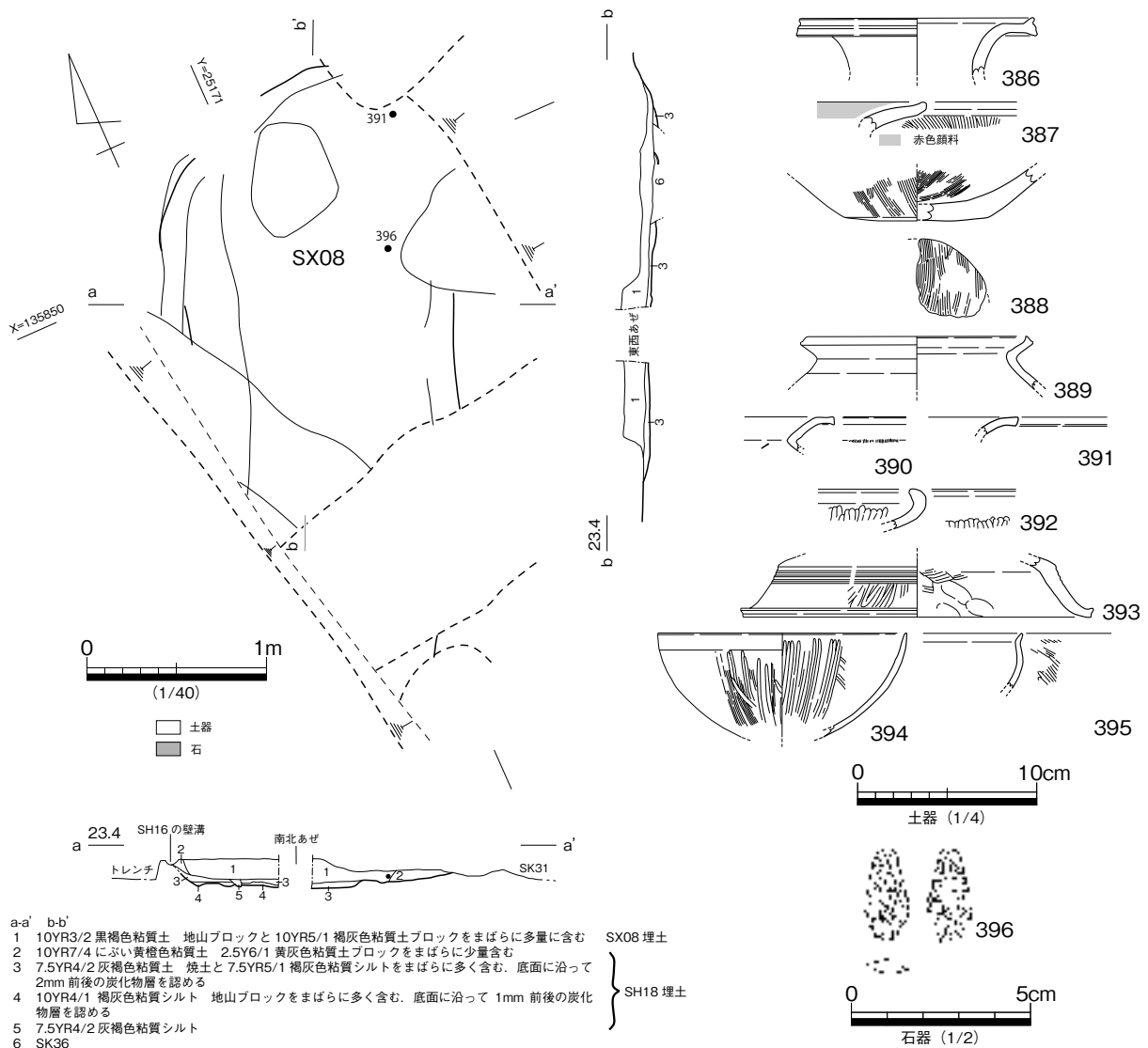


図 56 6-1 区 SX08 平・断面・出土遺物

- a-a' b-b'
- 1 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロックと 10YR5/1 褐灰色粘質土ブロックをまばらに多量に含む
 - 2 10YR7/4 にふい黄褐色粘質土 2.5Y6/1 黄灰色粘質土ブロックをまばらに少量含む
 - 3 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 焼土と 7.5YR5/1 褐灰色粘質シルトをまばらに多く含む。底面に沿って 2mm 前後の炭化物層を認める
 - 4 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 地山ブロックをまばらに多く含む。底面に沿って 1mm 前後の炭化物層を認める
 - 5 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト
 - 6 SK36
- SX08 埋土 }
SH18 埋土 }

6-1 区 SX04 (図 57)

6-1 区 SH02 の東側に存在した不明遺構。焼土面や炭化物層などがあり堅穴住居跡と思われるが、攪乱による凹凸が激しく、調査では遺構の内容を明らかにできなかった。埋土中から須恵器片を含む多くの土器片が出土している。図化遺物は時期幅のあるものであるが、未図化遺物中にたちあがり有する須恵器杯細片が含まれていることから、古墳時代後期の遺構と考えられる。

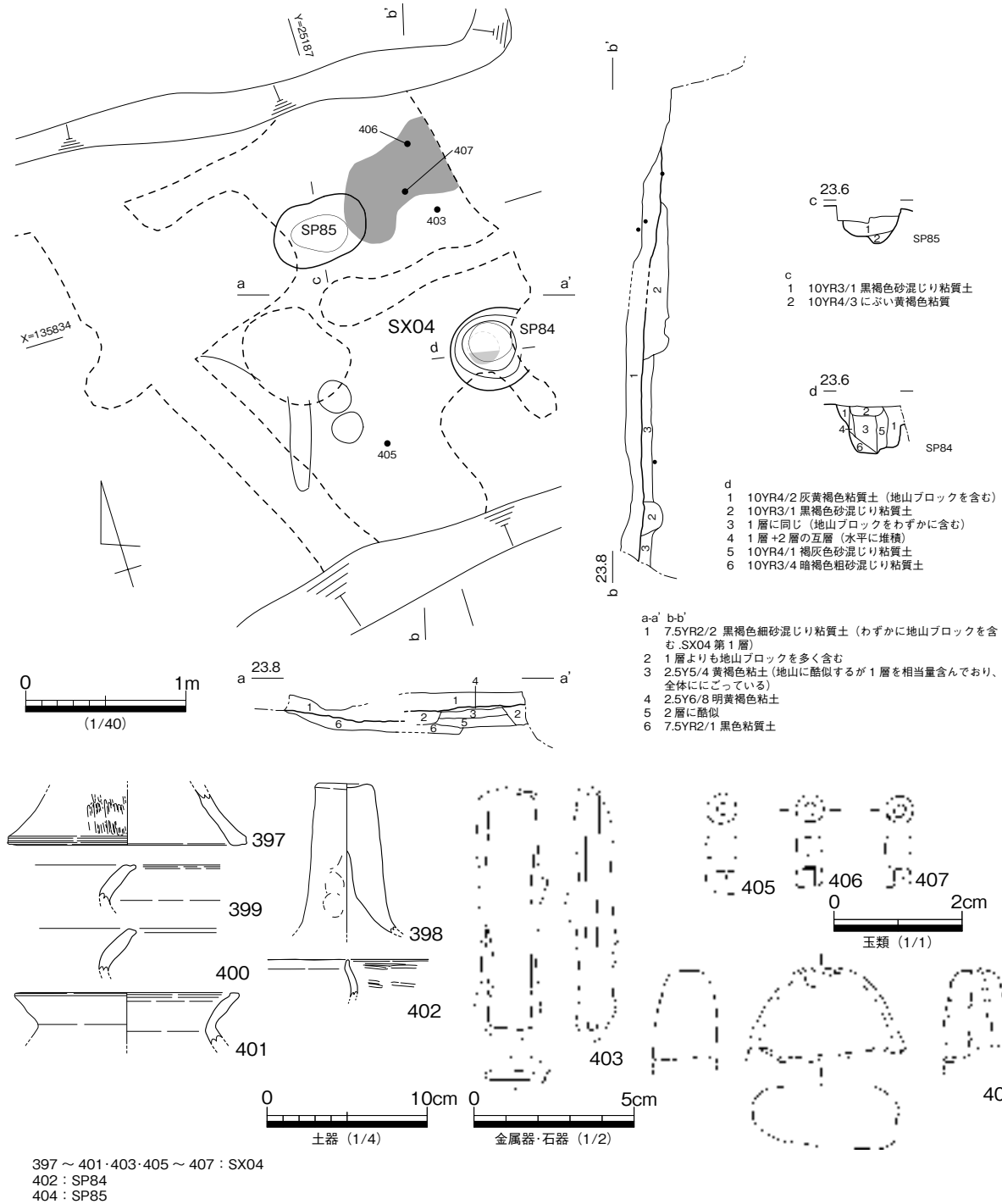


図 57 6-1 区 SX04 平・断面・出土遺物

このほか、砂岩製の石錘（404）が出土した。半分欠損する。側面には浅い溝が巡り、端部には打ち割りによる抉りがみられる。403は用途不明の鉄製品である。平面形は長方形で、断面形は扁平な隅丸長方形を呈する。滑石製の白玉（405～407）が出土した。いずれも暗緑色を呈する（森下）。

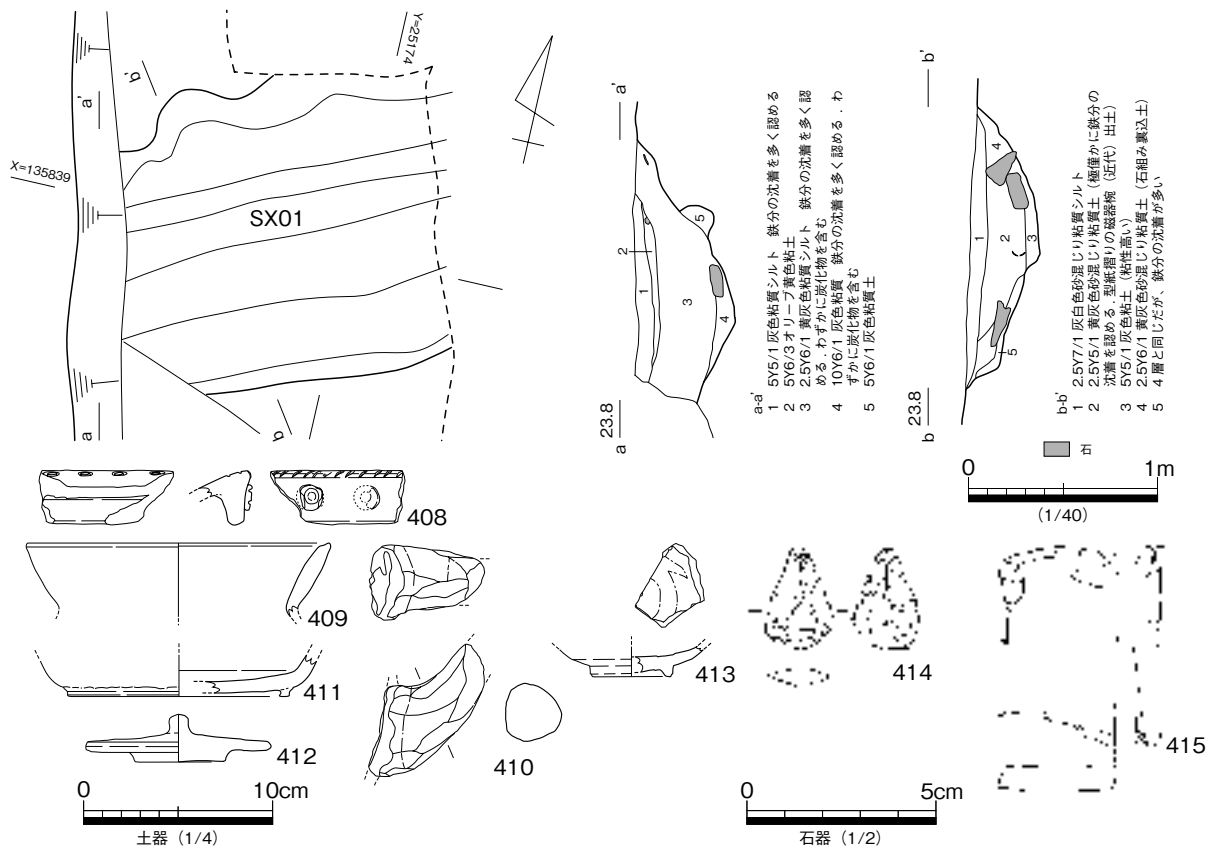


図 58 6-1 区 SX01 平・断面・出土遺物

6-1 区 SX01（図 58）

自然石を積んで護岸とした近世以降の水路跡である。埋土中に多量の遺物を含んでいるが、周辺にはほとんど見られない古代・中世の土器片が含まれている。おそらく本来は周辺に当該期の遺構が存在していたものと思われる。413の陶器は見込み部に蛇の目釉剥ぎが見られる。

414は、サヌカイト製の石鏃、415は砂岩製の砥石である。414の先端は尖るが、基部はいびつである。415は端部のみ残存する（森下）。

6-1 区遺構に伴わない遺物（図 59、60）

図 59、60 は遺構検出作業中や攪乱された新しい時代の落ち込み等から出土した遺物である。

土器

418は外面に赤色顔料を塗布した複合口縁壺、422も外面に赤色顔料を塗布した高杯である。422は形態から搬入品と考えられる。425は弥生土器の小型壺。426～428は分銅形土製品である。いずれも貫通孔はなく、426は櫛描文、櫛描き原体による刺突文、櫛描重弧文を縁に沿うように施文している。

また、427、428 は縁に列点文を施文している。

玉類

ガラス製の小玉 (433・446)、滑石製の白玉 (430 ~ 432・434)、土製の勾玉 (445)、石製の勾玉 (429) が出土している。433 は緑色を呈する。430 はやや透明がかった白色、432・434 は灰色、431 は暗緑色を呈する。431 は半分欠損する。429 は蛇紋岩製で、暗緑色を呈する。(森下)

銅製品

銅鏃 (451)・銅銭 (444) が出土した。451 は側端部の一部と先端部・基部を欠損する。鏃部の中央には稜はみられない。444 の片面には「嘉慶通宝」、もう一方の片面には満州文字が浮き彫りされる (森下)。

石製品

結晶片岩製の鏡ミニチュア (443)、サヌカイト製の石鏃 (435 ~ 439、447 ~ 450)、同製の石槍 (440)、同製の石包丁 (441)、同製のスクレイパー (442)、砂岩製の石錘 (452) が出土した。443 の周縁の一部は欠損しているが、鏡の紐の部分を作り出して、全体を研磨している。石鏃は凹基式、平基式と凸基式がある。441 は背部から側端面の一部に自然面が残る。両面からの調整によって刃部は作り出され、刃部の一部は摩滅する。442 の平面形はいびつな三角形を呈する。下端には粗い調整が両面から施される。452 は砂岩製で、十字の溝がみられる (森下)。

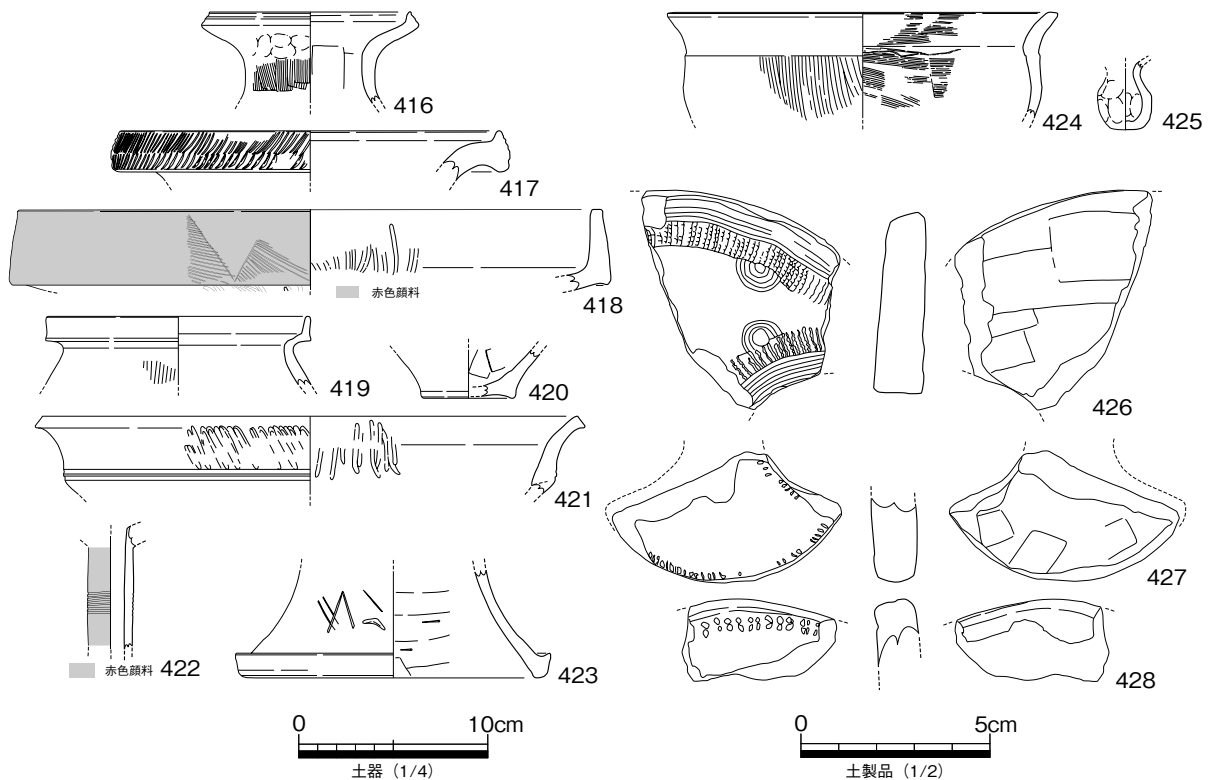


図 59 6-1 区遺構に伴わない遺物 (1)

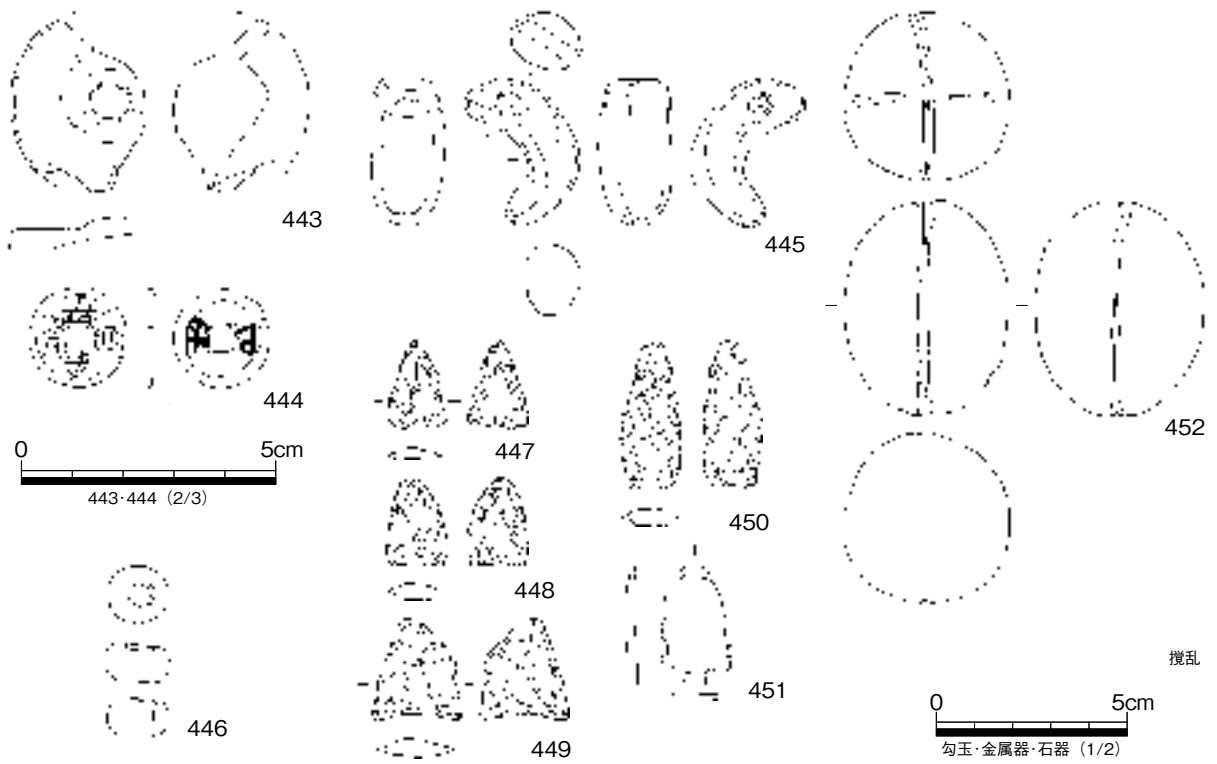
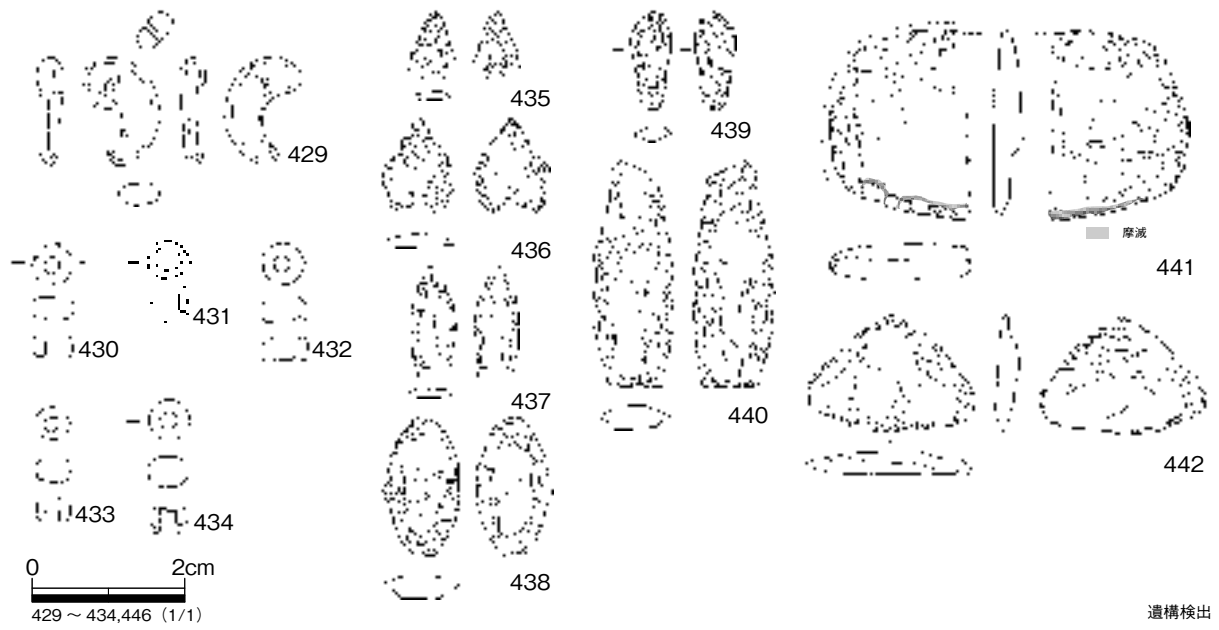


図 60 6-1 区遺構に伴わない遺物 (2)

第3節 6-2区の調査

概要

6-1区の北側に接する東西幅12m、南北幅24mの長方形の調査区である。調査面積は約290㎡であるが、遺構面が破壊されている部分が多い。古墳時代後期のものを中心とする竪穴住居跡12棟、条里地割の坪界線と推定される地点から溝状遺構などを検出している。溝状遺構は、途切れ途切れとなるもので、通水する目的ではなく区画するために掘られたものと考えられる。

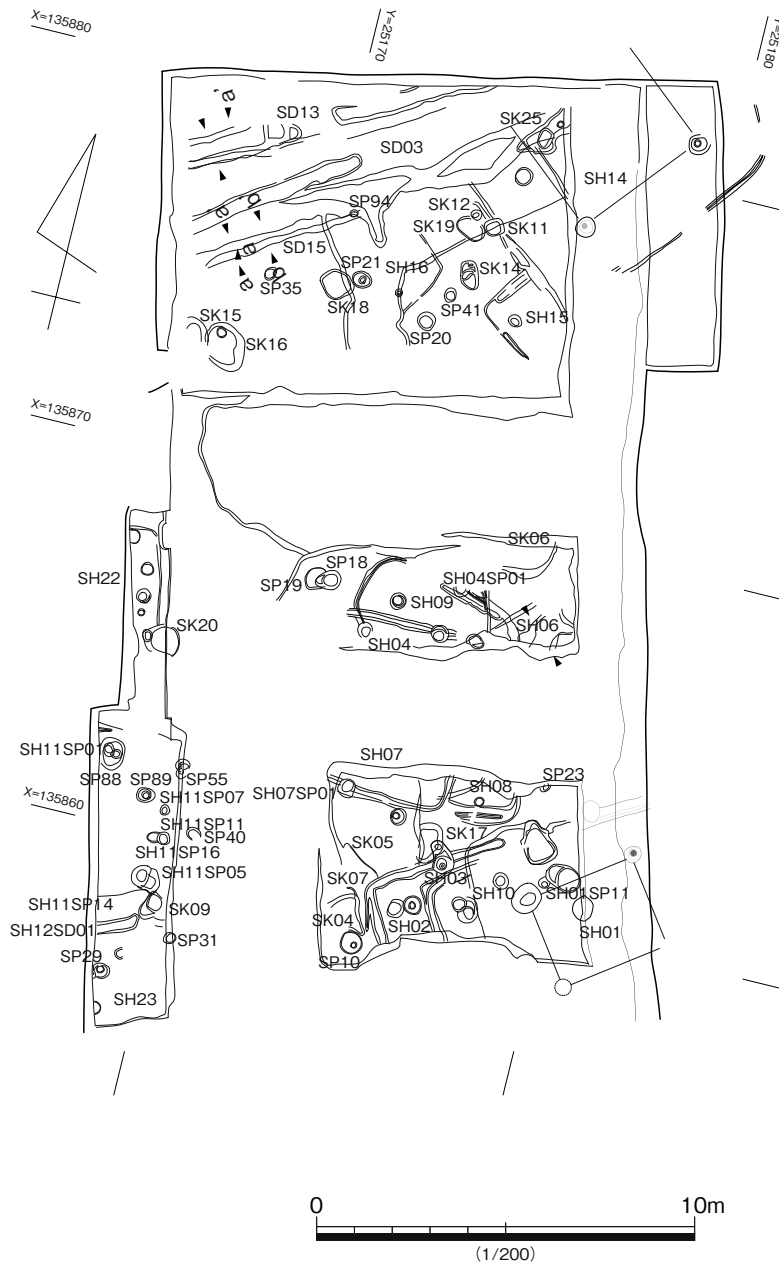


図61 6-2区 遺構平面

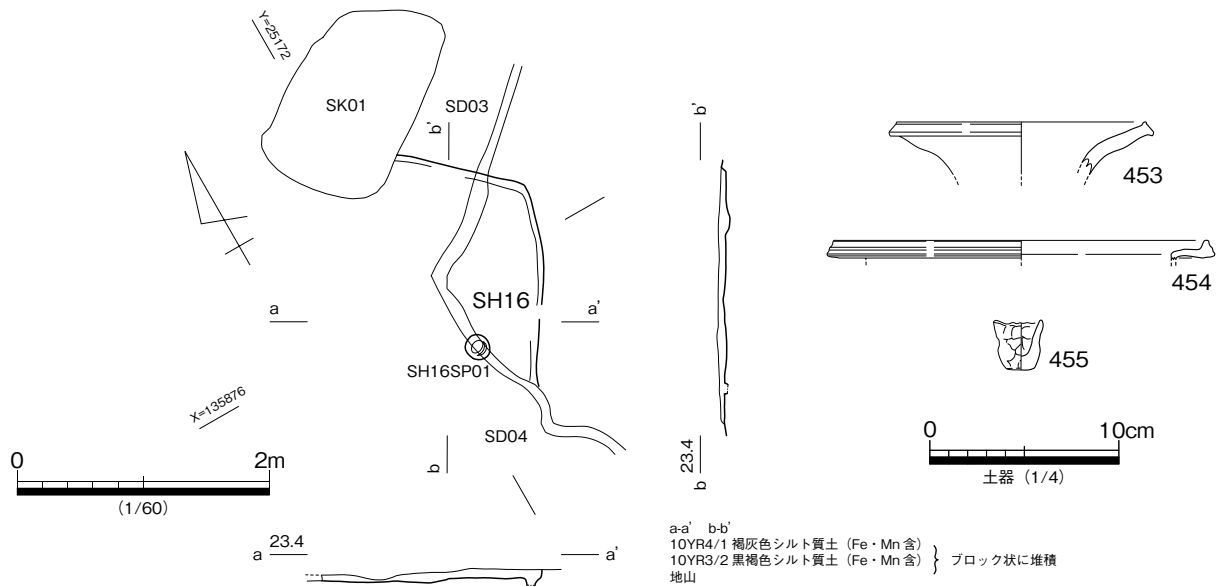


図 62 6-2 区 SH16 平・断面・出土遺物

6-2 区 SH16 (図 62)

やや歪な方形の浅い落ち込みがあり、埋土の様相から貼床の一部が残存しているものと考えられる。支柱穴は明確に把握できていない。40 点あまりの弥生土器細片が出土している。453 の広口壺、454 の甕から弥生時代後期前半の竪穴住居の残骸と考える。

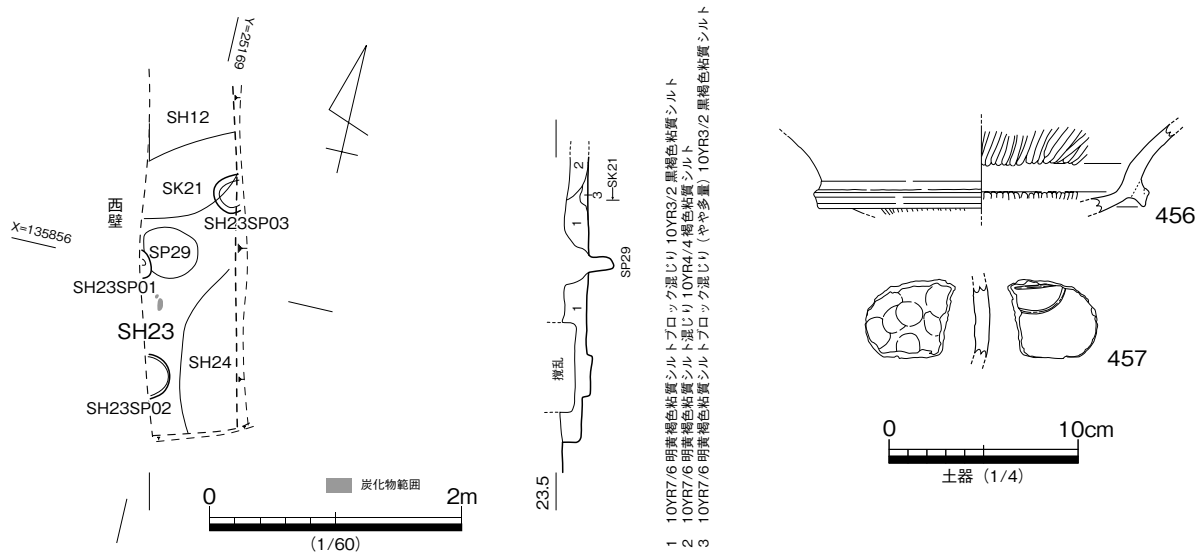


図 63 6-2 区 SH23 平・断面・出土遺物

6-2 区 SH23 (図 63)

6-2 区 SH23 は、6-2 区 SH12 および攪乱によって壊されており、平面形状は不明である。底面が平坦になることから竪穴住居になると考えられる。456 は弥生時代後期前半に属すると考えられる高杯である。457 は器種不明の弥生土器。外面にヘラ描きの文様が見られる。6-2 区 SH23 からは、このほかに

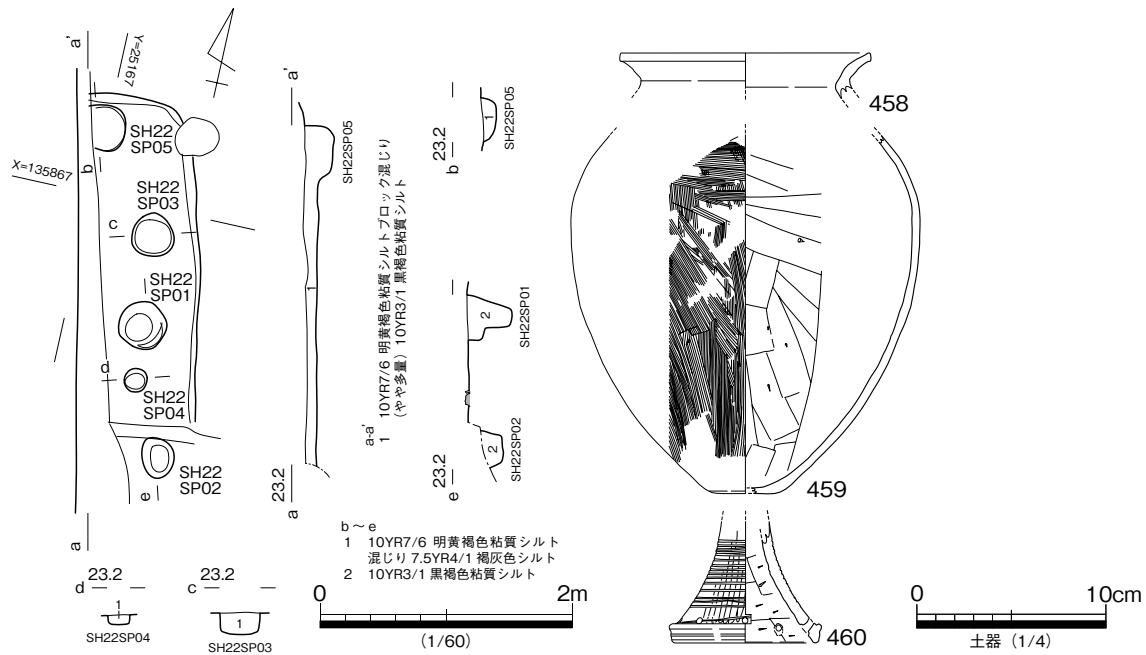


図 64 6-2 区 SH22 平・断面・出土遺物

弥生時代後期に属する壺や甕の破片を含む、80 点以上の弥生土器片が出土しており、弥生時代後期前半の竪穴住居と推定される。

6-2 区 SH22 (図 64)

調査区西壁付近で検出した竪穴住居跡である。方形で底面が平坦になる掘り方が検出されたことから竪穴住居跡と認定した。複数の柱穴が重複するが、竪穴住居との関係は明確でない。260 点を越える弥生土器細片が出土しているが、図化可能なものは稀少である。458、459 の甕から弥生時代後期後半の竪穴住居跡と考える。

6-2 区 SH09 (図 65)

平面形状は長軸 4.5、短軸約 2 m の楕円形で、2 基の支柱穴をもつ竪穴住居跡である。検出範囲全体で壁溝を検出している。

実測遺物のうち、464 が支柱穴の 6-2 区 SH09SP07、470、471 が壁溝、462 が 6-2 区 SH09SP01、465 が 6-2 区 SH09SK02、466 が 6-2 区 SH09SK01、それ以外は埋土中から出土したものである。弥生時代中期後半に属するものが目立つけれども、465、469、473、474 は後出のものであり、6-2 区 SH09 は弥生時代終末期のものと考えられる。

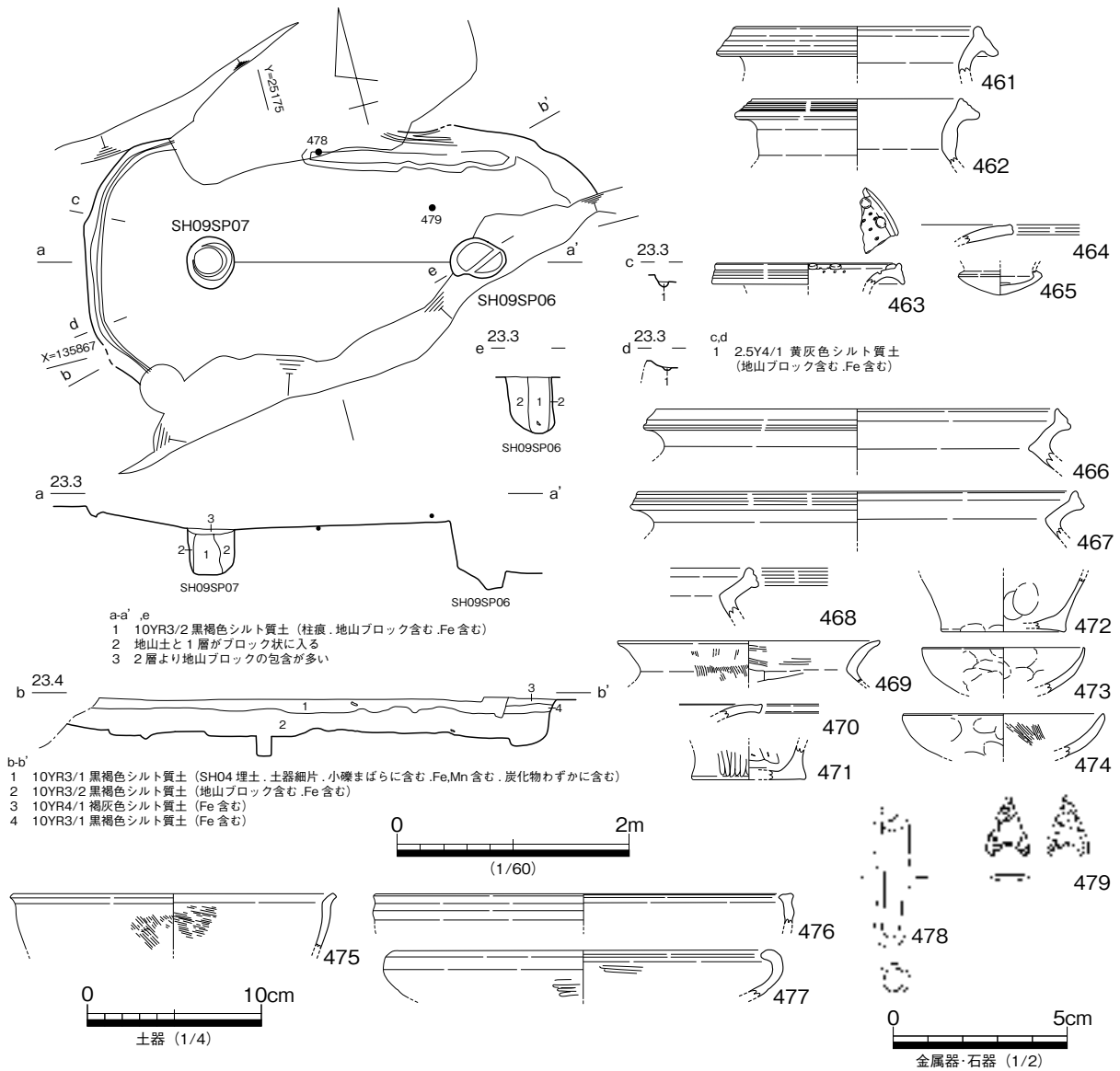


図 65 6-2 区 SH09 平・断面・出土遺物

478は鉄釘である。端部を欠損する。断面形は丸い。479はサヌカイト製の石鏃である。凹基式である(森下)。

6-2 区 SH08 (図 66)

方形の竪穴住居跡、6-2 区 SH07 に切られる。南東隅の一部分のみを検出した。覆土部分を SH05、貼床部分を SH08 として調査しているが、本来同一の竪穴住居跡で、6-2 区 SH08 として報告する。

覆土からは 140 点、貼床からは 200 点あまりの弥生土器細片が出土している。480、482、485～487 は貼床、それ以外は覆土から出土した遺物の実測図である。一部混入を含むが、大半が弥生時代終末期に属すると考えられ、6-2 区 SH08 の年代を示すものと考えられる。

487 はガラス製の小玉である。青色を呈する (森下)。

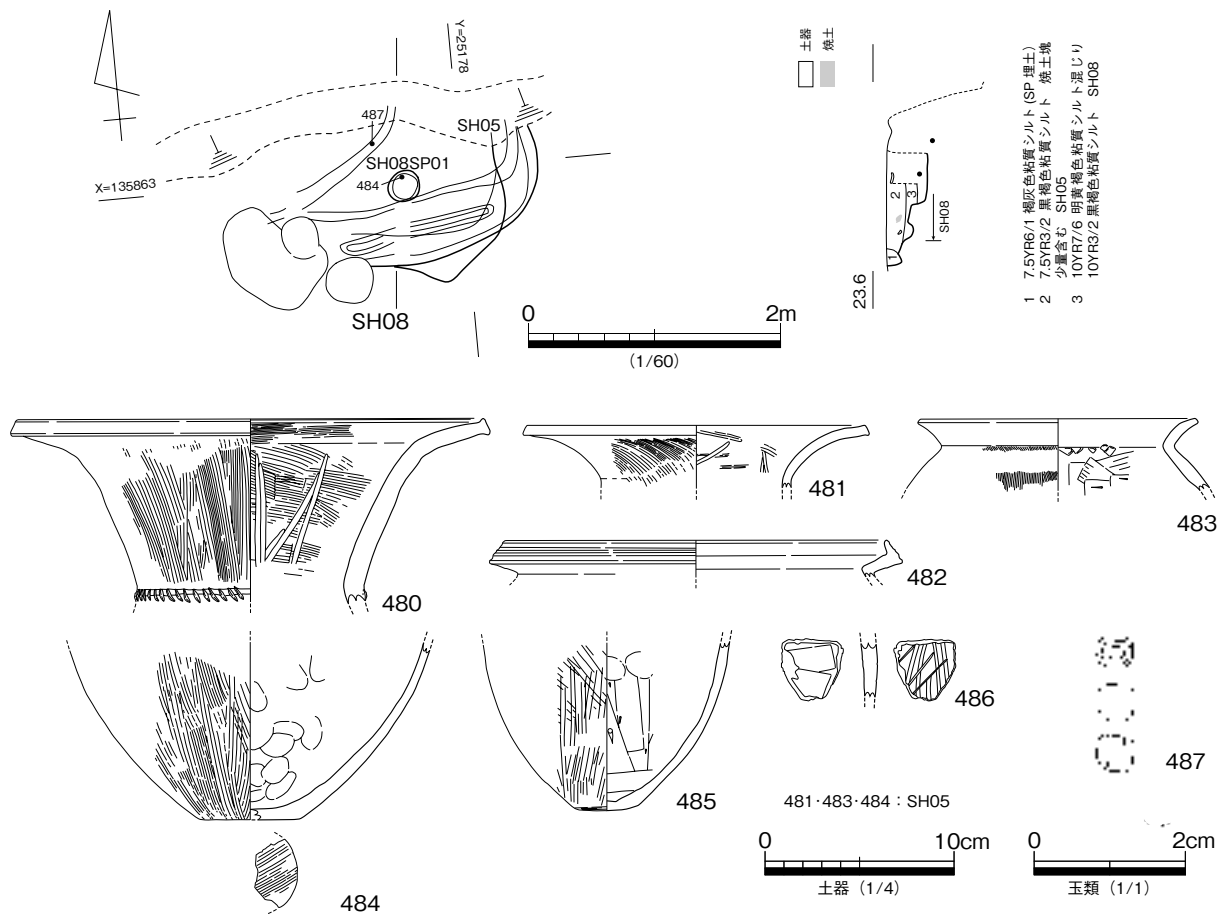


図 66 6-2 区 SH08 平・断面・出土遺物

6-2 区 SH07 (図 67)

方形の竪穴住居跡である。壁溝の南辺と北辺を検出し、中央部は攪乱によって大きく壊されている。南北長は 4.9 m、東西長は 3.8 m 以上である。時期幅のある遺物が出土しているが、489 の甕は、口径の大きいもので、内面は頸部までヘラ削りを施すものである。かなり丸底化していることなどから古墳時代前期に下るものと思われ、500 の高杯などともに 6-2 区 SH07 の年代を示すものとする。

501 はサヌカイト製の石鏃、502 は砂岩製の砥石である。501 は基部を欠損する。502 は両面を研磨する (森下)。

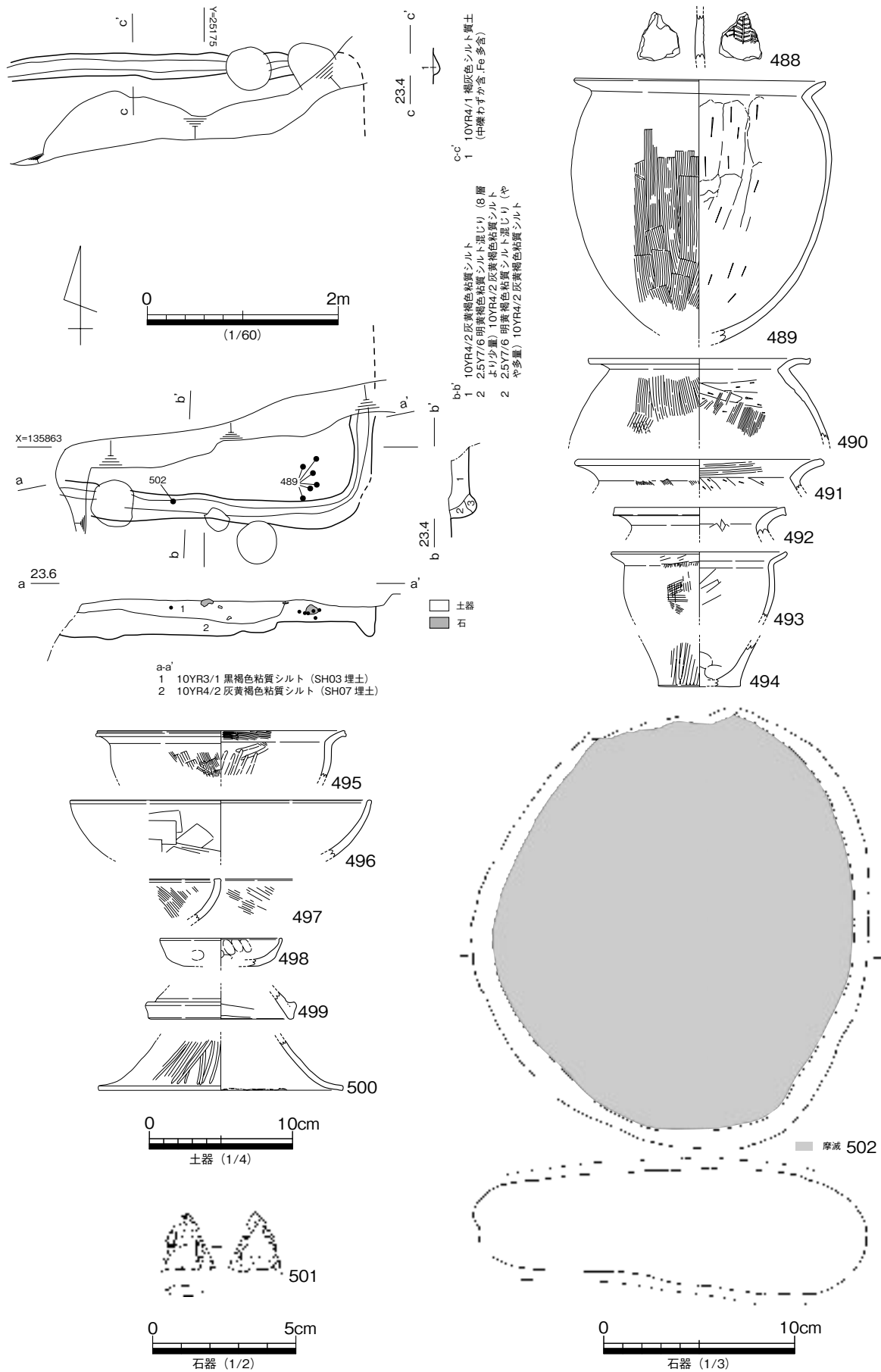


図 67 6-2 区 SH07 平・断面・出土遺物

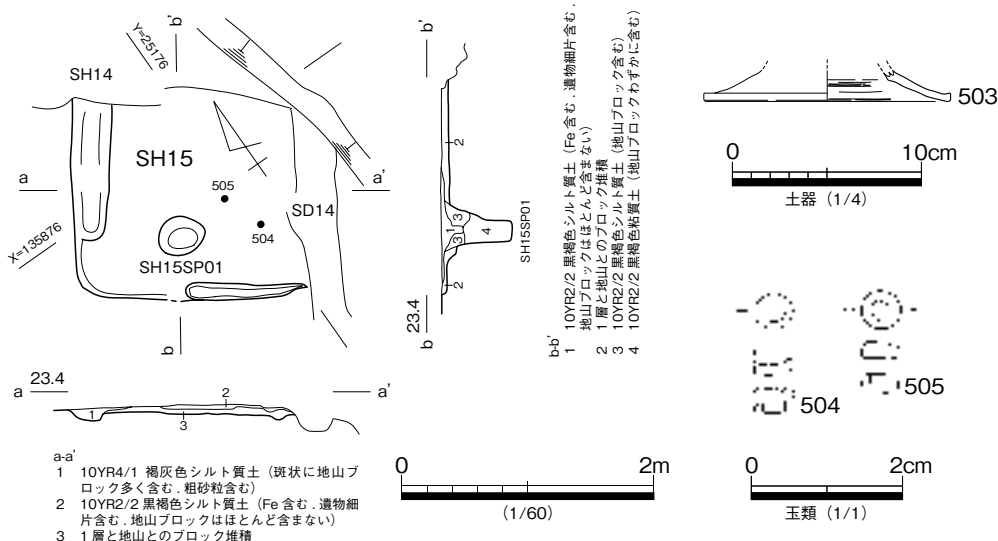


図 68 6-2 区 SH15 平・断面・出土遺物

6-2 区 SH15 (図 68)

方形の竪穴住居跡である。西側隅付近を検出し、壁溝が隅部分を除いて巡っている。6-2 区 SH14 に壊される。6-2 区 SH15SP01 は支柱穴と考えられる。

埋土中から 100 点を越える土器細片が出土しているが、時期を特定するものに恵まれない。503 は土師器高杯の脚部である。脚端部から大きく屈曲して脚部に移行している。古墳時代前期の所産と考えられる。6-2 区 SH15 出土遺物には 1 点の須恵器片が含まれるが、混入と考えられ、503 が竪穴住居の年代を示すと考える。

504、505 は滑石製の白玉である。いずれも暗緑色を呈する。504 は端部を欠損する (森下)。

6-2 区 SH03 (図 69)

方形の竪穴住居跡である。6-2 区 SH07 を切り、6-2 区 SH02 に切られる。東辺の掘り方と支柱穴 2 基を検出した。支柱穴は、規模および位置から 6-2 区 SH03SP01 と 6-2 区 SH02SP06 が該当する。

埋土中から多量の土器細片が出土している。図化遺物には 506 ~ 509、514 ~ 516 など新しい様相を示す土師器のほか、518 ~ 521 の須恵器がある。518 は内傾する端面をもつ蓋、519 は方形の透かし穴をもつ高杯、520 は高杯脚端部、521 は短頸壺である。いずれも細片であり年代を特定することができない。

このほか、暗緑色を呈する滑石製の白玉 (523 ~ 525)、断面形はいびつな方形で、両端部を欠損する鉄釘 (526)、結晶片岩製の磨製石斧 (527) の破片が出土している。527 は端面の一部だけであり、石斧の種類は不明である。528 は銅鏃である。中央部に稜を持ち、先端部とかえりの部分を欠損する。522 は 6-2 区 SH02SP06 から出土した鉄釘である。断面形は方形で、先端部を欠損する (森下)。

6-2 区 SH03 の年代であるが、TK10 型式併行の 6-2 区 SH02 以前であることから、TK47 あるいは MT15 型式に併行する時期のものと考えたい。

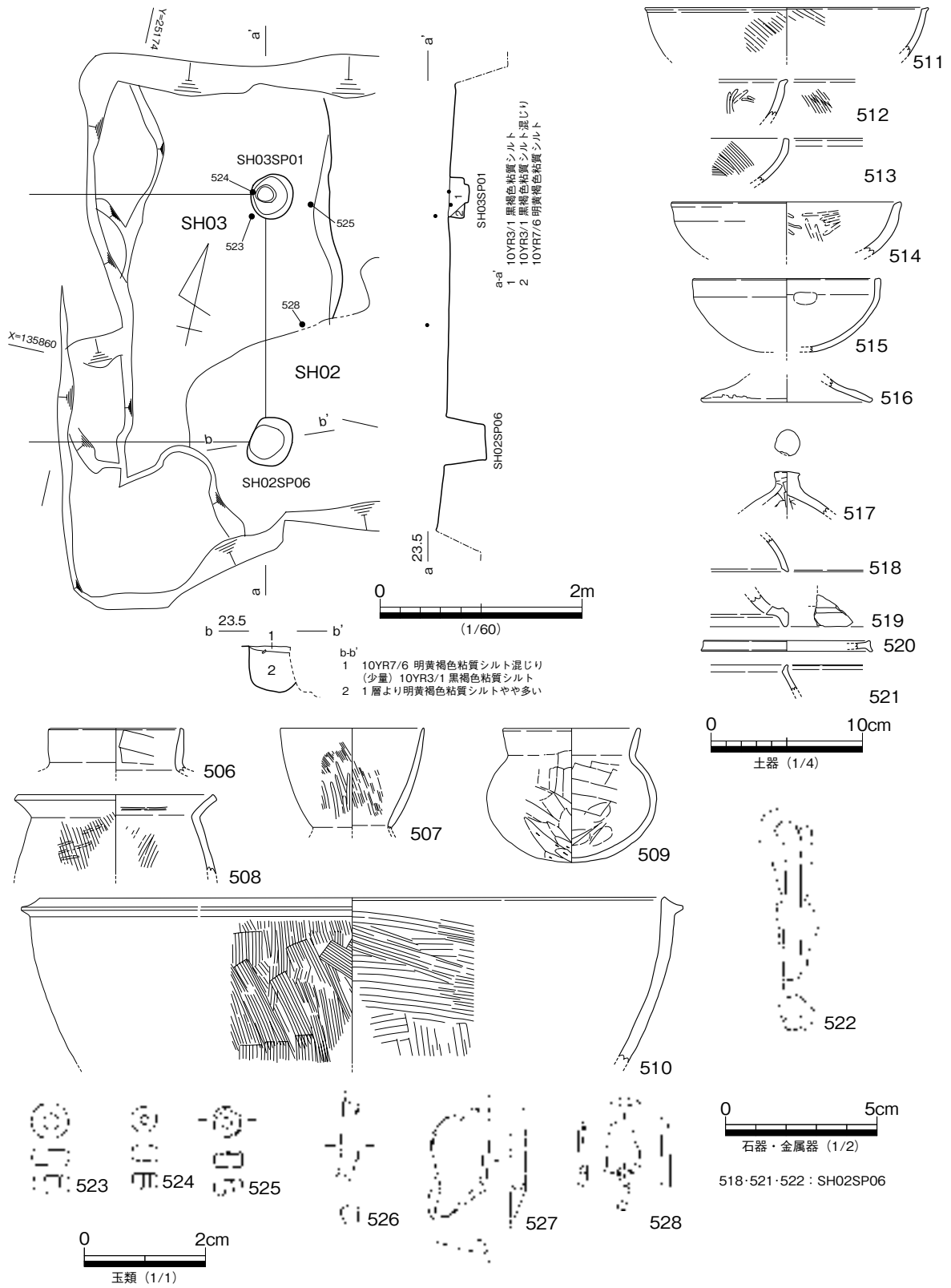


図 69 6-2 区 SH03 平・断面・出土遺物

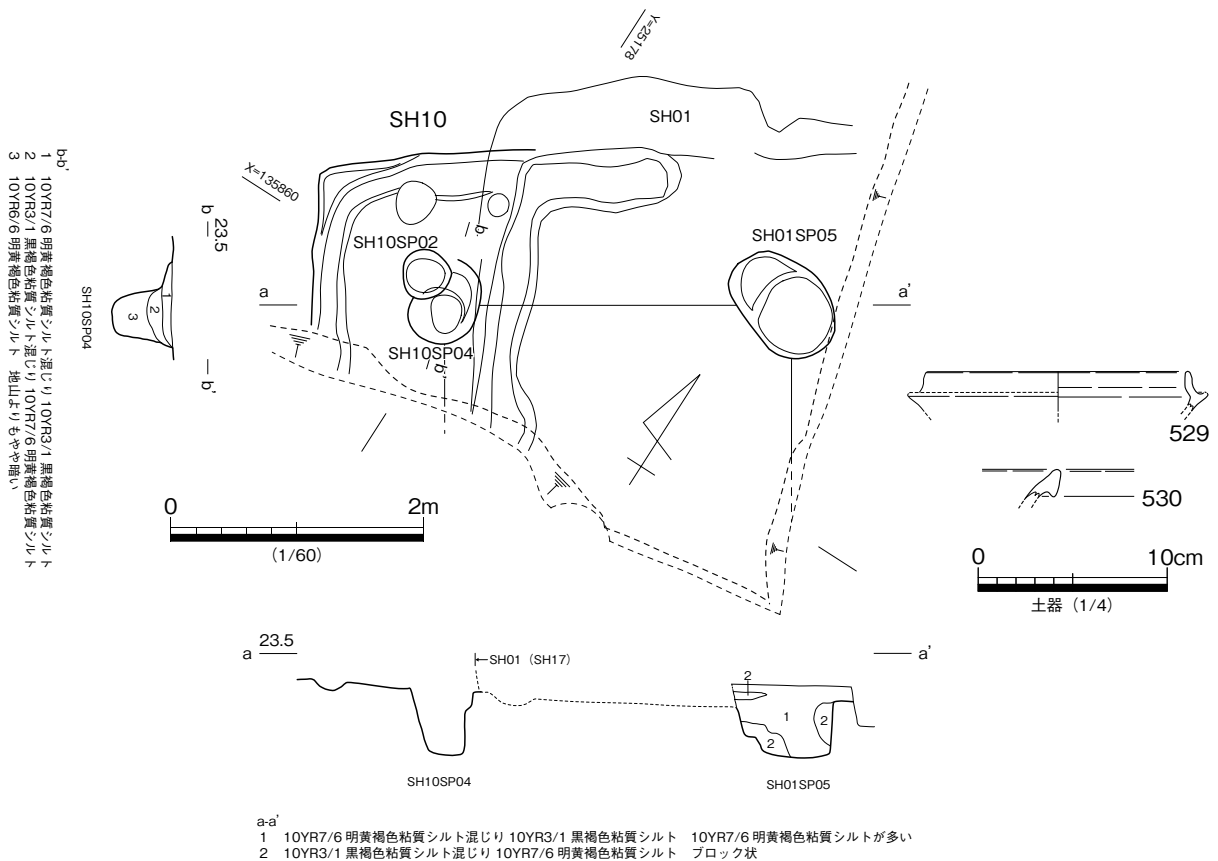


図 70 6-2 区 SH10 平・断面・出土遺物

6-2 区 SH10 (図 70)

平面形状が方形を呈する竪穴住居跡である。6-2 区 SH01、6-2 区 SH02 に壊されている。位置関係・規模から見て 6-2 区 SH10SP04 と 6-2 区 SH01SP05 が主柱穴になると考えられる。なお、6-2 区 SH10SP02 は柱の抜き取り痕と考えられ、6-2 区 SH01SP05 も同じ方向から掘り込まれたような類似する形状である。これも抜き取り痕と考えるが、断面観察で確認したわけではないので推定に留まる。6-2 区 SH01 に壊されていない範囲で壁溝を検出している。

弥生土器・土師器・須恵器の細片多数が出土している。529 は須恵器杯、530 は須恵器甕である。529 から 6-2 区 SH10 は、TK10 型式併行期のものとする。

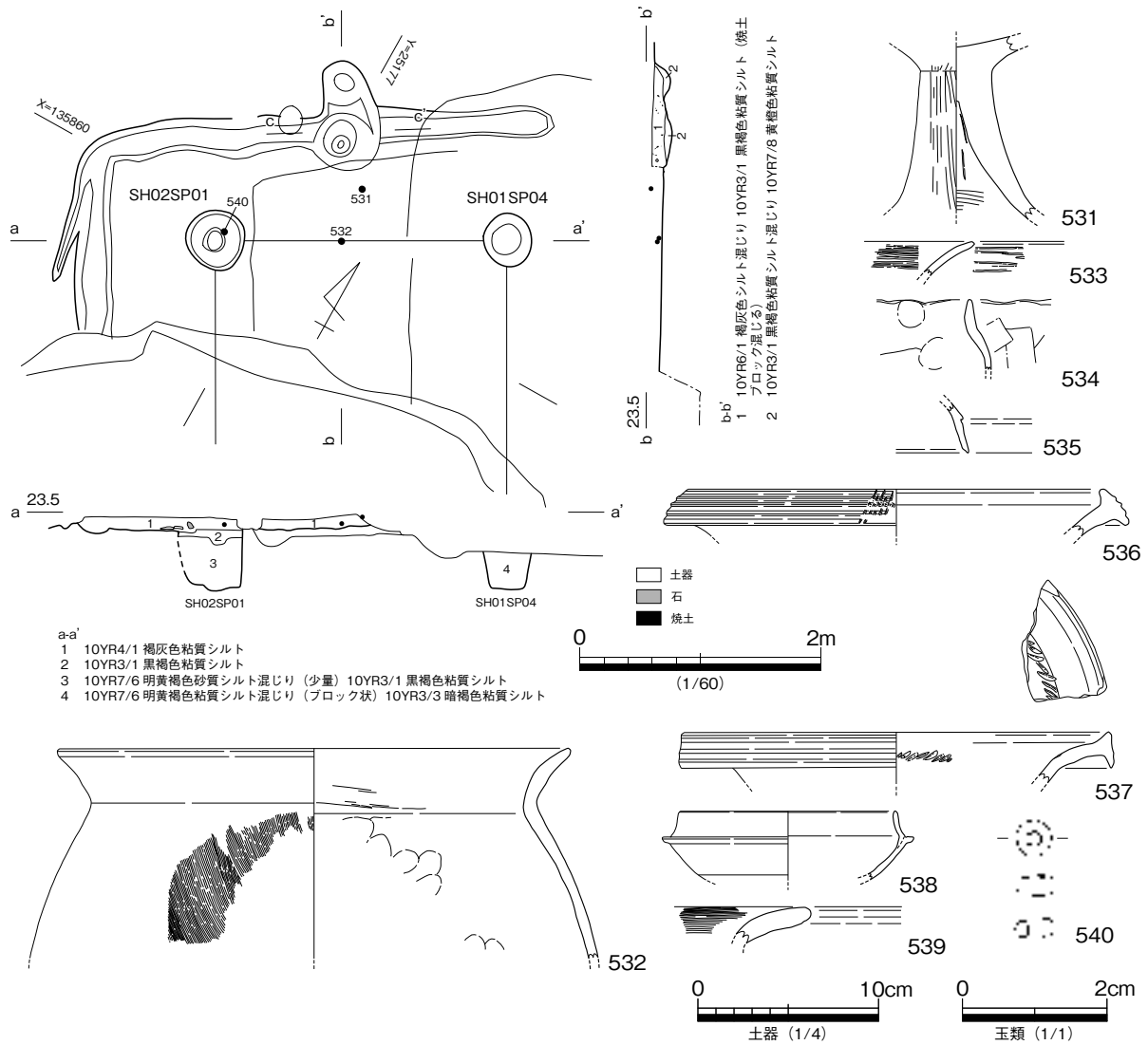


図 71 6-2 区 SH02 平・断面・出土遺物

6-2 区 SH02 (図 71)

平面形状が方形を呈する竪穴住居跡、6-2 区 SH01 に壊され、6-2 区 SH10 を壊している。位置・規模等から見て、6-2 区 SH02SP01 と 6-2 区 SH01SP04 が本竪穴住居の主柱穴になるものと考えられる。検出部分において壁溝が巡っている。なお、北辺中央付近に焼土の集中する部分があり煙道状の突出が見られ、竈が造り付けられていたと思われるけれども検出に失敗した。

531～535 は埋土中、536～538 は 6-2 区 SH02SP01、539 は 6-2 区 SH01SP04 から出土したものである。534 は備讃Ⅵ式期の製塩土器である。

540 は暗緑色を呈する滑石製の白玉である (森下)。

本竪穴住居の年代は、主柱穴から出土した 538 の須恵器杯が TK10 型式に併行するものと考えられ、さらに、535 も同型式と考えられることから、TK10 型式併行と考える。

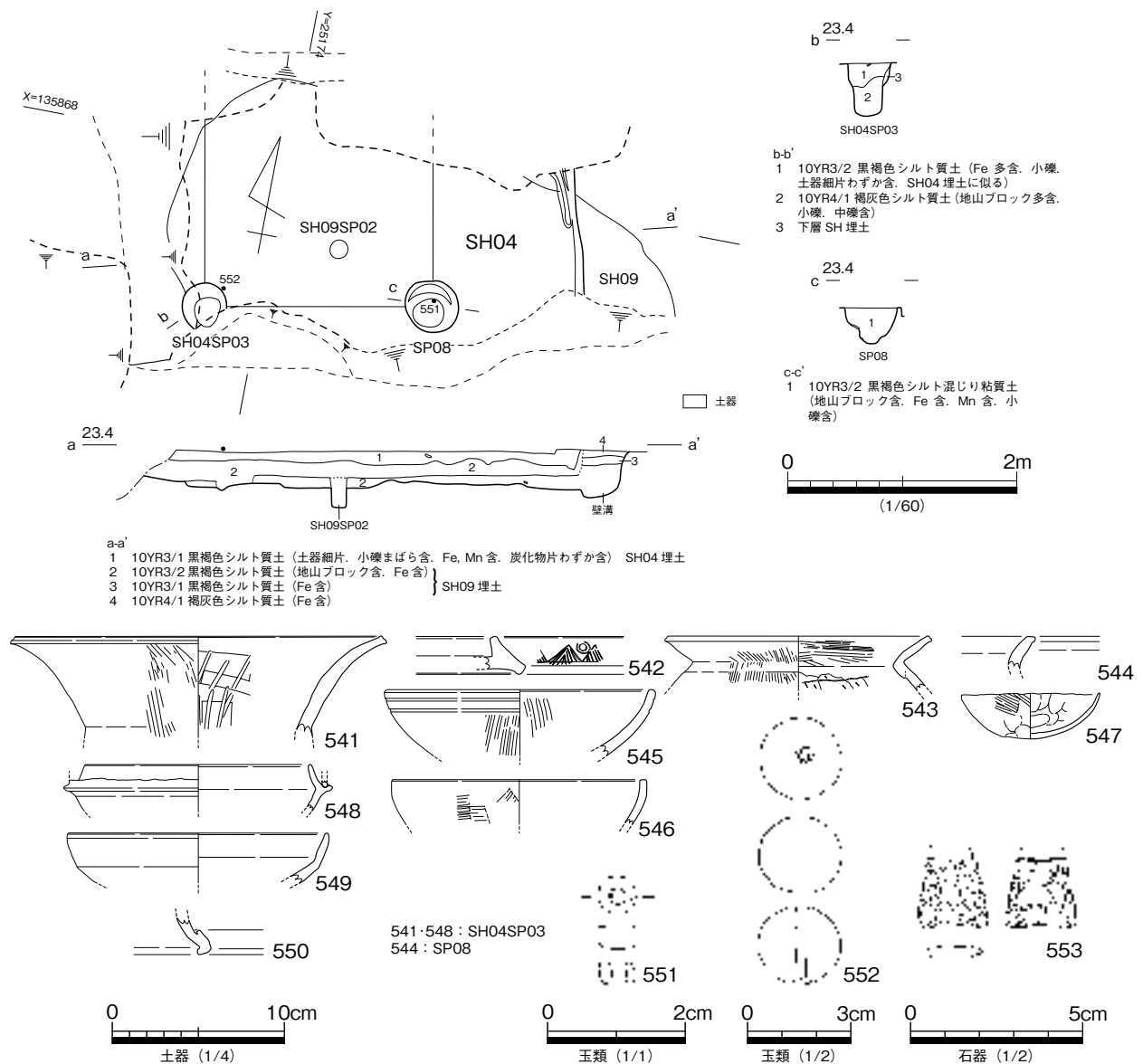


図 72 6-2 区 SH04 平・断面・出土遺物

6-2 区 SH04 (図 72)

平面形状が方形になると考えられる竪穴住居跡である。6-2 区 SH09、6-2 区 SH06、6-2 区 SH07 より新しい。壁溝と 2 基の主柱穴を検出した。位置関係から見て主柱穴は南側の 2 基に相当すると考えられる (検出時には 6-2 区 SH04SP04 が主柱穴と考えたが、6-2 区 SP08 が埋土、規模から主柱穴になると変更する。)

6-2 区 SH04 は遺物細片をたいへん多く包含している。541、548 は主柱穴 (6-2 区 SH04SP03)、544 は主柱穴 (6-2 区 SP08)、それ以外は埋土から出土したものである。549 の須恵器は径が 15.0cm と大型で、口縁端部を丸くおさめていることから杯と考える。7 世紀後半代のもと思われるが、混入であろう。6-2 区 SH04 は、主柱穴から出土した 548 の須恵器杯から TK10 型式併行期のものとする。なお、548 の須恵器杯は、受け部に重ね焼きした別個体の口縁部が溶着している。

551 は暗緑色を呈する滑石製の白玉、552 は球形を呈し、径 2.2 ~ 2.4cm を測る土製の玉である。553

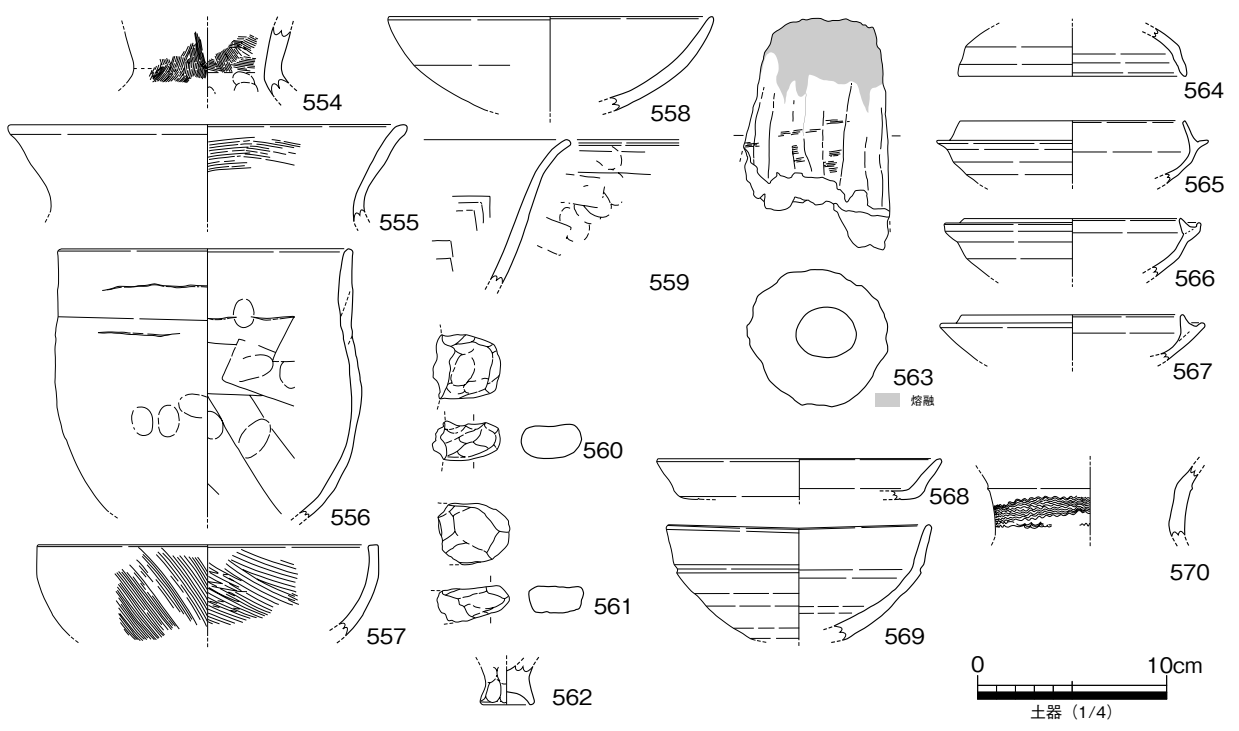
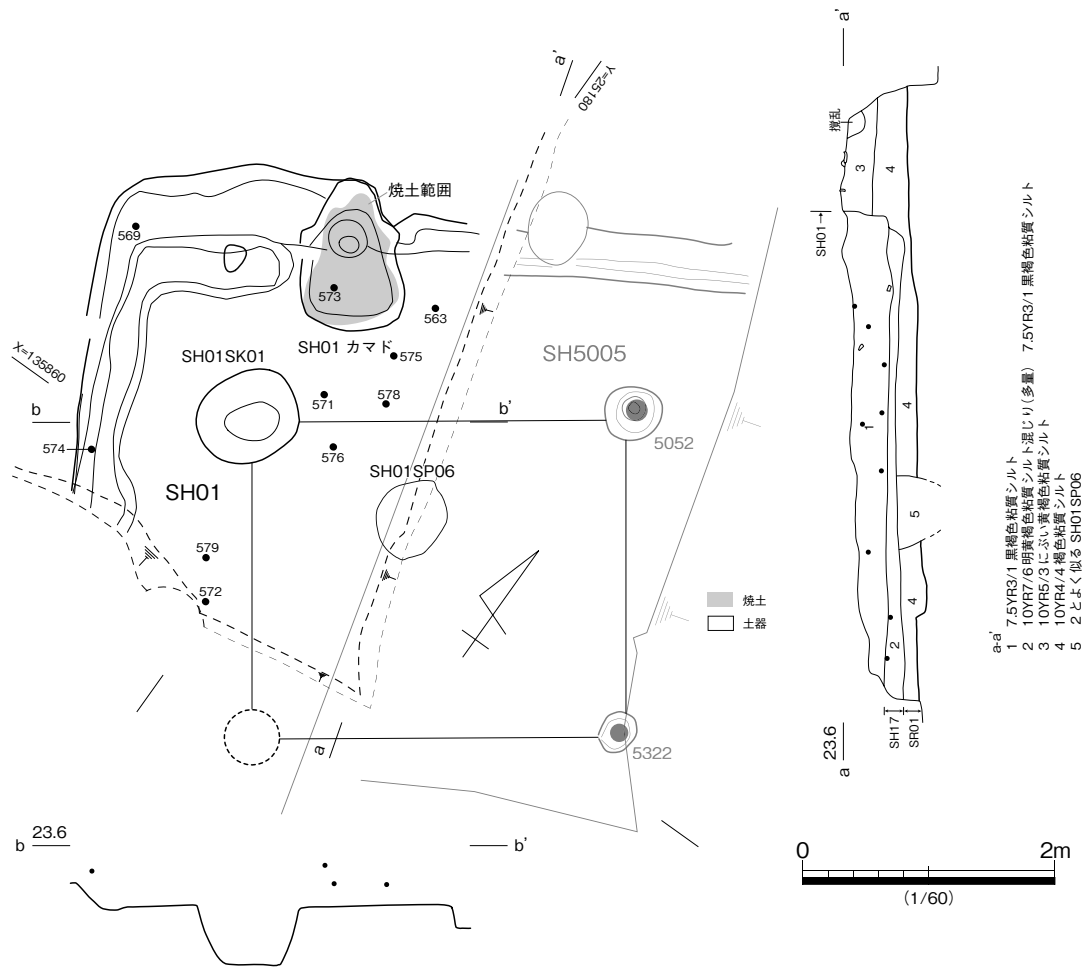


図 73 6-2区 SH01 平・断面・出土遺物(1)

はサヌカイト製の石鏃である。先端を欠損する。平基式である（森下）。

6-2 区 SH01 (図 73・74)

平面形状が方形を呈する竪穴住居跡である。6-2 区 SH02、6-2 区 SH10 を壊して構築している。『旧練兵場遺跡Ⅲ』の U 区 SH5005 に接続するもので、4 基の支柱穴からなる竪穴住居である。検出範囲において壁溝を検出している。床面積は明確にできないけれども、支柱穴との関係から 30㎡ほどに復原され、大型の竪穴住居跡である。北辺中央のやや西寄りに焼土の集中する部分があり、煙道状の突出が見られたことから竈が造り付けられていると考えられるけれども検出に失敗した。

554～570 は 6-2 区 SH01 出土の土器実測図である。いずれも埋土中から出土したものである。562 は備讃Ⅳ b 式の製塩土器脚部、563 は鞆の羽口である。鞆の一端は高温のため溶融し欠損している。564 の須恵器蓋、566 の須恵器杯は TK209 型式に併行するものと思われる。565 の須恵器杯は TK10 型式併行のものであろう。568 の須恵器皿および 569 の須恵器鉢は TK48 型式に併行するものと考えられる。

571、572 は勾玉、573 は碧玉製の管玉、574、575 はガラス製の小玉、576～578 は滑石製の白玉である。571 は滑石製で、暗緑色を呈する。572 も暗緑色を呈する。滑石製の可能性が高い。573 は暗緑色を呈する。574 は青緑色、575 は青色を呈する。576～578 は暗緑色を呈する（森下）。

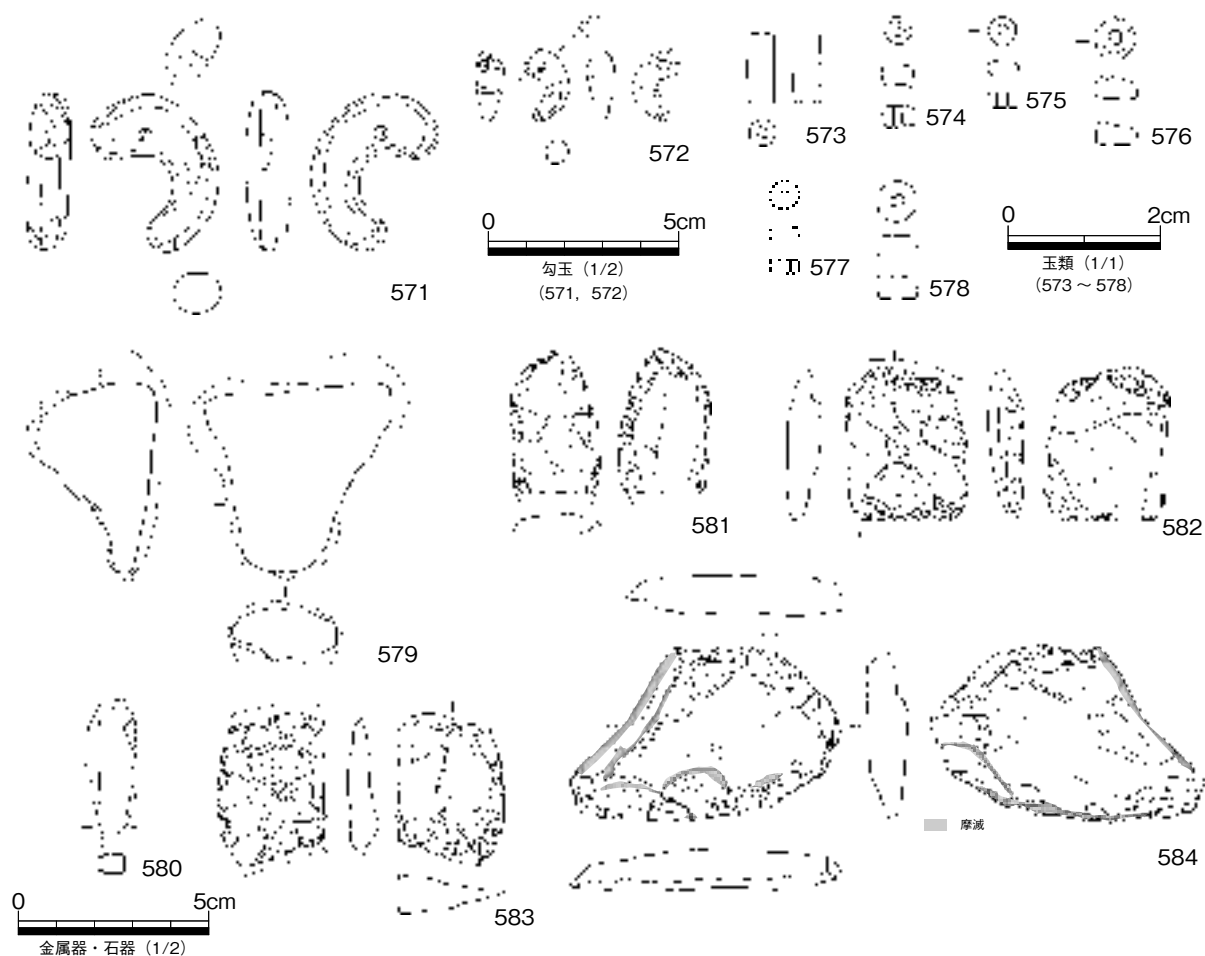


図 74 6-2 区 SH01 出土遺物(2)

580 は鉄釘、579 は用途不明の鉄製品である。580 の断面形は方形で、先端が欠損する（森下）。

581 はサヌカイト製の石鏃、582、583 は同製の楔状石核、584 は同製のスクレイパーである。581 は形状はいびつで、基部を欠損する。582 の上下端は敲打による潰れがみられる。片方の側端面は自然面で、もう一方の側端面は裁断面である。583 は両面の一部に自然面が残る。上下端は敲打による潰れがみられる。片方の側端面は両面から加工が施される。もう一方の側端面は裁断面である。584 は平面形はいびつな三角形を呈する。刃部は両面からの調整によって作り出されている。側端部と刃部の一部が摩滅する（森下）。

『旧練兵場遺跡Ⅲ』では、本竪穴住居を TK10 型式に廃絶したものと推定しているが、6-2 区 SH10、6-2 区 SH02 の年代観と合わせて TK48 型式に下る竪穴住居と考えたい。

6-2 区 SH06 (図 75)

竪穴住居跡と考えられる落ち込みである。6-2 区 SH09 を壊し、6-2 区 SH04 に壊されている。検出部分が一部であったため住居の平面形状は不明である。壁溝も支柱穴も検出されていない。住居肩部からの落ち込みがなだらかであるけれども、床面が水平になることから竪穴住居跡と判断する。

図 75 の土器は弥生時代後期のものと考えられるが、未図化遺物のなかに須恵器片が含まれている。6-2 区 SH04 との関係から考えて、6-2 区 SH06 は古墳時代後期の竪穴住居跡と考える。

588 は鉄釘である。断面形は方形で、両端を欠損する。589 はサヌカイト製の石鏃である。589 は先端を欠損する。基部の加工は粗い。両面の一部が摩滅する（森下）。

6-2 区 SH11・12 (図 76)

調査区西壁付近で検出した竪穴住居跡である。断面観察から 2 棟の竪穴住居が重なっており、6-2 区 SH11 を壊して 6-2 区 SH12 が構築されている。6-2 区 SH12SD01 は壁溝と考えられ、6-2 区 SH12 は方形を呈する可能性が高い。一方、6-2 区 SH11 の平面形状は不明である。

調査時に両者を同時に掘削したため遺物が分離できておらず、また、竪穴住居の範囲から複数の柱穴を検出しているが、6-2 区 SH11 の貼床を除去した後に検出したもので、竪穴住居に伴うものなのか、そうでないのか判断できない。このため後述の「その他の SP」項で報告する。

図化遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代中期までの遺物が混在しており、未図化遺物の中には須恵器細片が含まれている。また、6-2 区 SH12 は TK46 型式併行の 6-2 区 SK09 に切られている。このことから、6-2 区 SH12 は古墳時代後期に下る竪穴住居と考えられ、6-2 区 SH11 は弥生時代後期後半から

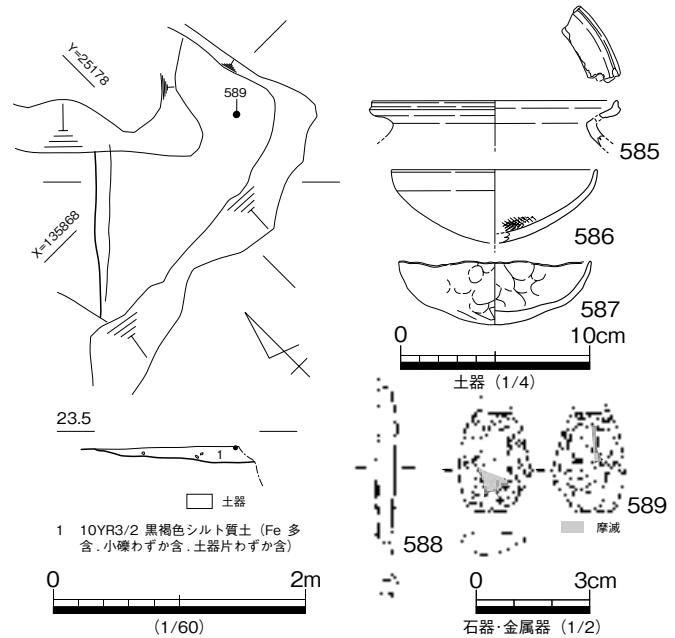


図 75 6-2 区 SH06 平・断面・出土遺物

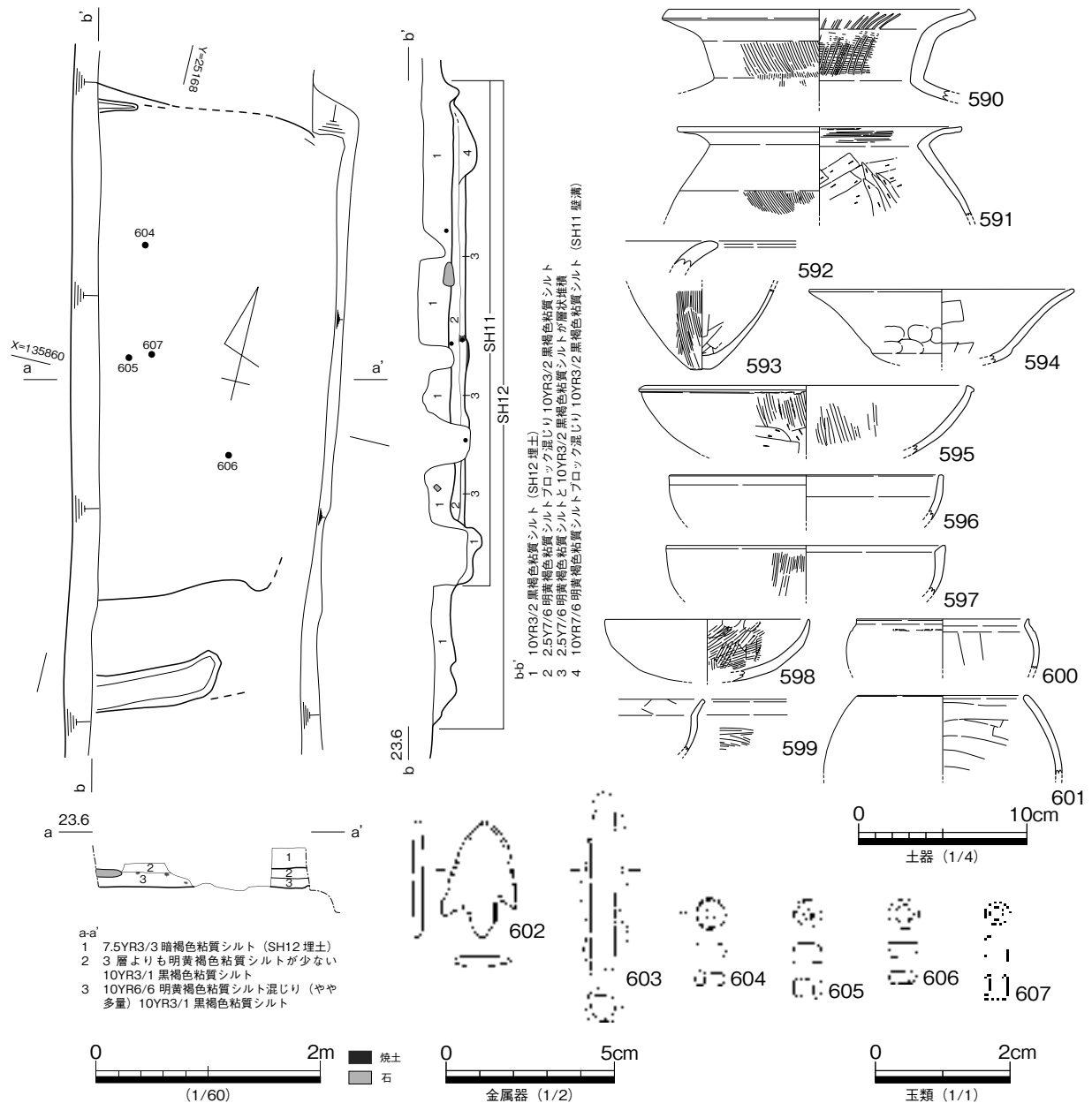


図 76 6-2区 SH11・12 平・断面・出土遺物

古墳時代後期までの間に収まるものと考えられる。

602は鉄鍬である。鍬部にかえりを持つ。鍬部の断面形は扁平で、鍬部と茎部の境には段はみられない。603は鉄釘である。断面形は方形で、両端部を欠損する。604～607は滑石製の白玉である。いずれも暗緑色を呈する（森下）。

6-2区 SH14 (図 77)

方形の竪穴住居跡である。過年度調査区の「旧練兵場遺跡Ⅲ」V区 SH6009 に接続する可能性があるが、この場合は主柱穴と考える 6-2区 SH14SP01 の位置が整合しなくなる。さらに、TK10 型式併行と把握される V区 SH6009 の年代観とも整合せず、V区 SH6009 を切る竪穴住居跡と考える。

接合不能の土器細片が数多く出土している。610は土師器の甕か甑の把手、611は移動式竈の破片である。612は須恵器高杯、613は須恵器高台付椀である。7世紀半ば頃の年代を示すと考えられる。

616、618、619は滑石製の白玉、617はガラス製の小玉である。616・618・619は暗緑色を呈する。616は半分以上欠損する。617は青色を呈する。620はサヌカイト製の石鏃、621はスクレイパーである。620は先端部を折損する。621は背部は自然面である。刀部には両面から粗い調整が施される（森下）。

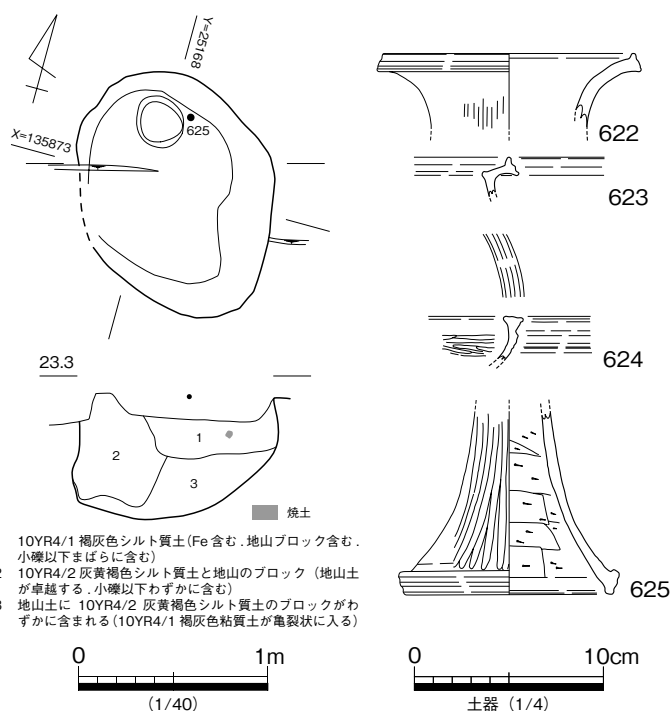


図 78 6-2 区 SK16 平・断面・出土遺物

6-2 区 SK16 (図 78)

平面形は長軸 1.4、短軸 1.1 m の不整な楕円形、深さ 0.6 m ほどの土坑である。柱穴の可能性もあるが組み合うものが見当たらない。包含量は少ないが弥生時代中期後半の土器片が出土している。

6-2 区 SK15 (図 79)

6-2 区 SK16 に隣接する。大半が攪乱によって壊されているため、本来の形状は不明である。図化した遺物はいずれも細片であり、6-2 区 SK15 の年代を確実に示すかどうか確証に欠けるけれども、埋土の様相も傍証に弥生時代中期後半の遺構と考える。

630はサヌカイト製の石鏃である。凹基式である（森下）。

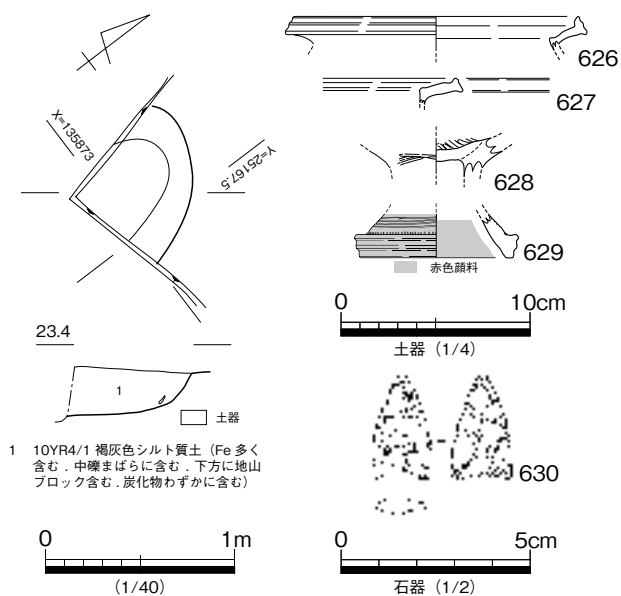


図 79 6-2 区 SK15 平・断面・出土遺物

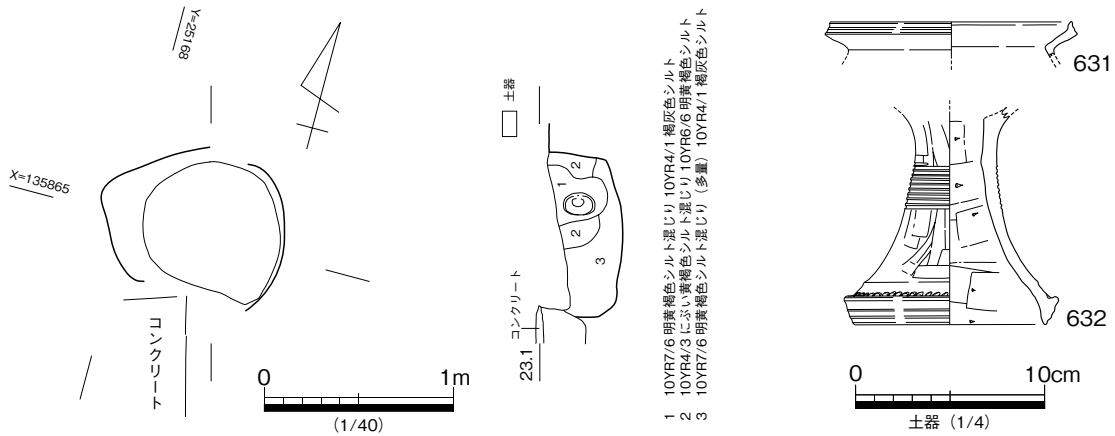


図 80 6-2 区 SK20 平・断面・出土遺物

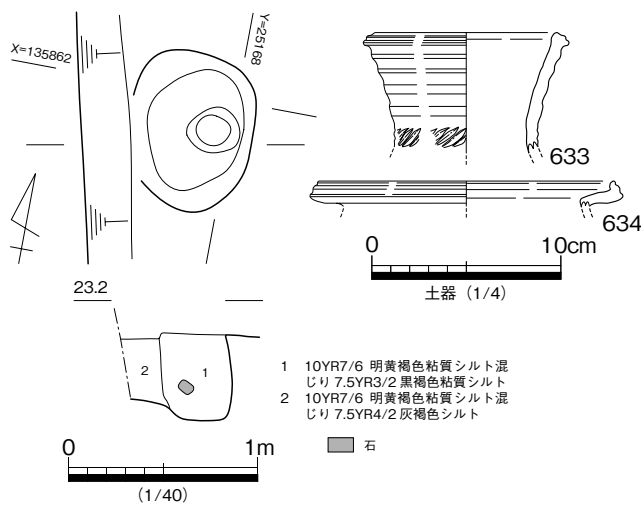


図 81 6-2 区 SP88 平・断面・出土遺物

6-2 区 SK20 (図 80)

径 0.8 m ほどの円形の土坑である。検出面からの深さは 0.44 m を測る。規模からみると柱穴とすべきかもしれない。10 点あまりの弥生土器片が出土しており、632 は脚部全体が残っている。弥生時代中期後半の遺構と考えられる。後述の 6-2 区 SP88 と距離が約 6.5 m で、本遺跡の大型の掘立柱建物の柱間寸法から考えるとあり得る長さであるが、2 基のみであるので可能性を指摘するに留めたい。

6-2 区 SP88 (図 81)

径 0.5 m、検出面からの深さ 0.45 m の柱穴である。30 点あまりの弥生土器細片が出土している。633 の長頸壺、634 の甕から弥生時代中期後半の遺構と考ええる。先述のとおり 6-2 区 SK20 と掘立柱建物を構成する可能性がある。

6-2 区 SK06 (図 82)

検出面から 0.4 m ほどの深さの土坑である。平面形状は不明である。柱穴の可能性もあるが組み合わせが見当たらない。断面図 1 層と 2 層は黒褐色シルト質土のブロックの混入具合によって分層したも

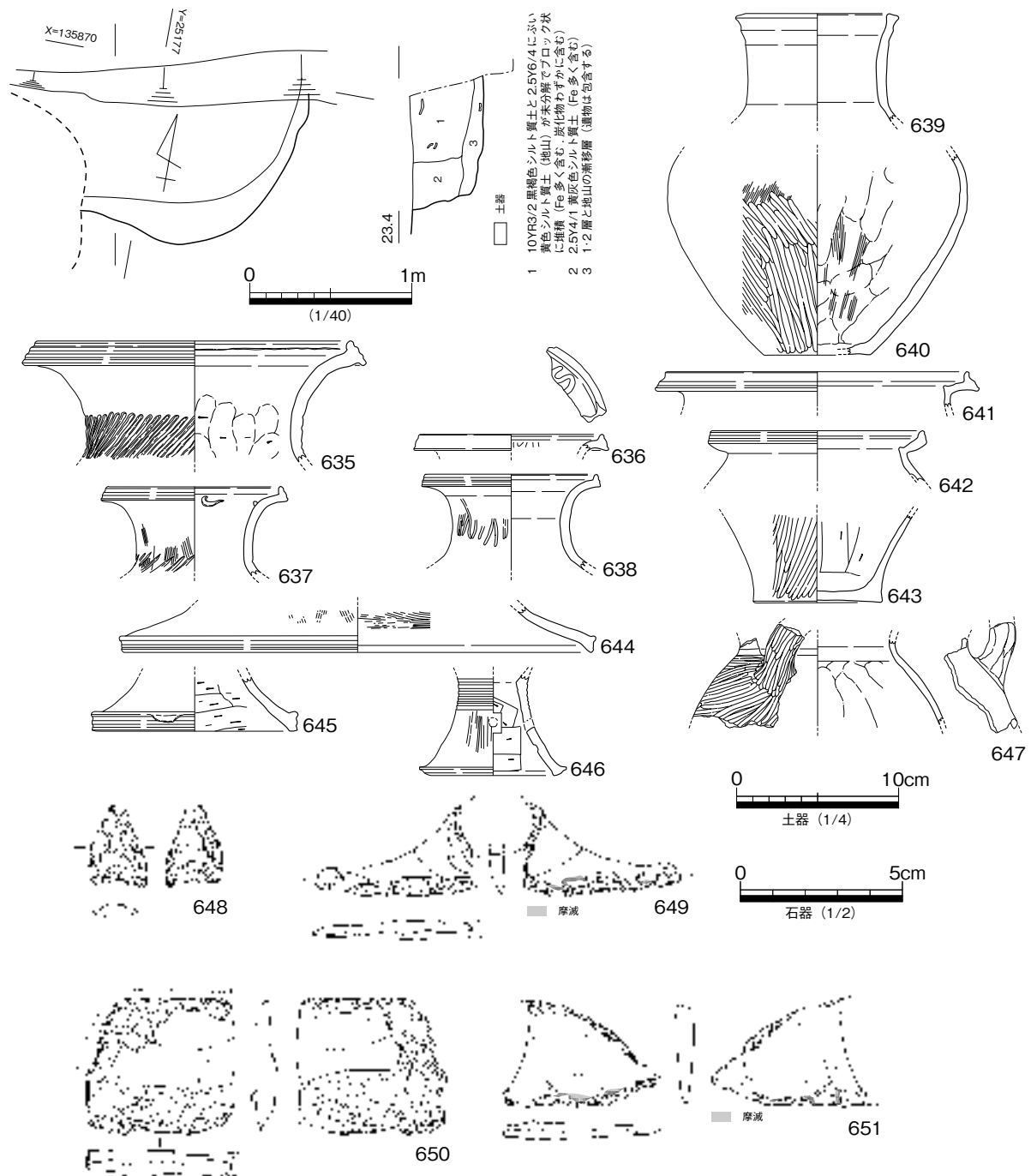


図 82 6-2区 SK06 平・断面・出土遺物

ので、1層と把握してもさしつかえないものである。1～3層から弥生時代中期後半の土器が数多く出土している。しかし、あまり接合せず、完形になるものもない。破片となったものが投棄された状況が復原できる。639の長頸壺が新しい様相を示す可能性があるものの、大半は弥生時代中期後半でも新しい様相を示す土器群と考えられる。

648はサヌカイト製の石鏃、649、650は同製の石包丁、651は同製のスクレイパーである。648は凹基式である。649は刃部の一部である。側端部に抉りがあり、刃部の一部が摩滅する。650は半分欠損

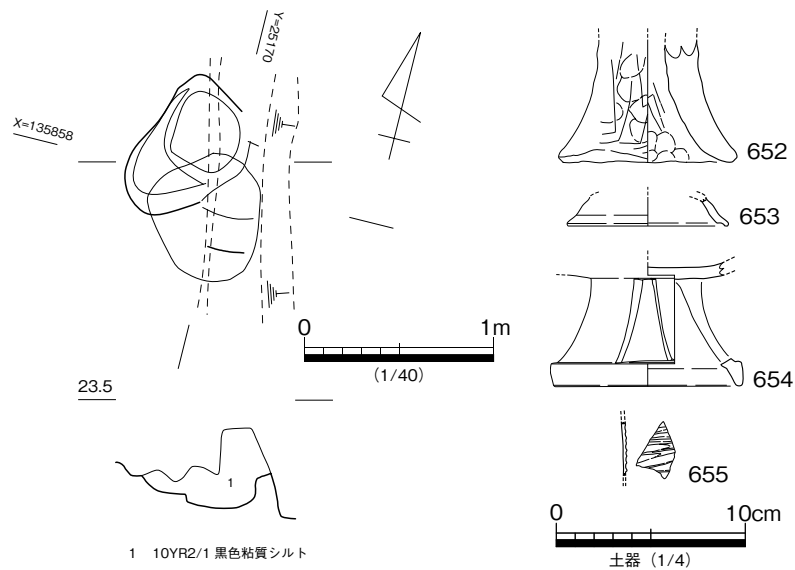


図 83 6-2 区 SK09 平・断面・出土遺物

している。片面には自然面が残り、背部に敲打による潰れがある。摩滅はみられない。651 も半分欠損する。背部は自然面である。両面からの細かい調整によって、刃部が作り出される。刃部の一部は摩滅する（森下）。

6-2 区 SK09 (図 83)

不整な楕円形を呈する土坑である。切り合い関係から 6-2 区 SH12 よりも新しい。654 の須恵器高杯は長方形の透かしが 4 方向に均等に配置されるものである。また、655 の製塩土器は備讃 V a 式に属するものである。これらに対し、653 は後出のもので、口径 8.4cm の内面にかえりをもたない須恵器蓋である。以上のことから 6-2 区 SK09 は 653 の須恵器蓋が示す TK46 型式併行期の遺構と考える。

6-2 区 柱穴・土坑 (図 84 ~ 89)

図 84、85 は、6-2 区 SH15 周辺の土坑や柱穴のうち、竪穴住居や掘立柱建物に関連づけられなかった遺構および出土遺物実測図である。

6-2 区 SK14 から出土した土師器甕の内面には焼成時の破裂が見られる。

6-2 区 SK19 からは、指オサエ痕が明瞭に残る土師器甕 (660) と精製された胎土の鉄鉢形を呈する鉢が出土している。

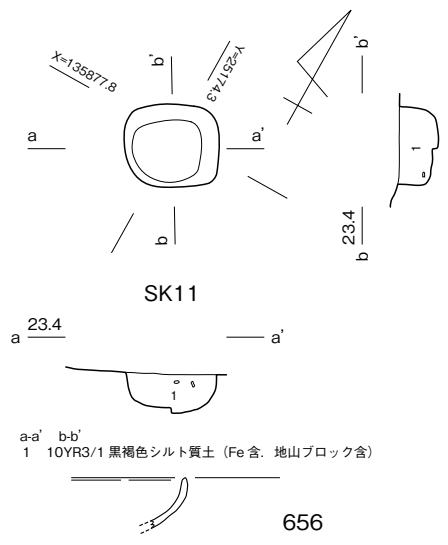
6-2 区 SP35 から、ガラス製の小玉 (664) が出土した。青色を呈する (森下)。

6-2 区 SP21 から、サヌカイト製の石鏃 (665) が出土した。平基式である (森下)。

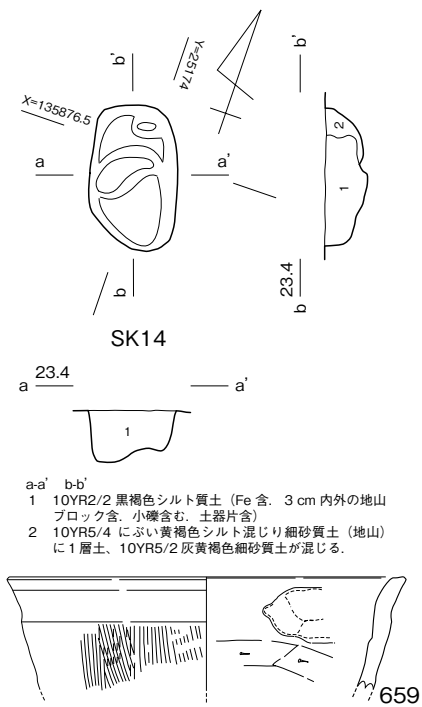
6-2 区 SP41 から、サヌカイト製の石鏃 (666) が出土した。有茎式である (森下)。

図 86 は、6-2 区 SH09 周辺の土坑や柱穴である。6-2 区 SP18、19 は比較的大型の柱穴である。地山土と類似する埋土であることから弥生時代中期の遺構の可能性を考えていたが、6-2 区 SP18 からは外来系と考えられる弥生時代終末期の複合口縁壺が出土している。

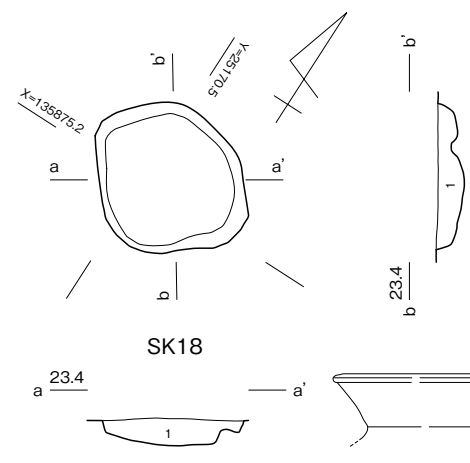
図 87 は、6-2 区 SH01 周辺の土坑や柱穴である。6-2 区 SH01SP11 といった遺構番号が付されるものがある。調査時には竪穴住居と関連すると考えられた柱穴であるが、整理段階で検討した結果、無関



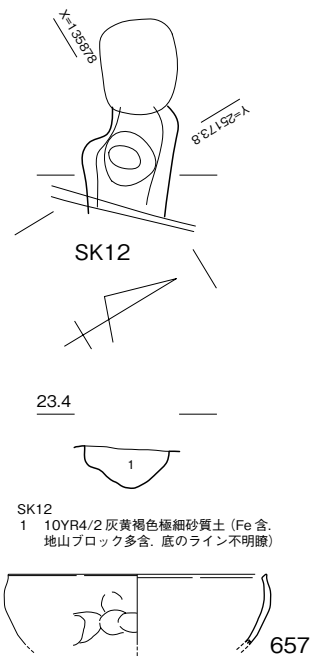
a-a' b-b'
1 10YR3/1 黒褐色シルト質土 (Fe 含. 地山ブロック含)



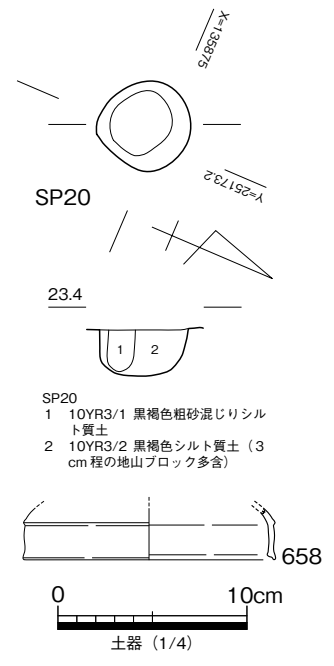
a-a' b-b'
1 10YR2/2 黒褐色シルト質土 (Fe 含. 3 cm 内外の地山ブロック含. 小礫含む. 土器片含)
2 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト混じり細砂質土 (地山) に1層土. 10YR5/2 灰黄褐色細砂質土が混じる.



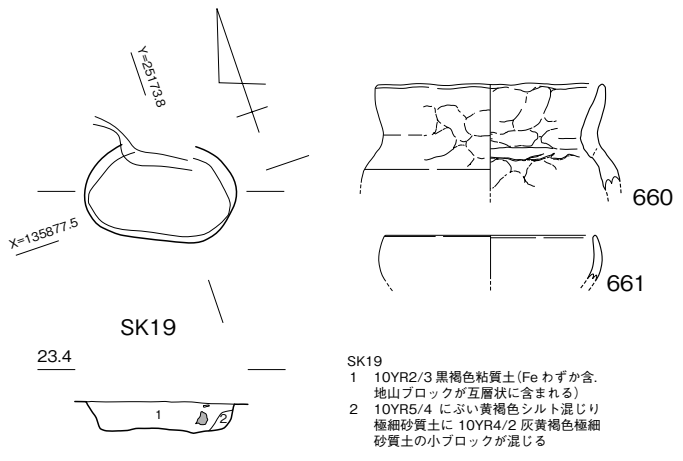
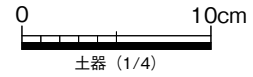
a-a' b-b'
10YR3/2 黒褐色シルト質土 (Fe 多含. 運物細片多含. 地山ブロック含)



SK12
1 10YR4/2 灰黄褐色極細砂質土 (Fe 含. 地山ブロック多含. 底のライン不明瞭)



SP20
1 10YR3/1 黒褐色粗砂混じりシルト質土
2 10YR3/2 黒褐色シルト質土 (3 cm 程の地山ブロック多含)



SK19
1 10YR2/3 黒褐色粘質土 (Fe わずか含. 地山ブロックが互層状に含まれる)
2 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト混じり極細砂質土に 10YR4/2 灰黄褐色極細砂質土の小ブロックが混じる

□ 土器
■ 石

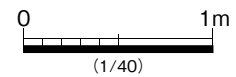
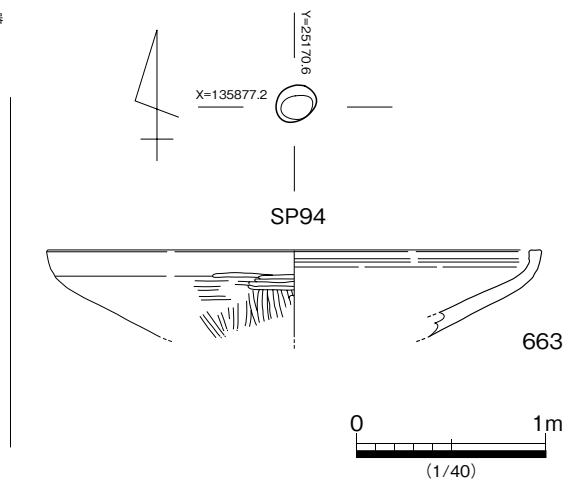


図 84 6-2 区柱穴・土坑 (1) 平・断面・出土遺物

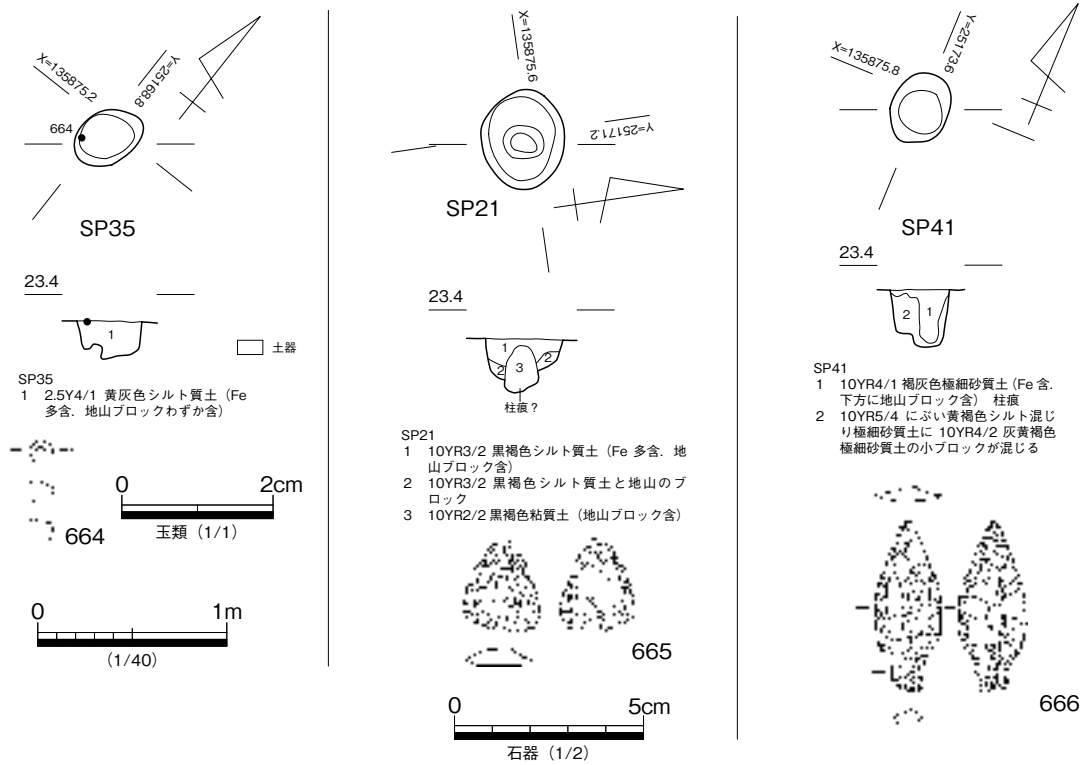


図 85 6-2 区柱穴・土坑 (2) 平・断面・出土遺物

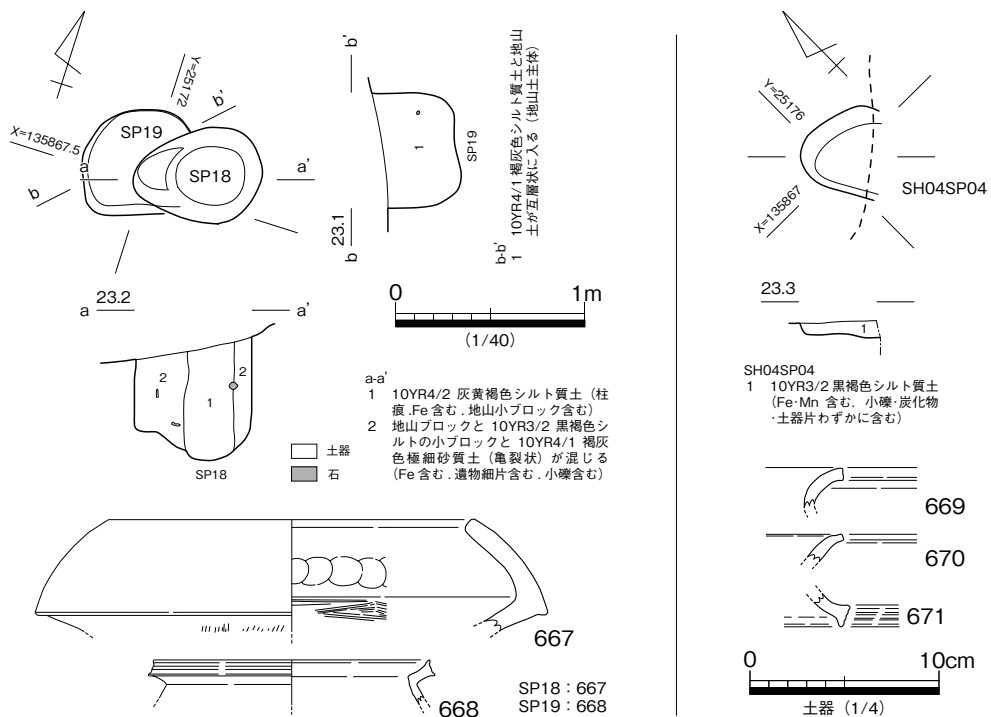


図 86 6-2 区柱穴・土坑 (3) 平・断面・出土遺物

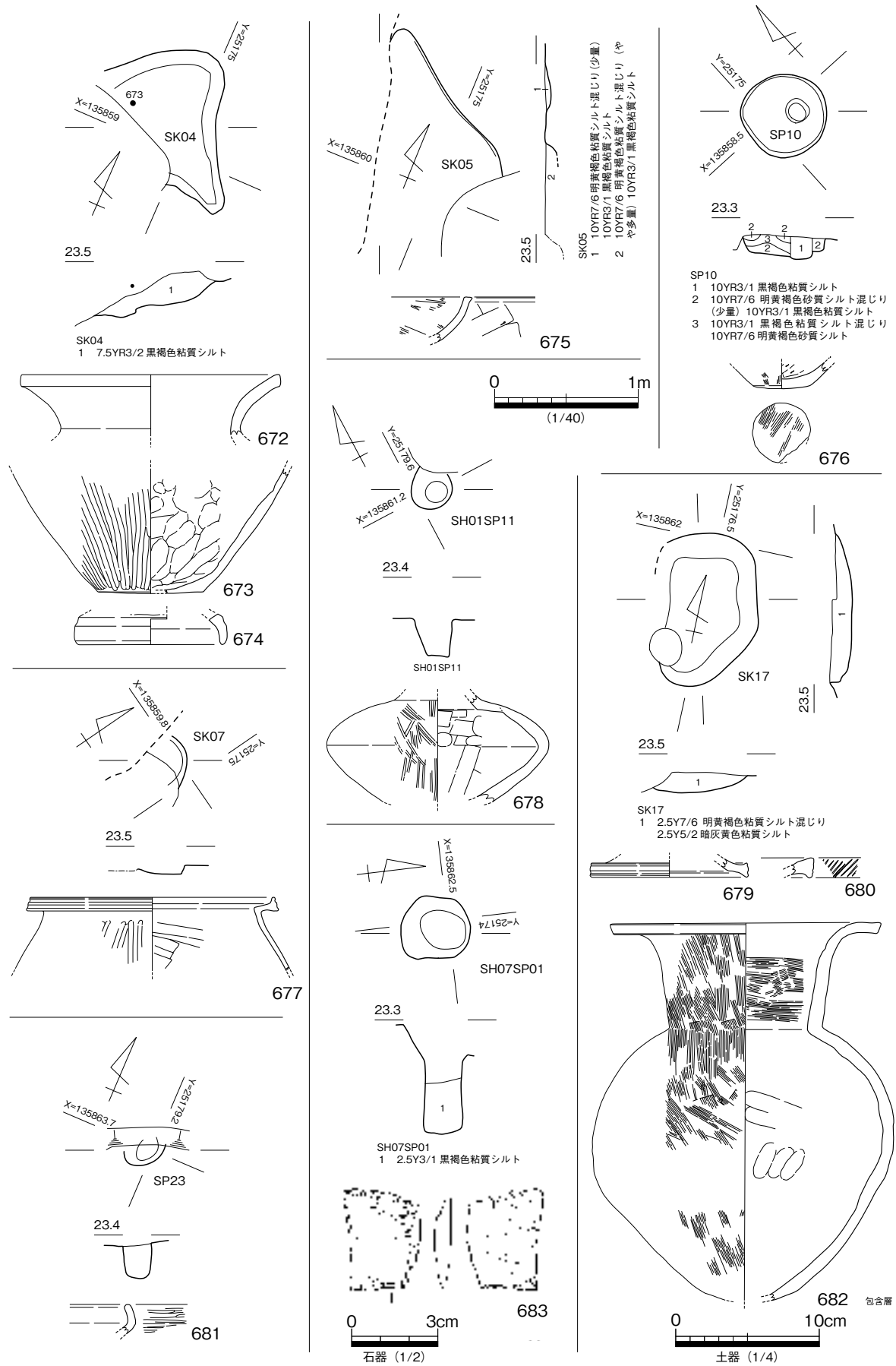


図 87 6-2 区柱穴・土坑(4) 平・断面・出土遺物

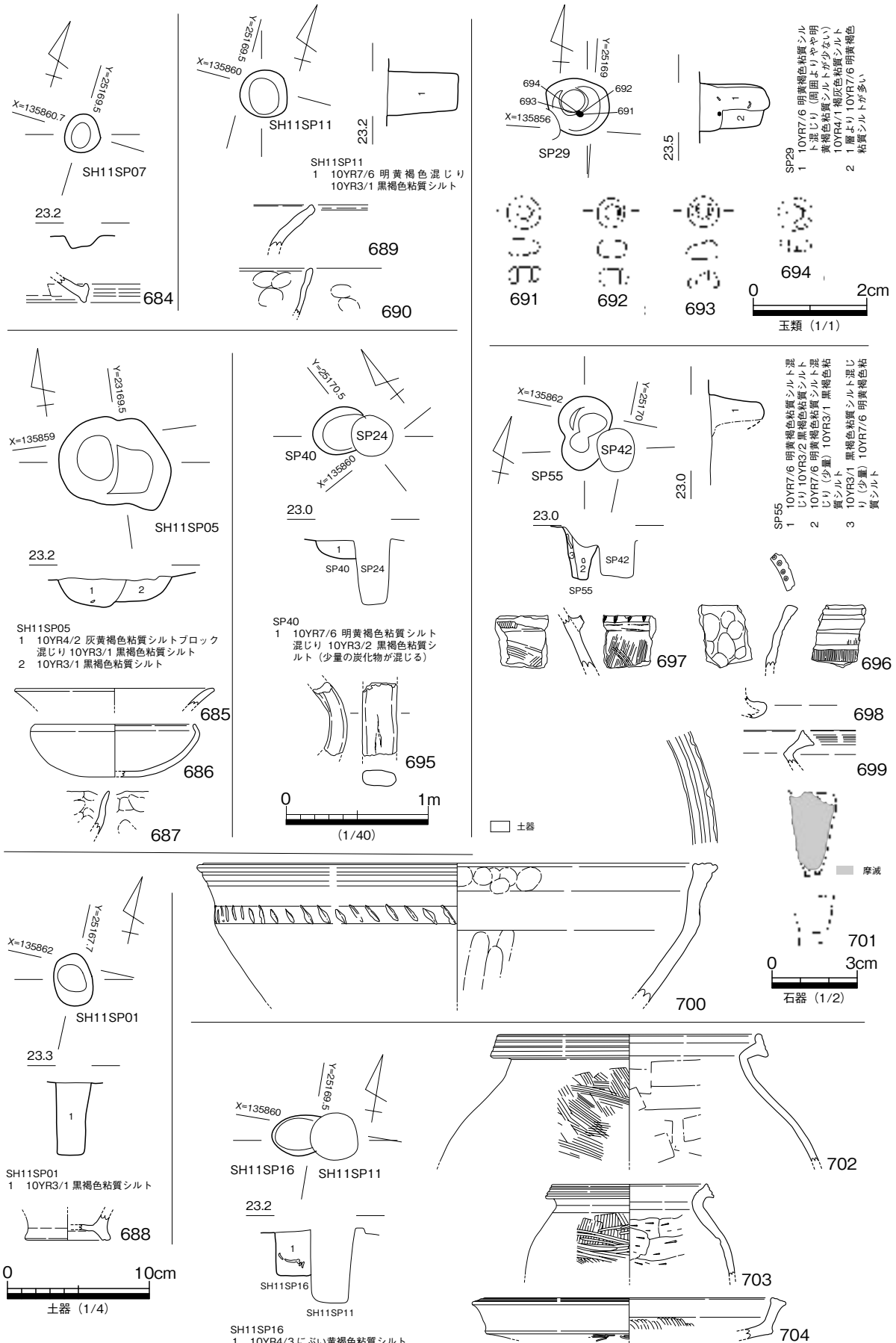


図 88 6-2 区柱穴・土坑 (5) 平・断面・出土遺物

係と判断するものである。682の弥生土器広口壺は比較的残りのよいものである。これは、6-2区SH08の東側、6-2区SH01北側から出土したものである。断面図や写真の所見から、ここにも竪穴住居跡が存在する可能性が高いと考えられるが、詳細不明である。

6-2区SH07SP01からは、サヌカイト製の2次加工のある剥片(683)が出土した。両側縁を折損す

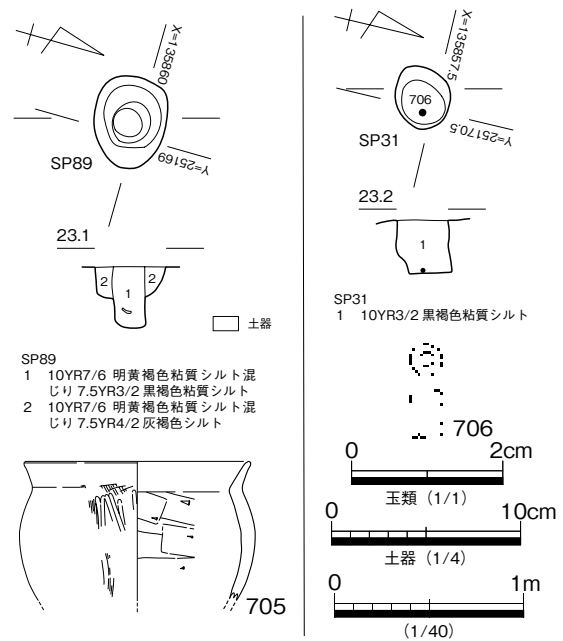


図 89 6-2区柱穴・土坑(6)
平・断面・出土遺物

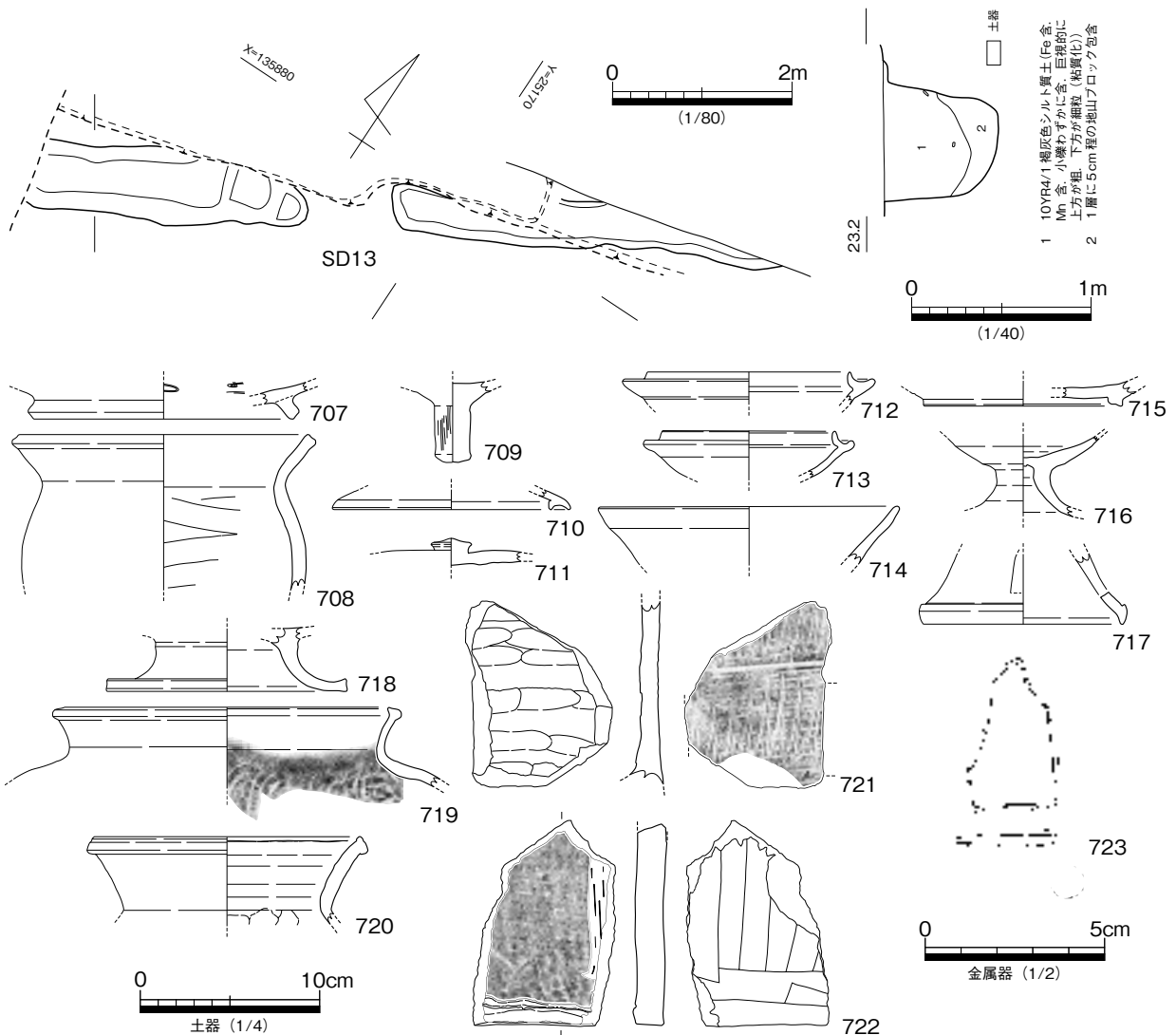


図 90 6-2区SD13 平・断面・出土遺物

る。上部は片面から、下部は両面から調整を施しており、スクレイパーの可能性もある（森下）。

図 88、89 は、6-2 区 SH11、12 周辺土坑や柱穴である。686 の土師器鉢は 6-2 区 SH11 内 SP06 からほぼ完形で出土した。備讃Ⅵ式と考えられる製塩土器片も相伴している。6-2 区 SH11SP11 から備讃Ⅵ式と考えられる製塩土器片が出土している。これらの柱穴は、6-2 区 SH11、12 の項で述べたとおり、竪穴住居に伴うものかどうか不明である。

6-2 区 SP29 からガラス小玉が（691～694）4つまとまって出土している。いずれも風化しており、白色を呈する（森下）。

6-2 区 SP55 から、流紋岩製の砥石（701）が出土した。701 は最大現存幅 1.6cm、現存長さ 3.0cm を測り、小型である。2面が摩滅する（森下）。

6-2 区 SP31 から、滑石製の白玉（706）が出土した。暗緑色を呈する（森下）。

6-2 区 SD13（図 90）

6-2 区の調査区北端で検出された溝状遺構である。周辺に広がる条里型地割の坪界線に相当する位置にあたる。幅 0.6、深さ 0.6 m ほどの規模である。6-2 区 SD13 の大きな特徴は 1 条の溝として連続するのではなく、途中で 0.5 m ほど途切れていることである。同様のことは北側を平行して流れる 7-1 区 SD03 においても認められた。これは、水を流す目的を持って掘ったのではなく、区画することを目的に掘ったものと考えられ、たとえば岡山県岡山市の津寺遺跡で検出された奈良時代の長方形区画溝のように、数は多くはないが類例がある。（岡山県教育委員会ほか『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127 津寺遺跡 5 山陽自動車道建設に伴う発掘調査 15』1998 年）

6-2 区 SD13 の埋土は 2 層に細分されるが、いずれの層からも土器片がまばらに出土している。7 世紀中ごろから 8 世紀代の遺物が中心となるが、層位的な相関関係は認められない。707 は土師器の盤とした。内面に暗文が認められる。709 は脚部片と考えたが、天地逆の可能性もある。710、712、713 は TK217 型式平行期のものである。714 は須恵器杯とした。立ち上がりの角度から後出のも

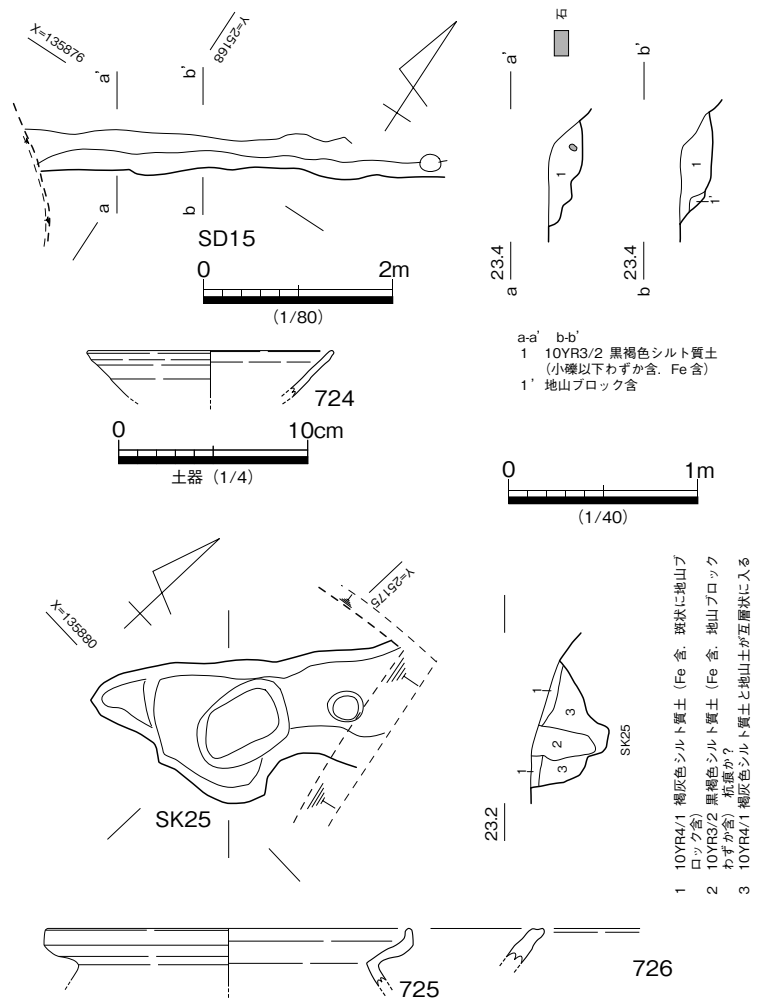


図 91 6-2 区 SD15・SK25 平・断面・出土遺物

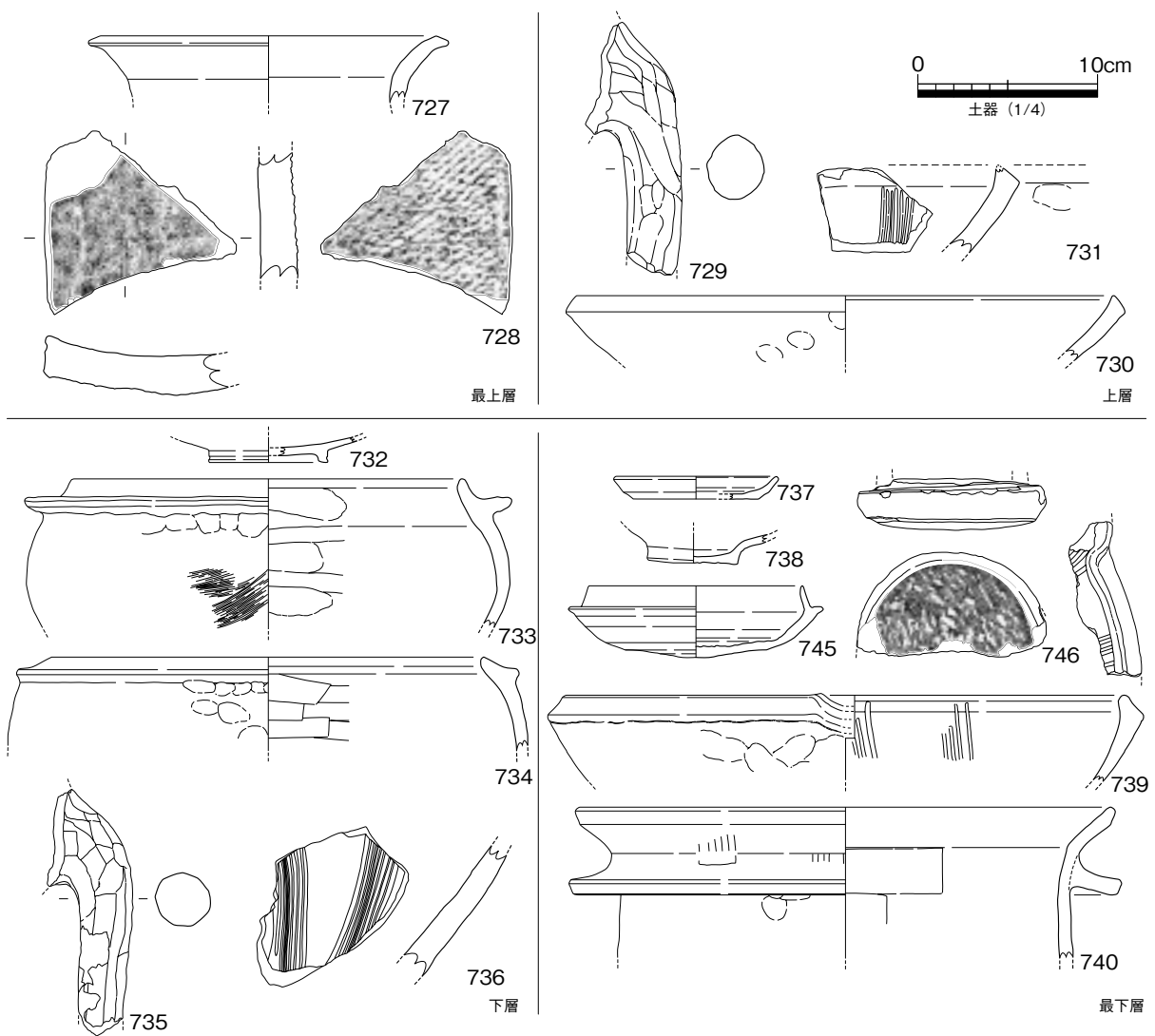
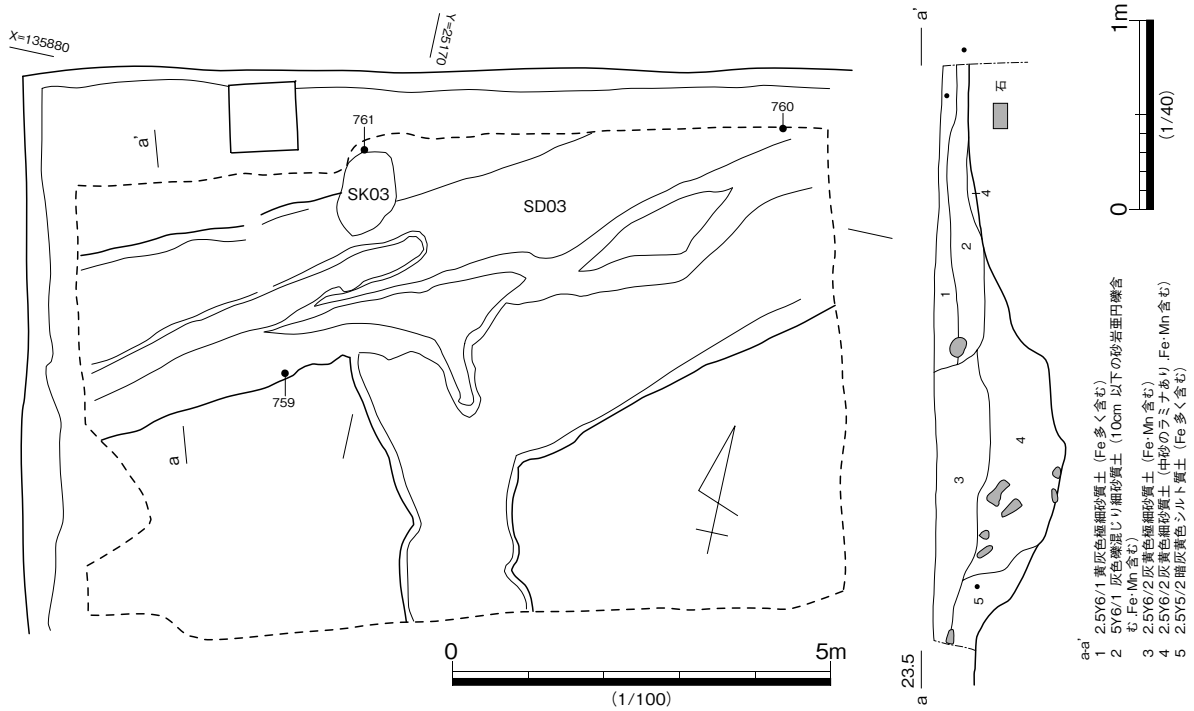


図 92 6-2 区 SD03 平・断面・出土遺物 (1)

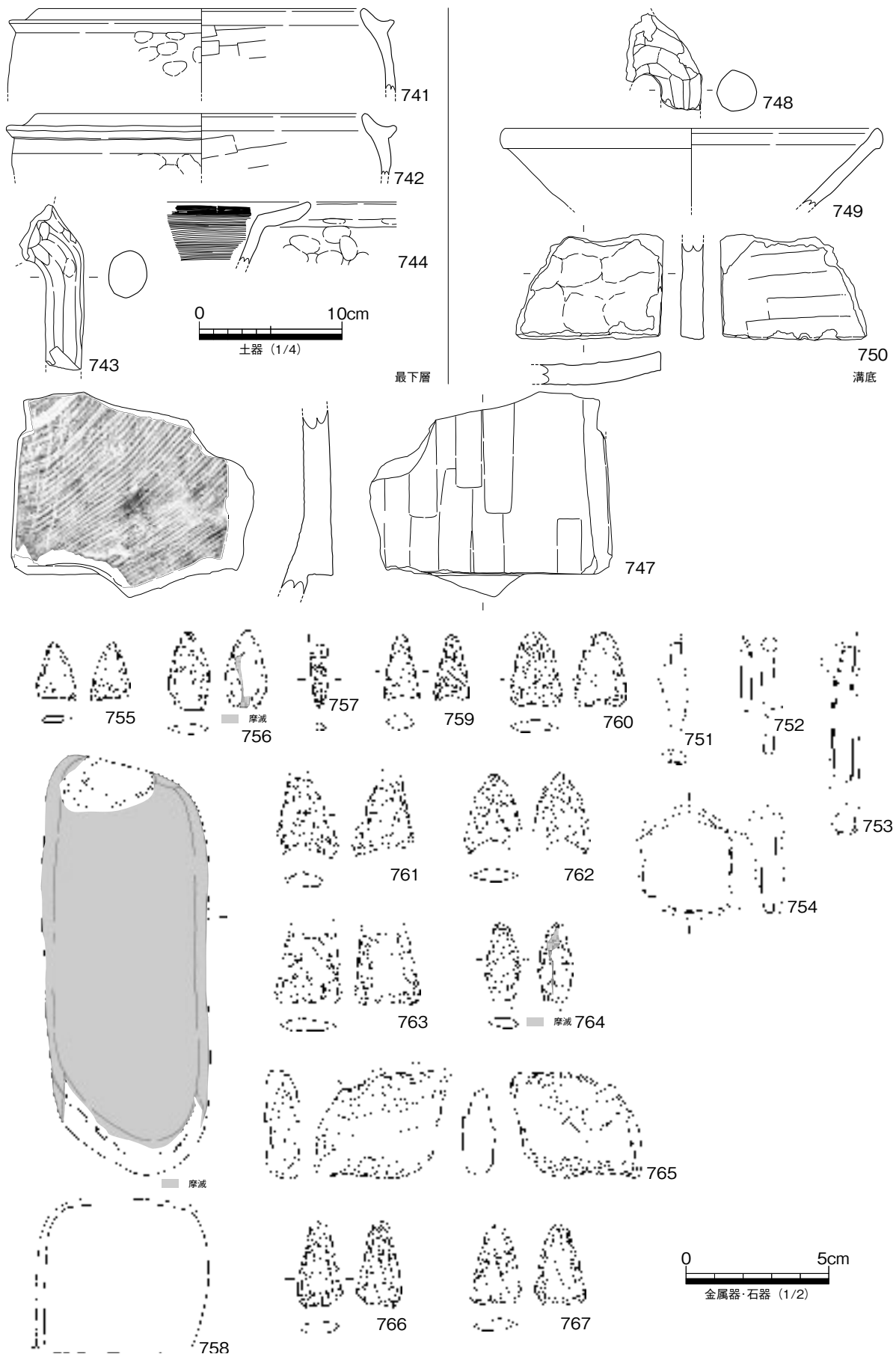


图 93 6-2 区 SD03 出土遺物 (2)

のと考えられるが、口縁部に歪みをもった細片であり、器厚が厚いことから他器種である可能性もあるため、これをもって6-2区SD13の年代を論じることはできない。721の須恵器破片には透かし穴の痕跡があり、外面にヘラ描き文が見られる。器台と考える。722は土師質の平瓦である。

723は厚さ2mmの板状の鉄製品の破片である（森下）。

6-2区SD13は、当地域における条里型地割の施工時期や機能を考えるうえで重要な遺構であるが、遺物は破片が散漫に出土した状況のため、8世紀代の遺構と考えたい。

6-2区SD15、SK25（図91）

後述の6-2区SD03に壊されるが、6-2区SD03の肩部に断片的に溝状遺構が検出されている。6-2区SD15は延長4m、6-2区SK25は延長1.5m分を検出した。両者は連続したものである可能性が高い。6-2区SK25は、検出時には土坑と考えたが、位置関係から溝状遺構に訂正する。後代の溝に壊されているため、6-2区SD13のように途切れ途切れの溝になるのか、連続しているのかは不明である。

724は焼成不良の須恵器杯である。この付近には後述するように9、10世紀代の遺物を含む包含層があり、調査時に弁別できなかった可能性がある。726は土師器甕の口縁部細片である。このほかに図化不能であるが、6-2区SK25から古代の杯と思われる須恵器細片が出土している。

6-2区SD03（図92）

条里型地割の坪界線に相当する位置に掘られた溝状遺構である。幅2.5、深さ0.8mほどの規模である。埋土は5層に細分したが、最上層とする1、2層は溝としての機能を喪失して以後の堆積層と考えられる。また、5層（最下層）堆積後に再掘削されて4層（下層）が堆積したと考えられる。図化していないが、1、2層からは近世の陶磁器片が出土しており、堆積年代が推定できる。なお、最上層から最下層にかけて陶磁器片が出土しているが、出土地点が限定された調査範囲に留まるため、近世遺構を見落としとしたものと判断している。

図92、93は6-2区SD03出土の遺物実測図である。727は須恵器甕、728は須恵質の平瓦である。730、749は東播系こね鉢、731、736は備前焼摺鉢である。備前焼片は6-2区SD03の延長にあたる7-1区SD01では溝底からも出土しており、6-2区SD03の年代の上限を示す遺物と考えられる。732は硬陶の緑釉陶器碗、745はTK10型式併行の須恵器杯、746は須恵器鉢の底部である。以上から、6-2区SD03を鎌倉時代後半期の遺構と判断する。

このほか、鉄釘（751～753）、用途不明鉄器（754）が出土している。鉄釘はいずれも断面形は方形で、端部を

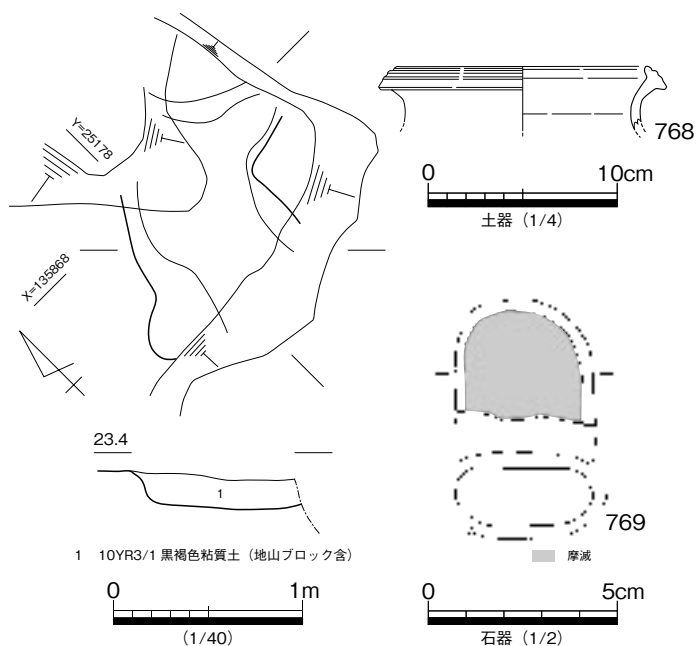


図94 6-2区SR (SH06内落ち込み)
平・断面・出土遺物

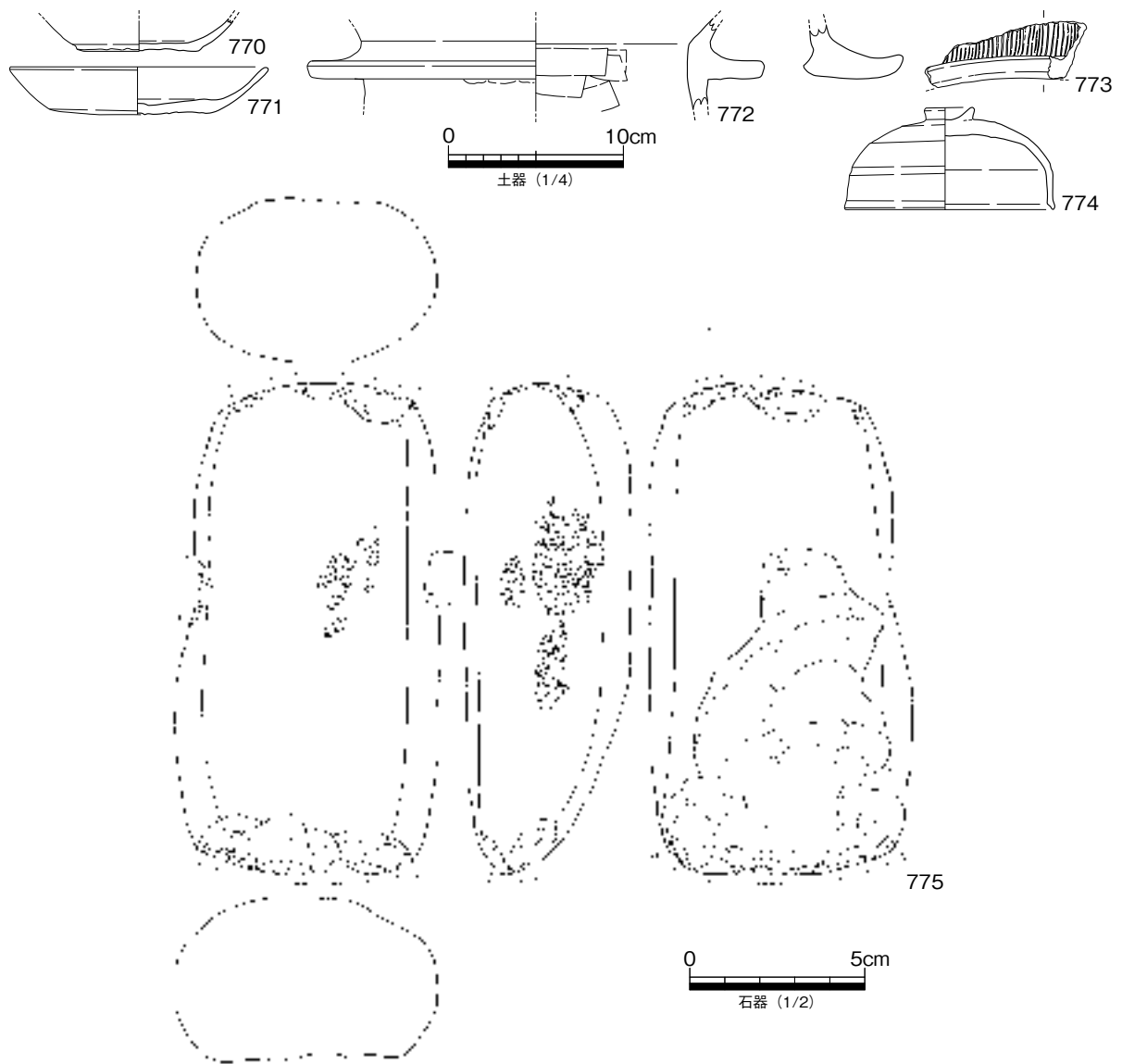


図 95 6-2 区遺構に伴わない遺物 (1)

欠損する。752 の頭部は三角形を呈する。石製品には、サヌカイト製の石鏃 (755、756、759～764、766、767)、同製の石錐 (757)、同製の楔状石核 (765)、砂岩製の砥石 (758) がある。石鏃は凹基式 (759、761、762)、平基式 (755、756、760、763、766、767)、凸基式 (764) がある。762 は側縁の一部と基部の一部が欠損する。756、764 の片面中央部は摩滅する。760 の片面には自然面が残る。757 は錐部の先端付近だけで、頭部は欠損する。765 の側縁 2 面は自然面である。側縁 1 面には敲打痕がみられる。758 は 2 面が摩滅する (森下)。

6-2 区 SR (SH06 落ち込み) (図 94)

6-2 区 SH06 掘削後に、黒褐色粘質土の堆積が認められた。調査範囲はわずかであったけれども、注記できないほどの大きさの弥生土器細片が 100 点あまり出土している。調査時には 6-2 区 SH06 に伴う落ち込みと考えていたが、この堆積層は「旧練兵場遺跡Ⅲ」において、調査区を蛇行しながら流れる弥生時代前期末には機能していたと考えられる旧河道にあたる可能性が高い。なお、本堆積層は 6-2 区

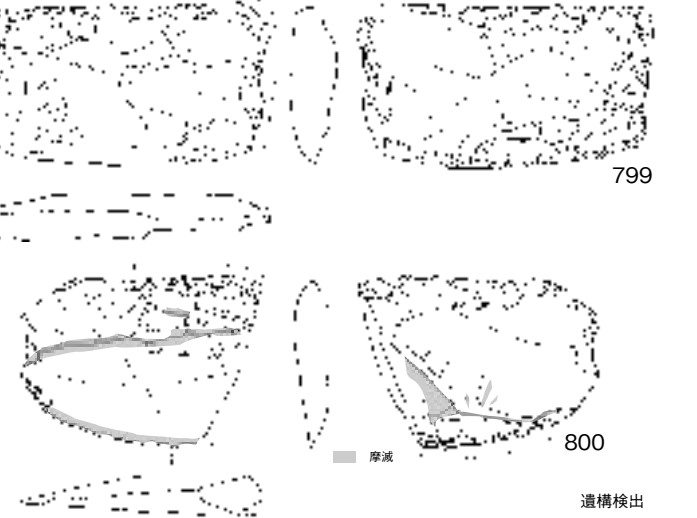
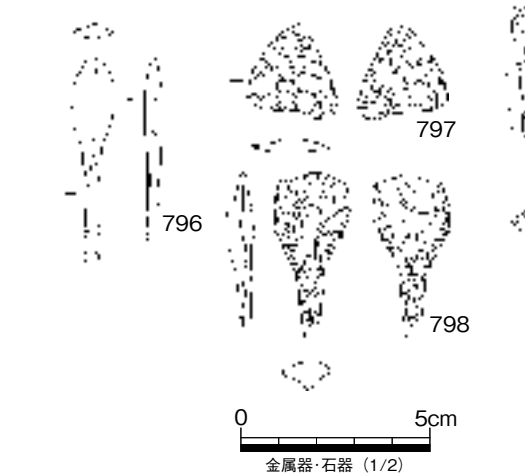
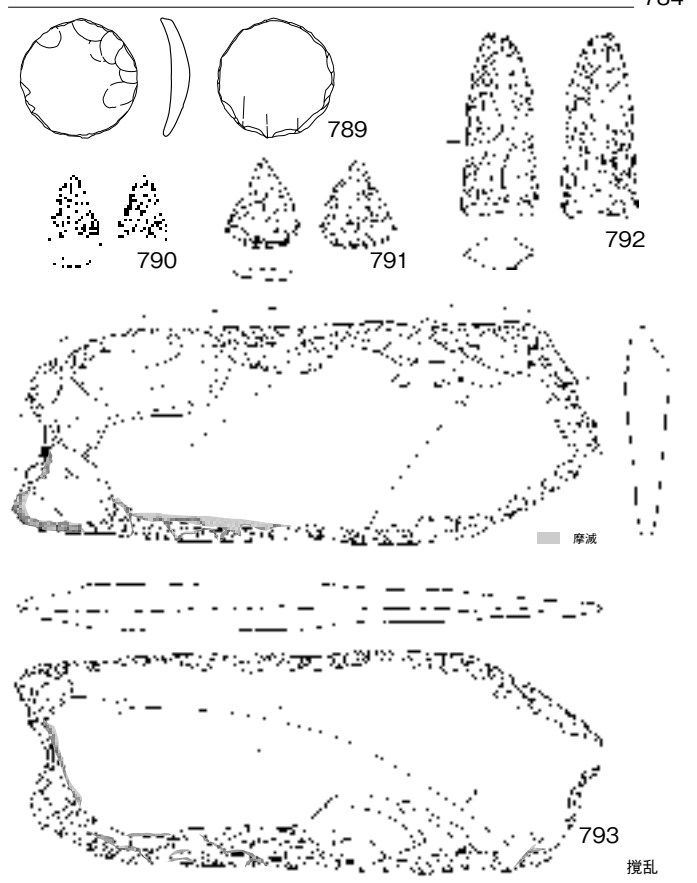
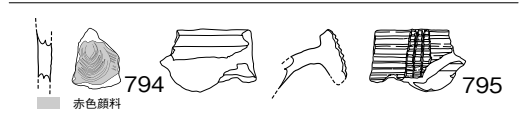
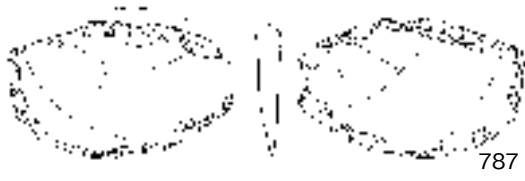
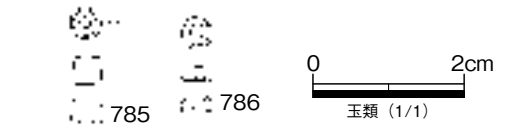
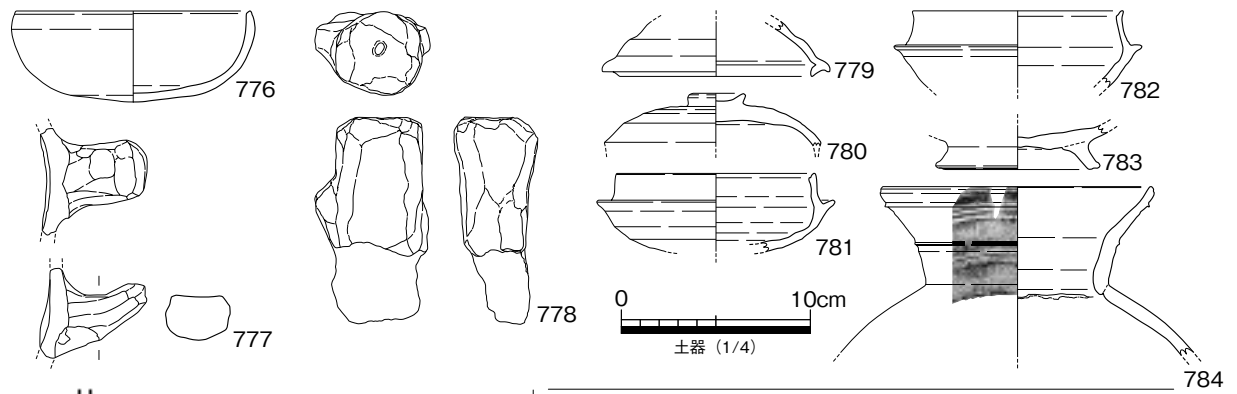


図 96 6-2 区遺構に伴わない遺物 (2)

SH01 付近でも認められた。

このほかに砂岩製の砥石（769）が出土している。両面が摩滅する。端部を欠損する（森下）。

6-2 区遺構に伴わない遺物（図 95、96）

6-2区SH14が検出された付近には、6-2区SD03方向に向かって緩やかに下る包含層が形成されている。最大で16cmほどの厚さの層である。図95は本層より出土した遺物実測図で、770は底部を円盤状に整形したうえで体部を付加した土師器杯、771は土師器椀である。771は形態や法量から9世紀中ごろのものであろう。773は移動式竈、774はTK47型式併行期と考えられる須恵器蓋である。774は混入と考えられ、本層は古代後半に形成された堆積層と考えられる。

なお、本層から大型蛤刃石斧（775）が出土した。石材は不明である。結晶は粗く、緑灰色を呈する。体部片面は大きく剥離している。剥離の上から研磨は施されていない。基部と刃部先端は敲打による潰れがみられる。側面中位には敲打による凹みが両方にみられる。また、側面片面には線状痕がみられる（森下）。

図96は、6-2区の遺構検出作業中および攪乱された土中より出土した遺物実測図である。776～788は6-2区SH14付近のものである。778は不明土製品である。手捏ねで作られ、孔は約2cmの深さで開けられている。上半は円筒形であるが、下半は板状に整形している。讃岐国府跡に集中的に検出される燭台形土器に類似するが、国府跡のものは大半が孔が貫通している差異がある。780～782はTK47型式併行期の須恵器である。上述の774と合わせてTK47型式の須恵器が検出されているが、当該期の遺構は確認されていない。

このほかに、サヌカイト製の石包丁（787）、結晶片岩製の砥石または石斧（788）が出土している。787はほぼ完存する。平面形は木の葉形を呈し、背部は敲打による潰れがみられる。788は両端部を欠損するため、石斧か砥石のどちらか不明である。表面は摩滅する。さらに、暗緑色を呈する滑石製の白玉（785、786）が出土している（森下）。

789～793は、6-2区SH14付近の攪乱から出土した遺物実測図である。789は丸底の鉢の底部を打ち欠き円盤状に加工したものである。

このほかに、サヌカイト製の石鏃（790～792）、同製の石包丁（793）が出土した。790は基部を欠損する。791の平面形は左右非対称で、基部の形状はいびつな円弧を描き、成形がやや粗い。792は大型の石鏃で、長さ4.9cmを測る。793は完存する。左右対称ではなく、上図の左端から中央付近は刃部と背部は平行するが、刃部の右端は円弧状を呈する。そのため抉りの位置や大きさも左右で異なる。背部は敲打による潰れがみられる。また、刃部付近と抉り付近が摩滅する（森下）。

794～800は6-2区SH04、6-2区SH01、6-2区SH11周辺の遺構検出作業中に出土した遺物実測図である。794は細片であるが、櫛描文原体による下向きの扇形紋が施され、赤色顔料が塗布される。土佐に類例が求められる。795の広口壺は口縁端部を上下に拡張し6条の凹線文に縦方向の棒状浮文を付している。伊予から防長の特徴と考えられる。

このほかに、安山岩製の石包丁（799）、サヌカイト製の石包丁（800）、同製の石鏃（797）、同製の石錐（798）が出土した。799はほぼ完存する。片面の一部は研磨される。刃部も研磨されるが、端のほうは研磨後に剥離調整が施される。背部や両端部は敲打による剥離や潰れが見られる。また、裏面には剥離痕が残り、研磨が施されておらず、刃部も剥離調整によって作り出される。おそらく、当初は少なくとも片面

の刃部は磨製であったが、途中で剥離調整が施されたと考えられる。800は側端部に挟りがある。もう片方の側端部は欠損する。刃部は片面からの調整により作り出される。両面とも刃部と体部の稜が摩滅する。798は先端部を欠損する。さらに、銅鏃(796)が出土している。796は中央部に稜を持つ(森下)。

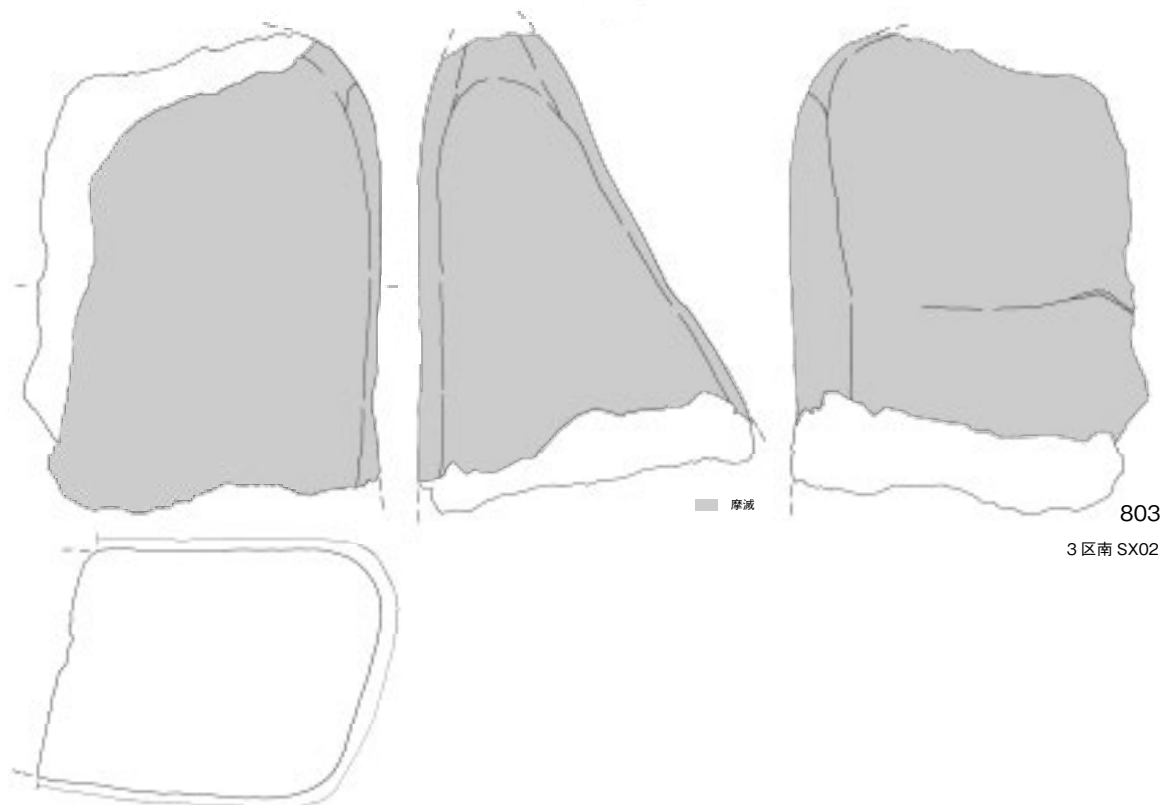
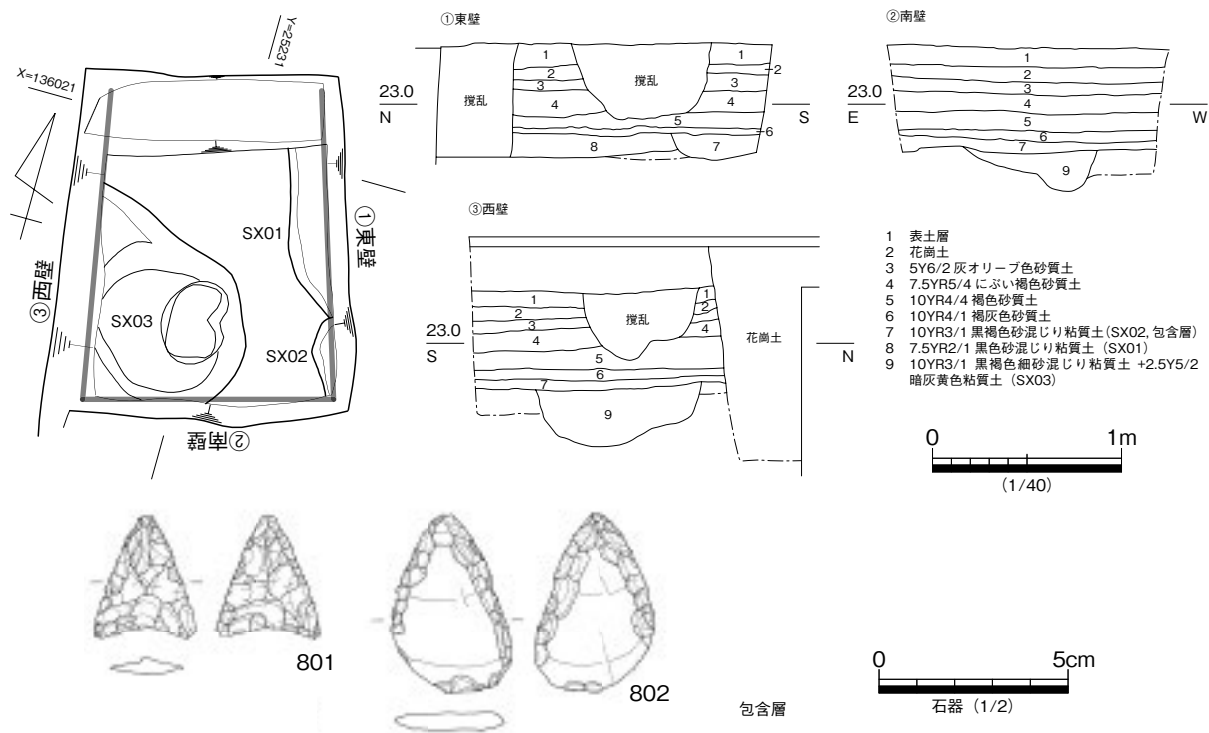


図 97 6-3 区旧倉庫棟調査区 平・断面・出土遺物

第4節 6-3区の調査

6-3区旧倉庫棟 調査区 (図97)

善通寺病院の倉庫棟と呼ばれていた建物の北側に設けられた調査区である。面積2.4㎡（東西1.4、南北1.7m）と狭小な調査区である。

3つの落ち込みと柱穴1基を検出している。いずれの落ち込みも平面形および断面形は不定形で、遺構の性格は不明である。また、遺物も石器のほかはほとんど出土しなかったため、遺構の年代も不明である。

801はサヌカイト製の石鏃、802は同製の石鏃未製品である。801は凹基式である。802の二辺には両

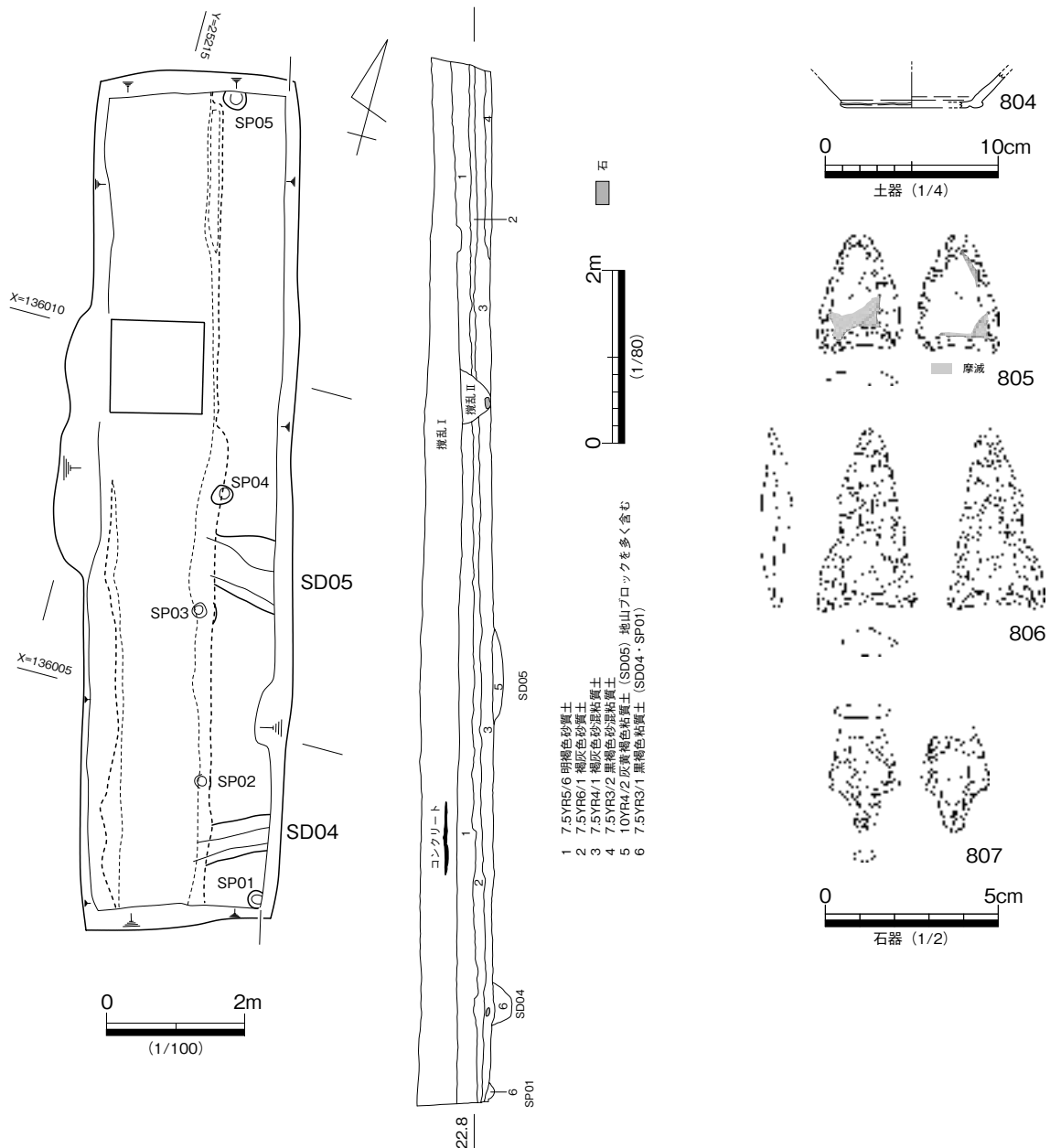


図98 6-3区北調査区 平・断面・出土遺物

面から調整を施される。803は6-3区南SX02から出土した砂岩製の砥石である。割れ口以外は摩滅する(森下)。

なお、803はレイアウトミスで後掲の6-3区南調査区のSX02出土のものである。6-3区南のSX02は自然形成の凹地である。

6-3区北調査区(図98)

善通寺病院の倉庫棟と呼ばれた建物の西北側に設けられた調査区である。面積33㎡(幅2.7・長さ12.2m)を測る。調査区の西側5分の3は攪乱されて遺構面は破壊されており、東側5分の2が遺存していた。

検出遺構は5基の柱穴と2条の溝状遺構である。6-3区SD04から中世の土師質土器碗が出土し、年代の一端が窺えるほかは良好な遺物が出土していない。

805～807は、サヌカイト製の石鏃である。806は長さ5.3cmを測り、大型である。凹基式である。805も凹基式である。805は両面の一部が摩滅する。807は先端部を欠損する。基部は有茎式で、突出する(森下)。

6-3区南調査区

善通寺病院の倉庫棟と呼ばれた建物の西南側に設けられた調査区である。面積約73㎡(6.6×11m)を測る。弥生時代後期後半の竪穴住居跡のほか、柱穴、溝状遺構等を検出した。

6-3区SH01(図100)

1辺約5mの方形の竪穴住居跡である。調査時には複数の竪穴住居が重複すると認識して調査を進めたが、最終的に1棟の竪穴住居と判断されるに至った。柱間寸法2.0～2.4mで方形に配置された主柱穴および中央土坑と考えられる土坑を検出している。

中央土坑の規模は、長軸90、短軸60、深さ8cmほどの規模で、床面に炭化物が集中している。825が出土している。なお、南西側は主柱穴と掘り方の間をL字状に、東辺は2基の主柱穴間と掘り方の間に貼床が施される。

808～827は6-3区SH01出土の遺物実測図である。時期幅があるが、808、809、811といった弥生時代中期後半から後期前半の土器は、小片で摩滅している。818～820の弥生土器鉢は完形で出土しているが、遺構検出作業中に出土したものが、出土位置から6-3区SH01に所属することが判明したもので、出土状況は不明である。このほかの残りの良い土器片は弥生時代後期後半から終末期に位置づけられる。また、6-3区SH01を切る6-3区SP67出土の弥生土器甕が弥生時代終末期に属するものであるから、6-3区SH01は

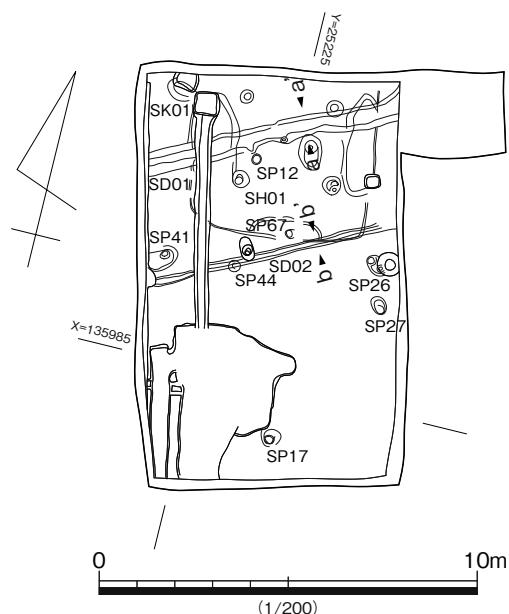


図99 6-3区南調査区 遺構平面

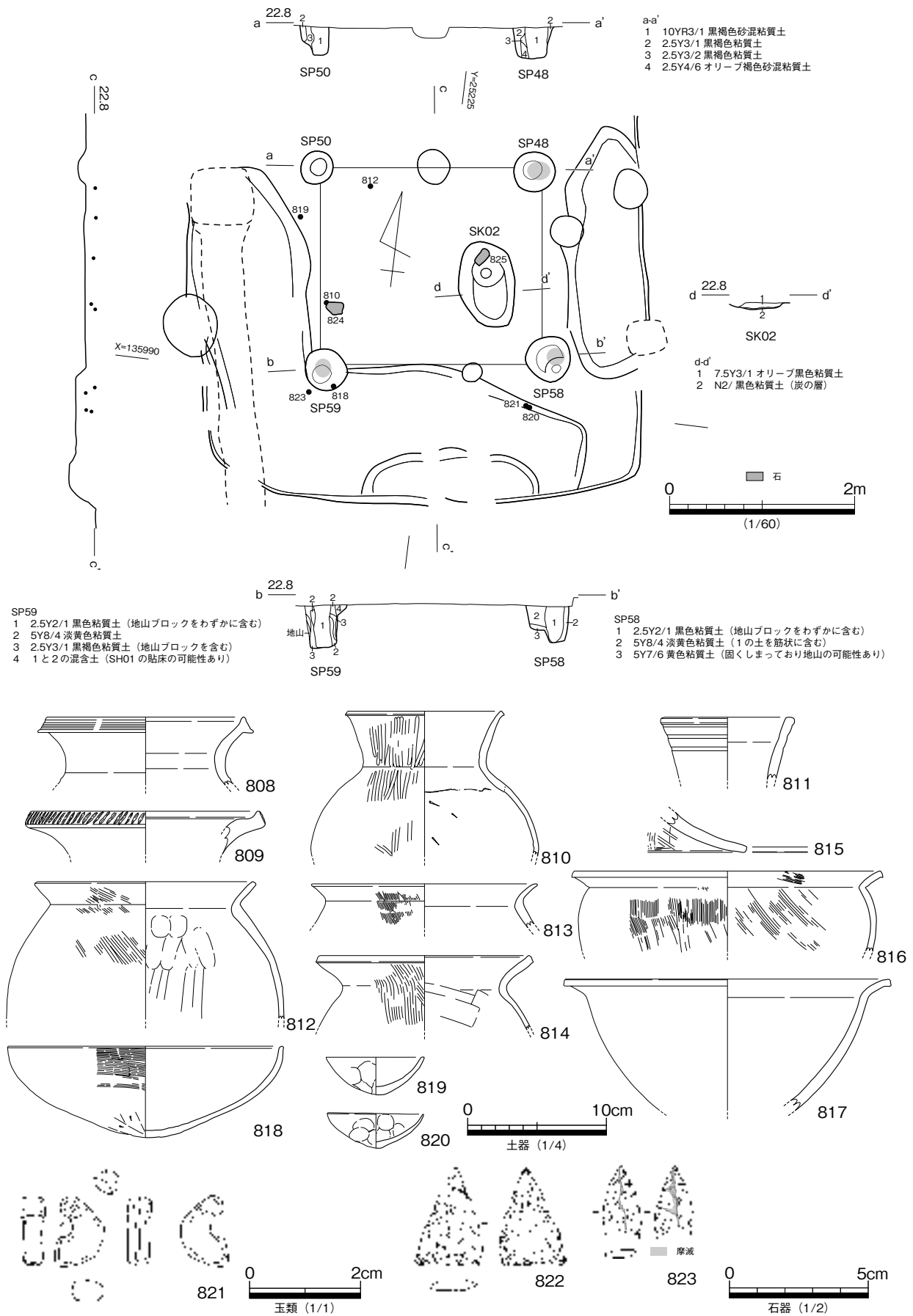


図 100 6-3区 SH01 平・断面・出土遺物(1)

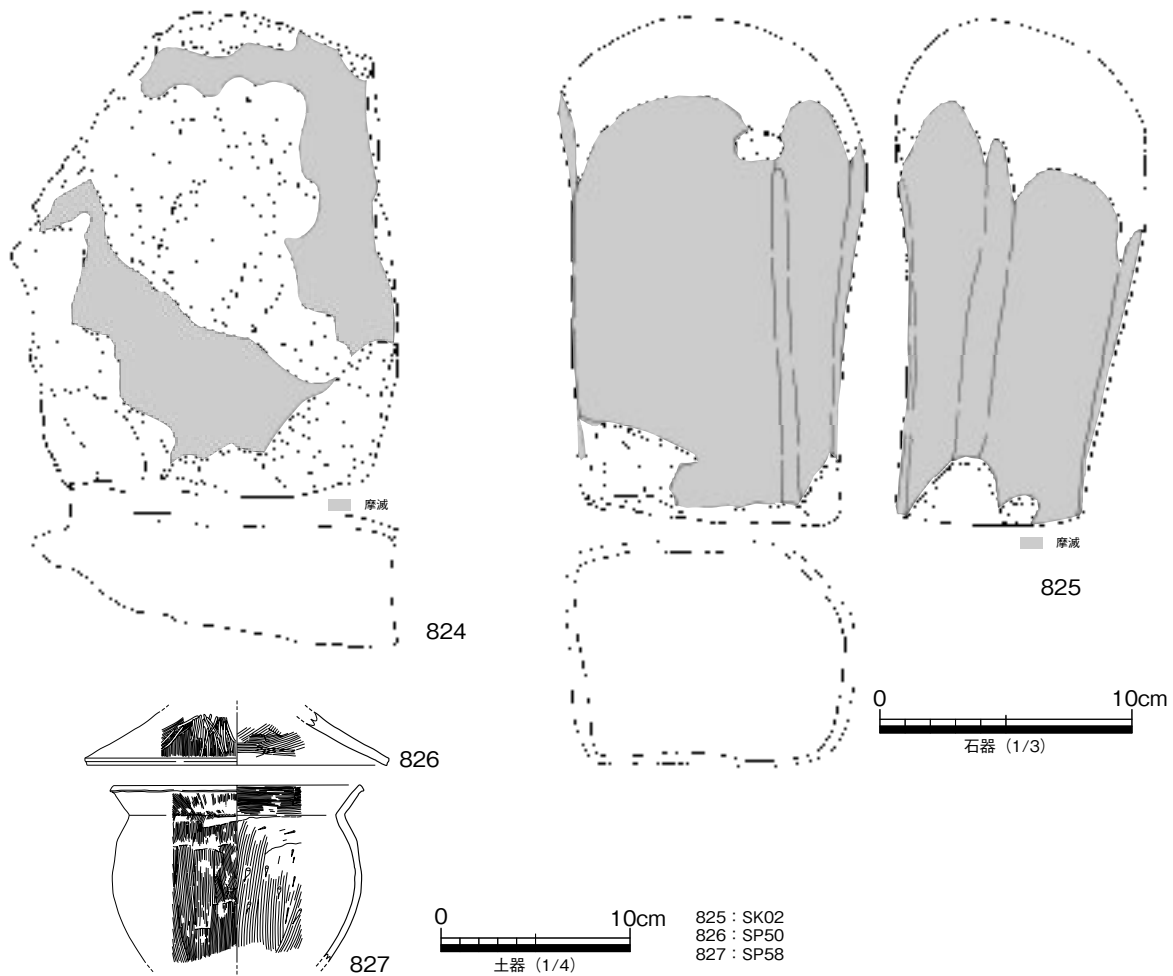


図 101 6-3 区 SH01 出土遺物 (2)

弥生時代後期後半の竪穴住居と考える。

このほかに、碧玉製の勾玉 (821) が出土している。緑色を呈する。孔は両面から穿けられている。822、823 はサヌカイト製の石鎌、824 は流紋岩製の砥石である。822 は平基式である。823 は基部を欠損する。両面とも稜に当たる部分が摩滅する。824 は一面が摩滅する。凹みには自然面が残る。側面の 1 面も自然面である。その他は割れ面である。また、流紋岩製の砥石 (825) が出土している。両端部以外は摩滅する (森下)。

6-3 区柱穴・土坑 (図 102、103)

6-3 区からは 70 を越える柱穴を検出しているが、建物を構成するような配置は見られない。また、埋土は数種類に分類できるようであるが、年代を示す指標としては把握できない。

6-3 区 SD01、02 (図 104)

芯芯間ではほぼ 3 m の距離をあけて平行する 2 条の溝状遺構を検出した。北側の 6-3 区 SD01 は幅 50、深さ 6 cm、南側の 6-3 区 SD02 は幅 20、深さ 4 cm を測る。

6-3 区 SD01 からは、須恵器や摩滅する弥生土器細片が多く出土した。837 は搬入と考えられる弥生

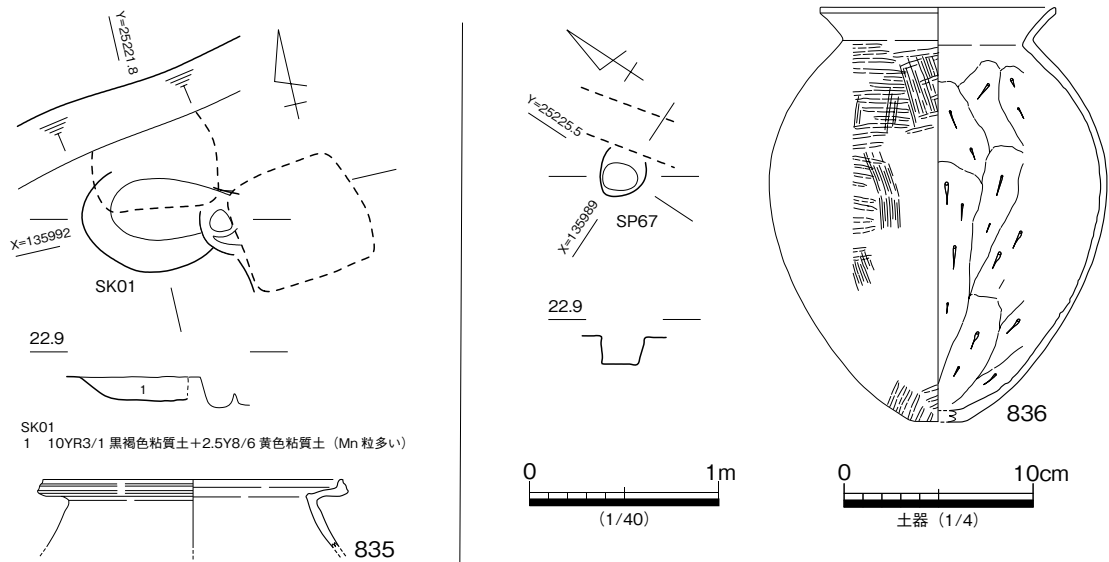


図 103 6-3 区柱穴・土坑 (2) 平・断面・出土遺物

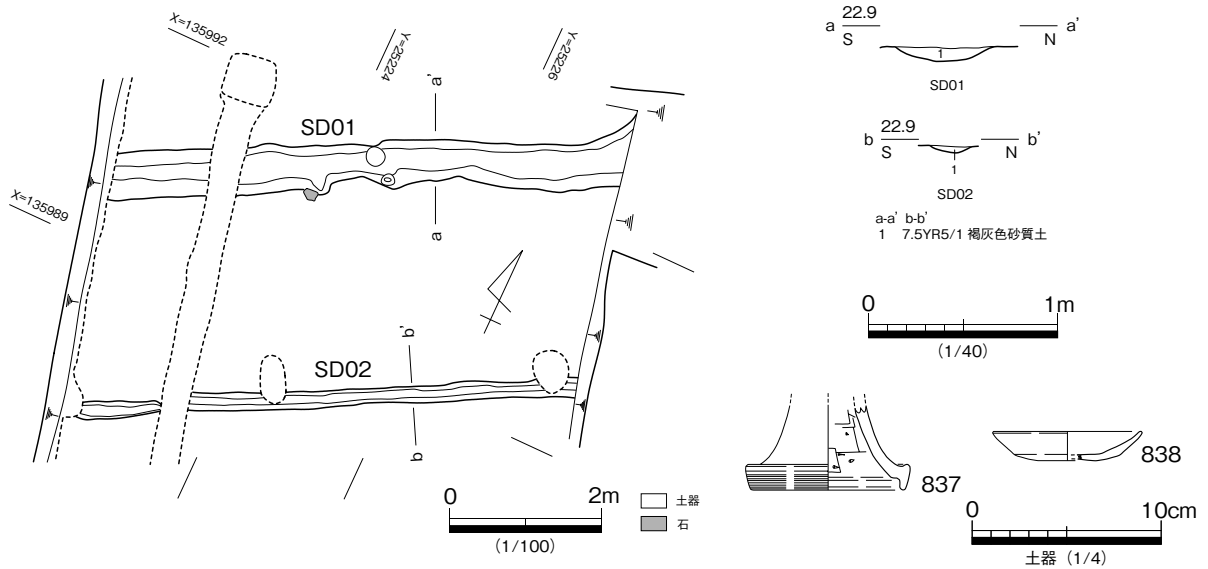


図 104 6-3 区 SD01・02 平・断面・出土遺物

土器高杯、838 は土師質土器杯である。6-3 区 SD01 からは、このほかに緑釉陶器細片が出土している。838 から中世の年代観が得られる。

6-3 区 SD02 からは、弥生土器細片 20 点あまりが出土しているが、時期を特定できるような出土状況ではない。しかし、6-3 区 SD01 と埋土が共通し、平行する位置関係にあるから、同一時期と把握できる。

第5節 7-1区の調査

概要

6-2区の北側に接する約370㎡の調査区である。北西側は大きな攪乱を受けているが、南縁および東縁は良好に遺構が残っていた。西部は浅い位置からIV層が現れるが、東部には下層に弥生時代前期の遺物を包含する旧河道が流れている。

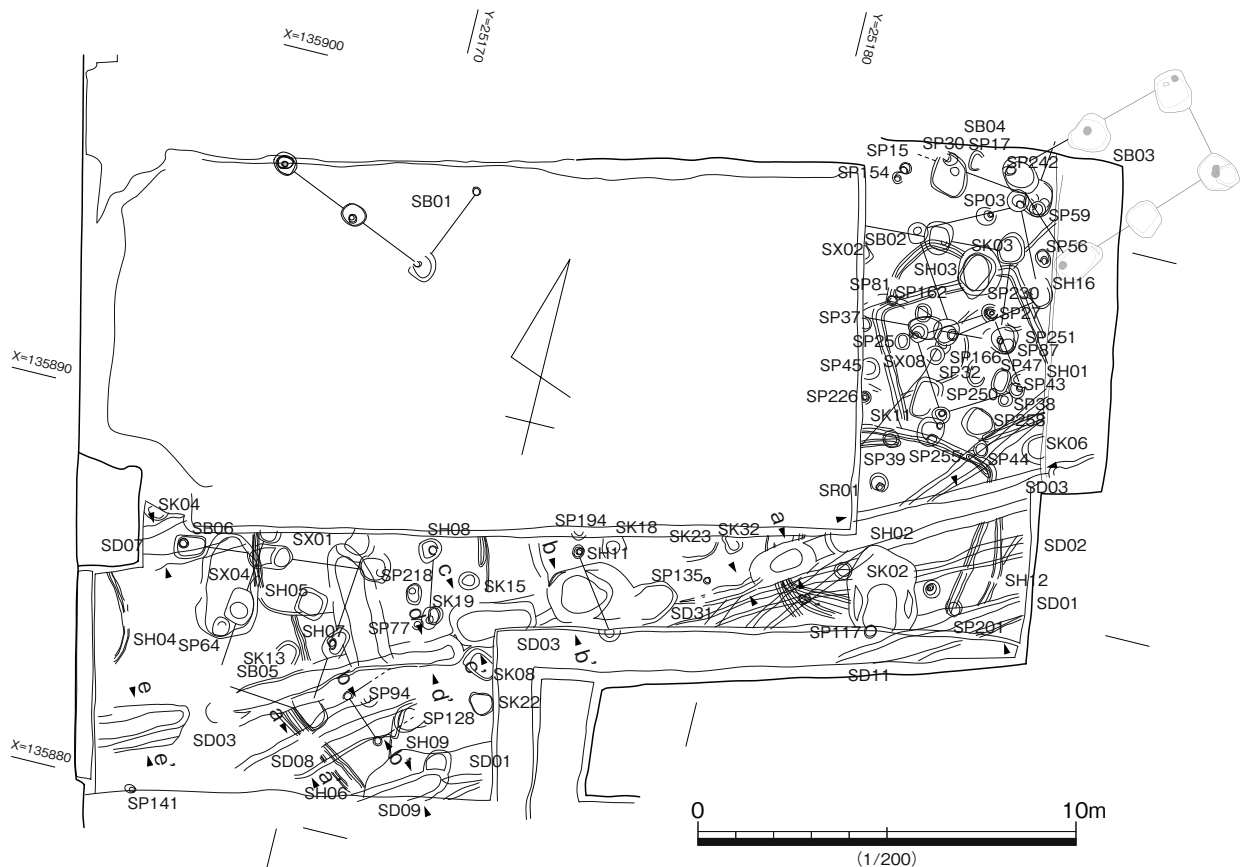
竪穴住居跡12棟、掘立柱建物跡6棟などを検出している。

7-1区 SH03 (図106)

壁溝と4基の支柱穴のうちの3基を検出した。壁溝は、幅20、深さ10cmの規模で多角形状に巡る。多角形になるとすると六角形になる可能性が強く、6.8㎡ほどの規模に復原できる。出土遺物はいずれも細片であるが、弥生時代中期後半に収まるもので、竪穴住居の年代を示すと考えられる。

7-1区 SH04 (図107)

円形の竪穴住居跡である。調査区の西際で一部分のみを検出した。幅15、深さ10cmほどの壁溝が巡る。挿図中の7-1区 SP132は、7-1区 SH04の貼床上面から掘り込まれたもので、壁溝の埋土と類似することから、7-1区 SH04と関連する遺構と考えている。図107の出土遺物実測図は7-1区 SP132と壁溝から出土したものであるが、未図化遺物のなかに明らかに弥生時代後期に下る甕の口縁部細片があることから、7-1区 SH04は弥生時代後期の竪穴住居跡として報告する。



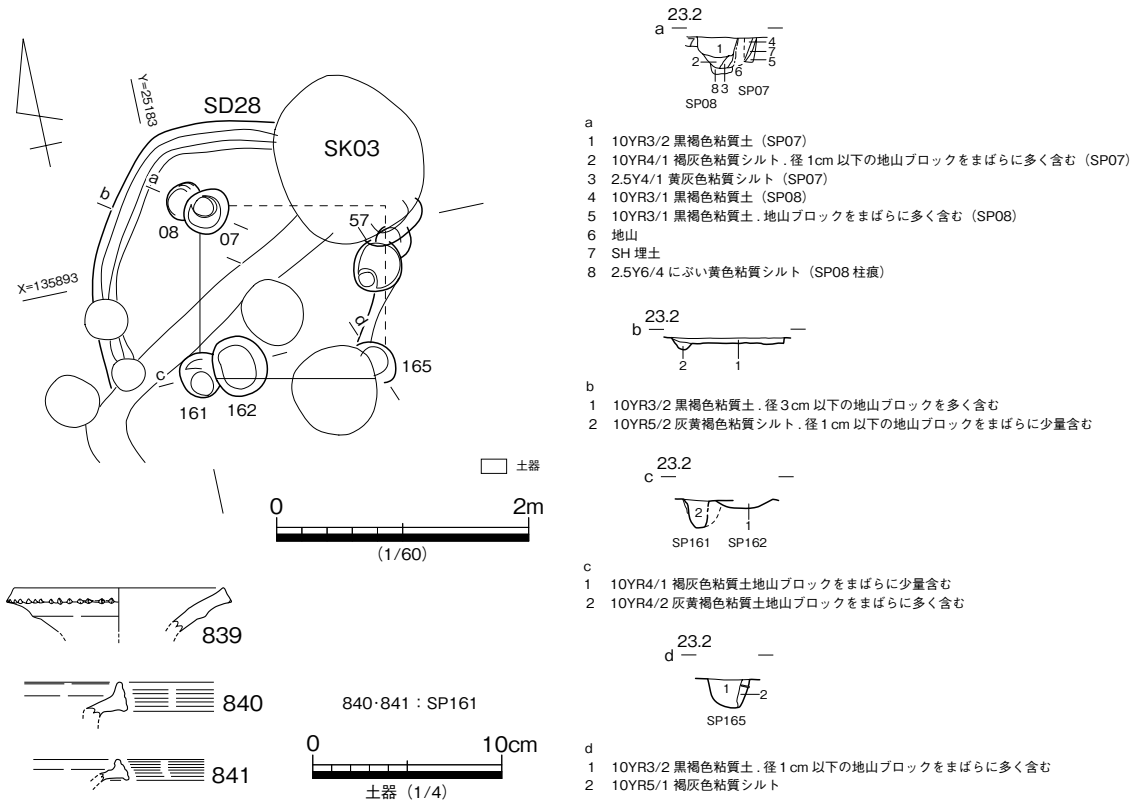


図 106 7-1 区 SH03 平・断面・出土遺物

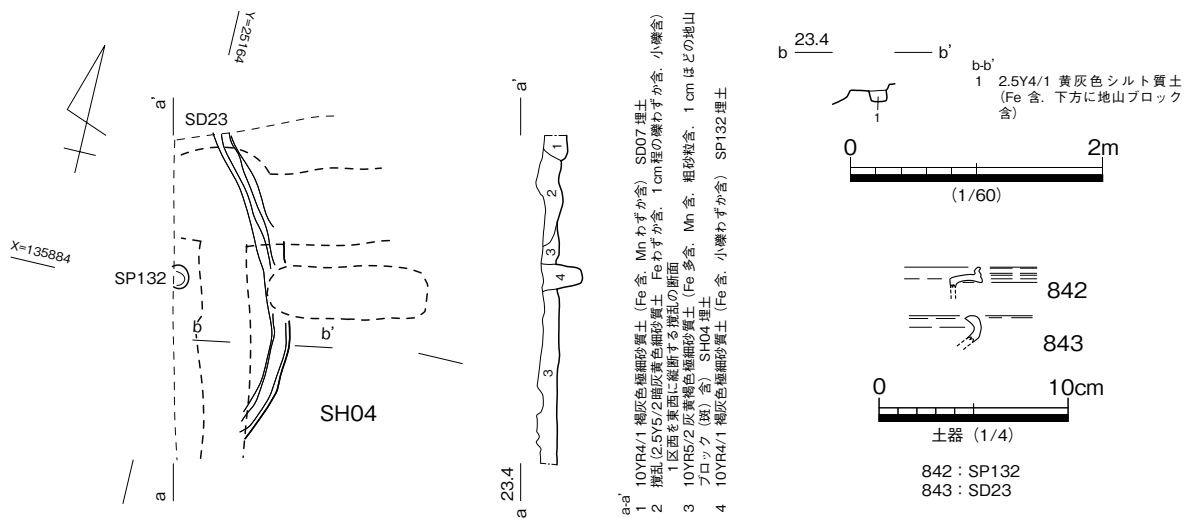


図 107 7-1 区 SH04 平・断面・出土遺物

7-1 区 SH12 (図 108)

7-1 区 SH02 と重複する竪穴住居である。7-1 区 SH02 に壊されて残存状況は不良であるが、ほぼ全周する壁溝 (一部は二重となる)、多角形状に配置される支柱穴、中央土坑を検出した。平面形状は、壁溝が一部直線になる部分があるものの、おおむね弧を描くことから、東西に長い楕円形、支柱穴はやや西に偏るけれども不整な六角形に配置される。中央土坑 (7-1 区 SK29) は、深さ 8 cm で、焼土や炭化物を多量に含む。北側を 7-1 区 SD03 に壊されるため、別の土坑の所在の有無などは不明である。

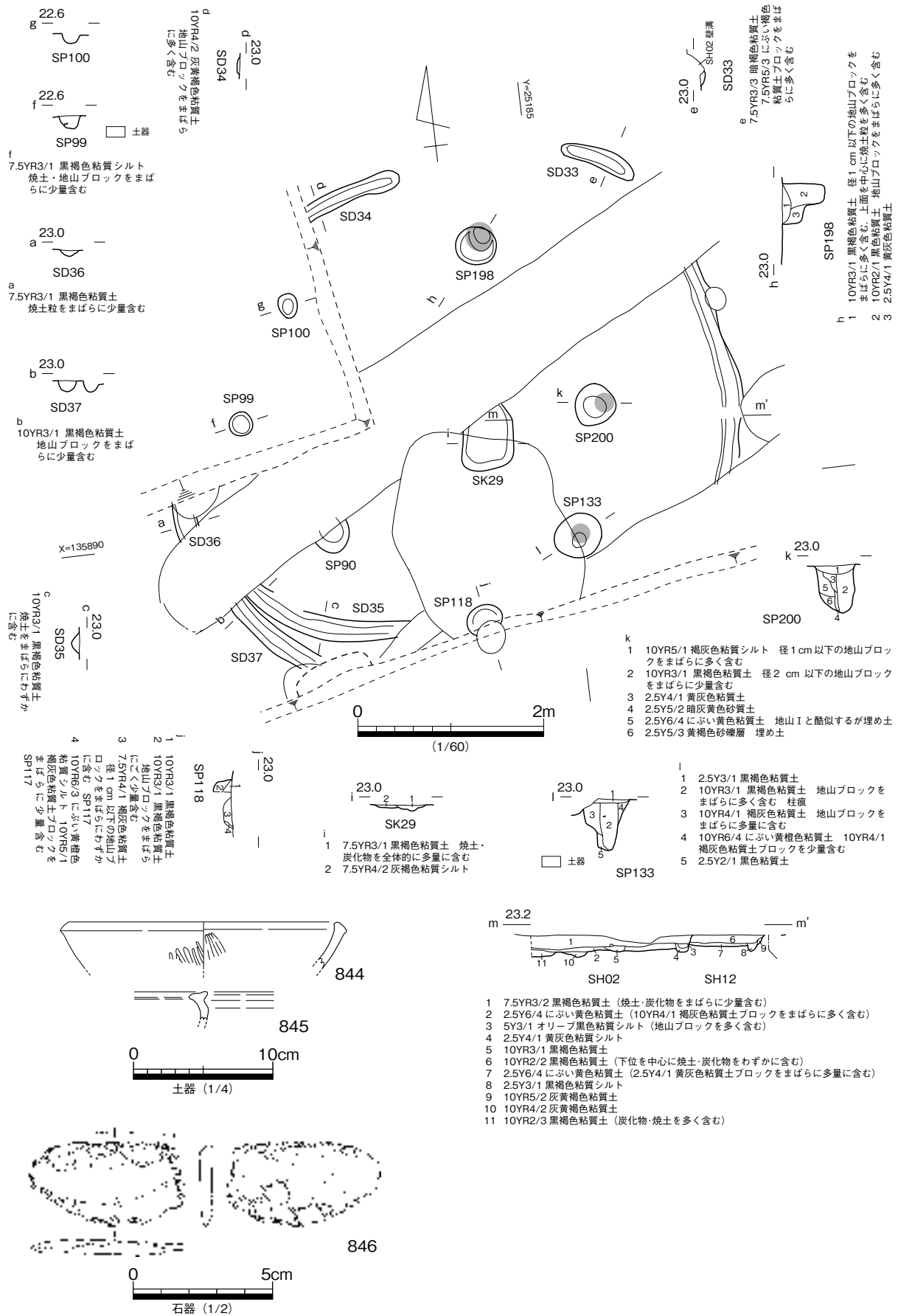


図 108 7-1 区 SH12 平・断面・出土遺物

200点弱の土器細片が出土している。844は弥生土器鉢の細片である。出土遺物から年代を推定することは困難であるが、竪穴住居の平面形状が楕円形を呈し、支柱穴が多角形状に配置されることも合わせて、弥生時代後期後半のものと考えたい。

846はサヌカイト製のスクレイパーである。片面には自然面が残る。上端には敲打による潰れがみられる。また、側端部から下端にかけては両面からの細かな剥離調整が施される（森下）。

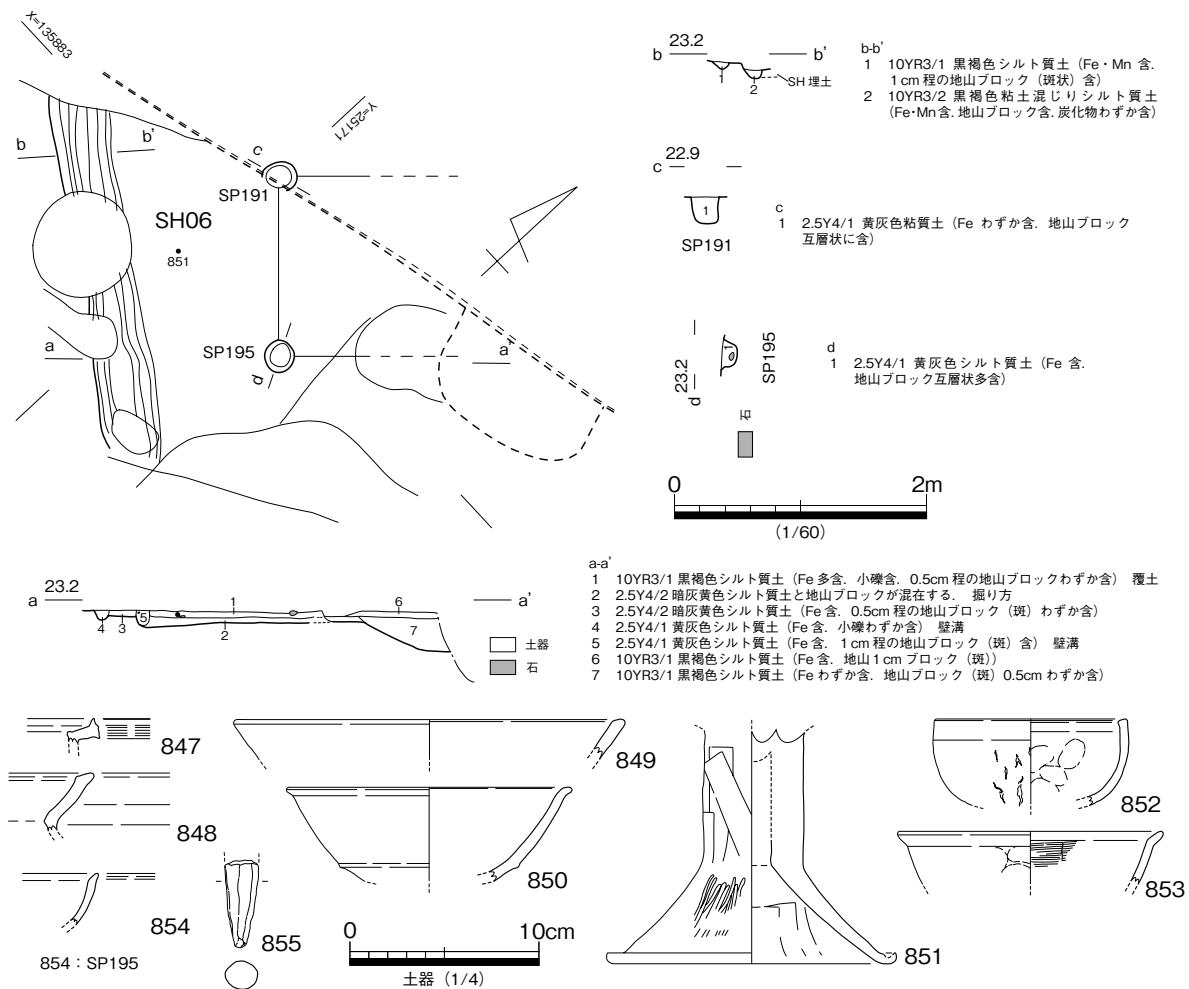


図 109 7-1 区 SH06 平・断面・出土遺物

7-1 区 SH06 (図 109)

西辺の壁溝、4基と考えられる支柱穴のうちの2基を検出した。方形の平面形と考えられるが、本来の規模は不明である。2条の壁溝が平行する。7-1区 SH06の埋土の観察から両者は同時に存在したものと考えられる。847～855は7-1区 SH06関連の遺物実測図である。855は中世土師質土器の足釜の先端部と思われ、誤入と思われる。また、埋土中には須恵器細片も包含するが、7-1区 SH06調査の早い段階に出土したものである。7-1区 SH06上には7-1区 SD08が被っていることから、これらを誤入と考えると、弥生時代終末期から古墳時代前期の遺物が中心となる。以上のことから、7-1区 SH06は古墳時代前期の竪穴住居と考える。

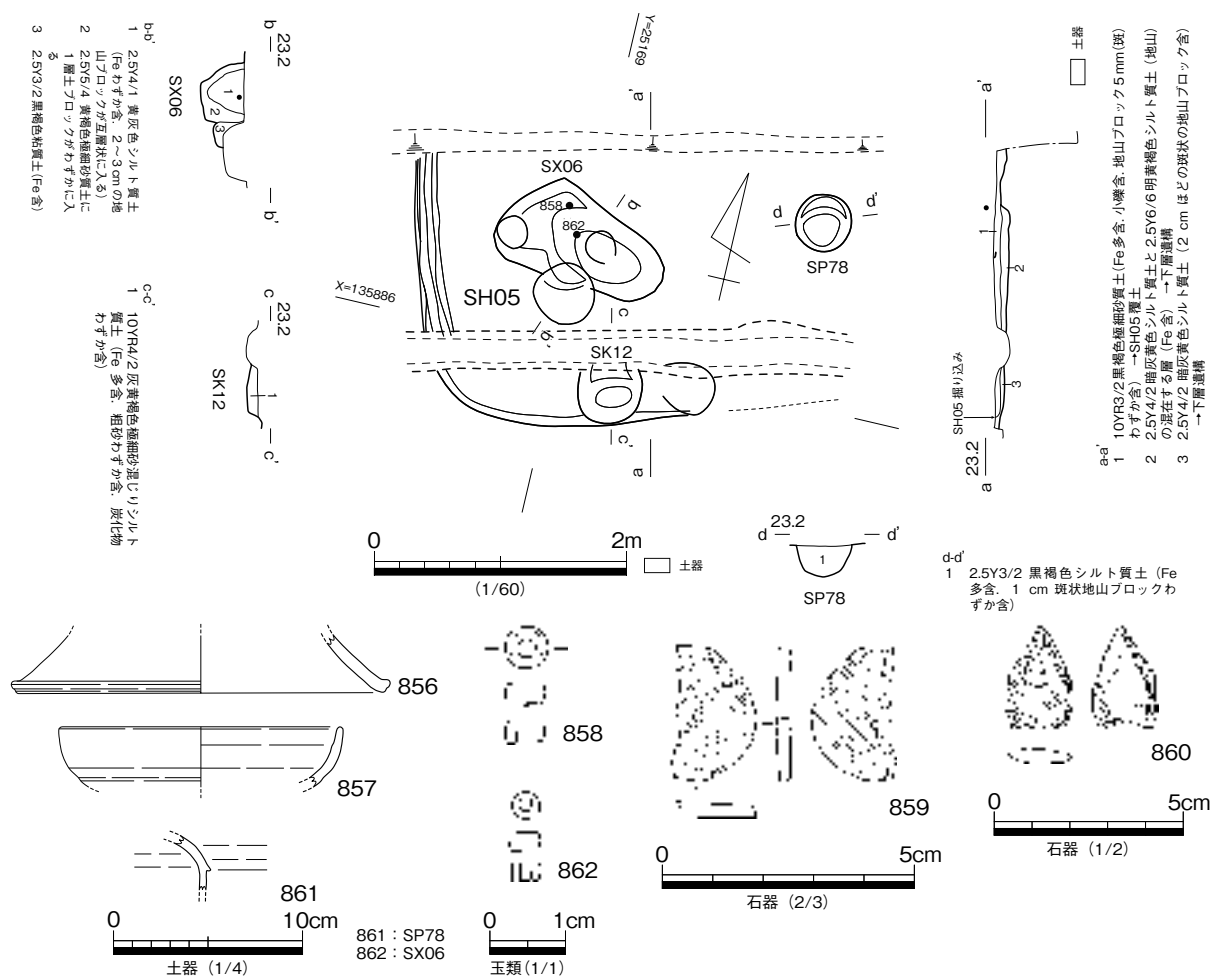


図 110 7-1 区 SH05 平・断面・出土遺物

7-1 区 SH05 (図 110)

方形の竪穴住居跡である。7-1 区 SH07 を切る。7-1 区 SH08 ともしり合い関係があるが、7-1 区 SX04 に壊されることから確認できていない。西辺では幅 18、深さ 10cm ほどの壁溝を検出している。

調査段階においては支柱穴が確認できなかったが、整理時に調査時には 7-1 区 SH05 以前の遺構と考えていた 7-1 区 SX06 に須恵器片が含まれていることが判明し、位置関係から 7-1 区 SX06 と 7-1 区 SP78 を支柱穴と判断した。7-1 区 SX06 は不整形の平断面形を呈するが、柱の抜き取りに伴うものと考えられる。

7-1 区 SH05 からは 400 点を越える土器細片が出土しているが、年代を特定できそうな出土状況を示すものに恵まれない。このうち 857 の須恵器杯は TK217 型式併行と考えられ、7-1 区 SH05 の年代と考えておく。

なお、暗緑色を呈する滑石製白玉 (858、862)、結晶片岩製の有孔円盤 (859)、サヌカイト製の石鏃 (860) が出土している。859 は全体に研磨が施されているが、端のほうには研磨が不十分なところもある。中央部には径 1.5mm の孔がある。元々は円盤状を呈していたものと考えられるが、折損する。割れ口の一部は摩滅することから、折損後研磨または使用されたことがうかがわれる。860 は平基式である (森下)。

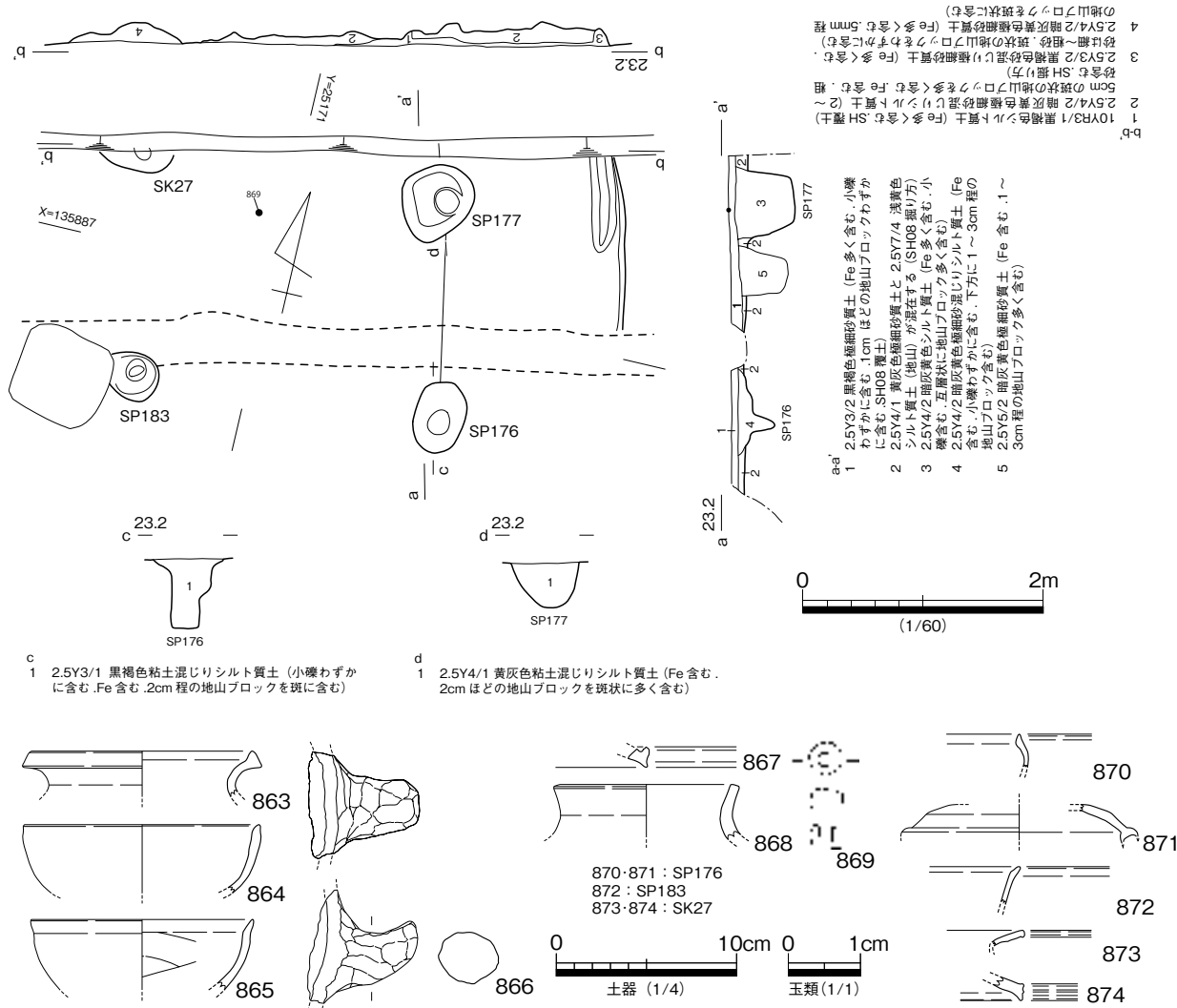


図 111 7-1 区 SH08 平・断面・出土遺物

7-1 区 SH08 (図 111)

東辺の壁溝の一部、2基の主柱穴を検出した。西側は7-1区SH05、07と切り合い関係にあるはずであるが、大半を後代の7-1区SX01に壊されるため詳細不明である。主柱穴は7-1区SP177と7-1区SP176の2基と考えられる。この西側にある柱穴を組み合わせれば、やや歪むものの4基の主柱穴を組み合わせることができるが、この場合、竪穴住居の範囲が7-1区SH05や07の西側に広がることになってしまい、その可能性はない。

竪穴住居の年代を示すような出土状況にある遺物はなく、細片が埋土中から出土したのみである。遺構の年代をもっとも良く示すものは、主柱穴である7-1区SP176から出土した須恵器蓋(871)である。口端部近くのかえりが口端部よりも下方へ突出するもので、埋土中から出土した須恵器壺(868)と合わせてTK217型式併行のものと考えられる。

なお、滑石製の白玉(869)が出土している。暗緑色を呈する(森下)。

7-1 区 SH09 (図 112)

西辺部の掘り方を検出した。7-1 区 SH06 を切る。7-1 区 SD01、SD08、病院施設関連の攪乱に壊されて、一部が遺存するのみで本来の形状は不明である。埋土から時期幅のある土器片が出土している。877 は TK209 もしくは TK217 型式併行と考えられる須恵器杯、878 は小片のため不明確であるが、高杯と考えられる。TK217 型式併行期かと思われる。これらの須恵器が 7-1 区 SH09 の年代を示すと考える。

7-1 区 SH07 (図 113)

西辺の壁溝のみを検出した。7-1 区 SH05、7-1 区 SX01 に切られる。位置関係から 7-1 区 SP174 を支柱穴の 1 基と考えるが、何基の支柱穴からなる竪穴住居がわからない。また、7-1 区 SP182 も位置関係から 7-1 区 SH07 に関係するものと考えられる。

壁溝、埋土からは 100 点を越える土器細片が出土しているが、年代を決められるような出土状況を示す土器は見られない。879、881 は明らかに混入したもので、880 の須恵器蓋は端面に内傾する面をもたないものである。882 は 7-1 区 SP182 から出土した須恵器高杯である。このほか、未図化であるが、埋土から薄い器壁の製塩土器(備讃V式)片が出土している。以上から、7-1 区 SH07 は古墳時代後期の竪穴住居と考える。

7-1 区 SH11 (図 114)

西辺の掘り方と支柱穴 1 基を検出した。南半部は『旧練兵場

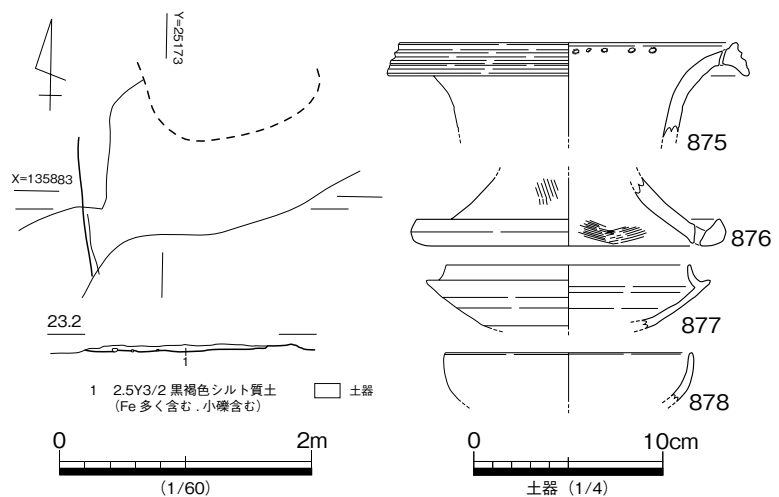


図 112 7-1 区 SH09 平・断面・出土遺物

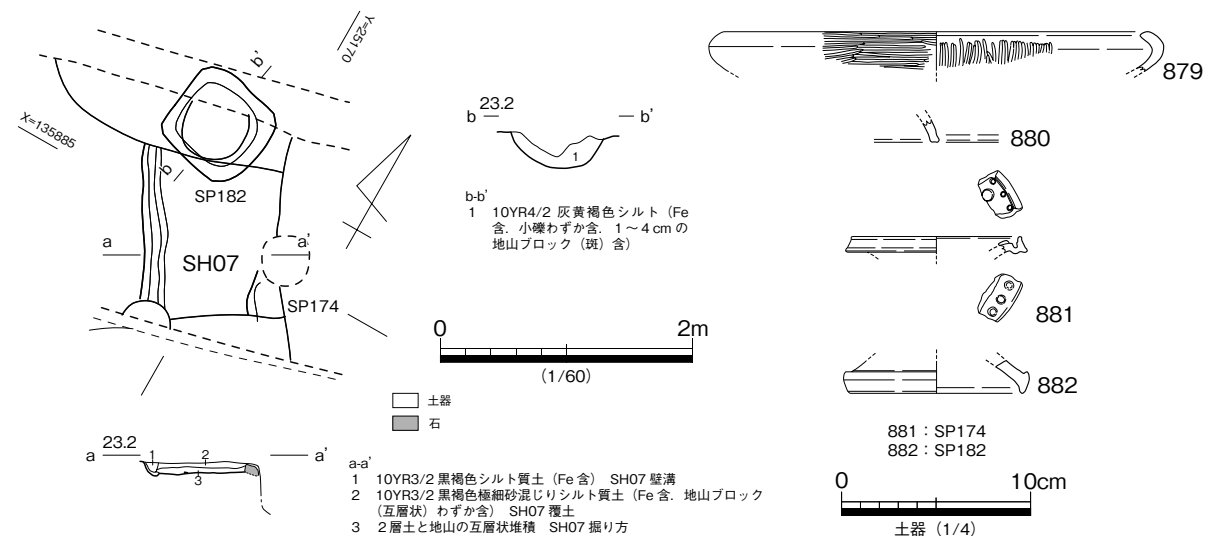


図 113 7-1 区 SH07 平・断面・出土遺物

遺跡Ⅲ』V区SH6015と接続すると考えられる。長辺4、短辺2.5mの長方形で2基の支柱穴からなる竪穴住居に復原される。須恵器片を含む多数の土器片が出土したが、時期を特定し得るものは含まれない。883～888は7-1区SH11出土の遺物実測図である。886は一面に櫛描き重弧文を施した分銅形土製品、885は須恵器高杯の脚端部細片である。過年度調査区のV区SH6015では、備讃V式の薄手コップ形の製塩土器が出土していることから古墳時代後期前葉としているが、7-1区SH11も同様と把握できる。

このほかに、暗緑色を呈する滑石製の白玉（887）、サヌカイト製の石鏃（888）が出土した。888の片方の側縁は欠損する（森下）。

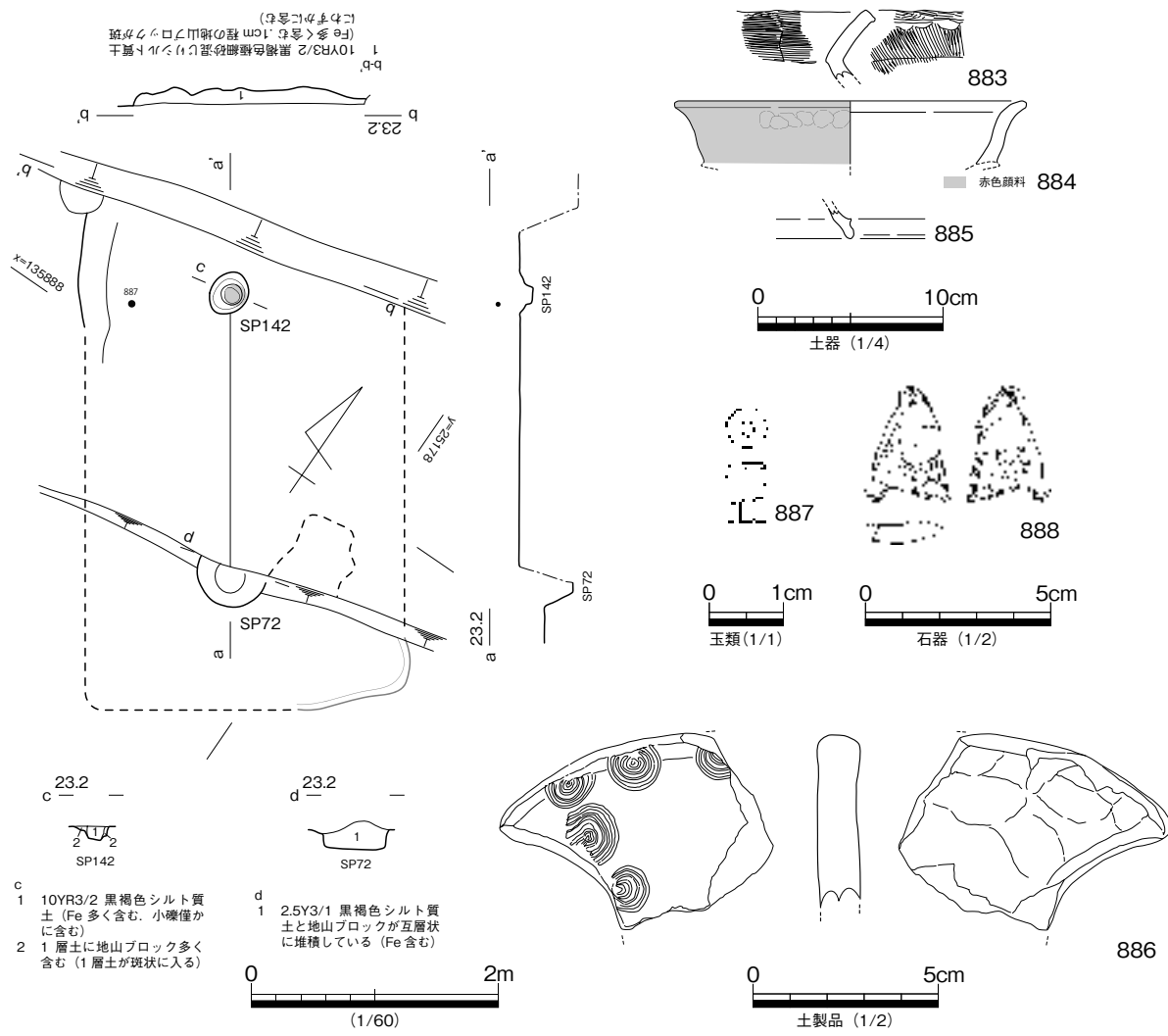


図 114 7-1 区 SH11 平・断面・出土遺物

7-1 区 SH01 (図 115)

方形の竪穴住居跡である。7-1 区 SH02 に切られる。四周に壁溝が巡り、支柱穴は 4 基からなる。造り付けの竈はない。

住居の規模は、一辺約 4.3 m、建物の方向は N - 33° - W である。柱間寸法は 2 ~ 2.2 m、壁溝は幅 25、深さ 10cm ほどの規模である。

7-1 区 SH01 からは、遺物細片が多数出土しているが、遺構の年代を示すような出土状況の遺物はなく、

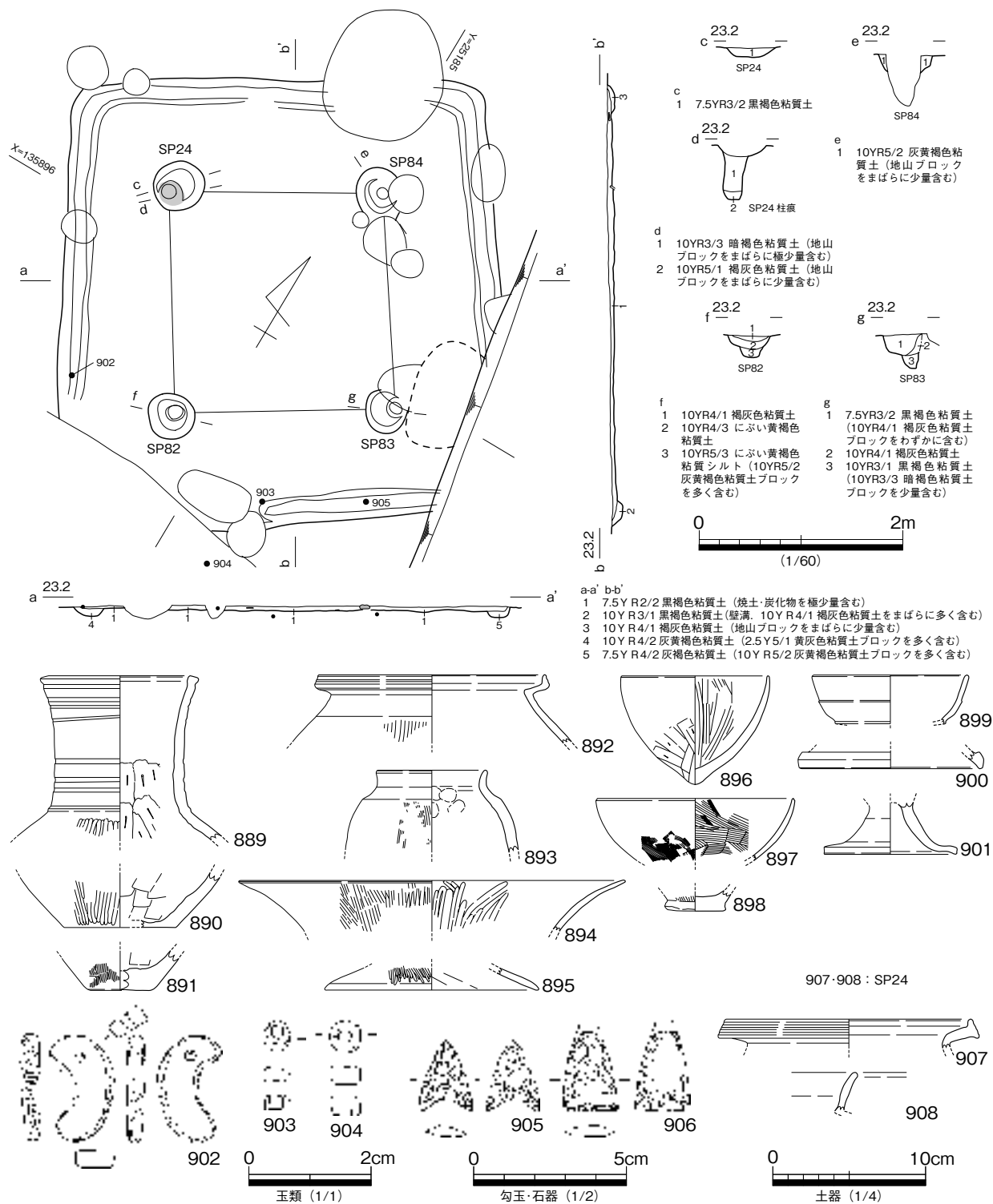


図 115 7-1 区 SH01 平・断面・出土遺物

弥生時代中期後半から古代にいたる時期幅を持った遺物が出土している。ここは7-1区SR01の埋土が障害となって、遺構の掘り方が極めて見にくい状況であるため、後代の遺構が検出できずに後代の遺物が混入した可能性も否定できない。しかし、7-1区SH01の埋土を除去した後に検出した柱穴からも須恵器片が出土している事例が1例ではなく数例あるため、7-1区SH01の年代を新しく考えざるを得ない。

図 115 のうち最も新しい遺物は、901 の須恵器高杯である。床面直上から出土したものでTK48 型式併行期のものである。しかし、これを7-1区SH01の年代とするには、7-1区SH02との関係からも無理

と思われ、899 と 900 も時期幅があることから古墳時代後期のいずれかの時期の竪穴住居と考えられる。なお、内面に朱が付着する土器細片が1点出土している。

玉類は、滑石製の勾玉 (902)、同製の白玉 (903、904) が出土している。いずれも暗緑色を呈する。902 は腹部に7条の線状の凹みがあり、背部は研磨が不十分で稜が残る。円孔は両面から穿孔される。また、サヌカイト製の石鎌 (905、906) が出土している。905 は凹基式である。906 は平基式で、先端部が欠損する (森下)。

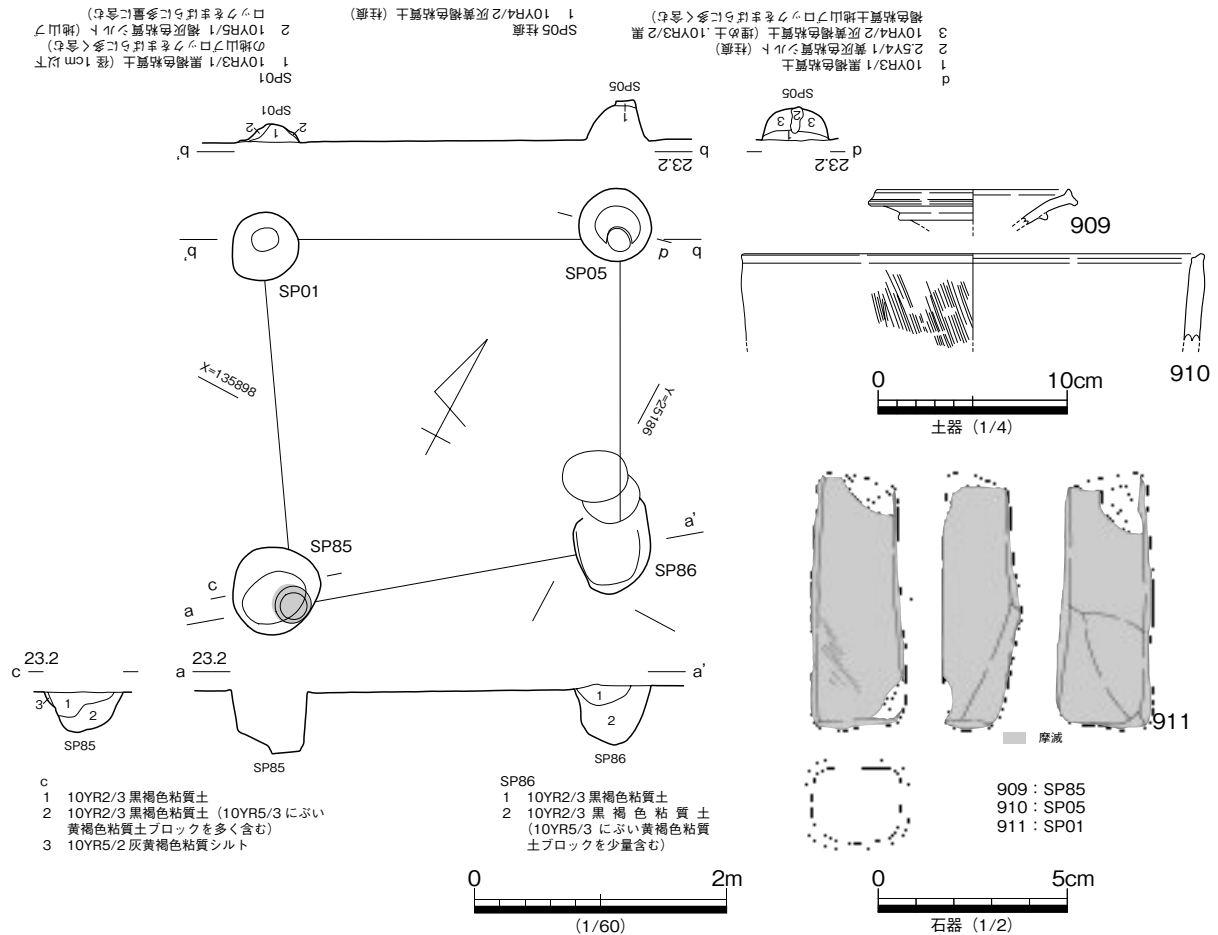


図 116 7-1 区 SH16 平・断面・出土遺物

7-1 区 SH16 (図 116)

方形に並ぶ主柱穴4基のみ検出した。このうちの1柱穴が、7-1区SH01に切られているため、これよりも古いものである。柱間寸法は2.4～2.9cm、柱の方位はN-32°-Wを測る。

7-1区SP01は砥石のほかに、須恵器細片が出土している。7-1区SP05からは、弥生時代中期後半の細頸長頸壺(909)のほか弥生土器細片数点、7-1区SP85からは、土師器甌の口縁部と考えられる小片のほか、多数の弥生土器細片とともに、立ち上がり有する須恵器杯の細片が出土している。7-1区SP86からは70点あまりの弥生土器細片とともに器種不明の須恵器片が出土している。

911は流紋岩製の砥石である。割れ面以外は摩滅する(森下)。

以上、7-1区SH15の年代を特定する資料に恵まれないが、古墳時代後期の竪穴住居と考えられる7-1区SH01よりも古く、立ち上がり有する須恵器杯が出土していることから7-1区SH01よりは古い古

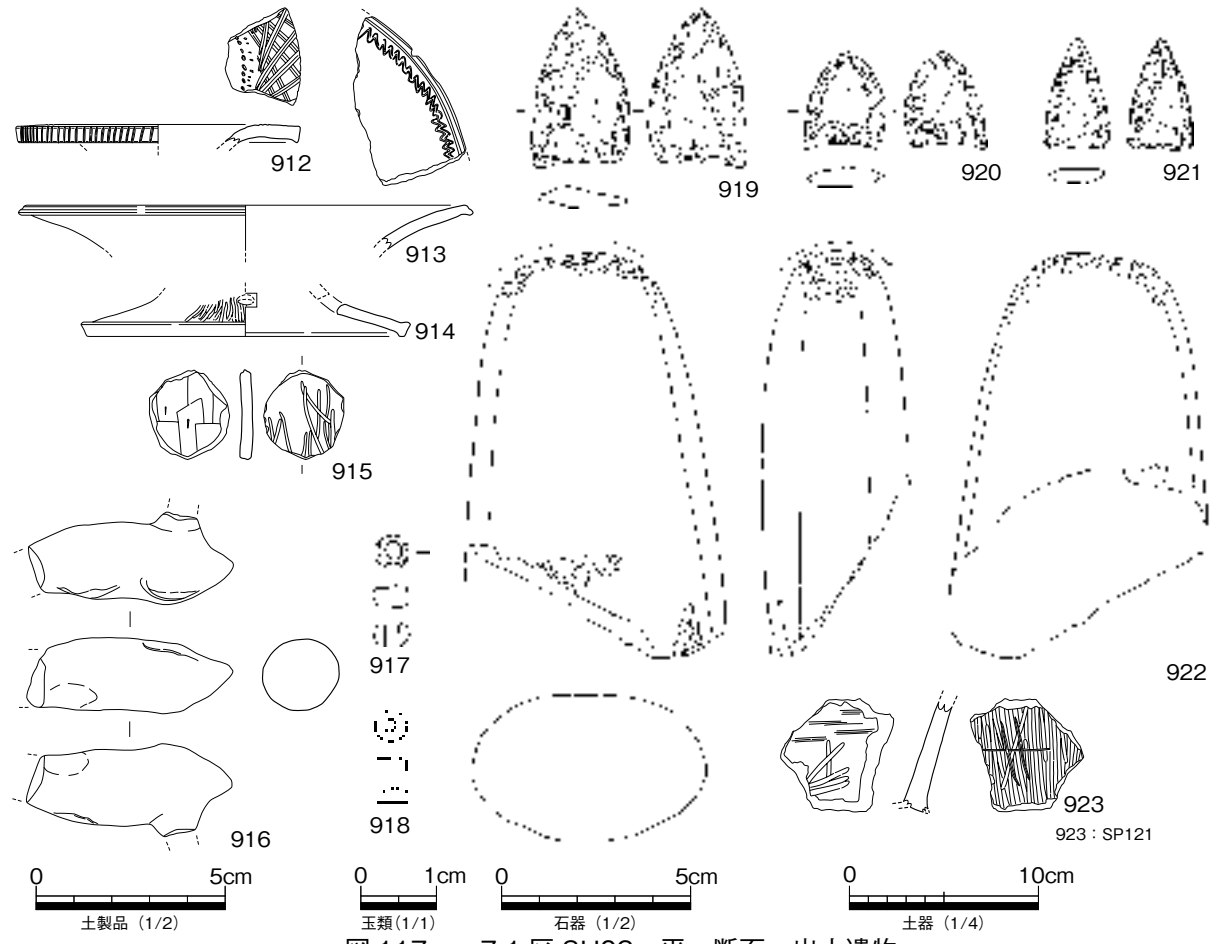
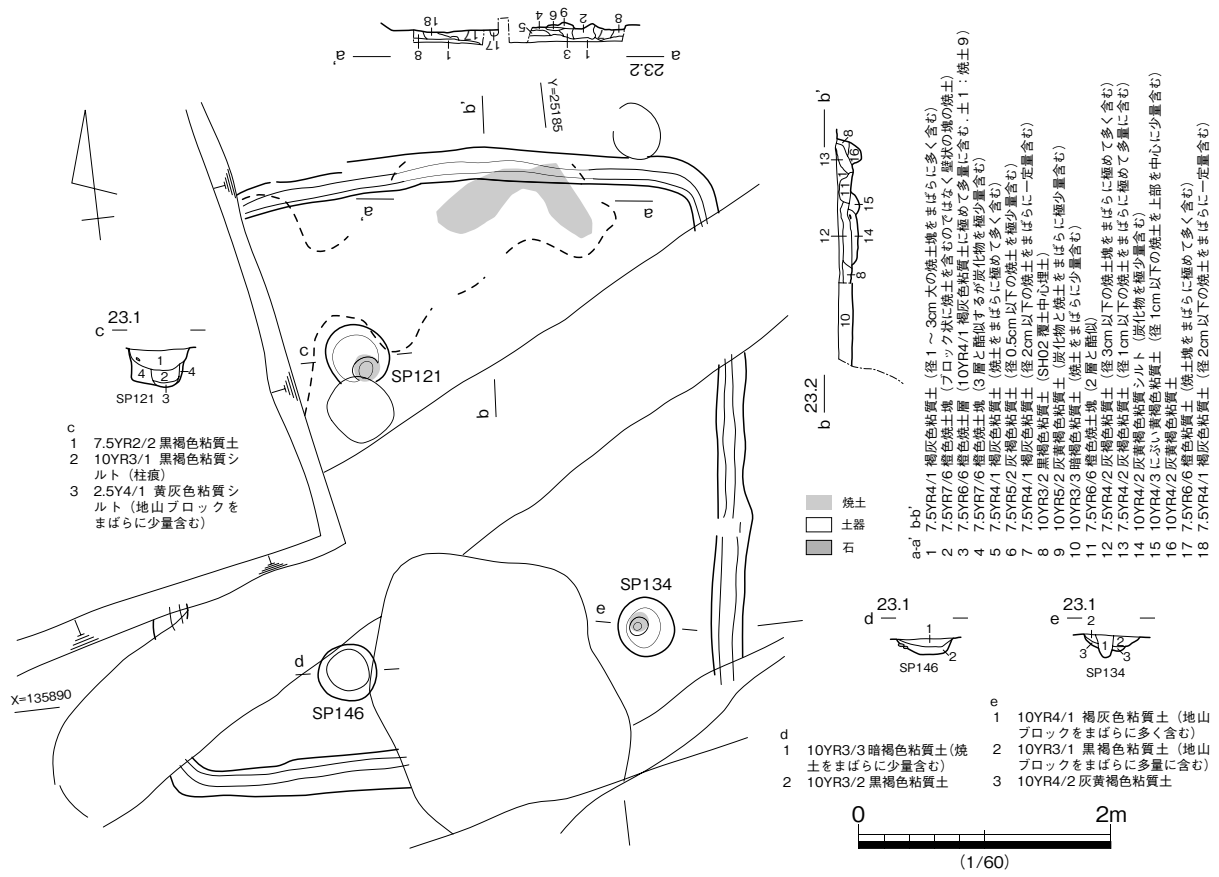


図117 7-1区 SH02 平・断面・出土遺物

墳時代後期の竪穴住居跡と考える。

7-1 区 SH02 (図 117)

方形の竪穴住居跡である。7-1 区 SH01、7-1 区 SH12 を切る。住居規模は、1 辺約 5 m の正方形で、建物方位は N - 5° - E である。幅 15、深さ 8 cm ほどの規模の壁溝が四周に巡る。支柱穴は 4 基からなり、東北側をのぞく 3 基を検出した。支柱穴は竪穴住居の掘り方よりも若干東南にずれている。

7-1 区 SH02 の支柱穴より北側の範囲の埋土中には焼土が多量に含まれている。焼土を除去していくと、最も焼土が集中する部分が造りつけの竈の平面形と類似する形態となった。しかし、焼土によって竈を構築したとしても周囲に散乱する焼土との関係が説明できないことから、焼土は 2 次的な堆積層と考えられる。他所で生成した焼土が竪穴住居埋没の際に堆積したものとする。

7-1 区 SH02 からは、遺物細片が多数出土しているが、遺構の年代を示すような出土状況の遺物はなく、弥生時代中期後半から古墳時代後期にいたる時期幅を持った遺物が出土している。915 は弥生土器の壺か甕の体部を打ち欠いて円盤状に整形したものである。916 は、動物形土製品である。円柱状の粘土塊の一端を尖り気味におさめて尾を表現している。頭部は欠損する。脚を付しており、もとは 4 脚あったと考えられるが、3 脚分は欠損し、脚部を付けていた爪形の痕跡がのこっている。

7-1 区 SH02 には、古墳時代後期に属する立ち上がりを有する須恵器杯のほか、須恵器細片数点が出土している (未図化)。須恵器は、貼床中や壁溝、支柱穴である 7-1 区 SP121 からも出土していることから、7-1 区 SH02 は古墳時代後期にまで下る竪穴住居である。

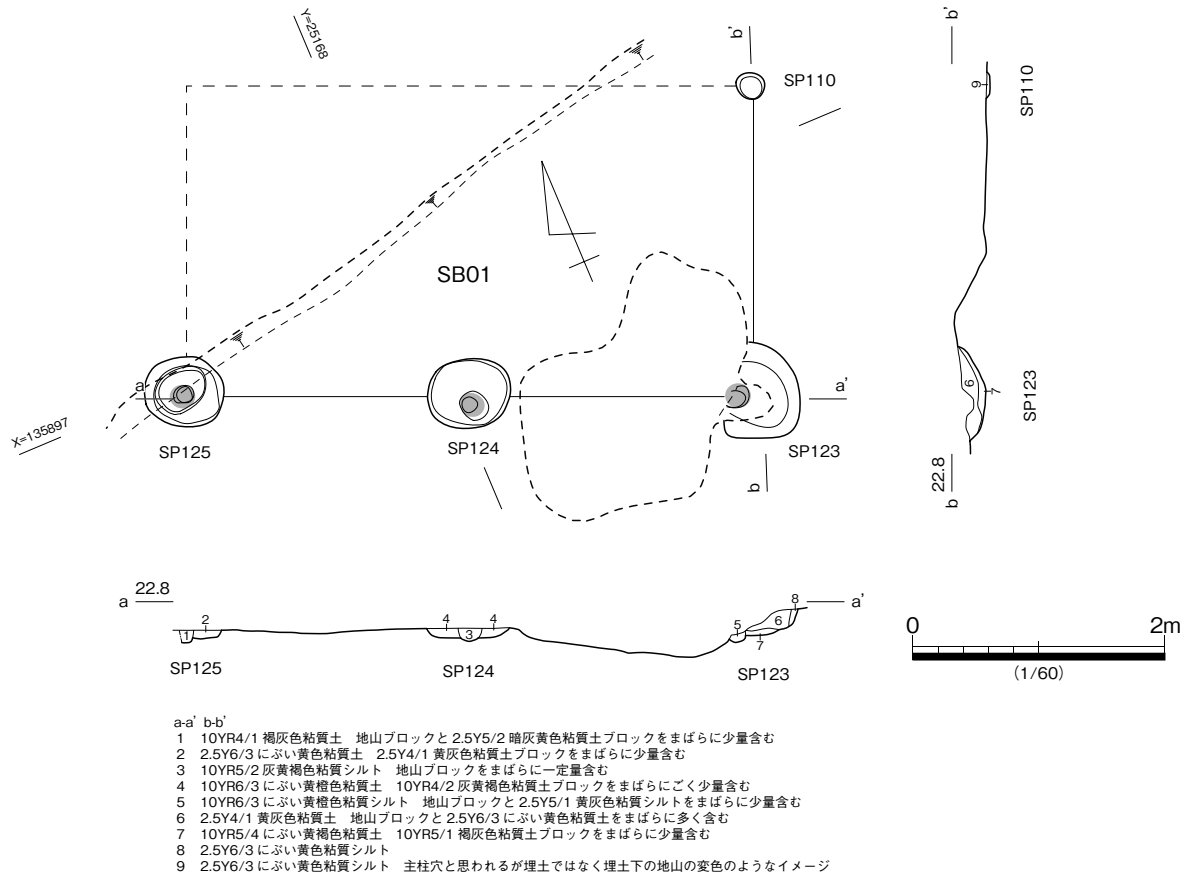


図 118 7-1 区 SB01 平・断面

917、918 は滑石製の白玉である。暗緑色を呈する。このほかにサヌカイト製の石鏃（919～921）、太型蛤刃石斧（922）が出土した。919、921 は平基式、920 は凹基式である。922 の石材はひん岩の可能性が高い。刃部を欠損する。基部には敲打による潰れがみられる（森下）。

7-1 区 SB01 (図 118)

病院関連施設（寄宿舎）によって大きく壊されていた部分に、かろうじて遺存した掘立柱建物である。桁行 2 間（4.4 m）以上、梁行 1 間（2.5 m）以上となる。仮に 7-1 区 SP123～125 を桁と考え、梁 1 に対し桁を 2 倍に設定した本遺跡において多く見られる平面形の掘立柱建物となる。桁行の方位は N - 67° - W を測る。北西部は次年度整理予定の 7-2 区に延びる。

柱穴からの遺物の出土は僅少で、時代を推定できるものはないが、埋土の様相等から弥生時代中期段階の掘立柱建物の可能性が高いと考えている。なお、梁間と桁 1 間の長さが等しく、桁行はその長さを 2 倍した建物平面形になり、本遺跡の弥生時代中期の掘立柱建物に多く見られる平面形になると推定されることも傍証となろう。

7-1 区 SB02 (図 119)

1 間 × 1 間の掘立柱建物である。なお、桁行は西側に延びる可能性を残すが、攪乱によって不明であ

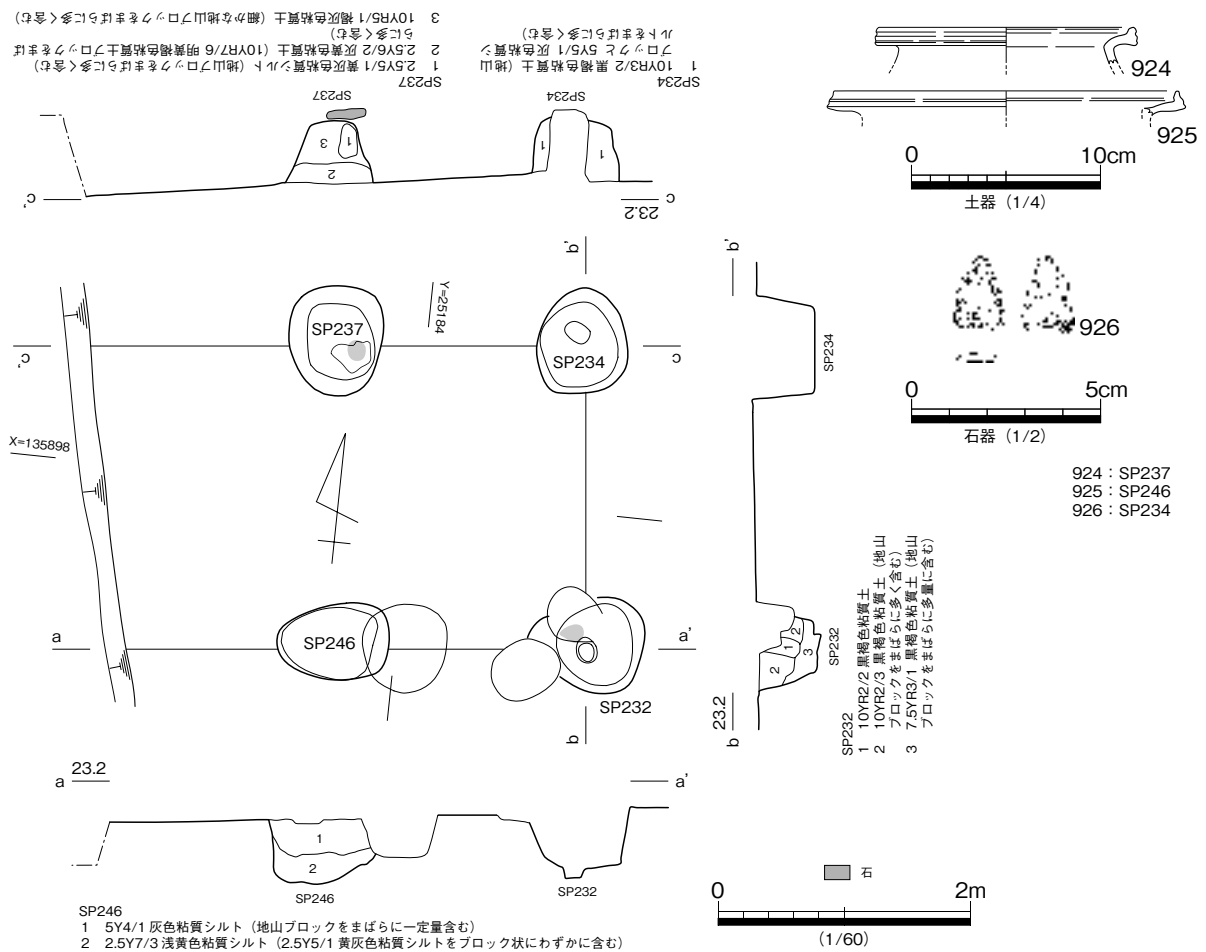


図 119 7-1 区 SB02 平・断面・出土遺物

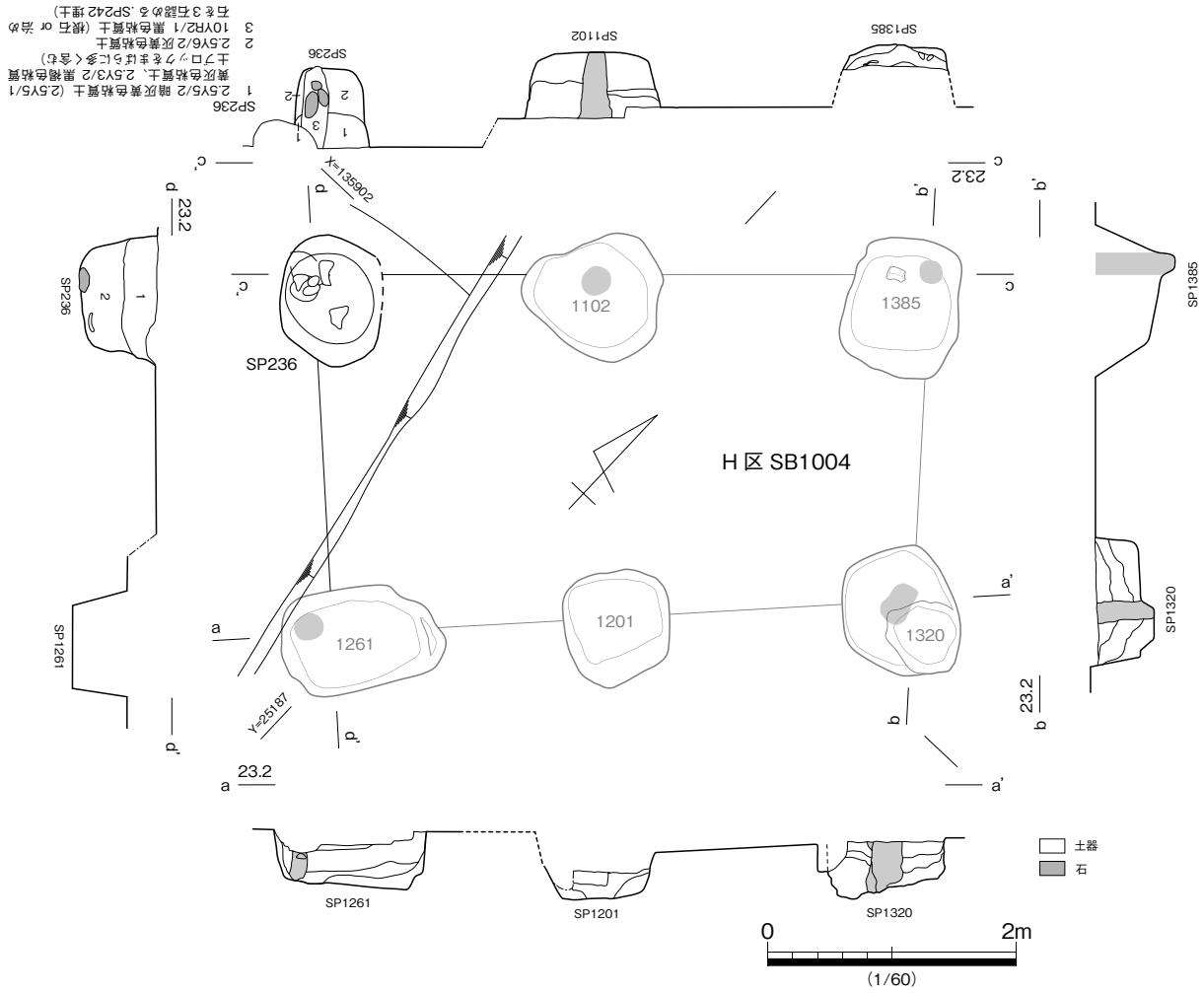


図 120 7-1 区 SB03 平・断面

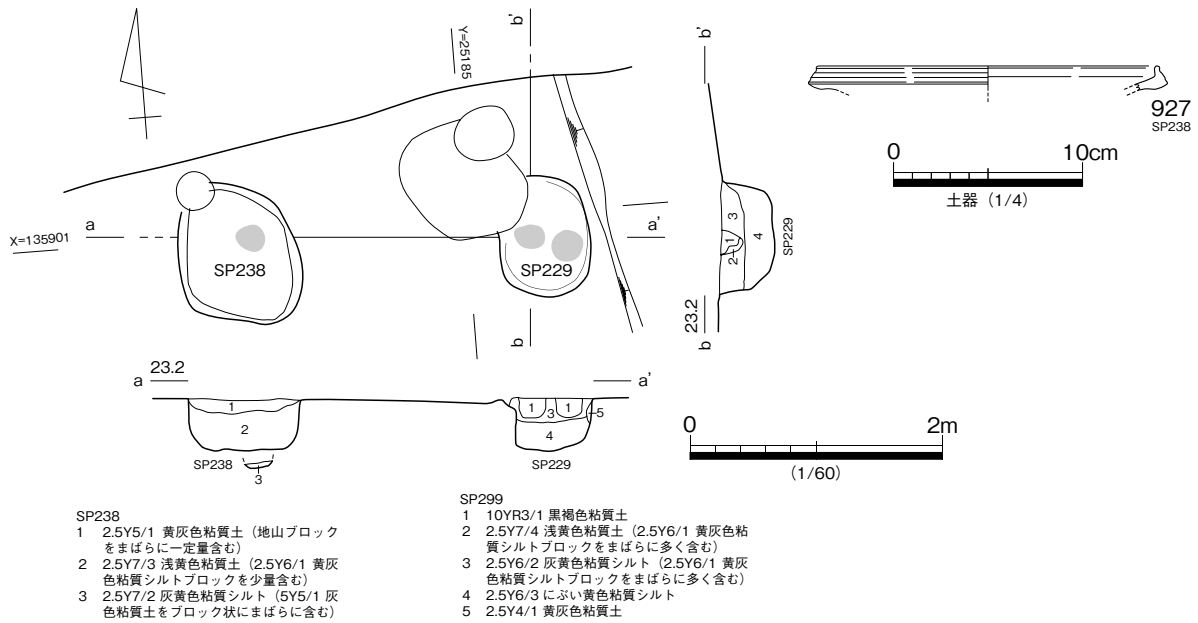


図 121 7-1 区 SB04 平・断面・出土遺物

る。柱間寸法は南北が約 2.4 m、東西が約 2.0 m を測り、東西軸は N - 84° - E を測る。柱穴は長軸 0.9 m、短軸 0.7 m ほどの不整形円形を呈する。いずれの柱穴からも弥生土器細片が出土し、924・925 から弥生時代中期後半に属するものと考えられる。

926 はサヌカイト製の石鏃である。凹基式を呈する（森下）。

7-1 区 SB03 (図 120)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』で H 区 SB1004 として報告された掘立柱建物を構成する 1 穴が検出されている。これにより本掘立柱建物は桁行 2 間 (5.0 m)、梁行 1 間 (2.6 m) の建物であることが確定した。梁の長さを 1 とすると桁の長さが 2 となる本遺跡に多く見られる平面形の掘立柱建物である。図化可能な遺物はなかったが、弥生土器片 30 点あまりが出土している。過年度の調査成果から弥生時代中期後半の建物である。

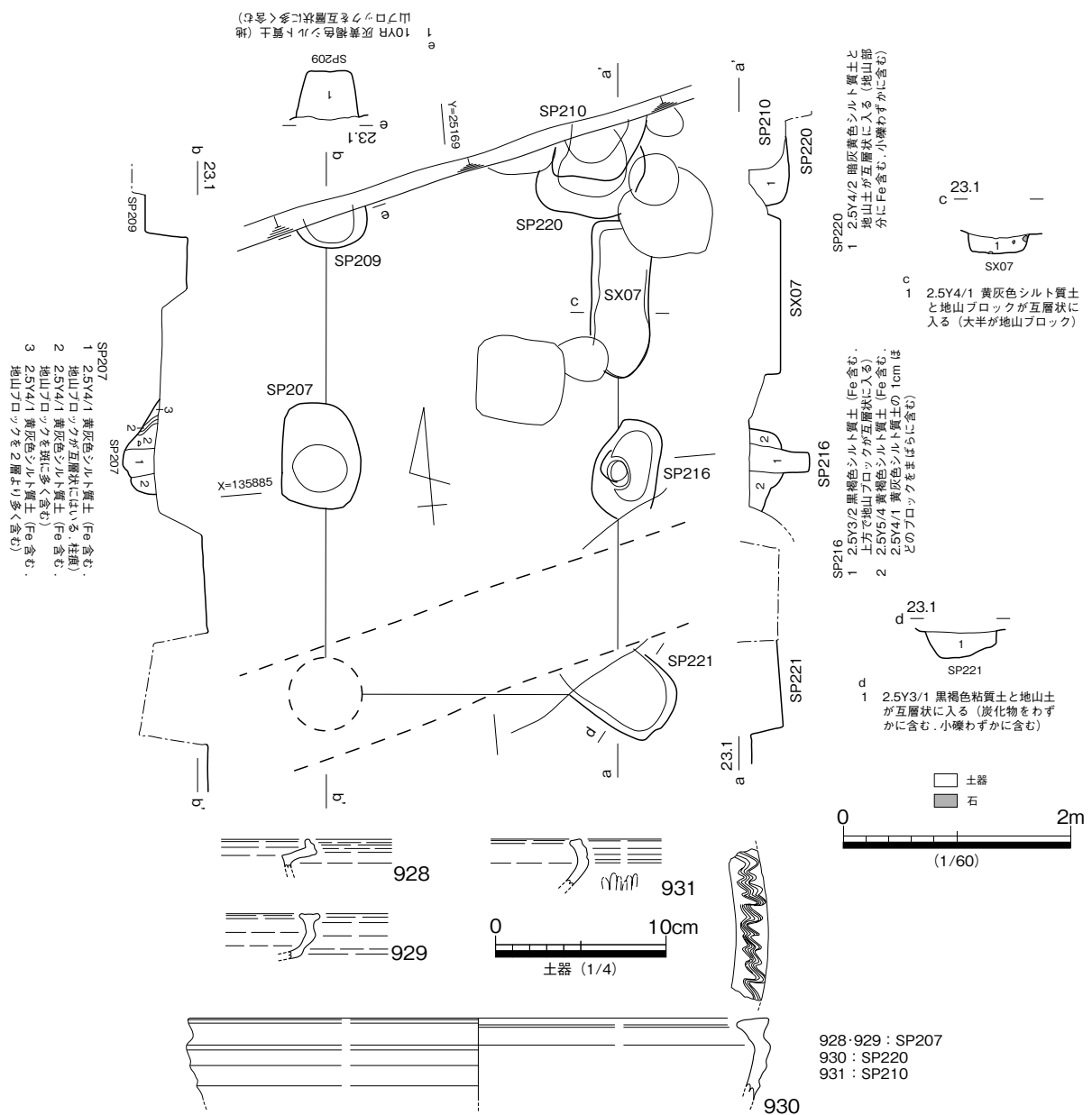
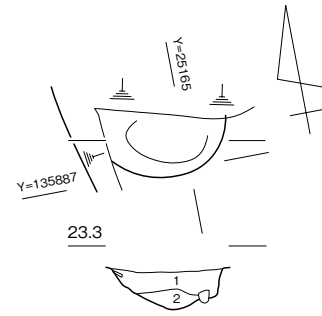


図 122 7-1 区 SB05 平・断面・出土遺物

7-1 区 SK04 (図 124)

調査区西端で検出した遺構である。底面の形状から土坑と考えたが、西側は調査区外に、北側は攪乱によって破壊されるため本来の形状は不明である。933 の須恵器蓋細片のほか、須恵器、弥生土器、土師器の細片が 60 点あまり出土している。埋土も隣接する 7-1 区 SD07 に類似することから古代の遺構と考えられる。



- 1 2.5Y4/1 黄灰色シルト質土 (Fe、Mn 含、地山ブロックわずかな、小礫わずかな)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質土と 10YR6/4 に近い黄褐色粘質土 (地山) のブロック

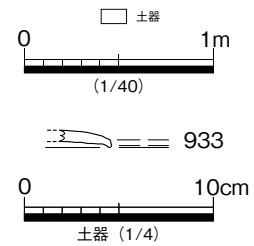


図 124 7-1 区 SK04
平・断面・出土遺物

7-1 区 SK02 (図 125)

短軸 1.8、長軸 2.1、深さ 0.3 m ほどの規模の、不整円形の土坑である。断面形は浅い皿状を呈する。南端は調査区外に延びる。7-1 区 SD01 および 7-1 区 SD02 を切る。埋土中層の南端付近を中心に 5 ~ 40cm ほどの砂岩重円礫が集中する。礫には北から南に向かって瓦重ね構造が見られるため、北方から乱雑に投棄されたと考えられる。土師質土器杯、土師質土器土釜および土釜脚部、須恵器 (瓦質焼成) 土釜などが出土している。中世後半の遺構と考えられる。

938 は、サヌカイト製の石包丁である。側端部には浅い抉りがある。片方の側端部は欠損する。背部には敲打による潰れがみられる。両面の一部は摩滅する (森下)。

7-1 区 土坑 (図 126)

7-1 区 SK15

7-1 区 SH08 と重複する位置で検出した土坑である。弥生土器細片が多数出土している。実測遺物も弥生土器であるが、切り合い関係があり 7 世紀代の 7-1 区 SH08 より新しい。

7-1 区 SK18

7-1 区 SH11 と重複する位置で検出した土坑である。弥生土器細片が 30 片あまり出土しており、実測遺物も弥生土器であるが、切り合い関係があり古墳時代後期の 7-1 区 SH11 よりも新しい。

944 は、碧玉製の管玉である。一部が残存しているだけであるが、大形で径 0.7cm 程度であると推定される。暗緑色を呈する (森下)。

7-1 区 SK22

北半分は病院施設により壊されるが、径 0.7、深さ 0.4 m ほどの規模の不整円形の土坑である。7-1 区 SH09 の埋土除去後に検出した。弥生土器片が出土している。ミニチュア壺、甕、高杯を図化した。比較的摩滅しておらず、埋土の様相からみても弥生時代中期後半に遡る遺構と考えられる。

7-1 区 SK23

不定形の凹地。埋土は 10YR4/1 褐灰色シルト質土である。弥生土器と考えられる破片が多数出土している。949 は土師器甌の口縁部片と考えられる。

7-1 区 SP128

検出段階では柱穴と認識したが、遺構掘り方が広がることがわかり、土坑状の規模となった。埋土は 10YR3/1 黒褐色シルト質土である。20 片あまりの弥生土器細片が出土したが、年代を特定しうような出土状況ではない。7-1 区 S H 09 との層位関係から 7-1 区 S H 09 以前の遺構と考えられる。

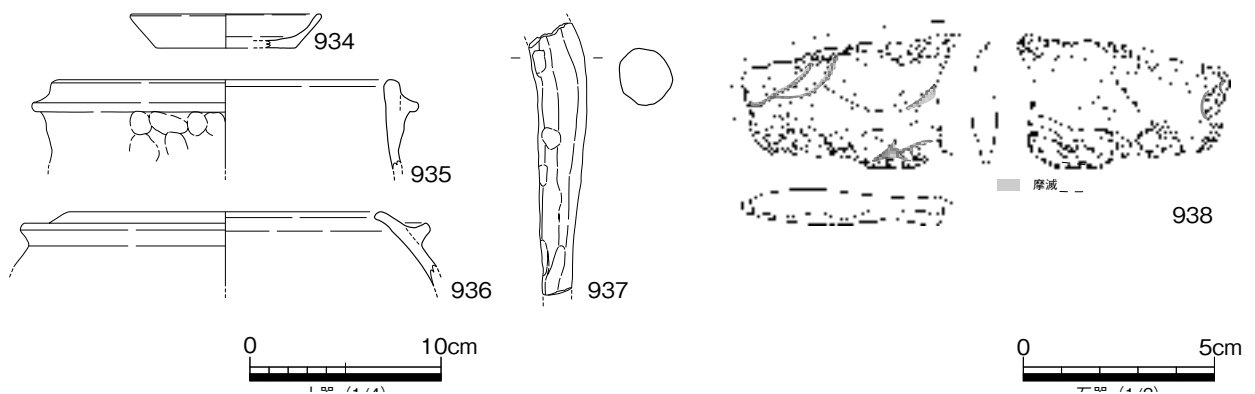
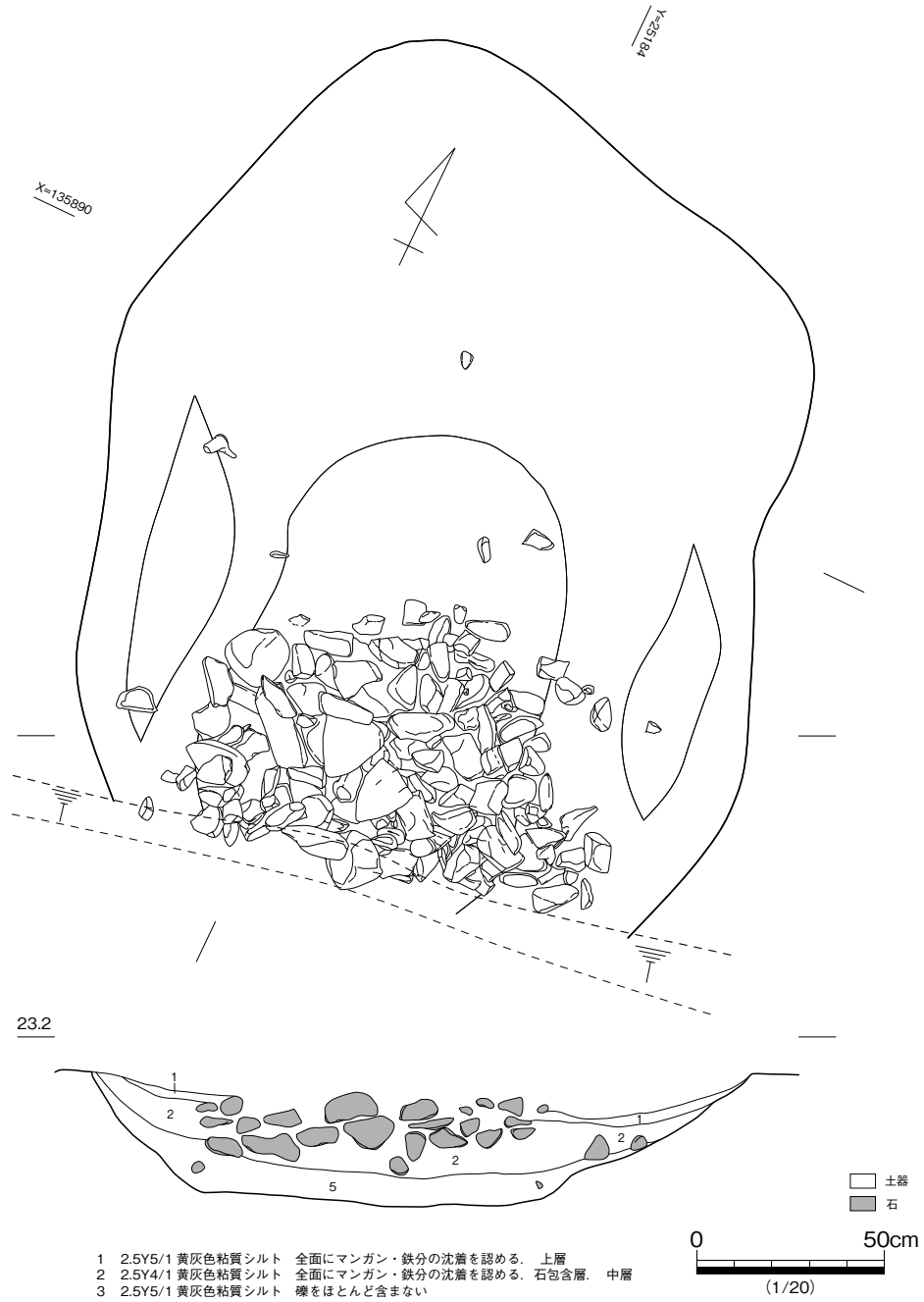


図 125 7-1 区 SK02 平・断面・出土遺物

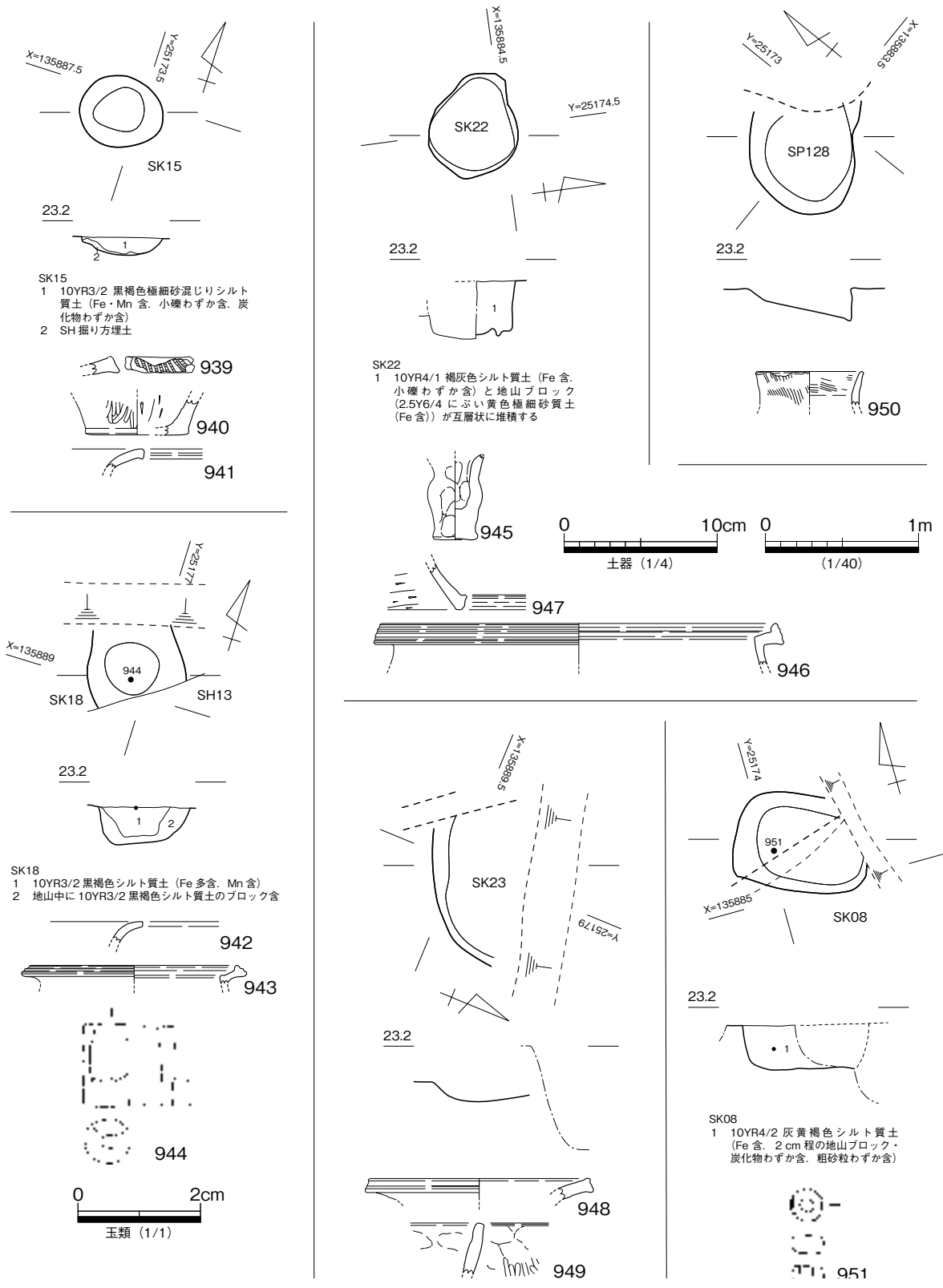


図 126 7-1 区柱穴・土坑(1) 平・断面・出土遺物

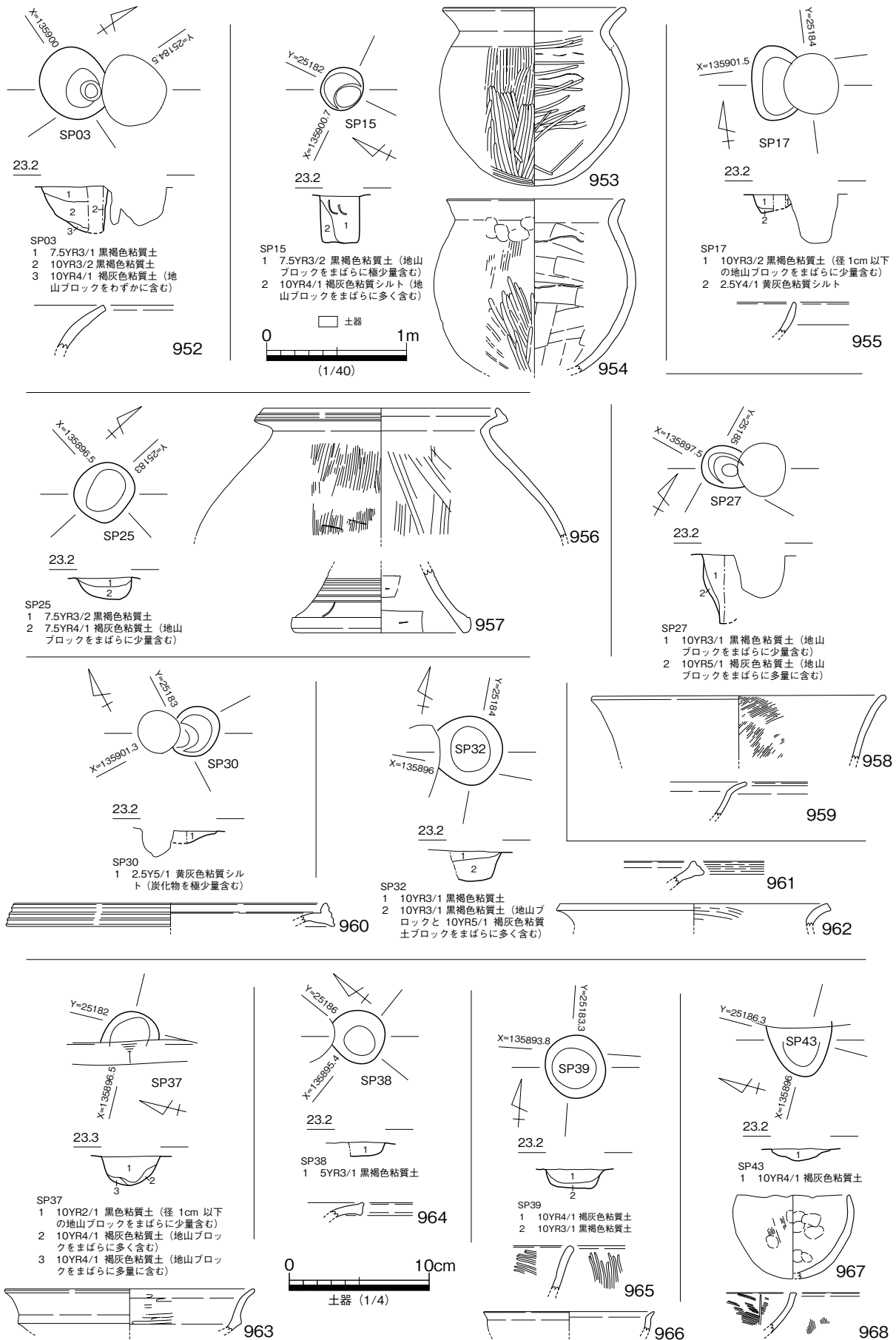


図 127 7-1 区柱穴・土坑 (2) 平・断面・出土遺物

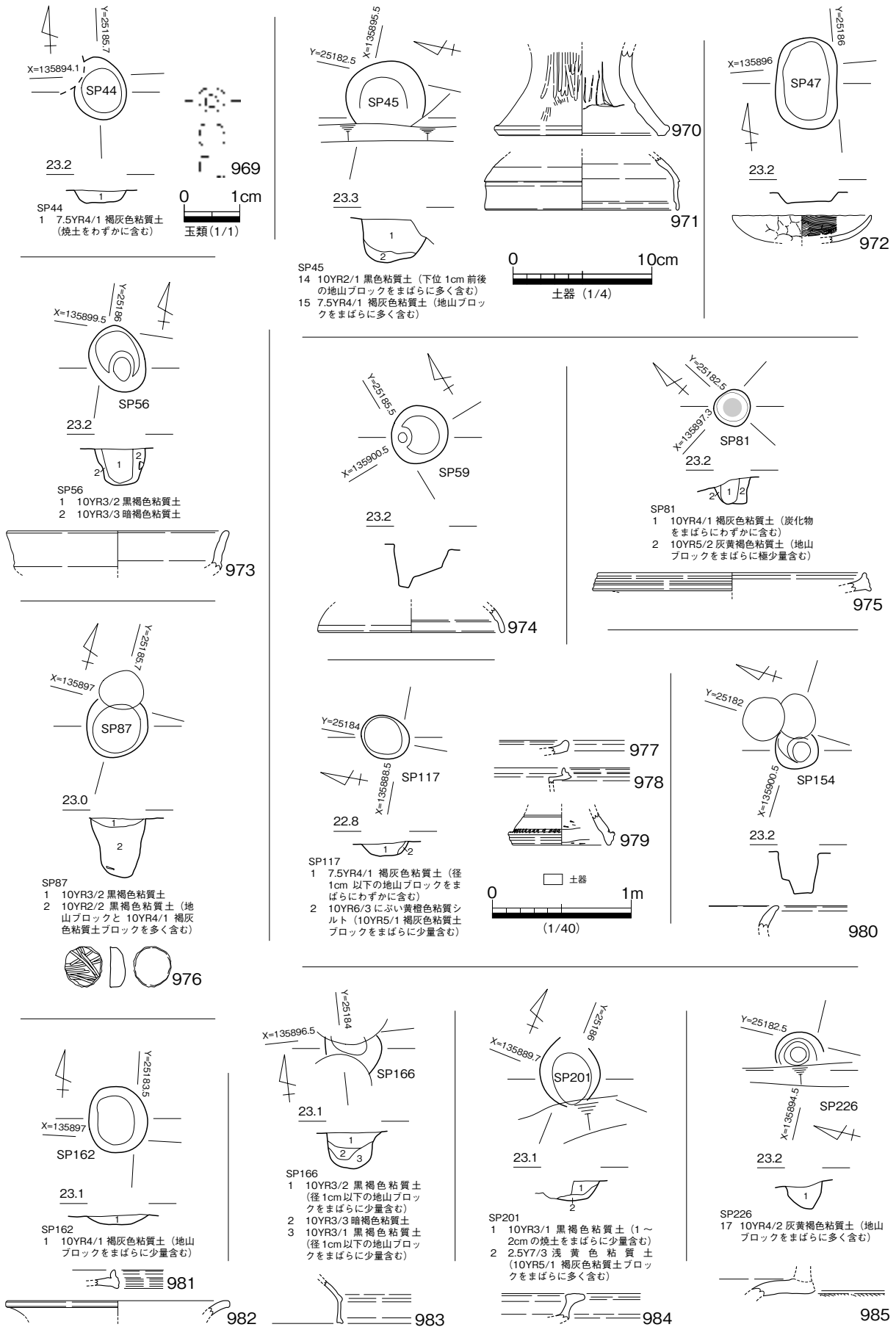


図 128 7-1 区柱穴・土坑 (3) 平・断面・出土遺物

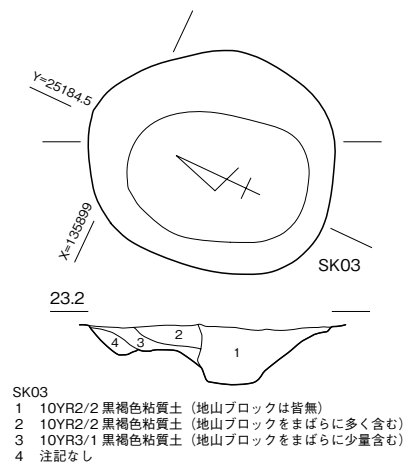
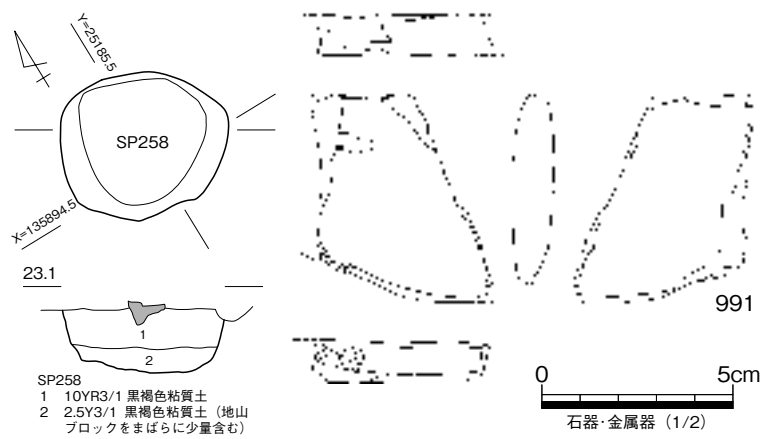
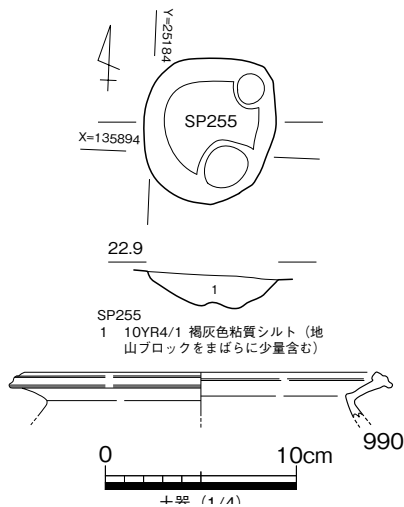
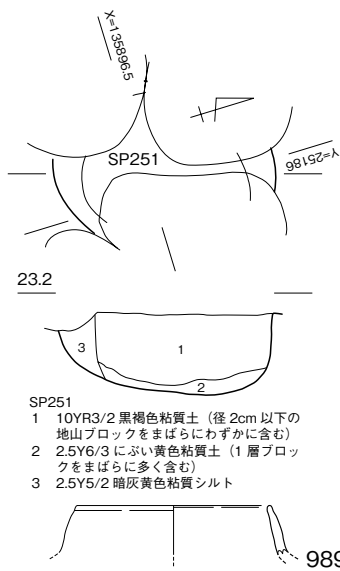
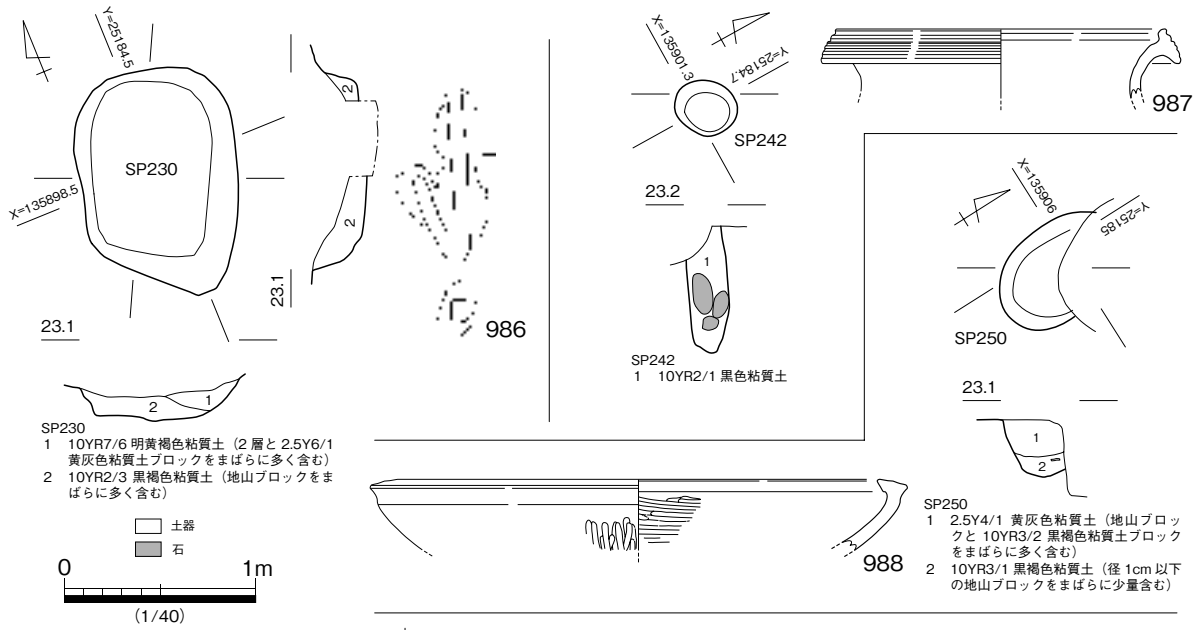


図 129 7-1 区柱穴・土坑 (4) 平・断面・出土遺物

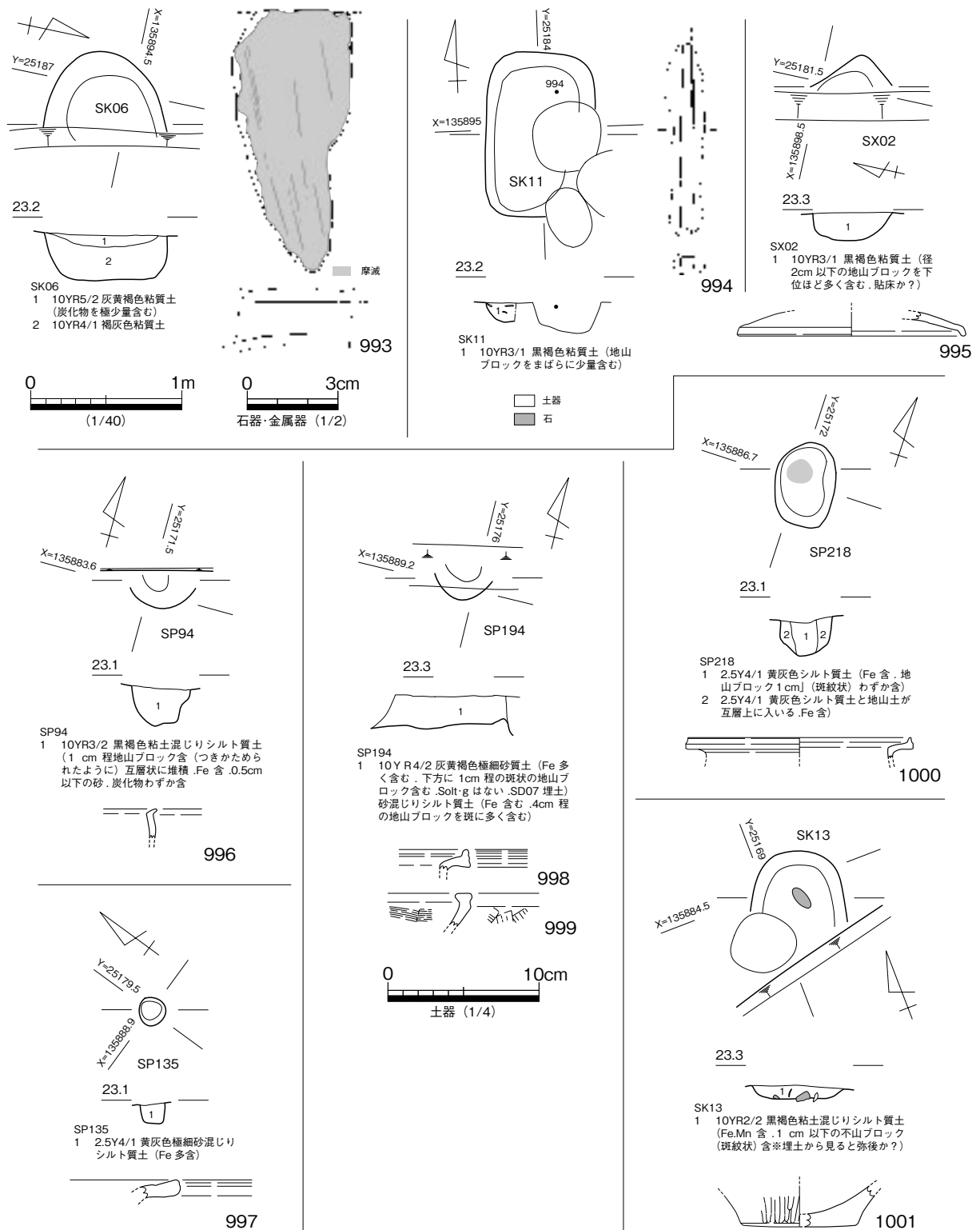


図 130 7-1 区柱穴・土坑 (5) 平・断面・出土遺物

7-1 区 SK08

隅丸長方形の土坑である。長軸 1.0、短軸 0.6、深さ 0.3 m ほどの規模である。須恵器細片を含む土器片が多数出土しているが、年代を特定しうるような出土状況ではない。

951は、滑石製の白玉である。暗緑色を呈する（森下）。

7-1区柱穴、土坑（図127～131）

7-1区SP15

30片あまりの弥生土器片に混じって土師器甕の破片が2個体分（完形にはならない）出土している。7-1区の北端で検出しているため、次年度整理予定の7-2区の遺構に関係するものがあるかもしれないが、7-1区内には関連遺構は見当たらない。また、本遺構が古墳時代前期の年代を示すことから、柱穴埋土に指標になるような特徴を見出されればよいのであるが、とくに特徴になるような要素は見られない。

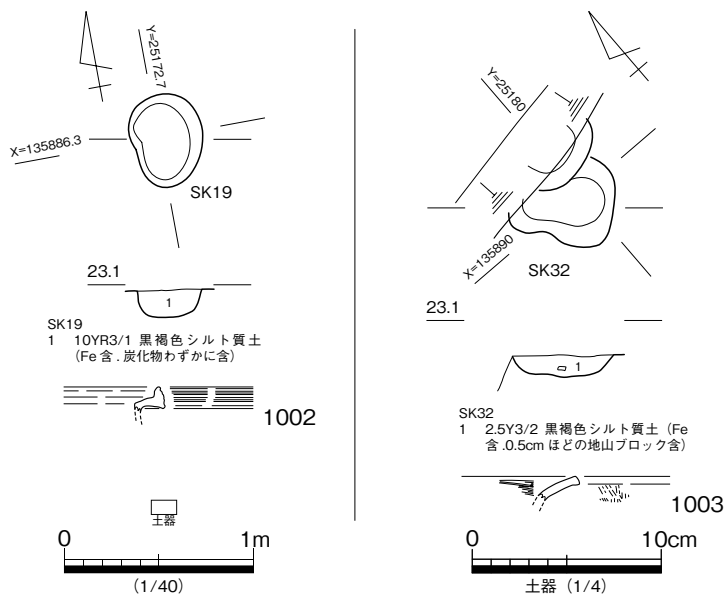


図131 7-1区柱穴・土坑(6) 平・断面・出土遺物

7-1区SP25

7-1区SH01、7-1区SX08と位置的に重複する。957の高杯は、7-1区SH01の床面を掘り下げているときに出土したものと接合関係にある。垂直方向に施されるヘラ描き沈線、胎土の様相から吉備地方からの搬入品と考える。956の甕も弥生時代後期前半のものと考えられ、下層遺構（7-1区SX08に伴う新しい一群の土器）に伴う可能性が考えられる。

7-1区SP44

滑石製の白玉（969）が出土した。暗緑色を呈する（森下）。

7-1区SP230

鉄釘（986）が出土した。断面形は方形を呈し、折れ曲がる（森下）。

7-1区SK03

サヌカイト製の楔状石核（992）が出土した。992の両端部には敲打による潰れがみられる（森下）。

7-1区SP258

991が出土した。991は結晶片岩製で、用途不明である。全体が研磨される。両端は欠損しており、全体の形状は不明であるが、1辺は直線状、もう1辺は弧状を呈する（森下）。

7-1区SK06

流紋岩製の砥石（993）が出土した。板状を呈し、両面が摩滅する（森下）。

7-1区SK11

鉄釘（994）が出土した。断面形は方形を呈し、両端部を欠損する（森下）。

中世の遺構（図132、133）

7-1区の柱穴には、褐灰色系で、ほかの柱穴の埋土よりも色調が明るいという特徴があって他と区別できる一群がある。これらの中には中世の土器片が含まれるものがあることから、中世の柱穴として把

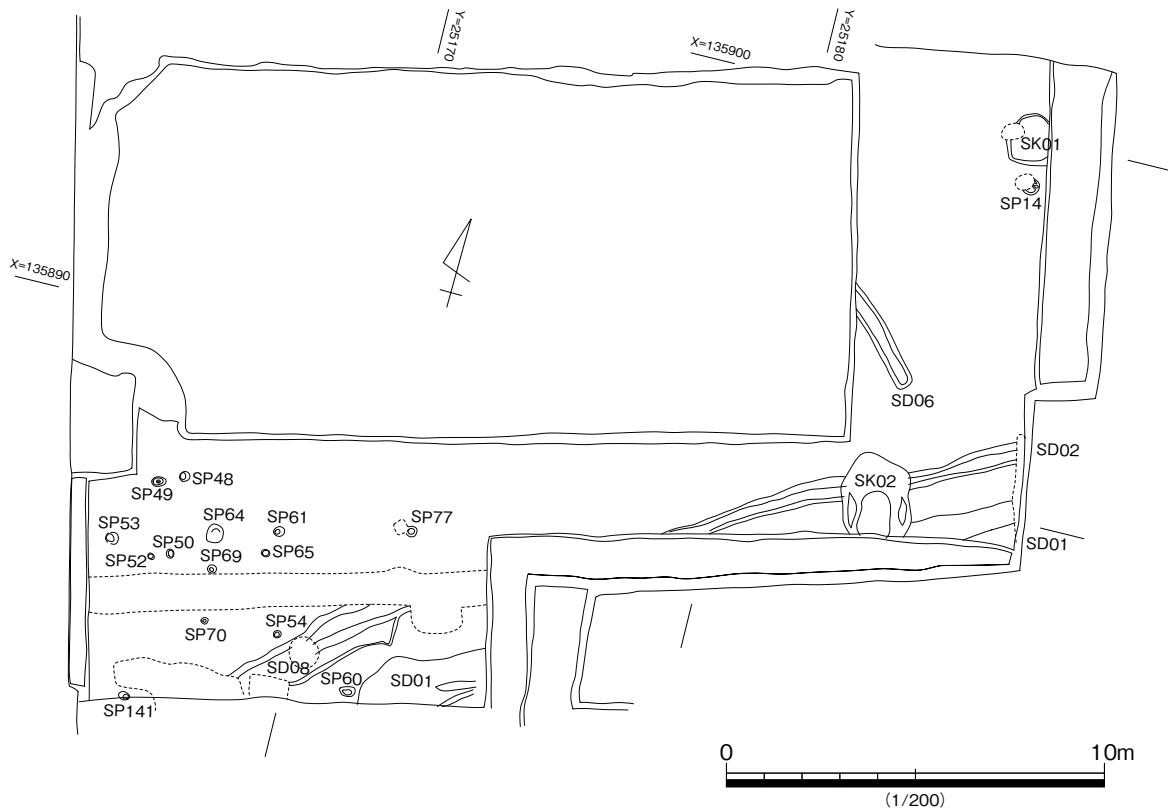
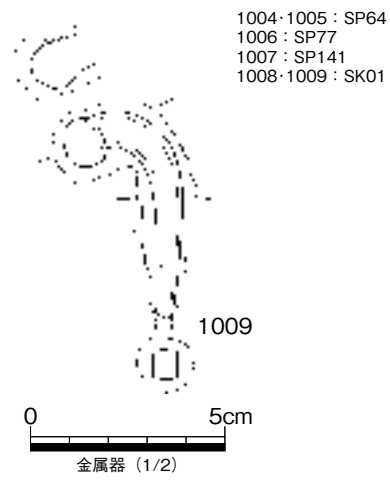
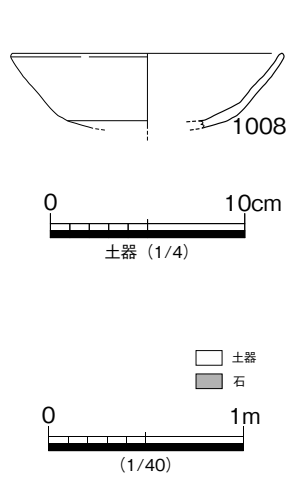
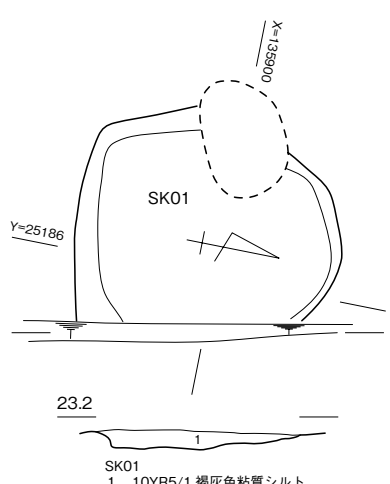
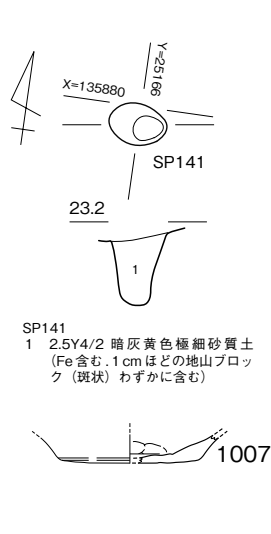
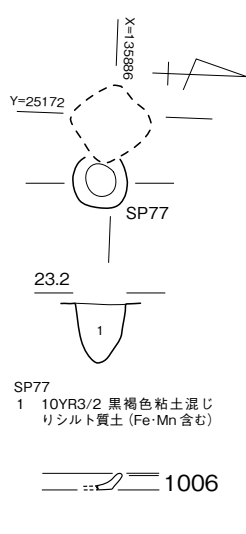
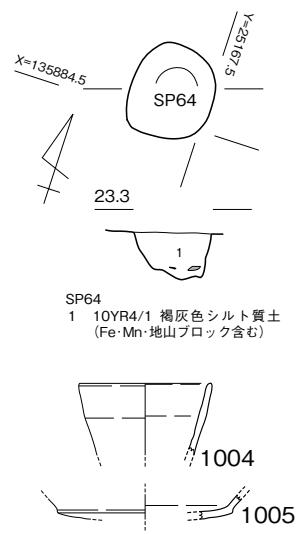


図 132 7-1 区中世の遺構 平面



1004・1005 : SP64
1006 : SP77
1007 : SP141
1008・1009 : SK01

図 133 7-1 区中世の遺構 平・断面・出土遺物

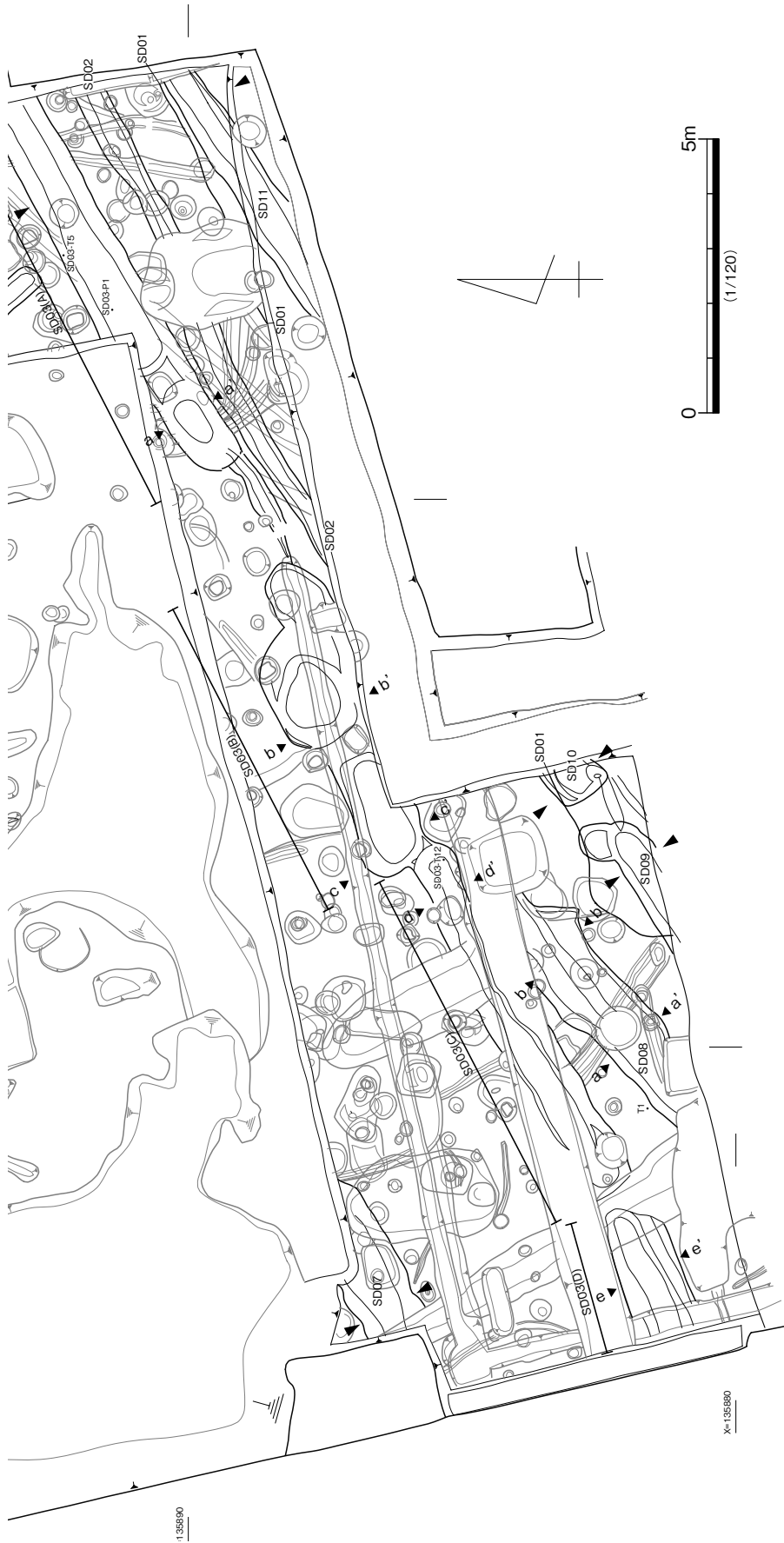


图 134 7-1 区 SD 平面

握することができる。図 132 は 7-1 区の中世の遺構である。

1004 は須恵器平瓶で混入品、1005 ～ 1007 は土師質土器、1008 は須恵器の椀である。

1009 は、鉄釘である。1009 の断面形は方形を呈し、頭部は円盤状を呈する（森下）。

7-1 区溝状遺構（図 134）

7-1 区 SD01 ～ 03、07 ～ 11 は条里型地割の東西方向の坪界線に相当する位置に掘られた溝状遺構である。7-1 区 SD01、02、08 は中世、03、07、09 ～ 11 は古代のものである。このうち 7-1 区 SD03、09 と 10 は、連続するのではなく、細長い土坑が間隔を置いて連続する形状を呈する。

7-1 区 SD07（図 135）

幅 100、深さ 30cm ほどの規模の溝状遺構である。検出長は約 3m である。断面形は椀形を呈し、埋土は 7-1 区 SD03 に類似している。遺物は埋土に散在するような状況で出土している。なお、未図化である。

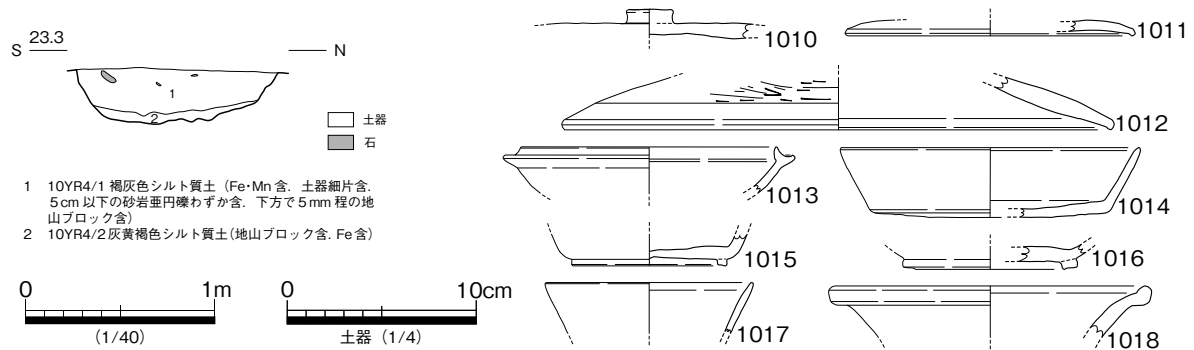


図 135 7-1 区 SD07 断面・出土遺物

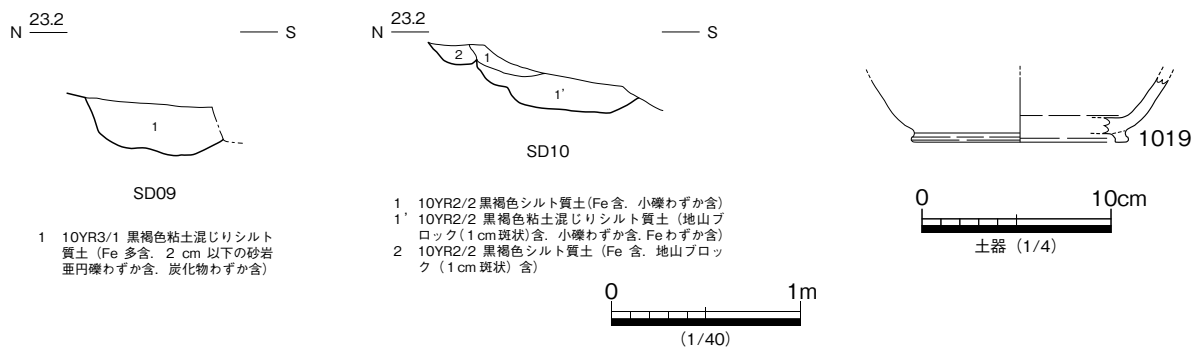


図 136 7-1 区 SD09, 10 断面・出土遺物

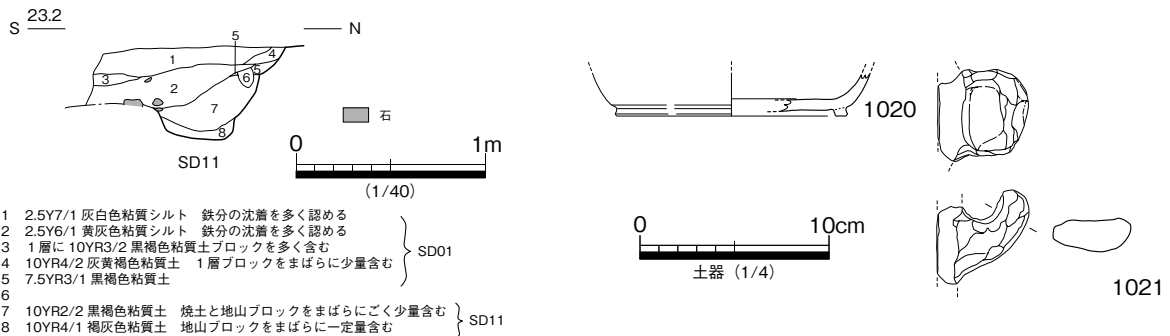


図 137 7-1 区 SD11 断面・出土遺物

るが、赤色顔料を塗布した土師器の細片が1点出土している。1013の須恵器杯がTK209型式併行のものと思われるほかは、8世紀代の遺物が出土しており、7-1区SD07の年代を示すと考えられる。

7-1区SD09、SD10、SD11（図136、137）

6-2区SD13から連続する溝状遺構である。途中で一度途切れることから7-1区SD09と10に遺構番号を分けたけれども、一連の溝と把握される。また、7-1区SD11は10mほど離れたところで検出したものであるが、位置関係や埋土から一連のものとして判断される。6-2区SD13と同様に8世紀代の遺構と考える。

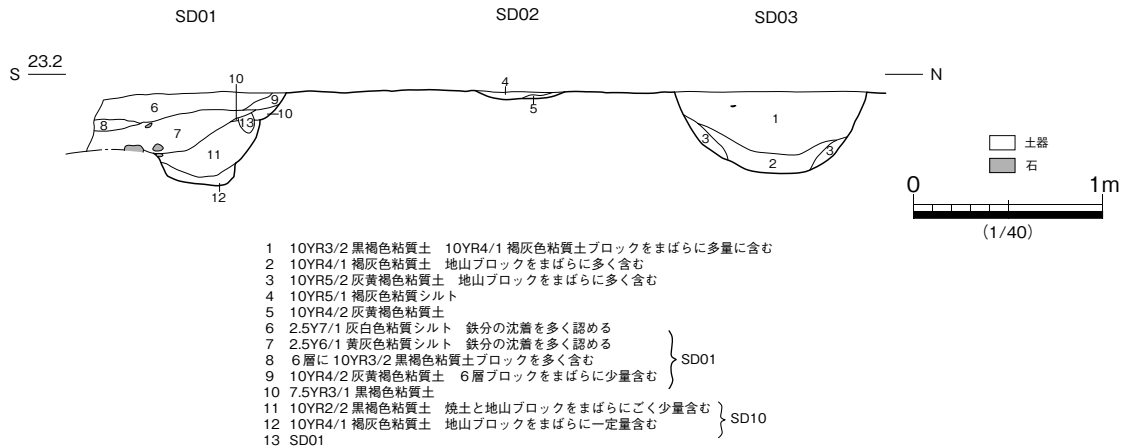


図138 7-1区SD01～03 断面

7-1区SD03（図138～140）

先述したとおり、細長い土坑が途切れ途切れになって連結する溝状遺構である。溝幅90、深さ50cmほどの規模が一般的なもので、ところによって溝幅が広くなったり、深さが浅くなったりする。

図139の1022～1032は、図134に示す(A)の範囲から出土したものである。1022、1023は土師器の杯、1022は内外面に横方向のヘラミガキが施されている。1024～1030は須恵器、1026の杯は外上方に開く形態から9世紀に下る可能性がある。

ガラス製の小玉（1031）が出土した。1031は青色を呈する。黒雲母角閃石安山岩製の砥石（1032）が出土した。1032は直方体を呈し、ほぼ全面が摩滅する（森下）。

図139の1033～1044は、(B)の範囲から出土したものである。1033、1034は混入である。1034の分銅形土製品は、縁辺に沿って櫛原体の圧痕文、櫛描き重弧文を施している。また、貫通孔が認められる。1035、1036は土師器、1037～1042は須恵器である。1041は口縁端部の形状から高杯もしくは皿と考える。サヌカイト製の石鏃（1043、1044）が出土した。1044は凸基式、1043は凹基式である（森下）。

(C)の範囲からは移動式竈、滑石白玉が出土している。

1046は滑石製の白玉である。1046は暗緑色を呈する（森下）。

図140の1047～1053は、(D)の範囲から出土したものである。1047の土師質土器小皿は誤入、1049の須恵器杯は9世紀代に位置づけられる。

7-1区SD03から出土した遺物は7世紀中ごろから9世紀代にかけての時期幅のあるものであるが、最も新しい年代を溝が機能していた年代と把握したい。

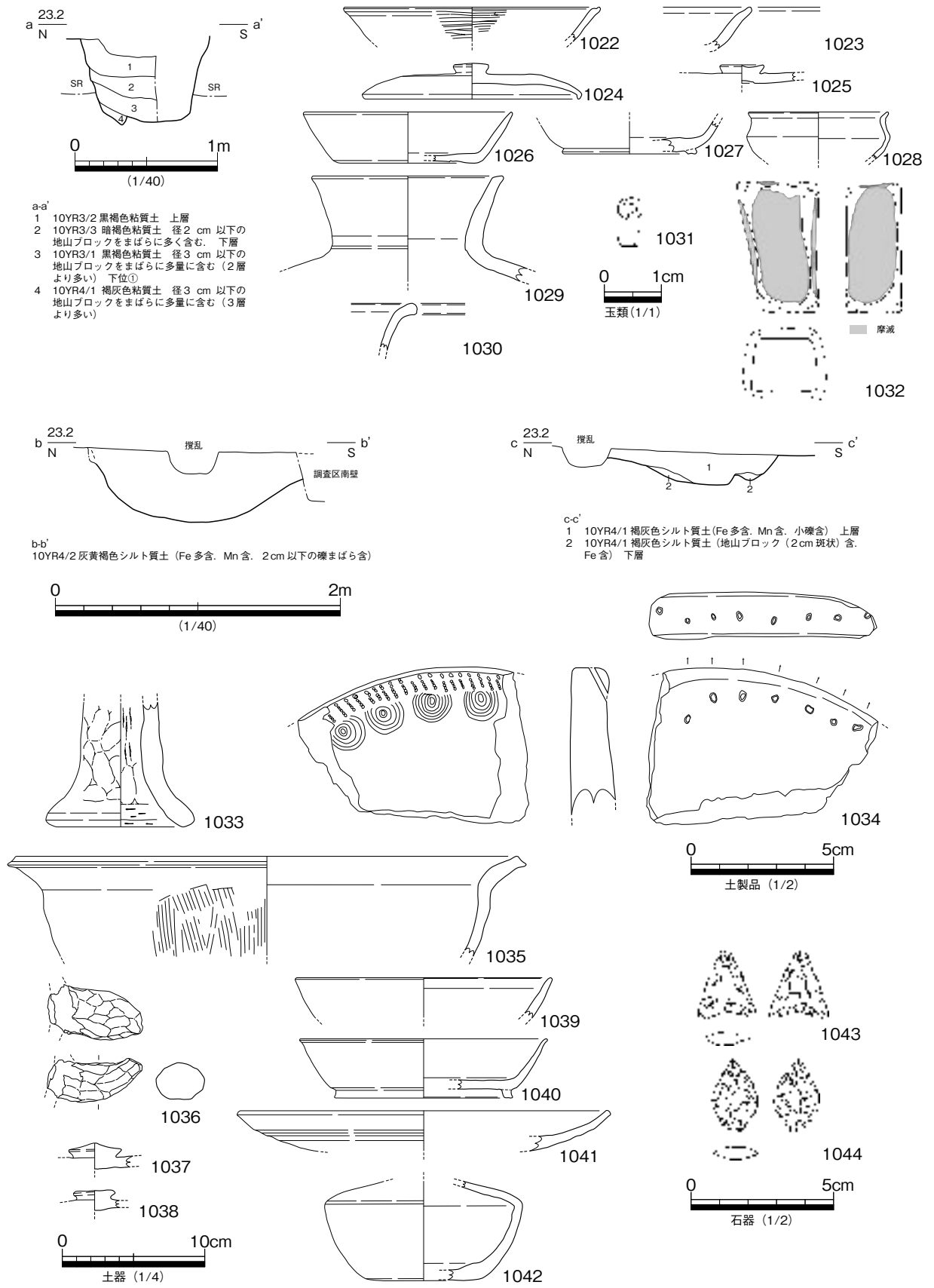


図 139 7-1 区 SD03(1) 断面・出土遺物

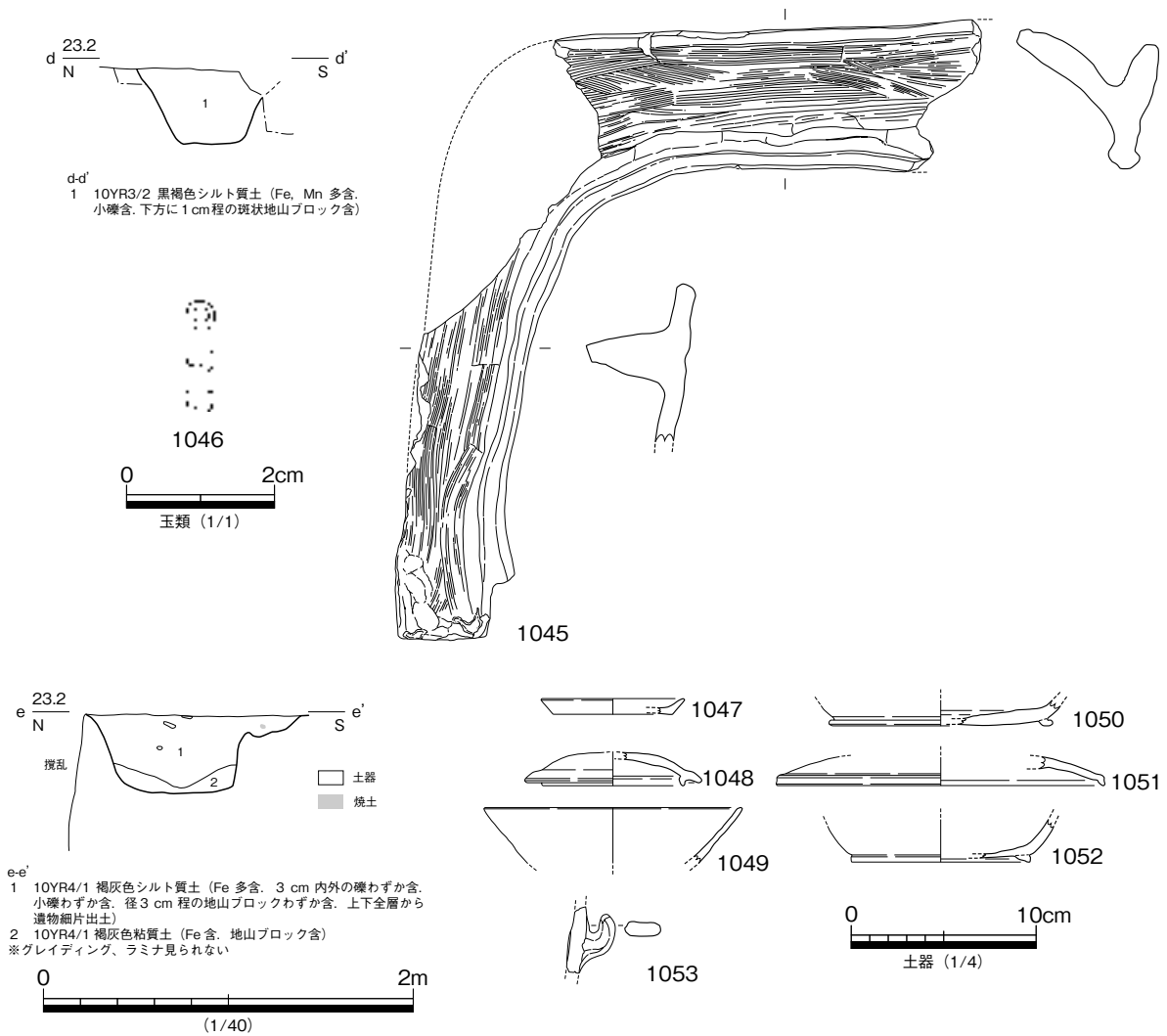


図 140 7-1 区 SD03(2) 断面・出土遺物

7-1 区 SD31 (図 141)

7-1 区 SD03 は、通水を目的としたものではなく、区画することを目的とした溝状遺構と考えられるが、7-1 区 SD31 は、7-1 区 SD03(A) と (B) を連結するように掘削された溝状遺構である。須恵器片 20 点あまりを含む多くの弥生土器・土師器細片が出土しているが、年代を特定できるような資料に恵まれない。また、7-1 区 SD03 とは切り合い関係が無い可能性が高いが、はっきりと確認はできていない。

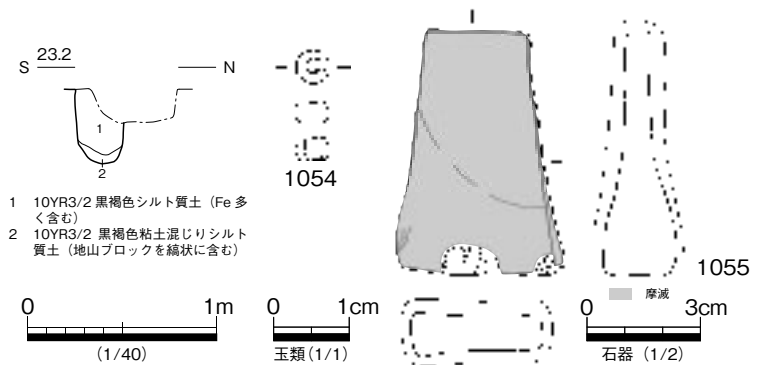


図 141 7-1 区 SD31 断面・出土遺物

7-1 区 SD01 (図 142)

6-2 区 SD03 と同一の溝状遺構である。6-2 区 SD03 検出地点のすぐ北側と東へ 12 m ほど離れた地点

の2箇所、北岸付近を検出した。両者は埋土がほぼ同一であることから、直線に延びる溝状遺構に復原できる。

遺物は、西側のみで出土した。出土層位は6-2区SD03最下層に対応する。1059～1062の須恵器は混入品。1063は東播系こね鉢、1064～1066は備前焼、1067は白磁椀、1068は青磁椀である。備前焼は間壁編年Ⅲ期のものであり、7-1区SD03の年代を示すと考えられる。

1070は流紋岩製の砥石である。割れ口以外は摩滅する（森下）。

7-1区SD02（図143）

7-1区SD01の北側に7-1区SD01と平行して流れる、幅50、深さ4cmほどの規模の溝状遺構である。土師質土器土鍋、東播系こね鉢の細片が出土している。

7-1区SD08（図144）

幅70～100、深さ数cmの溝状遺構である。幅は一定せずに、深さもほとんど無いことから、溝とす

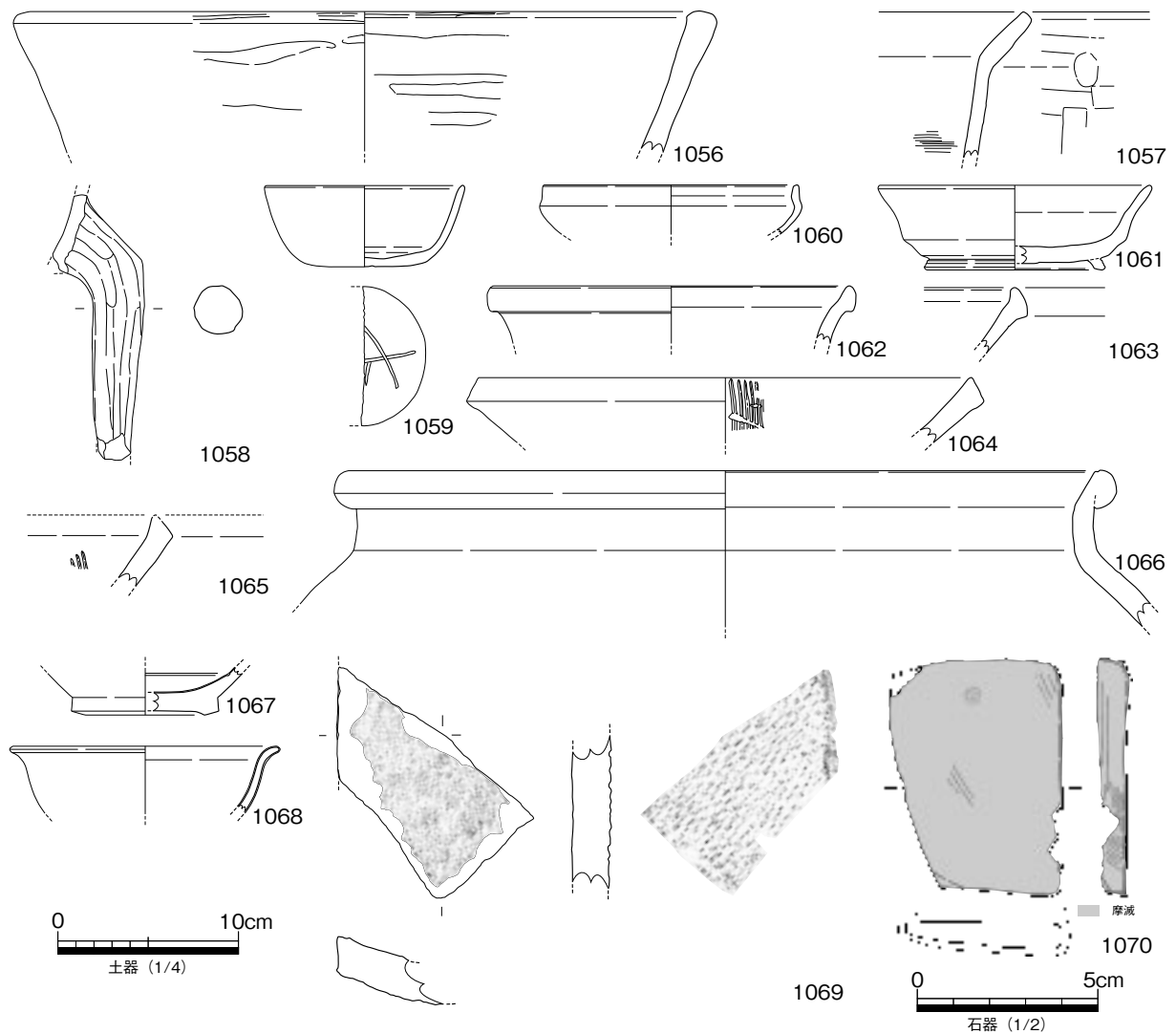


図142 7-1区SD01 出土遺物

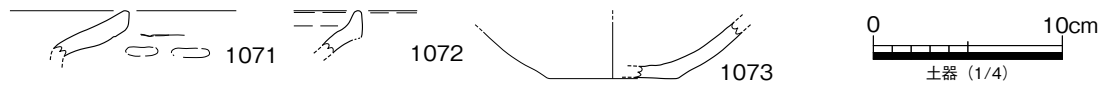


図 143 7-1 区 SD02 出土遺物

るよりも凹地と把握できる。比較的多くの遺物片を包含していた。図化遺物のうち、1078 の須恵器高杯は混入と考えられるが、ほかは中世の遺物である。土師質土器足釜や東播系こね鉢から 13 世紀後半ごろのものと考える。

1080 は鉄釘である。断面形は方形で、先端部は欠損する。1081 は滑石製の白玉である。暗緑色を呈する（森下）。

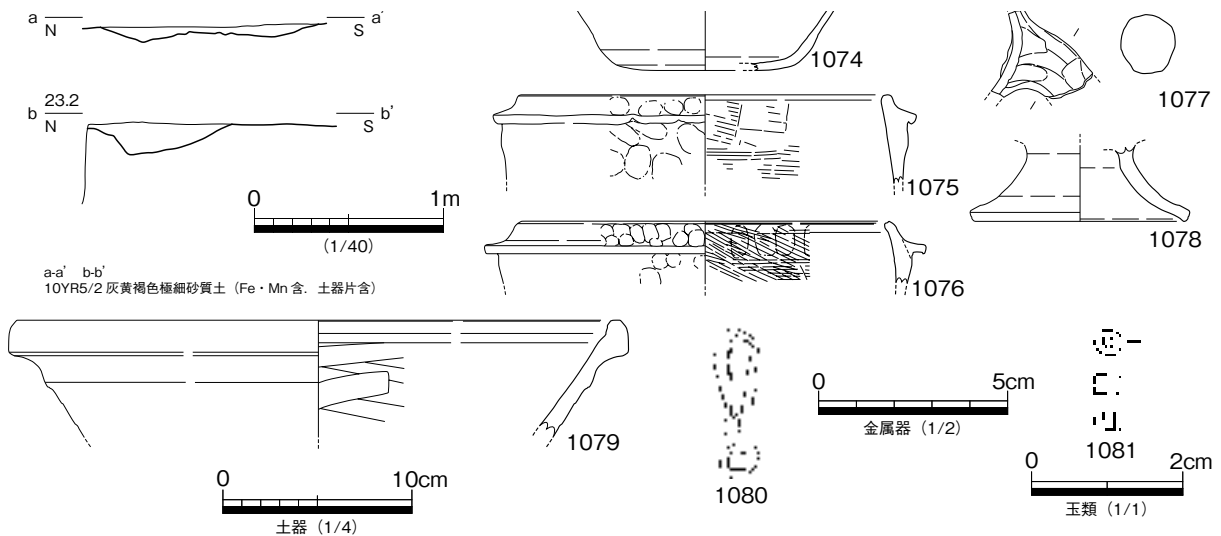


図 144 7-1 区 SD08 断面・出土遺物

7-1 区 SX08 (SH14) (図 145、146)

7-1 区 SH01 の西北部に重複して検出した凹地である。当初は竪穴住居と考えたが、それを証する根拠が得られなかった。短軸（南北）2.5、長軸（東西）2.7 m ほどの不整形で、断面形も凹凸のある浅い皿状を呈する。

7-1 区 SX08 からは、一括性が高いと判断できる状況で土器片が出土している。図 145、146 の 1082 ~ 1090 は 7-1 区 SX08 出土の遺物実測図であるが、1087、1088、1090 は 7-1 区 SH01 の調査段階で下層遺構のものとして取り上げた遺物である。1087 の高杯は拡張口縁をもつもので、1090 の高杯は外面に縦位の沈線を施すことおよび形態的特徴から吉備地方の搬入・模倣土器と考えられる。いずれも弥生時代後期前半に帰属すると思われる、それ以外の土器より後出する。これらは、それ以外の土器と分離される可能性が高い。なお、それ以外の土器は弥生時代中期後半に属するものと考えられ、7-1 区 SX08 の年代を示すと考える。

7-1 区 SX04 (図 147)

長軸 2.7、短軸 1.5、深さ 0.4 m ほどの規模の落ち込みである。側面は急傾斜で床面は平坦となる。埋土は、暗灰黄色シルト質土と浅黄色極細砂質土が互層状に堆積しており、突き固めたような形跡がある。この

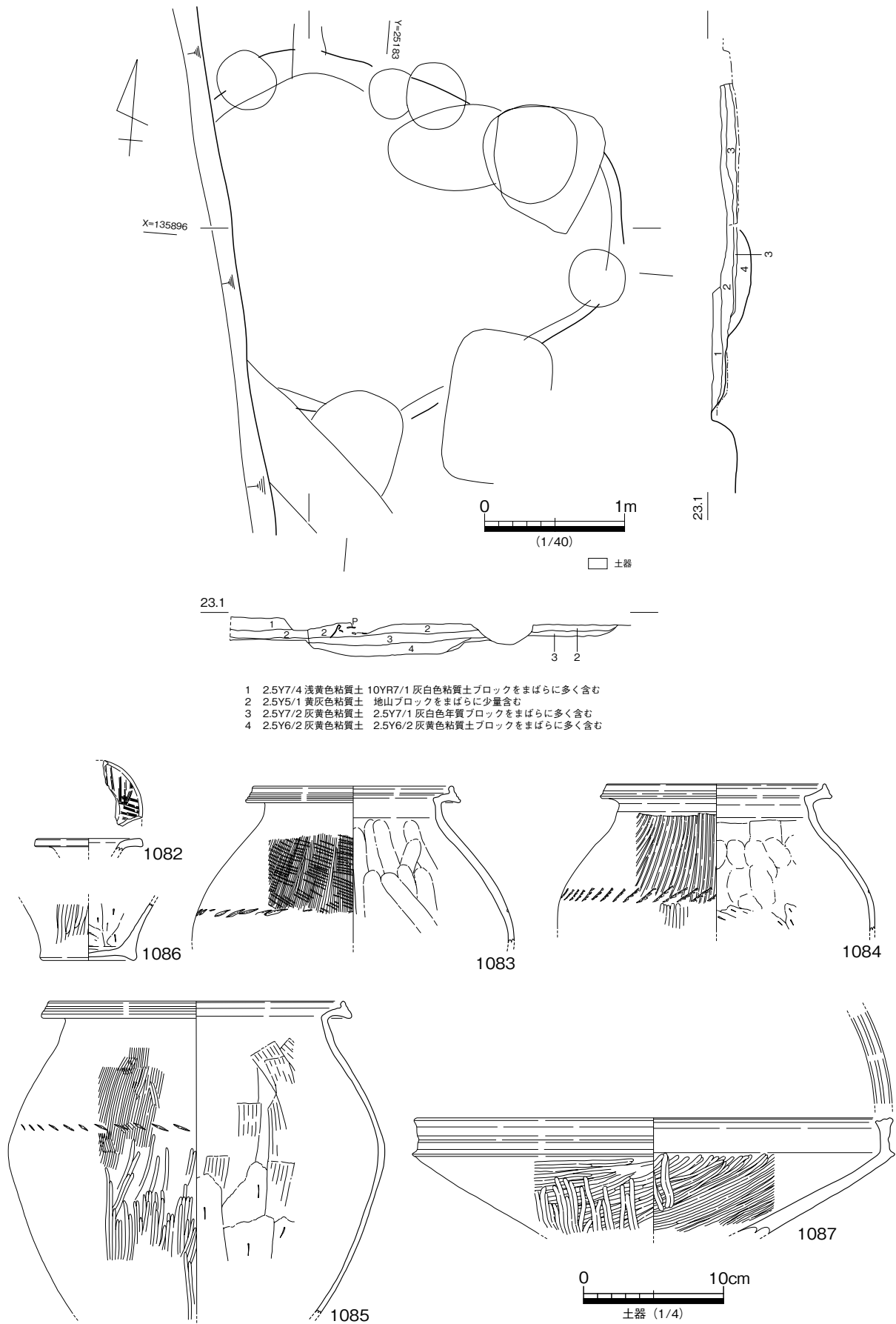


図 145 7-1 区 SX08 平・断面・出土遺物 (1)

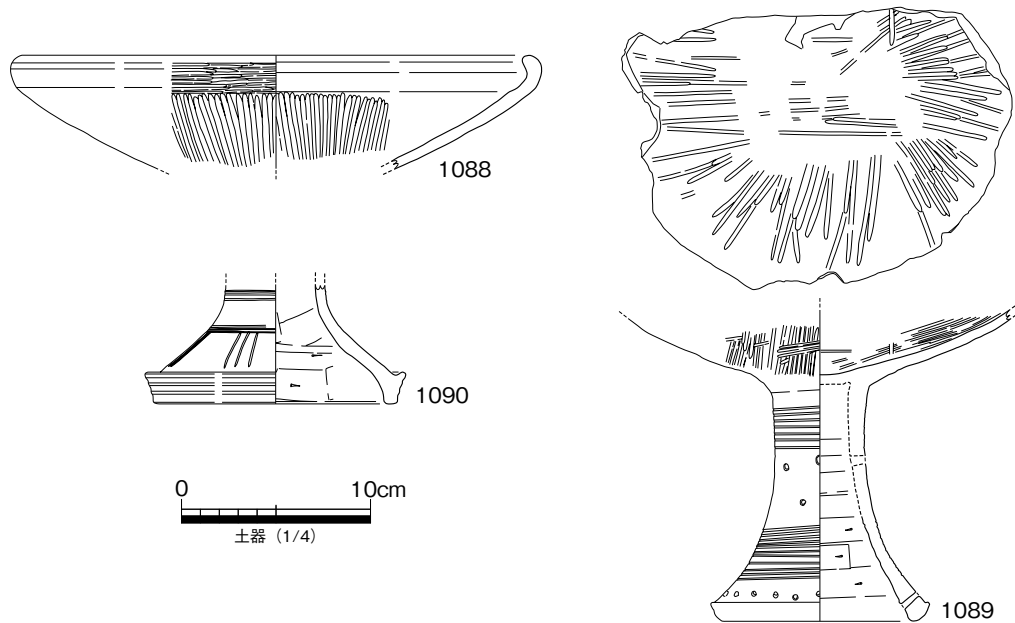


図 146 7-1 区 SX08 出土遺物 (2)

埋土の掘削中に検出段階では確認できなかったが、7-1 区 SB05 の 1 柱穴である 7-1 区 SP207 が掘り込まれていることがわかった。7-1 区 SX04 埋没後に 7-1 区 SP207 が掘られたのであろう。

出土遺物は 100 点あまりの弥生土器片である。図化可能なものは、1091 の弥生土器広口壺と 1092 の弥生土器甕であるが、いずれも弥生時代中期後半のものである。なお、7-1 区 SX04 の性格は不明である。

7-1 区 SX01 (図 148、149)

短軸 1.3、長軸 3.3 以上、深さ 0.3 m ほどの規模の、細長い楕円形の土坑である。南側は 7-1 区 SD03 に壊される。長軸側の北側は緩やかに下る断面形で、短軸側は比較的急傾斜、床面は平坦ではなく舟形

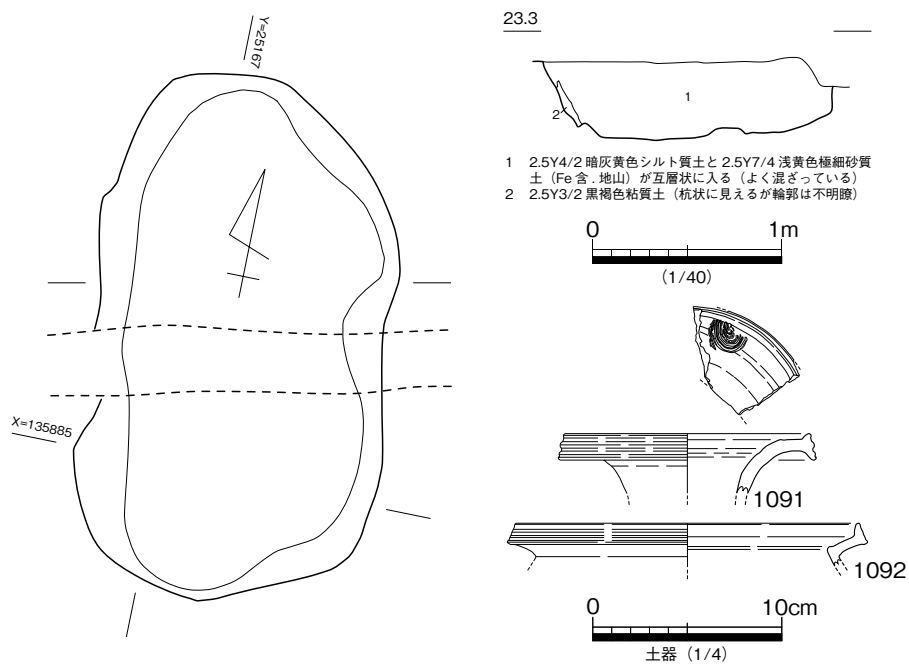
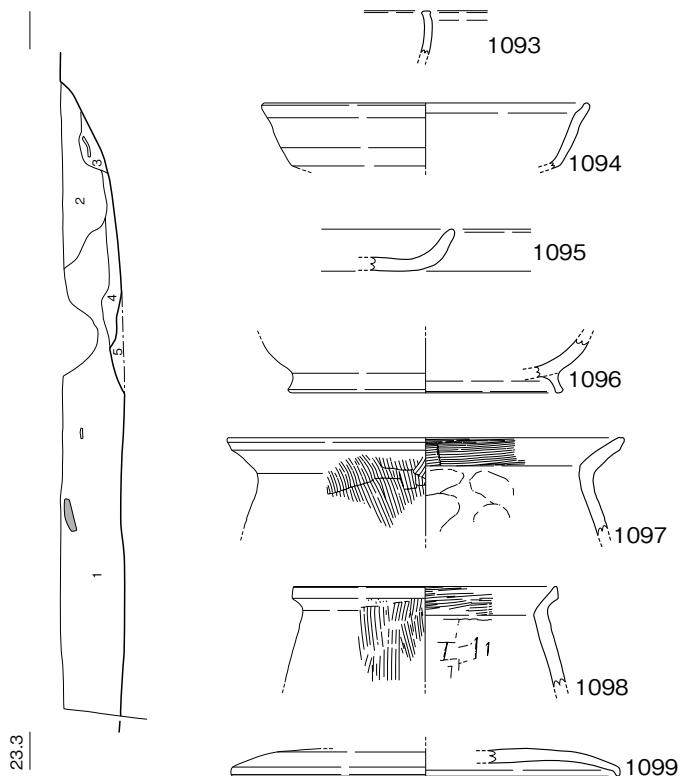
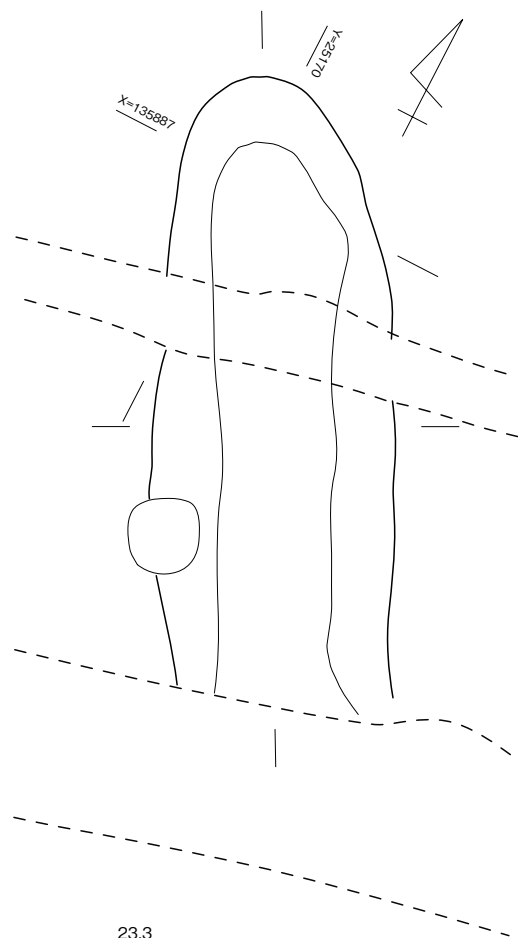


図 147 7-1 区 SX04 平・断面・出土遺物



- 1 10YR4/1 褐灰色シルト質土 (粒径揃う、焼土か? 2mm程の赤色粒含)
- 2 10YR4/1 褐灰色シルト質土 (Fe 多含、2mm程の赤色粒含む)
- 3 10YR4/1 褐灰色シルトまじり粘質土 (Fe 多含、地山ブロック (5mm 斑状) 含)
- 4 10YR4/1 褐灰色シルトまじり粘質土 (地山ブロック (1cm 斑状) 含、3層との分層は Fe の包含量による)
- 5 地山 (シルト質土)

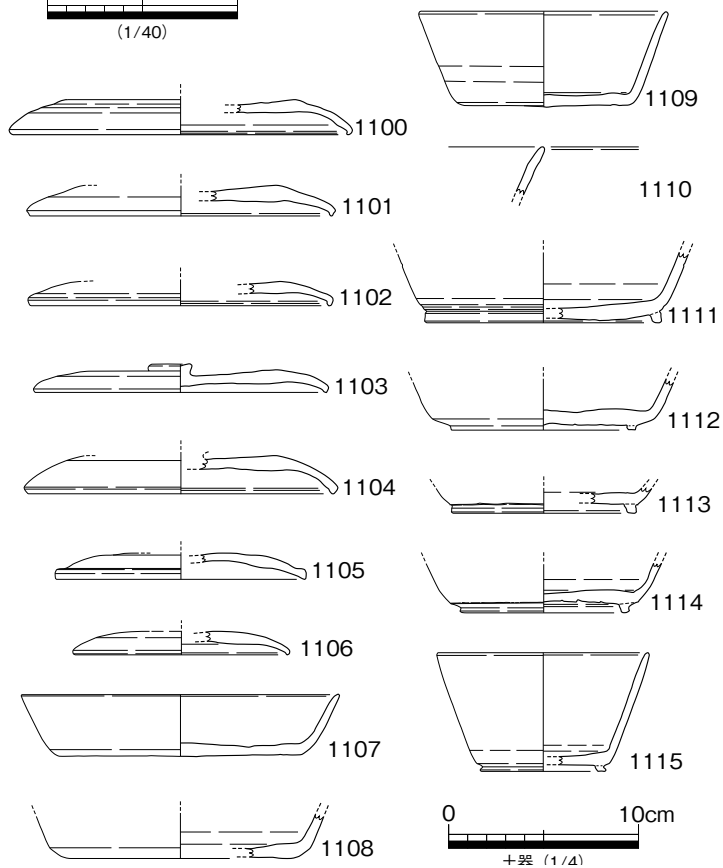
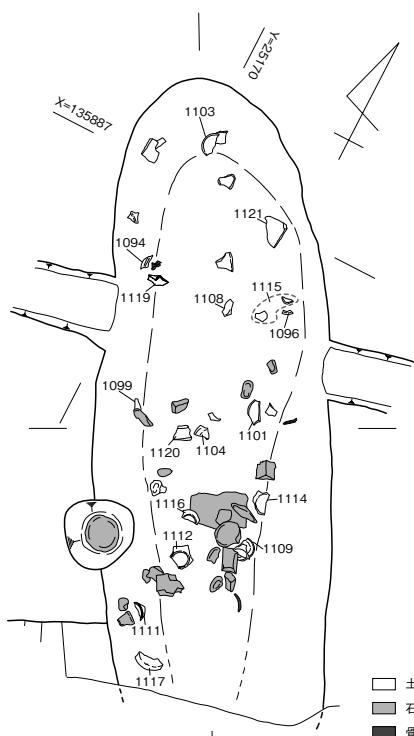
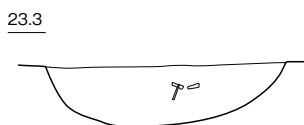


図 148 7-1 区 SX01 平・断面・遺物出土状況・出土遺物 (1)

に窪む形状である。

7-1区SX01埋土には、後述するように8世紀後半と考えられる土器が、礫とともに一定量含まれていた。これらは床面ではなく埋土中に散在するような出土状況を示す。つまり、埋没過程に埋まったものである。ほぼ8世紀代の遺物に限定されること、遺物が摩滅せずに残りが良いことといった理由で、短い時間に埋め戻されたものと思われる。

1093は弥生土器鉢、1094～1098は土師器、1099～1119は須恵器、1120、1121は土師質の瓦である。1109や1116のように深い椀形を呈する杯が共伴することや1105に見られるように口縁部を水平に屈曲させた後に端部を下方に折る形状の蓋の存在から8世紀後半と考える。なお、遺構の性格は不明である。

このほかに結晶片岩製の有孔円盤（1122）が出土した。端部を欠損する。中央には径1mmの孔が2個ある（森下）。

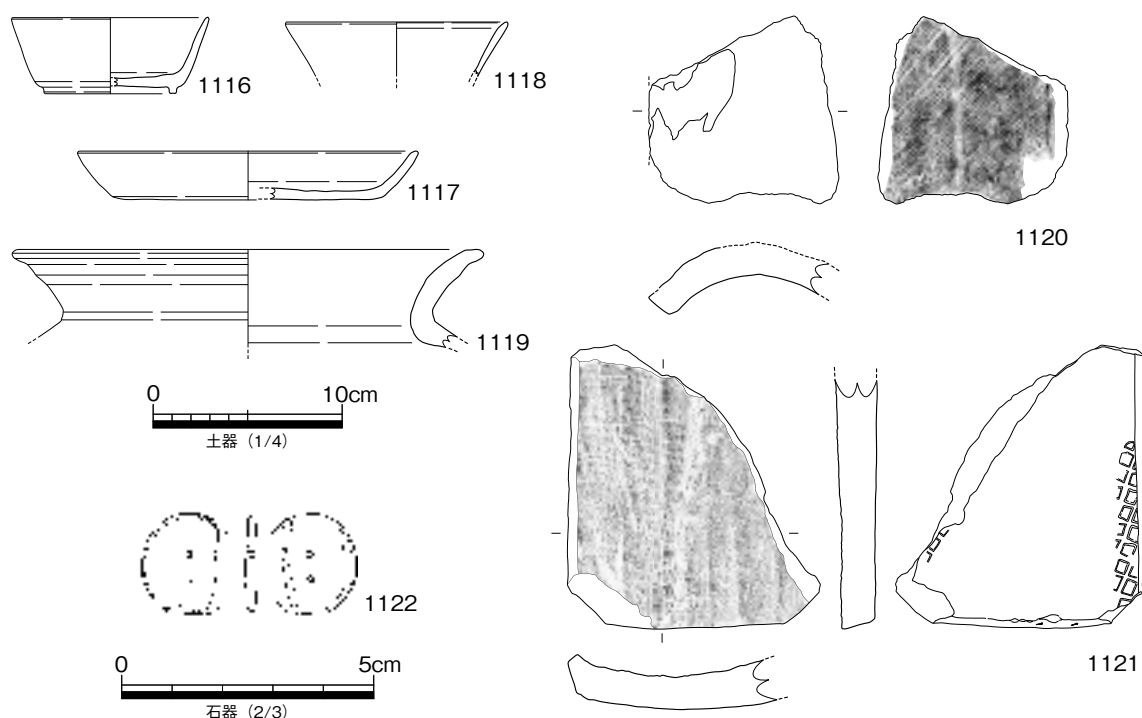


図 149 7-1区SX01 出土遺物(2)

7-1区SR01 (図 150)

7-1区調査区の東半部を西南から東北方向に流れる旧河道である。最深部は幅0.5、深さ0.2mほどの規模で溝状に掘削している可能性が高い。川幅5、深さ0.5mときわめてなだらかな傾斜で落ち込んでいる。最深部を2層（下層）、その上部を1層（上層）として遺物を採集した。1層は弥生時代中期後半の遺構の掘削面であるが、1層埋土の黒褐色粘質土と後代の遺構埋土の識別がきわめて難しいため、後代の遺構埋土を見落とすことが起こっている。このため上層から出土した遺物のなかには須恵器細片が含まれる。また、下層からは15点ほどの弥生土器細片が出土したのみで、年代を特定する資料に恵まれない。

7-1区SR01は、『旧練兵場遺跡Ⅲ』において、北はG.H区SD0007、南はV区SR6001に接続する。ここでは北側をSD、南側をSRと遺構番号を付すが、報告書では北は旧河道（凹地）、南に溝としての性格があると報告している。7-1区SR01の状況を見ても、凹地を部分的に掘削して通水していたと考

えられ、最深部に溝状遺構が存在する部分と凹地のままの部分があると判断できる。なお、過年度調査では、溝が掘開された時期を縄文時代晩期後葉と想定し、弥生時代中期前半期には埋没したと推定しているが、本調査区においても同様の状況と考えられる。

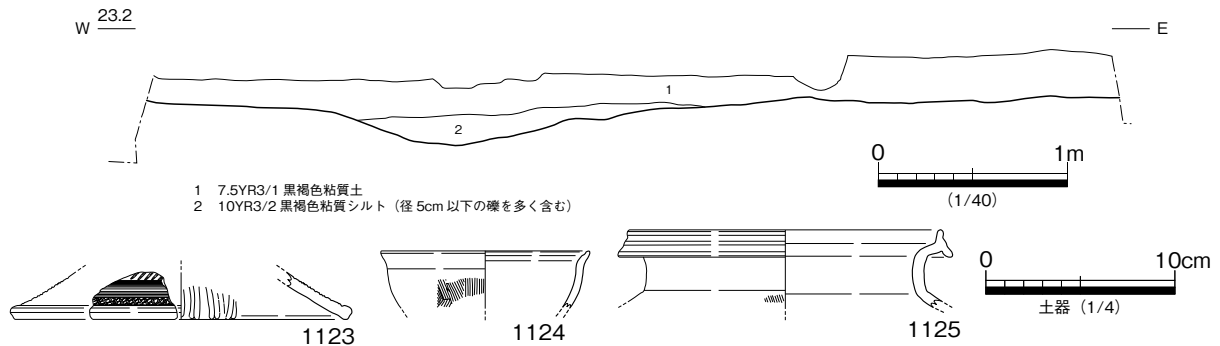


図 150 7-1 区 SR01 断面・出土遺物

遺構に伴わない遺物 (図 151)

図 151 は遺構検出時に出土した土器である。

1127 は、斜め下方に直線状に脚部が広がり、脚端部は横、下方に摘み出す特徴的な形態をしている。外来系のものであろう。1128 は釣鐘形の飯蛸壺である。遺構検出の出土のため帰属年代等の詳細は不明であるが、旧練兵場遺跡での出土は稀少である。

1130 は滑石製の白玉である。暗緑色を呈する。サヌカイト製の 2 次加工のある剥片 (1131) と同製の異形石器 (1132) が出土している。1131 は図の下に当たる側縁の先端部に片面から浅い角度の剥離調整が施される。また、両面の一部は摩滅しているので、スクレイパーとして使用されたのち、先端に調整が施された可能性もある。1132 は両端に抉りがある。端部には両面から調整が施され、抉りには敲打による潰れがみられる (森下)。

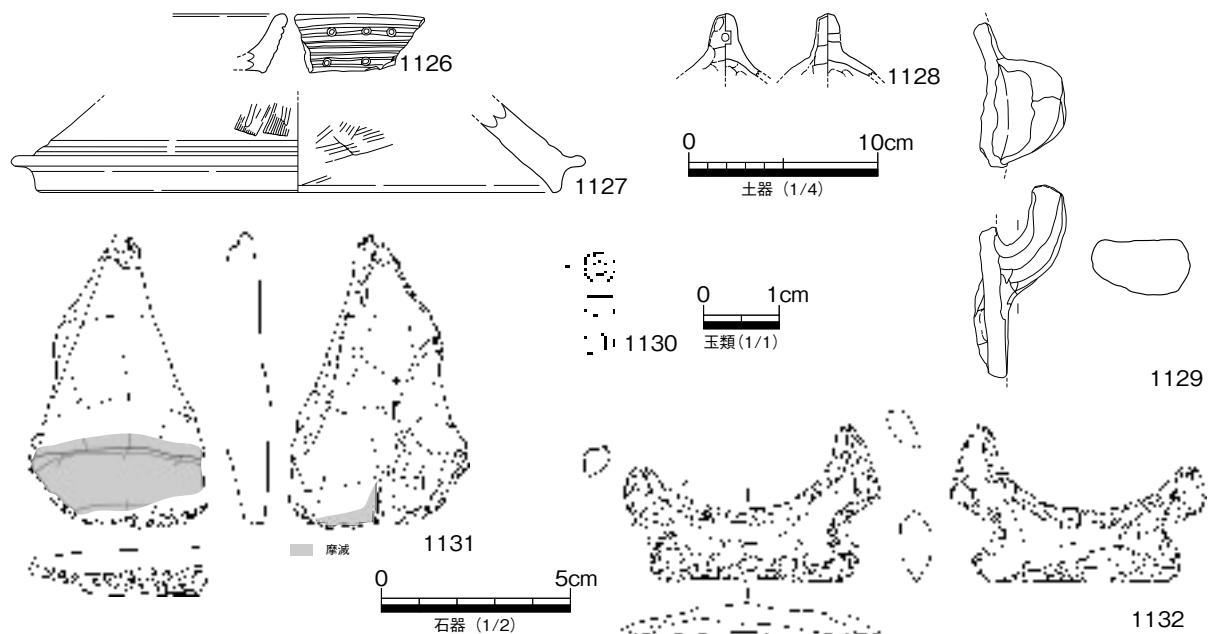


図 151 7-1 区遺構に伴わない遺物

第6節 7-3区の調査

概要 (図152)

平成13年度の本調査が実施され、『旧練兵場遺跡Ⅱ』として報告されている第19次調査区の東南隅の南縁と東縁を囲むように設定された調査区である。調査面積は約270㎡を測る。東側は攪乱されている範囲が広がったが、南側は良好に遺構が残っていた。

竪穴住居跡12棟などを検出している。また、攪乱坑からは弥生時代の小型仿製鏡が出土した。

7-3区 SH07 (図153)

7-3区 SH08、7-3区 SH05に壊される。壁面と床面の境界が不明瞭でなだらかな断面形を呈すること、床面が平坦ではないことなど否定的な要素もあるが、一部分のみの検出であることから、竪穴住居と報告する。平面形は楕円状の弧を描くが、全体形は不明、検出面からの深さは14cmを測る。300点近い弥生土器細片が出土しているが、年代を特定しうるような出土状況のものはない。1133は細頸壺の頸部のように見えるが、平底の底面が一部遺存することから鉢である。1134は口縁端部をわずかに上方に摘み上げる弥生土器甕の細片である。7-3区 SH07は、弥生時代後期前半の7-3区 SH05に壊されていることから弥生時代後期前半に属すると考える。

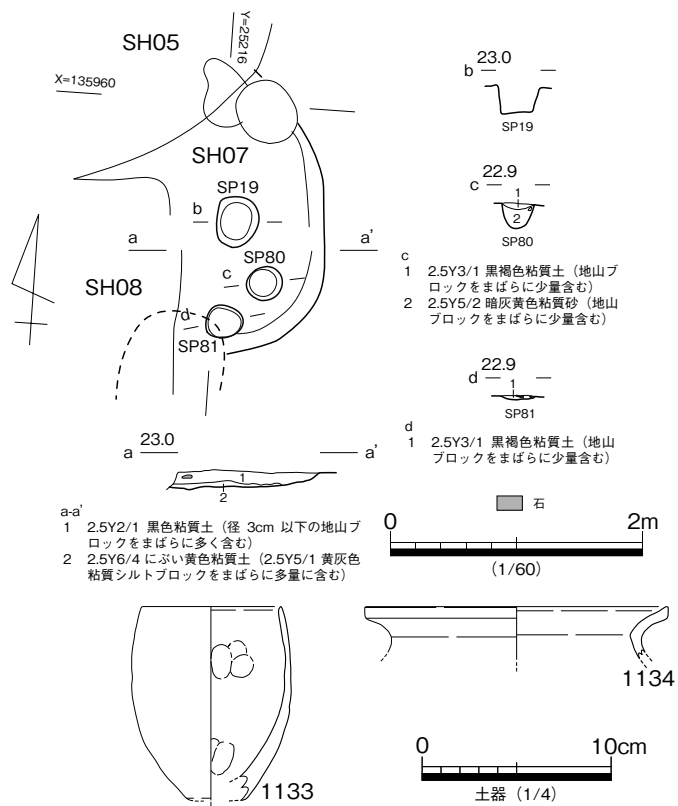


図152 7-3区 SH07 平・断面・出土遺物

7-3区 SH13 (図154)

7-3区 SH08の北辺に沿ってわずかに遺存した竪穴住居である。壁溝の一部と掘り方のみを検出している。約2.4mが直

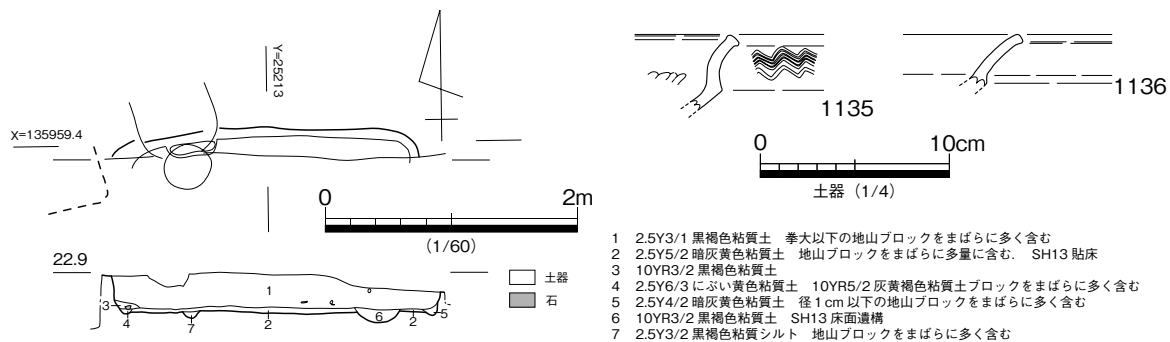


図153 7-3区 SH13 平・断面・出土遺物

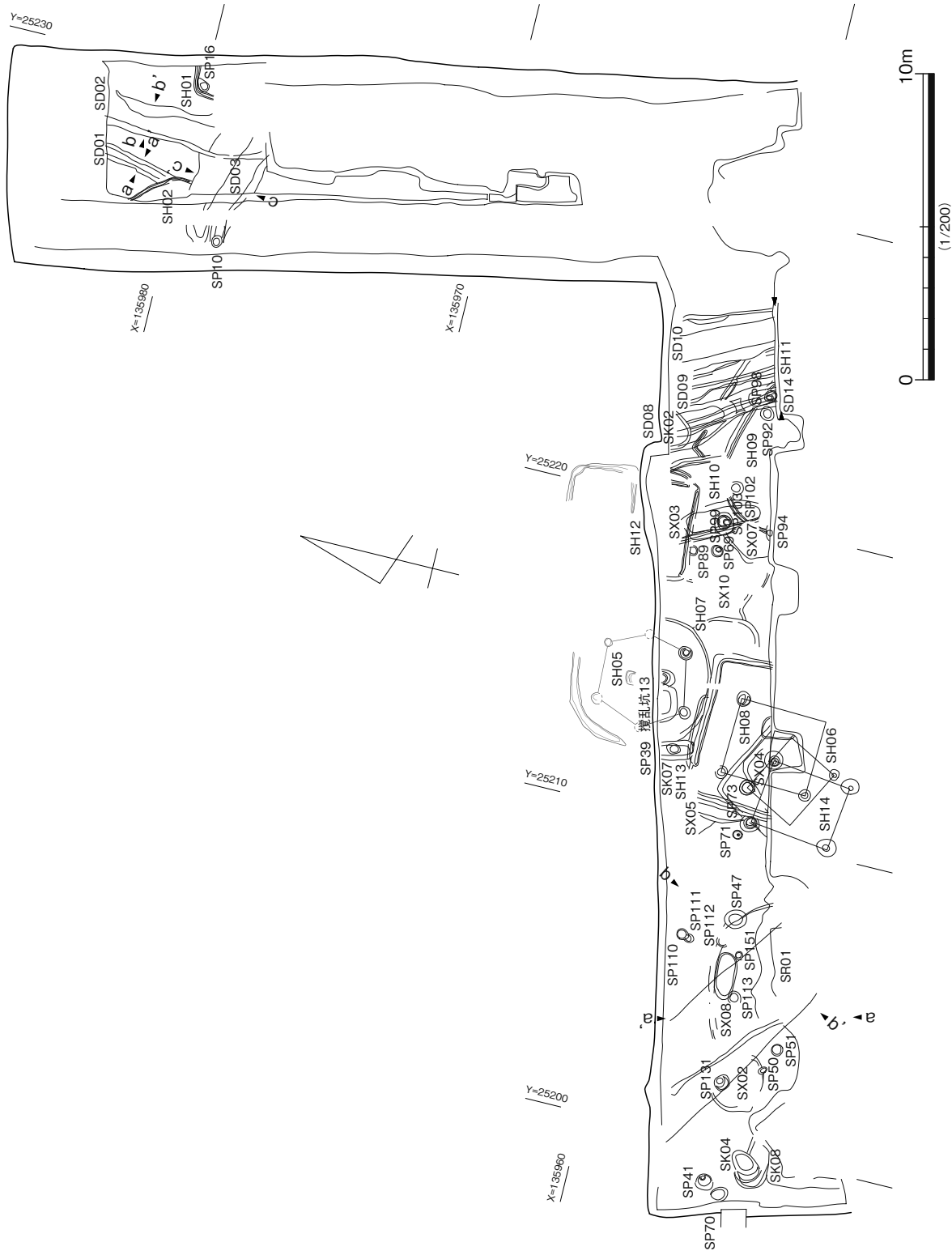


图 154 7-3 区 遺構平面

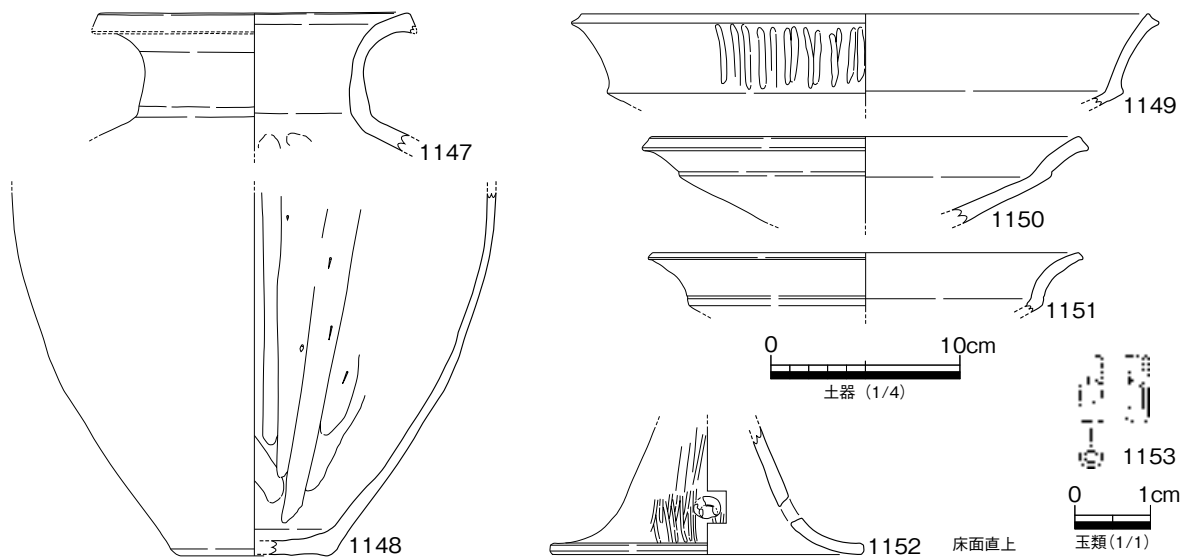
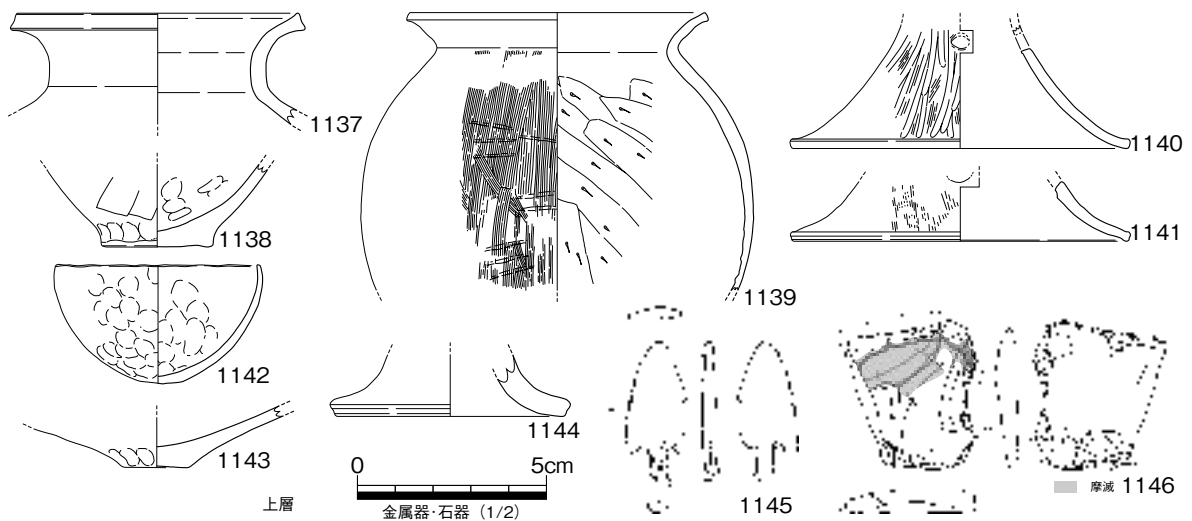
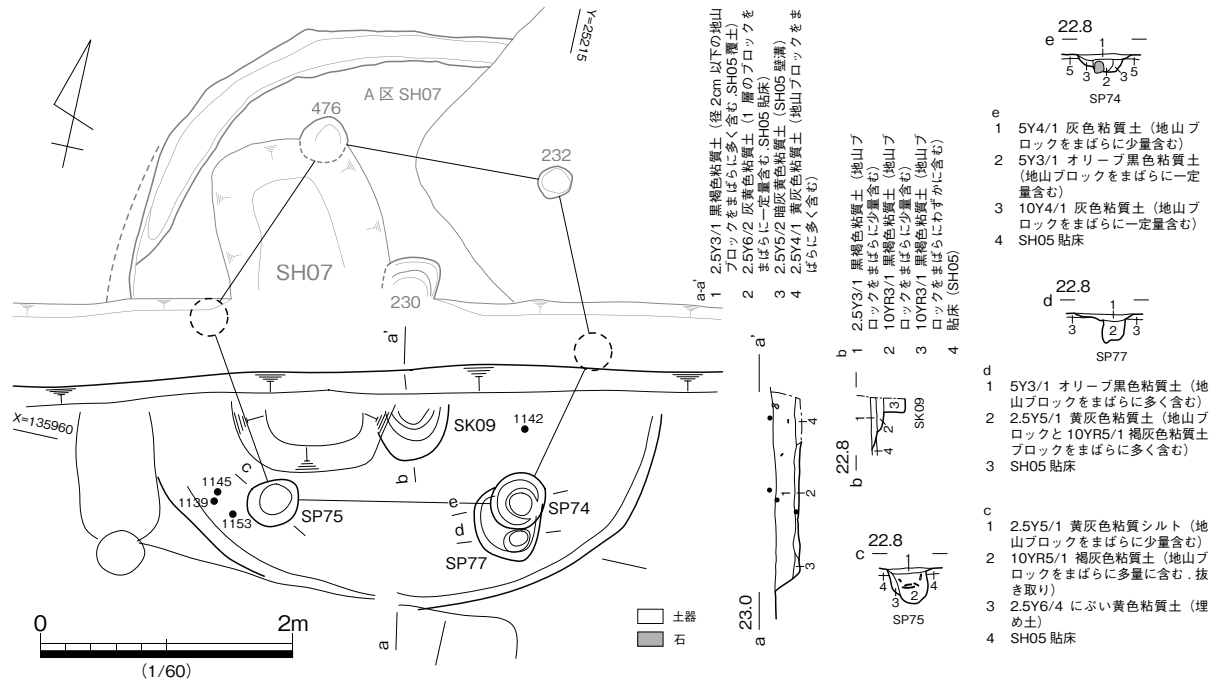


図 155 7-3区 SH05 平・断面・出土遺物 (1)

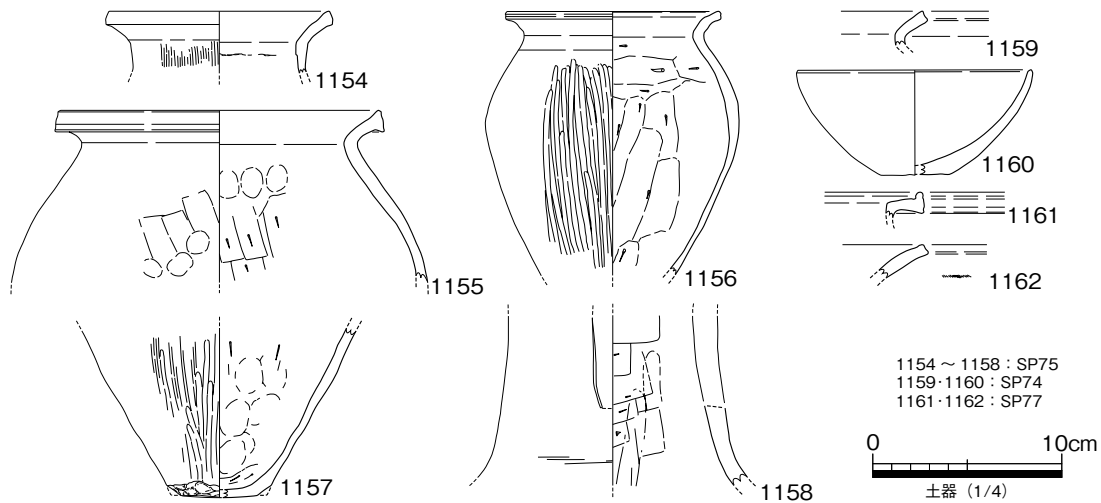


図 156 7-3 区 SH05 出土遺物 (2)

線状で、両端で折れ曲がる規模と平面形を呈するが、7-3 区 SH08 に大半を壊されており詳細不明である。検出面から掘り方底面までの深度は 32cm を測る。130 点余りの弥生土器細片が出土している。図化した遺物 2 点はいずれも弥生土器高杯である。7-3 区 SH13 は切り合い関係より、7-3 区 SH05 よりも古い。弥生時代後期前半に属すると考える。

7-3 区 SH05 (図 155、156)

円形の竪穴住居である。北側は『旧練兵場遺跡Ⅱ』の SH07 に接続する。主柱穴は 6 基で、今年度調査区では南側の 2 基を検出している。また 7-3 区 SK09 は中央土坑と考えられ、過年度調査区の SP230 に接続するものと思われるが、SP230 の埋土の情報が無いため確定できない。

図 155 の 1137 ~ 1146 は覆土から出土したもの、1147 ~ 1153 は床面直上、図 156 の 1154 ~ 1162 は主柱穴から出土した遺物実測図である。なお、上層および床面直上からは、実測遺物のほかに多量の弥生土器片が出土している。

1140、1141 の高杯は明瞭な屈曲を持たずに緩やかに広がる裾部である。1142 の弥生土器鉢はほぼ完形で出土している。1148 の弥生土器甕は薄手のつくりであるが、明瞭な平底である。1149 の弥生土器高杯の外表面には縦方向に間欠的なヘラミガキが施されている。1158 は、7-3 区 SP75 から出土したもので、側面に透かし穴の痕跡があることから器台と考えた。

1145 は銅鏃である。かえりや基部の先端を欠損する。片面の中央部にはゆるやかな稜がある。1146 はサヌカイト製の石包丁である。側端部に抉りがあるが、もう片方の側端部は欠損する。背部には敲打による潰れがある。片面の背部の下は摩滅する。1153 はガラス製の管玉である。白色に風化する。厚みは 0.5mm と薄く、端部を欠損する (森下)。

以上の出土土器は、弥生時代後期前半の様相を呈するものが主体であり、7-3 区 SH05 の年代を示すと考えられる。

7-3 区 SH11 (図 157)

方形の竪穴住居である。7-3 区 SH10 および 7-3 区 SH09、7-3 区 SD10 に壊される。壁溝、覆土、貼床

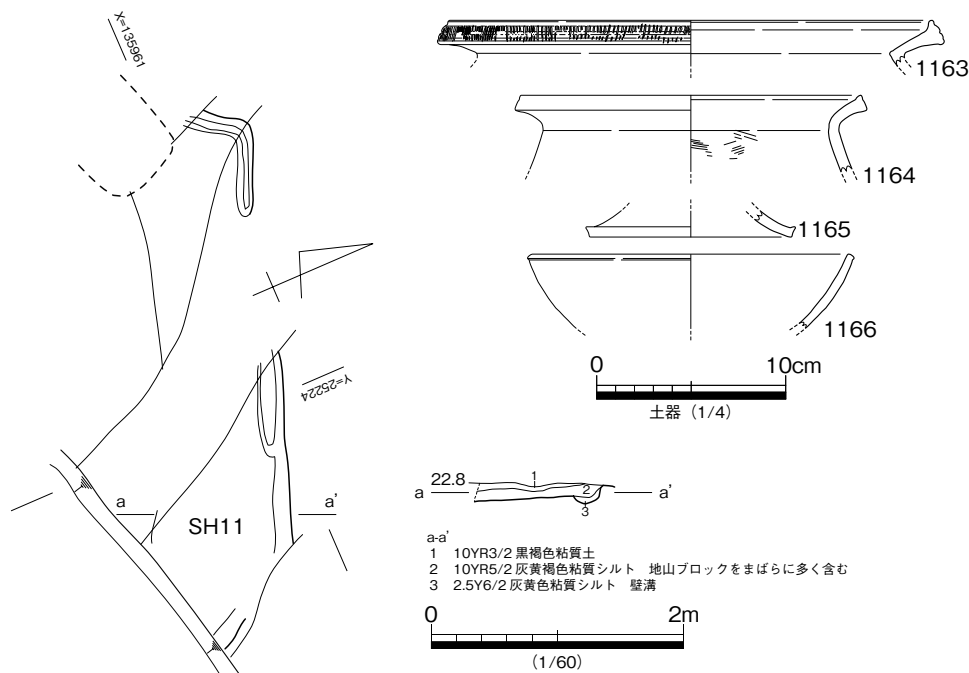


図 157 7-3 区 SH11 平・断面・出土遺物

を検出した。弥生土器細片が多数出土しているが、年代を特定しうような出土状況のものはない。図 157 の図化遺物はいずれも細片である。消極的ではあるが、7-3 区 SH11 は弥生時代後期後半の竪穴住居と考えたい。

7-3 区 SH12 (図 158)

方形の竪穴住居である。『旧練兵場遺跡Ⅱ』SH09 の南半にあたることを考えて調査を行ったが、整理段階で図面を照合した結果、位置がずれており別の竪穴住居になることが判明した。また、『旧練兵場遺跡Ⅱ』SH09 の張り出しと把握された『旧練兵場遺跡Ⅱ』SD23 と 7-3 区 SH12 の東側の壁溝が、同一の線上にのることから、両者は一連のものかもしれないが明確なことは不明である。

1167 は床面直上で出土した弥生土器高杯である。杯部中で強く折れて上半を外反する形態である。弥生時代後期後半のものと考えられる。壁溝から出土した 1168 の弥生土器鉢は、やや時期が遡るかもしれない。

1169 は鉄釘である。断面形はいびつな円形で、両端を欠損する。1170、1171 は軽石である。擦痕と思われる線状痕がある（森下）。

7-3 区 SH12 と『旧練兵場遺跡Ⅱ』SH09 との層位関係は不明であるが、過年度調査区に 7-3 区 SH12 の北半が検出されていないことから、『旧練兵場遺跡Ⅱ』SH09 の方が新しい可能性がある。しかし、『旧練兵場遺跡Ⅱ』SH09 は弥生時代後期前半新段階と考えられており矛盾する。一方、7-3 区 SH12 が壊す 7-3 区 SH10 は弥生時代後期後半と考えられることから、課題を残すものの 7-3 区 SH12 を弥生時代後期後半の竪穴住居と考えたい。

7-3 区 SH10 (図 159)

方形の竪穴住居である。東辺および西辺の壁溝、支柱穴 2 基を検出した。7-3 区 SH12、7-3 区 SH11 を壊す。7-3 区 SH09 との関係は不明である。東西幅約 270cm、支柱穴は 2 基と考えられ（ただし、き

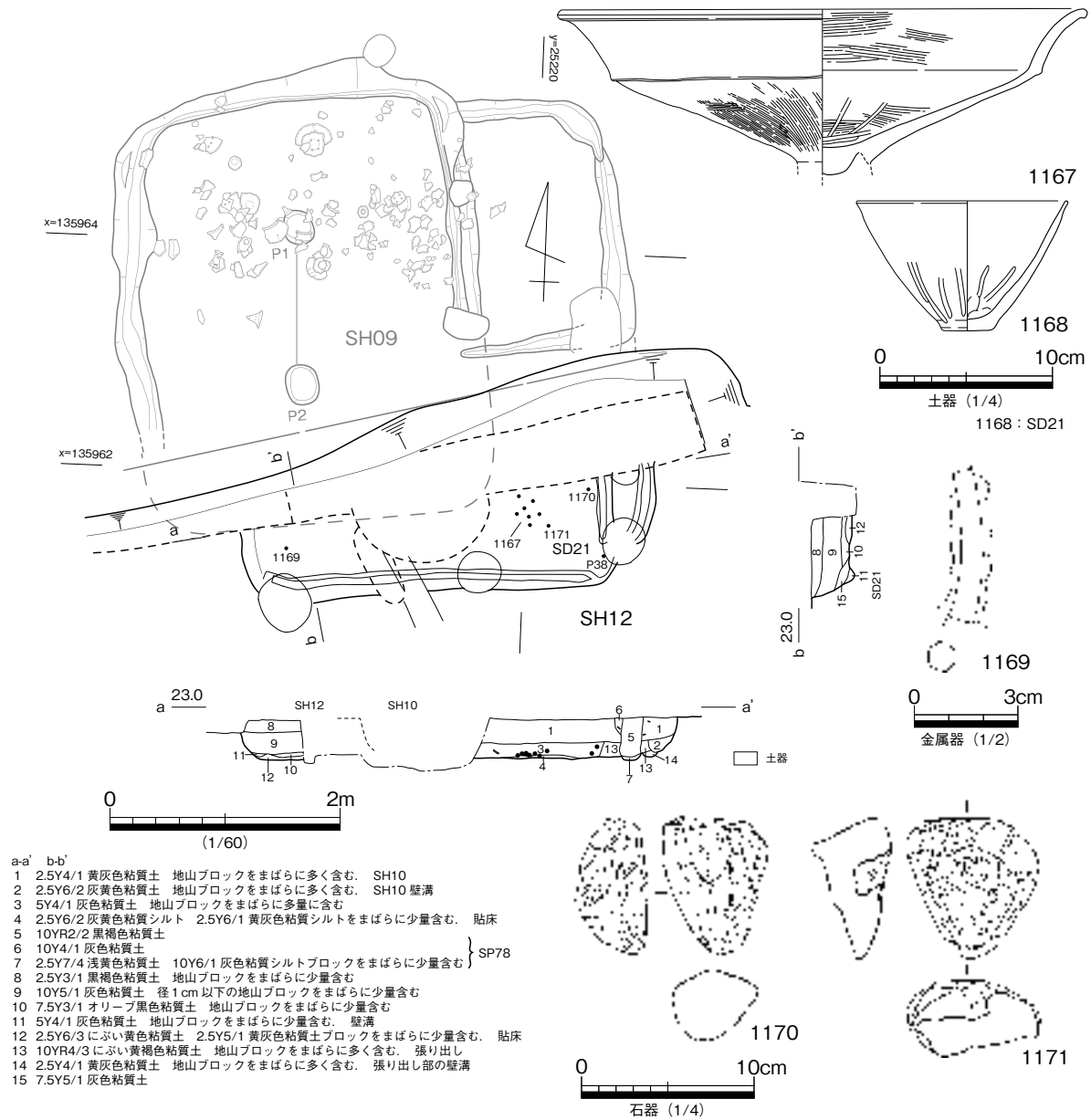


図 158 7-3 区 SH12 平・断面・出土遺物

わめて浅い)、柱間寸法は 130cm を測る。

覆土、貼床から弥生土器細片多数が出土している。図 159 の 1172 は貼床から出土した弥生土器広口壺、1173 は 7-3 区 SP83 から出土した弥生土器甕の細片、1174 は壁溝から出土した弥生土器甕の細片である。

1175 はガラス製の管玉である。青色を呈する。1176 はサヌカイト製の楔状石核である。上下端には敲打による潰れがみられる。左図の左の端面は上下からの加圧による割れ面である（森下）。

出土遺物は細片であり、年代を特定しうるような出土状況ではないが、7-3 区 SH10 は弥生時代後期後半に属すると考える。

7-3 区 SH09 (図 160)

壁溝と覆土、貼床を検出した。東側を 7-3 区 SD08 に、南側を病院施設に壊されており、西北側の一部分を検出したのみである。壁溝の平面形は北側は直線状を呈し、西側は緩やかな弧状を呈する。主柱

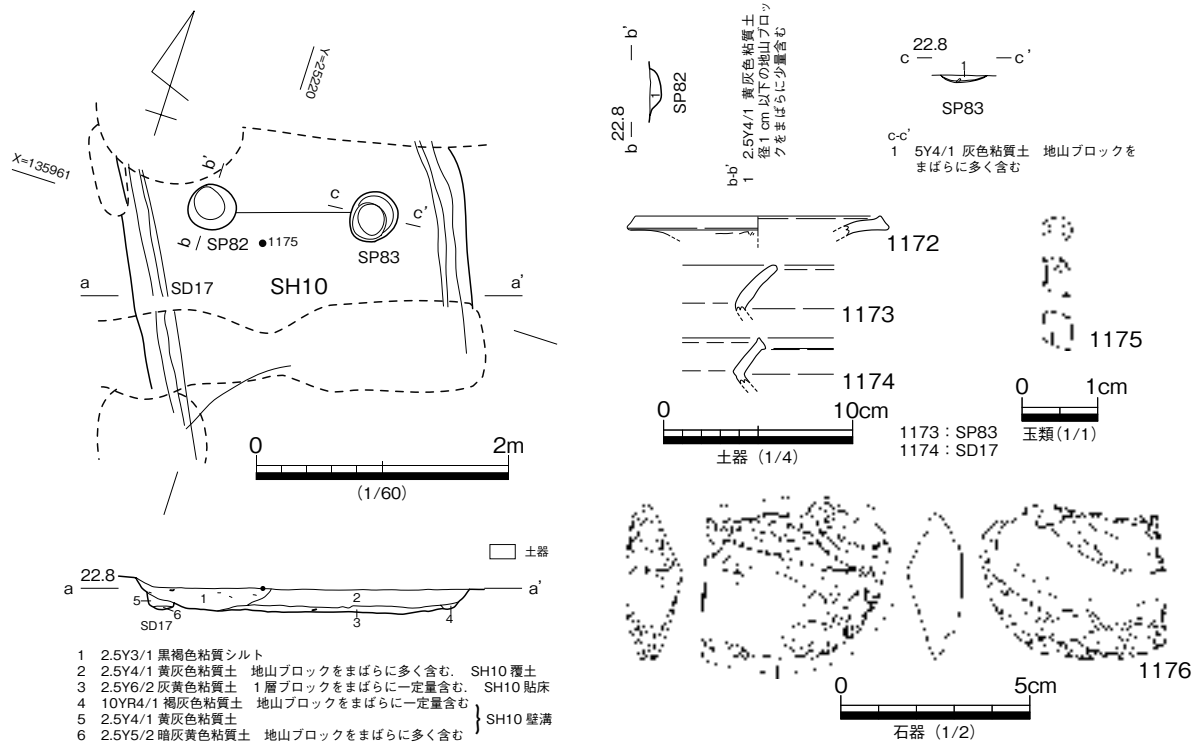


図 159 7-3 区 SH10 平・断面・出土遺物

穴は 7-3 区 SP86、87 が候補になるが確定できない。このことから竪穴住居の平面形は隅丸方形である可能性があるが確定できない。覆土厚は 20cm で、弥生土器細片が多数出土している。図 160 の 1177 ~ 1181 は弥生土器甕、1182 は高杯である。

1183 は刀子、1184 は鉄釘である。1183 は先端が尖る。1184 の断面形は方形である。片方の端部は細くなり、もう一方の端部は欠損する。1185 はサヌカイト製の石鏃である。平基式である（森下）。

1177、1182 は壁溝や貼床から出土したものであるが混入と考えられ、1178 ~ 1180 の甕が示す弥生時代後期後半が竪穴住居の年代を示すと考える。

7-3 区 SH08 (図 161、162)

方形の竪穴住居である。壁溝、4 基からなる主柱穴のうちの 3 基を検出した。7-3 区 SH07 より新しく、7-3 区 SH06 よりも古い。南半は病院施設のため壊されているが、建物の東西幅は 5 m、柱間寸法は東西 2.5、南北 2.85 m である。主柱穴の配置より、ほぼ真北方向を向く一辺 5 m ほどの方形の竪穴住居と考えられる。中央やや東寄りで見出した土坑（7-3 区 SK12）は、埋土中に炭化物を含んでおり中央土坑と考えられる。7-3 区 SK11 はきわめて浅く、貼床の局所的なくぼみである可能性が高い。

覆土、貼床から多量の弥生土器細片が出土している。図 161 の 1186 ~ 1202 は覆土から出土したものの、1203 ~ 1213 は床面直上のもの、1214 ~ 1219 は主柱穴および壁溝から出土した遺物の実測図である。弥生時代後期前半に属すると考えられるものが目につくが、1187 の弥生土器複合口縁壺は精査中に出土したものの、1200 は土師器甕の口縁部で覆土から出土したものであり、前者は弥生時代終末期、後者は古墳時代前期のものと思われる。このように出土遺物には時期幅が見られ、いずれも細・小片が主体となっている。竪穴住居の平面形や切り合い関係にある他の竪穴住居の年代観等を総合して、本竪穴住居は弥生時代終末期のものとする。なお、1198 の弥生土器鉢は見込み部の砂粒がはずれた窪み部分

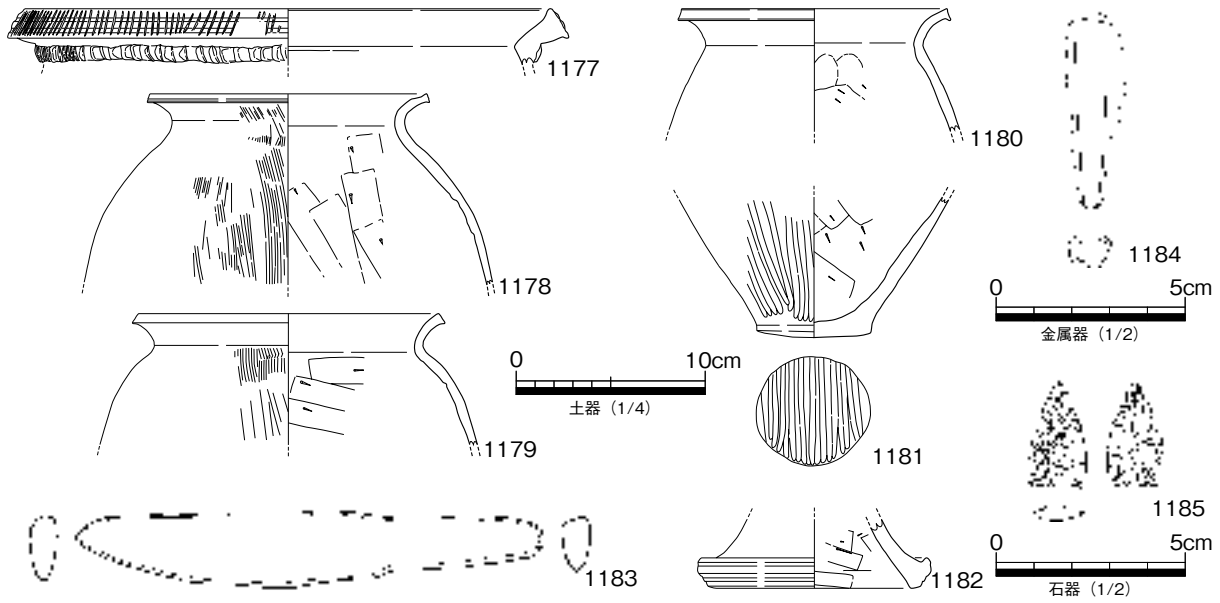
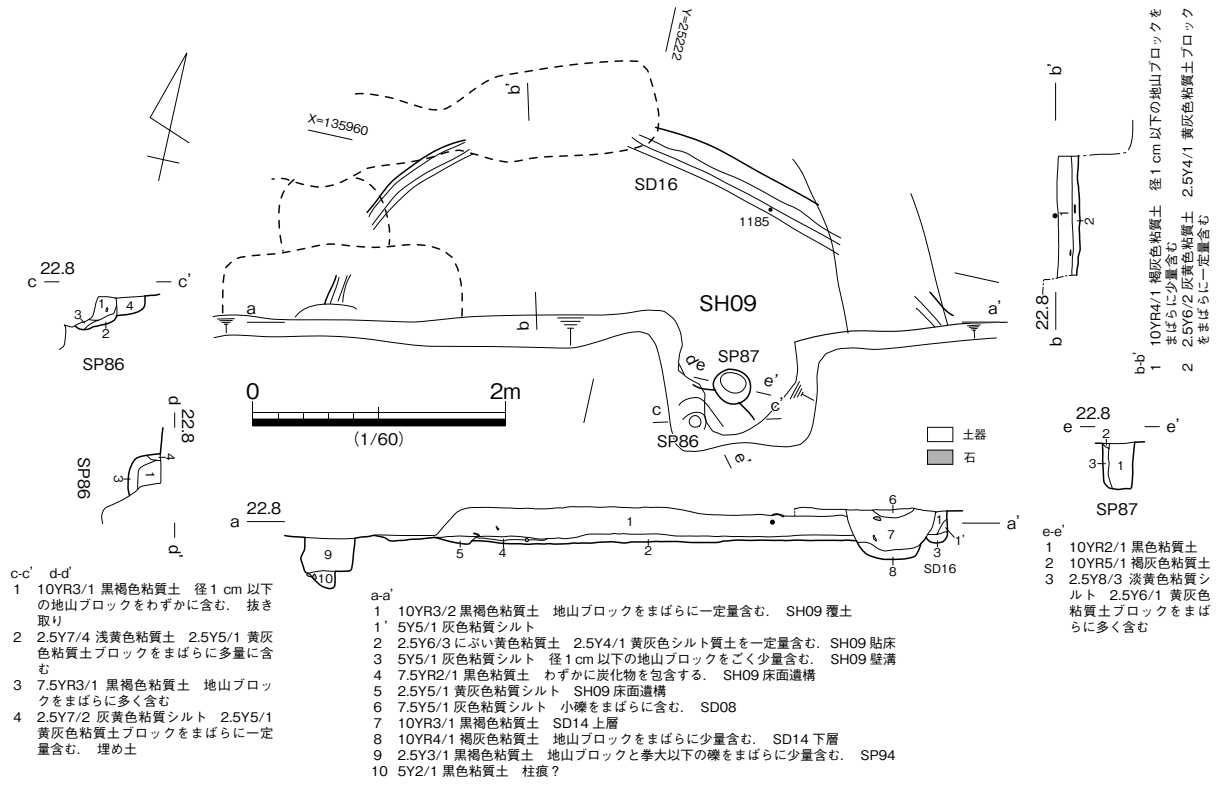


図 160 7-3 区 SH09 平・断面・出土遺物

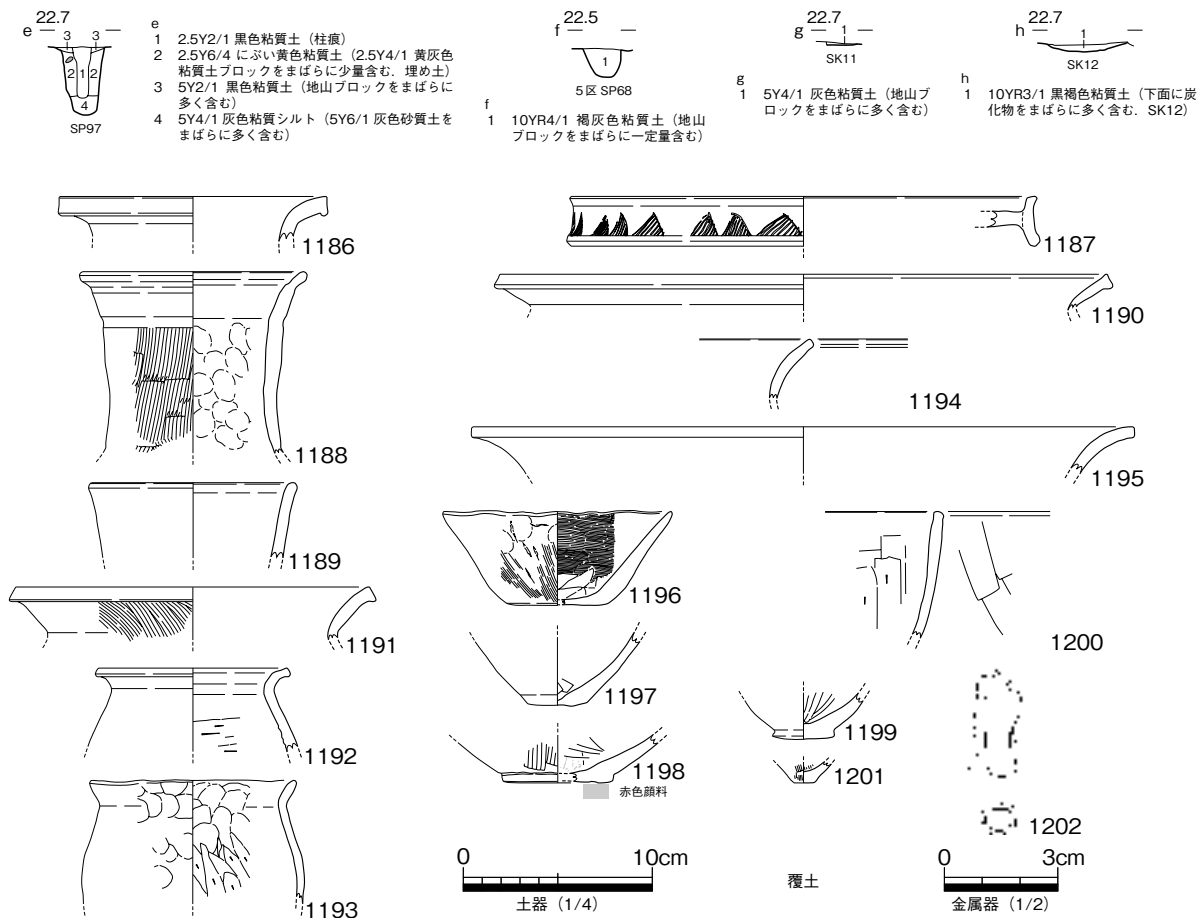
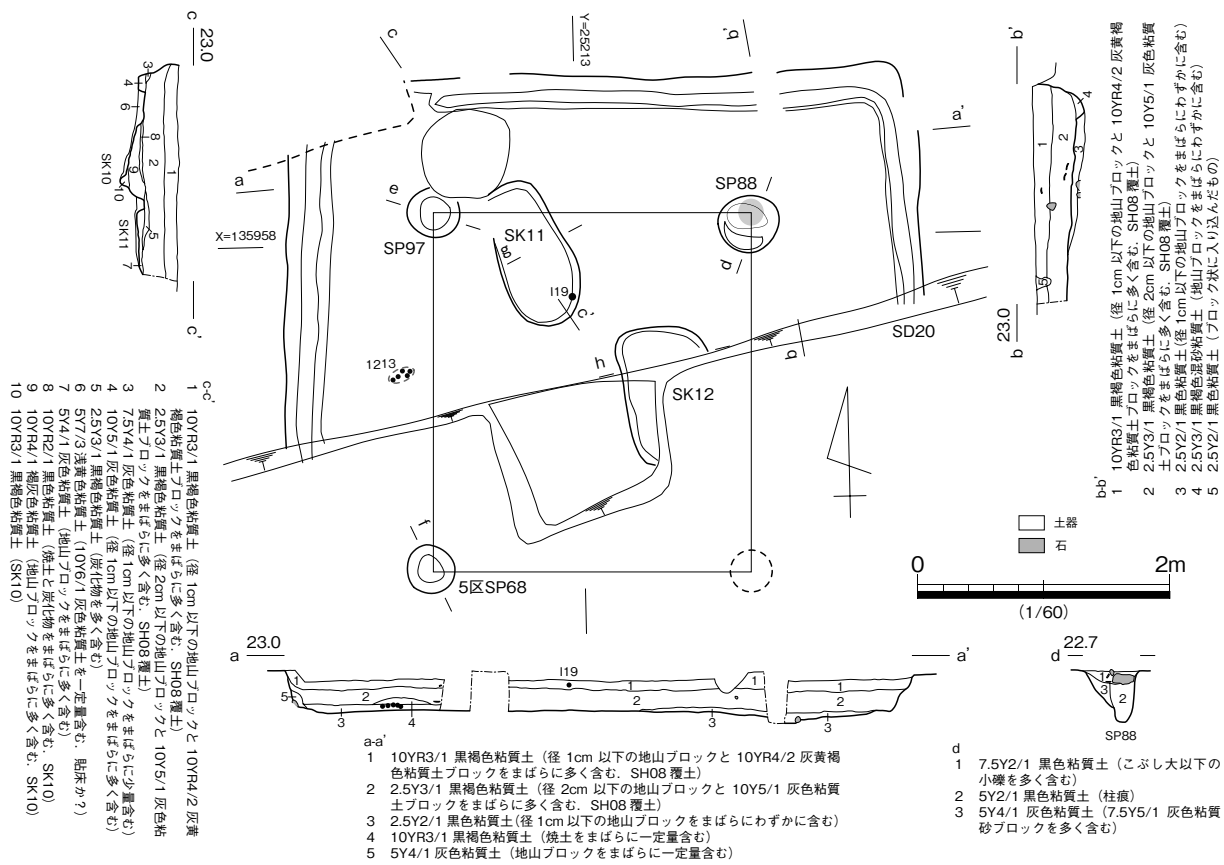


図 161 7-3 区 SH08 平・断面・出土遺物 (1)

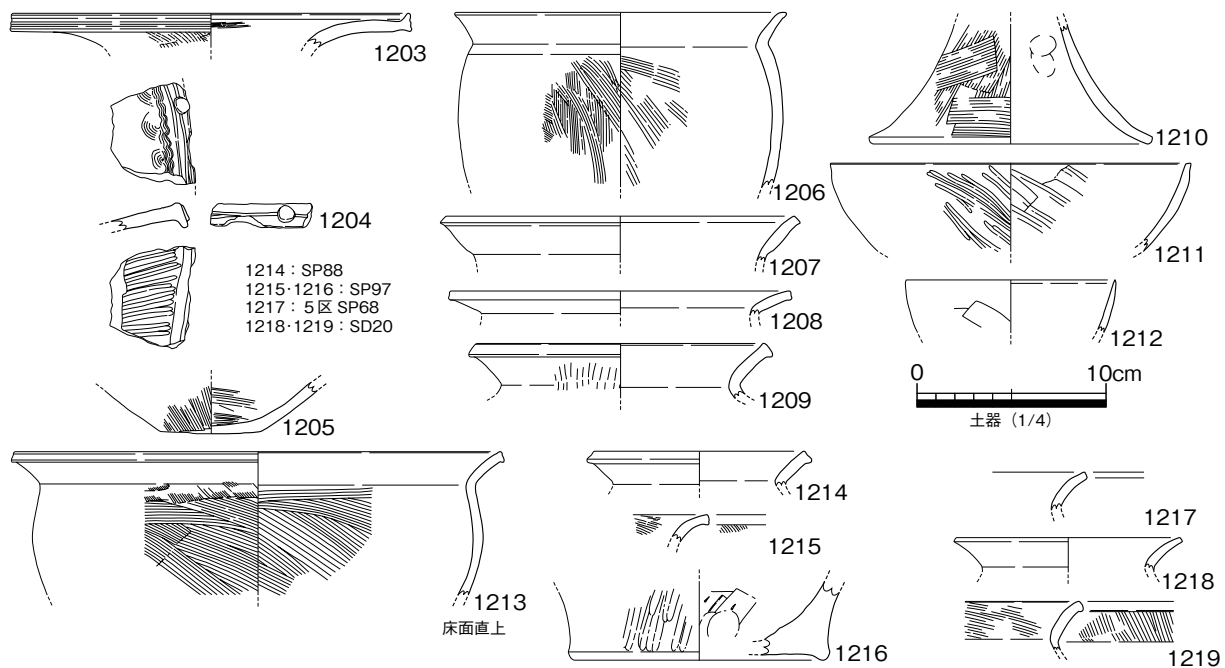


図 162 7-3 区 SH08 出土遺物 (2)

に赤色顔料が付着する個体である。

1202 は鉄釘である。断面形はいびつな方形で、両端を欠損する (森下)。

7-3 区 SH14 (図 163)

柱穴の配置から復原した竪穴住居である。7-3 区と 7-5 区をまたいで、径 60cm ほどの柱穴が長方形に配置される。柱穴寸法は東西 2.1、南北 2.6 m、方位は N - 6° - E、7-3 区 SP157、SP179 では深度 85 cm 前後を測る。いずれの柱穴からも弥生土器細片が数点出土したのみである。7-3 区 SH06 の貼床除去後に検出していることから、それよりも古いことはわかるが、年代不明である。

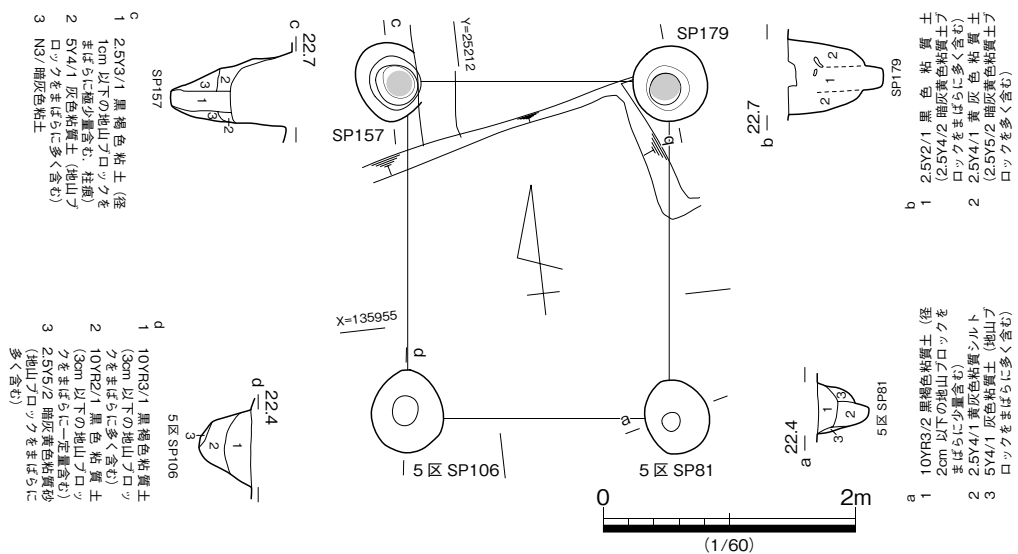


図 163 7-3 区 SH14 平・断面

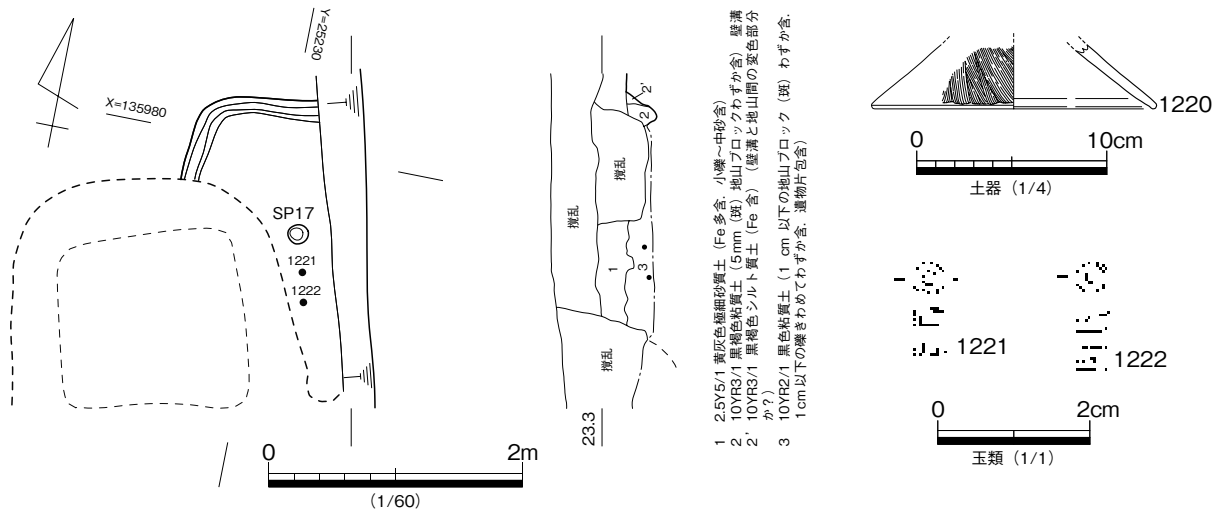


図 164 7-3 区 SH01 平・断面・出土遺物

7-3 区 SH01 (図 164)

西北角部分の壁溝と覆土、支柱穴と考えられる柱穴 1 基を検出した。竪穴住居の平面形は方形になると考えられるが、検出が一部分のため詳細不明である。7-3 区 SP17 は径も小さく浅いことから支柱穴とするには躊躇していたものであるが、のちに調査区東側の発掘調査が行われた際に、柱痕を柱穴と誤認していたことが判明した。位置関係から 7-3 区 SH01 の支柱穴になる可能性が高い。

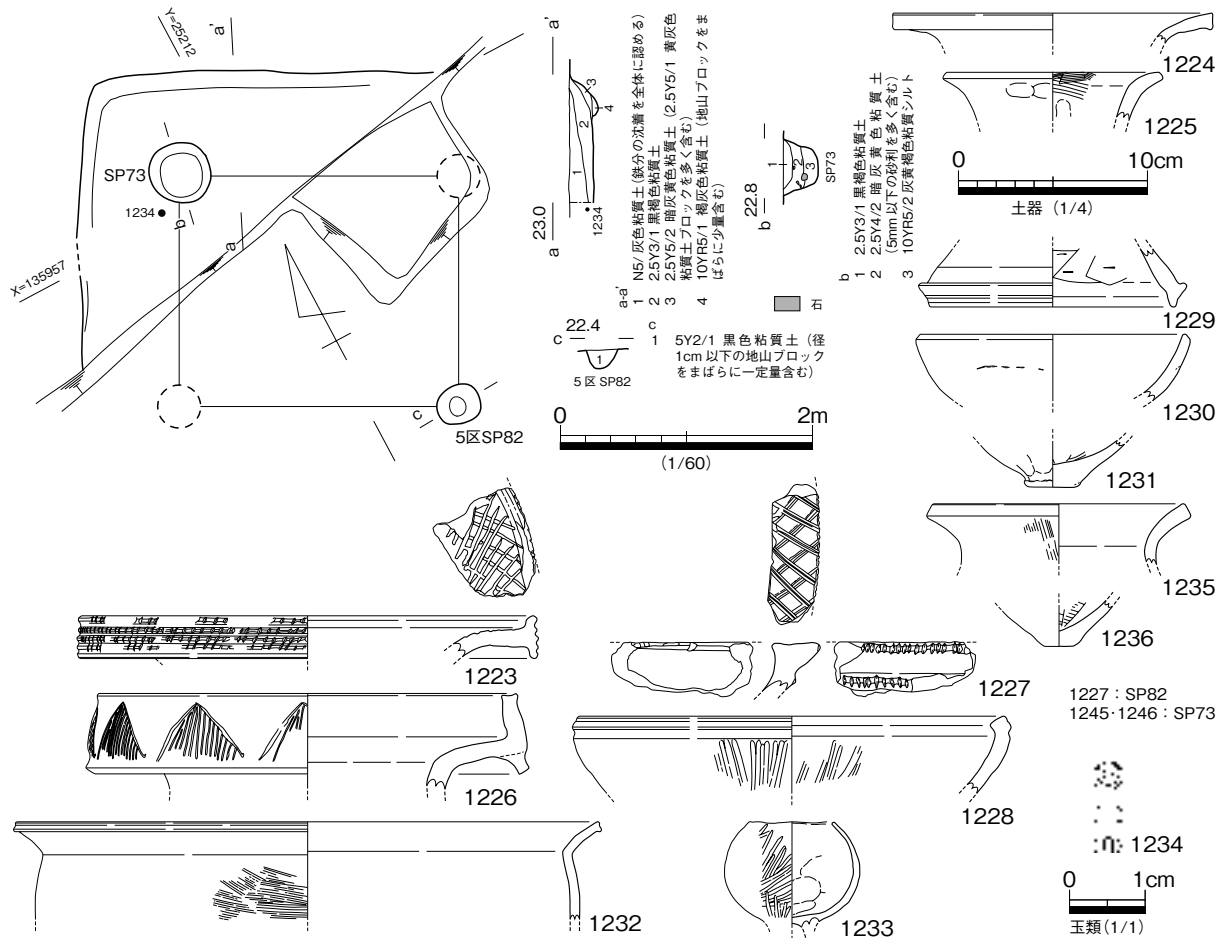


図 165 7-3 区 SH06 平・断面・出土遺物

出土遺物は、壁溝に須恵器細片が1点含まれる以外は、弥生土器・土師器の小・細片であり約200点が出土している。1220は土師器高杯の脚部である。

1221、1222は滑石製の白玉である。いずれも灰緑色を呈し、一部欠損する(森下)。

このほかに時代を特定しうるような遺物はないが、7-3区SH01は古墳時代前期の竪穴住居と考えられる。

7-3区SH06(図165)

方形の竪穴住居である。大半は病院施設で破壊されており、西北角の一部分が検出できた。位置関係から4基からなる支柱穴配置になり、このうちの2基を検出している。

図165の1223～1225は弥生土器広口壺、1226は複合口縁壺、1227～1229は高杯である。1229は脚端部を下方に摘み出す備後地方に特有の形態である。1230～1232は鉢、1233は台付鉢である。

以上のように図化遺物はすべて弥生土器であるが、出土遺物中には複数の須恵器片が含まれている。図化可能なものはないが、床面直上にも比較的大きな破片があり、図化した遺物はすべて混入と判断される。覆土出土ではあるが、立ち上がりをもつ須恵器杯が出土していることから、7-3区SH06は古墳時代後期の竪穴住居と考えられる。

このほか滑石製の白玉(1234)が出土している。暗緑色を呈する(森下)。

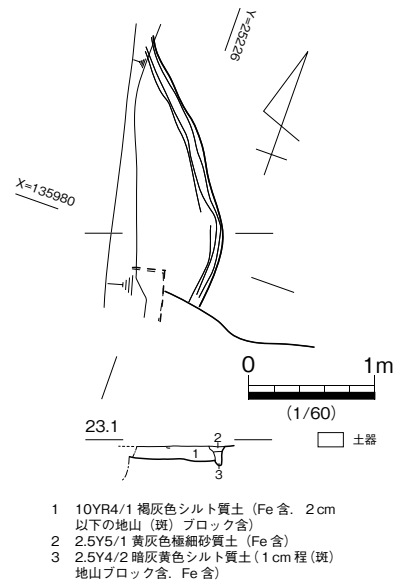


図166 7-3区SH02
平・断面

7-3区SH02(図166)

壁溝と貼床を検出した。南側を7-3区SD03、西側を病院施設に壊されており、検出は一部分に留まった。このため竪穴住居の平面形は不明である。100点を越える土器細片が出土し、このうちの1点は須恵器片である。しかし、図化可能なものはなく、須恵器片は混入した疑いもある。したがって、7-3区SD03の年代(古墳時代後期)よりも古いという評価しかできない。

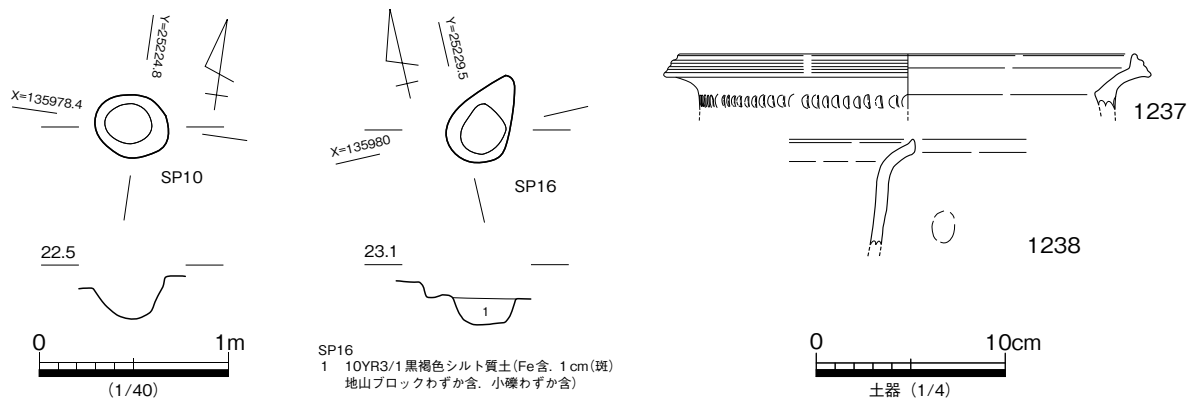


図167 7-3区柱穴・土坑(1) 平・断面・出土遺物

7-3 区柱穴（東部）（図 167）

7-3 区の東部では 38 基の柱穴を検出しているが、建物を構成するような規格的な配置をとるものは認められない。また、明確に時期を特定できるような出土状況の遺物もない。7-3 区 SP10、16 から出土

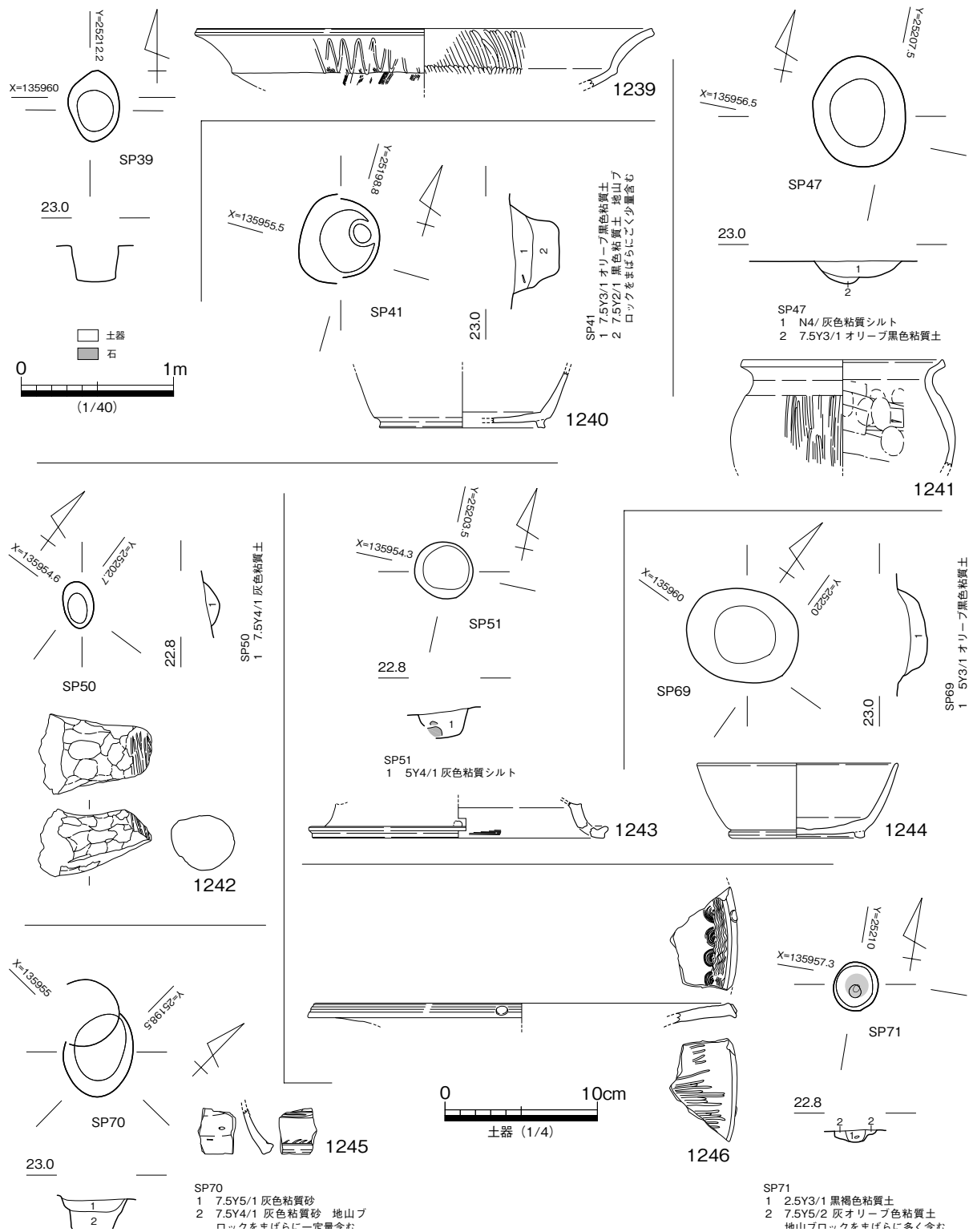


図 168 7-3 区柱穴・土坑 (2) 平・断面・出土遺物

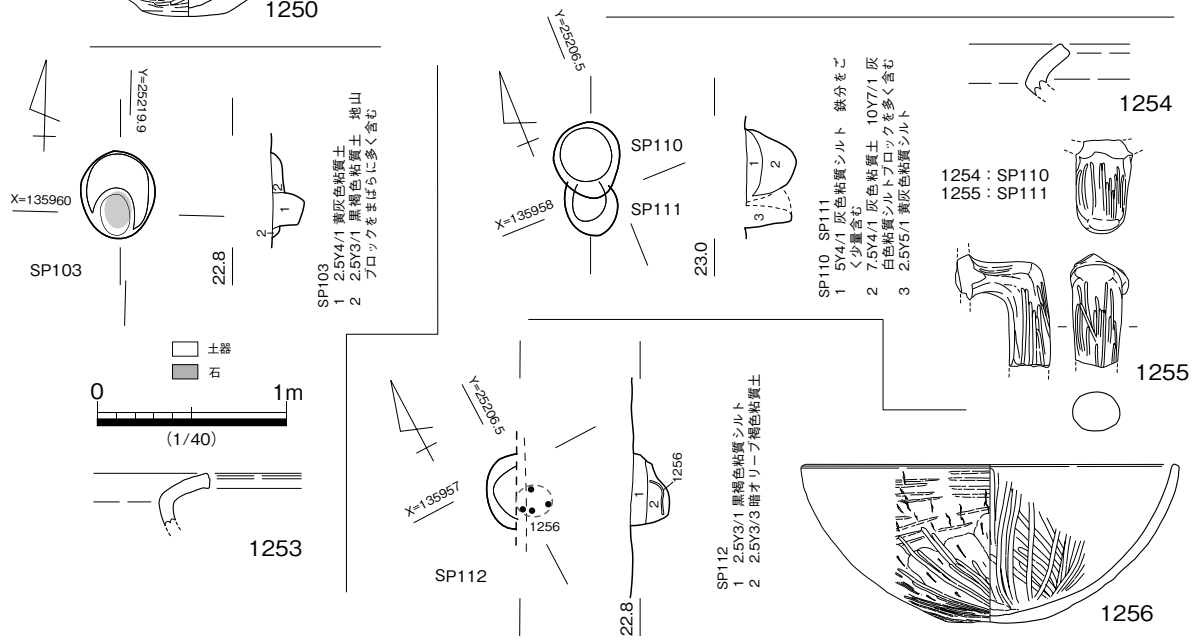
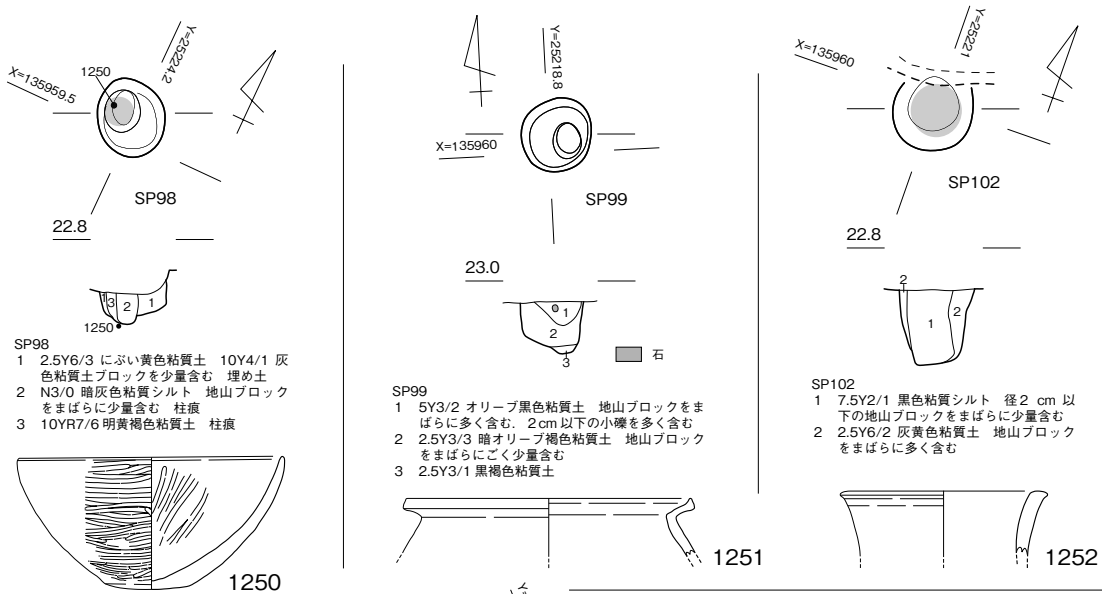
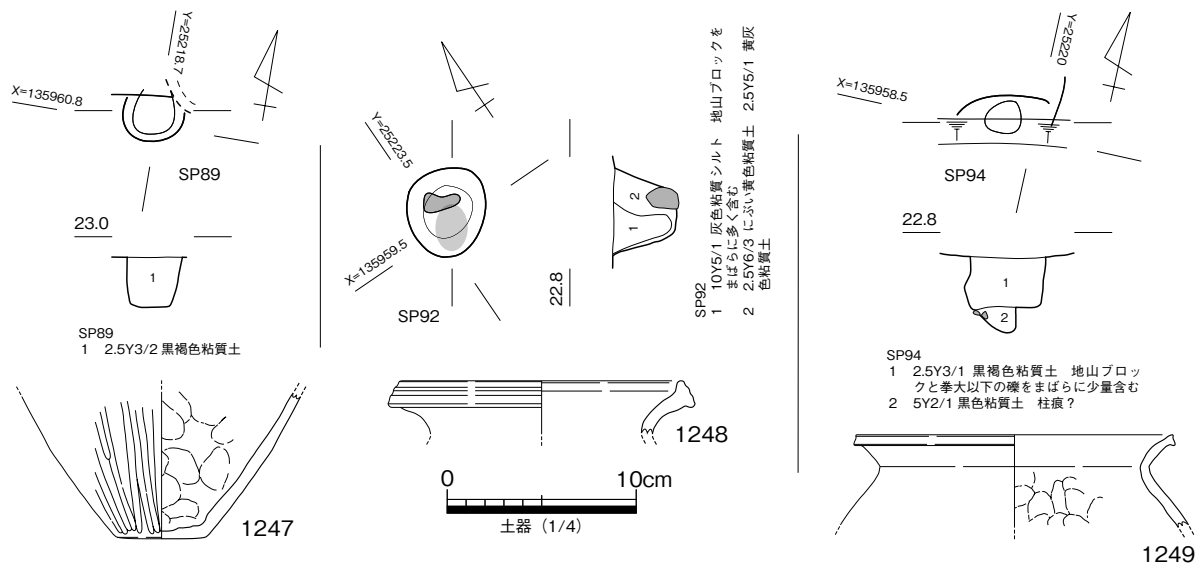


図 169 7-3 区柱穴・土坑 (3) 平・断面・出土遺物

構の年代の示さない図化遺物が混在している可能性が残ることをおことわりする。

1258は7-3区SP131から出土したサヌカイト製の2次加工のある剥片である。端部には片面から調整が施される。1263は7-3区SK08から出土したサヌカイト製の石包丁である。端部には浅い抉りがみられる。もう片方の端部は欠損する。背部と抉りには敲打による潰れがある。刃部は両面から調整が施されるが、片面の調整は粗い(森下)。

7-3区SK07(図171)

7-3区SH05を壊す土坑である。長軸110以上、短軸50、検出面からの深さ22cmを測る。細長く船底状の形状から墓の可能性が考えられたが、棺痕跡も確認されず、遺物の出土状況等、積極的に肯定する資料は得られなかった。100点余りの弥生土器細片が出土している。1264、1265は弥生土器甕の口縁部である。細片で、7-3区SK07の年代の上限を示すに過ぎないと考える。

7-3区SD01～03(図172)

7-3区東部では、南北もしくは東西を指向する溝状遺構が検出されている。

7-3区SD01は、幅40、深さ10cmほどの規模の溝状遺構である。南側は7-3区SH02に壊される。北側は6-3区に連続するが、6-3区の遺構検出面が少し低いことから未検出である。30点強の弥生土器・土師器の細片が出土しているが、図化可能なものはない。7-3区SH02よりも古いこと以外はわからない。

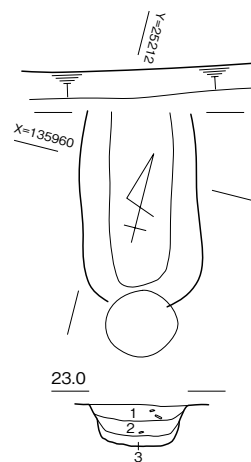
7-3区SD02は、幅100、深さ30cmほどの規模の溝状遺構である。北側は6-3区SD06に連続し、南側は病院施設の攪乱で消滅する。7-3区では真北方向を示し、6-3区では緩やかに東方に曲流する。須恵器片10点余りと弥生土器細片多数が出土している。1266は7-3区SD02出土の須恵器甕である。大きく外反する頸部に2条1組の沈線とハケを用いた装飾が見られる。古代の所産であろう。

1267はサヌカイト製の石錐である。錐部先端を欠損する(森下)。

7-3区SD03は、7-3区SD02に壊される東西方向の溝状遺構である。しかし、西側の過年度調査区には該当する遺構が見出せず土坑状になる可能性もある。幅200、深さ50cmほどの規模で、埋土は3層に分けられる。弥生土器・土師器片多数が含まれ、上層と中層には須恵器片が7点ほど含まれていた。実測遺物には弥生時代終末期のものが含まれるが混入である。古墳時代後期から古代の遺構と考えられる。

7-3区SD08～10、14(図173)

7-3区は、丸亀平野に広範に見られる条里型地割のうち、南北方向の坪界線が通るが、該当する付近



- 1 10YR3/1 黒褐色粘質土
- 2 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 (1cm以下の地山ブロックをまばらに多く含む)
- 3 2.5Y6/2 灰黄色粘質シルト (地山ブロックをまばらに多量に含む)

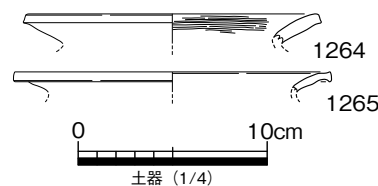
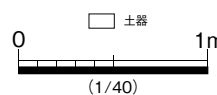
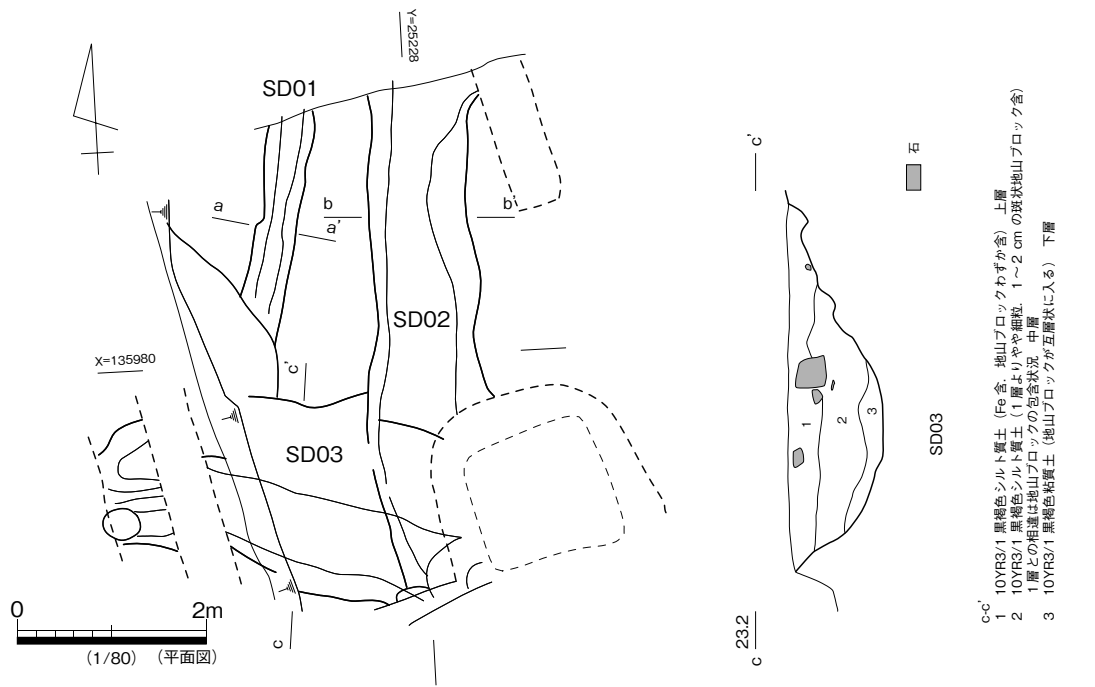


図171 7-3区SK07

平・断面・出土遺物



a-a'
 1 10YR3/2 黒褐色シルト質土 (Fe わずか含、地山ブロック (斑2cm) わずか含) 上層
 2 地山中に1層土が含まれるように入る 下層

b-b'
 2.5Y3/1 黒褐色シルト質土 (1~2cm程の地山ブロック (斑) 含、Fe 含、2cm程の礫・遺物片をまばらに含) 上層

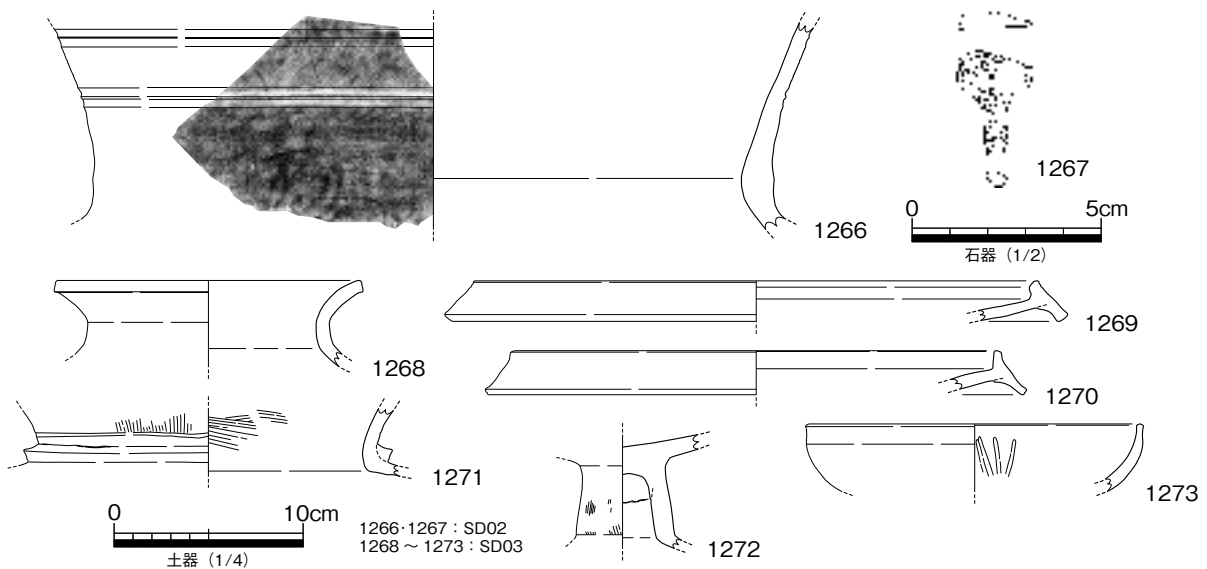


図 172 7-3区 SD01 ~ 03 平・断面・出土遺物

で4条の溝状遺構を検出した。

7-3区 SD08

7-3区 SD14 埋没後に掘削された溝状遺構である。幅35、深さ6cm、断面形は椀状を呈し、灰色のシルト質土で埋まる。出土遺物は須恵器片10点のほか、弥生土器・土師器多数であるが、1274は土師器

蓋であるが、遺構の年代を決められるような出土状況のものはない。

7-3区 SD09

7-3区 SD08 と芯芯で 50cm ほどの距離で平行する溝状遺構である。幅 30、深さ 4cm ほどの規模で、断面形は椀状、埋土は灰色のシルト質土である。4 点の須恵器細片と 30 点余りの弥生土器・土師器が出土しているが、図化可能なものはない。7-3区 SD08 と SD09 は、ほぼ平行に流れ、規模および埋土が類似することから同時並存と考えられ、埋土の特徴から中世に下る遺構と考えられる。

7-3区 SD10

東肩は後世に壊されているが、幅 120 以上、深さ 28cm の溝状遺構である。断面形は椀状を呈し、上下 2 層に区分される。図化した須恵器のほか多数の弥生土器・土師器片が出土している。図化した 1275～1277 は、須恵器甕で、いずれも小破片である。このほかに須恵器の高台片や土師器甕等の側面につく把手の破片なども出土しており、7-3区 SD10 は古代の溝状遺構であることがわかる。なお、埋土からは銅鏡片も出土している。

1278 は銅鏡片である。図の左端部は割れ口が鋭いが、その他の割れ口の端部は摩滅する。外端面に

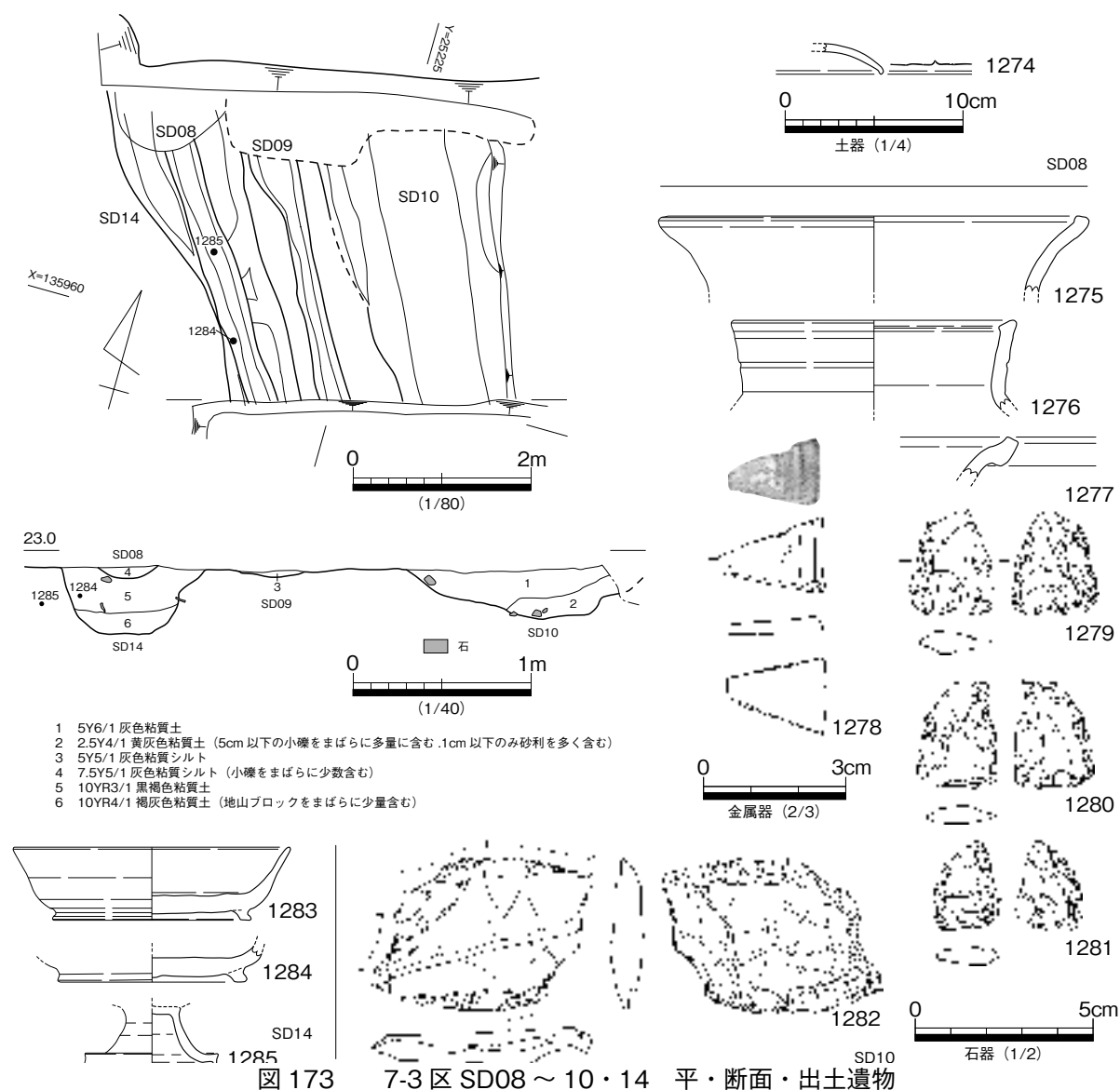


図 173

7-3区 SD08～10・14 平・断面・出土遺物

幅 4 mm、深さ 0.5mm 程度の凹みがみられる。この凹みの周辺は摩滅する。凹みは割れた際にできた剥離痕であろう。文様はかすかに外向鋸歯文帯が認められる。外縁は平坦で、斜縁であることから、中国鏡であると考えられる。銅鏡片は最大長 2.05cm、最大幅 1.6cm、最大厚 0.4cm を測る。元の鏡は径 20cm 弱程度で、比較的大形の銅鏡であると推定される。割れ口や表面が摩滅していることから、中国製の銅鏡を分割し、その小片を使用していたと考えられる（森下）。

サヌカイト製の石鏃（1279～1281）、同製の楔状石核（1282）が出土した。石鏃はいずれも平基式である。1279、1280 は先端が欠損する。1282 の側端部には挟りがあることから、本来は石包丁であったと考えられる。上下端に潰れがあることから、楔状石核として再利用されたと考えられる（森下）。

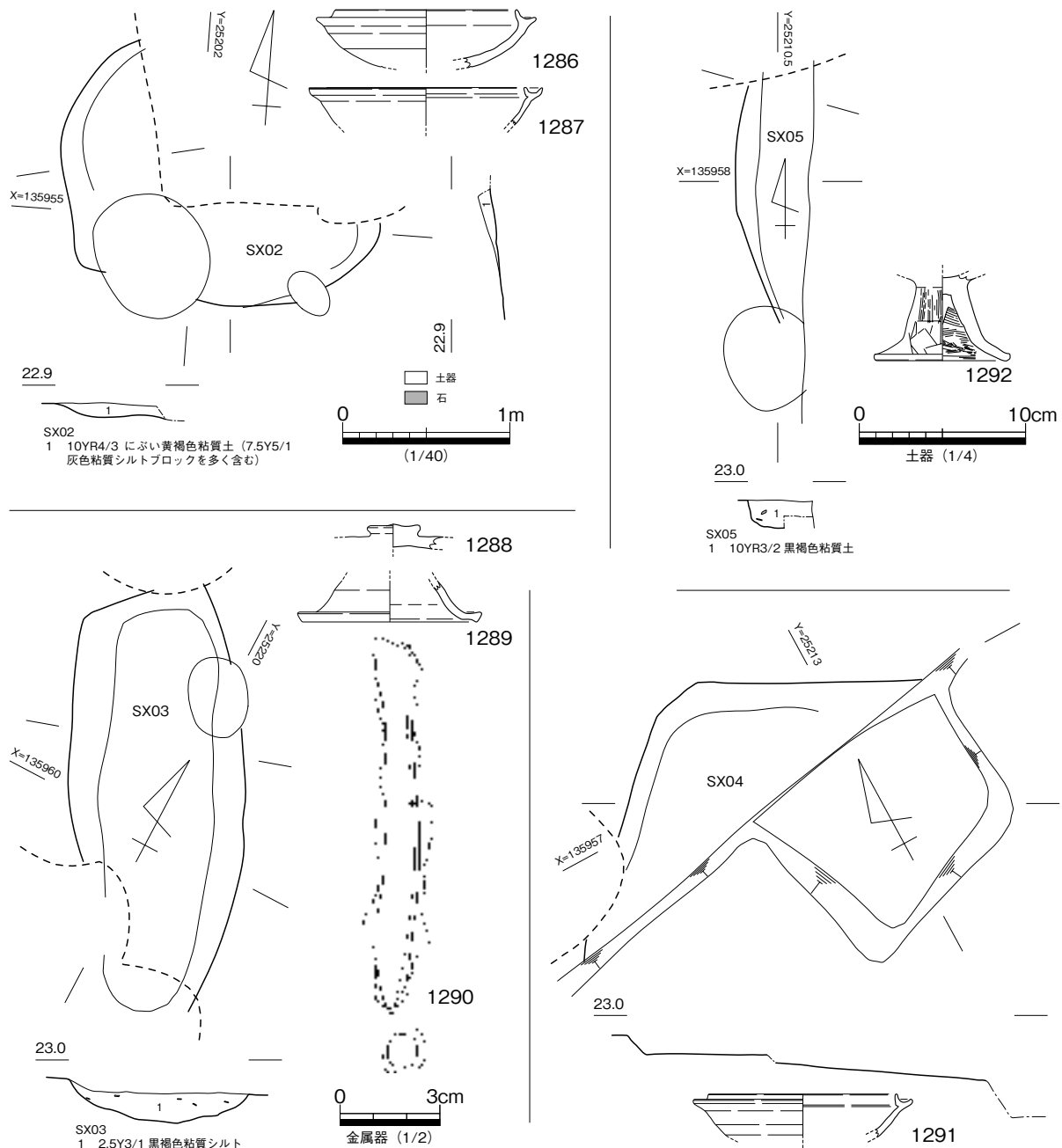


図 174 7-3 区 SX02～05 平・断面・出土遺物

7-3 区 SD14

幅 80、深さ 35cm、断面 U 字形を呈する溝状遺構である。40 片余りの須恵器、弥生土器・土師器多数が出土している。実測遺物のうち 1283 は上層、1284、1285 は溝底近くの下層から出土したものである。高杯は時期が遡るものであるが、杯は 8 世紀後半から 9 世紀前半のものと考えられる。

7-3 区 SX02 ~ 05、07、10 (図 174、175)

7-3 区の西部には性格不明の凹地が複数存在している。

7-3 区 SX02

2 × 1.6 m ほどの大きさの楕円形を呈する凹地である。東北部は病院施設で壊される。深さは 10cm で、断面形は浅い皿状を呈する。数点の須恵器片と 70 点余りの弥生土器片が出土している。1286、1287 は須恵器杯で、TK209 型式併行と考えられる。

7-3 区 SX03

長軸 260 以上、短軸 110、深さ 15cm の凹地。平面形は溝状、断面形は椀状を呈する。7-3 区 SH10 を壊し、7-3 区 SP69 に壊される。須恵器細片 40 点余りのほか、弥生土器細片多数を包含する。出土遺物の特徴は、接合不能の磨滅する細片が多いことである。性格不明の遺構であるが、凹地を埋めて平坦化するために造成されたものである可能性が高い。1288 は宝珠形の摘みのある須恵器蓋、1289 は須恵器高杯の脚部であり、いずれも細片である。

1290 は鉄釘である。断面形はいびつな方形を呈し、端部を欠損する (森下)。

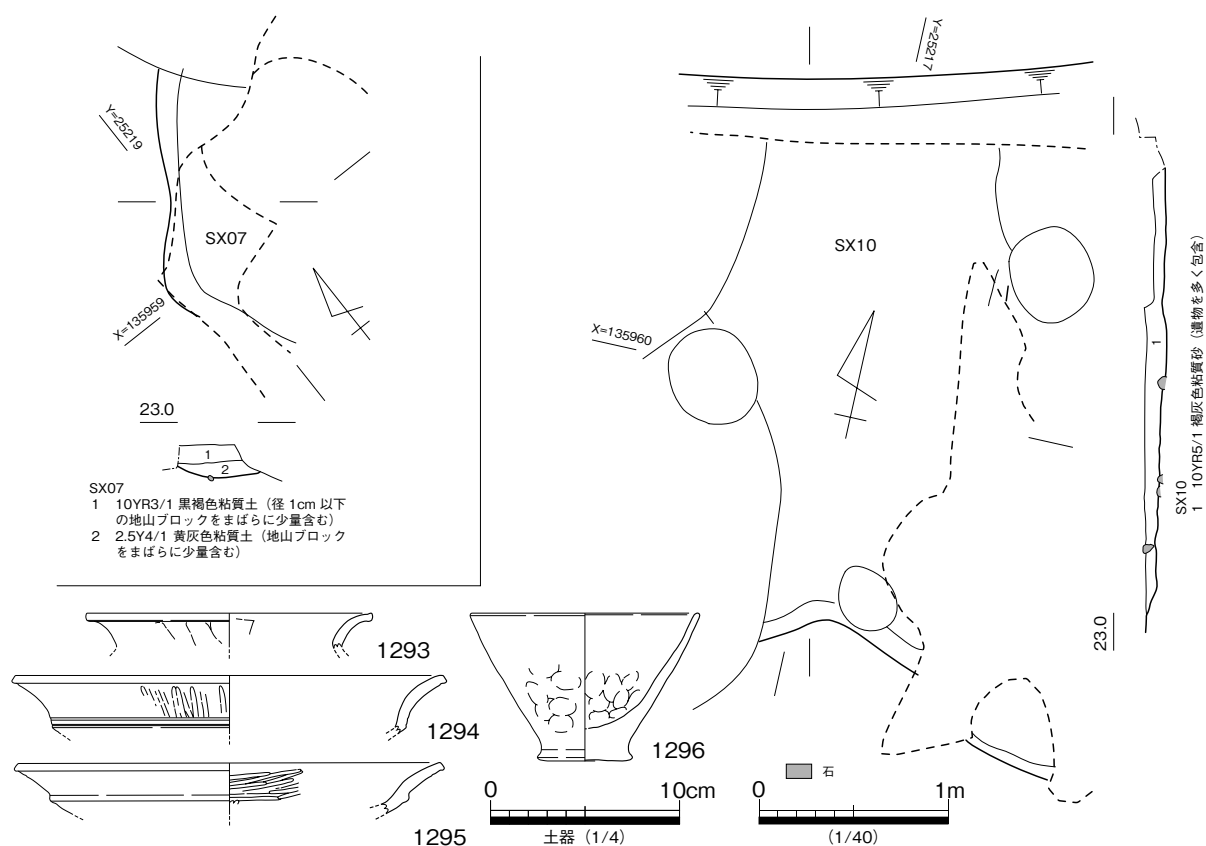


図 175 7-3 区 SX07・10 平・断面・出土遺物

7-3区 SX04

北側の一部を検出し、南側は病院施設で壊されている。平面形は2本の直線が鈍角に屈曲する形状であるが、全形は不明である。7-3区 SH06 よりも新しい。数点の須恵器片と 200 点近い弥生土器片が出土している。1291 の須恵器杯は TK209 型式併行期と考えられる。

7-3区 SX05

弧状を描く掘り方をもつ凹地。急角度で掘り込み、屈曲をもって底面に移行する。110 点強の弥生土器片が出土している。須恵器片は含まれない。7-3区 SH08 に壊される。1292 は土師器高杯であるが、7-3区 SH08 の年代観と矛盾する。本遺構付近は7-3区 SR01 により遺構埋土がきわめて見難くなっていることから、混入と考えたい。

7-3区 SX07

不定形の平面形の凹地。7-3区 SH10、7-3区 SH09 に壊される。60 片余りの弥生土器細片が出土しているが、年代を特定できるような出土状況のものはない。遺存部分が僅少であるために遺構の性格は不明である。

7-3区 SX10

7-3区 SH05、7-3区 SH07 等に壊されて形状不明の凹地である。掘り方が残る南側では、凹地側に張り出すような平面形状を呈し、緩やかに落ち込んでいる。弥生土器細片が多数出土している。1293 ~ 1296 は7-3区 SX10 出土の遺物であるが、層位的関係から7-3区 SX10 は弥生時代後期前半の遺構と考えられる。

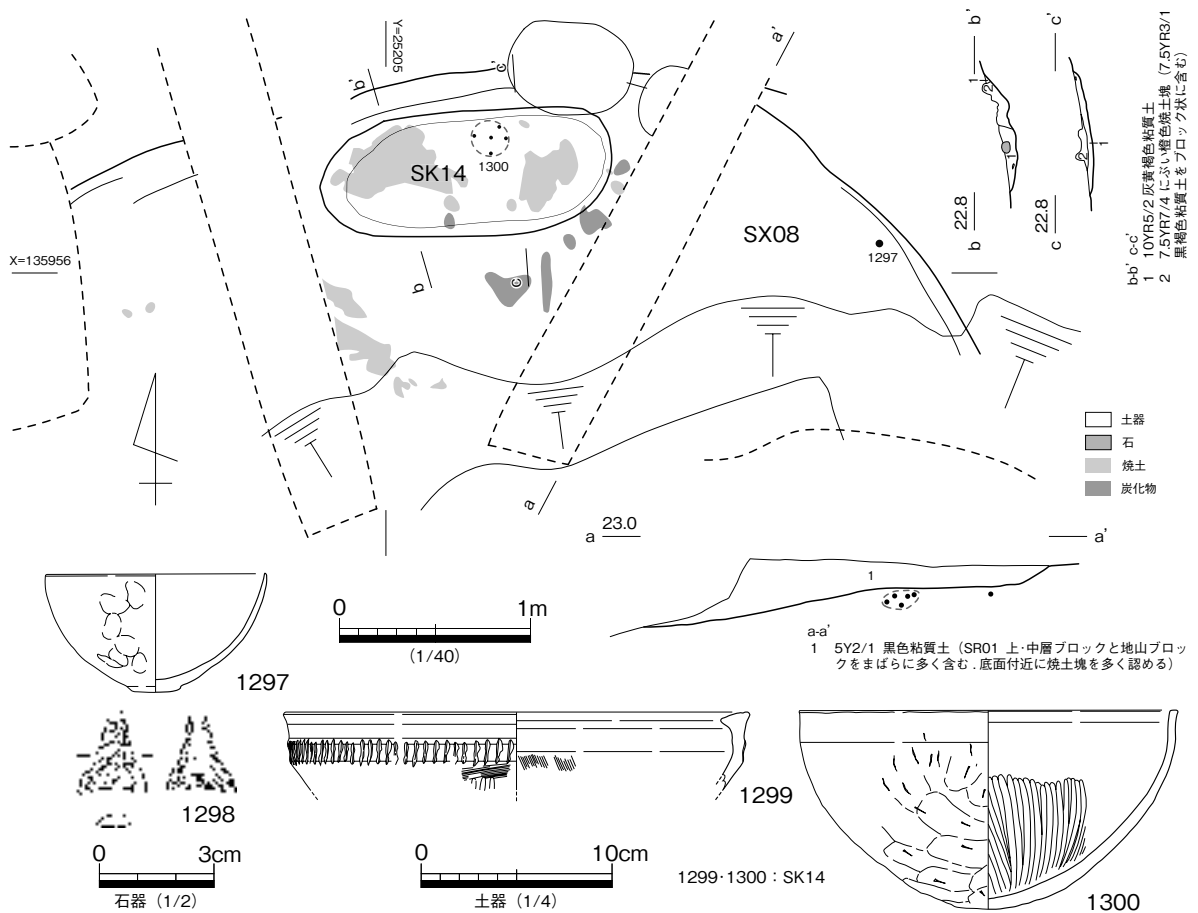
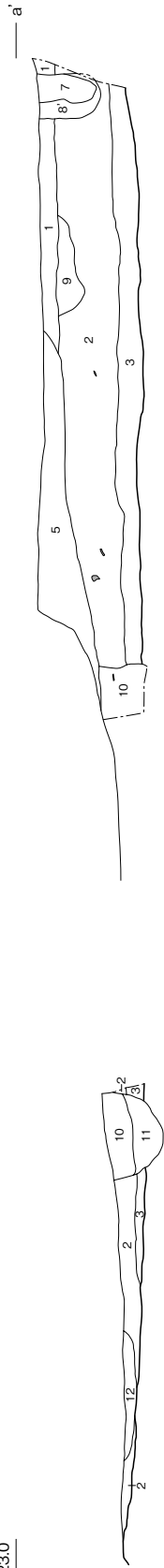
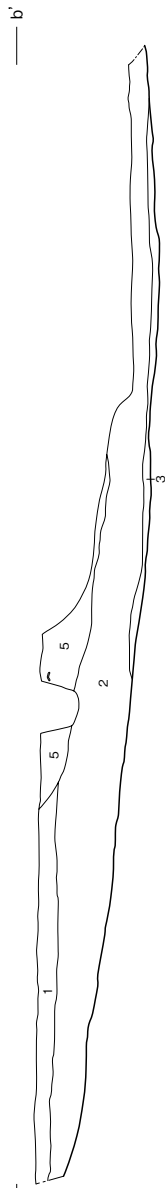


図 176 7-3区 SX08 平・断面・出土遺物

23.0
a

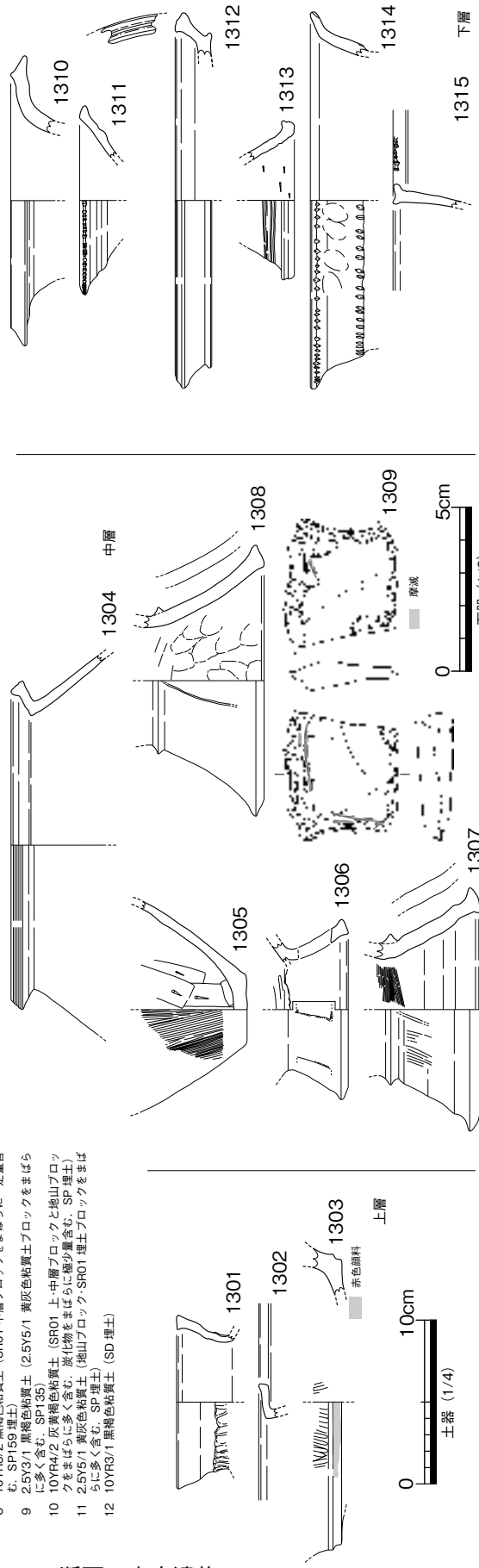


23.0
b



- 1 10YR3/1 黒褐色粘質土 (地山ブロックとSR01 中層ブロックをまばらに多く含む, SR01 上層)
- 2 10YR3/3 暗褐色粘質土 (細分を多く含む, しまり堅緻, 地山ブロックをまばらに一定量含む, SR01 中層)
- 3 2.5Y2/1 黒色粘質土 (SR01 下層)
- 5 5Y2/1 黒色粘質土 (SR01 上・中層ブロックと地山ブロックをまばらに多く含む, しまり堅緻, 地山ブロックをまばらに一定量含む, SR01 中層)
- 7 2.5Y7/1 灰白色粘質シルト (SP159 柱礎)
- 8 10YR3/2 黒褐色粘質土 (SR01 中層ブロックをまばらに多く含む, SP159 埋土)
- 9 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 (2.5Y5/1 黄灰色粘質土ブロックをまばらに多く含む, SP135)
- 10 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 (SR01 上・中層ブロックと地山ブロックをまばらに多く含む, 炭化物をまばらに少量含む, SP埋土)
- 11 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (地山ブロック・SR01埋土ブロックをまばらに多く含む, SP埋土)
- 12 10YR3/1 黒褐色粘質土 (SD埋土)

図 177 7-3 区 SR01 断面・出土遺物



7-3 区 SX08 (図 176)

7-3 区 SR01 上で検出した凹地である。南半分は病院施設に壊され、北半分のみ遺存する。平面形は楕円形で、東側の円弧部分では直径 3 m ほどの大きさである。断面形は、掘り込みから深さ 10cm ほどで屈曲し 70cm ほどの幅の平坦面があり、7-3 区 SR01 に合わせるように、以後ゆるやかに落ち込んでいる。底面には炭化物と焼土が集中する箇所があるほか、埋土には自然石、多量の土器片を包含している。底面で焼土が集中する箇所には完形の弥生土器鉢 (1300) があり、土坑が存在すると観察したが、断面図に見るとおり、きわめて浅い形状であり、人為的に掘り下げたものか自然形成なのかよくわからない。

土器片は、数点の須恵器片が混じるものの、弥生時代後期に属する細・小片が大半を占める。このなかには、先述した鉢のほかに 1297 も完形に近い状態で出土している。しかし、土器片の大半は摩滅した接合不能の細片が多く、造成によって埋められたと判断した凹地の遺物のあり方と共通している。また、竪穴住居のような断面形ではなく、凹凸のある凹地であることから、7-3 区 SX08 も地面を平坦化するために埋められた造成土であると判断する。なお、1300 は外面下半はヘラ削り、内面はヘラミガキを施す鉢で、弥生時代終末期のものと考えられる。7-3 区 SX08 を壊す 7-3 区 SP112 でも終末期の鉢が出土していることから、7-3 区 SX08 の埋没後の短い期間に 7-3 区 SP112 が掘られたのであろう。

1298 はサヌカイト製の石鎌である。凹基式で、先端を欠損する (森下)。

7-3 区 SR01 (図 177)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』調査区を南から北へ蛇行しながら北流し、7-6 区から 7-4、7-5 を北から西方向に曲流しながら流れる旧河道である。7-3 区では川幅約 9 m、検出面からの深さ 65cm を測る。断面形はきわめて緩やかに下る浅い椀状を呈する。埋土は川底の最深部に貼り付くように堆積する黒色粘質土の下層、河道の大半を埋める中層、旧道がほぼ埋没した後に堆積した上層の 3 層に分けられる。これらは、いずれも流水による堆積層ではない。

図 177 は 7-3 区 SR01 出土の遺物実測図である。1301 ~ 1303 は上層出土のものである。1301 は弥生土器細頸長頸壺、1302 は弥生土器甕、1303 は弥生土器高杯である。1303 には外面に一部赤色顔料が遺存する。1304 ~ 1309 は中層出土のものである。1304、1305 は弥生土器甕、1306 ~ 1308 は台付鉢の脚部片である。台付鉢の脚部には、いずれも透かし穴がある。弥生時代中期後半に属する。

1309 はサヌカイト製の石包丁である。端部には抉りがみられる。抉りの下部ともう一方の側端部は欠損する。背部の下と抉り付近の一部が摩滅する (森下)。

1310 ~ 1313 は下層を 2 cm 掘り下げた際に出土した遺物で、上層遺構の遺物が混在しているものである。1310 は弥生土器広口壺、明らかに混入品である。1311 は弥生土器細頸長頸壺、1312、1313 は弥生土器高杯である。1311 は弥生時代中期前半に遡る。1312 は後期前半のものである。1314、1315 は下層出土のものである。1314 は如意口縁の弥生土器甕。口縁部下には段があり、口縁端部と段に刻み目が施される。1315 は逆 L 字状口縁で、端部上面に窪みをもつ弥生土器甕である。下層出土の土器は、摩滅し、胎土中に 1 mm ほどの砂粒を多く含むものが多く、ほかのものとは明瞭に分離できる特徴をもつ。これは弥生時代前期の土器の特徴を示している。

出土遺物は多くないが、7-3 区 S R 01 下層は弥生時代前期の堆積層、中層は弥生時代中期後半に埋没

が完了する堆積層と把握できる。ただし、遺跡全体で見ると、中層上面から掘り込まれた遺構のなかには中期後半に属すると把握されるものがある。中層に相当する部分の埋没には局所的に時期差をもつ可能性がある。

7-3 区攪乱 13 (図 178)

攪乱とするものは、明治時代に帝国陸軍に練兵場として接収されて以後に行われた掘削行為にかかわるものである。遺物を回収するのみで、簡単な記録をとる以外に対応していないが、攪乱 13 からは、銅鏡が出土した。7-3 区 SH05 と重複しており、近辺遺構から混入したと考ええると 7-3 区 SH05 に伴う可能性があるが、特定はできない。

1316 は攪乱から出土した銅鏡である。平縁で縁がやや反る。面径 6.7～6.8cm を測り、小型である。文様構成は平縁の内側に櫛歯文、円帯、内行花文帯となり、その内側に鈕がある。内行花文帯の内側は凹む。円帯には銘はみられない。櫛歯文は鏡の中央に向かって放射状に施される。内行花文帯はほぼ均等に分割された六花文である。また、X線写真で見ると、図の右のほうに気泡が多数あることがわかることから、この付近に湯口の存在が推定される。この付近の平縁は他と比べると若干幅広になっている部分が認められる。鈕は鈕径 1.2cm を測り、面径に対して大きい。断面形は半円形を呈し、鈕の高さは 0.4cm を測る。鈕孔は内行花文の頂部と直線的に並び、幅 0.45cm、鈕孔高 0.25cm を測る。以上のような特徴から、弥生時代の小型仿製鏡であると考えられる (森下)。

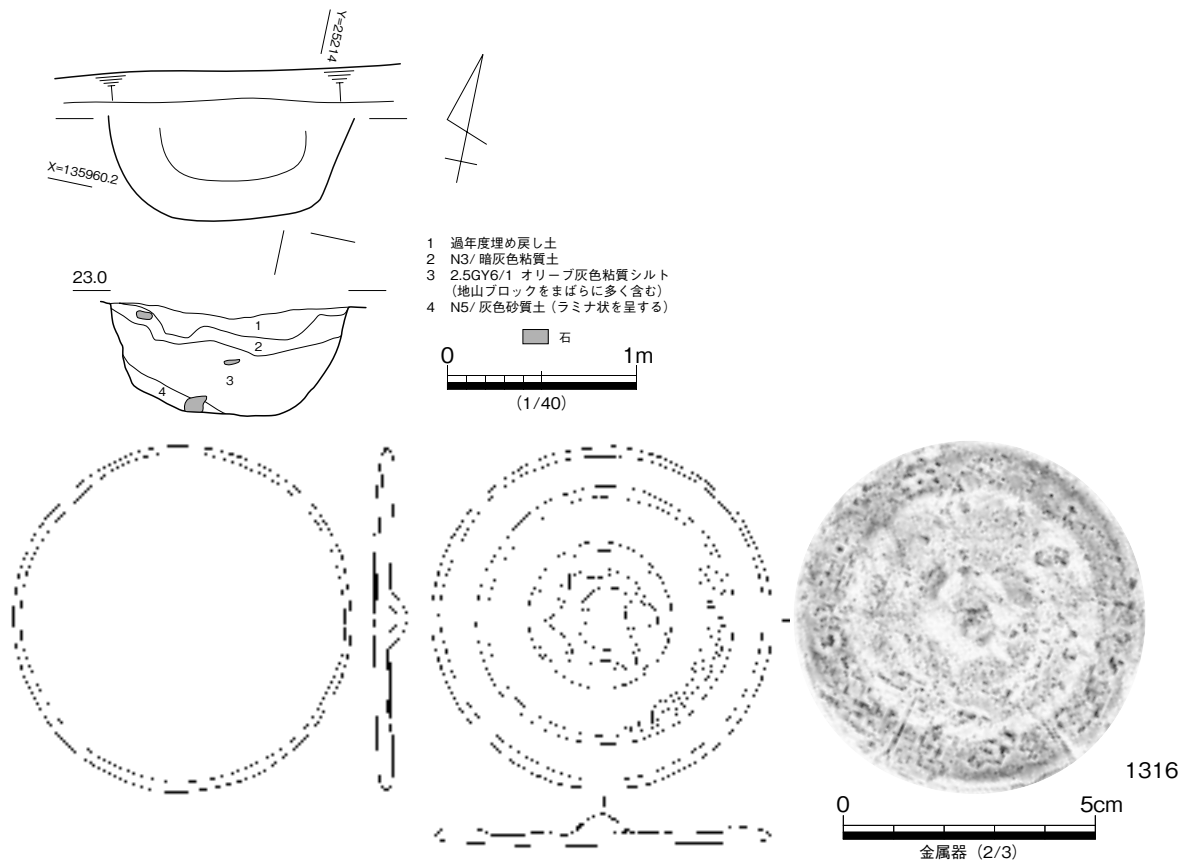


図 178 7-3 区攪乱坑 13 平・断面・出土遺物

第7節 7-4,5 区の調査

概要

7-3 区の南側に東から 7-4 区と 7-5 区が並んで設定されている。7-4 区は約 450m²、7-5 区約 370m²である。ともにほとんどが攪乱されており、一部遺構が残存するのみであった。

6 棟の竪穴住居跡と、6 棟の掘立柱建物跡を検出している。掘立柱建物跡は弥生時代中期後半に属すると考えられる。また、ニホンジカの頭蓋骨を埋納した可能性のある柱穴を検出している。

7-4 区 SH03 (図 180)

7-4 区 SH01 に切られ、病院施設に壊されて掘り方 0.8 m ほどを検出したのみである。掘り方は直線状を呈するが、検出が一部分に留まるため平面形は不明である。覆土、貼床から弥生土器細片を 28 種入りコンテナ半分ほど検出している。1317～1328 は 7-4 区 SH03 から出土した土器実測図である。総じて平底を残す個体が多く、弥生時代後期後半の様相を示すといえる。

1327 は碧玉製の管玉である。暗緑色を呈する。半分欠損する。1328 は鉄釘である。断面形は方形を呈し、端部を欠損する (森下)。

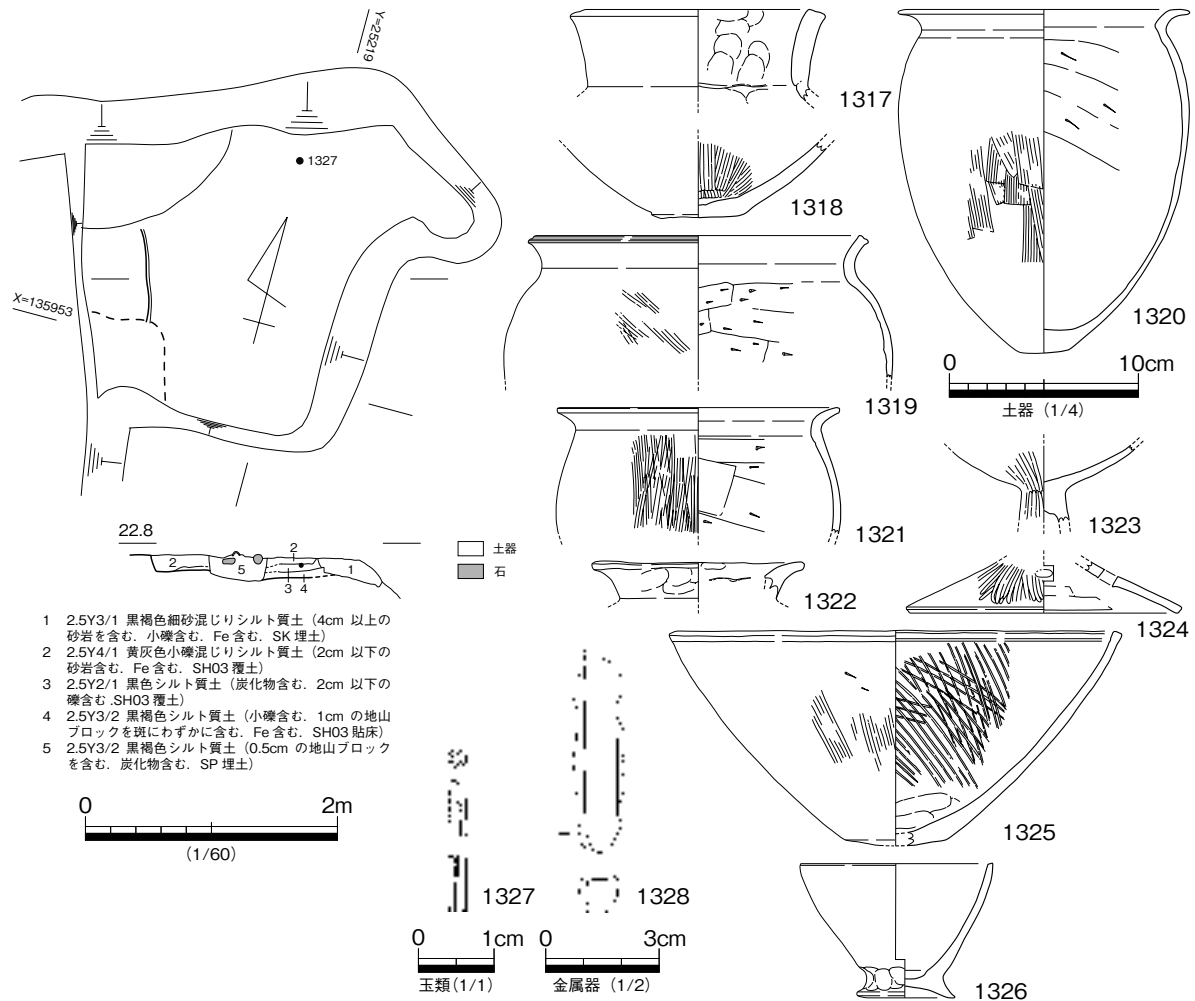


図 179 7-4 区 SH03 平・断面・出土遺物

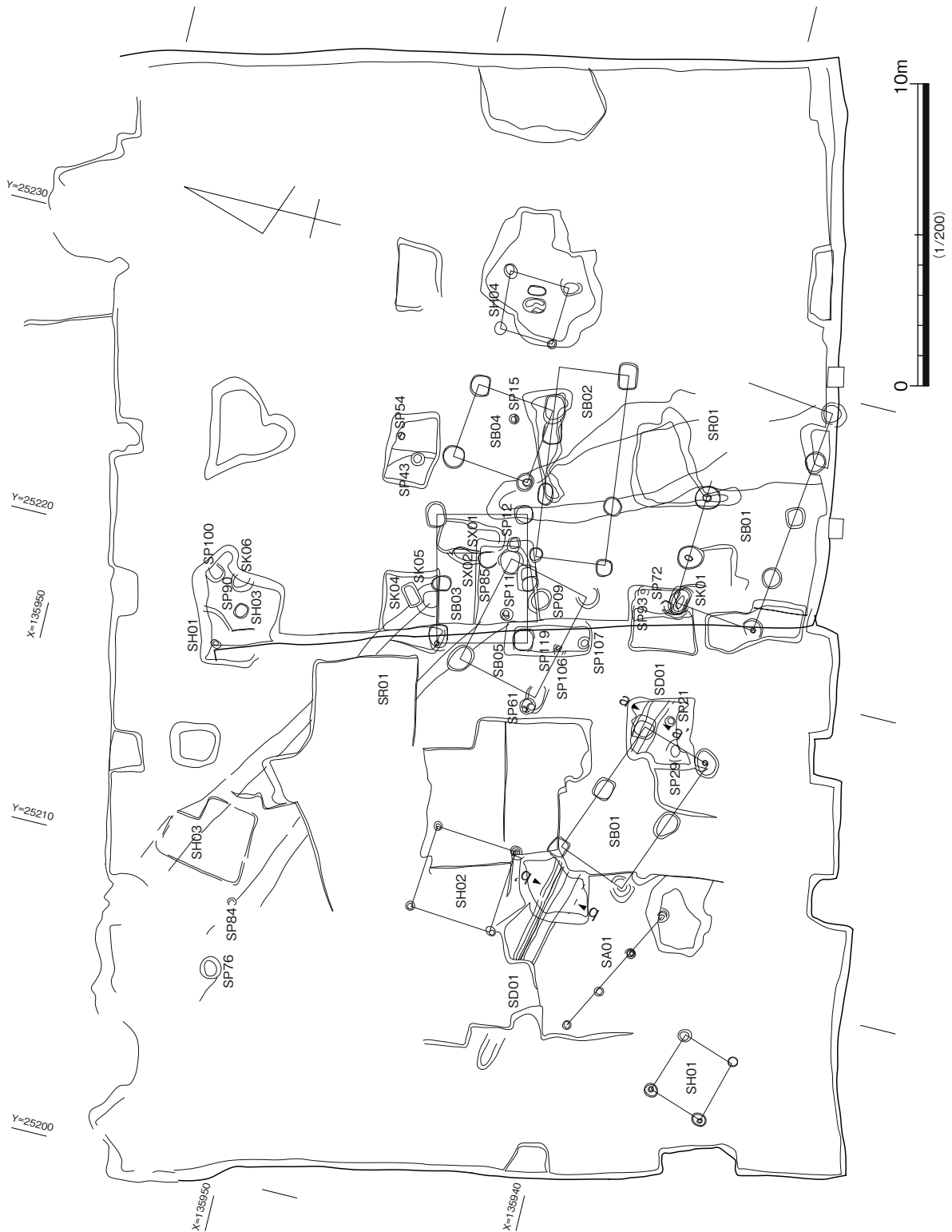


図 180 7-4、5区 遺構平面

7-5区 SH03 (図 181)

長辺 3.0、短辺 2.5 m の長方形の東北角を約 1 m 四方掘り残した凹地を検出した。凹地は比較的急角度で掘り込み、底は平坦となることから竪穴住居の床が遺存すると考えられる。周囲からは複数の柱穴等が検出されているが、7-5区 SH03 に伴うものがあるかどうか不明である。床面直上から、口縁端部

に山形文を施す複合口縁壺のほか、甕、鉢などが出土している。いずれも細片である。弥生時代後期後半に位置づけられる。

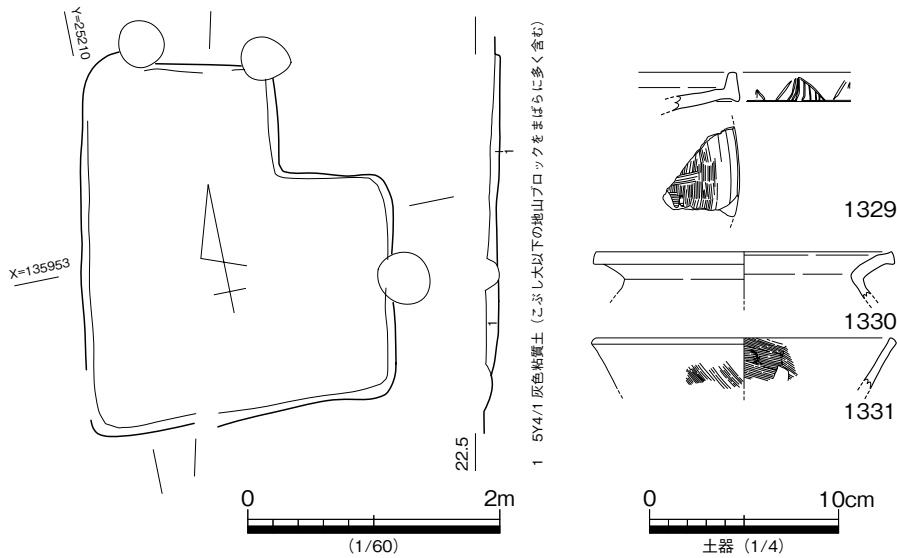


図 181 7-5区 SH03 平・断面・出土遺物

7-4区 SH01 (図 182)

掘り方および壁溝を検出している。掘り方は弧状を描くが、検出部分が一部に留まったため平面形は不明である。7-4区 SH03 よりも新しい。掘り方に沿って、覆土とよく似る土で埋まった壁溝を検出している。また、貼床上面で7-4区 SP102を検出しており、7-4区 SH01に伴う柱穴と考えられる。

80点余りの弥生土器細片が出土している。1332は覆土、1333と1334は7-4区 SP102から出土したものである。1334は胎土および形態的な特徴から香東川下流域産である。弥生時代後期後半から終末期の初めに属する。7-4区 SH01の年代を示すものと考ええる。

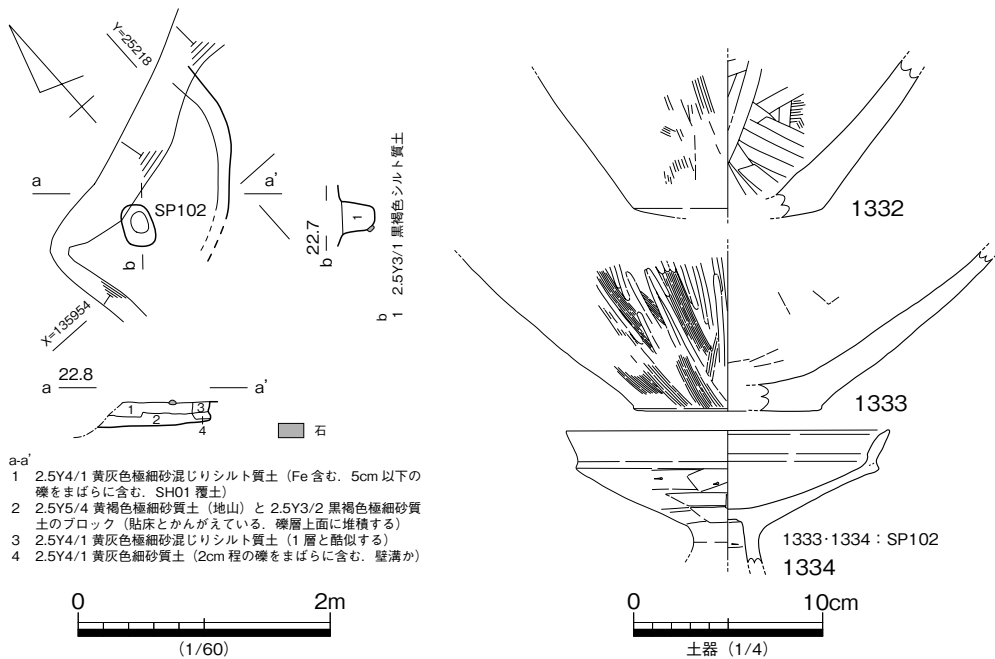


図 182 7-4区 SH01 平・断面・出土遺物

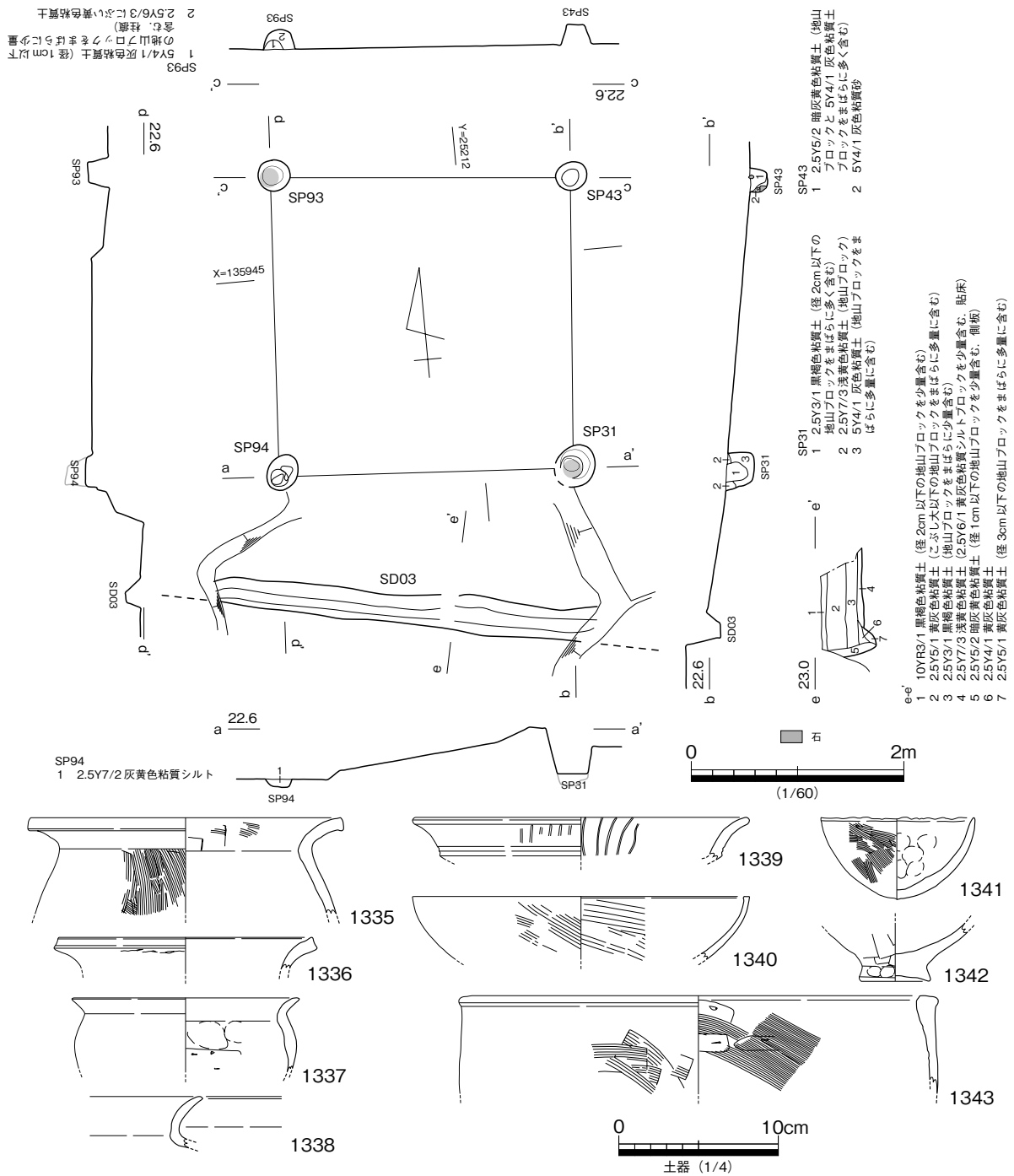


図 183 7-5 区 SH02 平・断面・出土遺物

7-5 区 SH02 (図 183)

南辺の壁溝の一部と 4 基の主柱穴を検出した。主柱穴は方形に配置され、柱間寸法は 2.7 ~ 2.8 m を測る。方位は座標北から東は 5 度振った方向である。壁溝は直線で座標北から 83 度西に振る方向である。主柱穴と壁溝の方向は若干食い違うが、周囲に関係する遺構が見出せないため、1 棟の住居のものと考えられる。

出土遺物は、弥生時代後期前半から古墳時代前期まで時期幅がある。1339 の高杯は弥生時代後期前半、

1341の鉢は丸底化しており弥生時代終末期のものと考えられる。さらに、1343は土師器甑の口縁部と思われる、古墳時代前期に下るものと思われる。また、未図化であるが、内外面に朱が付着する土器細片が1点が含まれる。このような状況であるが、土器の遺存状況から勘案して弥生時代終末期の竪穴住居と考える。

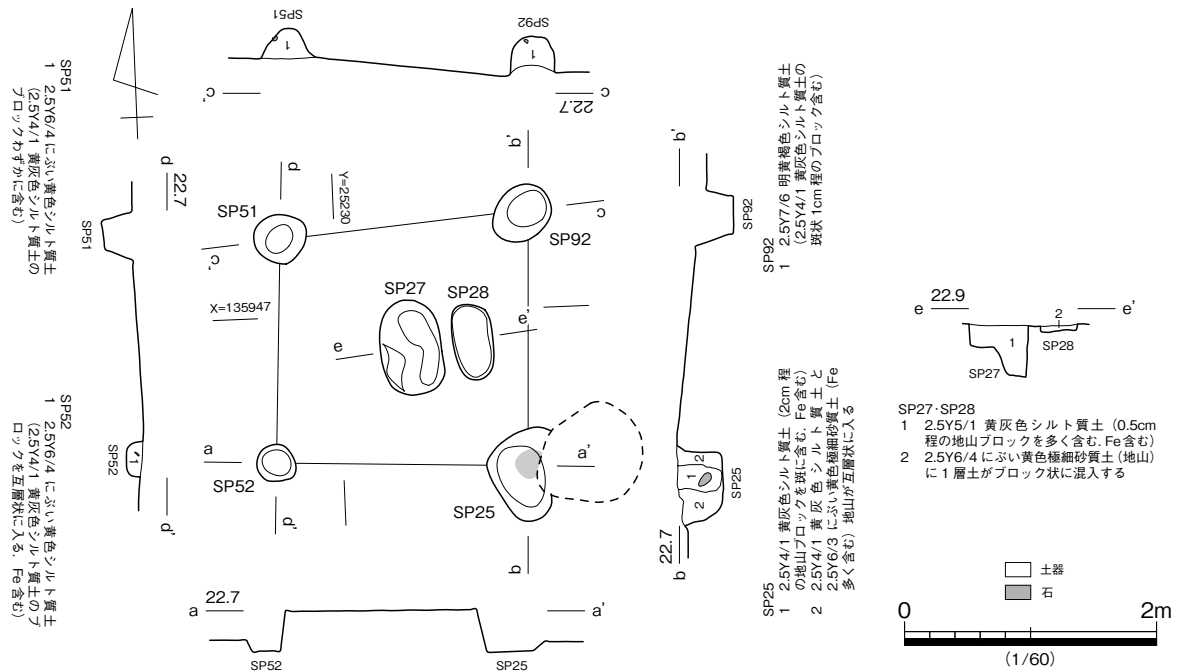


図 184 7-4 区 SH04 平・断面

7-4 区 SH04 (図 184)

ほぼ正方形に配置される柱穴と中央部の土坑 (7-4 区 SP27) および土坑に並列する浅い土坑 (7-4 区 SP28) から確認される竪穴住居跡である。貼床、覆土は遺存していない。主柱穴の柱間寸法は1.8~2.0m、方位は座標北から3度東に振る方向である。7-4 区 SP27 と 7-4 区 SP28 の埋土には焼土や炭化物は含まれていないが、位置関係から中央土坑と考える。主柱穴、土坑からは弥生土器細片が数点出土したのみで、図化可能なものはないが、弥生時代後期に属すると思われる甕の口縁部細片があり、遺物全体の様相から弥生時代後期の竪穴住居と考える。

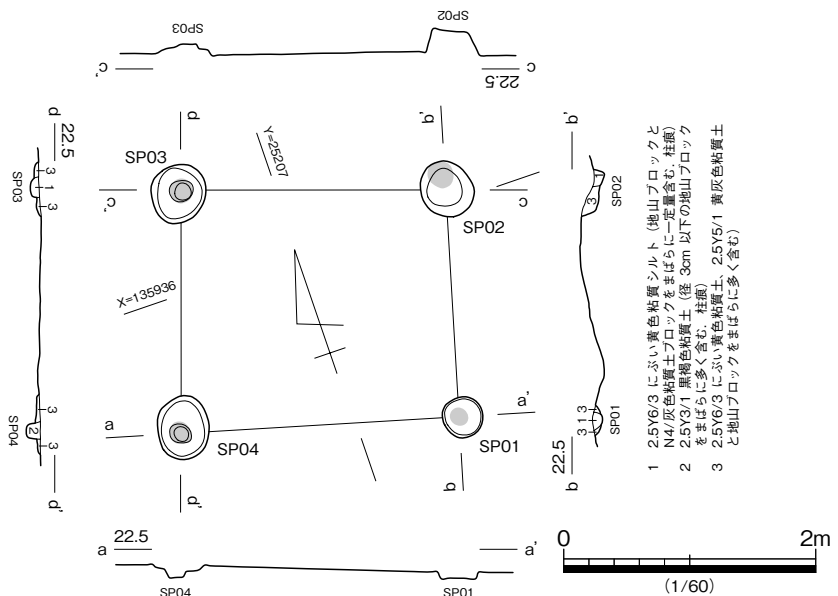


図 185 7-5 区 SH01 平・断面

7-5 区 SH01 (図 185)

4基の支柱穴のみを検出した。支柱穴は方形に配置され、柱間寸法は1.9～2.2m、方位は座標北から16度東に振る方向である。弥生土器の細片が数点出土しているが、時期不明である。

7-4 区 SB01 (図 186)

7-4、7-5、7-6区にまたがって検出した掘立柱建物である。梁行1間×桁行4間、柱穴が一行に並ぶ南側の桁行で座標北から西へ83度振った方向を向く。北東側で柱穴が消滅しているが、建物規模は2.7×7.7mである。建物の平面プランは、梁1に対し桁を2.5倍に設定し、桁を4間とした建物と推定される。

遺物は、7-6区SP87以外は良好なものが出土していない。図186の1344、1345は7-6区SP87出土のものである。1344は頸部にヘラ描きの刻み目を施す広口壺である。弥生時代中期後半に位置づけられる。なお、7-4区SB01と7-4区SR01との層位関係についてであるが、唯一確認できる7-6区SP87

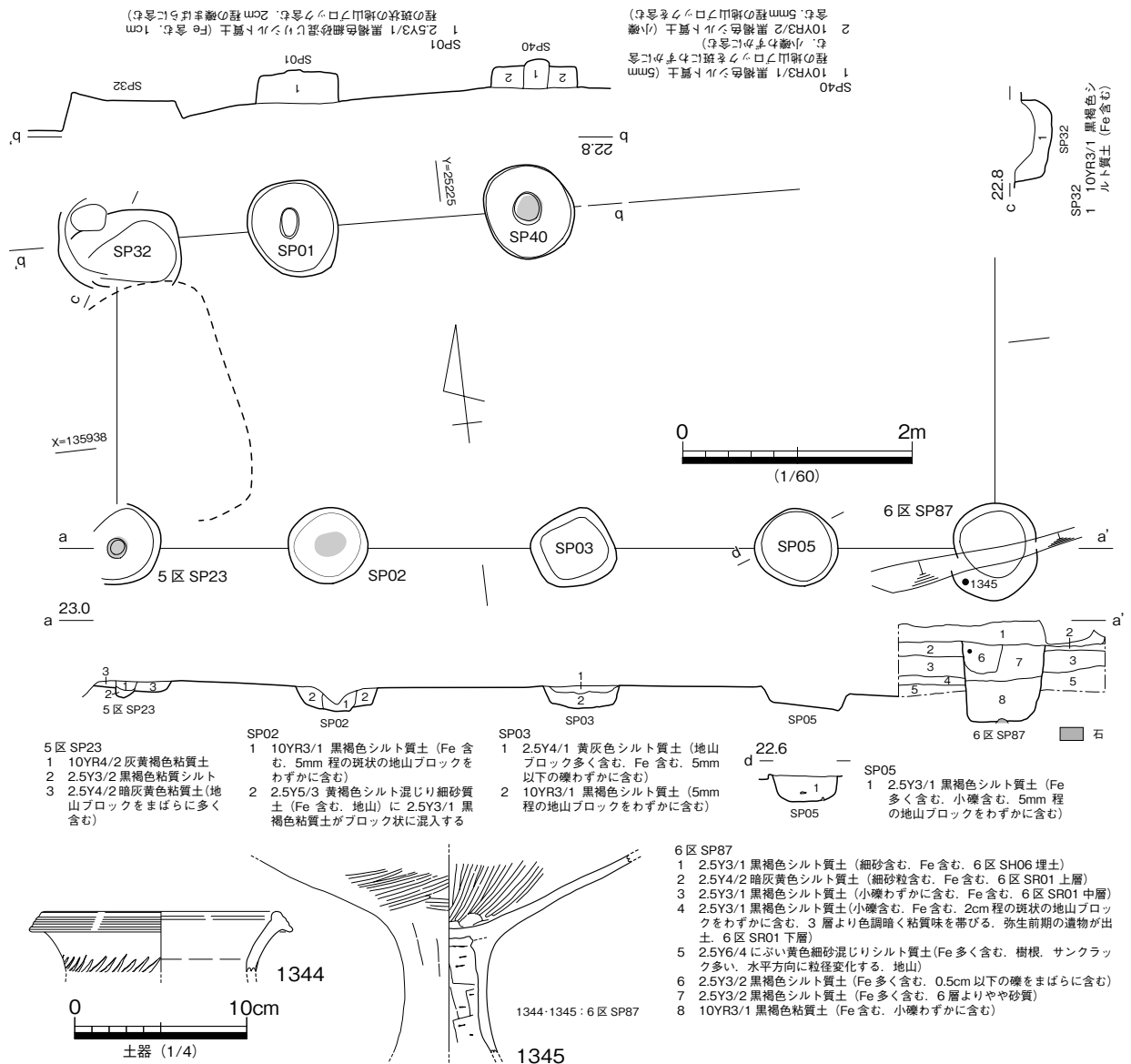


図 186 7-4 区 SB01 平・断面・出土遺物

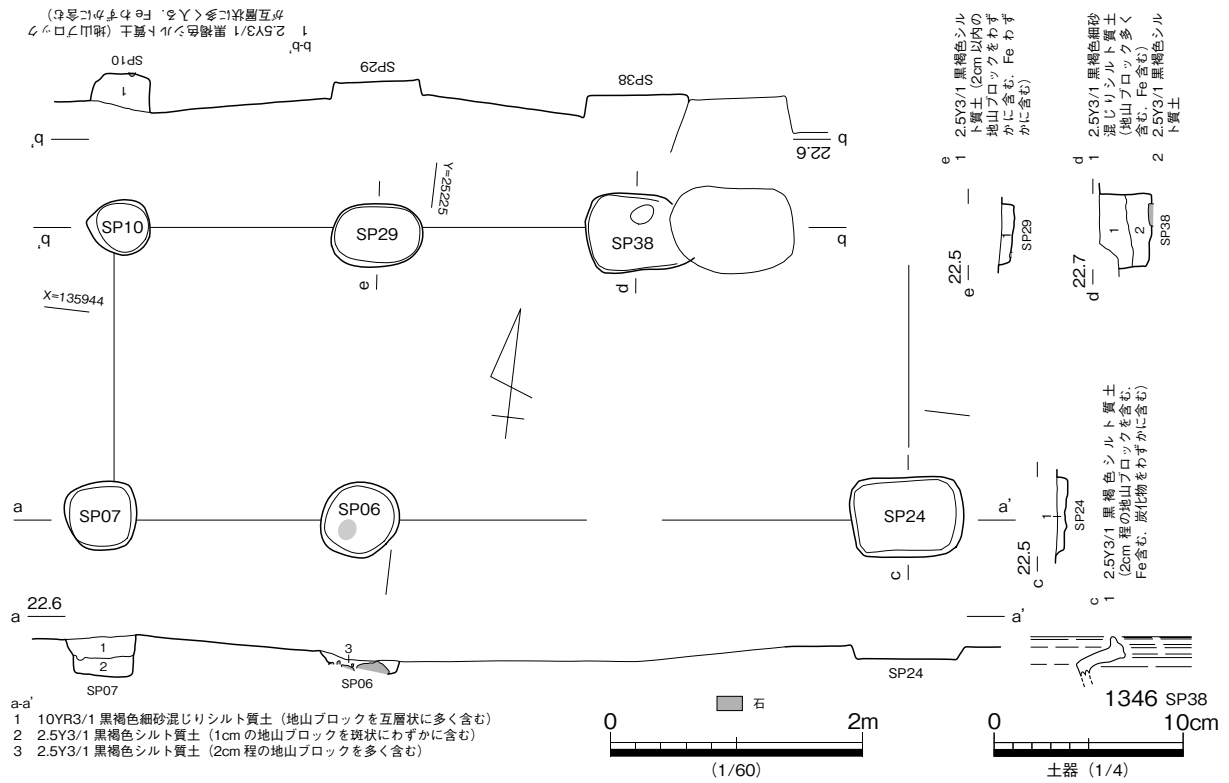


図 187 7-4 区 SB02 平・断面・出土遺物

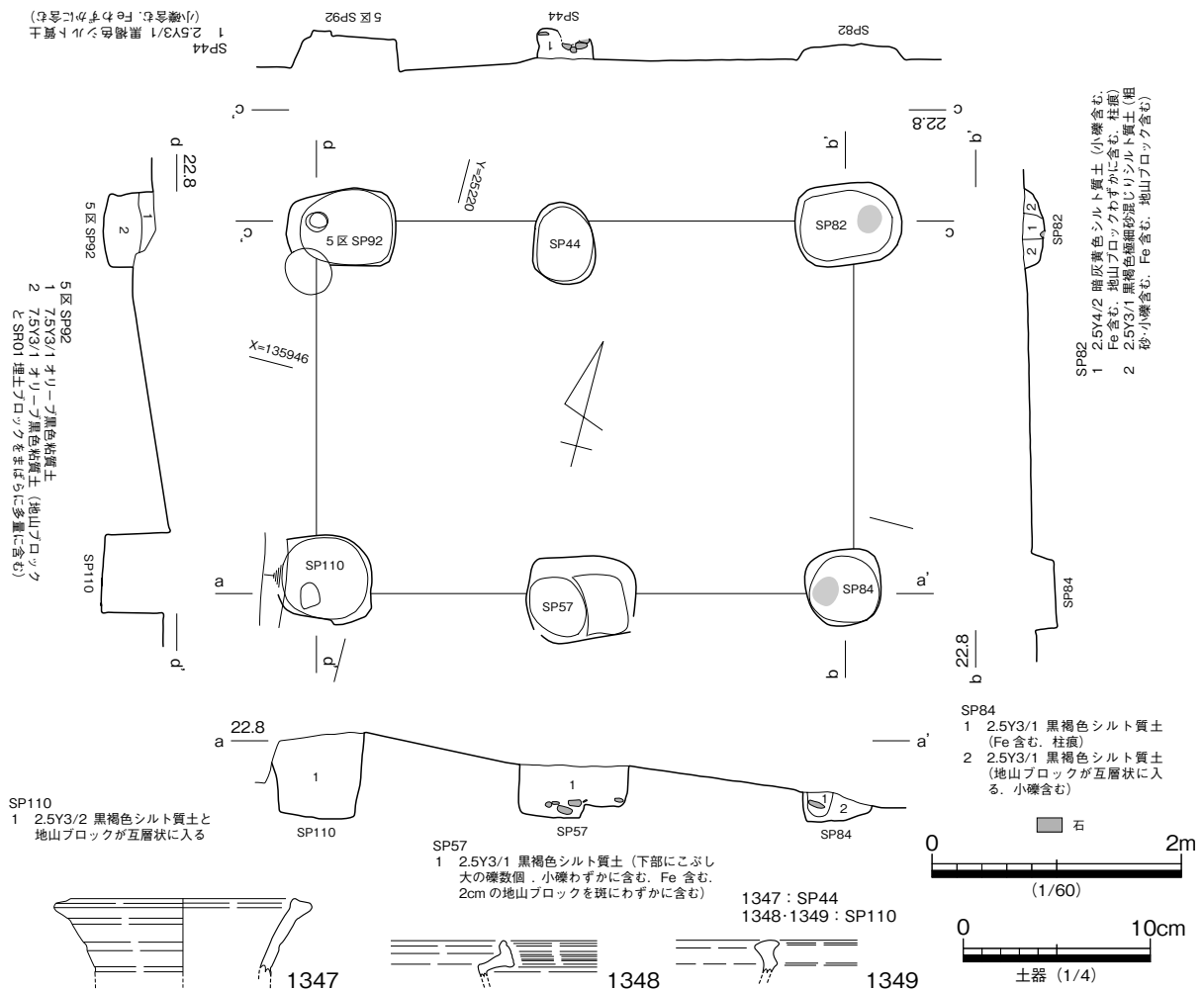


図 188 7-4 区 SB03 平・断面・出土遺物

断面では、7-4区SR01上層を切り、7-6区SH06に切られると観察された。

7-4区SB02 (図187)

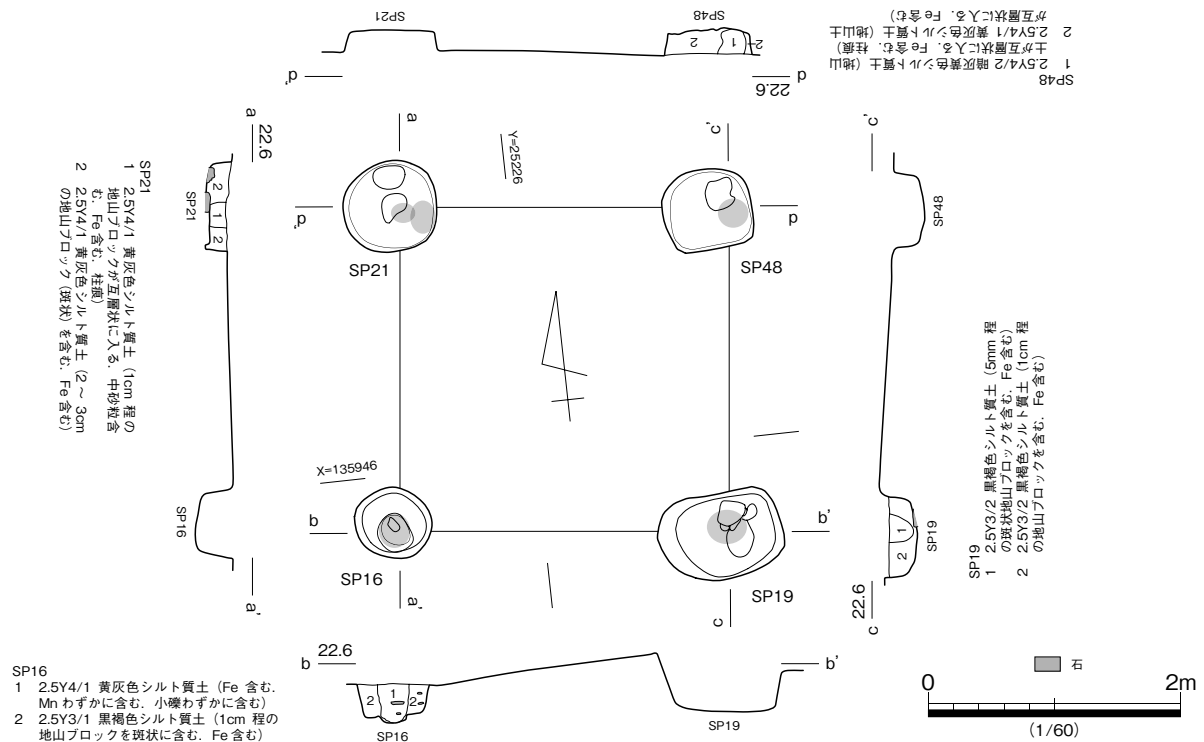
1×3間の掘立柱建物である。柱穴の多くが浅く、2基については検出できなかった。建物方位は座標北から83度東に振った方向で、建物規模は2.3×6.3mである。梁1に対し桁を3倍に設定し、梁行と同じ寸法に桁柱を3間に配置した建物と推定される。いずれの柱穴も少量の弥生土器細片数点を包含するか、遺物が無い。図187の1346は7-4区SP38から出土した弥生土器甕の細片である。柱穴の埋土が7-4区SB01と類似することも合わせて7-4区SB02を弥生時代中期後半の掘立柱建物と考えたい。

7-4区SB03 (図188)

7-4区と7-5区にまたがる1×2間の掘立柱建物である。建物方位は座標北から東へ76度振った方位で、建物規模は3.0×4.3mである。梁1に対し桁行の長さを1.5倍とし、桁行の中心に柱を配置する建物と推定される。図188の1347は弥生土器長頸壺の口縁部、1348は弥生土器甕、1349は弥生土器高杯で、いずれも細片である。弥生時代中期後半に属すると考えられる。このほかに各柱穴から少量の弥生土器細片が出土しているが、おおむね弥生時代中期と考えられるものが大半であることから、7-4区SB03は弥生時代中期後半に属するものとする。

7-4区SB04 (図189)

1×1間の掘立柱建物である。柱間寸法は2.5×2.5mの正方形で、建物方位は座標北から6度東に振っている。竪穴住居の主柱穴である可能性もあるが、底付近での柱穴径が0.7m程と大型であることから



掘立柱建物と考える。4基のうち3基の柱穴で根石が据えられている。いずれの柱穴からも弥生土器細片数点が出土したのみで、7-4区 SP48 から壺の底部と考えられる小片が出土した以外、器形のわかる資料もない。周辺の掘立柱建物との柱穴の埋土の共通性から弥生時代中期後半のものと考えておく。

7-4区 SB05 (図 190)

7-4区と7-5区にまたがって検出した1×1間の掘立柱建物である。柱間寸法は梁行2.95m、桁行3.8mを測り、建物方位は座標北から東へ80度振った方向である。建物は梁の長さ3に対し桁長を4とする平面形と復原される。

7-4区 SB05は図化可能な土器片が相対的に多く出土している。出土遺物はおおむね弥生時代中期後半に属しており、掘立柱建物の年代を示すものとする。

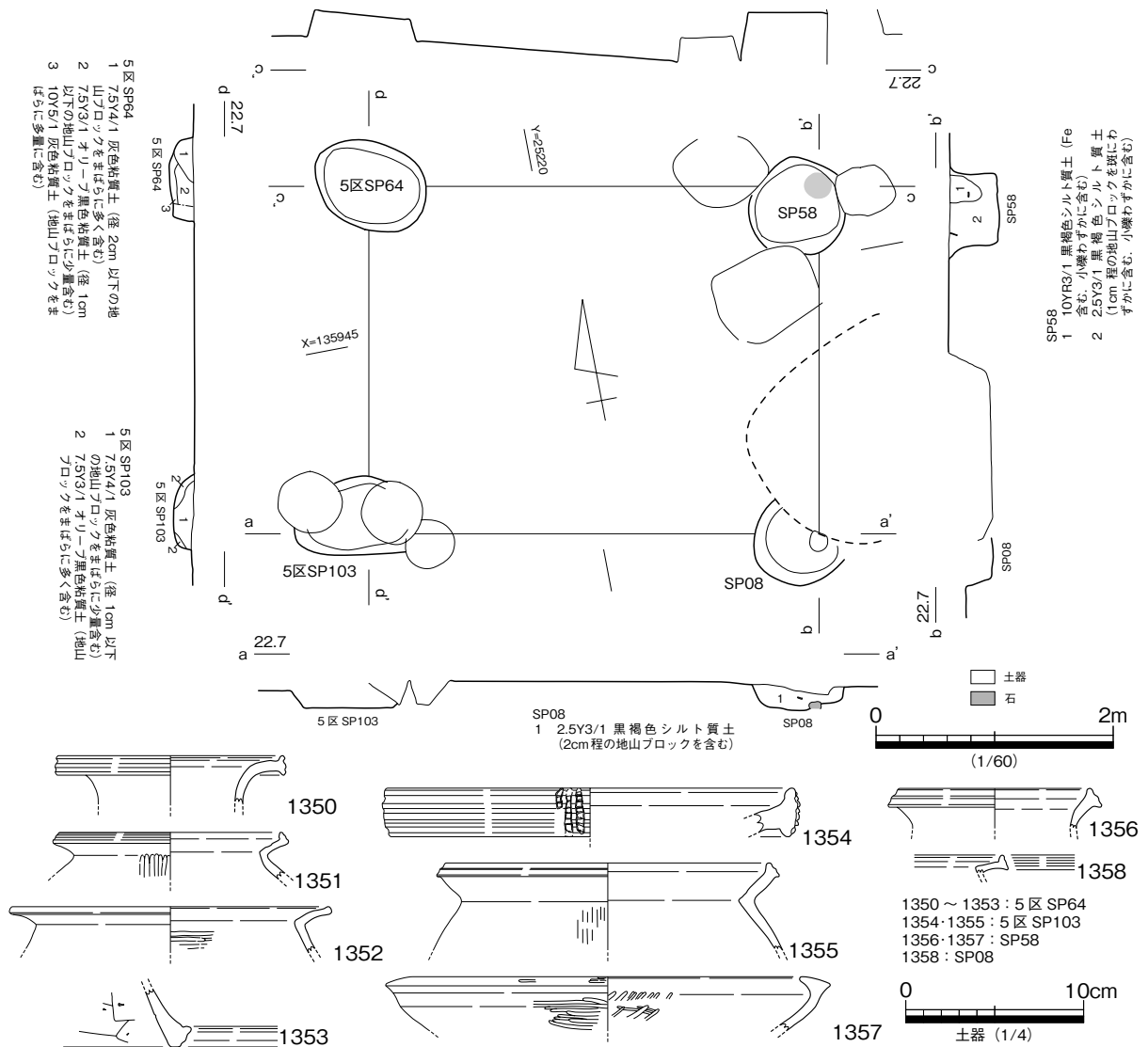


図 190 7-4区 SB05 平・断面・出土遺物

7-5区 SB01 (図 191)

1×2間の掘立柱建物である。建物規模は2.4×4.9mで、建物方位は座標北から71度西に振った方向である。梁行の長さの2倍が桁行となる当期によく見られる平面プランである。各柱穴から数点から

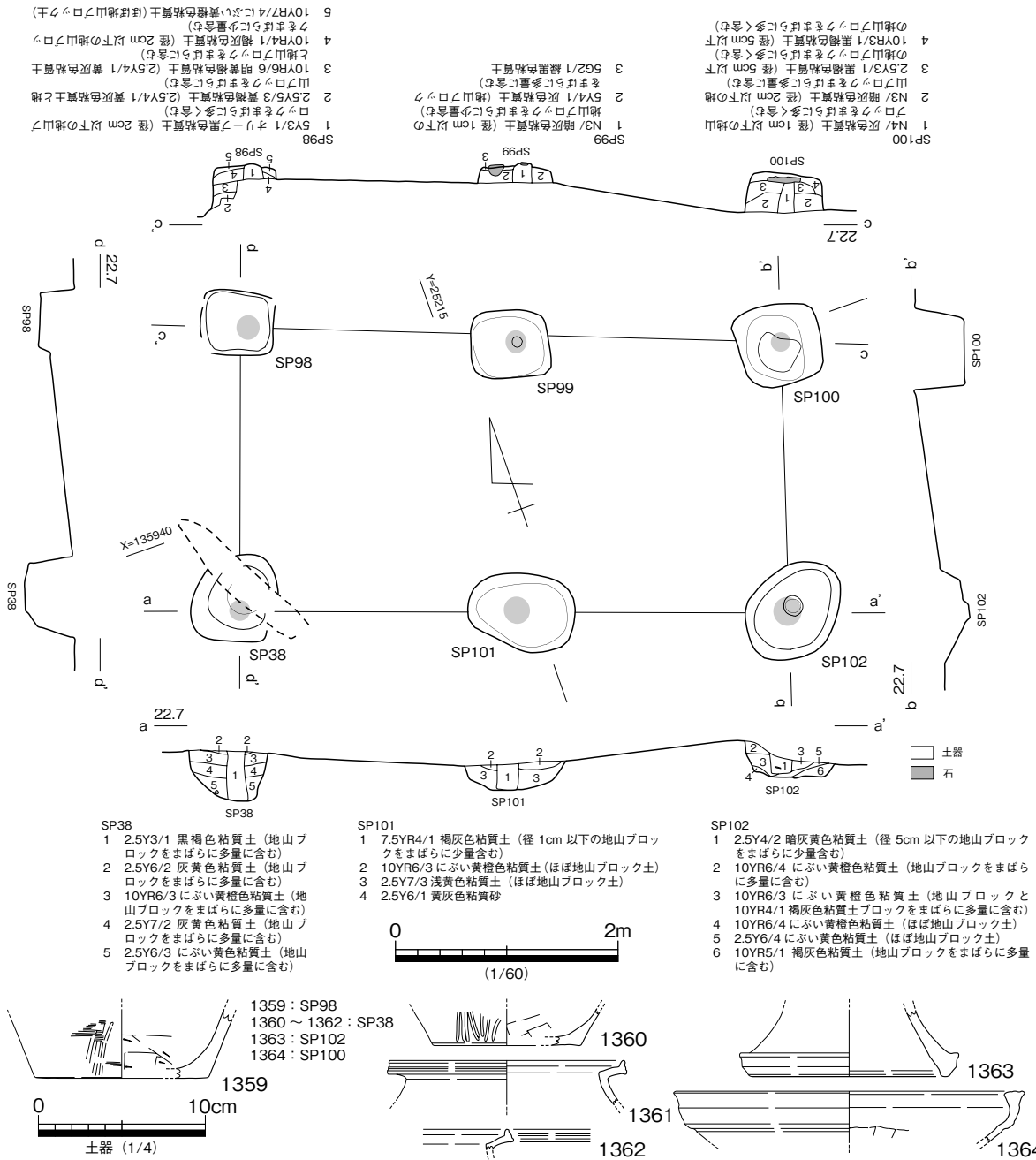


図 191 7-5 区 SB01 平・断面・出土遺物

20 あまりの土器細片が出土している。図化遺物に見られるとおり弥生時代中期後半に属する建物である。

7-5 区 SA01 (図 192)

4 基の柱穴からなる柵列である。柱穴埋土は多少差があるけれども、直線に等間隔に並ぶことから柵列と判断する。遺構面の残存状況から見ると、掘立柱建物の北辺の柱列である可能性が残る。柱間寸法は 160 ~ 165cm を測り、方向は座標北から 62.5 度西へ振っている。柱穴埋土には数点から 40 点あまりの土器細片が出土している。図化遺物はいずれも細片であるが、弥生時代終末期に属すると思われる。

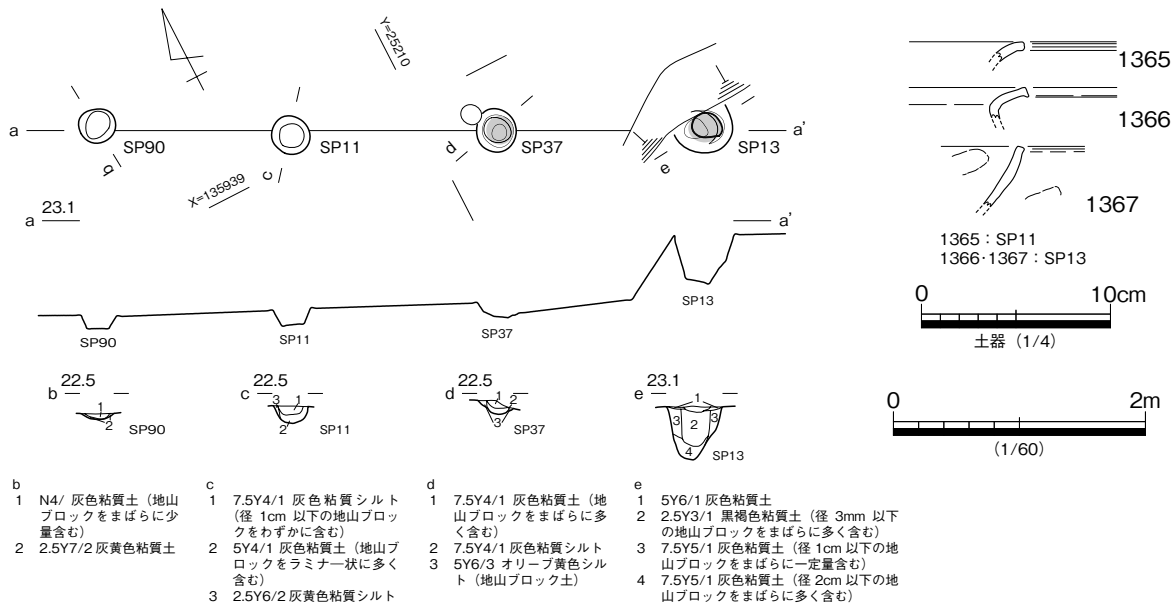


図 192 7-5 区 SA01 平・断面・出土遺物

7-4 区 SP93 (図 193)

径 30、深さ 40cm の柱穴である。埋土中位に弥生土器甕 (底部は欠損している) が底部をやや上方に傾けた横倒しの状態であり、割れた甕の上部に雄のニホンジカの頭蓋骨がやや下方に向いた状態で置かれていた (動物種の同定は石丸恵利子氏に拠る)。

頭蓋骨は雄のニホンジカで、角・下顎骨・上顎骨は無く、頭蓋骨のみである。出土状況の観察から、頭蓋骨の形状に合致するように甕が割れていることから、甕の上に置かれた骨が土圧によって甕内部に落ち込んだと推定される。

弥生土器甕は、口縁端部に凹線文はなく、体部は丸みを帯び、器壁も厚いことから弥生土器後期前半に属するものと考えられる。本遺構自体が何らかの祭祀行為を示しているのか、祭祀をおこなったもの

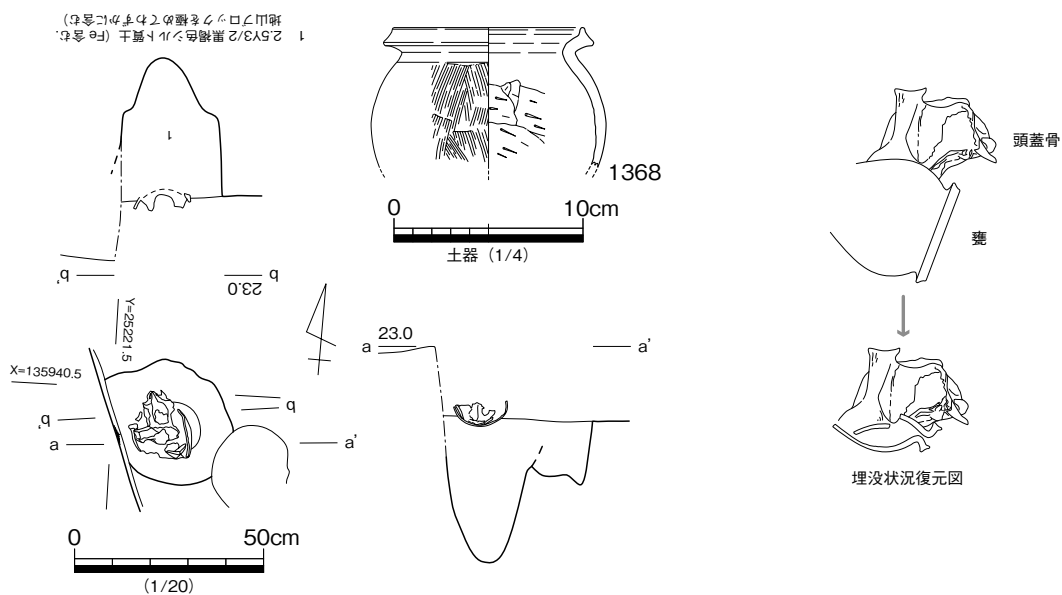


図 193 7-4 区 SP93 平・断面・出土遺物

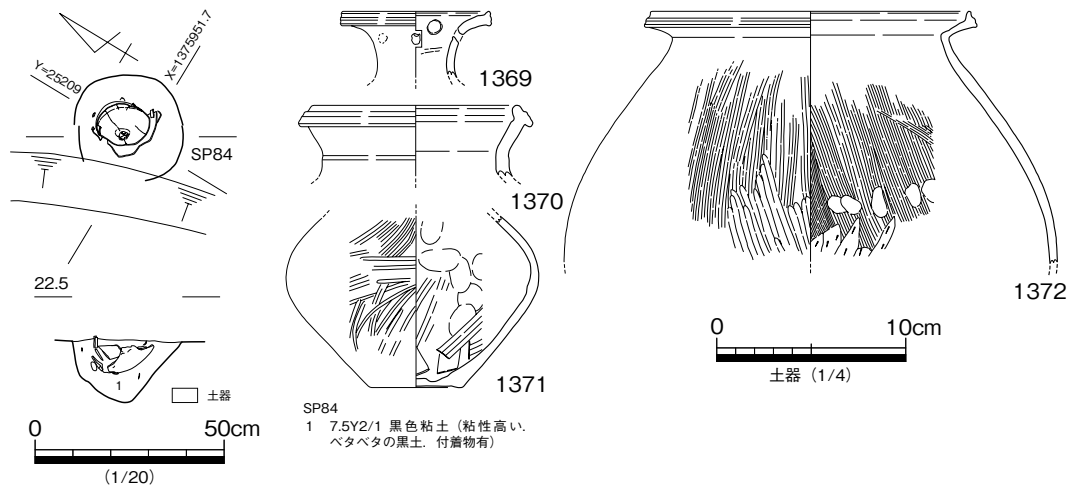


図 194 7-5 区 SP84 平・断面・出土遺物

を廃棄したのかは不明であるが、鹿の頭蓋骨を角や顎をのけて選択している状況は特異であり、今後類例の増加をまちたい。

7-5 区 SP84 (図 194)

直径 30、深さ 16cm、平面形は円形、断面形は楔状を呈する柱穴である。本遺構の埋没過程において 1372 の弥生土器甕が口縁部をやや下向きに横倒しの状態にあり、その上面（甕破片の内面）に 1370 の弥生土器短頸広口壺の破片と 1369 の弥生土器広口壺の破片がともに内面を上にして折り重なるようにあり、その上に 1371 の弥生土器壺が底部を下に、やや東側に傾く状況で検出された。1371 の内部は黒色粘土で充填されており、内部に哺乳類の骨（細片のため動物種の同定は不可能）が出土している。土器は 1371 の壺は完形であったものが後代に上面をカットされた可能性が残るものの、それ以外のものは破片である。出土状況から判断すると、意図的に据えたのではなく、廃棄等によりこのような配置になっていると考える。弥生時代中期後半の遺構である。

7-4 区 SP09 (図 195)

直径 80、深さ 55cm の柱穴もしくは土坑である。平面形は円形、断面形は U 字状を呈する。土坑底部に多量の土器片が含まれている。土器片は接合できるものが比較的多いものの、完形や完形に近い大きさまで接合できるものはない。近辺で破壊された土器が廃棄された状況が考えられる。

図 195 の 1373、1374 は弥生土器短頸広口壺、1375 は長頸壺、1377～1381 は甕である。1377 は体部最大径付近に刻み目が見られる。1382～1385 は高杯および台付鉢である。これらは弥生時代中期後半に属するものである。

7-4 区柱穴・土坑 (図 196、197)

7-4 区 SP15 から完形に近い弥生土器鉢が出土している。外面にヘラで円弧状の筋が認められるが、文様かどうか不明である。

7-4 区 SP43 から出土した弥生土器高杯は吉備地方からの外来系のものと考えられる。

7-4 区 SP85 は径 50～60、深さ 18cm の柱穴である。弥生時代中期後半の遺物が出土している。周辺

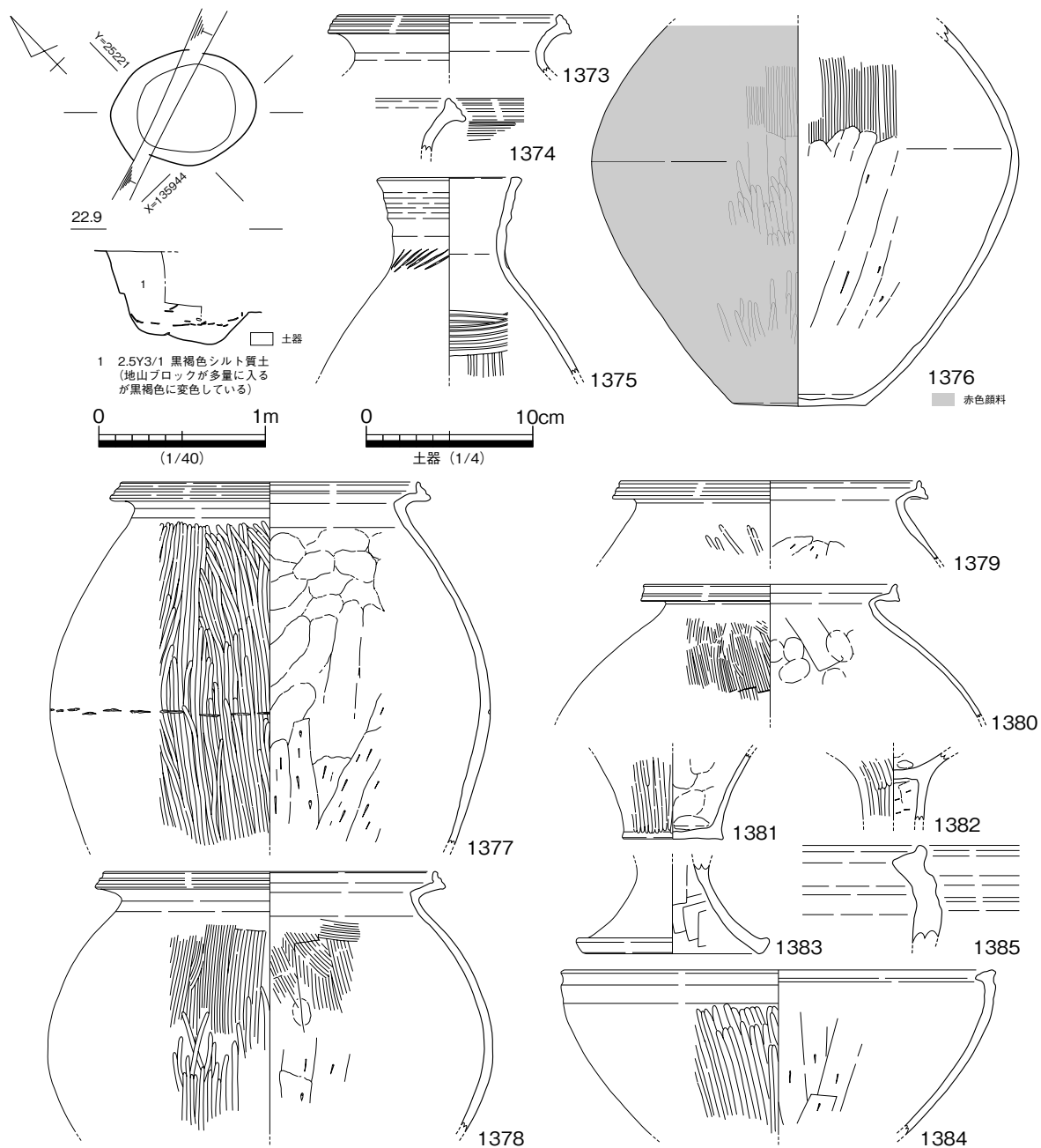


図 195 7-4 区 SP09 平・断面・出土遺物

は同時期の掘立柱建物や柱穴が多く検出されている。

7-4 区 SP90、7-4 区 SP100、7-4 区 SK06 は、7-4 区 SH03 を切る柱穴である。

7-5 区柱穴 (図 198)

図 198 は、掘立柱建物等を構成しない柱穴および出土遺物である。1403 の弥生土器甕を出土した 7-5 区 SP29 は須恵器片も出土している。7-5 区 SP61 は 7-4 区 SB05 を構成する 7-5 区 SP103 を切る柱穴である。

このように 7-5 区に残存している柱穴には古代の遺物が含まれているものがあり、7-6 区や 7-10、11 区等の古代の掘立柱建物が 7-5 区にも広がっていた可能性が高い。

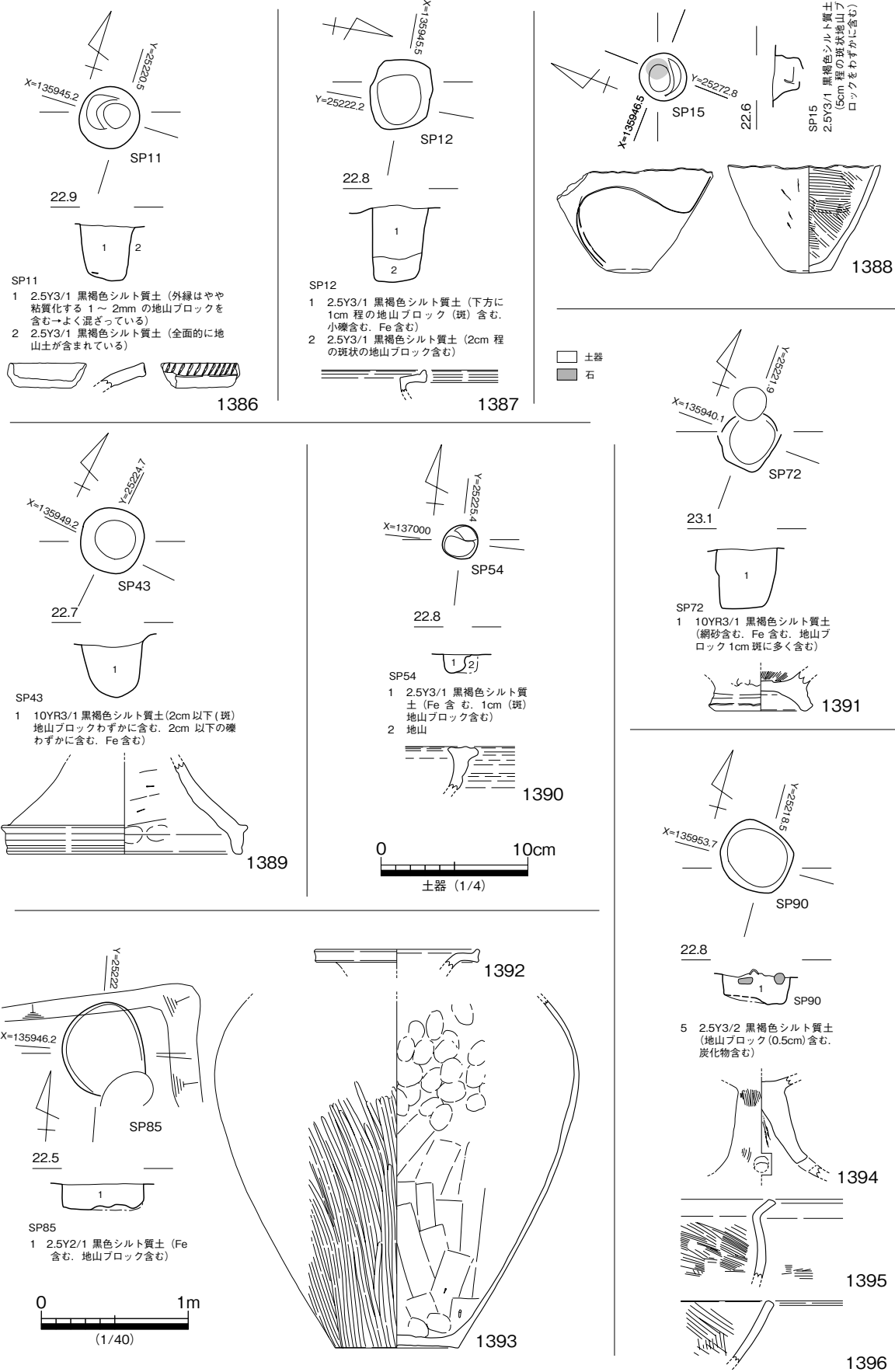


図 196 7-4 区柱穴・土坑 (1) 平・断面・出土遺物

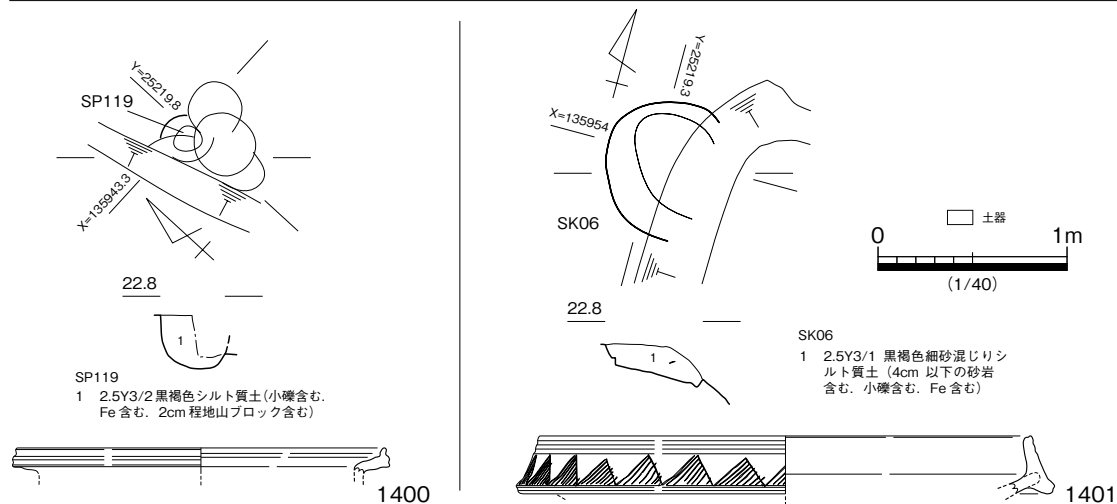
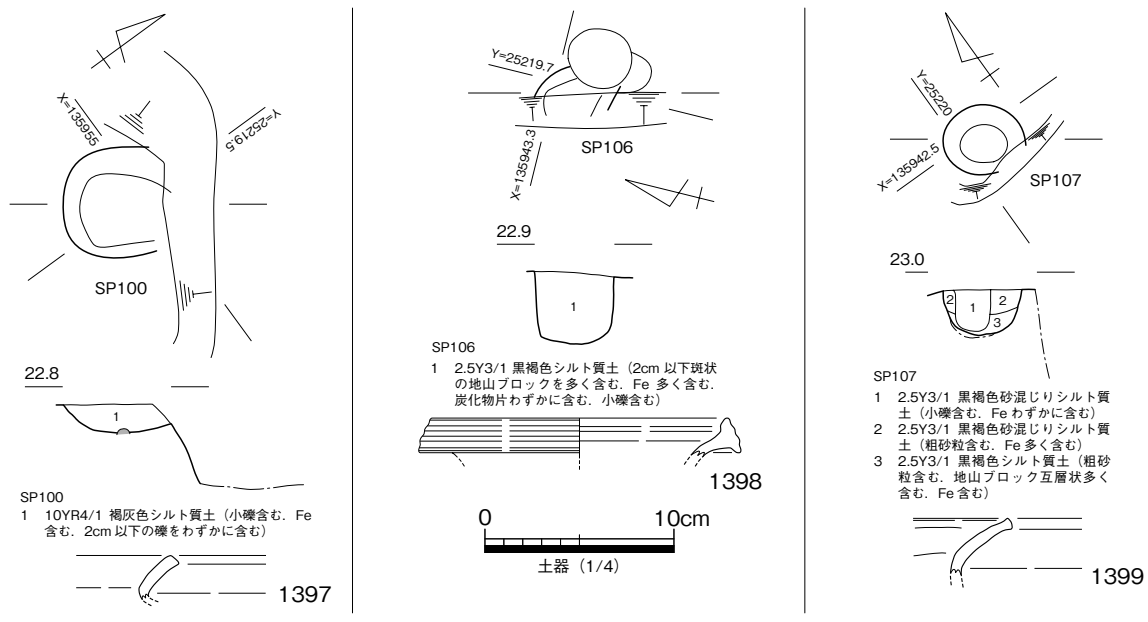


図 197 7-4 区柱穴・土坑 (2) 平・断面・出土遺物

7-4 区 SK05 (図 199)

直径 110、深さ 15cm ほどの土坑である。南半は消滅しているが、円形の平面形、断面は底面の平らな皿状を呈する。埋土中に散漫に土器片が包含されていた。弥生時代中期後半の遺構である。

7-4 区 SK01 (図 200)

病院施設による破壊を免れたところで検出した土坑である。弥生時代後期の土器が多数包含されていた。長軸 85、短軸 60、深さ 20cm ほどの規模で、平面形は楕円形、断面形は U 字形を呈する。埋土中に土器片および焼土、拳大より小さい自然礫を多量に含んでいる。土坑の側面や底面に被熱痕は認められない。調査着手時点で、土器の出土位置を記録し接合状況を確認したところ、近辺の破片はほとんど接合しないことが明らかになった。このことから 7-4 区 SK01 の土器は、他所で破碎されたものが廃棄されたと考えられる。

図 200 は 7-4 区 SK01 出土の遺物実測図であるが、弥生時代後期前半から時期幅のある遺物が含まれ

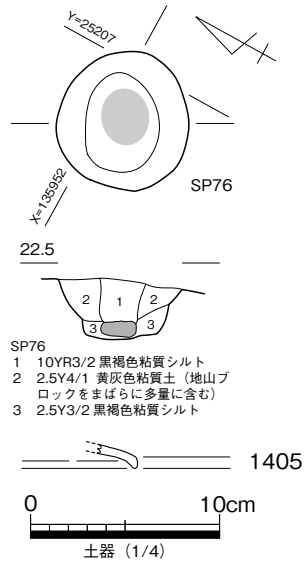
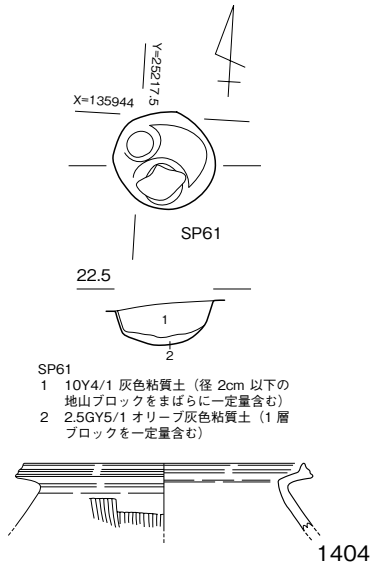
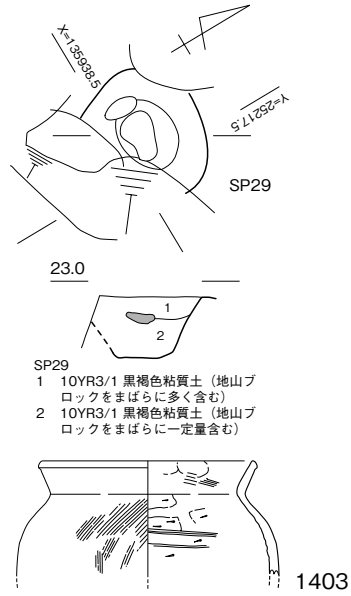
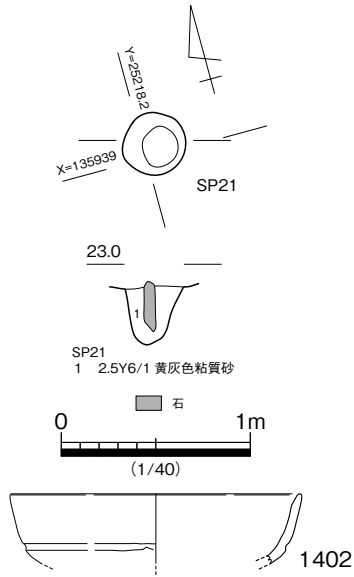


図 198 7-5 区柱穴 平・断面・出土遺物

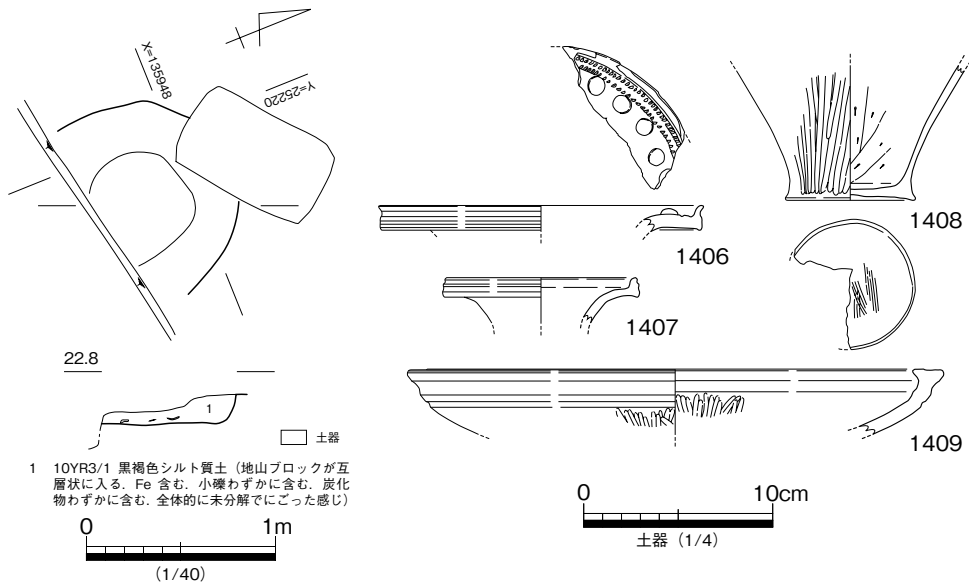


図 199 7-4 区 SK05 平・断面・出土遺物

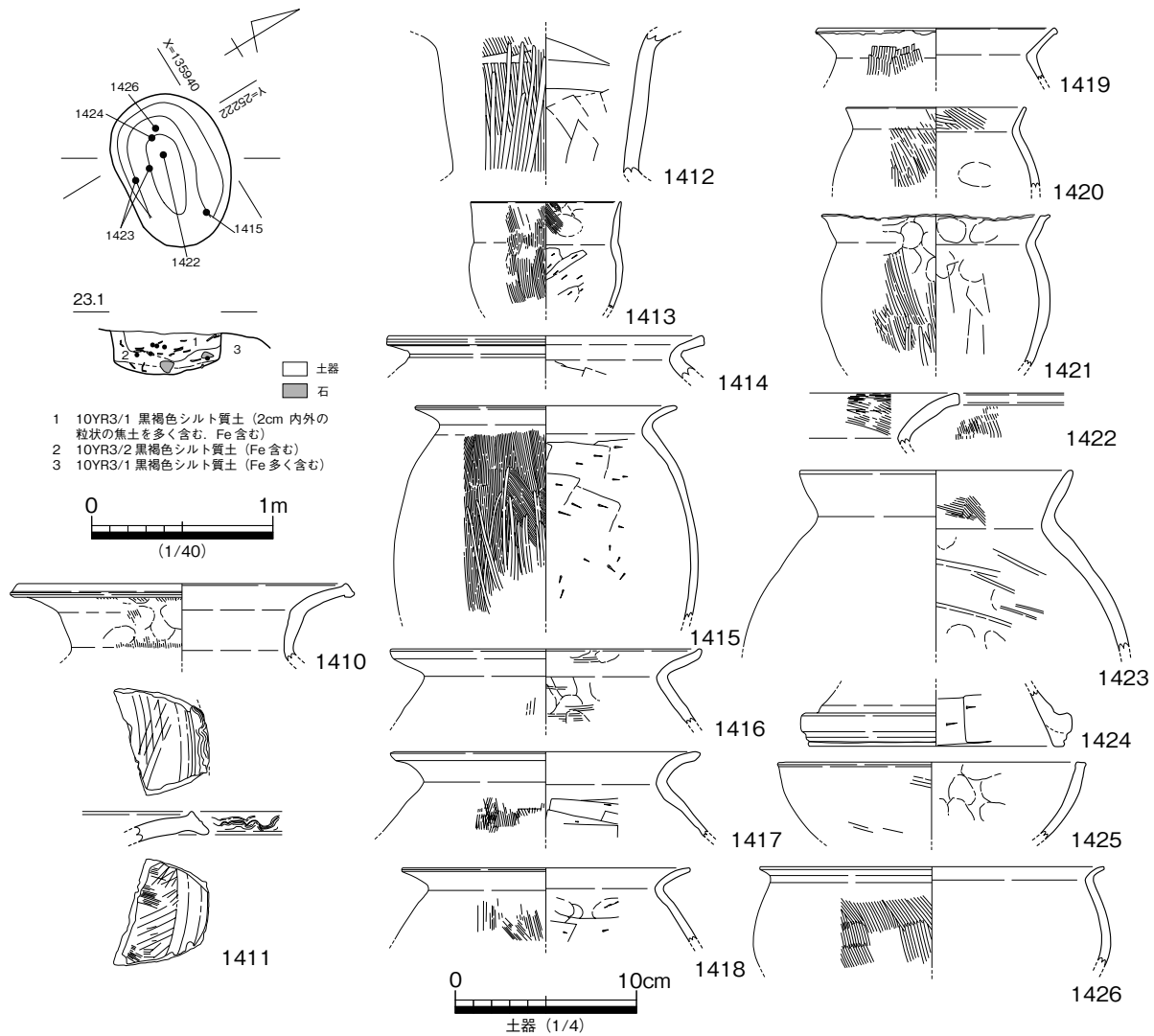


図 200 7-4 区 SK01 平・断面・出土遺物

ている。1423 の甕は古墳時代前期に下るかもしれないけれども、遺物の全般的な様相から弥生時代終末期の遺構と考える。

7-4 区 SK04 (図 201)

長軸 80、短軸 45、深さ 15cm、平面形は長方形、断面形はU字状と呈する土坑である。埋土の上部から須恵器杯 (1427) が出土している。口径 10.4cm で、受け部にヘラ状工具による 1 条の凹線が見られることから TK209 併行期のものと考えられる。このほかに 7-4 区 SK04 からは、須恵器片 2、弥生土器片 50 点あまりが出土している。

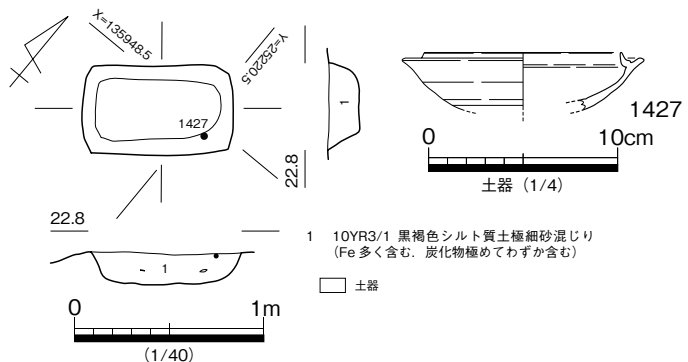


図 201 7-4 区 SK04 平・断面・出土遺物

7-5 区 SD01 (図 202)

座標北から 77 度西に振る方向で直線

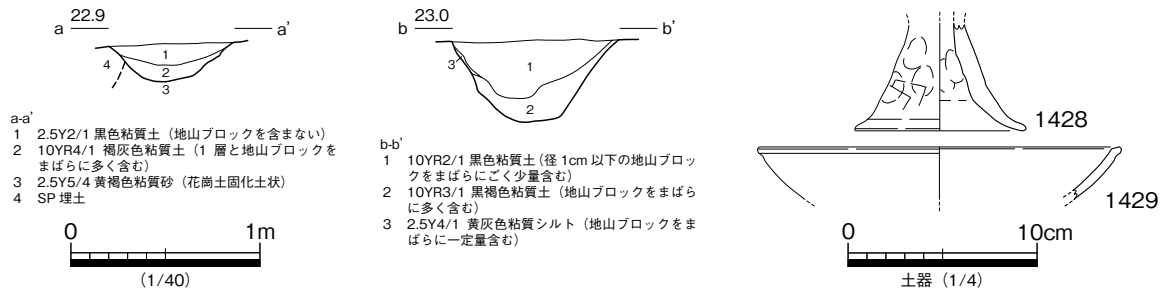


図 202 7-5 区 SD01 断面・出土遺物

に流れる溝状遺構である。検出長約 14 m、東側、西側の延長には該当する溝は見出せない。残存状況の良好な部分で幅 80、深さ 42cmを測る。断面形は椀形である。

須恵器片を含む土器片が出土している。1428 は土師器高杯の脚部である。外面に板ナデの圧痕が残り粗雑なつくりである。1429 は土師器椀もしくは杯である。口縁端部をわずかに外方に摘みだし、端

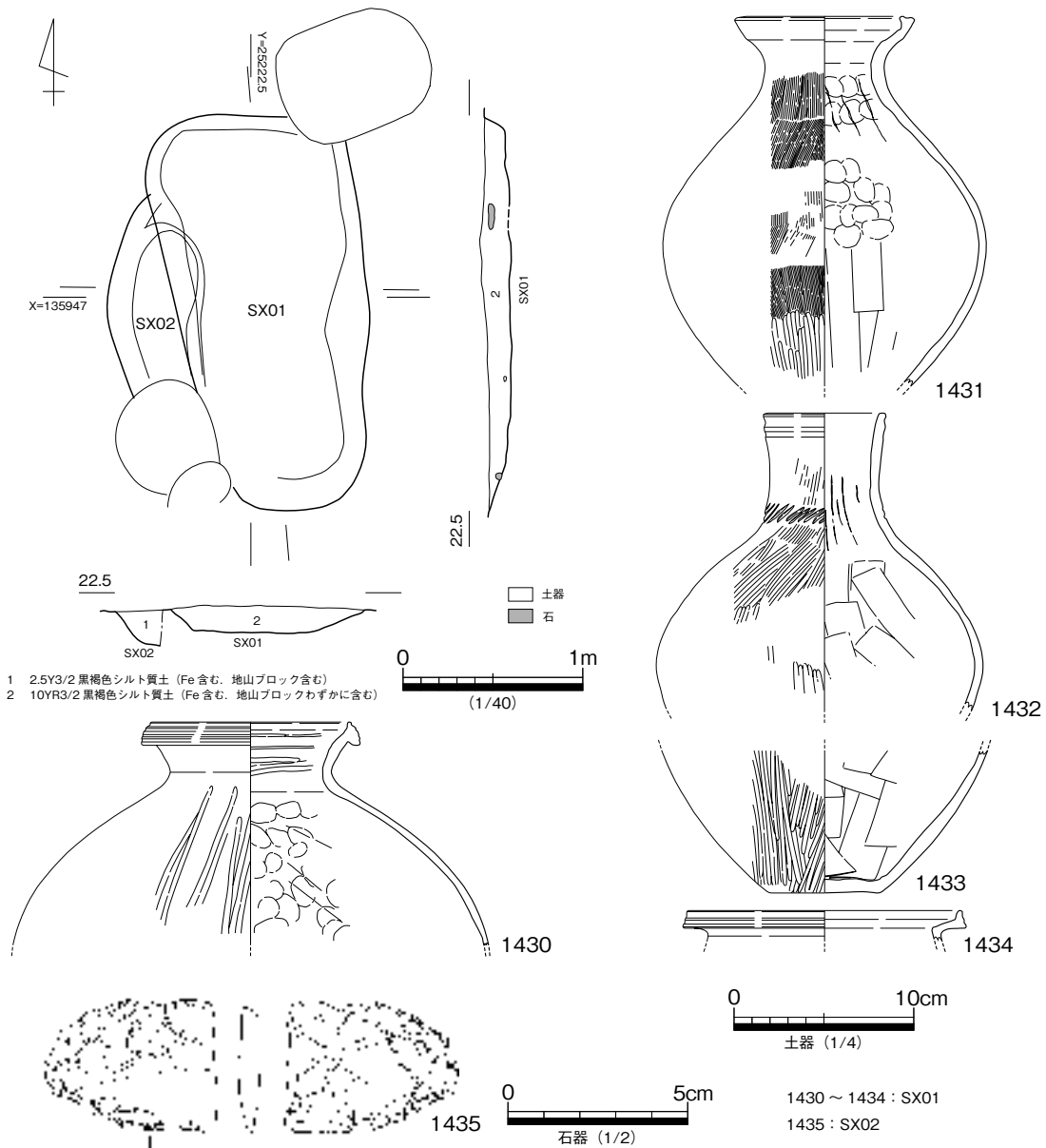


図 203 7-4 区 SX01・02 平・断面・出土遺物

部上面に窪みが巡っている。9世紀代のものと考えられる。7-5区SD01は年代を特定しうる遺物に恵まれないが、9世紀代のものと考えておく。

7-4区SX01、02 (図203)

7-4区SR01の埋土掘削中に検出した凹地である。掘り込み面は確認できなかった。7-4区SX01は長軸2.2、短軸1.1mの不整円形で、深さ15cm、断面形は浅い皿状を呈する。7-4区SX02は7-4区SX01に切られるもので、規模は不明である。

7-4区SX01からは100点あまりの弥生土器小、細片が出土している。大半は弥生時代中期後半と考えられる土器片で、一部に胎土中に砂粒を多く含む弥生時代前期と考えられる土器片が含まれる。図203の1430は短頸広口壺、1431は細頸長頸壺である。口縁部から頸部にかけて突帯や刻み目突帯の付されないものである。1432は長頸壺、口縁部に2条の凹線文を施し、頸部下方にハケ原体による刻み目を施している。以上の土器の様相から7-4区SX01は弥生時代中期後半のもの判断できる。7-4区SX02もそれほど時期の隔たらない遺構であろう。なお、遺構の性格はよくわからない。

1435はサヌカイト製のスクレイパーである。両面から調整が施され、刃部が作り出されている(森下)。

7-4区SR01 (図204)

7-4区SR01は、『旧練兵場遺跡Ⅲ』調査区を蛇行しながら南北に流れ、7-6、7-4、7-3区を抜けて『旧練兵場遺跡Ⅱ』調査区の南端を曲流し、南下して7-10、7-7区を南流し、7-2区から7-13区へ抜けて続く凹地である。7-4区では数ヶ所で局所的に埋土が遺存しており、上、中、下層の3層に分けて遺物を

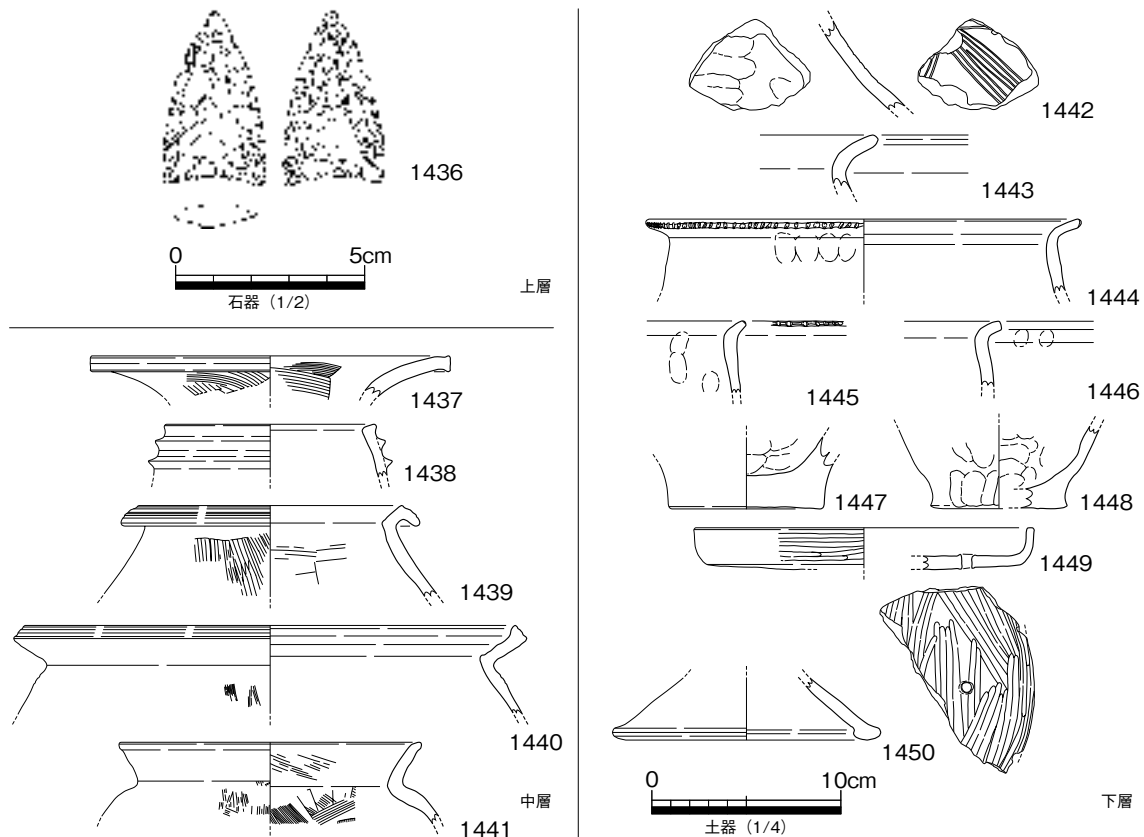


図204 7-4区SR01 出土遺物

採取した。

1436は上層から出土したサヌカイト製の石鏃である。凹基式である（森下）。

中層は弥生時代中期後半から後期の遺物が混在しているが、上層遺構からの混入品が含まれると思われる。1442～1450は下層出土の遺物である。1442は弥生土器壺で外面にヘラ描きによる山形文が見られる。1444～1446は如意状口縁の甕である。端部に刻み目を施すものがある。1449は高杯とした。内外面をヘラミガキし、杯部に穿孔が見られる。1450は蓋と考えた。下層は弥生時代前期に属すると考えられる。層位と出土遺物の様相は、他地区においても下層は弥生時代前期に限定できるが、中層より上位については確定的なことがわからない状況である。

7-5 区遺構に伴わない遺物（図 205）

1451はサヌカイト製の楔状石核である。図の上は折れ面で、その他の周縁には敲打による潰れがみられる（森下）。

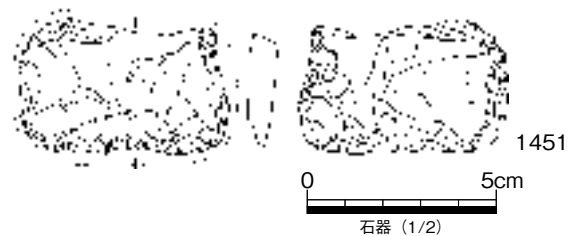


図 205 7-5 区遺構に伴わない遺物

第8節 7-6区の調査

概要

7-4区、7-5区の南側、平成14年度に本調査が行われ、『旧練兵場遺跡Ⅲ』に報告されたK区、J区の北側に設定された調査区である。調査面積は約165㎡を測る。

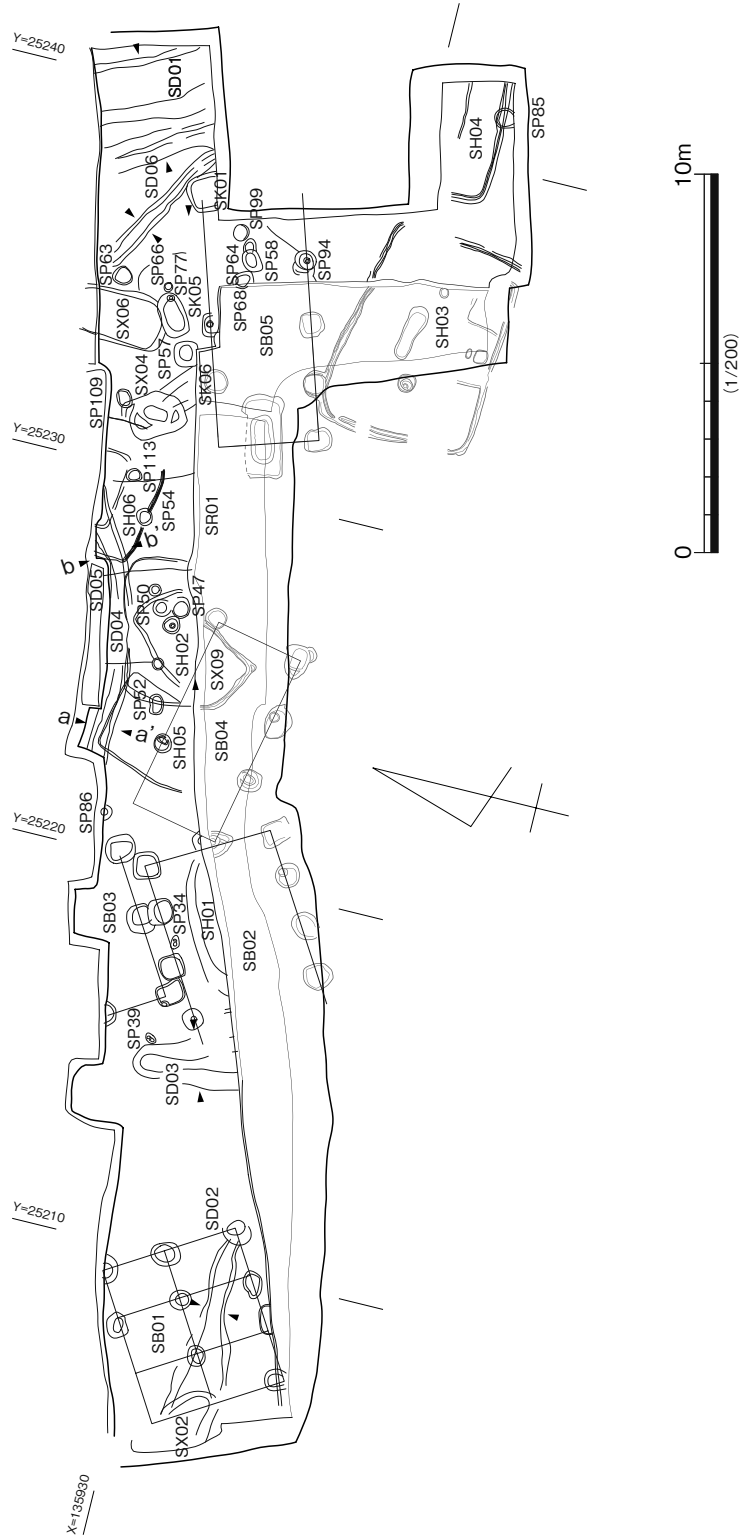


図 206 7-6区 遺構平面

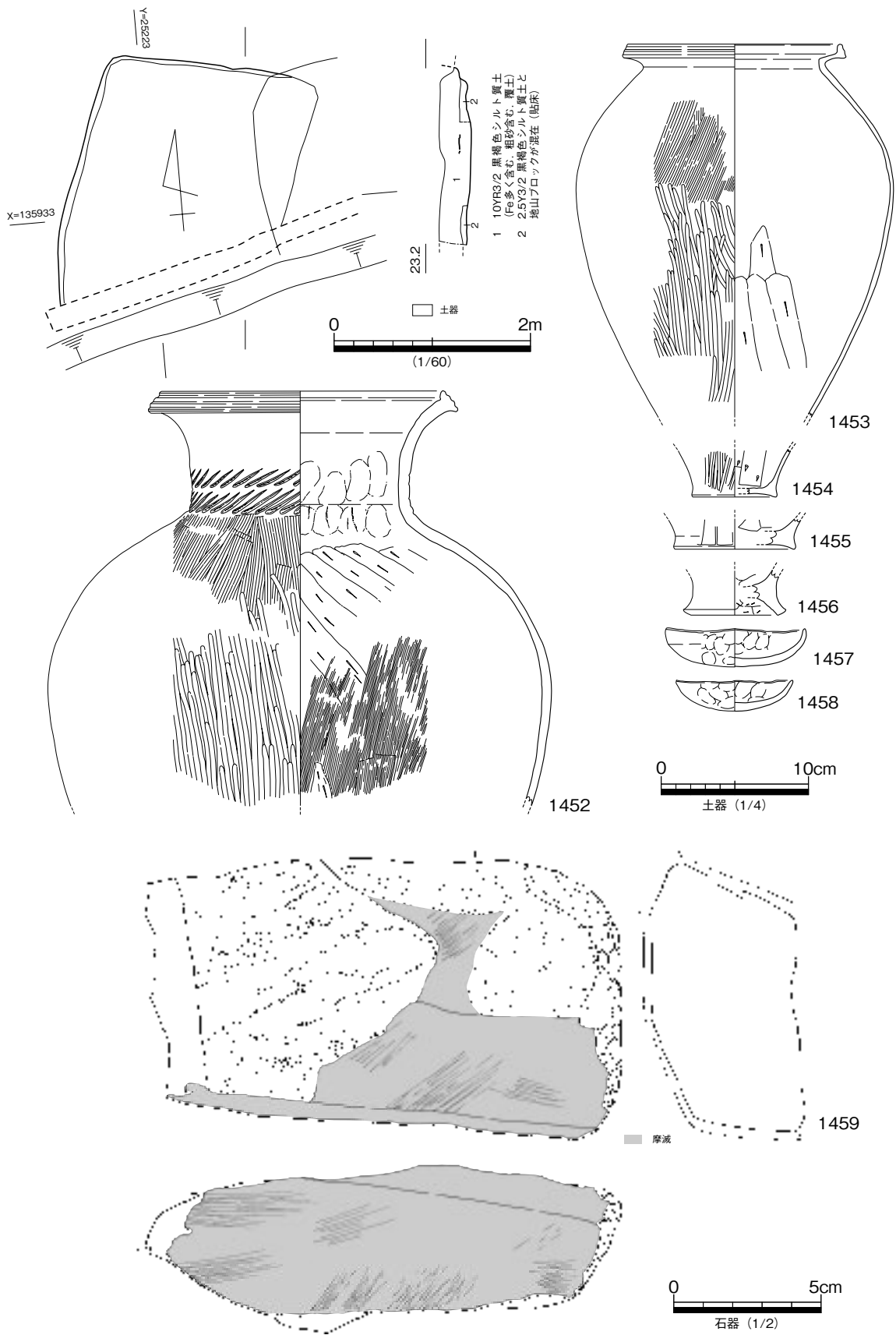


図 207 7-6区 SH05 平・断面・出土遺物

竪穴住居跡6棟、掘立柱建物跡5棟などを検出した。この調査区では古代の掘立柱建物跡がまとまって見つかった。

7-6 区 SH05 (図 207)

長方形の小型の竪穴住居と考える。7-6 区 SH02 に切られる。長辺 2.6 m 以上、短辺 2.2 m の規模で、急角度のしっかりとした掘り方をもつ。本遺構からは弥生時代中期後半の遺物が廃棄された状況で出土している。図化遺物中には明らかに後代の遺物が混入しているけれども、弥生時代中期後半の遺構である。

1459 は安山岩製の砥石である。1 面は自然面であるが、部分的に摩滅する。側面 2 面も摩滅する。もう 1 面は割れ面である (森下)。

7-6 区 SH01 (図 208)

弧状に巡る凹地である。円形であるとする直径 6 ~ 8 m になる。掘り込みは緩やかで、壁溝は確認できなかった。柱穴等も未確認であるが、貼床の可能性のある層が存在することから積極的に竪穴住居跡と判断する。南半は『旧練兵場遺跡Ⅲ』に掲載される調査区であるが、本遺構は検出されていない。

土器細片が 28ℓ 入るコンテナ 1 / 3 ほど出土しているが、摩滅するものが多く、図化可能なものは僅少である。1460 の弥生土器甕も細片である。弥生時代後期後半の遺構と考えておく。

1461 はガラス製の小玉である。青色を呈する (森下)。

7-6 区 SH02 (図 209)

方形の竪穴住居跡である。南半は『旧練兵場遺跡Ⅲ』に掲載される調査区に延びるが、攪乱されている部分にあたり未検出である。東西辺の幅は 3.9 m を測る。主柱穴とするには規模が貧弱なきらいがあるが、2 基の主柱穴を検出した。柱間寸法は 2.0 m である。位置関係から、本来は 4 基の主柱穴が方形に配置されるものと考えられる。

本竪穴住居の北縁に焼土を検出している。一見すると造りつけ竈の袖部のような平面形に見えるが、ほとんど盛り上がりをもたない。また、周囲に炭化物や焼土等の散乱も確認できなかったことから、2 次的に移動した焼土が堆積している可能性がある。なお、調査段階では、これが造りつけ竈である可能性を考えていたが、出土遺物に須恵器をまったく含まないこと、床面からガラス玉が 10 点出土しており混入とは考え難いこと、出土遺物の様相等から、本竪穴住居は弥生時代終末期のものであり、竈の残骸である可能性はないと判断する。

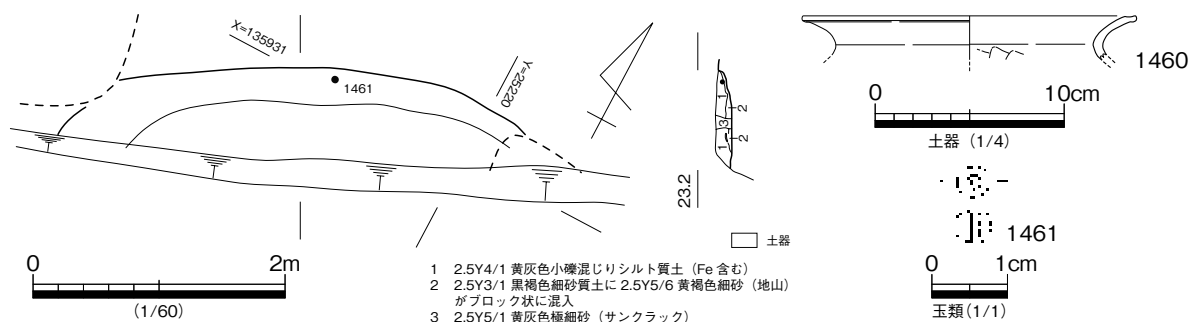


図 208 7-6 区 SH01 平・断面・出土遺物

このほか、サヌカイト製の石鏃（1468）、同製の楔状石核（1469）が出土した。1469の左図の左端面と右上の端面は折れ面である。下端にも敲打による潰れがある。両面からの加工により端部が鋭いところもあることから、石包丁製作の途中から楔状石核に変更した可能性もある。1468は有茎式である（森下）。

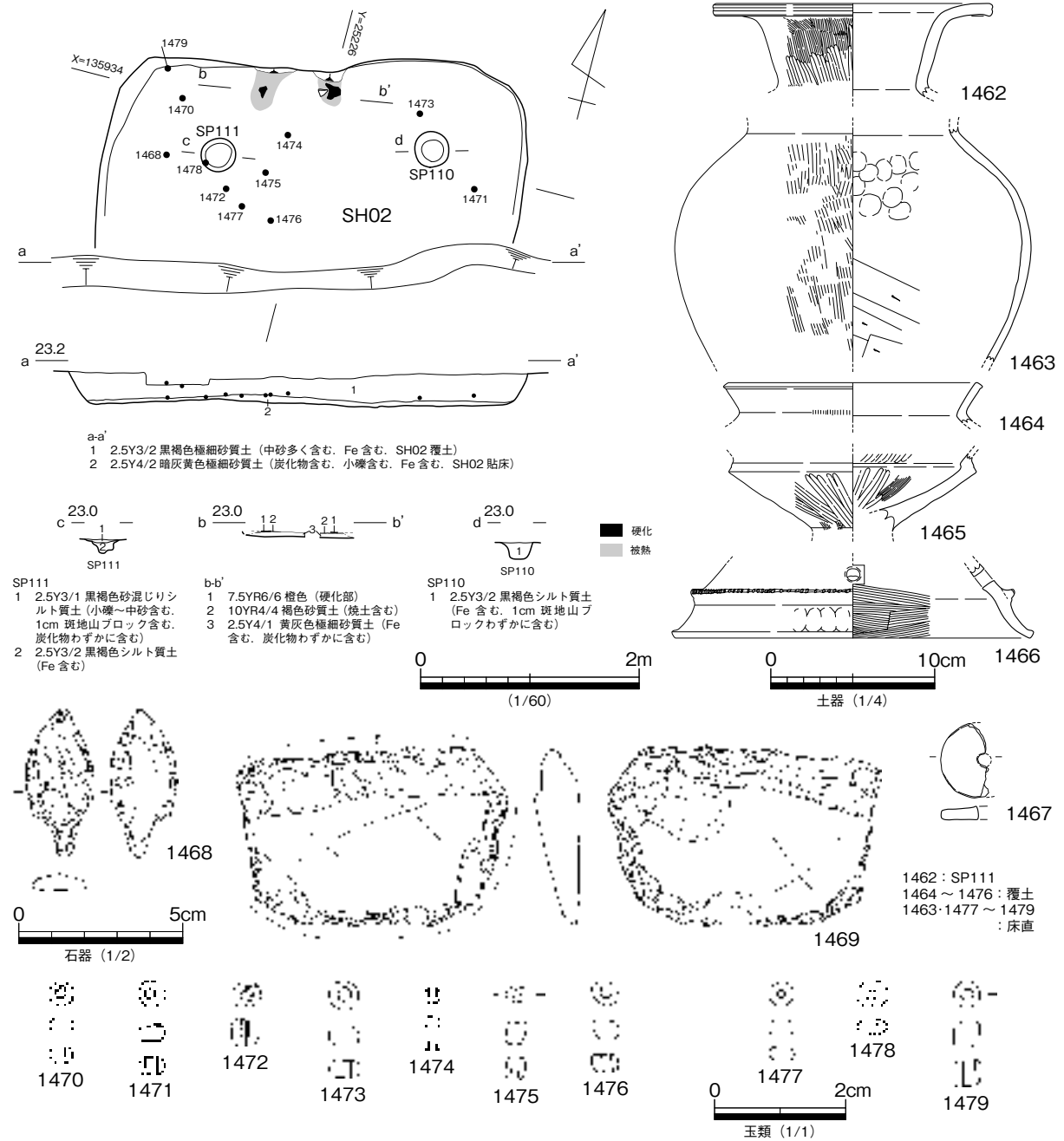


図 209 7-6 区 SH02 平・断面・出土遺物

7-6 区 SH03 (図 210)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』J 区 SH4001 の東側延長部分に相当する。今回の調査により本竪穴住居は長辺 5.6、短辺 3.7 ~ 4.1 m の長方形に近い台形の平面形であることが確定した。過年度調査ではベッド状遺構が南辺の一部を除いて全周するとしているが、7-6 区 SH03 の調査では、2 層が貼床形成のベッド状遺構

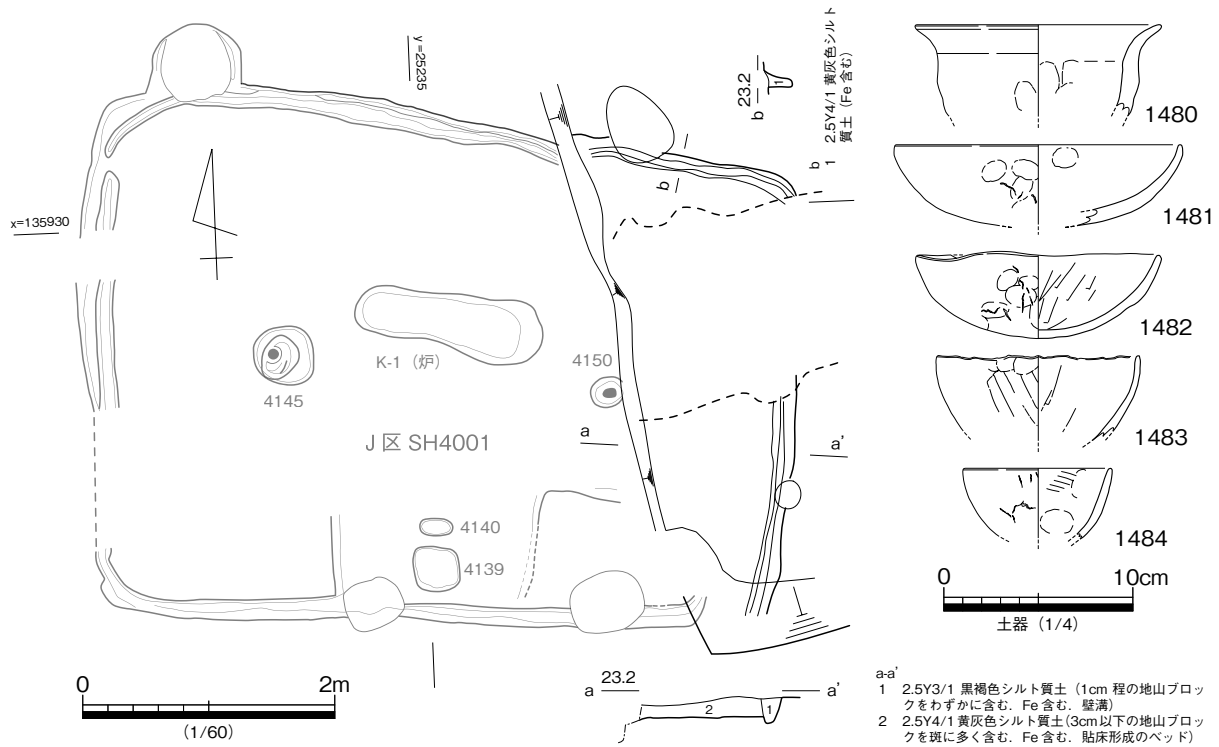


図 210 7-6区 SH03 平・断面・出土遺物

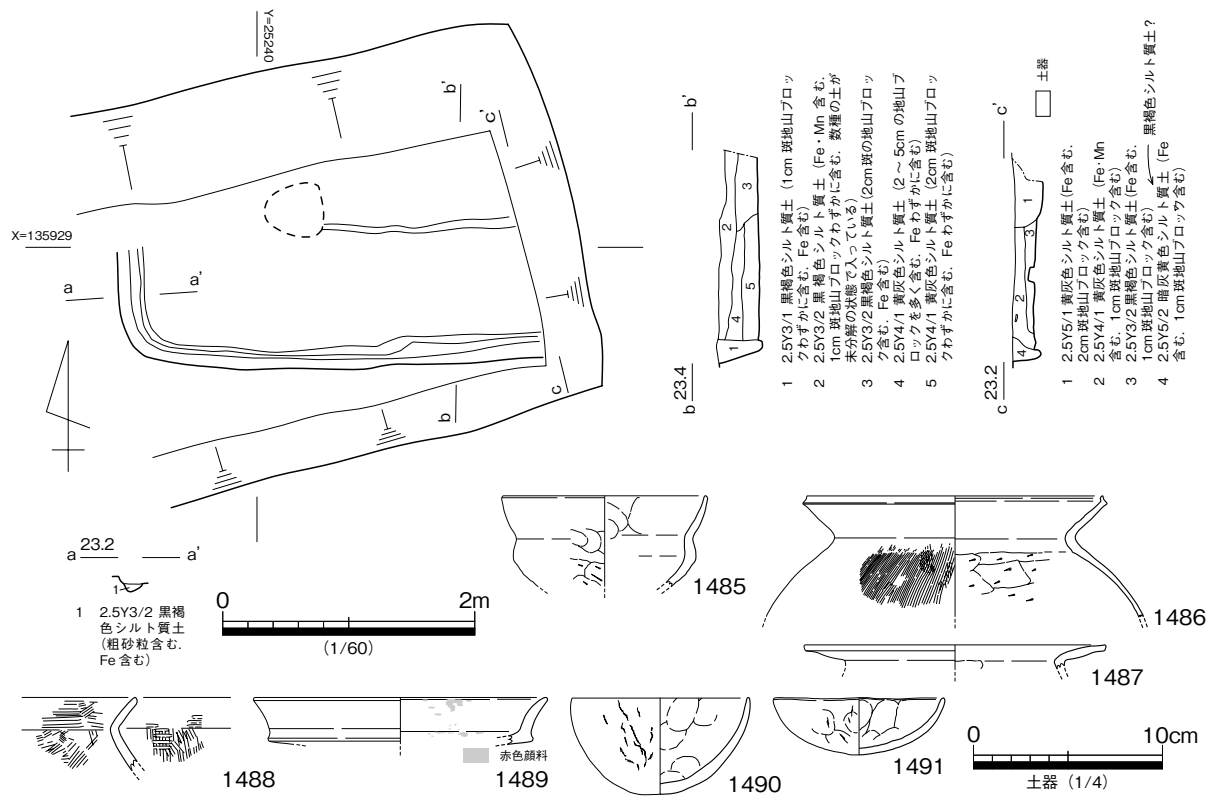


図 211 7-6区 SH04 平・断面・出土遺物

である。古墳時代前期前半の竪穴住居跡である。

7-6 区 SH04 (図 211)

7-6 調査区の南東隅で検出した竪穴住居跡である。南西隅部分のみの検出であるが、方形もしくは長方形の平面形で、壁溝が巡る。幅 1 m ほどの貼床形成のベッド状遺構が巡る。住居の平面形や構造が西に隣接する 7-6 区 SH03 に類似している。

1485 の壁溝から出土した土師器小型丸底壺などから、古墳時代前期前半の竪穴住居跡と考える。

7-6 区 SH06 (図 212)

方形の竪穴住居である。北半は 7-4 調査区に延びるが、攪乱により消滅している。一辺は 3.6 m、もう一辺は 2.0 m 以上を測る。断面観察により幅 0.9 m ほどの貼床で成形したベッド状遺構が巡っている。また、南辺において壁溝を検出している。

出土遺物は 100 点あまりの土器細片で、弥生時代中期後半のものが主体となる。しかし、7-6 区 SR01 の埋土を掘り込んだ建物であり、遺物が混入する可能性のある点に留意する必要がある。また、竪穴住居の平面形が方形を呈し、南側に位置する 7-6 区 SH03 と建物方向が平行し、貼床成形のベッド状遺構を持つ点も共通している。このことから、7-6 区 SH06 は古墳時代前期に属するものと推定する。

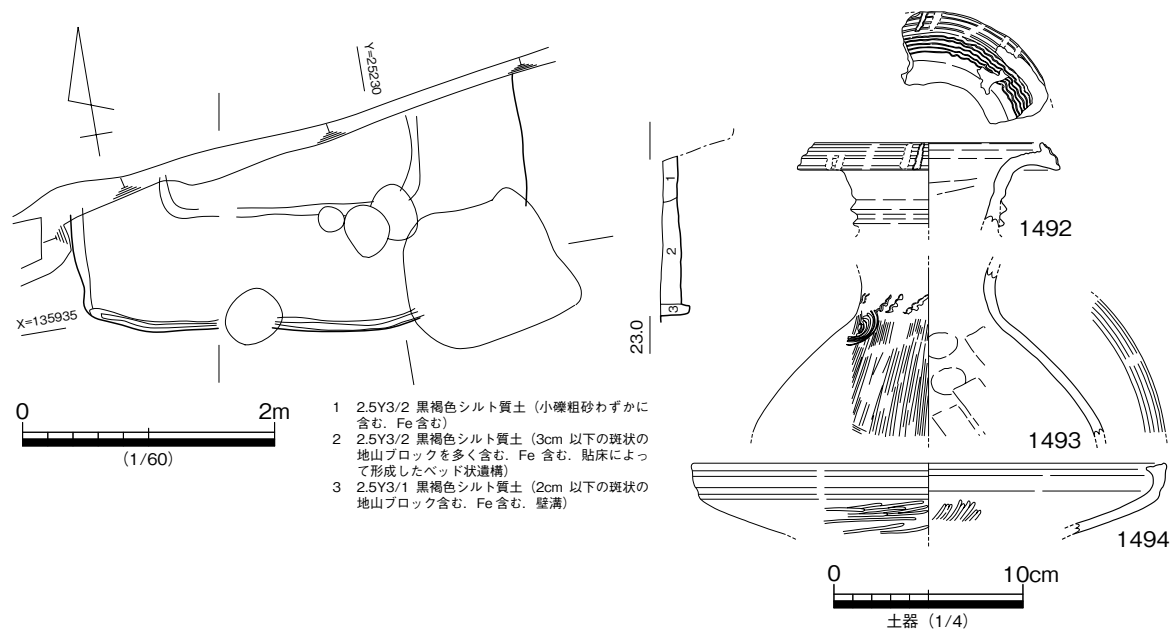


図 212 7-6 区 SH06 平・断面・出土遺物

7-6 区 SB04 (図 213)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』J 区 SB4002 と組み合わせる 1 × 3 間の掘立柱建物である。想定される柱穴のうちの 2 基は検出できなかったが、1 基は他の柱穴の底面レベルから見て、7-6 区 SX09 により消滅している可能性が高い (なお、想定位置に 7-6 区 SP46 が存在するが、古墳時代後期以後の柱穴である)。また、7-6 区 SP124 は、7-6 区 SH05 に切られ、柱穴の径がほかのものよりも若干小さい。7-6 区 SP124 からは、弥生土器細片が 1 点出土したのみで時期を知ることはできないが、切り合い関係で 7-6 区 SH05 よりも古いと考えられることから、『旧練兵場遺跡Ⅲ』J 区 SB4002 の年代観と矛盾してしまう。調査時に 7-6

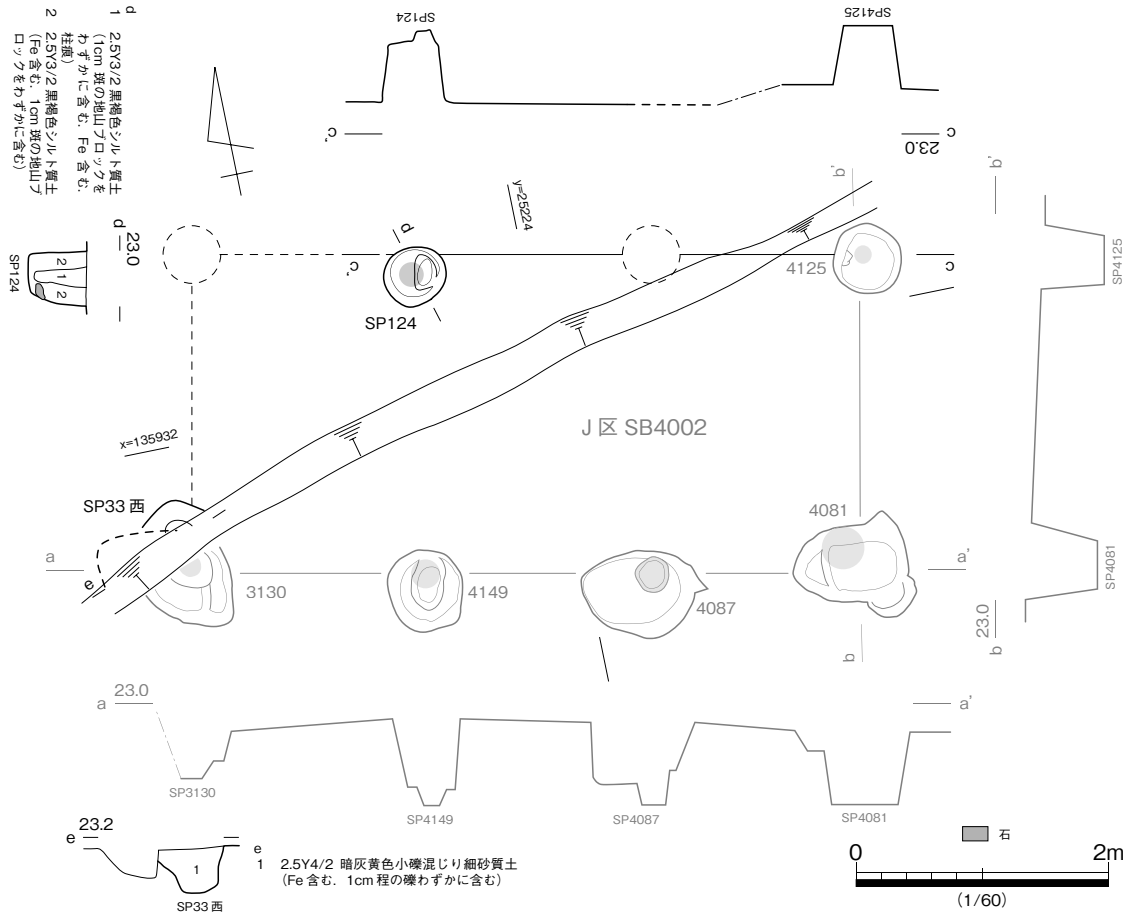


図 213 7-6区 SB04 平・断面

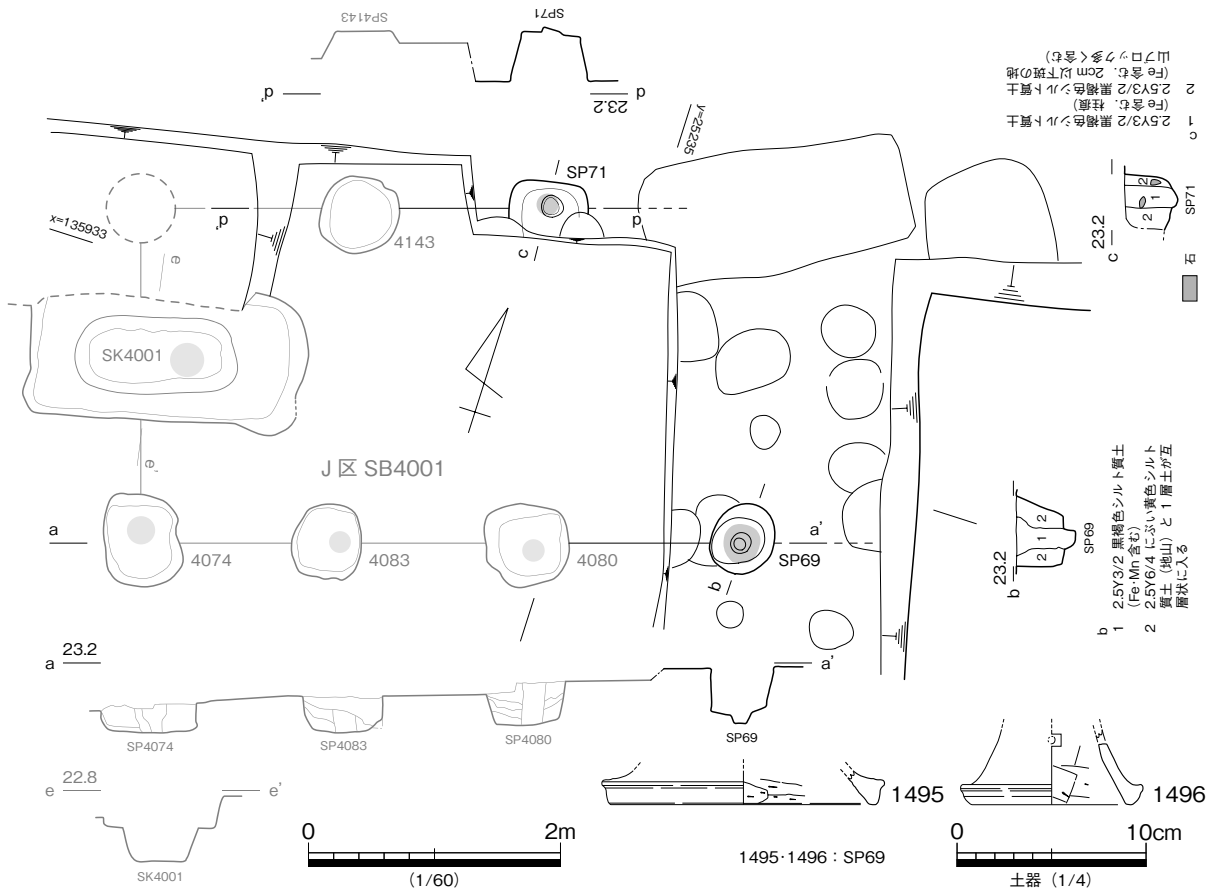


図 214 7-6区 SB05 平・断面・出土遺物

区 SP124 が過年度調査により検出した掘立柱建物の延長に当たると安易に考えてしまったが、本来の延長する柱穴を見落としている可能性がある。

7-6 区 SB05 (図 214)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』J 区 SB4001 の東側延長にあたる。J 区 SB4001 は、西側の梁行に棟持柱をもつ掘立柱建物である。7-6 区において東側延長が検出されるものと期待されたが、北側桁行には大きな攪乱坑があり柱穴の有無を確認できず、南側は推定される位置に 1 基の柱穴を検出したものの、その東延長は調査区外に延びる模様である。東側の棟持柱も検出されていない。

7-6 区 SB05 を構成する 7-6 区 SP69 からは 30 点弱の土器細片が出土している。1495、1496 は弥生土器高杯の脚部片であるが、1496 には円形の透かし穴が穿たれている。弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

7-6 区 SB01 (図 215)

7-6 区西隅で検出した総柱の掘立柱建物である。基盤に砂礫層が盛り上がる場所に建設されているためか、柱の平面形は不整円形のものが多く、柱配置も不揃いであるが、ほとんどの柱穴で検出できた

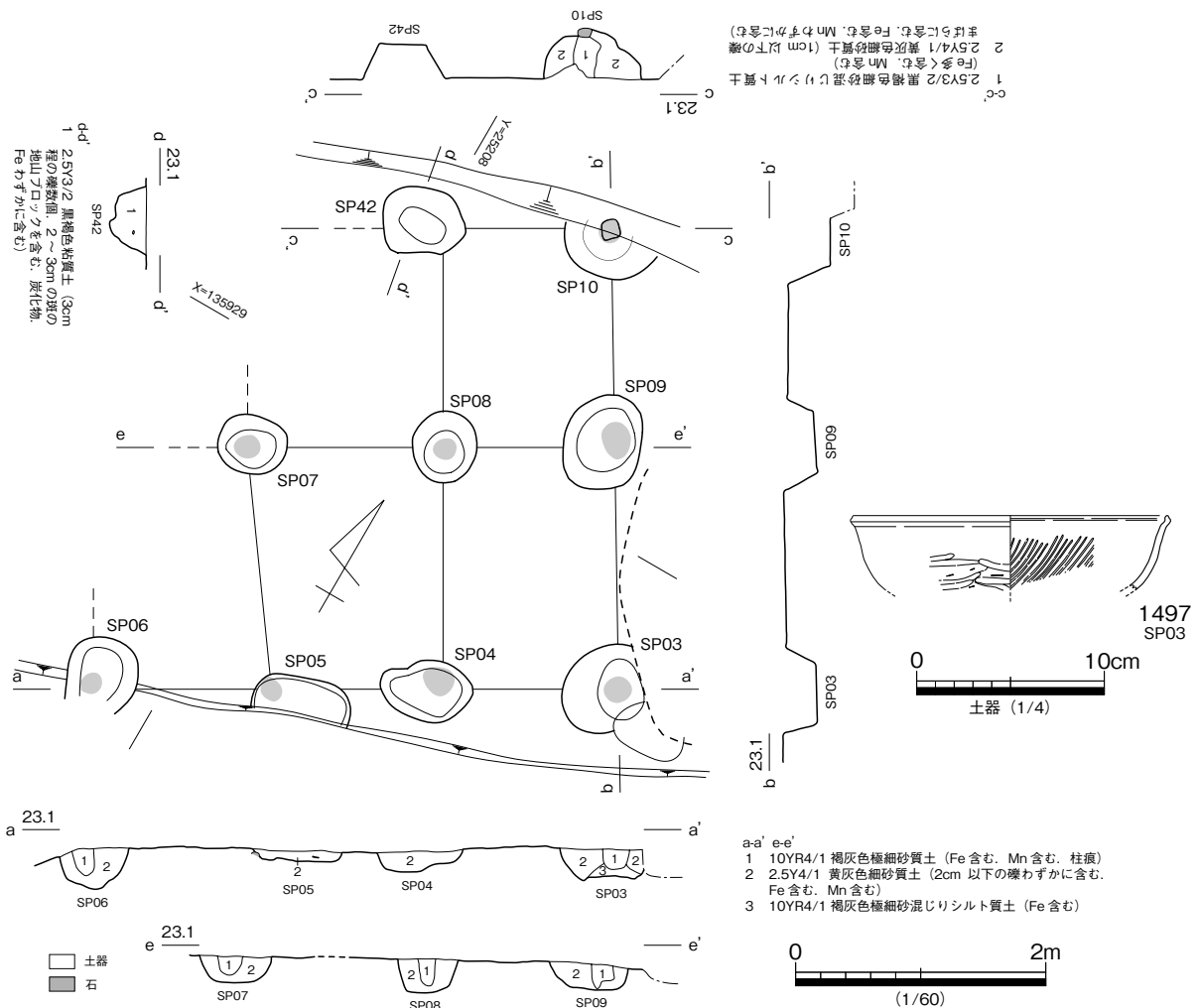


図 215 7-6 区 SB01 平・断面・出土遺物

柱痕の配置は、比較的整然と配置されている。

建物規模は4.2 × 3.8 m、建物方位は座標北から60度東へ振る方向で、周辺に広がる条里型地割の方向とおおむね一致する。いずれの柱穴からも須恵器細片、弥生土器細片、土師器細片が出土している。1497は7-6区SP03から出土した土師器杯である。精良な胎土を用い、口縁端部は外側に丸く肥厚させ、内側に沈線を巡らせる。内面には放射状の暗文、外面にはヘラ削りが施される。8世紀後半のものと考えられる。7-6区SB01の南桁行は東側の7-6区SB02の北側の桁行と同一線上を指向していることから、同一時期の建物と考えられ、7-6区SB01を8世紀後半から9世紀代の掘立柱建物と考える。

7-6区 SB03 (図 216)

梁行1間以上、桁行2間以上の掘立柱建物である。建物規模は1.7 m以上 × 3.9 m以上、建物方位は座標北から58度東に振る方向で、周辺に広がる条里型地割の方向とおおむね合致している。いずれの柱穴からも須恵器細片、弥生土器細片、土師器細片が出土しているが、図化可能な遺物はない。柱穴の1基が、7-6区SB02と切りあっており、7-6区SB02よりも古い。しかし、7-6区SB02と大きな時間差があるとは考えにくく、7-6区SB01と柱筋を揃えることを指向していることから、8世紀後半から9世紀代の掘立柱建物と考える。

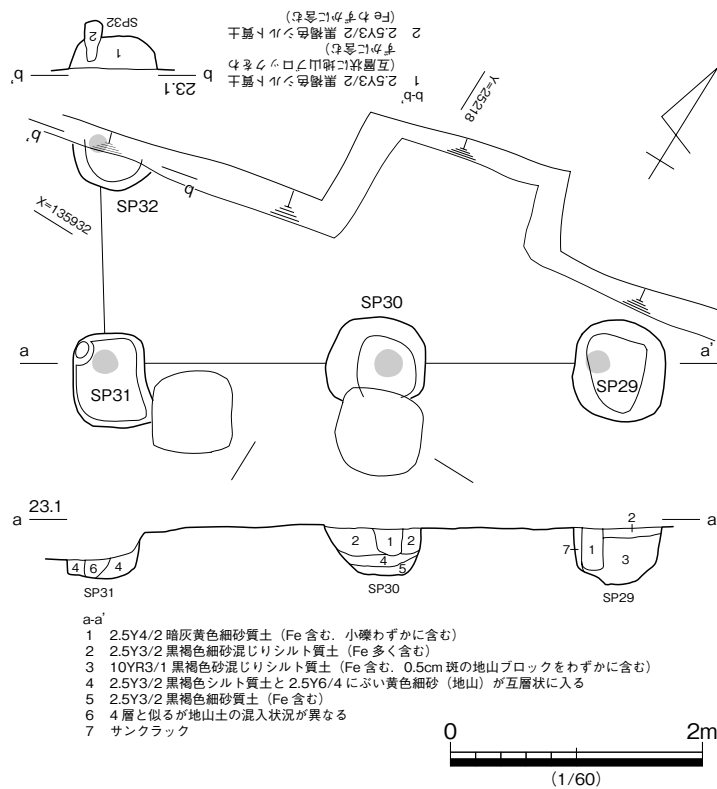


図 216 7-6区 SB03 平・断面

7-6区 SB02 (図 217)

2 × 3間の掘立柱建物である。『旧練兵場遺跡Ⅲ』K区SB3004と組み合わせる。梁行2間(3.5 m)、桁行3間(4.3 m)の規模で、方位は座標北から東へ58度振る方向で、周辺に広がる条里型地割の方向とおおむね合致する。西側の梁行の柱穴1基が未検出であるが、掘立柱建物を構成する柱穴の深度が浅い

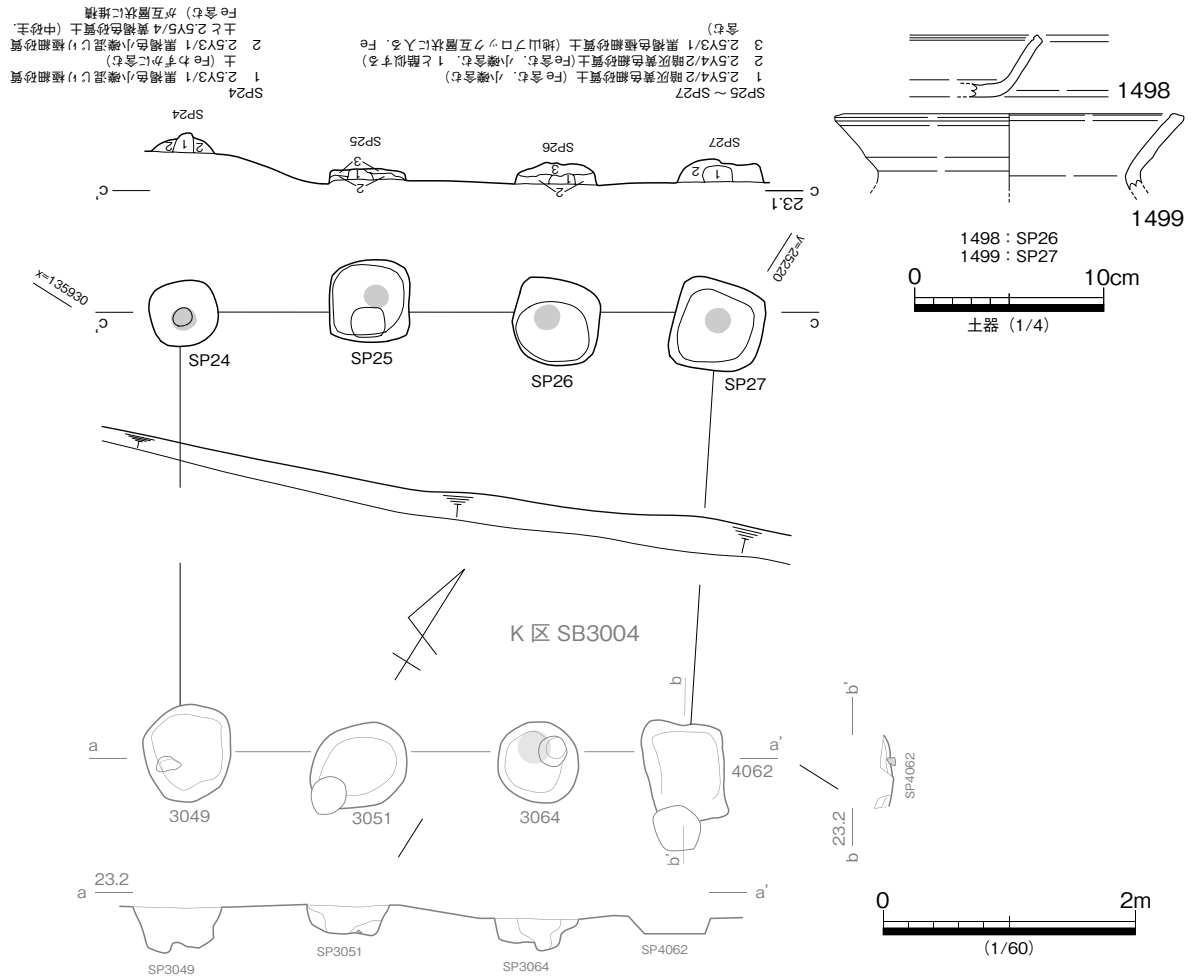


図 217 7-6区 SB02 平・断面・出土遺物

ことから、削平によって消滅している可能性が高い。

いずれの柱穴からも須恵器細片、弥生土器細片、土師器細片が出土している。1498 は須恵器杯、1499 は須恵器甕である。1498 は口縁端部を外側に摘み出さず、沈線も形骸化しており、9世紀代に属すると考えられる。

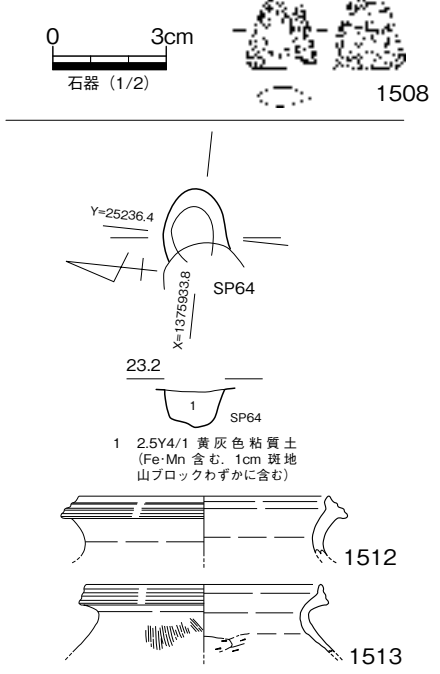
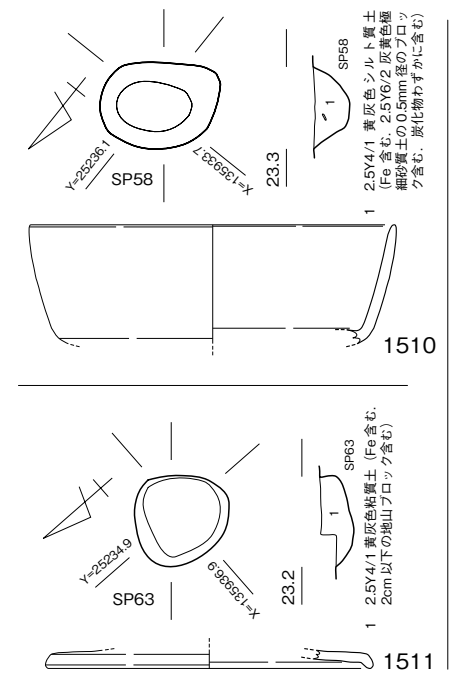
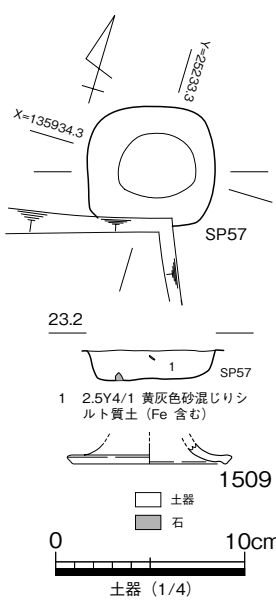
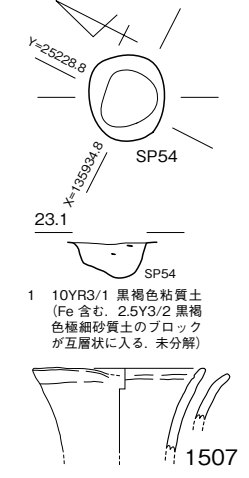
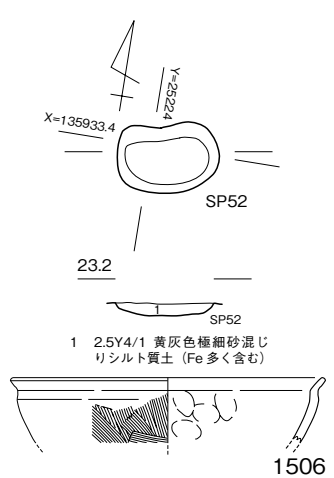
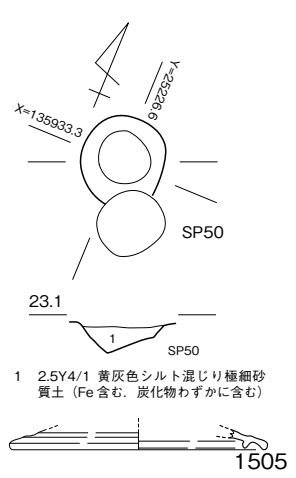
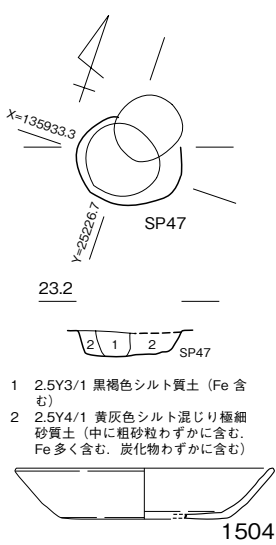
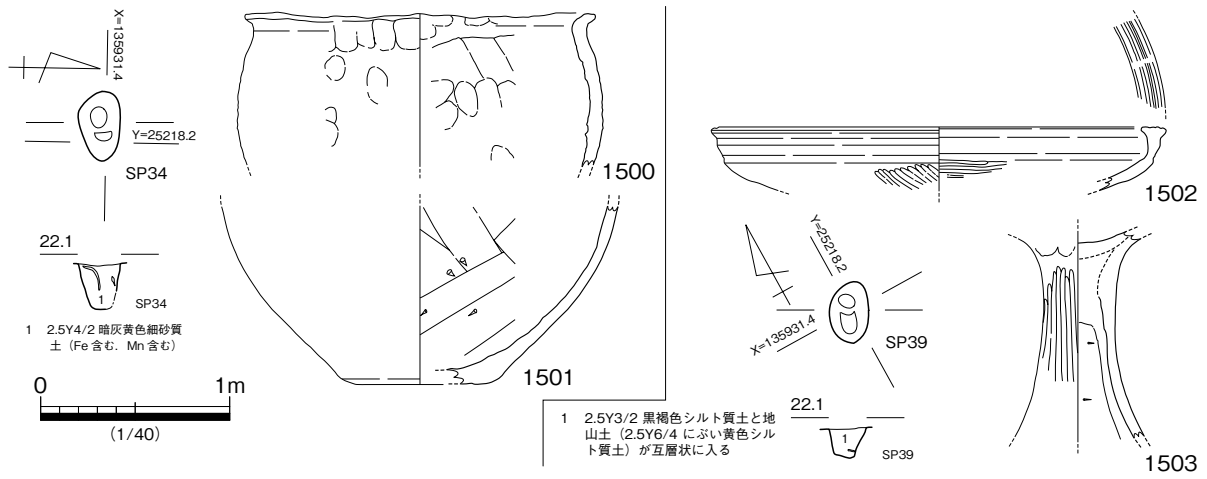


図 218 7-6 区柱穴 (1) 平・断面・出土遺物

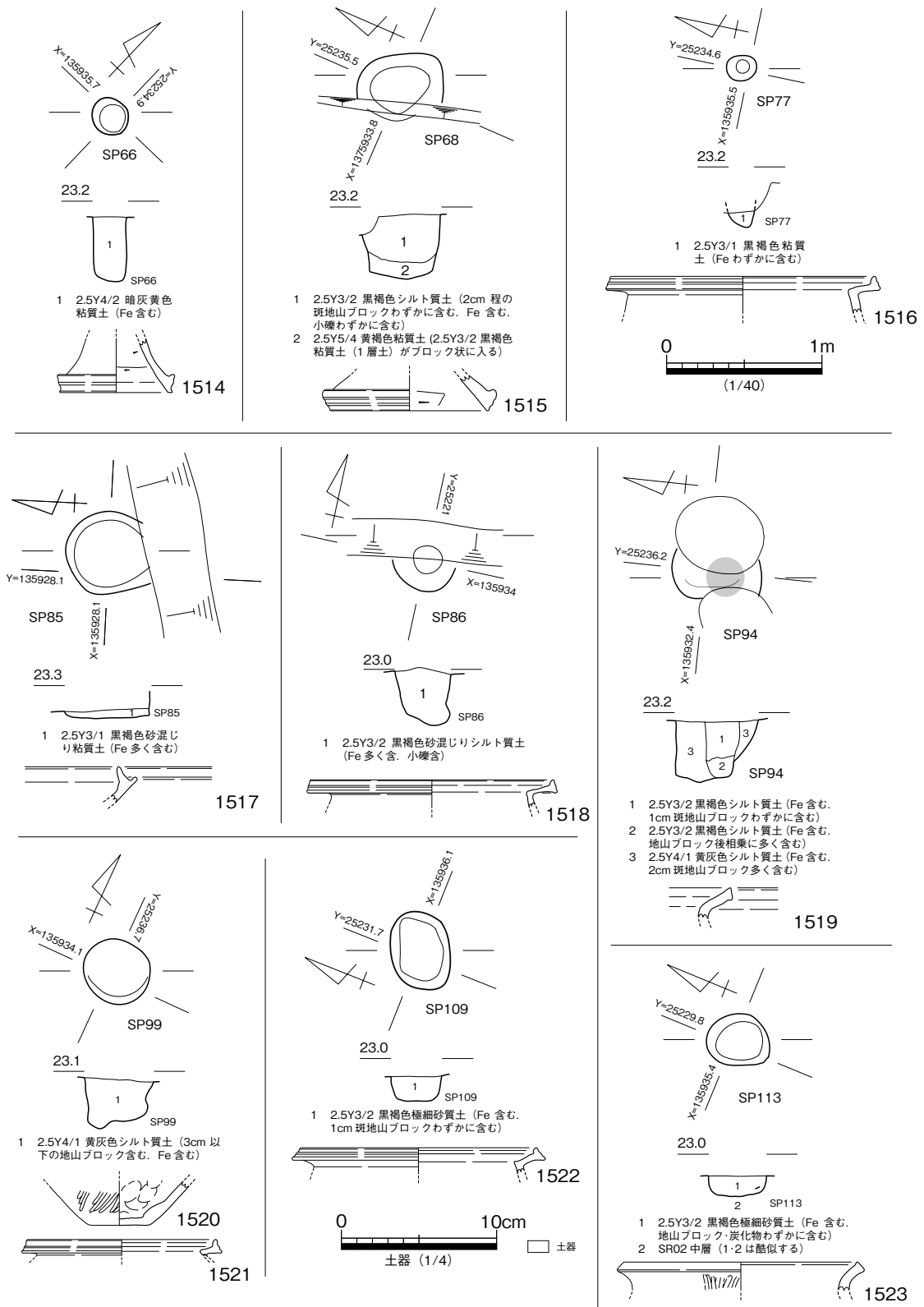


図 219 7-6 区柱穴 (2) 平・断面・出土遺物

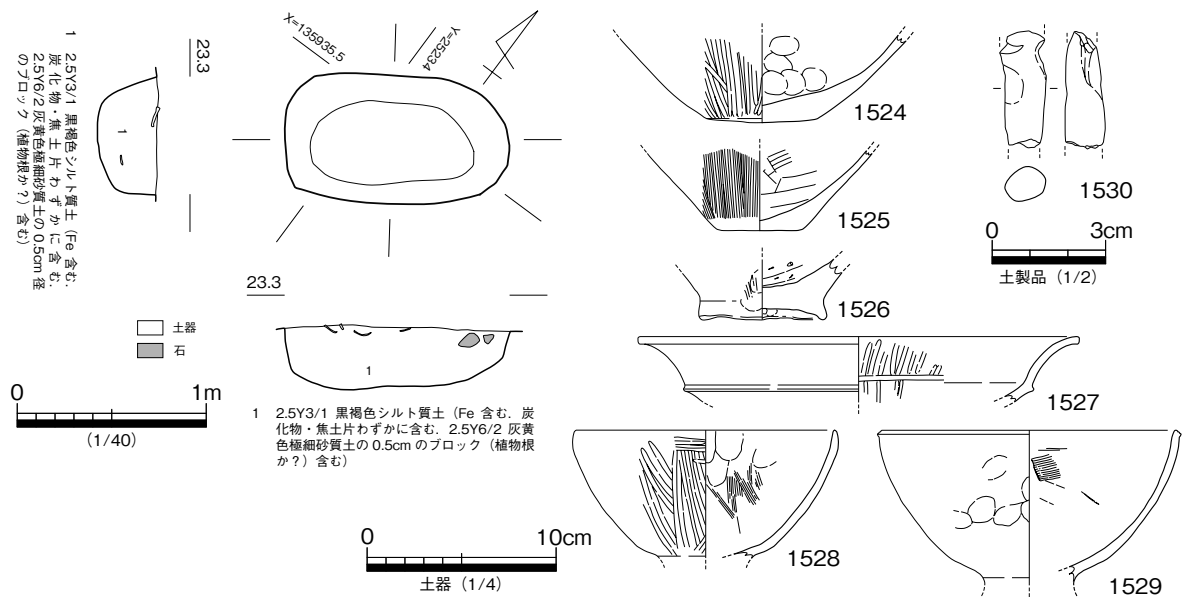


図 220 7-6 区 SK05 平・断面・出土遺物

7-6 区柱穴 (図 218、219)

1508 は 7-6 区 SP54 から出土したサヌカイト製の石鎌である。平基式である (森下)。

7-6 区 SK05 (図 220)

7-6 区調査区の東部で検出した土坑である。長辺 120、短辺 68cm の隅丸長方形の平面形で、急角度で掘り込み底は平坦に近い形状である。深さは 32cm を測る。この土坑の埋土の上部を中心に遺物片が数多く出土している。いわゆる浮いた状態である。遺物実測図の 1530 は土製品の破片と考えられるが、詳細はよくわからない。出土遺物の様相から 7-6 区 SK05 は弥生時代後期前半に属するものである。

7-6 区 SK06 (図 221)

7-6 区調査区の東部で検出した遺構である。北側は 7-6 区 SX04、南側は調査区外になるため、本来の形状は不明であるが、溝のように延びる可能性がないことから土坑と考える。一辺の幅 85、深さ 36cm、断面形は椀状を呈する。

底から見込み部を上にした状態で完形の須恵器杯 (1531) が出土している。立ちあがり端部は丸くおさめている等、TK10 型式の特徴を備えている。

東側の肩部付近から碧玉製の管玉 (1532) の破片が出土している。暗緑色を呈する (森下)。

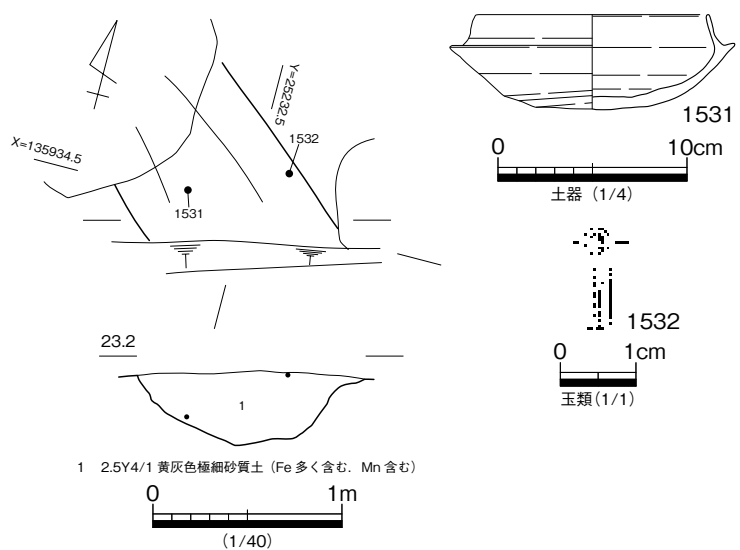


図 221 7-6 区 SK06 平・断面・出土遺物

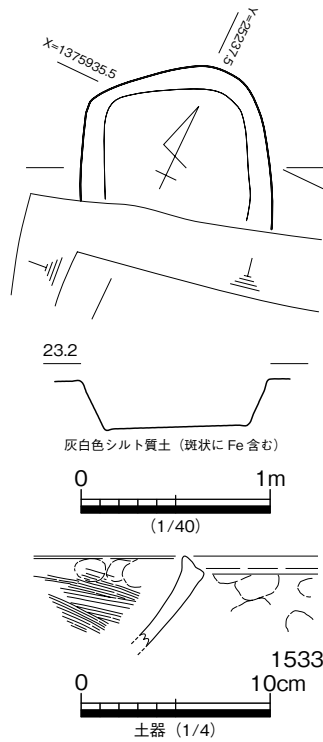


図 222 7-6 区 SK01
平・断面・出土遺物

7-6 区 SK01 (図 222)

7-6 区調査区の東部で検出した土坑である。南側は調査区外に延びる。一辺 0.8 m 以上、一辺 1.0 m、深さ 38cm を測る。断面形は台形を呈する。30 点弱の須恵器片と 50 点余りの素焼き土器片が出土している。最新のものの中世に属する土師質土器鉢 (1533) である。遺物の出土状況や埋土等から勘案して、7-6 区 SK01 は中世以降の土坑と考えられる。

7-6 区 SD04、05 (図 223)

7-6 区調査区の北辺を東西方向に弧状に流れる溝状遺構である。断面図に見られるように両者には切り合い関係がある (7-6 区 SD05 が新しく、7-6 区 SD04 が古い) ように見えるが、この部分の残存がわずかであったため、1 条の溝の層位関係なのか、2 条の溝が切り合っているのかよくわからない。

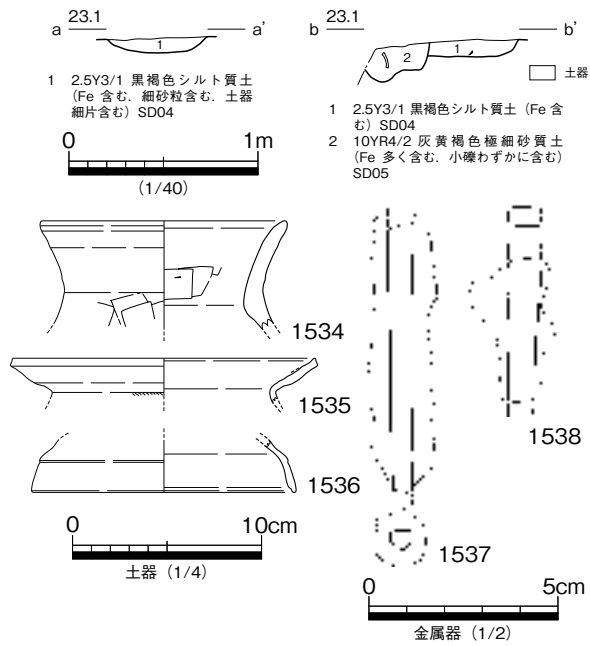


図 223 7-6 区 SD04・05 断面・出土遺物

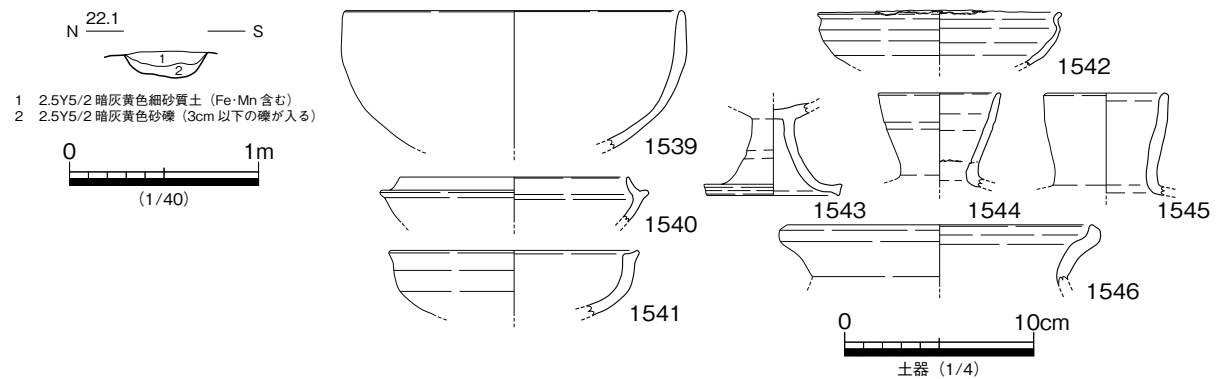


図 224 7-6 区 SD02 断面・出土遺物

7-6区SD04からは、弥生土器片に混じって須恵器片が出土している。MT15型式に併行する時期と考えられる。

このほかに鉄釘(1537、1538)が出土した。いずれも両端を欠損する。1537の断面形はいびつな方形で、1538の断面形は方形である(森下)。

7-6区SD02(図224)

7-6区調査区の西端で検出した溝状遺構である。7-6区SB01を構成する柱穴に切られる。

溝幅は0.4～1.4mと一定しない。深さは15cmほどである。7-6区SD02は、位置関係および埋土から『旧練兵場遺跡Ⅲ』J区SD4002と連続する可能性が高い。TK217型式に併行する時期の須恵器を年代の中心とする土器片が出土している。



- 1 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 (Fe含む、Mn含む)
- 2 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 (1cm程の斑状地山ブロック含む)

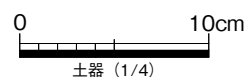
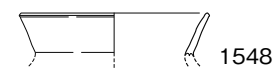
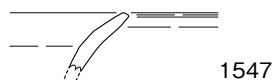
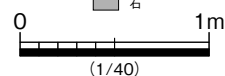
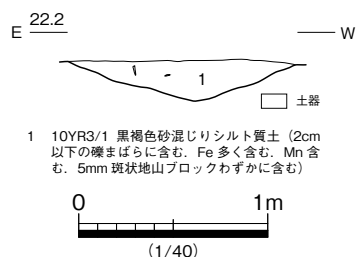


図225 7-6区SD06

断面・出土遺物

7-6区SD06(図225)

7-6区調査区の東部で検出した溝状遺構である。座標北から西へ61度振った方向に、ほぼ直線状に流れる。溝幅は40、深さ18cm、断面形はU字形を呈する。須恵器細片を含む土器片が28リットル入りコンテナ1/4箱出土している。1547、1548はいずれも細片であるが、土師器甕の口縁部と考えられる。須恵器に図化可能なものがないが、古墳時代後期の溝状遺構と考えておく。



- 1 10YR3/1 黒褐色砂混じりシルト質土 (2cm以下の礫まばらに含む、Fe多く含む、Mn含む、5mm斑状地山ブロックわずかに含む)

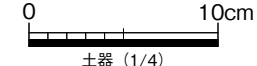
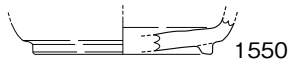
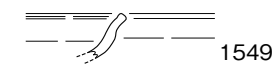
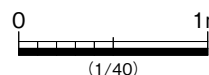


図226 7-6区SD03

断面・出土遺物

7-6区SD03(図226)

7-6区SB02、03の西側に位置する溝状遺構である。調査区において発現し、南側の調査区外に抜ける。調査区南端付近での深さ10cm、断面形は三角形を呈する。28リットル入りコンテナ半分くらいの須恵器片、弥生土器片、土師器片が出土しているが、図化可能な遺物はきわめて少ない。1549は土師器皿、1550は須恵器杯である。7-6区SD03は、位置関係から7-6区SB02の雨落溝の可能性があり、7-6区SB02と同時期の遺構と考える。

7-6区SD01(図227)

7-6区調査区の東部で検出した条里型地割の坪界線推定ラインに合致する溝状遺構である。断面図に見られるとおり、4、5層で埋没する溝状遺構を切って、新たに溝状遺構(3層)が掘削されている。新しい方の溝状遺構は、溝幅140、深さ35cm、椀状の断面形で、古い方は幅140以上、深さ36cm、皿状の断面形を呈する。

埋土中に土器片、自然石がまばらに含まれる状況で出土している。遺構の年代を特定しうような出土状況の遺物はない。3層からは、土師質土器土釜の脚部、土師質の平瓦片等が出土している。13世紀後半ころの埋没と推定される。4層は弥生土器や須恵器に混じって、黒色土器椀の底部が出土している。10世紀代のものであろう。また、内面に朱が付着する土器細片1点が出土している。5層からは

須恵器水瓶と考えられる破片が出土している。4、5層は年代の特定が難しく、古代の溝状遺構とだけ把握しておきたい。なお、条里型地割坪界線の北側延長には7-3区SD10、14があるが、埋土の様相が異なっており、直接繋がるかどうか不明である。

このほかに鉄釘（1564）が出土している。断面形は方形で、両端を欠損する（森下）。

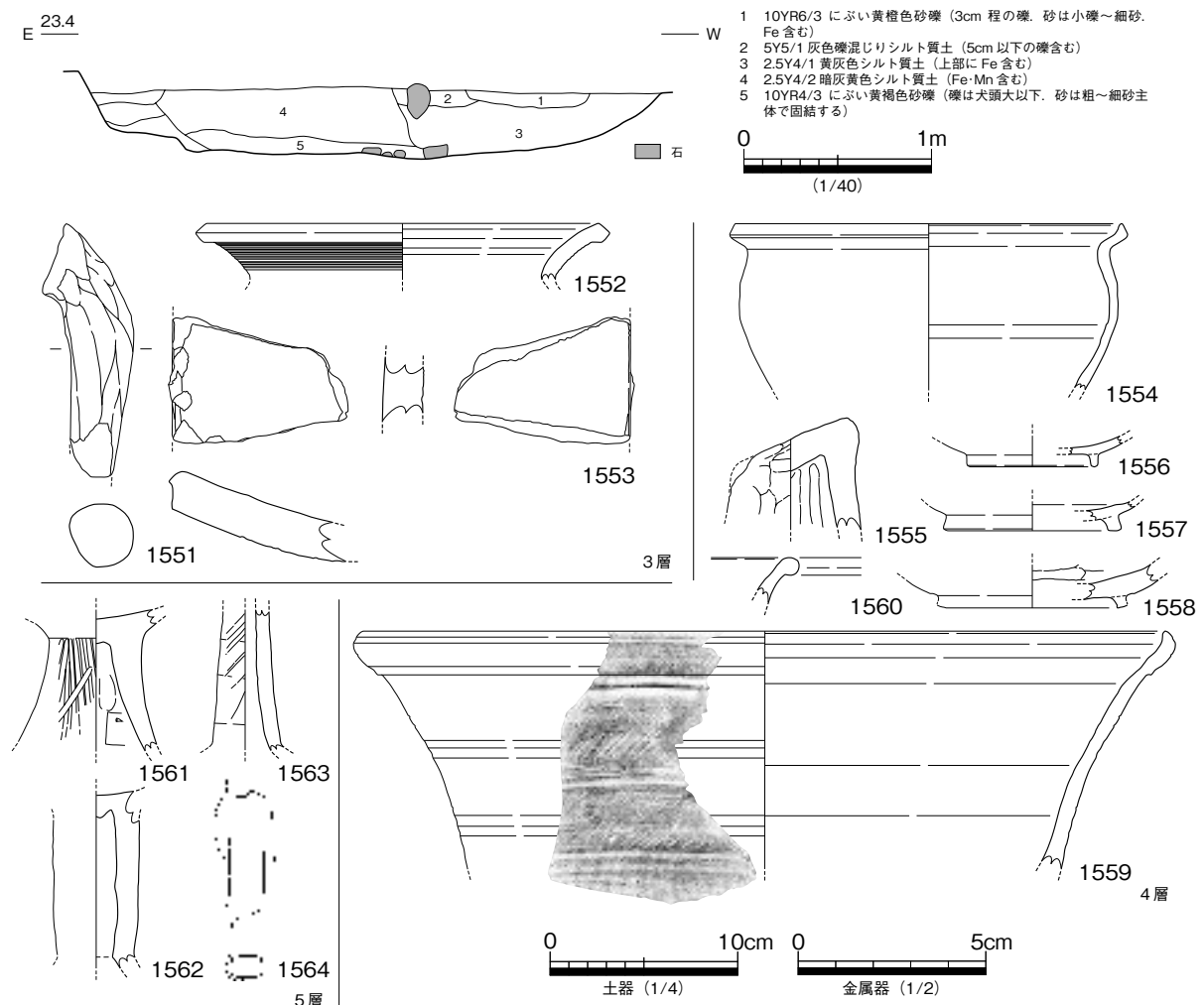


図 227 7-6区SD01 断面・出土遺物

7-6区SX06 (図 228)

7-4区、7-6区にまたがって検出した不明遺構である。長軸2.3以上、短軸1.5m、深さ0.5mの規模である。直角に近い角度で掘り込み、屈曲して底面は平坦である。北側は攪乱されて不明であるが、土坑であれば長方形の平面形となる。底面に接して弥生土器甕（1565）の上半部が出土している。1566の台付鉢と合わせて弥生時代中期後半に属するものである。

このほかにサヌカイト製の石包丁（1567）が出土している。背部は自然面である。側端部には挟りがあるが、もう一方の端部は欠損する。両面から加工されて刃部が作り出されるが、片面の加工は粗い（森下）。

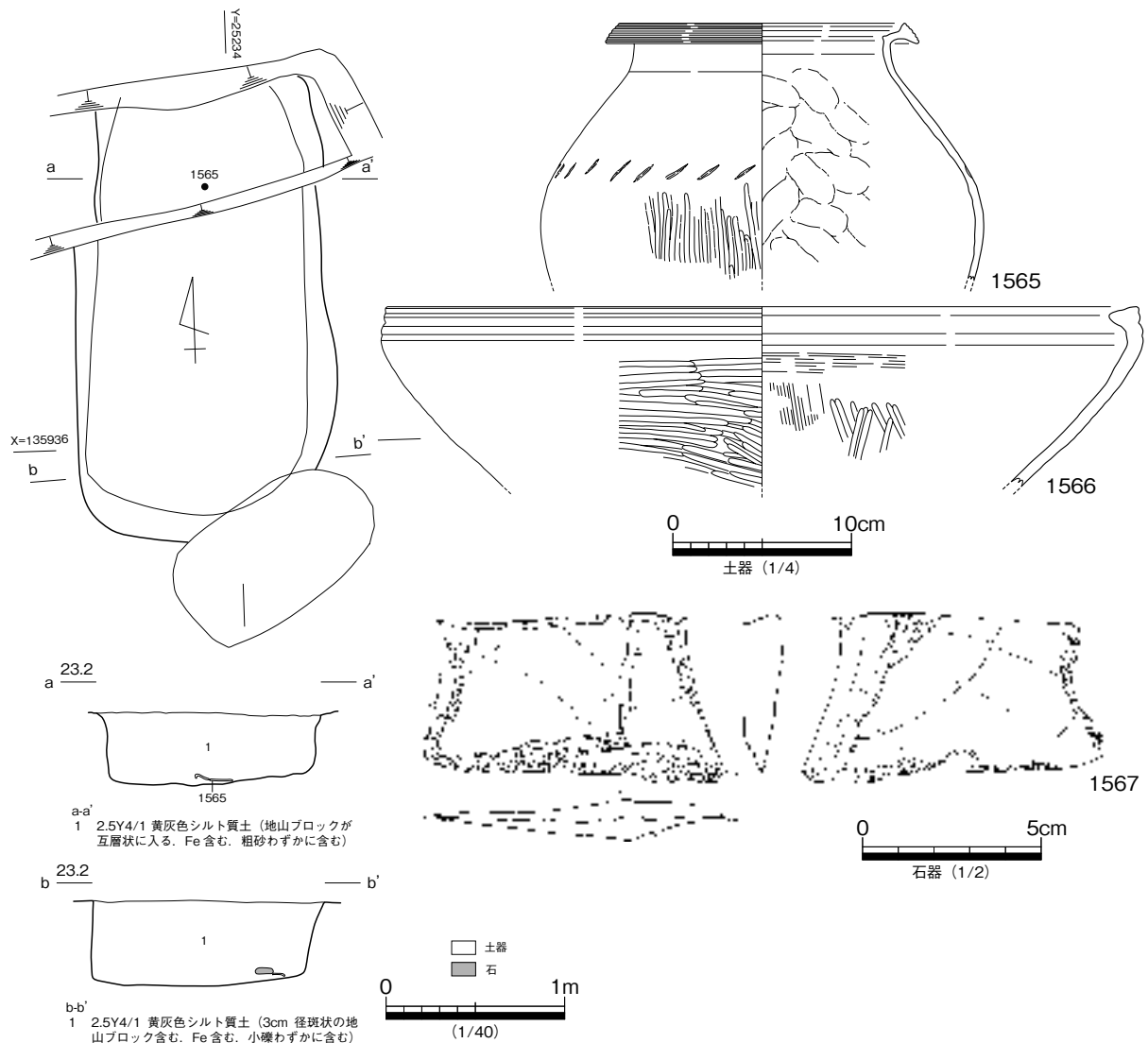


図 228 7-6 区 SX06 平・断面・出土遺物

7-6 区 SX09 (図 229)

『旧練兵場遺跡Ⅲ』で J 区 SH4002 として報告された竪穴住居跡の北側部分にあたる。両者を合わせると長軸 3.3、短軸 1.8 m のややいびつな長方形となる。底面で柱痕を伴う柱穴 (7-6 区 SP119) を検出している。弥生土器細片が 20 点あまり検出されたが、図化可能なものはない。『旧練兵場遺跡Ⅲ』では J 区 SH4002 を古墳時代前期前半としているが、弥生時代終末期の 7-6 区 SH02 に切られており、それ以前の遺構であろう。

7-6 区 SX02 (図 230)

7-6 区調査区西端で検出した不明遺構である。7-6 区 SD02 を切る。西側は後年度整理予定の 7-7 区に延びるため、遺構の性格は次年度以降の整理作業に委ねたい。

出土遺物のうちで特筆すべきものに 1570 の土師器甕がある。一見すると焼成不良の須恵器のように見えるが、内外面に丁寧なヘラミガキを施こされている。また、分銅形土製品 (1571) が出土している。上縁に沿って 4 条の櫛描文を巡らせ、側縁と垂直二等分する位置に直線に櫛描文を描く。上縁と側縁に描いた櫛描文の内側に刺突文を巡らせ、内部に円弧文を描いている。裏面から 8 個の貫通孔が穿たれ

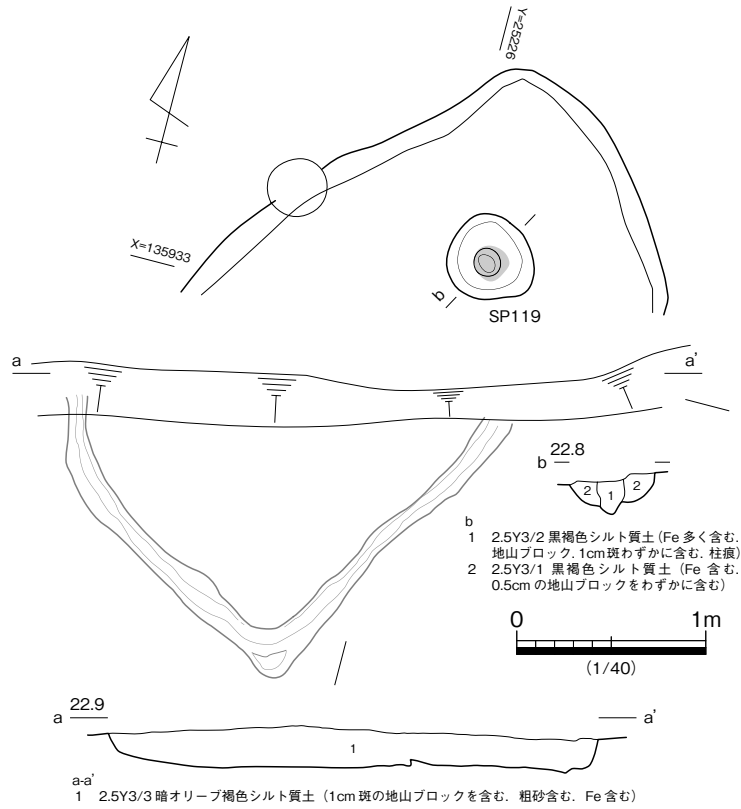


図 229 7-6 区 SX09 平・断面

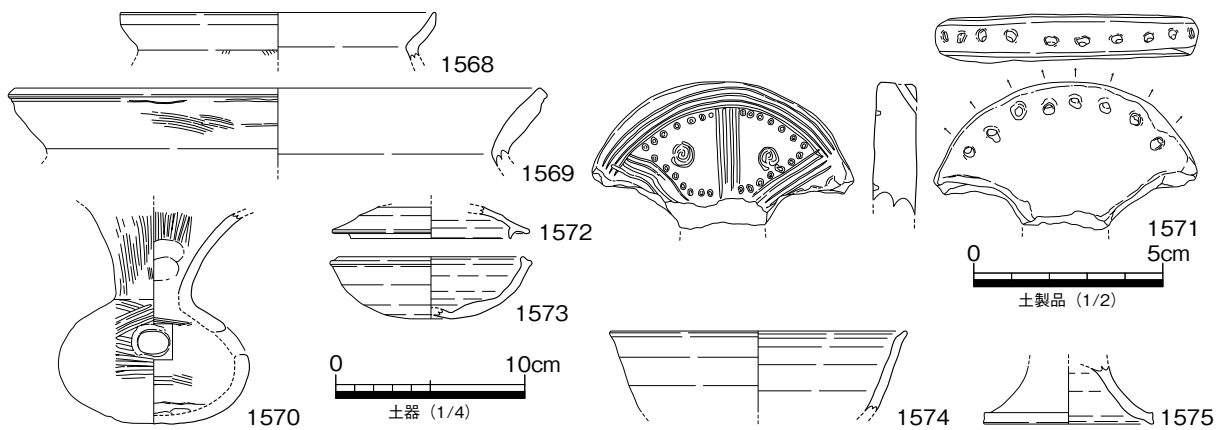
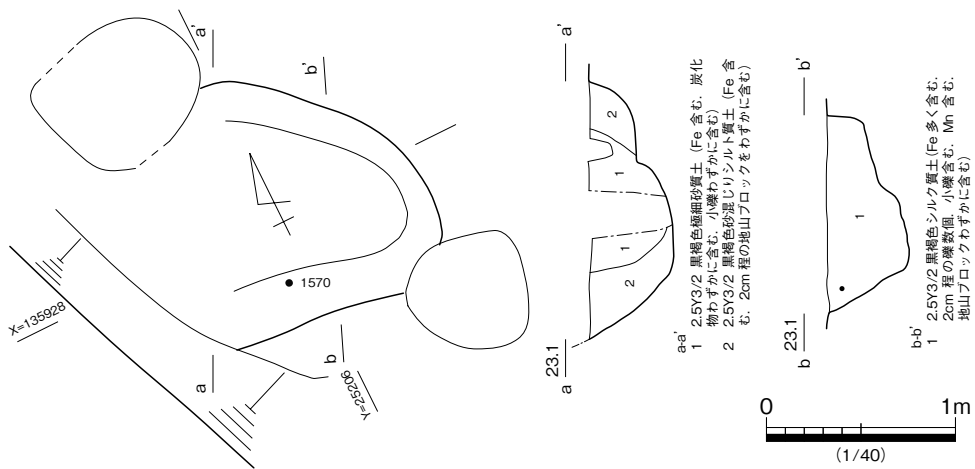


図 230 7-6 区 SX02 平・断面・出土遺物

ている。このほかの須恵器はTK217型式に併行する時期のものと考えられる。7-6区SX02は、7-6区SD02を切る遺構であるが、7-6区SD02に近い時期の遺構と考えられる。

7-6区SX04 (図231)

7-6区調査区東部で検出した凹地である。平面形は長軸1.5、短軸1.1mほどの不整形で、深さ25cm、断面形は椀状を呈する。埋土中に接合不能の土器細片が多く、浮いた状態で古代の土器片、拳大の自然石が出土している。また、埋土には炭化物片や焼土片が少量ではあるが含まれる。

図231の1576は弥生土器の器台もしくは台付鉢の脚部片、1577は土師器高杯の脚端部、1578は土師器甑の底部、1579は土錘である。1580は須恵器蓋、1581～1585は須恵器杯、1586は須恵器壺の底部である。須恵器杯の口端部はすべて丸く収めている。9世紀前半代に属すると考えられる。

7-6区SR01 (図232)

本報告書においては、6-2区、7-1、7-3～5区で報告した旧河道の延長部分にあたる。3層に分層して遺物を採集した。遺物は、細片が散漫に包含する状況であった。7-3～5区の下層は、弥生時代前期の遺物のみを包含していたが、7-6区ではほとんど遺物が出土しなかった。また、中層は弥生時代中期後半の遺物を中心とするものの、弥生時代前期から後期の遺物が出土している。なお、7-6区において堆積層の花粉分析を実施したが、ほとんど花粉が含有されておらず、所期の目的を果たすことができなかった。

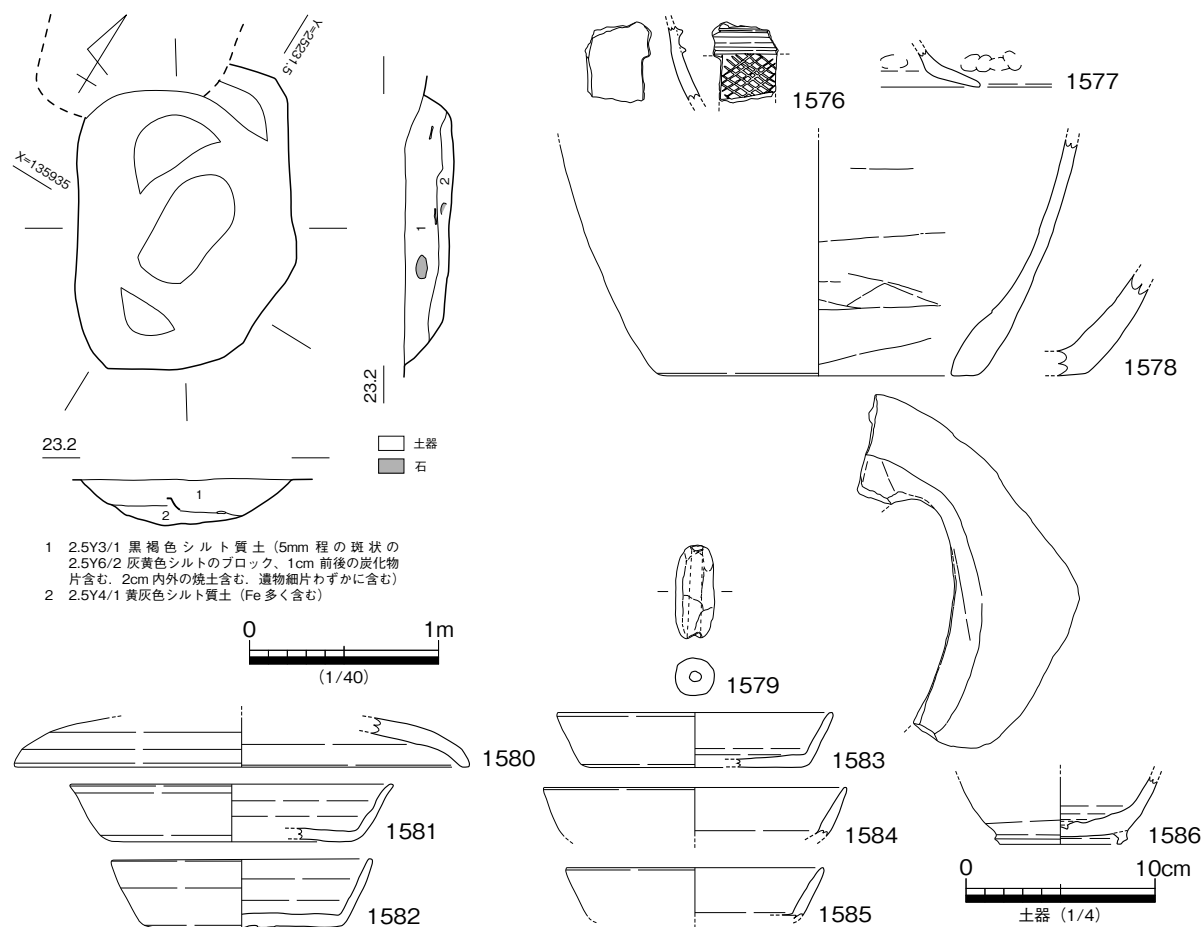


図231 7-6区SX04 平・断面・出土遺物

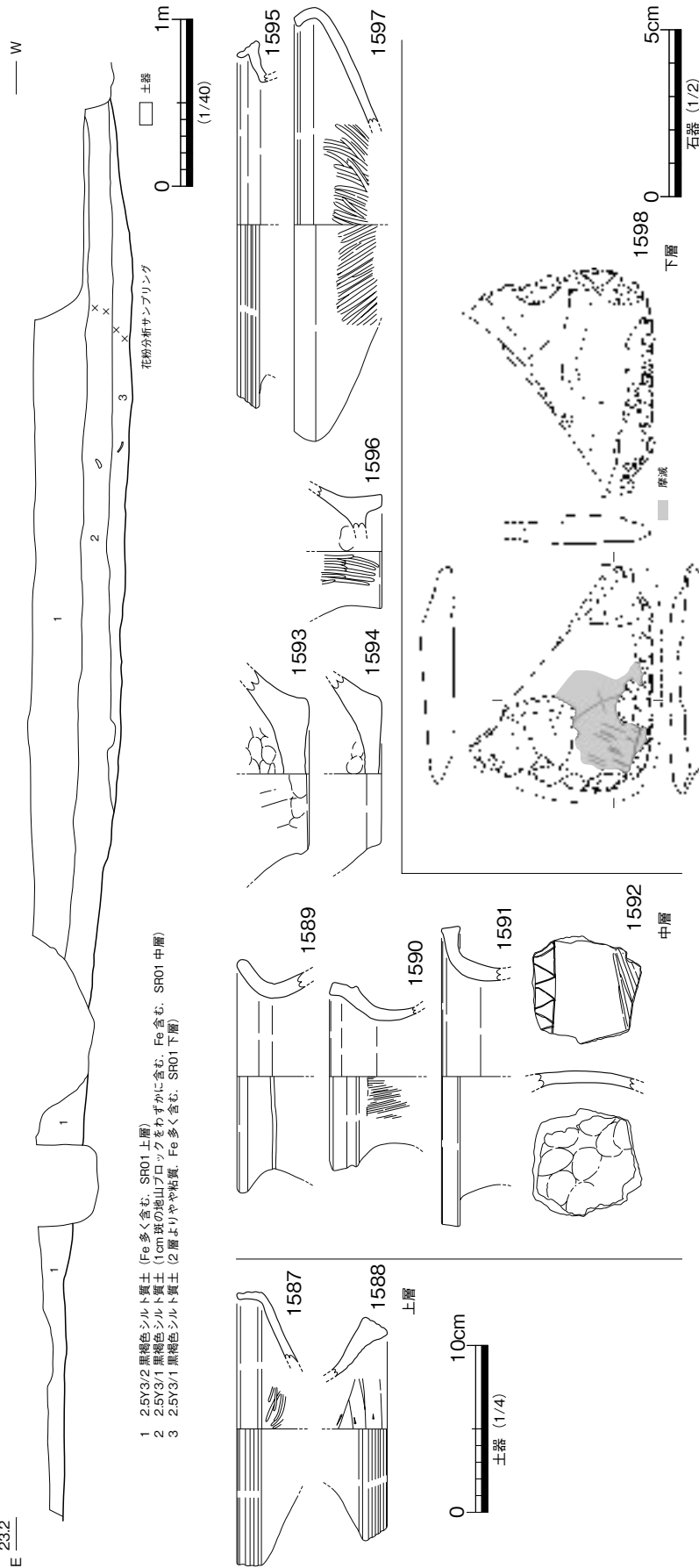


図 232 7-6 区 SR01 断面・出土遺物

かった（花粉分析委託業務の報告は、次年度以降に整理作業を予定している調査区と合わせて行った関係で、『旧練兵場遺跡 VI』に掲載予定である）。

このほか、下層から安山岩（讃岐岩質）打製石斧（1598）が出土した。刃部上部から基部を斜めに欠損する。周辺には潰れがみられ、片面には摩滅がみられる。使用痕であろう。（森下）

7-6 区 遺構に伴わない遺物 (図 233)

1599 は遺構検出作業中に検出した緑釉陶器（軟陶）碗の底部片である。削り出しの円盤状高台で全面に施釉している。9世紀前半のものと考えられる。

石製品としては、磨製石鏃（1600）が出土した。石材は泥岩または粘板岩である。厚さ 0.2cm と薄く、全体が研磨され、表面には線状痕が残る。先端はやや丸みを帯び、基部は凹む（森下）。

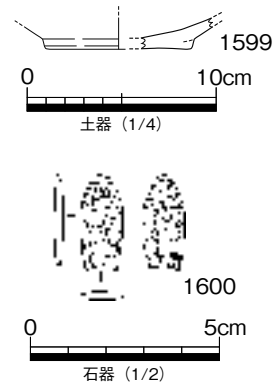


図 233

7-6 区遺構に伴わない遺物

第4章 自然科学的分析

第1節 香川県旧練兵場遺跡出土の弥生時代人骨

中橋孝博

(九州大学院比較社会文化研究院)

はじめに

弥生時代は、文化的にはもちろん、当時の列島住民にも大きな形質上の変化が起きた時代であるが、その人骨資料の出土には強い地域的偏りがみられ、いまだ多くの疑問が残されたままである。特に四国地方は資料的にほとんど空白地域となっており、この地域に居住した弥生時代の人々の特徴はもとより、埋葬習俗などについても未解明の部分が多い。

平成21年度の香川県善通寺市・旧練兵場遺跡における調査によって、新たに1体の弥生時代の人骨資料が出土した。保存状態との関係で、得られた情報はまだ必ずしも十分なものではないが、四国地方における類例の少なさを考えればその資料的価値は高く、今後の研究進展を期して以下に知りえたところを報告する。

資料

人骨出土遺構：SK18

人骨残存部位：頭蓋骨、左右鎖骨、左右上腕骨、右前腕骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右腓骨、肋骨、足根骨？（図参照）

残存の歯式を以下に示す。

		$M^1 M^2$
P_2	$I_2 C$	$M_1 M_2 M_3$

埋葬姿勢：頭位を東にとった仰臥屈葬。

顔面をやや左に傾け、右上肢は体側に沿って肘を進展して手を腰の上辺りに置いている。左上肢も上腕は体側に沿っているが、前腕は検出されておらず、不明。

下肢は、左右とも股関節を進展して膝を強屈し、下腿部を大腿の下に折りたたんでいる。右側の脛骨は大腿骨のほぼ真下に重なって位置し、その外側にこれとほぼ平行して腓骨が位置する。左側の大腿骨下端部は右膝の上に一部重なっているが、左脛骨はこの左大腿骨と膝関節で鋭角をなして右側に開き、ほぼ右大腿骨と平行するかたちでその足を右臀部辺りに位置させている。なお、足根骨とおぼしき骨が膝の更に西方と、下腿中ほどに分散して検出されている。

性別：頭蓋では眉間部の形状は不明ながら乳様突起の発達がやや良好であること、比較的原型をとどめている右上腕骨の最小周（62～64mm）や中央周（67～70mm）がやや大きいこと（北部九州弥生人の男性平均・上腕骨最小周：63.9mm、中央周67.8mm）、また、大腿骨最大長が42cmを超えている模様であることなどから判断して、男性である可能性が考えられる。

年齢：歯、及び歯槽骨の残存状況から、生前の歯牙喪失は比較的少なかったことが窺え、また、左下顎歯列で一部確認できる咬耗の程度から、成年後半から熟年にかけての年齢と見なされる。

推定身長：大腿骨の骨端部が欠落しているため正確な算定はできないが、推定最大長が42～44センチ程度であることから、おそらく160～164センチ程度の身長であったと推測される。

追記事項：形態的特長は不明とするほかないが、埋葬状況について付記しておきたい。全体的に骨の保存状態が悪いために明確な判断は困難だが、左膝関節にやや乱れが認められ（左大腿骨下端と脛骨上端の位置が少し離れている）、左右とも脛骨と腓骨が通常的位置関係より離れて位置している。また、足根骨である可能性のある骨が、強屈した膝のさらに西方や、下腿の中ほどに分離して検出されている。通常、遺体に直接土をかぶせる土坑墓においては、このような骨の位置的ずれが生じる可能性は少ない。しかし例えば木棺など、埋葬後しばらくの期間は遺体周辺に空間が確保されているような状況を想定すると、こうした下肢骨の位置的ずれが生じる可能性、つまり、遺体の軟部組織が腐朽する過程や、その後の浸透水、土砂などによって骨の位置関係が乱されるような状況が生じたと考えられることはある程度可能ではないかと考える。

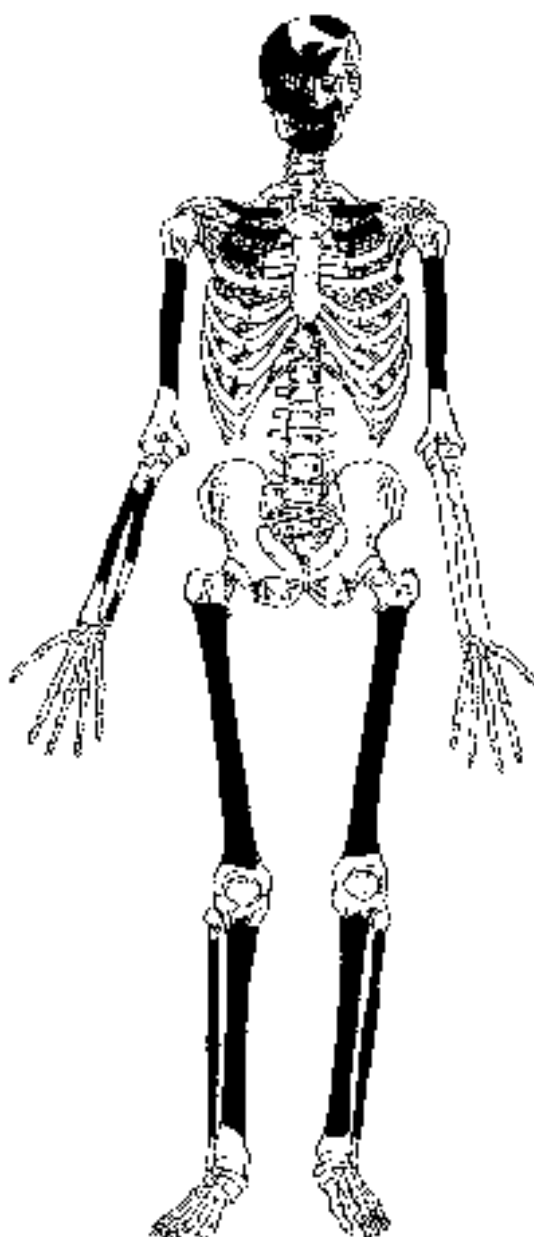


図 234 旧練兵場遺跡出土
弥生人骨の遺存部位

第2節 旧練兵場遺跡から出土した赤色粘土

藤根 久・竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

善通寺市仙遊町に所在する旧練兵場遺跡の調査では、弥生時代中期以降の遺構の基盤層に厚く分布する赤色粘土（層）が検出された。ここでは、この赤色粘土の成因等について蛍光X線分析および珪藻分析を行って検討した。なお、蛍光X線分析は竹原、珪藻分析は藤根が担当した。

2. 試料と方法

分析対象は、弥生時代中期以降の遺構の基盤となっている堆積層中の赤色粘土である（表4）。検討した内容は、蛍光X線分析による元素マッピング分析と珪藻分析である。

表4 検討した粘土資料

分析 No.	調査区	場所	種類	特徴	備考
1	2区	鳥1、断ち割り	赤色粘土	にぶい橙色 (7.5Y6/4) ~ 黄灰色 (2.5Y6/2) シルト質粘土	弥生時代中期以降の遺構の基盤層、NZR6

以下に、各分析について述べる。

a. 元素マッピング分析

元素マッピング分析は、採取された粘土塊をカッターを用いて切断面を作製した。分析装置は、(株)堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type II を使用した。装置の仕様は、X線管が最大 50kV・1mA のロジウムターゲット、X線ビーム径が 100 μ m または 10 μ m、検出器は高純度 Si 検出器 (Xerophy) で、試料ステージを走査させながら測定することにより元素の二次元的な分布画像を得ることができる。

分析は、最初に元素マッピング分析を行い、鉄が高い部分 3カ所と低い部分 2カ所について点分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では 50kV、1.00mA、ビーム径 100 μ m、測定時間 2000s を 5回走査、点分析では 50kV、0.22 ~ 0.38mA (自動設定)、ビーム径 100 μ m、測定時間 500s に設定した。半定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法 (FP法) による装置付属ソフトで算出した。

b. 珪藻分析

試料は、湿潤重量 1g 程度を取り出し、秤量した後ビーカーに移して 30% 過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。反応終了後、水を加え 1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を 7回ほど繰り返した。懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートを顕微鏡下 600 ~ 1000 倍で観察し、珪藻化石について同定・計数した。試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物 1g 当たりの殻数を計算した。なお、珪藻殻が少なかったため、プレパラート全面を観察した。

表5 点分析の分析結果

点No.	対象	Al2O3	SiO2	P2O5	SO3	K2O	CaO	TiO2	MnO2	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	total
a	赤色部	15.54	49.50	3.55	0.18	2.56	1.64	0.53	3.95	22.37	0.04	0.03	0.01	0.09	99.99
b		17.98	66.22	0.05	0.17	3.08	0.98	0.68	0.07	10.65	0.03	0.03	0.01	0.04	99.99
c		15.45	64.65	1.18	0.06	2.50	0.82	0.50	0.54	14.21	0.02	0.03	0.01	0.03	100.00
d	白色部	15.56	74.48	0.14	0.12	2.72	0.86	0.77	0.05	5.23	0.02	0.02	0.01	0.02	100.00
e		12.65	78.01	0.01	0.08	2.65	0.92	0.45	0.03	5.10	0.03	0.02	0.01	0.03	99.99
最小値		12.65	49.50	0.01	0.06	2.50	0.82	0.45	0.03	5.10	0.02	0.02	0.01	0.02	
最大値		17.98	78.01	3.55	0.18	3.08	1.64	0.77	3.95	22.37	0.04	0.03	0.01	0.09	

3. 結果

a. 元素マッピング分析

元素マッピング図では、赤色部に対応して鉄の輝度の高い画像が得られた(図版 50-2)。赤色部の点分析では、酸化鉄(Fe2O3)が最大 22.37%であった。その他の元素では、酸化アルミニウム(Al2O3)

が最大 17.98%、二酸化ケイ素(SiO2)が最大 66.22%、酸化リン(P2O5)が最大 3.55%、酸化カリウム(K2O)が最大 3.08%、酸化カルシウム(CaO)が最大 1.64%、酸化チタン(TiO2)が最大 0.68%、酸化マンガン(MnO)が最大 3.95%などであった(表5)。

一方、白色部では、酸化鉄(Fe2O3)が最大 5.23%であった。その他の元素では、酸化アルミニウム(Al2O3)が最大 15.56%、二酸化ケイ素(SiO2)が最大 78.01%、酸化リン(P2O5)が最大 0.14%、酸化カリウム(K2O)が最大 2.72%、酸化カルシウム(CaO)が最大 0.92%、酸化チタン(TiO2)が最大 0.77%、酸化マンガン(MnO)が最大 0.05%などであった(表5)。

b. 珪藻分析

珪藻分析では、少ないものの淡水種珪藻化石が検出され、水域に生育する珪藻種とジメジメとした陸域に生育する珪藻種であった(表6、図版 50-8~12)。その他の粒子では、石英・長石類あるいは雲母類が多く含まれ、骨針化石や植物珪酸体化石が含まれていた。なお、バブル型の平板状ガラスやY字状ガラス(図版 1-7)の火山ガラスが比較的多く含まれていた。

4. 考察

元素マッピング分析では、赤色部において鉄の輝度の高く、点分析では、酸化鉄(Fe2O3)が最大 22.37%であった。一方、白色部の点分析では、酸化鉄(Fe2O3)が最大 4.23%であった。このことから、赤色部は有意に鉄が高いことが判明した。

断ち割り断面を見ると、赤化した部分は、上部の粘土層と下位の砂質堆積物にかけて層位的に限定して分布することはなく、斑状に厚く分布しているようである。

表6 堆積物中の珪藻化石産出表

表3 堆積物中の珪藻化石産出表(種群は、安藤(1990)による)				
No.	分類群	種群	種群	1
1	<i>Achnanthes</i>	<i>crenulata</i>	W	1
2	<i>Cymbella</i>	<i>spp.</i>	?	2
3	<i>Hantzschia</i>	<i>amphioxys</i>	Q	4
4	<i>Melosira</i>	<i>roeseana</i>	Q	1
4	<i>Synedra</i>	<i>ulna</i>	W	6
	<i>Unknown</i>		?	3
	陸域		Q	5
	広布種		W	7
	淡水不定・不明種		?	2
	その他不明種		?	3
合計				17
完形殻の出現率(%)				1.6
堆積物 1g 当たり殻数(個)				4.6E+04

こうした赤化した粘土は、一般的に堆積物の粒度が変わる境界部分に地下水中の鉄分が濃集することがあり、極端な場合には板状の鉄の塊として産出することがある。また、同様の生成物として高師小僧が知られており、土層中の鉄分が植物体と交代して固結した管状・樹枝状の褐鉄鉱の団塊である（地学団体研究会・新版地学事典編集委員会，2003）。

なお、東海地域の尾張丘陵では、鮮新世の東海層群矢田川累層の砂・シルト互層では、著しい風化を受けて赤褐色を呈する（坂本ほか，1986）。また、熱田台地の上部では、赤味の強くコントラストの高い霜降り状の粘土層が見られることもある。

土壌が熱を受けて赤化した場合には、炭化物を伴い固結した赤色部である場合において認定される。分析した赤色粘土は、炭化物を伴わない斑状に厚く分布していたことから、地下水中の鉄分の濃集など、何らかの理由により粘土層に鉄分が濃集して赤化したものと考えられる。

遺跡周辺では、沖積低地、花崗岩類などの領家変成岩類が分布し、一部に山地の周りに崖錐や段丘堆積物が分布する（図 235）。遺跡は、沖積低地とされる部分に成立するが、更新世あるいは完新世の段丘堆積物が埋没している可能性がある。

珪藻分析プレパラートの観察では、粘土試料中に水域に生育する淡水種やジメジメとした陸域に生育する珪藻種が検出されたことから、この粘土はジメジメとした陸域～水域で堆積したものと推定される。なお、この粘土が堆積した時期については、火山ガラスがある程度含まれていたことから、テフラの同定を行い、総合的に検討する必要がある。

5. おわりに

赤色粘土について、蛍光X線分析による元素マッピング分析と珪藻分析を行った。

その結果、元素マッピング分析では、赤色部において鉄の輝度の高く、点分析においても酸化鉄が高く検出された。赤色粘土は、炭化物を伴わず斑状に厚く分布していたことから、地下水中の鉄分の濃集など、何らかの理由により粘土層に鉄分が濃集して赤化したものと考えられる。

なお、珪藻分析では、この粘土がジメジメとした陸域～水域で堆積したものと推定された。

参考・引用文献

地学団体研究会・新版地学事典編集委員会（2003）新版 地学事典．平凡社，1443p.

町田 洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会．336p.

日本の地質『四国地方』編集委員会（1991）日本の地質 8「四国地方」．共立出版．266p.

坂本 亨・高田康秀・桑原 徹・糸魚川淳二（1986）名古屋南部地域の地質．地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，55p.

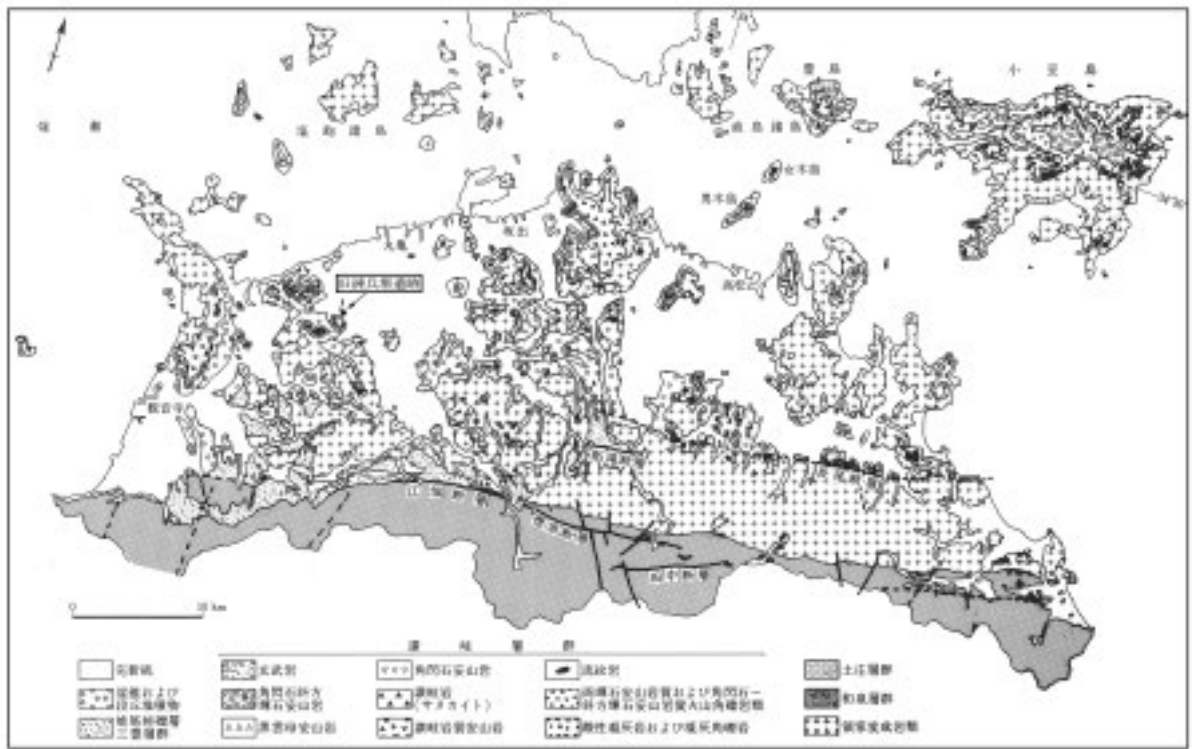


図 235 遺跡周辺の地質図

第5章 まとめ

第1節 遺構の変遷

弥生時代前期

最下層に弥生時代前期の土器を包含する旧河道が7-6区から7-4区を北上し、西に流路を変えて、7-5、7-3区を東南から北西方向に横切る。この旧河道は、『旧練兵場遺跡Ⅱ』調査区の南端で屈曲し、次年度以降に整理予定の7-10区を南下している。また、7-6区以南の流路が『旧練兵場遺跡Ⅲ』で報告されているが、7-6区以南では、『旧練兵場遺跡Ⅲ』調査区の南端から蛇行しながら、調査区西側を北流し、北東方向に方向を変えて7-6区に接続している。この調査区西側を流れる部分で、西岸の一部が6-2区にかかるほか、7-1区の東端をかすめている。6-2区では6-2区SH06内落ち込みとして調査した部分に当たる。なお、この旧河道は、平面形状は蛇曲の著しい形態であるが、きわめて緩やかな断面形を呈し、細粒堆積物で埋没している。全体にわたって観察したわけではないが、7-1区では最下層に人為的に掘り込まれた溝状遺構があることから、自然現象で蛇曲したのではなく、地表面の微起伏に合わせて、凹地を人為的に掘りつないだものである可能性が考えられる。また、最下層は弥生時代前期の遺物の純粹層と把握されるが、それ以上は遺構埋土と旧河道埋土との判別が難しく、埋没年代や埋没要因を確定することは難しい。さらに、プラントオパールや花粉などの微化石の遺存状況も良好でない。

弥生時代中期後半

7-1区、7-4区、7-5区で掘立柱建物が検出されている。また、6-1区では墓が見つまっている。

既往調査区の所見と合わせて巨視的に観察すると、当該期の掘立柱建物は想定される微高地の頂部を中心に建てられる傾向が見られる。この視点からすると、墓が検出された箇所は西に向かって下る微高地の斜面にあたる可能性がある。墓が検出された6-1区では、調査終了後に遺構面を10～20cmほど掘り下げて、下層遺構の有無の確認作業を行っており、弥生時代中期後半の遺構の有無を慎重に判断した経緯があるが、当該期の遺構はほとんど確認されなかった。このことから墓の近辺において掘立柱建物が数棟建っているような状況は想定しにくい。建物が建つ範囲の外郭を示すような遺構が確認されていないため、居住域と墓域といった区分を設けることはできないが、遺構分布の現状からみると居住域をはずれた地点に墓が設けられていると考えられる。

弥生時代後期から古墳時代前期

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は、調査区全体において散在するような状況で検出されている。既往調査区の成果と照合することにより、群構成の把握や変遷を把握し得る可能性があるが、次年度以降に整理作業が行われる調査区の知見が明らかになった時点で検討を加えることとしたい。

古墳時代後期

既往の調査成果から、古墳時代後期の遺構は『旧練兵場遺跡Ⅲ』調査区の南半分に集中する傾向が見られる。本報告の調査区においては、6-1区から6-2区南半および7-1区において古墳時代後期の竪穴住居が検出されているが、これらは『旧練兵場遺跡Ⅲ』の古墳時代後期の遺構群の西延長に当たるものと考えられる。

古代

古代の遺構には、竪穴住居跡、掘立柱建物、溝状遺構、土坑などがある。溝状遺構の多くは周辺に拡

がる条里型地割の坪界線に相当する位置に掘削されたもので、6-2区と7-1区で検出された溝状遺構は、1条の溝として連続せずに、途切れ途切れになるものであった。これは、通水するのではなく土地を区画する目的で掘られたものと考えられる。なお、7-3区で検出された7-3区SD02は真北方向に合致させるような流路をとることが注意される。県内の遺跡では建物や溝の方向が真北方向を指向するようになり、のちに、その地域固有の条里地割の方向を指向するようになる傾向があり、7-3区SD02は条里施工以前の遺構である可能性がある。

7-6区の西半で検出された掘立柱建物は、条里型地割の方向に合致させて建てられており、複数の建物が桁行を揃えるように配置されている。この南側の『旧練兵場遺跡Ⅲ』の北半でも当該期の掘立柱建物が数多く検出され、また、7-6区西北の7-7、10、11区でも古代の掘立柱建物が複数棟検出されている。次年度以降の整理作業が進めば、これらの建物群の性格の検討を深めることができるであろう。

中世

中世の遺構は、条里型地割の坪界線に合致する位置の溝状遺構のほか、若干の柱穴、土坑が検出されている。柱穴は検出数が少なく建物を復原できるような配置のものは見られない。

第2節 旧練兵場遺跡周辺の微地形について

旧練兵場遺跡は、なぜ、その場所で繁栄したのか。このことを検討するためには、遺跡周辺の微地形分類を行い、遺跡が存続した時代の地形環境を復原する視点が必要と思われる。

遺跡周辺は、明治時代後半に帝国陸軍の師団が置かれた関係で、区画整理を伴う土地改変が進行し、現状の地表面の微起伏の把握が困難となっている。歴史地理学者である金田章裕氏は、中世における善通寺の寺領の範囲や土地利用の実態を考察するにあたり、国土基本図（5000分の1、昭和44年）から等高線と水路網を抜き出して、微高地を抽出し、久安元年（1145）の寺領注進状の記載を図版52のように整理して、「金倉川の緩やかな扇状地上に位置する同寺領は、東南から北西へと伸びる紡錘形の微高地上に主として畠が集中し、その周辺のやや低くて、相対的に水がかりの良い部分には田が多かった。また、善通寺の敷地そのものも、この微高地の中央部付近を占めていたことになる（後略）」と評価した（註1）。

現在、旧練兵場遺跡として把握されている遺跡の範囲の西半が、上記の紡錘形の微高地の西北部に当たっている。また、この微高地の東側に沿う範囲には、空中写真の暗色帯から2条の旧河道の存在が推定され、西側の推定位置の一部からは旧河道（古代に埋没）が検出されている（『旧練兵場遺跡Ⅰ』）。このことから、遺跡周辺のより詳細な標高データなどを用いて、検討を試みる。

金田氏が指摘した微高地は、国土基本図に示されるデータのみからは抽出することは不可能であり、ほかのデータが存在したはずであるが、著書には示されていない。そこで、最初に国土地理院が公表している5mメッシュの標高データ（基盤地図情報）を示す（カシミール3Dより作成。図版51）。50cmコンターの等高線のパターンを観察すると、遺跡東南側は等高線が扇状に配列し、扇状地としての特徴を示しており、遺跡付近が扇端に当たっていることが判明する。扇端部は尾根状の高まりと微凹地が見られ、金田氏が指摘した微高地は尾根状の高まりと合致する。ただし、善通寺敷地付近は扇状地扇端に当たり、等高線からは微高地であることが読み取れない。また、先述の旧河道に相当する部分も等高線の凹地として把握でき、その東側（旧練兵場遺跡の東半）も微高地であることが読み取れる。

つぎに、明治時代前期に作成された地籍図に記される地目と地位等級を色分けした図を取り上げる

① 弥生前期～

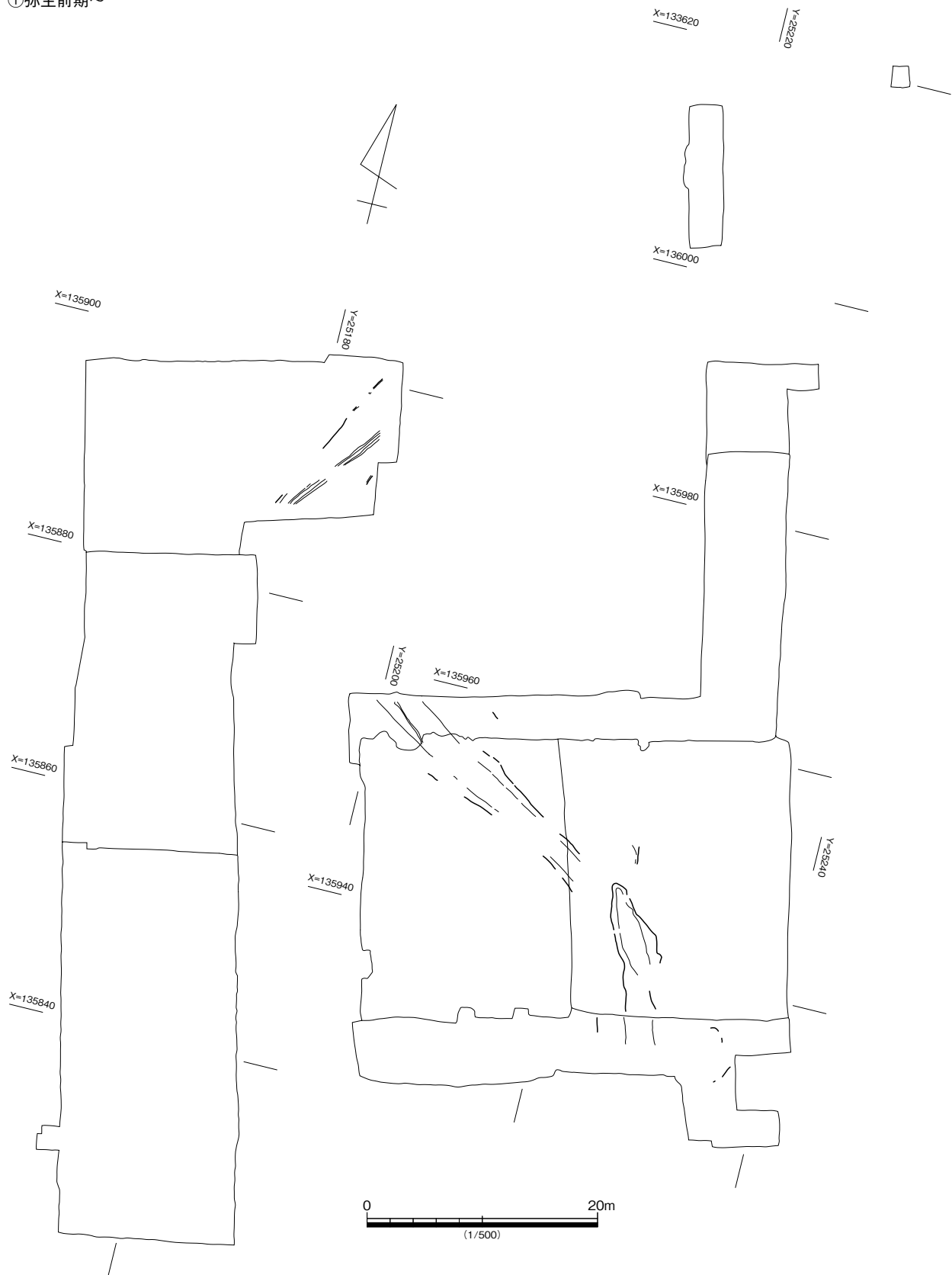


図 236 遺構変遷図 (弥生前期)

② 弥生中期後半



図 237 遺構変遷図 (弥生中期後半)

③ 弥生後期

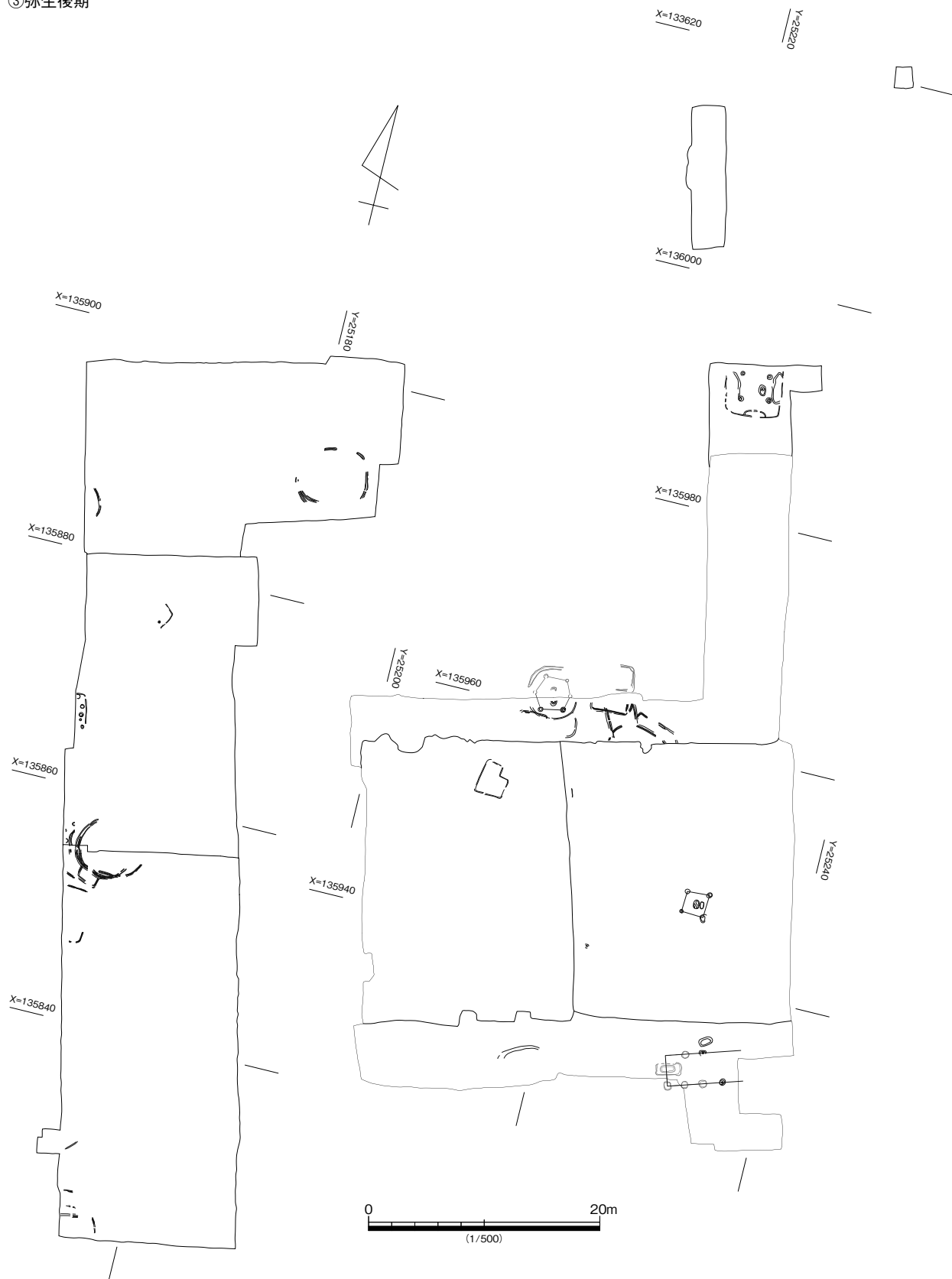


図 238 遺構変遷図 (弥生後期)

④ 弥生終末期～古墳前期

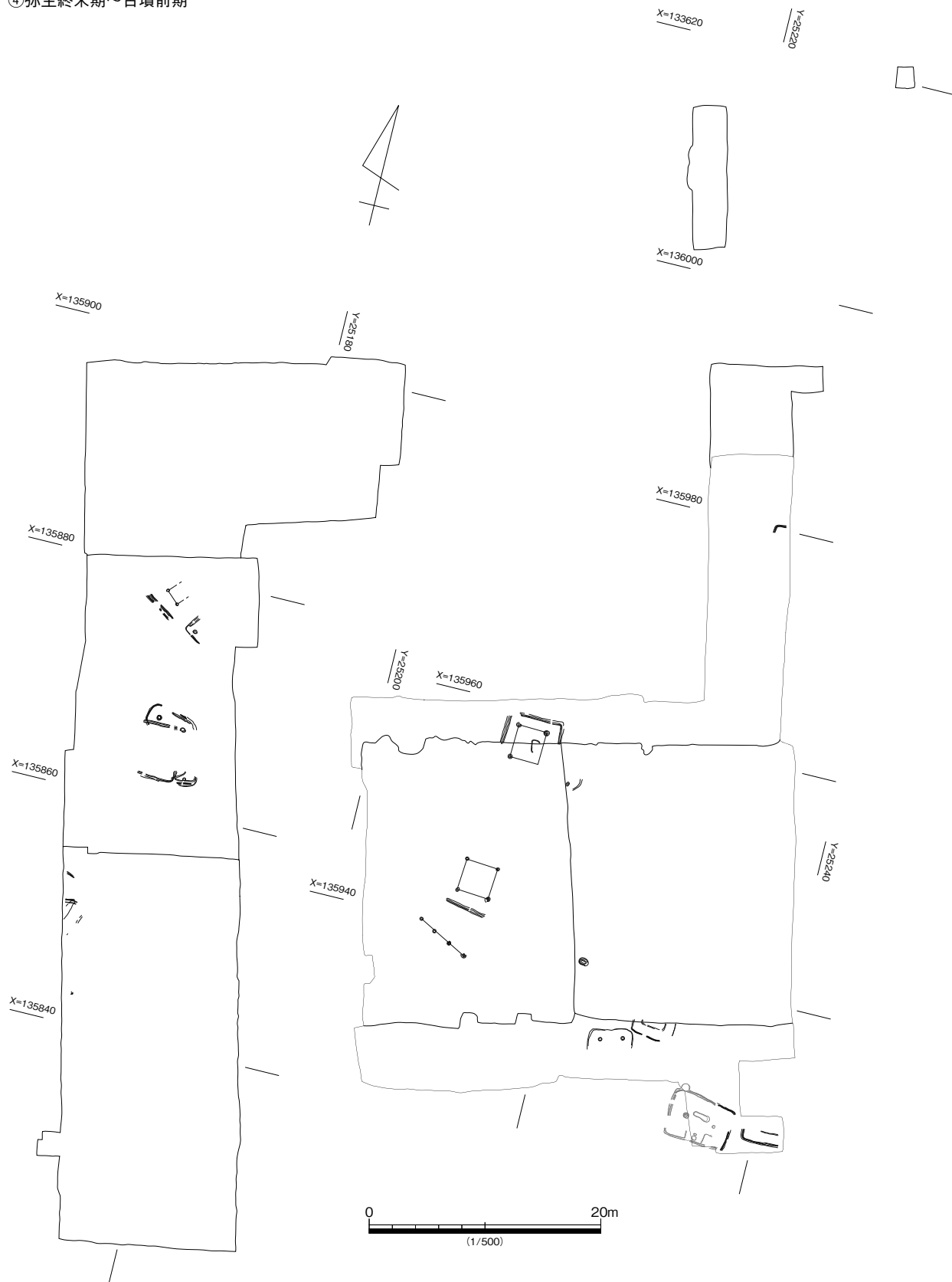


図 239 遺構変遷図 (弥生終末期～古墳前期)

⑤古墳後期

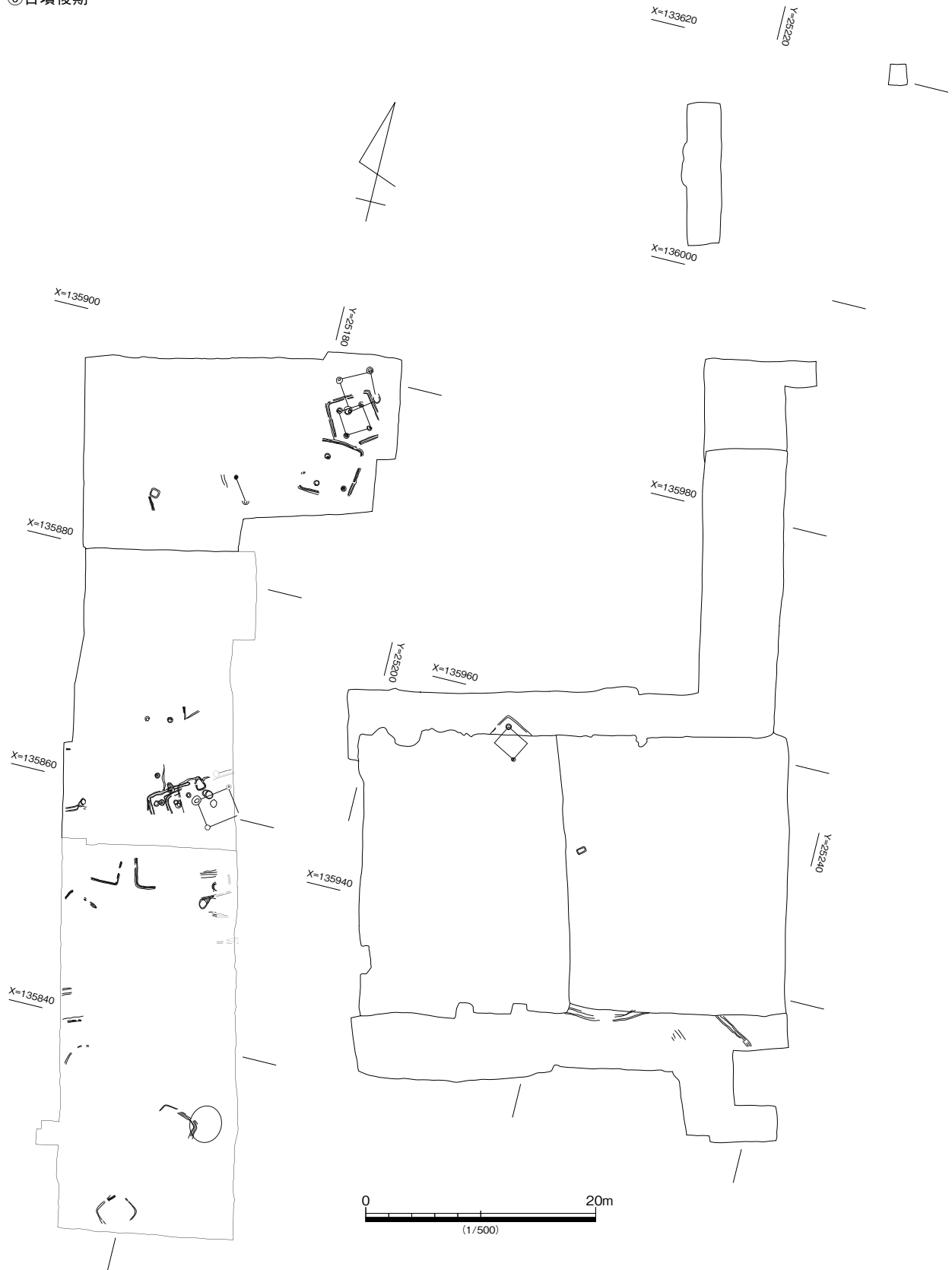


図 240 遺構変遷図 (古墳後期)

⑥古代

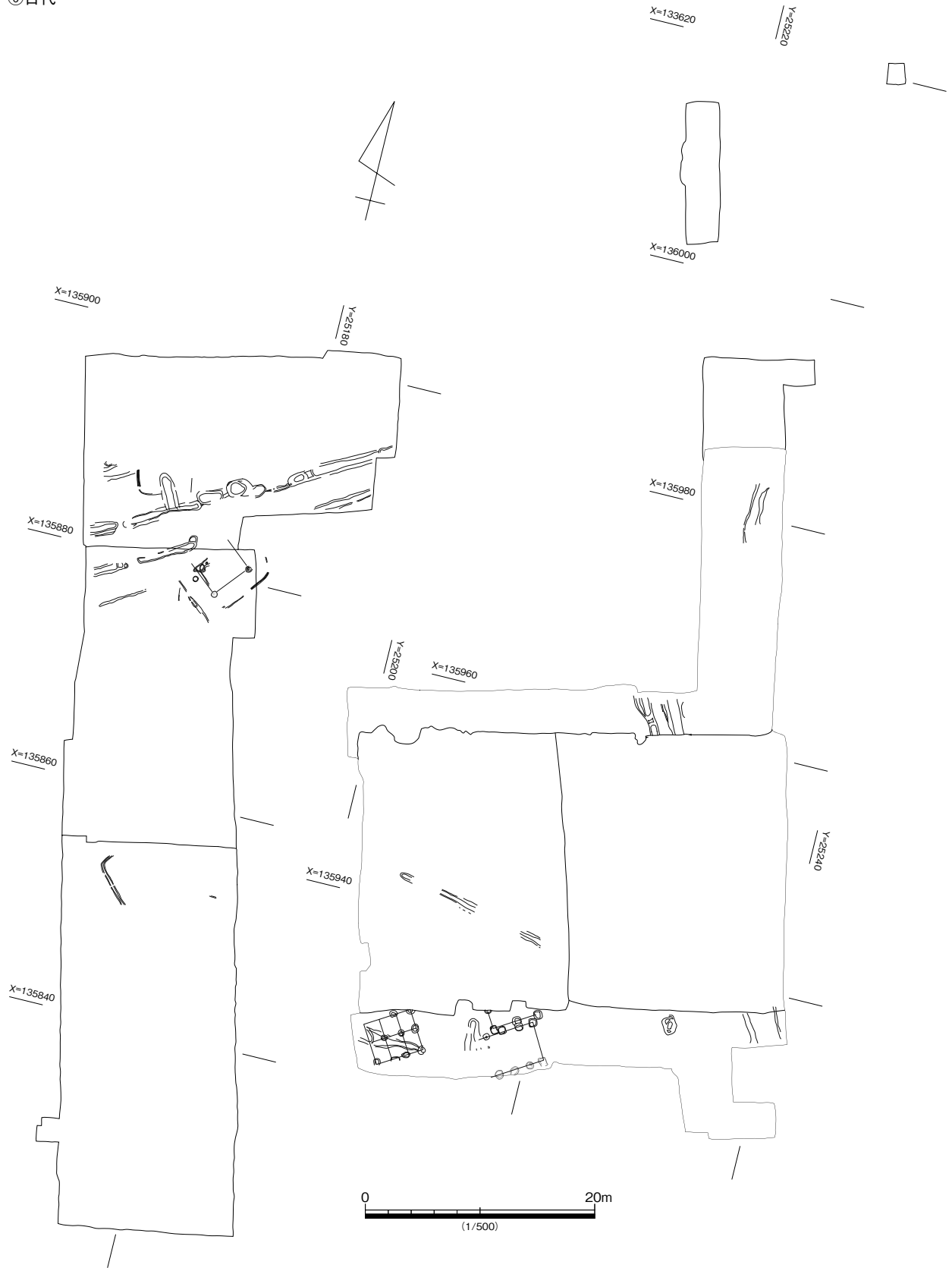


図 241 遺構変遷図 (古代)

⑦ 中世

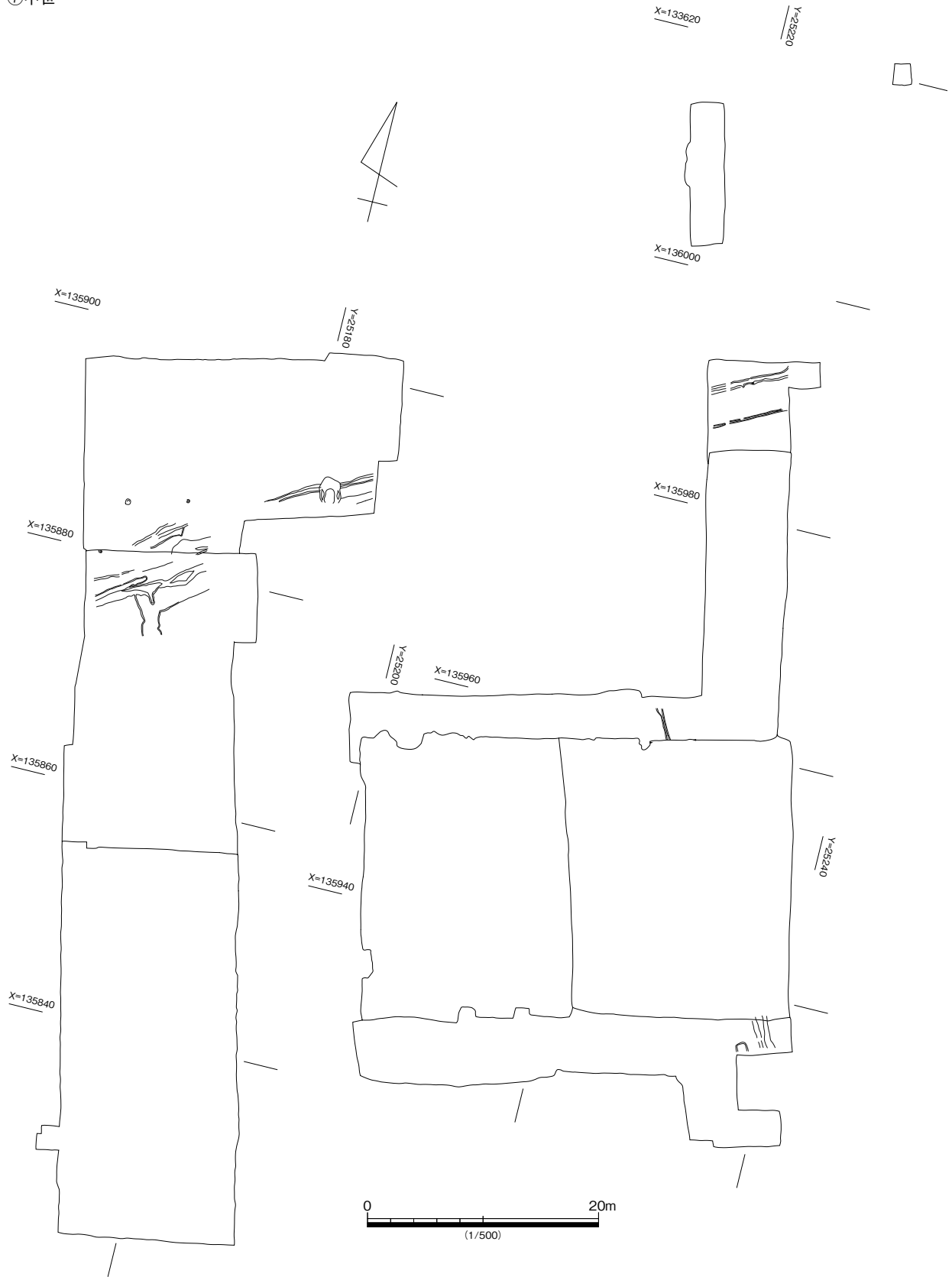


图 242 遺構変遷図 (中世)

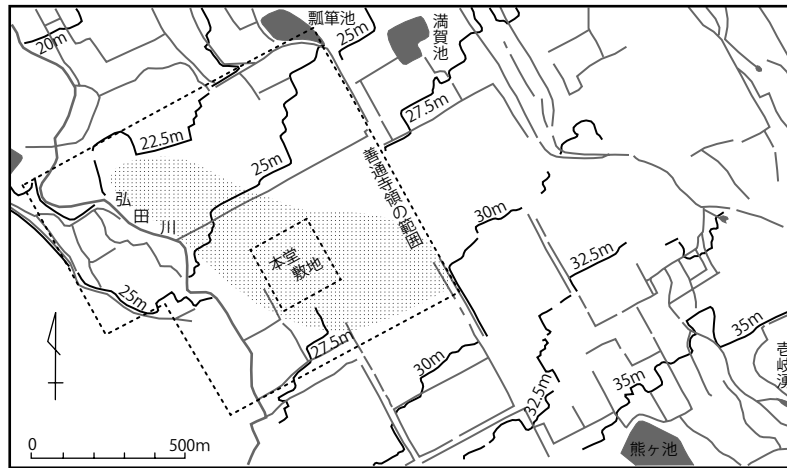


図 243 善通寺周辺の微高地（金田章裕氏による）

（註 2）。時代が遡るほど、土地利用と微地形とは密接な関連を有しており、微地形に起因する土地の保水状態の差が上田とか下田といった地位等級の差に反映している可能性がある。このことから、水田とか畑といった地目、上中下などの地位等級を色分けした図が図版 52 である。データは明治時代初めの壬申地券地引絵図による。

旧練兵場遺跡が所在する地域は、近世には長く丸亀京極藩の領地であったが、丸亀京極藩の土地把握は厳密ではなかったようで、壬申地券地引絵図作成時に多くの隠田が発覚している。また、村境で大きく地位等級が変わる事例が多く、村（もしくは免）によって年貢総額が決まっており、これを割り振った結果か、もしくは村によって水利条件が異なっていた可能性があり、少なくとも微地形を反映していないと考えられる。つまり、この地域における地目・地位等級図は、微地形を敏感に反映するものではなく、大雑把に地形を把握できるといった程度のもと考えられる。

地目・地位等級図を見ると、善通寺の敷地周辺には上々畑や上畑が分布している。近世には屋敷地は上畑並みの年貢がかけられていたことから、これらは屋敷を示すと考えられる。その周囲には上々田、上田がひろがり、その縁辺に中田がひろがっていることが読み取れる。香川県内において地目・地位等級の分析を行った地域では、上々田や上田が旧中州や自然堤防などの微高地に、下田、下々田が旧河道に該当する場合が多く、このことを前提とすると、金田氏によって抽出された微高地は、屋敷地として選地される明瞭な微高地であり、その東側の旧河道は 2 条あるうちの東側のものは地位等級を反映していると考えられるものの、西側の旧河道は地位等級には現れていない。さらに、その東側も上田のひろがりから微高地として把握することができる。

最後に、遺跡の調査成果から見ると、『旧練兵場遺跡Ⅱ』図 18 は、既往調査における土層断面図を編集して旧河道の変遷を示すものであるが、金田氏が抽出する微高地を西南から東北方向に横断するものとなっており、明瞭に微高地の存在を把握できる。つまり、旧練兵場遺跡は、狭義の扇状地の扇端付近において中央付近に旧河道を介在する微高地に位置すると表現できる。

（註 1） 金田章裕「讃岐国善通寺領の土地利用と境域」（浮田典良編『日本の農山漁村とその変容』大明堂、1989 年、のちに金田章裕『微地形と中世村落』吉川弘文館、1992 年に所収。）

（註 2） 木下晴一「善通寺□□絵図の再検討」（『条里制・古代都市研究』第 27 号、2013 年）

第3節 弥生時代中期後半の掘立柱建物の平面プラン

旧練兵場遺跡からは、大型の掘り方をもつ弥生時代中期後半の掘立柱建物が多数検出されている。これらのなかには、図244の『旧練兵場遺跡Ⅱ』SB26のように、梁行1間×桁行2間の平面形で、梁行の長さを2倍にしたものが桁行の長さになっている建物がある。このような平面形で同形同大の建物は数多く見つかっていて、何らかの基準に基づいて建物を建築していたことが予想される。この基準を検討するために、従来は柱間寸法に着目することが多かった。時代は遙かに下るが、古代豪族居宅の分析を行った山中敏史氏は、居宅の身舎の桁行の柱間寸法を分析し、完数尺を基準として建築されたものは約3割で、残る7割は非完数尺という結果を得ている(1)。つまり、古代豪族居宅は、身舎桁行の柱間寸法からは基準が見出せるものと見出せないものがあることになる。

旧練兵場遺跡の弥生時代中期後半の掘立柱建物には、平面形が同形同大で、桁行の間数が異なる建物が存在する。図244の『旧練兵場遺跡Ⅱ』SB13と先述のSB26がそれに該当するが、『旧練兵場遺跡Ⅱ』SB13は、梁行の2倍の長さの桁行を3分割して柱を配置していると読み取ることができる。つまり、桁行の柱間寸法は建物を建てる基準ではなく、梁行の寸法を基準にし、梁行の何倍（SB13の場合は2倍）かの長さを桁行とし、その長さを分割して柱を配置しているのではないかと観察するのである。

上記の想定を検討するために、幾通りかの寸法によるメッシュをつくり、それを掘立柱建物の平面図に重ねることによって、梁行と桁行の関係、柱配置との関係を見た。メッシュの寸法は、当初はこの分析を古代の掘立柱建物で行っていた関係で、30cmを単位とし、その2倍の60cm、以下、75、90、105、120、135、150、180、210、240、270cmのメッシュによって検討した。

検討の結果、旧練兵場遺跡で検出された弥生時代中期後半の掘立柱建物は、桁行が梁行の2倍または、3倍になるもののほか、梁行2×桁行3、梁行2×桁行5など、梁行の寸法の何倍かの長さを桁行の長さとしている可能性が高いことが判明した。可能性が高いとしているのは、径数十cmの柱穴の配列を検討するのに、15～30cm単位のメッシュをかけることが妥当なのかどうか、また、検討には100分の1の縮尺を使用したがるのではないかとといった方法上の疑念があるため、将来的に再検討の必要を感じているためである。しかし、上記の検討の結果、旧練兵場遺跡の弥生時代中期後半の掘立柱建物は、次の3つの類型に大別できる。

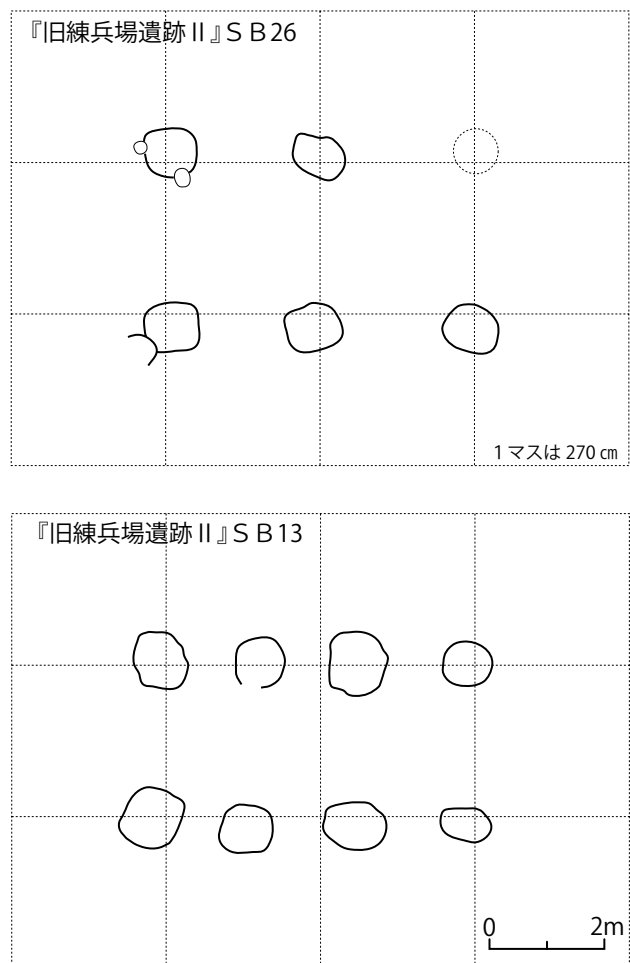


図244 『旧練兵場遺跡Ⅱ』SB13、26平面図

類型	規模	該当する建物
A 類 型	7 × 2 1	7 - 4 区 SB02
	8 × 1 6	7 - 1 区 SB01 7 - 1 区 SB03
		7 - 1 区 SB05 7 - 5 区 SB01
		旧練Ⅱ SB22 旧練Ⅲ H 区 SB1004 旧練ⅢⅡ - 2 区 SB2004
		旧練ⅢⅡ - 4 区 SB4003
	8 × 2 4	旧練ⅢⅡ - 1 区 SB1005
	9 × 1 8	旧練Ⅱ SB03 旧練Ⅱ SB15 旧練Ⅱ SB26 旧練Ⅲ M 区 SB6003
		旧練Ⅲ S 区 SB1108
	9 × 2 7	旧練Ⅱ SB16
	1 0 × 2 0	旧練Ⅱ SB07 旧練Ⅱ SB25 旧練Ⅲ O 区 SB8001
旧練ⅢⅡ - 1 区 SB1002 旧練ⅢⅡ - 4 区 SB4011		
1 0 × 3 0	旧練Ⅱ SB12	
B 類 型	8 × 4 0	旧練Ⅱ SB10
	9 × 1 3 . 5	旧練Ⅱ SB17 旧練Ⅱ SB18 旧練Ⅱ SB19 旧練Ⅱ SB20
		旧練ⅢⅡ - 1 区 SB1006
	9 × 1 8	旧練Ⅱ SB13
	9 × 2 1	旧練Ⅱ SB06 旧練ⅢⅠ - 4 区 SB4002
	9 × 2 2 . 5	旧練Ⅱ SB08
	9 × 2 7	旧練ⅡⅠ - 2 区 SB2002 旧練ⅢⅠ - 2 区 SB2003
	1 0 × 1 2 . 5	旧練ⅢⅡ - 4 区 SB4010
	1 0 × 1 5	7 - 4 区 SB03 旧練Ⅱ SB11 旧練Ⅱ SB28
		旧練Ⅲ H 区 SB1008
	1 0 × 2 2 . 5	旧練Ⅱ SB09
	1 0 × 2 5	7 - 4 区 SB01 旧練Ⅱ SB04 旧練ⅢⅡ - 1 区 SB1001
	1 2 × 1 6	旧練Ⅱ SB21
	1 2 × 1 8	旧練Ⅲ S 区 SB1109
1 2 × 2 4	旧練Ⅱ SB14	
1 2 × 2 8	旧練ⅢⅠ - 4 区 SB4003	
C 類 型	9 × 9	7 - 4 区 SB04
	9 × 1 2	7 - 4 区 SB05
	1 0 × 1 2 . 5	旧練Ⅱ SB24
	1 0 × 1 5	旧練Ⅲ M 区 SB6006
	1 0 . 5 × 1 4	旧練Ⅲ H 区 SB1009
	1 2 × 1 6	旧練Ⅲ S 区 SB1110
	1 2 × 2 0	旧練ⅢⅡ - 1 区 SB1004
1 4 × 2 1	旧練ⅢⅠ - 2 区 SB2001	

表7 旧練兵場遺跡検出の弥生中期後半の掘立柱建物

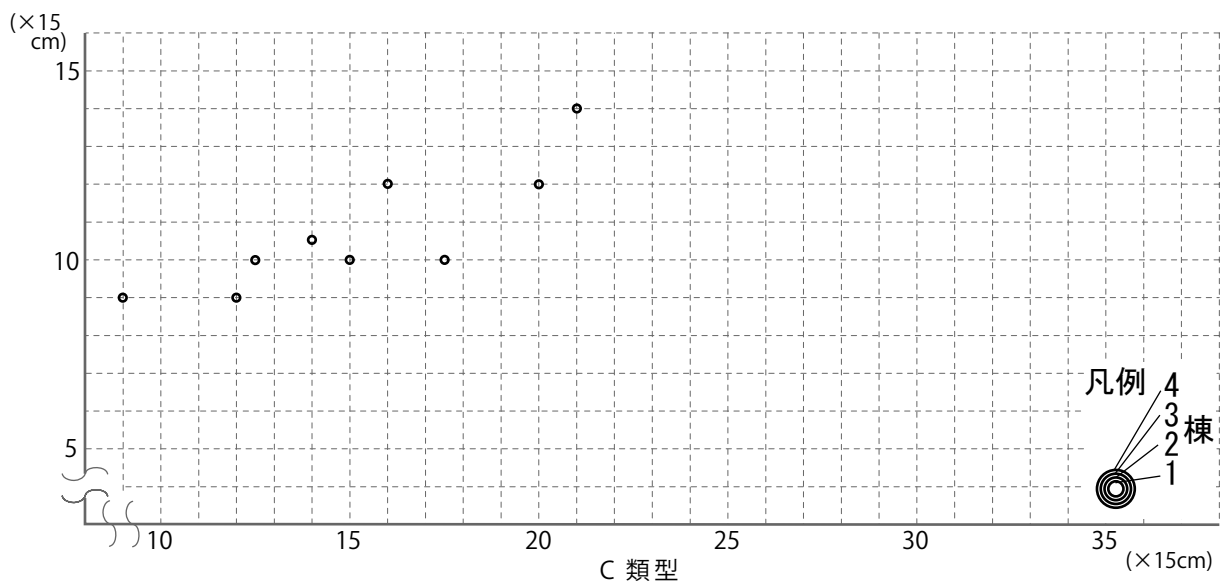
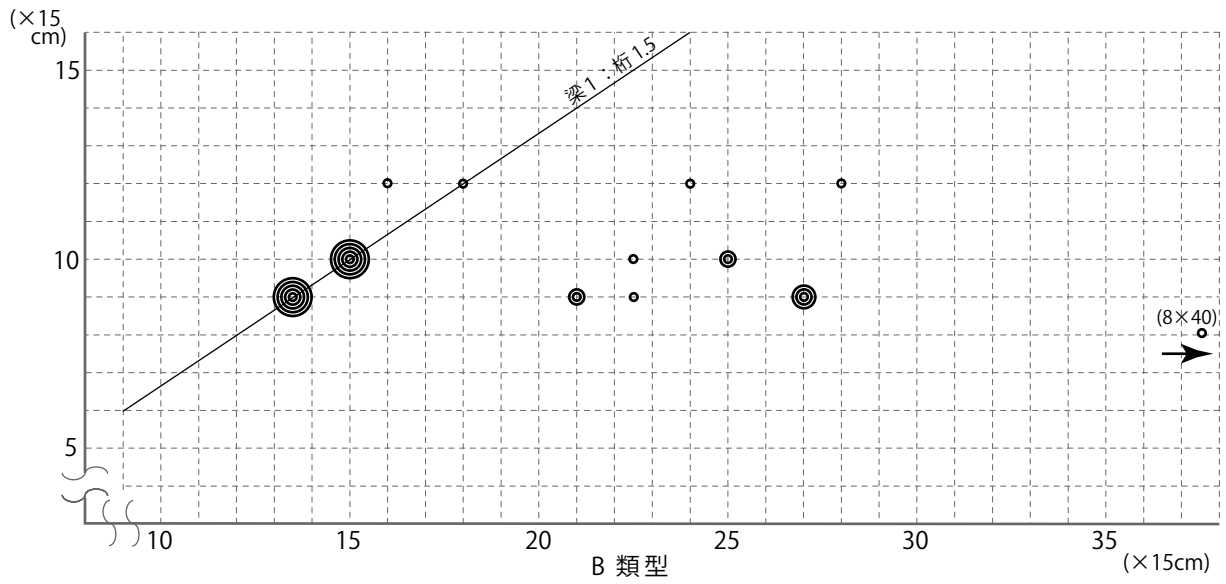
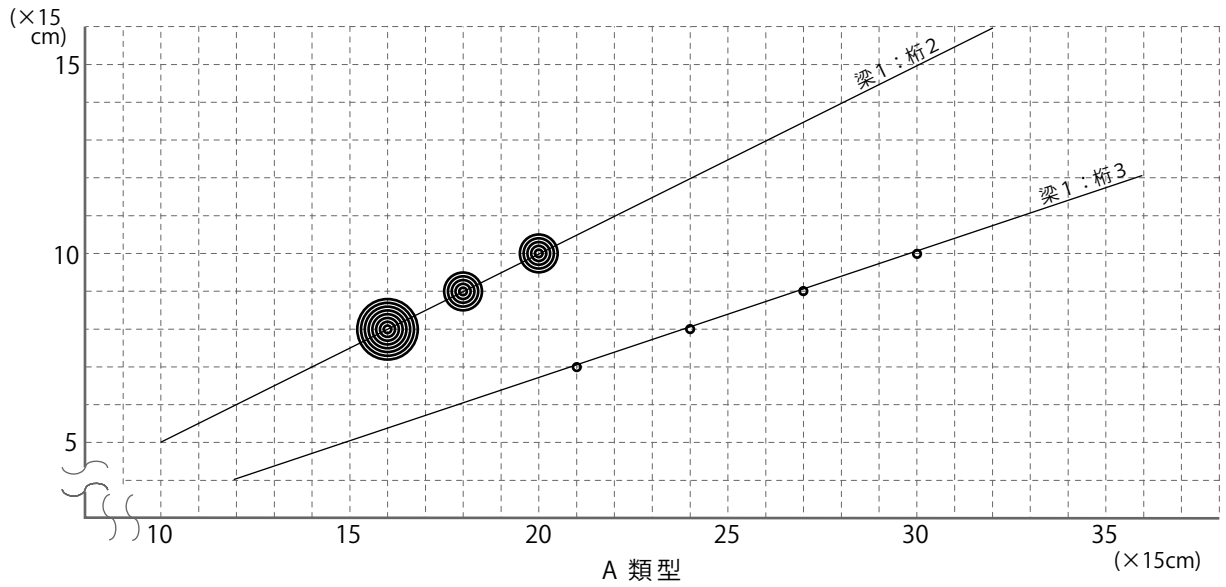


図 245 旧練兵場遺跡 弥生中期後半の掘立柱建物の梁と桁長

A類とするのは、梁行と桁行の柱間寸法が同じになる建物である。B類は、梁行の長さを基準に、その何倍かの長さの桁行を設定したうえで、桁行を何等分かして柱を据える建物である。この場合、桁行の寸法は梁行の寸法より短くなっている。C類とするのは梁行1間×桁行1間の建物である。

次に、上の分類に基づいて、縦軸に梁行の寸法、横軸に桁行の寸法をとって建物の大きさを表すドット図を作成した。この結果、ドットを落とした46棟のうち、14棟が梁1に対して桁2の長さとなるA類の建物、8棟が梁1に対し桁1.5の長さのB類の建物になるなど、建物の大きさに規格が見られることがわかる。

以上の推定が妥当であるとする、梁行の長さが建物を建築する際の基準となることになる。建物建築の基準については、藤田富士夫氏の北陸地方の縄文時代建物、岩田重雄氏の東アジアにおける研究が知られる(2)。ここでは、柱痕の検出されている梁行の長さを分析したところ、ばらつきがあり、基準の有無を検討するには資料数を増やす必要がある。他遺跡の当該期建物例などの分析を進め、平面プラン関する妥当性を検証するとともに、資料数の蓄積を図る必要があろう。

最後に、上記の建物分類や建物規模の違いと建物分布との間の相関関係の有無についても検討したが、顕著な関係は認められなかった。なお、上記方法による掘立柱建物の分析は古代の掘立柱建物についても有効と思われ、検討を進めている。

註

(1) 山中敏史「地方豪族居宅の建物構造と空間構成」奈良国立文化財研究所『古代豪族居宅の構造と機能』2007年など。

(2) 藤田富士夫「雪国の大型建築に三十五センチの「物差し」」『アサヒグラフ別冊 三内丸山遺跡と北の縄文世界』1997年
岩田重雄「東アジアの尺度について」統計数理研究所『考古学における計量分析V』1995年

表8 土器観察表

観文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量			残存率	備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)			その他
1	6-1区	SH23SP113		弥生土器	甕底部	ナデ	ヘラ削り	10YR5/2 灰黄褐	5YR6/6 橙	中・多	中・多				—	—	(5.6)	—	2/8	
2	6-1区	SH23SP113		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	5YR6/6 橙	中・並	中・並				—	—	—	—	破片	
3	6-1区	SX09SP157		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・板 ナデ・マメツ	ヨコナデ・マメ ツ・粘土紐接合痕	5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	中・多	中・少				9.2	—	—	—	5/8	
4	6-1区	SX09SP157		弥生土器	壺	マメツ	指オサエ・マメツ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・並	細・少				—	—	(3.2)	—	3/8	
5	6-1区	SX09SP157		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ メ・凹線1条	ヨコナデ・ヘラ削 り・粘土紐接合痕	10YR6/3に ぶい黄橙	7.5YR6/4に ぶい橙	細・並	細・並				(12.8)	—	—	—	2/8	
6	6-1区	SX09SP157		弥生土器	甕	ヨコナデ・体 部：マメツ	口縁部：ヨコナデ 体部：ハケ・指 オサエ・板ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・多	中・並				(9.6)	—	—	—	3/8	
7	6-1区	SX09SP157		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ 後ヨコナデ	口縁部：ハケ 体部：ハケ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR3/2 黒褐	中・並	細・少				11.6	—	—	—	4/8	
8	6-1区	SX09SP157		弥生土器	甕	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ マメツ	5YR6/4に ぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・多	細・少				13.8	—	—	—	2/8	
9	6-1区	SX09SP157		弥生土器	甕底部	ヨコナデ後 ヘラミガキ	ヘラ削り	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	中・並	中・少				—	—	4.0	—	5/8	
10	6-1区	SX09SP157		弥生土器	台付鉢	ヨコナ デ・ハケ	口縁部：ヨコナ デ・体部：ハケ 脚部：ヨコナ デ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	粗・並	粗・並				17.7	14.3	11.0	—	4/8	
11	6-1区	SX09SP157		弥生土器	台付鉢	ヨコナ デ・ハケ	口縁部：ハケ・マ メツ・凹線2条 脚部：指オサ エ・マメツ 端 部：ヨコナ デ	5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・多	中・少				—	—	11.2	—	3/8	
12	6-1区	SX09SP157		弥生土器	鉢	ナデ・ヘラミガ キ・凹線2条	ナデ・ヘラミガキ ナデ	7.5YR2/1 黒	7.5YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少				(25.0)	—	—	—	2/8	
13	6-1区	SX09SP157		弥生土器	土製支脚	指オサエ後 板ナデ	指オサエ後ナ デ	10YR7/3に ぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	中・並	中・少				—	—	(7.6)	—	3/8	
14	6-1区	SH15		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナ デ	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	細・並	細・並				—	—	—	—	破片	
15	6-1区	SH15SP61		弥生土器	甕	ヨコナ デ	ヨコナ デ	5YR5/6 明 赤褐	5YR6/6 橙	中・並	中・少				—	—	—	—	破片	
16	6-1区	SH15		弥生土器	甕底部	ナデ キ	ナ デ	5YR5/4に ぶい赤褐	5YR4/1 褐灰	中・並	中・並				—	—	5.8	—	1/8	
20	6-1区	SH06		弥生土器	広口壺	ナデ・マメツ キ	ナ デ・マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	細・並	細・並				—	—	(1.9)	—	2/8	
21	6-1区	SH06		弥生土器	高杯	ヨコナ デ・マメ ツ	ヨコナ デ・マメツ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並	中・並				—	—	—	—	破片	
22	6-1区	SH06		弥生土器	鉢	マメツ	マ メツ	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3に ぶい橙	中・並	中・少				(11.2)	—	—	—	1/8	
24	6-1区	SH04		弥生土器	甕	ヨコナ デ・凹 線2条	ヨコナ デ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・多	中・多				(15.4)	—	—	—	1/8	
25	6-1区	SH04		弥生土器	甕	ヨコナ デ・凹 線2条	ヨコナ デ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・並				—	—	—	—	破片	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
26	6-1区	SH04		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR5/4 にぶい褐	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並					—	—	—	破片		
27	6-1区	SH04SK19		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少	細・少				—	—	—	破片		
28	6-1区	SH04		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	板ナデ・マメツ	5YR7/6橙	5YR7/6橙	中・並	中・少				126	6.4	2.9	6/8		
29	6-1区	SH04		弥生土器	鉢	ハケ・マメツ	ナデ・マメツ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・多	細・少			(20.8)	—	—	—	1/8		
30	6-1区	SH04		弥生土器	鉢	ナデ・マメツ	ナデ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
33	6-1区	SH22		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ナデ	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4に ぶい黄橙	中・少	中・少	中・少		(23.6)	—	—	—	1/8	外采系(香 東川下流域)	
34	6-1区	SH22		弥生土器	無頸壺	ヨコナデ・凹線 文・原体圧真文	ハケ後ナデ	75YR7/4 にぶい橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
35	6-1区	SH22		弥生土器	甕	ヨコナデ・指オ サエ後ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/4に ぶい橙	5YR7/6橙	中・並	細・少			(21.4)	—	—	—	1/8		
36	6-1区	SH22		弥生土器	甕	指オサエ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケ後ナデ	75YR6/4 にぶい橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並		細・少		(10.6)	—	—	—	1/8		
37	6-1区	SH22		弥生土器	甕	ナデ	ヘラ削り後ナデ	75YR5/2灰 褐	10YR4/1陶 灰	中・並	中・並			—	—	(7.1)	—	2/8		
38	6-1区	SH22		弥生土器	甕底部	体部：ハケ 底部：指オ サエ後ナデ	指オサエ後ハケ	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・少			—	—	4.6	—	4/8		
39	6-1区	SH22		弥生土器	甕底部	指オサエ後ナデ	指オサエ・マ メツ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	細・並	細・少			—	—	2.8	—	8/8		
40	6-1区	SH22		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ケ後ナデ	ヘラミガキ	10YR8/4 浅黄橙	75YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少			(23.9)	—	—	—	1/8		
41	6-1区	SH22		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹 線3条・ハ ケ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケ後ナデ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・並	細・少			(18.8)	—	—	—	1/8		
42	6-1区	SH22		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハケ 後ヘラミガキ	ヨコナデ・ハ ケ後ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並		細・少		(29.8)	—	—	—	1/8		
43	6-1区	SH22		弥生土器	高杯	ナデ	ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	細・少	細・少			—	—	—	—	破片		
44	6-1区	SH22		弥生土器	高杯	杯部：指オサ エ後ナデ 体部：ハケ	ナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少			—	—	—	—	6/8		
45	6-1区	SH22		弥生土器	高杯	ハケ後ヘラミ ガキ	ハケ・ヨコナ デ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・少	中・少			—	—	—	—	破片		
46	6-1区	SH22		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・凹 線 文 頂部3条 体部2条以上	ヨコナデ	75YR6/6橙	75YR6/4に ぶい橙	中・少	中・少			—	—	—	—	破片		
47	6-1区	SH22		弥生土器	台付鉢	杯部：ハケ 脚部：ハケ 体部：ハケ	杯部：ナデ 脚部：ハケ	5YR7/6橙	5YR6/8橙	細・少	細・並			—	—	—	—	6/8	赤色顔料	
48	6-1区	SH22		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ 後ヘラミガキ	ヨコナデ・ハケ 後ヘラミガキ	10YR8/4 浅黄橙	75YR8/6 浅黄橙	中・少				(13.1)	—	—	—	2/8		
49	6-1区	SH22		弥生土器	鉢	体部：ハケ 底部：指オ サエ後ナデ	ヘラ削り	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少			—	—	3.7	—	3/8		
50	6-2区	SH21		弥生土器	鉢底部	指オサエ後ナデ	板ナデ	5YR5/4に ぶい赤褐	2.5YR6/8橙	中・並	細・少			—	—	3.4	—	3/8		

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					残存率	備考			
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒			口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)
51	6-1区	SH22		弥生土器	小型壺	指オサエ後ナデ	不明	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	内部・胎土	中・少		中・少	—	—	0.4	—	7/8	
52	6-1区	SH22		弥生土器	小型甕	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR7/4 に ぶい黄橙	10YR7/4 に ぶい黄橙	内部・胎土	中・並	中・少	中・少	(4.3)	5.2	3.5	—	6/8	
58	6-1区	SH22	壁溝	弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ラミミガキ	板ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	内部・胎土	中・並	中・少		(16.6)	—	—	—	1/8	
59	6-1区	SH22	壁溝	弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ラミミガキ 凹線4条	ヨコナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	内部・胎土	中・並			—	—	—	—	破片	
60	6-1区	SH22	壁溝	弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・ハ ラミミガキ 凹線文	ヨコナデ	10YR6/4 に ぶい黄橙	10YR6/3 に ぶい黄橙	内部・胎土	中・少	中・少		—	—	—	—	破片	
61	6-1区	SH22	壁溝	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	内部・胎土	中・並	中・少		(13.4)	—	—	—	1/8	
62	6-1区	SH22	壁溝	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	内部・胎土	中・並	中・並	中・並	(13.8)	—	—	—	1/8	外来系(香 東川下流域)
63	6-1区	SH22	壁溝	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ハラ削り	2.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	内部・胎土	中・並			—	—	(10.6)	—	1/8	
64	6-1区	SH22	壁溝	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ラミミガキ	ヨコナデ・ハ ラミミガキ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	内部・胎土	中・並	中・少		—	—	—	—	破片	外来系(備 中?)
65	6-2区	SH21SP01		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・半 裁竹管文・ハ ラミミガキ	ナデ・ハラ描き沈 線・半裁竹管文	5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	内部・胎土	細・少			(9.0)	—	—	—	1/8	
66	6-2区	SH21SP04		弥生土器	高杯	ナデ・凹線3条	ハラ削り	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	内部・胎土	中・並	細・少		—	—	—	—	破片	
67	6-2区	SH21SP03		弥生土器	壺底部	体部：ハラミミガ キ 底部：ナデ	板ナデ	5YR7/6 橙	7.5YR6/3 に ぶい濁	内部・胎土	中・並	中・少		—	—	(9.0)	—	1/8	赤色顔 料付着
68	6-2区	SH21SP03		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/4 に ぶい黄橙	10YR7/3 に ぶい黄橙	内部・胎土	中・少			(15.0)	—	—	—	1/8	
69	6-2区	SH21SP03		弥生土器	鉢	ヨコナデ後ハ ラミミガキ ハミミガキ 描き波状文	ヨコナデ後 ハラミミガキ	10YR7/4 に ぶい黄橙	10YR7/4 に ぶい黄橙	内部・胎土	中・少			—	—	—	—	破片	
70	6-1区	SP180		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ラミミガキ 凹線2条	ヨコナデ	10YR6/4 に ぶい黄橙	10YR7/3 に ぶい黄橙	内部・胎土	中・並	中・少		—	—	—	—	破片	
71	6-1区	SP180		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6 橙	内部・胎土	細・少			—	—	—	—	破片	
72	6-1区	SP180		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ハ ラミミガキ 凹線2条	ヨコナデ・ハ ラミミガキ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	内部・胎土	中・少			—	—	—	—	破片	
73	6-1区	SP165		弥生土器	壺底部	指オサエ後ナデ	板ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR7/6 橙	内部・胎土	中・並	中・少		—	—	(8.1)	—	1/8	
74	6-1区	SP165		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ・板ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	内部・胎土	中・少			(11.5)	—	—	—	1/8	
75	6-1区	SP169		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ハラ削り・ヨ コナデ	2.5Y4/2 暗 灰黄	2.5Y3/2 黒褐	内部・胎土	中・並	細・少	細・少	—	—	(13.5)	—	1/8	外来系
76	6-1区	SK45		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ラミミガキ 格子 文・ハゲ・ナデ	ナデ	5YR7/6 橙	5YR6/4 に ぶい橙	内部・胎土	細・少			(37.4)	—	—	—	1/8	赤色顔料
77	6-1区	SK45		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・指オ サエ・ハラ削り	7.5YR7/4 にぶい橙	2.5Y4/1 黄灰	内部・胎土	中・並	中・少		(15.1)	—	—	—	4/8	
78	6-1区	SK45		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ナデ	ハラミミガキ	10YR7/3 に ぶい黄橙	10YR7/3 に ぶい黄橙	内部・胎土	中・並		細・並	(33.4)	—	—	—	1/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	
79	6-1区	SK45		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ ヨコナデ	ヘラ削り	75YR6/4 に ぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・少	中・少	細・少	細・少	—	—	—	—	破片	外来系(香 東川下流域)
80	6-1区	SK45		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR5/3 に ぶい褐	75YR5/3に ぶい橙	細・少				—	—	—	—	破片	外来系(香 東川下流域)
81	6-1区	SK48		弥生土器	高杯	ヘラミガキ	ヘラミガキ	5YR6/6 橙	10YR7/2に ぶい黄橙	中・並				—	—	—	—	4/8	
82	6-1区	SK47		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・板ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片	
83	6-2区	SP54		弥生土器	広口壺	ナデ	ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	75YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少			(11.2)	—	—	—	1/8	
84	6-2区	SP54		弥生土器	甕底部	ナデ 体部：ヘラミガ キ 底部分：ナ デ・板状庄真	ヘラ削り	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1褐灰	中・並				—	—	—	—	3/8	
86	6-2区	SP58		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ 後ヘラミガキ	ヨコナデ・ハ ケ	5YR6/6 橙	5YR6/6橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片	
87	6-2区	SP52		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ハ ケ ヘラミガキ	ヨコナデ・ハ ケ	75YR6/4 に ぶい橙	10YR6/2 灰黄褐	中・並	中・少	細・並		—	—	—	—	1/8	
88	6-1区	SD12		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/6 橙	75YR7/6橙	中・少				—	—	—	—	破片	
89	6-1区	SD12		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハケ 後ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR8/4 浅黄橙	75YR7/6橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片	赤色顔料
90	6-1区	SD12		弥生土器	高杯	ナデ・櫛 文・凹線文	板ナデ	25YR5/6 明赤褐	25YR5/6 明赤褐	中・多	中・少			—	—	—	—	破片	外来系
91	6-2区	SH24		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・ナ デ	ヨコナデ・ナ デ	5YR6/6 橙	5YR6/6橙	中・並	中・少			(6.4)	—	—	—	1/8	
92	6-1区	SX21		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	75YR6/4 に ぶい橙	10YR5/2 灰黄褐	中・並	中・少			—	—	—	—	破片	
93	6-1区	SX21		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ケ 後ナデ	ヨコナデ・マ メツ	75YR6/6 橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並	細・少			—	—	—	—	破片	
94	6-1区	SX21		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ ヘラ描き沈 線(多条)	杯部：ヘラミ ガ キ 脚部：指 オ サ エ 後 ナ デ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並				—	—	—	—	5/8	外来系?
96	6-1区	SH09		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/4 に ぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少	細・少		—	—	—	—	破片	
97	6-1区	SH09		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/4 に ぶい橙	75YR7/4に ぶい橙	細・少				—	—	—	—	破片	
98	6-1区	SH09		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 に ぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並				—	—	—	—	破片	
99	6-1区	SH18		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ケ	ヨコナデ・ハ ケ	75YR8/6 浅黄橙	5YR7/8橙	中・並	中・少			(20.5)	—	—	—	2/8	
100	6-1区	SH18		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ・波 状文	75YR7/4 に ぶい橙	10YR7/2に ぶい黄橙	中・並	細・少			—	—	—	—	破片	
101	6-1区	SH18		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ケ ヘラミガキ	ヨコナデ	5YR5/4に ぶい赤褐	10YR5/2 灰黄褐	中・少	中・少			—	—	—	—	破片	
102	6-1区	SH18		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハ ケ ヘラミガキ	ヨコナデ・ナ デ	25YR5/6 明赤褐	25YR5/6 明赤褐	中・並				(8.8)	—	—	—	2/8	
104	6-1区	SH12		弥生土器	甕	口縁部：ヨ コ ナ デ ・ 凹 線 3 条 ・ 刻 み 目 部 部：押捺突 帯	ヨコナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/1褐灰	中・並				—	—	—	—	破片	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
105	6-1区	SH12		弥生土器	甕	口縁部：ヨコナ ナデ 体部：指オ サエ・マメツ ハケ後ナデ	口縁部：ヨコナ ナデ 体部：指オ サエ・マメツ ハケ後ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR8/1灰白	中・並	中・少				(12.3)	—	—	—	2/8	
106	6-1区	SH12		土師器	甕	口縁部：ヨコ ナデ 体部：指オ ハケ後ナデ	口縁部：ヨコナ ナデ 体部：指オ ハケ後ナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少	細・少			13.9	—	—	—	3/8	
107	6-1区	SH12		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ハ ラミガキ	ヨコナデ	5YR6/6橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並					—	—	—	—	破片	
108	6-1区	SH12		弥生土器	高杯	ナデ・マメツ	ハラ削り・マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並					—	—	(9.0)	—	1/8	
109	6-1区	SH12		弥生土器	鉢	ナデ 指オ サエ後ナデ	ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少	細・少				—	—	—	—	破片	
110	6-1区	SH12		弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・少	細・少				—	—	—	—	破片	
111	6-1区	SK20		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハ ラミガキ	ヨコナデ・ナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並	中・少	細・少			—	—	—	—	破片	
113	6-1区	SH17		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	細・少			(15.2)	—	—	—	1/8		
114	6-1区	SH17		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・少	中・少			(15.2)	—	—	—	1/8		
115	6-1区	SH17		弥生土器	鉢	ヨコナデ・指 オサエ後ハケ	ヨコナデ 指 オサエ後ハケ	5YR6/6橙	5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少			11.6	3.8	1.0	—	—	8/8	
116	6-1区	SH17		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ 後ハラミガキ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	中・少		細・少			—	—	—	—	破片	
117	6-1区	SH21		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6橙	中・並	中・少			(18.1)	—	—	—	1/8		
118	6-1区	SH21		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・少	中・少	細・少		(20.6)	—	—	—	1/8		
119	6-1区	SH21		土師器	甕	ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・少	中・少	細・少		(16.4)	—	—	—	1/8		
120	6-1区	SH21		弥生土器	高杯	ハラミガキ	ハラ削り	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少			—	—	—	—	5/8		
121	6-1区	SH21		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ナ デ・ハラミガキ	10YR6/3に ぶい黄橙	5YR6/6橙	中・並	細・少	中・少			—	—	—	—	破片	
122	6-1区	SH21		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					(10.6)	—	—	—	5/8		
123	6-1区	SH21		須恵器	高杯	回転ナデ・ 透し穴	回転ナデ	N7/灰白	N6/灰					—	—	—	—	6/8		
124	6-1区	SH21		須恵器	高杯	回転ナデ・ 透し穴	回転ナデ	N4/灰	N6/灰					—	—	—	—	2/8		
133	6-1区	SH08		縄文	不明	磨消縄文・ハ ラによるう ず巻き文	マメツ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	粗・多				—	—	—	—	破片		
134	6-1区	SH08		弥生土器	壺底部	体部：指オサエ 後板ナデ 底 部：ハラ削り	指オサエ後板ナデ	5YR7/6橙	2.5 Y 4/1黄灰	中・並	細・少			—	—	—	(9.4)	—	3/8	
135	6-1区	SH08		弥生土器	底部	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少			—	—	—	3.2	—	4/8	
136	6-1区	SH08		弥生土器	甕	口縁部：ヨコナ デ 体部：ハケ ケ・ヨコナデ	口縁部：ハケ 後ヨコナデ 体部：板ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR6/1褐灰	中・並				—	—	—	—	—	破片	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量			残存率	備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)			その他
137	6-1区	SH08		弥生土器	高杯	ママツ	ママツ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
138	6-1区	SH08		弥生土器	高杯	ママツ・ヨコナ デ・円形透し穴	ヘラ削り	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少	細・少			—	—	—	破片	外来系(香 東川下流域)	
139	6-1区	SH08		土師器	甕	口縁部：ヨコナ テ 体部：ハケ	口縁部：ヨコナ サエ後板ナデ	5YR6/6 橙	5YR5/6 明 赤褐	中・並	細・並				—	—	—	1/8		
140	6-1区	SH08		土師器	甕	口縁部：ヨコナ テ 体部：ハケ	口縁部：ヨコナ サエ後板ナデ	2.5 Y 8/2 灰白	10YR7/3に ぶい黄橙	細・少					13.6	—	—	—	4/8	焼成時剥離
141	6-1区	SH08		土師器	甕	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	75YR7/4 にぶい橙	10YR8/2 灰白	細・少					—	—	—	破片		
142	6-1区	SH08		土師器	甕	ヨコナデ・ 指オサエ	ヨコナデ・板ナデ	25YR6/6 橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並					—	—	—	破片		
143	6-1区	SH08		土師器	甕	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR7/2に ぶい黄橙	10YR7/2に ぶい黄橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
144	6-1区	SH08		土師器	甕	指オサエ後 板ナデ	指オサエ後ナデ	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	中・並				(8.8)	—	—	—	1/8		
145	6-1区	SH08		土師器	鉢	ヨコナデ・ハ ラミガキ	ヨコナデ・ナデ	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	中・並				(10.0)	—	—	—	1/8		
146	6-1区	SH08		土師器	鉢	回転ナデ	回転ナデ	5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	細・少				—	—	—	破片			
147	6-1区	SH08		土師器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙					—	—	—	破片			
148	6-1区	SH08		土師器	製塩土器	指オサエ	指オサエ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並				—	—	—	7/8			
149	6-1区	SH08		土師器	製塩土器	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4に ぶい橙	細・少				—	—	—	4/8			
150	6-1区	SH08		土師器	小型鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR7/2に ぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少			(5.7)	2.6	(4.6)	—	2/8		
151	6-1区	SH08		須恵器	杯蓋	回転ヘラ削 り・回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					(11.7)	4.9	(5.2)	—	3/8		
156	6-1区	SP14		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	75YR5/4 にぶい褐	75YR6/3に ぶい褐	細・並	細・少			—	—	—	破片			
167	6-1区	SP14		土師器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	10YR6/4に ぶい黄橙	細・少				—	—	—	破片			
168	6-1区	SP20		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	10YR7/3に ぶい黄橙	細・並				—	—	—	破片			
169	6-1区	SP20		弥生土器	底部	体部：ヘラミガ キ 底部：ナデ	ナデ	10YR6/4に ぶい黄橙	5YR5/6 明 赤褐	中・多	細・少			—	—	—	破片			
170	6-1区	SP30		弥生土器	壺	ヨコナデ・ ママツ	ヨコナデ・マメ ツ・指オサエ	5YR6/4に ぶい橙	5YR6/4に ぶい橙	中・多	中・少			—	—	—	破片			
171	6-1区	SP30		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	25Y3/1 黒褐	75YR7/6 橙	細・少				—	—	—	破片			
172	6-1区	SP31		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ 口縁8条	ヨコナデ	25Y3/1 黒褐	5YR6/6 橙	中・多	細・少			—	—	—	破片	外来系		
173	6-1区	SP31		弥生土器	壺	ヨコナデ・ 口縁2条	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	75YR7/4に ぶい橙	細・少				—	—	—	破片			
174	6-1区	SP31		弥生土器	壺底部	ナデ	ナデ	75YR6/4 にぶい橙	25Y4/1 黄灰	中・並	中・少			—	—	—	2/8			

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
175	6-1区	SH13		土師器	直口壺	ナデ・ヘラ ミガキ	ナデ・指オサエ	75YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・少	中・並				(13.4)	—	—	—	2/8	
176	6-1区	SH13		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/2に ぶい黄橙	10YR8/2灰白			細・多			(20.4)	—	—	—	1/8	
177	6-1区	SH13		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR8/4 浅黄橙	75YR8/4 浅黄橙	中・並					—	—	—	—	破片	
178	6-1区	SH13		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰	細・並			細・少		—	—	—	—	破片	
179	6-1区	SH13		土師器	甕	口縁部：ヨコナ テ 体部：ハケ	口縁部：ヨコナ テ 体部：ナデ	5YR5/6明 赤褐	5YR5/6明 赤褐	中・多	中・並				(20.6)	—	—	—	1/8	
180	6-1区	SH13		弥生土器	鉢	口縁部：ヨコナ テ 体部：指 オサエ後ナデ	口縁部：ヨコナ テ 体部：ナデ	10YR6/1褐灰	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少					(11.6)	—	—	—	1/8	
181	6-1区	SH13		土師器	鉢	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	細・並					(13.8)	—	—	—	1/8	
182	6-1区	SH13		土師器	鉢	ナデ	ナデ	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4に ぶい黄橙	細・並			細・少		—	—	—	—	破片	
183	6-1区	SH13		土師器	製塩土器	タタキ	指オサエ	75YR6/6橙	75YR6/6橙	中・少					—	—	—	—	破片	
184	6-1区	SH13		土師器	製塩土器	タタキ・ナデ	ナデ	75YR7/6橙	5Y5/1灰	細・少					—	—	—	—	破片	
185	6-1区	SH13		須恵器	杯	回転ナデ・回 転ヘラ削り	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白					(10.8)	—	—	—	—	2/8	
186	6-1区	SH13		須恵器	広口壺	回転ナデ・ 波状文	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					(17.0)	—	—	—	—	1/8	
188	6-1区	SK23		弥生土器	甕	体部：マメツ 底部：ナデ	指オサエ	5YR6/6橙	5YR5/4に ぶい赤褐	細・少	細・少				—	—	(6.6)	—	1/8	
190	6-1区	SP47		弥生土器	広口壺	ハケ後ヘラミガ キ・回線3条	ハケ後ヘラミガ キ	75YR6/4 にぶい橙	10YR5/2 灰黄褐	中・少	中・少				—	—	—	—	破片	赤色顔料
191	6-1区	SP47		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 沈線1条	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並					—	—	—	—	破片	
192	6-1区	SK15		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	25Y8/3炭黄	25Y7/2灰黄	細・少	細・並				—	—	—	—	破片	
193	6-1区	SK15		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						—	—	—	—	破片	
194	6-1区	SX16		弥生土器	壺底部	体部：ヘラミガ キ 底部：ナデ	ナデ	25Y3/1黒褐	25Y4/1黄灰	中・多					—	—	(7.0)	—	2/8	
195	6-1区	SH03		土師器	甕	口縁部：ヨコナ テ 頸部：ハケ	ヨコナデ	5YR7/4に ぶい橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・少	中・少				—	—	—	—	破片	
196	6-1区	SH03		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ 回線3条	ヨコナデ	25Y2/1黒	75YR7/4に ぶい橙	細・少			細・少		—	—	—	—	破片	
197	6-1区	SH03		弥生土器	小型甕	口縁部：板状庄 痕後ナデ 体部： 指オサエ後ナデ	口縁部：ナデ 体部：指オサエ	75YR6/3 にぶい褐	75YR7/4に ぶい橙	細・少	細・少				—	—	5.5	1.5	7/8	
198	6-1区	SH03		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・多	中・少				(10.0)	—	—	—	1/8	
199	6-1区	SH03		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	75YR7/6橙	中・並				(18.6)	—	—	—	—	1/8	
200	6-1区	SH03		弥生土器	壺底部	体部：ヘラミガ キ 底部：ナデ	ヘラ削り	5YR7/6橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・少				—	—	(9.5)	—	2/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量				備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	残存率	
201	6-1区	SH03		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ハ ラ描き沈線3条	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	細・多	細・少	細・少	細・少	—	—	—	—	2/8	胎土は香東 川下流域	
202	6-1区	SH03		土師器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	細・少		細・少		—	—	—	—	破片		
203	6-1区	SH03		土師器	甗	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	5Y4/1灰	5Y4/1灰	粗・多				—	—	—	—	破片		
204	6-1区	SH03		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					(14.0)	—	—	—	1/8		
205	6-1区	SH03		須恵器	杯	回転ナデ・回 転ヘラ削り	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					12.0	4.1	6.0	—	7/8		
206	6-1区	SH03		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					(16.0)	—	—	—	1/8		
207	6-1区	SH03		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙					—	—	—	—	破片	焼成不良	
208	6-1区	SH03		須恵器	高杯	回転ナデ・方 形透し穴	回転ナデ	N6/灰	N6/灰	細・少				—	—	—	—	破片		
209	6-1区	SH03		須恵器	甗	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	5R5/1赤灰					(18.0)	—	—	—	1/8		
210	6-1区	SH03		須恵器	甗	回転ナデ	回転ナデ	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙					(18.6)	—	—	—	破片	焼成不良	
211	6-1区	SK14		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ナ テ・凹線4 条・刻み目	ヨコナデ・ナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並		細・少		—	—	—	—	破片		
212	6-1区	SK14		弥生土器	無頸壺	ヨコナデ・列 点文・ヘラ 描き鋸歯文	ヨコナデ	N3/暗灰	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片	外来系?	
213	6-1区	SK14		弥生土器	甗	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	10YR4/1褐灰	10YR7/2に ぶい黄橙	中・並				—	—	—	—	破片		
214	6-1区	SK14		弥生土器	甗	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	細・並				—	—	—	—	破片		
215	6-1区	SK14		弥生土器	甗	ナデ	ナデ	5YR5/4に ぶい赤褐	5YR6/6橙	中・並	細・少			(13.4)	—	—	—	1/8		
216	6-1区	SK14		須恵器	杯蓋	ナデ・回転ナデ	回転ナデ	10Y5/1灰	N5/灰					—	—	—	—	破片	小片のため 傾き不正確	
217	6-1区	SK14		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1灰白	5Y8/1灰白					(12.2)	—	—	—	1/8		
218	6-1区	SK14		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N5/灰					—	—	—	—	1/8	方形透し孔 の痕跡あり	
219	6-1区	SK13		須恵器	高杯	回転ナデ・ 透し穴	回転ナデ	N5/灰	N6/灰					—	—	—	—	破片		
220	6-1区	SK13		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					—	—	—	—	破片	焼成不良	
221	6-1区	SP24		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N6/灰					—	—	—	—	破片		
222	6-1区	SH03		弥生土器	甗	口縁部：ヨコ ナデ・擬凹線 2条 体部： ヘラミガキ	口縁部：ヨコナ テ 体部：ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
223	6-1区	SH03		弥生土器	土製支脚	指オサエ・ 板ナデ	指オサエ	10YR7/3に ぶい黄橙	7.5YR5/4に ぶい褐	中・並	中・少			—	—	—	—	3/8		
224	6-1区	SH03		須恵器	杯	回転ナデ・回 転ヘラ削り	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					(12.0)	—	—	—	1/8		

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
225	6-1区	SK11		弥生土器	土製支脚	ハケ	板ナデ・ナデ	75YR6/4に ぶい橙	内部・胎土 75YR6/4に ぶい橙	粗・並				—	—	—	—	4/8		
230	6-1区	SH02		土師器	甕	ヨコナデ・指 オサエ	ヨコナデ・指 オサエ	75YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少	細・少			(10.8)	—	—	—	1/8		
231	6-1区	SH02		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N8/灰白	N7/灰白		細・少			—	—	—	—	破片		
232	6-1区	SH02		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					(11.6)	—	—	—	1/8		
233	6-1区	SH02		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白					(10.0)	3.4	(2.8)	—	4/8		
237	6-1区	SH07		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ハ ケ 描き波状文	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	75YR6/4に ぶい橙	細・少				—	—	—	—	破片		
238	6-1区	SH07		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・マメツ 後 体部：ハケ	5 Y 7/1 灰白	5 Y 5/1 灰	中・並		中・少		—	—	—	—	破片		
239	6-1区	SH07		弥生土器	甕	口縁部：ヨコナ デ 体部：ハケ	口縁部：ハケ 体部：ハケ	75YR7/4に ぶい黄橙	75YR7/4に ぶい橙	中・多				(15.4)	—	—	—	2/8		
240	6-1区	SH07		須恵器	杯蓋	回転ヘラ削り ヨコナデ・ マメツ	回転ナデ	N 7/ 灰白	N6/ 灰					(13.0)	—	—	—	1/8		
241	6-1区	SH01		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ タ	ハラミガキ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少	中・少			—	—	—	—	破片		
242	6-1区	SH01		弥生土器	甕	口縁部：ナデ 体部：タ タキ後ハケ	口縁部：ハケ 体部：ハラ削り	25Y7/2 灰黄	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少	中・少			13.9	—	—	—	6/8		
243	6-1区	SH01		弥生土器	甕	口縁部：ヨコ ナデ 体部：タ タキ後ハケ	口縁部：ハケ 体部：ハケ	10YR5/2 灰黄褐	75YR6/4に ぶい橙	中・並	細・少			—	(23.0)	—	—	1/8		
244	6-1区	SH01		弥生土器	甕	口縁部：ハケ 体部：タ タキ後ハケ	口縁部：ハケ 体部：ハケ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少			(13.0)	—	—	—	5/8		
245	6-1区	SH01		弥生土器	甕	口縁部：マメツ 体部：ハケ	口縁部：マメツ 体部：板ナデ	75YR6/4に ぶい橙	75YR7/6 橙	中・並	細・少			(21.0)	—	—	—	1/8		
246	6-1区	SH01		弥生土器	甕	口縁部：ヨコ ナデ 体部：タ タキ後ハケ	口縁部：ハケ 体部：指 オサエ後ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・少	細・少			—	—	—	—	破片		
247	6-1区	SH01		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	細・少			10.0	2.7	(2.3)	—	5/8		
248	6-1区	SH01		弥生土器	鉢	口縁部：ヨコ ナデ 体部：タ タキ後ハケ	口縁部：ハケ 体部：ハケ	10YR6/2 灰黄褐	75YR6/2 灰褐	中・並	中・少	中・少		(33.6)	—	—	—	1/8		
252	6-1区	SH16		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 口縁4条	ヨコナデ	75YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
253	6-1区	SH16		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 口縁2条	ヨコナデ・板ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少			(19.2)	—	—	—	破片		
254	6-1区	SH16		弥生土器	甕底部	口縁部：ハラミ ガキ 底部分	指オサエ後板ナデ	10YR8/3 浅黄橙	25Y6/1 黄灰	細・並				—	—	—	(9.0)	—	1/8	
255	6-1区	SH16		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	10YR4/1 褐灰	75YR6/3に ぶい褐	中・少	中・少			—	—	—	—	破片		
256	6-1区	SH19		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・半 戴竹管文	ヨコナデ・波状文	75YR6/4に ぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少	中・並		(13.2)	—	—	—	1/8	搬入品	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	
257	6-1区	SH19		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・芯線2条・刻み目	ヨコナデ	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少				—	—	—	破片	
258	6-1区	SH19		弥生土器	壺底部	体部：底ナデ	板ナデ	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR3/1 黒褐	中・並					—	—	(7.4)	1/8	
259	6-1区	SH19		弥生土器	壺底部	体部：ナデ	指オサエ後ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR2/1 黒	中・並					—	—	(4.2)	1/8	
260	6-1区	SH19		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・板ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少	細・少				—	—	—	破片	
261	6-1区	SH19		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	細・少					—	—	—	破片	
262	6-1区	SH19		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線3条	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少	細・少			(14.2)	—	—	1/8	
263	6-1区	SH19		土師器	甕	ナデ	ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	細・少	細・少				(12.6)	—	—	1/8	
264	6-1区	SH19		弥生土器	底部	体部：ハケ・ナデ	指オサエ後板ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少	中・少				—	—	3.2	2/8	
265	6-1区	SH19		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハケ ラ削り後ハケ ラミガキ	ヨコナデ・ハケ ラミガキ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少				—	—	—	1/8	搬入品
266	6-1区	SH19		弥生土器	高杯	板ナデ・ハケ 掃き沈瀧・透し穴 (三方向)	板ナデ・ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	粗・並	中・少				—	—	—	7/8	外来系 (吉備)
267	6-1区	SH19		弥生土器	高杯	ナデ	指オサエ後ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/4に ぶい橙	細・少	細・少				—	—	—	7/8	
268	6-1区	SH19		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹線2条	ヘラ削り	7.5YR6/4に ぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少				—	—	(11.4)	1/8	
269	6-1区	SH19		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ヨコナデ・透し穴	ヘラ削り・ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少	中・並	細・並			—	—	(18.2)	1/8	外来系 (香 東川下流域)
270	6-1区	SH19		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラ削り・ヨコナデ	7.5YR5/3に ぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	中・少	中・少	細・少			—	—	—	破片	外来系 (香 東川下流域)
271	6-1区	SH19		弥生土器	高杯	マメツ	ハケ後ナデ	5YR6/8 橙	2.5Y7/2 灰黄	細・少	細・少				—	—	(10.0)	1/8	赤色顔料
272	6-1区	SH19		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ ラミガキ	ヨコナデ・ハケ ラミガキ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並					(18.4)	—	—	1/8	
273	6-1区	SH19		弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR3/2 黒褐	中・少	細・少				—	—	—	破片	
274	6-1区	SH19		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・並					—	—	—	破片	
275	6-1区	SH19		弥生土器	鉢	体部：タタキ 後ナデ 部：ヘラ削り	板ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙	中・少	中・並				—	—	(2.9)	2/8	
277	6-1区	SP158		弥生土器	甕	ヨコナデ・指オサエ後板ナデ	ヨコナデ・指オサエ後ハケ 指オサエ後板ナデ	N2/ 黒	10YR5/3に ぶい黄橙	中・並	中・少				—	—	—	破片	
278	6-1区	SH20		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・半裁竹管文	ヨコナデ・波状文	7.5YR5/4に ぶい褐	7.5YR5/4に ぶい褐	細・並					(16.0)	—	—	1/8	搬入品
279	6-1区	SH20		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・竹管文	ヨコナデ	7.5YR6/4に ぶい橙	5YR6/6 橙	中・並	中・少				—	—	—	破片	
280	6-1区	SH20		弥生土器	短頸広口壺	ヨコナデ・凹線3条	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	5Y4/1 灰	中・少					(15.2)	—	—	1/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						残存率	備考		
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)			器高 (cm)	底径 (cm)
281	6-1区	SH20		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	75YR7/4にぶい橙	内部・胎土	中・並								破片	
282	6-1区	SH20		土製品	分銅型土製品	板ナデ・ハケ ラミガキ	板ナデ・ハケ ラミガキ	10YR7/4にぶい黄橙		中・並								破片	
283	6-1区	SH20		須恵器	杯蓋	回転ナデ	ナデ	N5/灰			中・少							8/8	
285	6-1区	SH20SP135		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・板ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR7/3にぶい黄橙		中・並		細・少						1/8	
286	6-1区	SH20SP135		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ	75YR7/6橙		中・並	中・少							1/8	
287	6-1区	SH20SP135		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/8橙		中・少	中・少							1/8	外来系(香 東川下流域)
288	6-1区	SH20SP135		弥生土器	底部	ハケ	指オサエ・ハケ	75YR7/6橙		中・少				(3.6)				2/8	
289	6-1区	SH20SP135		弥生土器	高杯	ナデ・斜格子文・ 列点文・凹線文	ハラ削り	2.5Y6/1黄灰 ぶい橙		中・多	中・少							1/8	
290	6-1区	SH20SP138		弥生土器	高杯	ハラミガキ	ヨコナデ	2.5YR5/6 明赤褐		中・少	中・少							破片	
291	6-1区	SH20SP138		弥生土器	器台	板ナデ・ハケ ラミガキ	板ナデ・ナデ	2.5Y7/4浅黄		中・並	中・少							1/8	
292	6-1区	SP17		土製品	紡錘車 (未製品)	ハラミガキ	ハラミガキ	7.5YR7/3 ぶい橙		中・並	中・少				最大幅 3.6	最大厚 0.6		8/8	
294	6-1区	SP48		弥生土器	甕	ヨコナ デ・凹線3条 体部上半：ハ ケ・ハケ原体に よる庄痕文下 半：ハラミミガキ	ヨコナ デ・凹線3条 体部：ハケ 指 オサエ・ハラ削り	7.5YR6/6橙		中・並	中・少							2/8	
295	6-1区	SP48		弥生土器	甕	ヨコナ デ・凹線3条 体部：ハケ 後ハラミミガキ	ヨコナ デ・凹線3条 体部：板ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙		中・並	中・少		細・少					4/8	
296	6-1区	SP48		弥生土器	底部	体部：ハケ目 後ハラミミガキ 底部分：ナデ 後ハラミミガキ	ハケ目	7.5YR5/6明褐		中・並						(12.0)		1/8	
297	6-1区	SP48		弥生土器	甕底部	体部：ハラミガキ 底部分：ナデ	ハラ削り	7.5YR6/3 にぶい褐		中・並	中・少					(4.9)		3/8	
298	6-1区	SP48		弥生土器	台付鉢	ハラミガキ・ 沈線2条	ヨコナデ・指 オサエ	7.5YR6/6橙		中・並	細・少							4/8	
299	6-1区	SP48		弥生土器	器台	ナデ・ハラ 菌文 三角形の 透かし穴(5方向)	ハラ削り	7.5YR6/6橙		中・多	中・少					(22.9)		5/8	
301	6-1区	SP07		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6橙		中・少	中・少							破片	外来系(香 東川下流域)
302	6-1区	SP07		弥生土器	壺底部	体部：ハラミガキ 底部分：ナデ	ハラミガキ	5YR6/6橙		細・少						(4.8)		2/8	
303	6-1区	SP07		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	5Y7/1灰白		細・少								破片	
304	6-1区	SP07		須恵器	杯	回転ナデ・回 転ハラ削り	回転ナデ	N7/灰白								(1.0)		1/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量			備考			
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		その他	残存率	
305	6-1区	SP07		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y4/1灰	5Y6/1灰						中・少	—	(11.2)	—	1/8		
307	6-1区	SB01SP128		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4に ぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・少	中・少					—	—	—	破片		
308	6-1区	SB01SP128		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙		細・少					(21.4)	—	—	—	1/8	
309	6-1区	SB01SP128		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・並	中・少					—	—	—	破片		
310	6-1区	SB01SP128		弥生土器	高杯	ハケ	ナデ	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/6橙	中・並	中・少					—	—	—	3/8	赤色顔料	
311	6-1区	SB01SP128		弥生土器	高杯	ハケ	ハケ	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少					—	—	—	破片		
312	6-1区	SB01SP128		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ハケ	75YR7/6橙	25YR6/8橙	中・並					(14.0)	—	—	—	1/8		
313	6-1区	SB01SP127		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハ ラ削り	25Y6/2灰黄	25Y6/2灰黄	中・並					(12.8)	—	—	—	1/8		
314	6-1区	SB01SP127		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線2条	ハケ削り	5YR6/6橙	5YR5/6明 赤褐	中・並	細・少				—	—	(8.7)	—	1/8		
315	6-1区	SB01SP126		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	中・並		中・並			(13.3)	—	—	—	1/8	外来系	
316	6-1区	SK42		弥生土器	台付鉢	ナデ・マメツ ・凹線2条	ナデ・マメツ	5YR6/6橙	75YR6/4に ぶい橙	中・多	中・並				(24.0)	—	—	—	1/8		
317	6-1区	SK18		弥生土器	壺	ナデ・細み 目突帯2条	ナデ	5YR3/1黒褐	10YR5/3に ぶい黄褐	粗・並					—	—	—	—	破片		
318	6-1区	SK18		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/2に ぶい黄橙	10YR5/1褐灰	細・少					—	—	—	—	破片		
319	6-1区	SK18		弥生土器	甕底部	体部：ハラミ ガキ・マメツ 底部：ナデ	ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・多					—	—	5.8	—	1/8		
321	6-1区	SK34		弥生土器	壺	ヨコナデ・貼 り付け突帯	ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR6/1褐灰	中・並					—	—	—	—	1/8		
322	6-1区	SK34		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並					(16.4)	—	—	—	1/8		
323	6-1区	SK34		弥生土器	底部	ヨコナデ・ナデ	板ナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/1褐灰	中・並					—	—	(6.2)	—	5/8		
324	6-1区	SK34		弥生土器	土製支脚	ハケ・ヨコナデ	指オサエ後ナ デ・ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・多	中・少				—	—	11.0	—	2/8		
325	6-1区	SK34		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4に ぶい橙	中・少	細・少				—	—	—	—	破片		
326	6-1区	SK34		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						—	—	—	—	破片		
327	6-1区	SP97		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	5YR7/6橙	5YR7/6橙	中・並	細・少				—	—	—	—	破片		
328	6-1区	SK28		弥生土器	底部	ナデ	指オサエ	75YR6/4 にぶい橙	N3/暗灰	中・並					—	—	(3.6)	—	3/8		
329	6-1区	SK16		弥生土器	鉢	タタキ マメツ	ハケ	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少				10.4	6.9	0.6	—	7/8		
330	6-1区	SP78		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR4/3に ぶい赤褐	5YR6/6橙	中・多	細・少				—	—	—	—	破片		
331	6-1区	SP96		弥生土器	高杯	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・並	中・少				—	—	—	—	破片		

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
332	6-1区	SP71		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/4 にぶい黄	内部・胎土 75YR6/6 橙	中・少	中・少				—	—	—	破片		
333	6-1区	SP71		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	細・少					—	—	—	破片		
334	6-1区	SP71		弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
335	6-1区	SP86		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並	中・並				—	—	—	破片		
340	6-1区	SP19		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹 線3条・ハ ラミガキ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	75YR7/4 にぶい黄	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
341	6-1区	SP82		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・並					—	—	—	破片		
342	6-1区	SP82		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	25YR6/6 橙	25YR6/6 橙	中・並					—	—	—	破片		
343	6-1区	SP82		弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい黄	5YR4/3に ぶい赤褐	中・少					—	—	—	破片		
344	6-1区	SP146		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	75YR7/4 にぶい黄	75YR6/4に ぶい黄	中・並					—	—	—	破片		
345	6-1区	SP146		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	中・並					—	—	—	破片		
346	6-1区	SP146		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR7/6 橙	中・並	中・少				—	—	—	1/8 外来系 (備中)		
347	6-1区	SK31		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 竹管文	ヨコナデ	5YR6/6 橙	75YR6/3に ぶい褐	中・並	中・少				—	—	—	破片		
348	6-1区	SK31		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハ ラミガキ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	細・少	細・少				—	—	—	破片		
349	6-1区	SK37		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR5/1 褐灰	75YR6/4に ぶい黄	中・少					—	—	—	破片		
350	6-1区	SK37		弥生土器	鉢	口縁部：ヨコナ デ・指オサエ後 ナデ・ハケ削り	口縁部：ヨコ ナデ・マメツ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・少	中・少				(15.4)	6.5	1.8	2/8		
351	6-1区	SK37		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後 ハケ削り	75YR6/4 にぶい黄	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
352	6-1区	SP133		弥生土器	高杯	ハラミガキ・ヨ コナデ・透し穴	ハラ削り・ヨ コナデ	10YR6/4に ぶい黄橙	75YR6/6 橙	中・並	中・少	中・少			—	—	—	1/8	外来系(香 東川下流域)	
353	6-1区	SP134		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/4 にぶい黄	10YR5/1 褐灰	中・並				(13.7)	—	—	—	1/8		
355	6-1区	SP129		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/3 にぶい褐	75YR7/4に ぶい黄	中・並	中・少				—	—	—	破片		
356	6-1区	SP136		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	5Y3/1 オ リーブ黒	5Y3/1 オ リーブ黒	中・並	中・少				—	—	—	破片		
357	6-1区	SP136		弥生土器	高杯	ナデ・凹線2条	ナデ	75YR6/4 にぶい黄	75YR4/1 褐灰	中・並	中・少				—	—	—	破片		
358	6-1区	SK39		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹 線3条・ハ ラミガキ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	10YR6/4に ぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	中・並	中・少				—	—	—	破片		
359	6-1区	SP155		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR5/4 にぶい褐	75YR5/4に ぶい褐	中・少	細・並	細・少			—	—	—	破片	外来系(香 東川下流域)	
360	6-1区	SX19		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線文	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい黄	75YR6/4に ぶい黄	中・並					—	—	—	破片		

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	
361	6-1区	SX19		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	5YR6/4に ぶい橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少	細・少		細・少	—	—	—	—	破片	
362	6-1区	SX19		弥生土器	高杯	ハラミガキ	ハラミガキ	25Y7/2灰黄	25Y8/3淡黄	中・並	細・並		細・並	—	—	—	—	1/8	
363	6-1区	SX19		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR4/1褐灰	10YR5/1褐灰	中・並	中・並		中・並	—	—	—	—	2/8	
364	6-1区	SX19		弥生土器	鉢	体部：ハケ 底部：ナデ	ハケ	75YR7/4に ぶい橙	5YR2/4に ぶい橙	中・並	中・少		中・並	11.5	6.0	3.6	—	7/8	
366	6-1区	SK43		弥生土器	甕	ハラミガキ・ 原体庄痕文	ハラ削り	25YR6/6橙	5YR4/1褐灰	中・並	中・少		中・並	—	—	(4.1)	—	3/8	
367	6-1区	SP171		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR4/1褐灰	75YR7/4に ぶい橙	中・少	細・少		中・少	—	—	—	—	破片	
368	6-1区	SP171		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	25Y6/3に ぶい黄	10YR7/3に ぶい黄橙	粗・並	中・少		細・少	—	—	—	—	破片	
369	6-1区	SP171		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	75YR5/2灰褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並	細・少		細・少	—	—	—	—	破片	
370	6-1区	SP171		弥生土器	甕底部	ナデ・マメツ	ハラ削り・マメツ	10YR6/2 灰黄褐	10YR4/1褐灰	中・並			中・並	—	—	(7.6)	—	1/8	
371	6-1区	SP171		弥生土器	甕底部	体部：ハラミガ キ 底部：ナデ	指オサエ後ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	75Y6/1灰	中・並	中・少		中・並	—	—	(6.6)	—	1/8	
372	6-1区	SX24		弥生土器	甕	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	25Y4/1黄灰	25Y5/3黄褐	中・少	細・並		細・並	—	—	—	—	破片	
373	6-1区	SX24		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少		中・並	—	—	—	—	破片	
374	6-1区	SX24		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR3/2黒褐	10YR3/2黒褐	中・並	中・少		細・少	—	—	—	—	破片	
376	6-1区	SD18		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線4条	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並			中・並	—	—	—	—	破片	
377	6-1区	SD18		弥生土器	甕	口縁部：ヨコナ デ・ 凹線2条 体部上半：ハ ケ 後ナデ 下半：ハラミガキ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	5YR5/6明 赤褐	中・少	細・並		細・並	—	—	—	—	3/8	
378	6-1区	SD21		弥生土器	壺底部	体部：ハラミガ キ 底部：ナデ	ハラ削り	75YR7/4に ぶい橙	75YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少		中・並	—	—	8.0	—	8/8	
379	6-1区	SD21		弥生土器	壺底部	体部：ハラミガ キ 底部：ナデ	指オサエ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少		細・少	—	—	(8.0)	—	1/8	
380	6-1区	SD08		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/2灰白	5Y8/2灰白	中・少			中・少	—	—	—	—	破片	
381	6-1区	SD08		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N5/灰				細・少	—	—	(14.0)	—	1/8	
382	6-1区	SD08		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰				中・少	—	—	—	—	破片	
383	6-1区	SD07		土師器	甕	口縁部：ヨコナ デ 体部：板ナ デ・指オサエ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	細・多	細・少		細・多	—	—	(17.6)	—	6/8	
384	6-1区	SD07		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白				中・少	—	—	(11.0)	—	1/8	
386	6-1区	SX08		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並			中・並	—	—	(12.8)	—	1/8	
387	6-1区	SX08		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ケ後ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	5YR5/6明 赤褐	中・並	中・少		中・並	—	—	—	—	破片	赤色顔料

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						残存率	備考			
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)			器高 (cm)	底径 (cm)	その他
388	6-1区	SX08		弥生土器	壺底部	ハケ	ハケ	5YR6/6 橙	内部・胎土	中・並	中・少		細・並		—	—	—	2/8		
389	6-1区	SX08		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/4 ふい橙	7.5YR7/4に ふい橙	中・少	中・少		細・並		—	—	—	1/8	外来系(香 東川下流域)	
390	6-1区	SX08		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ削り	5YR6/4に ふい橙	5YR6/4に ふい橙	中・並	中・少		中・少		—	—	—	破片		
391	6-1区	SX08		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
392	6-1区	SX08		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ケ削り	ヨコナデ・ハ ケ削り	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
393	6-1区	SX08		弥生土器	高杯	ハケ・指オ サ工後ナデ	ハケ・指オ サ工後ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少				—	—	(19.6)	—	外来系?	
394	6-1区	SX08		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ 後ハラミガキ	ヨコナデ・ハケ 後ハラミガキ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並	中・少		細・少		—	—	—	1/8		
395	6-1区	SX08		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ 後ハラミガキ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	5YR4/4に ふい赤褐	中・並	細・少				—	—	—	破片		
397	6-1区	SX04		弥生土器	高杯	ハラミガキ・ 沈線1条	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・並	中・少				—	—	(14.8)	—	1/8	
398	6-1区	SX04		弥生土器	土製支脚	指オサ工後ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	粗・多	中・並				—	—	—	7/8		
399	6-1区	SX04		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・少	中・少				—	—	—	破片		
400	6-1区	SX04		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	中・少	中・少				—	—	—	破片		
401	6-1区	SX04		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
402	6-1区	SP84		土師器	鉢	ハラミガキ	ヨコナデ	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3に ふい褐	中・少	細・少				—	—	—	破片		
408	6-1区	SX01		弥生土器	器台	ヨコナデ・刻み 目・円形浮文	ヨコナデ・竹管文	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
409	6-1区	SX01		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	細・並					—	—	—	2/8		
410	6-1区	SX01		土師器	甕	指オサ工後ナデ	指オサ工後ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・多					—	—	—	破片		
411	6-1区	SX01		須恵器	壺	体部：回転ナデ 底部：貼り付 け高台・ナデ	回転ナデ	N 5/ 灰	N 5/ 灰						—	—	(11.6)	—	2/8	
412	6-1区	SX01		陶器	蓋	回転ナデ・施釉 出し高台 露胎	回転ナデ・回 転糸切り	7.5Y5/3 灰 オリーブ	10YR7/4に ふい黄橙						—	—	2.6	—	5/8	
413	6-1区	SX01		陶器	碗	回転ナデ・削り 出し高台 露胎	回転ナデ・施釉・ 蛇ノ目細ハギ	10YR8/3 浅黄橙	5Y7/3 浅黄						—	—	(4.2)	—	2/8	
416	6-1区	攪乱		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹 線2条・指オ サ工・ハケ	ヨコナデ・板ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/4に ふい橙	細・並	細・少				—	—	—	—	6/8	
417	6-1区	遺構検出		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 刻み目文	ヨコナデ	10YR7/3に ふい黄橙	10YR7/3に ふい黄橙	中・少	細・少				—	—	—	(19.8)	—	1/8
418	6-1区	攪乱		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ハ ケ削り	ヨコナデ後 ハラミガキ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・並	中・少				—	—	(30.6)	—	1/8	赤色顔料
419	6-1区	攪乱		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ナデ	5YR4/3に ふい赤褐	7.5YR4/3 褐	中・少	中・少				—	—	(13.6)	—	1/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	
420	6-1区	遺構検出		弥生土器	甕底部	ナデ	板ナデ	10YR8/2 灰白	7.5YR8/6 浅黄橙	中・並						(4.6)	—	1/8	
421	6-1区	遺構検出		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘ ラミガキ・ヘ ラ描き沈線	ヨコナデ・ヘ ラミガキ	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/4 に ぶい黄橙	細・並	細・少					(28.2)	—	1/8	
422	6-1区	遺構検出		弥生土器	高杯	ナデ・ヘラ 描き沈線6条	ナデ	7.5YR7/4 に ぶい黄橙	10YR7/3 に ぶい黄橙	中・並	細・少					(15.0)	—	1/8	朱付着・ 外来系
423	6-1区	遺構検出		弥生土器	器台	ナデ・ヘラ 描き沈線	ヘラ削り・ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並	細・少					(20.5)	—	1/8	
424	6-1区	遺構検出		土師器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ハケ後ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少	細・少				(1.7)	—	6/8	
425	6-1区	攪乱		弥生土器	小型壺	指オサエ後ナデ	指オサエ	10YR7/3 に ぶい黄橙	10YR6/3 に ぶい黄橙	細・少						—	—	6/8	
426	6-1区	遺構検出		土製品	分銅型 土製品	板ナデ・ヘラ 描き沈線・列点文	板ナデ	10YR7/2 に ぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	中・並	中・並					—	—	破片	
427	6-1区	攪乱		土製品	分銅型 土製品	ナデ・列点文	板ナデ・ナデ	5YR5/6 明 赤褐	5YR5/6 明 赤褐	中・並	中・並					—	—	破片	
428	6-1区	遺構検出		土製品	分銅型 土製品	ナデ・列点文	ナデ	10YR6/3 に ぶい黄橙	2.5Y5/1 黄灰	中・並	中・並					—	—	破片	
453	6-2区	SH16		弥生土器	広口壺	ナデ	ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少					(13.0)	—	1/8	
454	6-2区	SH16		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	7.5YR5/4 に ぶい褐	5YR5/4 に ぶい赤褐	中・並	中・少					(19.4)	—	1/8	
455	6-2区	SH16		弥生土器	小型鉢	指オサエ	指オサエ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	中・少					2.4	2.6	1.5	6/8	
456	6-2区	SH23		弥生土器	高杯	ナデ 貼り付 け突帯；ヘ ラミガキ	ヘラミガキ・ヨコ ナデ・ヘラミガキ	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR7/4 に ぶい黄橙	中・並	中・少					—	—	2/8	
457	6-2区	SH23		弥生土器	器種不明	ナデ・ヘラ 描き沈線	指オサエ	10YR6/4 に ぶい黄橙	10YR6/3 に ぶい黄橙	中・並	細・少	細・少				—	—	破片	
458	6-2区	SH22		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 に ぶい黄橙	10YR7/3 に ぶい黄橙	中・並	中・並					(13.1)	—	1/8	
459	6-2区	SH22		弥生土器	甕底部	体部；ハケ・煤 附着 底部； ハケ後ナデ	ヘラ削り	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR6/4 に ぶい黄橙	中・並	中・並					(3.9)	—	3/8	
460	6-2区	SH22		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ヘ ラ描き沈線・穿 孔；ヨコナデ	ヘラ削り	10YR8/4 浅黄橙	5Y5/1 灰	中・並						(7.4)	—	2/8	
461	6-2区	SH09		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	5YR5/6 明 赤褐	5YR5/6 明 赤褐	中・多						(13.9)	—	2/8	
462	6-2区	SH09SF01		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 凹線4条	ヨコナデ	7.5YR6/4 に ぶい黄橙	5YR6/6 橙	中・多	中・少					(11.8)	—	1/8	
463	6-2区	SH09		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	細・少						(10.4)	—	1/8	
464	6-2区	SH09SF07		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	細・少					—	—	—	破片	
465	6-2区	SH09SK02		弥生土器	小型丸 底壺	ナデ	指オサエ後ナデ	7.5YR7/4 に ぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	細・少						(0.5)	—	2/8	
466	6-2区	SH09SK01		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	7.5YR6/4 に ぶい黄橙	7.5YR6/4 に ぶい黄橙	中・少						(23.0)	—	1/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量		残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		
467	6-2区	SH09		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ・ナデ	75YR7/4 に ぶい	75YR7/4に ぶい	中・並	細・少			(25.0)	—	—	1/8		
468	6-2区	SH09		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	5YR5/6明 赤褐	5YR6/6橙	細・少							破片		
469	6-2区	SH09		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ハケ後ヨコナ デ・板ナデ	75YR5/4 に ぶい	75YR6/6橙	中・並	中・少	中・並		(15.0)	—	—	1/8		
470	6-2区	SH09		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・並		細・少		—	—	—	破片		
471	6-2区	SH09		弥生土器	甕底部	体部：ヘラミガ キ 底部：ナデ	ヘラ削り	5YR5/4に ぶい	5YR6/6橙	中・並				—	—	(6.4)	2/8		
472	6-2区	SH09		弥生土器	甕底部	体部：指オサ エ エ底部：ナデ	指オサエ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3に ぶい	中・並	中・少	中・少		—	—	(7.0)	2/8		
473	6-2区	SH09SF05		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	75YR7/4 に ぶい	75YR7/4に ぶい	細・少				(9.1)	—	—	2/8		
474	6-2区	SH09		土師器	鉢	指オサエ後ナデ	ハケ後ナデ	10YR7/4に ぶい	75YR7/6橙	中・並				(11.4)	—	—	1/8		
475	6-2区	SH09		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	75YR6/4 に ぶい	75YR7/4に ぶい	細・少		細・少		(18.2)	—	—	1/8		
476	6-2区	SH09		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/6橙	25Y6/3に ぶい	中・並				(23.8)	—	—	1/8		
477	6-2区	SH09		弥生土器	高杯	ヘラミガ キ	ヘラミガ キ・マメツ	5Y4/1灰	5Y4/1灰	中・多				(21.0)	—	—	1/8		
480	6-2区	SH08		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハケ 種・刻み目突帯	ハケ後ヘラミガキ	75YR7/6橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・並			(24.5)	—	—	1/8		
481	6-2区	SH05		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ 後ヘラミガキ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少	細・並		(17.8)	—	—	1/8		
482	6-2区	SH08		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	5YR6/4に ぶい	5YR6/6橙	中・少	細・並			(20.0)	—	—	1/8		
483	6-2区	SH05		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ケ後ナデ	ヨコナデ・板ナデ	5YR7/6橙	10YR7/3に ぶい	中・並	中・少	細・少		(14.4)	—	—	1/8		
484	6-2区	SH05		弥生土器	甕底部	ハケ	指オサエ後ナデ	75YR6/4 に ぶい	25Y5/2暗 灰黄	中・多				(5.0)	—	—	1/8		
485	6-2区	SH08		弥生土器	甕底部	ハケ	指オサエ・ハ ケ後ナデ	5YR5/6明 赤褐	75YR5/3に ぶい	粗・多	中・並			—	—	3.4	4/8		
486	6-2区	SH08		弥生土器	器種不明	ヘラミガキ・ ヘラ描き沈線	板ナデ	75YR5/4 に ぶい	10YR5/3に ぶい	中・並	中・少			—	—	—	破片		
488	6-2区	SH07		弥生土器	器種不明	ハケ後ナデ・ハ ケ後ナデによる 縁杉状の文様	ナデ	10YR7/6 明黄褐	10YR7/3に ぶい	中・並				—	—	—	破片		
489	6-2区	SH07		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ後ナデ	10YR7/4に ぶい	75YR6/4に ぶい	細・少	細・少			17.2	—	—	6/8		
490	6-2区	SH07		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ後ナデ	75YR7/6橙	75YR8/6 浅黄橙	中・並	中・少			(15.4)	—	—	1/8		
491	6-2区	SH07		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ハケ後ヨコナ デ・ヘラ削り	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・並	中・少			(16.8)	—	—	1/8		
492	6-2区	SH07		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並				(11.9)	—	—	1/8		
493	6-2区	SH07		土師器	甕	ヨコナデ・タ タ後ハケ	ヨコナデ・板ナデ	5YR6/6橙	75YR6/6橙	中・少	細・少			(12.0)	—	—	1/8		

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考				
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率			
494	6-2区	SH07		弥生土器	甕底部	体部：ハラミガキ 底部：ナデ	指オサ工後ナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	外部・釉	10YR6/3に ぶい黄橙	内部・胎土	10YR4/1 褐灰	中・少	細・少				(5.6)	—	2/8			
495	6-2区	SH07		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ハケ・ハラミガキ	5YR6/6橙	外部・釉	5YR6/6橙	内部・胎土	5YR6/6橙	中・少	中・並		細・少		—	(17.0)	—	1/8		
496	6-2区	SH07		土師器	鉢	ヨコナデ・ 板ナデ	ヨコナデ・ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	外部・釉	7.5YR5/4 にぶい褐	内部・胎土	10YR6/4に ぶい黄橙	中・多	細・少		細・少		—	(20.8)	—	1/8		
497	6-2区	SH07		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	7.5YR6/4 にぶい橙	外部・釉	7.5YR6/4 にぶい橙	内部・胎土	7.5YR6/4に ぶい黄橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
498	6-2区	SH07		土師器	鉢	指オサ工後ナデ	指オサ工後ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	外部・釉	7.5YR6/4 にぶい橙	内部・胎土	7.5YR6/4に ぶい黄橙	中・並	中・少		細・少		—	(8.4)	—	1/8		
499	6-2区	SH07		弥生土器	高杯	ナデ	ナデ・板ナデ	2.5Y6/2 灰黄	外部・釉	2.5Y6/2 灰黄	内部・胎土	2.5Y7/2 灰黄	中・多	細・少				—	(9.8)	—	1/8		
500	6-2区	SH07		土師器	高杯	ヨコナデ後 ハラミガキ	ヨコナデ・ナデ	2.5Y8/2 灰白	外部・釉	2.5Y8/2 灰白	内部・胎土	10YR8/3 浅黄橙	中・並	中・並				—	(16.9)	—	2/8		
503	6-2区	SH15		土師器	高杯	ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	外部・釉	7.5YR6/6 橙	内部・胎土	7.5YR7/6 橙	中・並	中・少				—	(12.8)	—	2/8		
506	6-2区	SH03		土師器	短頸壺	ヨコナデ	板ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	外部・釉	7.5YR6/4 にぶい橙	内部・胎土	7.5YR7/6 橙	中・少	中・少				—	(8.6)	—	1/8		
507	6-2区	SH03		土師器	細頸壺	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	7.5YR7/6 橙	外部・釉	7.5YR7/6 橙	内部・胎土	5YR6/6 橙	中・並	中・少		中・少		—	(9.4)	—	1/8		
508	6-2区	SH03		弥生土器	甕	ヨコナデ・タ タキ後ハケ	ヨコナデ・ハ ケ・ナデ	5YR7/6 橙	外部・釉	5YR7/6 橙	内部・胎土	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・並				—	(12.8)	—	1/8		
509	6-2区	SH03		土師器	甕	ヨコナデ・板ナ デ・ハラ削り	ヨコナデ・板ナデ	7.5YR7/6 橙	外部・釉	7.5YR7/6 橙	内部・胎土	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並					—	(9.0)	8.9	—	4/8	
510	6-2区	SH03		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	7.5YR2/1 黒	外部・釉	7.5YR2/1 黒	内部・胎土	10YR4/1 褐灰	中・並			細・少		—	(36.2)	—	1/8		
511	6-2区	SH03		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	10YR7/3に ぶい黄橙	外部・釉	10YR7/3に ぶい黄橙	内部・胎土	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少			細・少		—	(18.6)	—	1/8		
512	6-2区	SH03		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	5YR6/6 橙	外部・釉	5YR6/6 橙	内部・胎土	5YR6/6 橙	細・少					—	—	—	1/8		
513	6-2区	SH03		弥生土器	鉢	ナデ	ナデ・ハケ	5YR6/6 橙	外部・釉	5YR6/6 橙	内部・胎土	5YR6/6 橙	中・少	細・少				—	—	—	破片		
514	6-2区	SH03		土師器	鉢	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	2.5Y8/2 灰白	外部・釉	2.5Y8/2 灰白	内部・胎土	2.5Y8/3 淡黄	細・少	細・少				—	(15.0)	—	1/8		
515	6-2区	SH03		土師器	鉢	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・指オ サ工・マメツ	7.5YR6/6 橙	外部・釉	7.5YR6/6 橙	内部・胎土	5YR7/6 橙	中・多	中・少				—	(12.2)	—	2/8		
516	6-2区	SH03		土師器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	外部・釉	10YR8/4 浅黄橙	内部・胎土	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少				—	(10.8)	—	4/8		
517	6-2区	SH03		弥生土器	蓋	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	外部・釉	7.5YR5/4 にぶい褐	内部・胎土	10YR6/2 灰黄褐	中・並					—	—	—	3/8		
518	6-2区	SH02SP06		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	外部・釉	N6/ 灰	内部・胎土	N6/ 灰				細・少		—	—	—	破片		
519	6-2区	SH03		須恵器	高杯	回転ナデ・ 透し孔	回転ナデ	N5/ 灰	外部・釉	N5/ 灰	内部・胎土	N6/ 灰				中・少		—	—	—	破片		
520	6-2区	SH03		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	外部・釉	N5/ 灰	内部・胎土	N6/ 灰	中・少					—	(11.2)	—	1/8		
521	6-2区	SH02SP06		須恵器	短頸壺	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	外部・釉	N6/ 灰	内部・胎土	N5/ 灰				中・少		—	—	—	破片		
529	6-2区	SH10		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	外部・釉	N7/ 灰白	内部・胎土	N7/ 灰白				中・少		—	(13.7)	—	1/8		
530	6-2区	SH10		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	外部・釉	N5/ 灰	内部・胎土	N5/ 灰				細・少		—	—	—	破片		

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)		
531	6-2区	SH02		弥生土器	高杯	杯部：ナデ 脚部：ハケ	杯部：ナデ 脚部：ハケ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並						6/8	
532	6-2区	SH02		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	5YR7/6橙	5YR6/6橙	中・並	中・少					1/8	
533	6-2区	SH02		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ケ・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ・ハケ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6橙	中・少						破片	
534	6-2区	SH02		土師器	製塩土器	ナデ・指オサ 工後板ナデ	ナデ・指オサ 工後板ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	7.5YR3/1黒褐	中・多						破片	
535	6-2区	SH02		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰							破片	
536	6-2区	SH02SP01		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹 線4条・刻み目	ヨコナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少					1/8	
537	6-2区	SH02SP01		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ・刻み目 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・少					1/8	
538	6-2区	SH02SP01		須恵器	杯	回転ナデ・回 転ヘラ削り	回転ナデ	N4/灰	N5/灰	中・少						1/8	
539	6-2区	SH01SP04		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少					破片	
541	6-2区	SH04SP03		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	5YR6/4に ぶい黄橙	5YR6/6橙	中・少	中・少					1/8	
542	6-2区	SH04		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ハ ケ・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ・ハケ	10YR6/4に ぶい黄橙	10YR6/4に ぶい黄橙	中・並	中・少					破片	
543	6-2区	SH04		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	7.5YR7/6橙	5YR7/8橙	中・並	中・並					1/8	
544	6-2区	SP08		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/8橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並						破片	
545	6-2区	SH04		弥生土器	鉢	ナデ・ヘラ描き 沈線2条・ハケ	ナデ・ヘラミガキ	7.5YR6/6橙	5YR5/6明 赤褐	中・並	中・少					1/8	胎土中に火 山ガラス含 (輸入か?)
546	6-2区	SH04		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4に ぶい黄橙	中・少						1/8	
547	6-2区	SH04		弥生土器	鉢	ハケ後ナデ	指オサ工後ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・並					7/8	
548	6-2区	SH04SP03		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5GY5/1オ リーブ灰	N6/灰		中・多					1/8	
549	6-2区	SH04		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	7.5YR5/1褐灰		中・少					1/8	
550	6-2区	SH04		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白		中・少					破片	
554	6-2区	SH01		弥生土器	広口壺	ハケ	ハケ・指オサエ	7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・少						1/8	
555	6-2区	SH01		土師器	甕	指オサ工後 ヨコナデ	ハケ後ナデ	2.5Y8/2灰白	10YR8/6黄橙	中・並	中・少					1/8	
556	6-2区	SH01		土師器	甕	ナデ・指オサ 工後ナデ	ナデ・指オサ 工後板ナデ	10YR6/4に ぶい黄橙	2.5Y6/6明 黄褐	中・多	中・少					4/8	
557	6-2区	SH01		土師器	鉢	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少	細・少					1/8	
558	6-2区	SH01		土師器	鉢	ナデ	ナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙	細・少	細・少					1/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	
559	6-2区	SH01		土師器	甗	ヨコナデ・指オサエ後板ナデ	板ナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・多	中・少				—	—	—	破片	
560	6-2区	SH01		土師器	甗	指オサエ	指オサエ	10YR8/3 浅黄橙	—	細・少	細・少				—	—	—	破片	
561	6-2区	SH01		土師器	甗	指オサエ	指オサエ	5YR7/6橙	—	細・並					—	—	—	破片	
562	6-2区	SH01		土師器	製塩土器	体部：指オサエ 底部：ナデ	不明	2.5Y6/4に ぶい黄	2.5Y6/4に ぶい黄	中・並		細・少			—	—	2.4	7/8	
563	6-2区	SH01		土師器	甗の羽口	板状庄痕	ナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6橙	中・多					現存長 12.1	最大幅 7.8	最大厚 7.3	破片	
564	6-2区	SH01		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰		中・少				(12.0)	—	—	1/8	
565	6-2区	SH01		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5P6/1紫灰	N5/灰		中・多				(11.9)	—	—	1/8	
566	6-2区	SH01		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰	中・並					(11.4)	—	—	1/8 焼成や や不良	
567	6-2区	SH01		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰		中・少				(11.6)	—	—	1/8	
568	6-2区	SH01		須恵器	皿	体部：回転ナ デ 底部：回 転ヘラ削り	回転ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白		中・少				(15.0)	—	(12.7)	1/8	
569	6-2区	SH01		須恵器	鉢	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰		中・少				(13.7)	—	—	3/8	
570	6-2区	SH01		須恵器	広口壺	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N4/灰		細・少				—	—	—	1/8	
585	6-2区	SH06		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ・ 板ナデ後ナデ	指オサエ後ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR7/6橙	中・並					(10.1)	3.4	—	4/8	
586	6-2区	SH06		弥生土器	鉢	ナデ	ナデ・ハケ	5YR6/6橙	5YR7/6橙	中・少	細・少				(10.8)	—	—	3/8	
587	6-2区	SH06		弥生土器	甗	ヨコナデ・穿孔	ヨコナデ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並					(12.8)	—	—	1/8	
590	6-2区	SH11		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ後ハラミ ガキ・ハケ後ハ ラミガキ・ナデ	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並	中・少	中・少	中・並		(17.6)	—	—	1/8	
591	6-2区	SH11		弥生土器	甗	ヨコナデ・ハケ	ハケ後ヨコナ デ・ハラ削り	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR6/6橙	中・少	中・少				(16.8)	—	—	1/8	
592	6-2区	SH12		土師器	甗	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/3浅黄	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並				—	—	—	—	破片	
593	6-2区	SH11		弥生土器	甗底部	ハケ・ナデ	ナデ・板ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5 Y R 4/4褐	中・並	中・少				—	—	(1.2)	7/8	
594	6-2区	SH11		土師器	高杯	指オサエ後ナデ	板ナデ後ナデ	10YR6/2 灰黄橙	10YR7/2に ぶい黄橙	中・少	細・少				(15.6)	—	—	1/8	
595	6-2区	SH11		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハ ケ・ハラ削り	ヨコナデ・ハケ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少	細・並			(19.0)	—	—	1/8	
596	6-2区	SH11		弥生土器	鉢	マメツ	マメツ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR6/4に ぶい黄橙	細・少	細・少				(16.0)	—	—	1/8	
597	6-2区	SH11		土師器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR7/4に ぶい黄橙	中・並					(16.2)	—	—	破片	
598	6-2区	SH11		土師器	鉢	指オサエ後ナデ	ハケ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・並	中・少				(12.0)	—	—	1/8	

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
599	6-2区	SH11		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	板ナデ・ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・少	細・少				—	—	—	1/8		
600	6-2区	SH11		土師器	鉢	ナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並					(10.2)	—	—	1/8		
601	6-2区	SH11		土師器	鉢	ナデ・マメツ	板ナデ後ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	5YR7/6橙	中・並					(9.8)	—	—	1/8		
608	6-2区	SH14		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/1褐灰	5YR5/6明 赤褐	中・少					(18.0)	—	—	1/8		
609	6-2区	SH14		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	N4/灰	N4/灰	中・並	中・少				—	—	—	破片		
610	6-2区	SH14		土師器	甕	指オサエ・板 ナデ・ナデ	ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少				—	—	—	破片		
611	6-2区	SH14		土師器	移動式竈	指オサエ・ マメツ	板ナデ	5YR5/6明 赤褐	5YR5/6明 赤褐	中・多	中・少				—	—	—	破片		
612	6-2区	SH14		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	5Y7/1灰白	5Y6/1灰						—	—	(8.1)	—	2/8	
613	6-2区	SH14		須恵器	高台付碗	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N6/灰						—	—	(9.5)	—	7/8	
614	6-2区	SH14		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N3/暗灰	N3/暗灰						—	—	—	—	破片	
615	6-2区	SH14		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N3/暗灰	N4/灰						—	—	(20.9)	—	1/8	
622	6-2区	SK16		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・擬 凹線・ハケ	ヨコナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	中・多					(13.0)	—	—	1/8		
623	6-2区	SK16		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少				—	—	—	—	破片	
624	6-2区	SK16		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・凹線	ヨコナデ・ハ ラミガキ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/3淡黄	中・並					—	—	—	—	破片	
625	6-2区	SK16		弥生土器	高杯	ナデ・ハラミ ガキ・ヨコナ デ・擬凹線	ハラ削り・ヨ コナデ	7.5YR7/6橙	5YR6/6橙	中・多					—	—	10.8	—	6/8	
626	6-2区	SK15		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 擬凹線	ヨコナデ	2.5Y3/1黒褐	7.5YR7/6橙	中・並	中・少				(14.9)	—	—	—	1/8	
627	6-2区	SK15		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/8橙	5YR6/6橙	中・並	細・少				—	—	—	—	破片	
628	6-2区	SK15		弥生土器	高杯	ハラミガキ	ハラミガキ	7.5YR7/6橙	2.5Y3/1黒褐	中・並	中・少				—	—	—	—	2/8	
629	6-2区	SK15		弥生土器	高杯	マメツ・ヨコ ナデ・ハラ描 き沈線・刺突 文・凹線2条	マメツ・ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	中・並					—	—	(8.0)	—	1/8	外・内面 赤色顔料
631	6-2区	SK20		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少				(12.6)	—	—	—	1/8	
632	6-2区	SK20		弥生土器	高杯	板ナデ・ハラ 描き沈線・ヨ コナデ・刻み 目・凹線3条	ハラ削り	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙	粗・並	中・少				—	—	10.0	—	8/8	
633	6-2区	SP88		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6橙	中・並	中・少				(9.6)	—	—	—	1/8	
634	6-2区	SP88		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR7/6橙	中・少					(15.6)	—	—	—	1/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
635	6-2区	SK06		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹線 3条・板状圧痕	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	25Y5/2暗 灰黄	10YR3/1黒褐	中・少					—	—	—	—	2/8	
636	6-2区	SK06		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ラ描き沈線	10YR8/2灰白	75YR7/6橙	細・少	細・少				—	—	—	—	1/8	
637	6-2区	SK06		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹 線2条・ハ ケ・板条工具 による圧痕	ヨコナデ・ナ デ・浮文	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/6橙	中・並					—	—	—	—	2/8	
638	6-2区	SK06		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹 線2条・ハ ケ	ヨコナデ・ナ デ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・並				—	—	—	—	1/8	
639	6-2区	SK06		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	75YR6/6橙	10YR7/4に ぶい黄橙	細・並	細・少				—	—	—	—	1/8	
640	6-2区	SK06		弥生土器	壺底部	ハケ後ナデ・ ハラミガキ	指オサエ後ハケ	10YR6/4に ぶい黄橙	N2/黒	中・多	細・少				—	—	(6.4)	—	2/8	
641	6-2区	SK06		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	75YR7/4 にぶい橙	75YR6/6橙	中・並	中・少		細・少		—	—	—	—	1/8	
642	6-2区	SK06		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰	中・並	中・並				—	—	—	—	2/8	
643	6-2区	SK06		弥生土器	甕底部	体部：ハラミガ キ 底部：ナデ	ハラ削り・ナデ	5YR6/6橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	細・少				—	—	—	—	7/8	
644	6-2区	SK06		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ・ハケ	10YR4/1褐灰	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少					—	—	(29.0)	—	1/8	
645	6-2区	SK06		弥生土器	高杯	アメツ・ヨコナ デ・凹線2条	ハラ削り	25YR5/6 明赤褐	10YR4/2 灰黄褐	中・並	中・少				—	—	(12.1)	—	2/8	
646	6-2区	SK06		弥生土器	高杯	ハケ・ハラ描き 沈線・ヨコナ デ・凹線1条・ 凹形透し穴	ハラ削り	25YR5/6 明赤褐	75YR5/4に ぶい褐	中・並					—	—	(7.4)	—	1/8	
647	6-2区	SK06		弥生土器	水差	ヨコナデ・ハ ラミガキ	指オサエ後ナデ	N2/黒	25Y6/2灰黄	中・並					—	—	—	—	破片	
652	6-2区	SK09		弥生土器	土製支脚	指オサエ後 板ナデ	指オサエ後板ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少		細・並		—	—	(9.0)	—	3/8	胎土中に 火山ガラス を包含
653	6-2区	SK09		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N3/暗灰	N4/灰						—	—	(8.4)	—	1/8	
654	6-2区	SK09		須恵器	高杯	回転ナデ・透 し穴4方向	回転ナデ	N4/灰	N4/灰						—	—	9.6	—	5/8	
655	6-2区	SK09		土師器	製塩土器	タタキ	ナデ	75Y8/1灰白	75Y8/1灰白	中・少					—	—	—	—	破片	
656	6-2区	SK11		土師器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	10YR6/4に ぶい黄橙	中・少	中・少				—	—	—	—	破片	
657	6-2区	SK12		土師器	鉢	指オサエ後ナデ	マメツ	10YR8/4 浅黄橙	25Y8/2灰白	中・並	中・並				—	—	(13.6)	—	1/8	
658	6-2区	SP20		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						—	—	(13.0)	—	1/8	
659	6-2区	SK14		土師器	甌	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハ ラ削り	5YR7/6橙	5YR6/6橙	細・並	細・少				—	—	(20.8)	—	1/8	内面 焼成破 裂
660	6-2区	SK19		土師器	甕	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	中・多	細・少				—	—	(11.8)	—	2/8	

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
661	6-2区	SK19		土師器	鉢	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・マメツ	75YR7/4 にぶい橙	5YR6/6橙	中・少	細・少				(11.0)	—	—	1/8		
662	6-2区	SK18		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3に ぶい橙	75YR7/4に ぶい黄橙	中・少				(15.0)	—	—	1/8			
663	6-2区	SP94		弥生土器	高杯	マメツ・ハ ラミガキ	マメツ	5Y4/1灰	10YR6/3に ぶい黄橙	細・多	中・少			(25.9)	—	—	1/8			
667	6-2区	SP18		複合口 縁壺	ヨコナデ	ヨコナデ	指オサエ後ヨ コナデ・ハケ	25Y7/2灰黄	25Y6/1黄灰	中・並	中・少			(19.0)	—	—	1/8	購入品・ 外来系		
668	6-2区	SP19		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・少				(14.6)	—	—	1/8	外来系(香 東川下流域)		
669	6-2区	SH04SP04		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/3 にぶい褐	75YR7/4に ぶい橙	中・並		細・少		—	—	—	破片			
670	6-2区	SH04SP04		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	細・少				—	—	—	破片			
671	6-2区	SH04SP04		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	75YR8/6 浅黄橙	75YR7/6橙	中・並				—	—	—	破片			
672	6-2区	SK04		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	10YR6/4に ぶい黄橙	中・並	中・少			(18.0)	—	—	1/8			
673	6-2区	SK04		弥生土器	壺底部	体部：ハラミガ キ 底部：ナデ	指オサエ・ナデ	10YR6/4に ぶい黄橙	N2/黒	中・並				—	—	(7.2)	3/8			
674	6-2区	SK04		須恵器	高杯	回転ナデ・ 透し穴	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					(10.0)	—	—	1/8			
675	6-2区	SK05		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ ハラ削り	ハケ後ナデ	75YR5/4 にぶい褐	75YR5/4に ぶい褐	中・並	中・少			—	—	—	破片			
676	6-2区	SP10		弥生土器	底部	ハケ	ハラ削り後ナデ	2.5Y8/2灰白	10YR5/2 灰黄褐	中・並				—	—	4.0	4/8			
677	6-2区	SK07		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線2条・ハ ラミガキ	ヨコナデ・板ナデ	5YR5/6明 赤褐	5YR5/6明 赤褐	中・並	細・並			(16.8)	—	—	1/8			
678	6-2区	SH01SP11		弥生土器	細頸壺	ハラミガキ	指オサエ・板ナデ	5YR6/6橙	5Y2/1黒	中・並		細・少		—	—	—	2/8			
679	6-2区	SK17		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/6橙	中・並				(10.8)	—	—	1/8			
680	6-2区	SK17		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ラ描き斜格文	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並				—	—	—	破片			
681	6-2区	SP23		弥生土器	高杯	ハラミガキ	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	25Y7/3浅黄	中・並				—	—	—	破片			
682	6-2区	包含層		弥生土器	広口壺	ナデ・ハ ケ・マメツ	ナデ・ハケ・指 オサエ・ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/2に ぶい黄橙	中・並	細・少			(17.0)	—	—	4/8			
684	6-2区	SH11SP07		弥生土器	高杯	ナデ・凹線3条	板ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	5YR7/6橙	細・少	細・少			—	—	—	破片			
685	6-2区	SH11SP05		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4に ぶい黄橙	細・少	中・少			(13.8)	—	—	破片			
686	6-2区	SH11SP06		土師器	鉢	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	細・少				(11.2)	—	—	7/8			
687	6-2区	SH11SP06		土師器	製塩土器	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR8/4 浅黄橙	75YR8/6 浅黄橙	中・並				(5.2)	—	—	1/8			
688	6-2区	SH11SP01		弥生土器	甕底部	ナデ	ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	25Y6/2灰黄	中・並				—	—	(5.4)	1/8			

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	
689	6-2区	SH11SP11		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい	7.5YR7/6 橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片	
690	6-2区	SH11SP11		土師器	製塩土器	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ	5YR6/6 橙	5YR5/8 明 赤褐	中・多				—	—	—	—	破片	
695	6-2区	SP40		弥生土器	水差把手	ナデ	ナデ	7.5YR7/6 橙	—	中・並	中・少			—	—	—	—	破片	
696	6-2区	SP55		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・竹 管文・ハケ・ ヘラ描き沈線	ヨコナデ・指 オサエ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/2に ぶい黄橙	中・並				—	—	—	—	破片	
697	6-2区	SP55		弥生土器	壺	ハケ・貼り付 け突起帯(ハケ原 体による圧痕)	ナデ・ハケ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片	
698	6-2区	SP55		弥生土器	器種不明	マメツ	マメツ	10YR7/3に ぶい黄橙	—	中・並				—	—	—	—	破片	
699	6-2区	SP55		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線4条	ヨコナデ	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	中・少				—	—	—	—	破片	
700	6-2区	SP55		弥生土器	台付鉢	ナデ・凹線3条・ 刻み目	指オサエ後ナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	5YR6/4におい 黄	中・並	中・少			(35.6)	—	—	—	1/8	
702	6-2区	SH11SP16		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線2条・ハケ	ヨコナデ・指オ サエ・板ナデ	5YR5/6 明 赤褐	5YR6/6 橙	中・並	中・少			(18.0)	—	—	—	1/8	
703	6-2区	SH11SP16		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線3条・ハケ 後ヘラミガキ	ヨコナデ・ハ ケ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR3/2 黒褐	中・並	中・少			(10.8)	—	—	—	2/8	
704	6-2区	SH11SP16		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹 線3条・ハケ 後ヘラミガキ	ヨコナデ・ハ ケ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・少				(20.0)	—	—	—	1/8	
705	6-2区	SP89		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ 後ヘラミガキ	ヨコナデ・ハ ケ	5YR6/6 橙	5YR5/6 明 赤褐	中・並	中・少			(9.8)	—	—	—	1/8	
707	6-2区	SD13		土師器	盤	回転ナデ	回転ナデ・暗文	2.5Y6/8 明 黄褐	5YR6/8 橙	細・少				(14.4)	—	—	—	1/8	
708	6-2区	SD13		土師器	甕	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・板ナデ	5YR6/6 橙	10YR6/3に ぶい黄橙					(16.0)	—	—	—	2/8	
709	6-2区	SD13		土師器	器種不明	ナデ・ハケ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3に ぶい褐	中・並	中・少			—	—	—	—	6/8	
710	6-2区	SD13		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					(13.0)	—	—	—	1/8	
711	6-2区	SD13		須恵器	杯蓋	つまみ・回転 ナデ 天井部； 回転ヘラ削り	ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					—	—	—	—	3/8	
712	6-2区	SD13		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					(11.2)	—	—	—	2/8	
713	6-2区	SD13		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(9.6)	—	—	—	1/8	
714	6-2区	SD13		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					(10.4)	—	—	—	1/8	
715	6-2区	SD13		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					—	—	(10.9)	—	1/8	
716	6-2区	SD13		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					—	—	—	—	4/8	
717	6-2区	SD13		須恵器	高杯	回転ナデ・ 透し穴	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					—	—	(11.0)	—	1/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調			胎土					法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部	胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)		
718	6-2区	SD13		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	内部 灰白										1/8	
719	6-2区	SD13		須恵器	甕	回転ナデ 海波文	回転ナデ・青 海波文	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白										1/8	
720	6-2区	SD13		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ・指 オサエ	N4/灰	N6/灰										2/8	
721	6-2区	SD13		須恵器	器台	カキ目・ハラ 描き波状文	指オサエ後 回転ナデ	N5/灰	N5/灰										破片	
724	6-2区	SD15		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10Y8/1灰白	10Y8/1灰白										1/8	焼成不良
725	6-2区	SK25		弥生土器	甕	ヨコナデ	マメツ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並	中・少								1/8	
726	6-2区	SK25		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/2灰白	中・少	中・少								破片	
727	6-2区	SD03	最上層	須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰										1/8	
729	6-2区	SD03	上層	土師質土器	土釜	指オサエ	指オサエ後ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・多	細・少					現存長 140			破片	
730	6-2区	SD03	上層	須恵器	鉢	指オサエ後 回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N6/灰										1/8	(東播系)
731	6-2区	SD03	上層	備前焼	摺鉢	指オサエ・ 回転ナデ	回転ナデ・鉀目	10YR3/1黒褐	10YR3/1黒褐										破片	
732	6-2区	SD03	下層	緑釉陶器	碗	回転ナデ・貼り 付け高台(高台 外面まで施釉)	回転ナデ・施釉	7.5Y7/2灰白	7.5Y7/1灰白										3/8	(硬陶)
733	6-2区	SD03	下層	土師質土器	土釜	ヨコナデ・指 オサエ・マ メツ・ハケ	板ナデ・指オサエ	10YR3/1黒褐	10YR6/4に ぶい黄橙										1/8	
734	6-2区	SD03	下層	土師質土器	土釜	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙										1/8	
735	6-2区	SD03	下層	土師質土器	土釜	指オサエ・ナデ	ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	—	中・多	中・並					長さ 137			破片	厚さ3.1
736	6-2区	SD03	下層	備前焼	摺鉢	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・鉀目	7.5YR6/2灰褐	2.5YR6/4に ぶい橙										破片	
737	6-2区	SD03	最下層	土師質土器	小皿	回転ナデ・回 転ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白										2/8	
738	6-2区	SD03	最下層	土師質土器	杯	体部：回転ナ デ底面：回 転ヘラ切り	マメツ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙										4/8	
739	6-2区	SD03	最下層	土師質土器	摺鉢	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ヨコナデ・ナ デ・鉀目	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙										1/8	
740	6-2区	SD03	最下層	土師質土器	羽釜	ヨコナデ・ハケ・ 指オサエ	ヨコナデ・板 ナデ・ナデ	5YR5/8明 赤褐	5YR6/6橙										2/8	
741	6-2区	SD03	最下層	土師質土器	土釜	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ヨコナデ・板ナデ	2.5Y8/2灰白	10YR8/3 浅黄橙										1/8	
742	6-2区	SD03	最下層	土師質土器	土釜	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ヨコナデ・板ナデ	2.5Y8/2灰白	10YR8/4 浅黄橙										1/8	
743	6-2区	SD03	最下層	土師質土器	土釜	指オサエ後ナデ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	—										—	太さ(3.0)
744	6-2区	SD03	最下層	土師質土器	土鍋	ナデ・指オサ エ(煤付着)	ハケ	2.5Y3/1黒褐	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並									破片	

観文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
745	6-2区	SD03	最下層	須恵器	杯	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	N6/灰	N5/灰						(11.8)	(4.0)	(7.8)	—	3/8	
746	6-2区	SD03	最下層	須恵器	鉢	回転ナデ・タタキ	マメツ	5Y7/1 灰白	N7/ 灰白						—	—	(8.7)	—	4/8	
748	6-2区	SD03	溝底	土師質土器	土釜	板ナデ		10YR4/3に ぶい黄褐	—						長さ 6.8	—	—	—	破片	厚さ 2.8
749	6-2区	SD03	溝底	須恵器	こね鉢	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						(26.0)	—	—	—	1/8	(東播系)
768	6-2区	SR		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・回線3条	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	中・並					(13.0)	—	—	—	1/8	
770	6-2区	古代包含層		土師器	杯	体部：ナデ 底部：回転ヘラ削り・ナデ	ナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4に ぶい橙						—	—	(6.8)	—	5/8	
771	6-2区	古代包含層		土師器	椀	体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ削り	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白						(14.6)	2.8	8.7	—	5/8	
772	6-2区	古代包含層		土師器	羽釜	ナデ・指オサエ	板ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙						—	—	—	—	3/8	
773	6-2区	古代包含層		土師器	移動式籠	ハケ	ナデ	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/2 灰褐						—	—	—	—	破片	
774	6-2区	古代包含層		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	7.5Y5/1 灰	10YR6/3に ぶい黄橙	中・少					12.4	5.8	—	—	4/8	つまみ 2.7 (焼成不良)
776	6-2区	遺構検出		土師器	杯	マメツ	マメツ	7.5YR6/6 橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少					(12.3)	4.8	(6.6)	—	2/8	
777	6-2区	遺構検出		土師器	甌	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	細・並					—	—	—	—	破片	
778	6-2区	遺構検出		—	不明土製品	指オサエ・ナデ・穿孔一カ所	—	10YR4/3に ぶい黄褐	—	粗・多					—	—	—	—	破片	
779	6-2区	遺構検出		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰						(10.2)	—	—	—	1/8	
780	6-2区	遺構検出		須恵器	杯蓋	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	N5/ 灰	10YR6/2 灰黄褐						—	—	—	—	4/8	つまみ 2.7 (焼成不良)
781	6-2区	遺構検出		須恵器	杯	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰						(10.4)	—	—	—	2/8	
782	6-2区	遺構検出		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙						(11.0)	—	—	—	2/8	(焼成不良)
783	6-2区	遺構検出		須恵器	壺	回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						—	—	7.3	—	8/8	
784	6-2区	遺構検出		須恵器	甕	回転ナデ・櫛描き波状文	回転ナデ	N3/ 暗灰	N6/ 灰						(14.2)	—	—	—	1/8	
789	6-2区	攪乱		弥生土器	凹盤状土製品	指オサエ後ナデ	ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並					—	—	—	—	8/8	再加工
794	6-2区	遺構検出		弥生土器	器種不明	櫛描文原体による刷製文(赤色顔料)	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白	中・並					—	—	—	—	破片	赤色顔料・(土佐)
795	6-2区	遺構検出		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹線文6条・棒状浮文	ヨコナデ	N6/ 灰	N5/ 灰	中・並					—	—	—	—	破片	(伊予) 外系
804	6-3区北	SD04		土師質土器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/4に ぶい黄橙					—	—	(7.3)	—	1/8		

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
808	6-3 区南	SH01		弥生土器	広口壺	メムツ・凹 線3条	メムツ	75YR6/4 に ぶい 橙	75YR7/4に ぶい 橙	中・並	中・少				(14.0)	—	—	—	1/8	
809	6-3 区南	SH01		弥生土器	広口壺	メムツ・刻目文	メムツ	5YR6/8 橙	10YR4/1 褐灰	中・多	中・少				(16.0)	—	—	—	1/8	
810	6-3 区南	SH01		弥生土器	広口壺	ヘラミガキ	メムツ・ヘラ削り	10YR6/6 明黄 褐	10YR7/4に ぶい 黄橙	中・少	中・少				(11.0)	—	—	—	4/8	
811	6-3 区南	SH01		弥生土器	長頸壺	メムツ・凹 線3条	メムツ	75YR6/4 に ぶい 橙	75YR6/6 橙	中・並	細・少				(8.8)	—	—	—	1/8	
812	6-3 区南	SH01		弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ・ ハケ・メムツ	ヨコナデ・指オ サエ・板ナデ	75YR6/6 橙	25Y7/3 浅黄	粗・並	中・並				(15.4)	—	—	—	1/8	
813	6-3 区南	SH01		弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR7/4に ぶい 黄橙	75YR6/6 橙	細・少	細・少				(16.0)	—	—	—	1/8	
814	6-3 区南	SH01		弥生土器	甕	ハケ後ナデ・ ヨコナデ	ヨコナデ・板ナデ	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	細・少	細・少				(15.0)	—	—	—	4/8	
815	6-3 区南	SH01		弥生土器	高杯	ナデ	ハケ・ヨコナデ	5YR5/4に ぶい 赤褐	5YR5/3に ぶい 赤褐	細・並	—				—	—	—	—	1/8	
816	6-3 区南	SH01		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ハケ後ヨコ ナデ・ハケ	75YR6/6 橙	25Y7/3 浅黄	粗・並	中・並				(22.0)	—	—	—	破片	
817	6-3 区南	SH01		弥生土器	鉢	メムツ	メムツ	5YR6/6 橙	75YR6/6 橙	粗・並	中・並				(23.1)	—	—	—	破片	
818	6-3 区南	SH01		弥生土器	鉢	ハケ・メム ツ・ヘラ削り	ナデ・メムツ	75YR6/4 に ぶい 橙	75YR7/4に ぶい 橙						19.6	6.6	2.0	—	6/8	
819	6-3 区南	SH01		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	メムツ	10YR7/4に ぶい 黄橙	N3/ 暗灰	中・多	—				7.1	2.7	—	—	7/8	
820	6-3 区南	SH01		弥生土器	鉢	指オサエ・ メムツ	指オサエ・メムツ	10YR6/3に ぶい 黄橙	10YR3/1 黒褐	粗・並	—				6.9	—	—	—	7/8	
826	6-3 区南	SH01SP50		弥生土器	高杯	ハケ後ヘラ ミガキ	ハケ・ヨコナデ	10YR7/3に ぶい 黄橙	10YR7/3に ぶい 黄橙	中・少	—				—	—	(14.8)	—	1/8	
827	6-3 区南	SH01SP58		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ハケ・ヘラ 削り後ハケ	10YR6/4に ぶい 黄橙	N2/ 黒	中・並	細・少				(12.9)	—	—	—	2/8	
828	6-3 区南	SP12		弥生土器	甕	メムツ・指 オサエ	メムツ	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	中・並	中・少				(10.9)	—	—	—	1/8	
829	6-3 区南	SP17		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	75YR5/6 明褐	75YR5/6 明褐	中・並	中・少				(13.6)	—	—	—	1/8	
830	6-3 区南	SP17		弥生土器	鉢	ナデ	メムツ	5YR6/6 橙	75YR6/6 橙	粗・多	中・並				(13.4)	(6.2)	(3.0)	—	6/8	
831	6-3 区南	SP26		弥生土器	鉢	ナデ	ナデ・ハケ	25Y4/1 黄灰	10YR6/3に ぶい 黄橙	粗・並	中・並				14.0	6.4	3.5	—	6/8	
832	6-3 区南	SP27		弥生土器	甕	メムツ	メムツ	5YR6/6 橙	10YR7/4に ぶい 黄橙	中・並	細・少				(15.8)	—	—	—	1/8	
833	6-3 区南	SP41		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/6 橙	75YR6/6 橙	中・並	細・少				(24.0)	—	—	—	破片	
834	6-3 区南	SP44		弥生土器	広口壺	ナデ・凹線3条	ナデ・ヘラ描き斜 格子文・列点文	5YR5/6 明 赤褐	5YR5/6 明 赤褐	粗・多	—				(25.0)	—	—	—	1/8	
835	6-3 区南	SK01		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線2条・ナデ	ヨコナデ	25Y3/1 黒褐	75YR5/4に ぶい 褐	中・並	中・少				(15.6)	—	—	—	1/8	
836	6-3 区南	SP67		弥生土器	甕	メムツ・タ タキ後ハケ	メムツ・ヘラ削り	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	中・多	中・並				(12.4)	21.9	(2.5)	—	3/8	
837	6-3 区南	SD01		弥生土器	高杯	ナデ・凹線4条	ヘラ削り・ヨ コナデ	75YR5/3 に ぶい 褐	75YR5/3に ぶい 褐	中・並	—				—	—	(7.8)	—	2/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
838	6-3区南	SD01		土師質 土器	小皿	回転ナデ・回 転ヘラ切り	回転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白						(7.8)	1.55	(5.6)	—	1/8	
839	7-1区	SH03		弥生土器	細頸長 頸蓋	ナデ・刻み目	ナデ	10YR8/3 浅黄橙	75YR7/6 橙	中・並					—	—	(11.0)	—	破片	
840	7-1区	SH03SP161		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/8 橙	中・少	細・少				—	—	—	—	破片	
841	7-1区	SH03SP161		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	75YR6/3 に ぶい 濁	75YR6/3に ぶい 濁	中・少	中・少				—	—	—	—	破片	
842	7-1区	SH04SP132		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	75YR7/4 に ぶい 濁	75YR7/4に ぶい 濁	細・少					—	—	—	—	破片	
843	7-1区	SH04SD23		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	25Y7/2 灰黄	25Y3/1 黒褐	中・少					—	—	—	—	破片	
844	7-1区	SH12		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ ラミガキ	ヨコナデ・ ラミガキ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並				(19.8)	—	—	—	—	1/8	
845	7-1区	SH12		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ 凹線文	ヨコナデ	10YR6/3に ぶい 黄橙	10YR6/3に ぶい 黄橙	中・少				—	—	—	—	—	破片	
847	7-1区	SH06		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	75YR6/4 に ぶい 濁	75YR6/4に ぶい 濁	中・少				—	—	—	—	—	破片	
848	7-1区	SH06		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・少				—	—	—	—	—	破片	
849	7-1区	SH06		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	75YR5/4に ぶい 濁	中・多	中・少			(20.2)	—	—	—	—	破片	
850	7-1区	SH06		土師器	高杯	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	75YR6/6 橙	75YR7/6 橙	中・並	細・少			(14.8)	—	—	—	—	2/8	
851	7-1区	SH06		弥生土器	高杯	板ナデ・ ラミガキ	板ナデ	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	中・並	細・並			—	—	—	(14.6)	—	3/8	
852	7-1区	SH06		土師器	鉢	ナデ・マメツ	指オサエ・マメツ	10YR6/4に ぶい 黄橙	10YR7/4に ぶい 黄橙	細・多	細・多			(10.0)	—	—	—	—	2/8	
853	7-1区	SH06		弥生土器	鉢	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ヨコナデ・ハケ	10YR7/3に ぶい 黄橙	10YR4/1 褐灰	中・並				(13.8)	—	—	—	—	1/8	
854	7-1区	SH06SP195		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・マメツ	10YR7/3に ぶい 黄橙	10YR7/3に ぶい 黄橙	中・並	中・少			—	—	—	—	—	破片	
855	7-1区	SH06		土師質 土器	土釜	ナデ	ナデ	10YR6/4に ぶい 黄橙	—					—	—	—	—	—	破片	
856	7-1区	SH05		土師器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3に ぶい 黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・少	細・少			—	—	—	(19.5)	—	1/8	
857	7-1区	SH05		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N7/ 灰白					(14.7)	—	—	—	—	2/8	
861	7-1区	SH05SP78		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					—	—	—	—	—	破片	
863	7-1区	SH08		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4 に ぶい 濁	5YR6/6 橙	中・少	細・少			(12.2)	—	—	—	—	1/8	
864	7-1区	SH08		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR7/4に ぶい 黄橙	10YR7/4に ぶい 黄橙	細・並				(13.0)	—	—	—	—	1/8	
865	7-1区	SH08		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・板ナデ	75YR7/4に ぶい 濁	75YR7/4に ぶい 濁	中・並	細・少			(12.2)	—	—	—	—	1/8	
866	7-1区	SH08		土師器	把手	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	25Y7/2 灰黄	—	中・並	中・少			—	—	—	—	—	破片	
867	7-1区	SH08		須恵器	高杯	回転ナデ・透 し穴(方形)	回転ナデ	N4/ 灰	N5/ 灰					—	—	—	—	—	破片	

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						残存率	備考		
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)			器高 (cm)	底径 (cm)
868	7-1区	SH08		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y4/2灰 ナリ	内部・胎土	細・少					9.4	—	—	1/8	
870	7-1区	SH08SP176		土師器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/4 に ぶい燈	2.5Y3/1黒褐 ぶい燈	細・少					—	—	—	破片	
871	7-1区	SH08SP176		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N4/灰	N5/灰						—	—	—	1/8	
872	7-1区	SP183		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						—	—	—	破片	
873	7-1区	SK27		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/4に ぶい黄褐	10YR5/3に ぶい黄褐	細・少					—	—	—	破片	
874	7-1区	SK27		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	10YR5/2 灰黄褐	N3/暗灰	細・少					—	—	—	破片	
875	7-1区	SH09		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ・ 孔(5 つのうち1つ貫 通 4つ未貫通)	7.5YR7/6燈	10YR8/2灰白	中・多					(17.8)	—	—	1/8	
876	7-1区	SH09		弥生土器	高杯	ハケ・ヨコナ デ・穿孔(円形)	ナデ・ハケ・ ヨコナデ	7.5YR6/4 に ぶい燈	7.5YR6/4に ぶい燈	粗・並					—	—	(14.0)	1/8	
877	7-1区	SH09		須恵器	杯身	回転ナデ・回 転ヘラ削り	回転ナデ	7.5Y5/1灰	N6/灰						(12.7)	—	—	1/8	
878	7-1区	SH09		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						(13.0)	—	—	1/8	
879	7-1区	SH07		弥生土器	高杯	ヘラミガキ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	5YR7/8燈	5YR7/6燈	中・並	中・少				(22.4)	—	—	1/8	
880	7-1区	SH07		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						—	—	—	破片	
881	7-1区	SH07SP174		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ・小 凹孔文(未貫 通)・凹形浮文	10YR7/4に ぶい黄燈	7.5YR7/6燈	中・並	中・少				(8.8)	—	—	1/8	
882	7-1区	SH07SP182		須恵器	高杯	回転ナデ・ 透し穴	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						—	—	(9.1)	1/8	
883	7-1区	SH11		弥生土器	甕	ハケ(口縁端 部付近は指オ サエ後ハケ)	ハケ	5YR6/4に ぶい燈	7.5YR6/2灰褐	中・並					—	—	—	破片	
884	7-1区	SH11		弥生土器	高杯	指オサエ後ヨ コナデ	ヨコナデ	10YR6/4に ぶい黄燈	10YR6/4に ぶい黄燈	中・並	中・少				(18.6)	—	—	2/8	外面 赤色顔 料
885	7-1区	SH11		須恵器	高杯	回転ナデ・貼 り付け突帯	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						—	—	—	破片	
886	7-1区	SH11		弥生土器	分銅型 土製品	ナデ・柳描 き重孤文	ナデ	5YR6/6燈	2.5Y7/3浅黄	細・少					—	—	—	破片	
889	7-1区	SH01		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・ヘラ ナデ・ 細き洗線7条・ 横ハケミガキ	ヨコナデ・ヘ ラ削り	2.5Y6/3に ぶい黄	2.5Y7/2灰黄	中・少					(5.2)	—	—	1/8	
890	7-1区	SH01		弥生土器	壺底部	体部：ヘラミガ キ 底面：ナデ	板ナデ	7.5YR6/4 に ぶい燈	7.5YR6/4に ぶい燈	中・並	細・少				—	—	(7.3)	1/8	
891	7-1区	SH01		弥生土器	底部	体部：ハケ 底面：ハケ	板ナデ	10YR5/1褐灰	7.5YR6/4に ぶい燈	細・少					—	—	(4.0)	2/8	
892	7-1区	SH01		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線2条・ハケ	ヨコナデ・ナ デ	5YR6/6燈	5YR6/6燈	細・少	細・少				(14.8)	—	—	1/8	
893	7-1区	SH01		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ケ	ヨコナデ・指 オサエ・ナ デ	10YR6/3に ぶい黄燈	10YR5/2 灰黄褐	中・並	細・少				(7.0)	—	—	1/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
894	7-1区	SH01		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ後 ハラミガキ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少			細・少	(25.0)	—	—	—	1/8		
895	7-1区	SH01		弥生土器	高杯	ハラミガキ・ ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	細・少				—	(14.0)	—	—	1/8		
896	7-1区	SH01		弥生土器	鉢	ナデ・ハラ削り	ハケ後ナデ・ハケ	2.5Y4/1黄灰	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並				—	—	0.5	—	2/8		
897	7-1区	SH01		弥生土器	鉢	ナデ・ハケ	ハケ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	細・少				(12.8)	—	—	—	1/8		
898	7-1区	SH01		弥生土器	鉢	体部：ハケ 底部：ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	細・少				—	—	4.0	—	7/8		
899	7-1区	SH01		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N4/灰	N5/灰					(10.0)	—	—	—	1/8		
900	7-1区	SH01		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					—	—	(11.6)	—	1/8		
901	7-1区	SH01		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N5/灰					—	—	8.6	—	4/8		
907	7-1区	SH01SP24		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 回線3条	ヨコナデ	5YR6/6橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少		(16.0)	—	—	—	—	破片		
908	7-1区	SH01SP24		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	N3/暗灰	2.5Y8/1灰白	細・並			—	—	—	—	—	破片		
909	7-1区	SH16SP05		弥生土器	細頸長 頸壺	ヨコナデ・貼 り付け突帯	ヨコナデ	2.5Y5/2暗 灰黄	2.5Y3/1黒褐	中・少		細・少	(10.0)	—	—	—	—	1/8		
910	7-1区	SH16SP85		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・少	中・少		(24.0)	—	—	—	—	1/8		
912	7-1区	SH02		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 刻み目	ヨコナデ・櫛描き 斜交行・列点文	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	細・少				(14.8)	—	—	—	—	1/8	
913	7-1区	SH02		弥生土器	広口壺	メツツ・ハラ 描き波状文	メツツ	5YR6/8橙	5YR6/8橙	中・並	細・少		(23.2)	—	—	—	—	破片		
914	7-1区	SH02		弥生土器	高杯	ハラミガキ・ ヨコナデ・拳 孔(円形)	ヨコナデ・メツツ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4に ぶい橙	粗・少	細・少	中・少	—	—	—	16.8	—	1/8	(香東川 下流域)	
915	7-1区	SH02		弥生土器	円盤状 土製品	ナデ・ハラ ミガキ	ハラ削り	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR2/1黒	中・並			—	—	—	—	—	8/8		
916	7-1区	SH02		弥生土器	動物形 土製品	ナデ	ナデ	5YR6/6橙	—	中・並	細・並		—	—	—	—	—	破片		
923	7-1区	SH02SP121		弥生土器	二重口 縁壺	ハラミガキ・ハ ラ描き記号文	ハケ後ナデ後 ハラミガキ	5YR6/6橙	5YR6/8橙	中・並	中・少		—	—	—	—	—	破片		
924	7-1区	SB02SP237		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	中・並	中・少		—	—	—	—	—	1/8		
925	7-1区	SB02SP246		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・少	細・少		(18.0)	—	—	—	—	1/8		
927	7-1区	SB04SP238		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	中・並	細・少		(17.8)	—	—	—	—	1/8		
928	7-1区	SB05SP207		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・少	中・少		—	—	—	—	—	破片		
929	7-1区	SB05SP207	柱痕	弥生土器	甕	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・少	中・少		—	—	—	—	—	破片		
930	7-1区	SB05SP220		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ 回線2条	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5Y2/1黒	中・並	細・少		—	—	—	—	—	破片		

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考
						外面	内面	外部・軸	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	
931	7-1 区	SB05SP210		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・口縁 端部；櫛描き 波状文 体部； 回縷3条以上	ヨコナデ	10YR6/3 に ぶい黄橙	10YR6/3 に ぶい黄橙	細・並		細・少			(338)	—	—	1/8	
932	7-1 区	SB06SP172		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ケ・ハケ底体 による庄真文・ タギキ後ハケ	ヨコナデ・円 形浮文・指オ サ工後ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	中・少	細・少				(11.1)	—	—	7/8	
933	7-1 区	SK04		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰						—	—	—	破片	
934	7-1 区	SK02		土師質 土器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						(9.8)	(1.8)	(7.2)	2/8	
935	7-1 区	SK02		土師質 土器	土釜	ヨコナデ・指 オサ工後ナデ	ナデ	2.5Y5/2 暗 灰黄	2.5Y5/1 黄灰	中・並					(17.2)	—	—	1/8	
936	7-1 区	SK02		須恵器	土釜	マメツ・ナデ	ナデ	N3/ 暗灰	N8/ 灰白						(16.2)	—	—	1/8	(瓦質焼成)
937	7-1 区	SK02		土師質 土器	土釜	指オサ工後ナデ	不明	7.5YR6/4 にぶい橙	—						長さ (14.2)	—	—	破片	厚さ(3.0)
939	7-1 区	SK15		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ケ工具によ る斜行文	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	細・少					—	—	—	破片	
940	7-1 区	SK15		弥生土器	甕	体部；ハラミガ キ 底部；ナデ	ヘラ削り	2.5Y5/1 黄灰	10YR7/4 に ぶい黄橙	中・多	細・少				—	—	—	2/8	
941	7-1 区	SK15		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR3/1 黒灰	5YR4/1 褐灰	細・少	細・少				—	—	—	破片	
942	7-1 区	SK18		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR5/6 明 赤褐	7.5YR5/6 明褐	中・少					—	—	—	破片	
943	7-1 区	SK18		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹縷2条	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	10YR7/3 に ぶい黄橙	細・並	細・少				(13.4)	—	—	1/8	
945	7-1 区	SK22		弥生土器	ミニチュ ア土器 (壺)	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 に ぶい褐	中・並		細・少			—	—	1.8	6/8	
946	7-1 区	SK22		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹縷3条	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 に ぶい褐	細・少	細・少				(25.7)	—	—	1/8	
947	7-1 区	SK22		弥生土器	高杯	マメツ・凹 縷2条	ヘラ削り	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 に ぶい黄橙	中・並	細・少				—	—	—	破片	
948	7-1 区	SK23		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 凹縷2条	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	細・少				(14.0)	—	—	1/8	
949	7-1 区	SK23		弥生土器	甕	指オサ工後ナ デ・ハラミガキ	指オサエ後ナデ	10YR6/4 に ぶい黄橙	10YR6/3 に ぶい黄橙						—	—	—	破片	
950	7-1 区	SP128		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ケ	ヨコナデ・ハケ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	中・並					(6.9)	—	—	1/8	
952	7-1 区	SP03		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・マメツ	10YR7/3 に ぶい黄橙	5YR7/6 橙	中・多	中・少				—	—	—	破片	
953	7-1 区	SP15		土師器	甕	ヨコナデ・ハ ケ・ハラミガキ	指オサエ後ナ デ	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少				(13.0)	128	—	4/8	
954	7-1 区	SP15		土師器	甕	ヨコナデ・指 オサ工後ハケ・ ハラミガキ	ヨコナデ・板ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 に ぶい橙	細・少	中・少				(12.5)	—	—	6/8	
955	7-1 区	SP17		須恵器	杯	回転ナデ・回 転ヘラ削り	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白						—	—	—	破片	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量			備考		
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		その他	残存率
956	7-1区	SP25		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線3条・ハケ原体による圧痕文	ヨコナデ・ハケ	5YR6/6 橙	7.5YR7/4 に ぶい橙	中・並			細・少		(16.6)	—	—	—	2/8	
957	7-1区	SP25		弥生土器	高杯	ナデ・ヘラ描き沈線	ヘラ削り	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並					—	—	(11.8)	—	2/8	吉備
958	7-1区	SP27		弥生土器	広口壺	マメツ	ハケ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	中・並					(20.8)	—	—	—	1/8	
959	7-1区	SP27		弥生土器	鉢	マメツ	マメツ	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	中・並	中・少				—	—	—	—	破片	
960	7-1区	SP30		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線3条	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並	中・並				(22.2)	—	—	—	1/8	
961	7-1区	SP32		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線2条	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・少	中・少				—	—	—	—	破片	
962	7-1区	SP32		弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	1 O Y R 5 / 2 灰黄褐	1 O Y R 3 / 1 黒褐	中・並	中・並				(19.0)	—	—	—	1/8	
963	7-1区	SP37		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヘラミガキ	7.5YR7/4 に ぶい橙	7.5YR6/6 橙	中・少	細・少				(17.8)	—	—	—	1/8	
964	7-1区	SP38		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	1 O Y R 7 / 3 に ぶい黄橙	7.5YR7/4 に ぶい橙	細・少	細・少				—	—	—	—	破片	
965	7-1区	SP39		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・並					—	—	—	—	破片	
966	7-1区	SP39		土師器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/4 に ぶい橙	1 O Y R 7 / 6 明黄褐	中・少	中・少				(12.0)	—	—	—	破片	
967	7-1区	SP43		弥生土器	鉢	ナデ・指オサエ後ハケ	指オサエ後ナデ	1 O Y R 6 / 3 に ぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	中・並	中・少	中・並			(8.0)	(6.0)	—	—	3/8	
968	7-1区	SP43		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	7.5YR7/4 に ぶい橙	1 O Y R 7 / 3 に ぶい黄橙	細・少					—	—	—	—	破片	
970	7-1区	SP45		弥生土器	土製支脚	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3 に ぶい黄橙	10YR6/4 に ぶい黄橙	中・並	細・少				—	—	11.0	—	1/8	
971	7-1区	SP45		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	5B65/1 青灰	N5/ 灰						(13.7)	—	—	—	1/8	
972	7-1区	SP47		弥生土器	鉢	指オサエ	ハケ	10YR6/4 に ぶい黄橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	中・少	細・少	細・少			(9.8)	—	—	—	1/8	
973	7-1区	SP56		土師器	二重口縁壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3 に ぶい黄橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	中・並					(15.9)	—	—	—	1/8	
974	7-1区	SP59		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰						(13.0)	—	—	—	1/8	
975	7-1区	SP81		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線3条	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	N3/ 暗灰	細・少					(19.0)	—	—	—	破片	
976	7-1区	SP87		弥生土器	円盤状土製品	ナデ	ヘラミガキ	10YR7/4 に ぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	中・並					長さ 2.9	幅2.6	厚さ 1.1	—	8/8	
977	7-1区	SP117		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 に ぶい黄橙	10YR7/2 に ぶい黄橙	中・少	中・少				—	—	—	—	破片	
978	7-1区	SP117		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線2条	ヨコナデ	5Y2/1 黒	5YR5/6 明赤褐	中・並	中・並				—	—	—	—	破片	
979	7-1区	SP117		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラ描き沈線1条・刻み目・凹線2条	ヘラ削り・ヨコナデ	7.5YR5/4 に ぶい褐	N2/ 黒	細・並	細・少				—	—	(6.8)	—	1/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量		残存率	備考
						外面	内面	外部・軸	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		
980	7-1 区	SP154		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少	細・少			—	—	—	破片	
981	7-1 区	SP162		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹縁3条	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	細・少	細・少	細・少	細・少	—	—	—	破片	
982	7-1 区	SP162		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/4に ぶい黄橙	10YR6/4に ぶい黄橙	細・少	細・少			(15.8)	—	—	破片	
983	7-1 区	SP166		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N4/ 灰					—	—	—	破片	
984	7-1 区	SP201		弥生土器	高杯	メムツ(凹 縁2条)	メムツ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少			—	—	—	破片	
985	7-1 区	SP226		土師器	二重口 縁蓋	ハケ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR3/1 黒褐	中・並				—	—	—	破片	
987	7-1 区	SP242		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ 凹縁5条	ヨコナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・並	中・少			(17.2)	—	—	1/8	
988	7-1 区	SP250		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ 凹縁1条	ヨコナデ・ハ ラミガキ	N2/ 黒	10YR5/2 灰黄褐	中・少				(25.1)	—	—	1/8	
989	7-1 区	SP251		須恵器	短頸壺	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(10.0)	—	—	1/8	
990	7-1 区	SP255		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹縁2条	ヨコナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/4に ぶい黄橙	中・並	中・少			(18.4)	—	—	1/8	
995	7-1 区	SX02		土師器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄					(14.8)	—	—	1/8	
996	7-1 区	SP94		弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	細・少				—	—	—	破片	
997	7-1 区	SP135		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5/2 暗 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並				—	—	—	破片	
998	7-1 区	SP194		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹縁2条	ヨコナデ	5YR5/6 明 赤褐	5YR5/6 明 赤褐	中・少				—	—	—	破片	
999	7-1 区	SP194		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ 凹縁1条 縁端部：凹縁1 条 体部：凹 縁1条・ハケ	ヨコナデ・ハケ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並				—	—	—	破片	
1000	7-1 区	SP218		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹縁2条	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	中・並				(14.6)	—	—	1/8	
1001	7-1 区	SK13		弥生土器	壺底部	体部：ヘラミガ キ 底部：ナデ	メムツ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少			—	—	(7.4)	3/8	
1002	7-1 区	SK19		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹縁2条	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並				—	—	—	破片	
1003	7-1 区	SK32		弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	細・少				—	—	—	破片	
1004	7-1 区	SP64		須恵器	平瓶	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	7.5Y5/1 灰					(6.8)	—	—	1/8	
1005	7-1 区	SP64		土師質 土器	杯	ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙	10YR6/6 明黄褐					—	—	(9.0)	1/8	
1006	7-1 区	SP77		土師質 土器	小皿	体部：回転ナ デ 底部：回 転ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙					—	—	—	破片	
1007	7-1 区	SP141		土師質 土器	杯	指オサエ後 回転ナデ	指オサエ後 回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y8/3 淡黄					—	—	(7.0)	2/8	
1008	7-1 区	SK01		須恵器	碗	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	N8/ 灰白	中・少				(13.9)	—	—	1/8	重ね焼き・ 瓦質焼成

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考		
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他				
1010	7-1 区	SD07		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	75YR8/1 灰白	75YR8/1 灰白									(2.2)		2/8		
1011	7-1 区	SD07		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	10Y3/1 オ リニア黒	5Y3/1 オ リニア黒									(10.1)		1/8		
1012	7-1 区	SD07		須恵器	蓋	ヘラ削り・ 回転ナデ	ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰											1/8		
1013	7-1 区	SD07		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y5/1 灰	5Y6/1 灰											1/8		
1014	7-1 区	SD07		須恵器	杯	回転ナデ・ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	2.5Y7/1 灰白									(12.2)		1/8		
1015	7-1 区	SD07		須恵器	杯	体部：回転ナデ 底部：回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰									(8.0)		1/8		
1016	7-1 区	SD07		須恵器	杯	体部：回転ナデ 底部：回転ヘ ラ切り後ナデ	ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白									(9.1)		1/8		
1017	7-1 区	SD07		須恵器	長頸壺	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白											2/8		
1018	7-1 区	SD07		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰											1/8		
1019	7-1 区	SD09		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10Y5/1 灰	10Y6/1 灰									(11.2)		1/8		
1020	7-1 区	SD11		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白									(12.0)		2/8		
1021	7-1 区	SD11		土師器	把手	指オサエ後ナデ	ナデ	10YR7/3 に ぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	中・並	中・少									破片		
1022	7-1 区	SD03		土師器	杯	ヨコナデ・ヘ ラミガキ	ヨコナデ・ヘ ラミガキ	2.5YR5/8 明赤褐	2.5YR5/8 明赤褐									(17.8)		破片	赤彩	
1023	7-1 区	SD03		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	細・少	細・並									破片	赤色塗彩	
1024	7-1 区	SD03		須恵器	蓋	ナデ・回転ヘ ラ切り後ナ デ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰									2.5	つまみ 2.3	6/8		
1025	7-1 区	SD03		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰										つまみ 2.4	破片		
1026	7-1 区	SD03		須恵器	杯	体部：回転ナ デ 底部：回 転ヘラ切り	回転ナデ	N5/ 灰	N8/ 灰白									3.6	(9.4)	1/8		
1027	7-1 区	SD03		須恵器	杯	体部：回転ナ デ 底部：回 転ヘラ切り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰										(9.0)	2/8		
1028	7-1 区	SD03		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰									(9.6)		1/8		
1029	7-1 区	SD03		須恵器	甕	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白									(13.2)		2/8		
1030	7-1 区	SD03		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰											破片		
1033	7-1 区	SD03		弥生土器	土製支脚	指オサエ後ナ デ	指オサエ・ヘ ラ削り	10YR6/4 に ぶい黄橙	2.5Y5/1 黄灰	中・並		細・並							(8.7)		2/8	
1034	7-1 区	SD03		弥生土器	分銅型 土製品	ナデ・8 条の 刺突文列・飾 描き重孤文	ナデ・貫孔	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	細・少	細・少										破片	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・釉	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
1035	7-1区	SD03		土師質土器	鍋	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	75YR4/4 褐	10YR6/2 灰黄褐	中・並	中・少			(35.0)	—	—	—	1/8		
1036	7-1区	SD03		土師器	把手	指オサエ後ナデ	不明	75YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙					—	—	—	—	破片		
1037	7-1区	SD03		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					—	—	つまみ 3.7	—	7/8		
1038	7-1区	SD03		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					—	—	つまみ 2.9	—	7/8		
1039	7-1区	SD03		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰				(17.8)	—	—	—	—	1/8		
1040	7-1区	SD03		須恵器	杯	体部：回転ナデ 底部：ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰				(17.2)	4.2	(12.4)	—	—	1/8		
1041	7-1区	SD03		須恵器	皿	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	5Y6/1 灰				(25.6)	—	—	—	—	1/8		
1042	7-1区	SD03		須恵器	長頸壺	体部：回転ナデ 底部：ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白				—	—	(8.2)	—	—	4/8		
1045	7-1区	SD03		土師器	移動式竈	ハケ・指オサエ・ナデ	ハケ・指オサエ・ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	中・多	中・少			—	—	—	—	破片		
1047	7-1区	SD03		土師質土器	小皿	体部：回転ナデ 底部：回転ナデ 転ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙				(7.6)	0.8	(6.4)	—	—	1/8		
1048	7-1区	SD03		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N5/ 灰				(7.6)	—	—	—	—	2/8		
1049	7-1区	SD03		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白				(13.8)	—	—	—	—	破片		
1050	7-1区	SD03		土師器	杯	回転ナデ・貼り付け高台	回転ナデ	5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/3 浅黄橙				—	—	(11.6)	—	—	2/8		
1051	7-1区	SD03		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰				(17.6)	—	—	—	—	1/8		
1052	7-1区	SD03		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰				—	—	(9.6)	—	—	1/8		
1053	7-1区	SD03		須恵器	把手	ナデ	指オサエ後 回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰				—	—	—	—	—	破片		
1056	7-1区	SD01		瓦質土器	鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	N6/ 灰	N7/ 灰白				(37.0)	—	—	—	—	1/8		
1057	7-1区	SD01		土師質土器	土鍋	ヨコナデ・板ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ハケ	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y7/2 灰黄	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
1058	7-1区	SD01		土師質土器	土釜	板ナデ・指オサエ	ハケ	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐				長さ (14.7)	高さ 2.7	—	—	—	破片		
1059	7-1区	SD01		須恵器	杯身	体部：回転ナデ 底部：回転ナデ ヘラ切り後ナデ・ヘラ記号	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白				(10.8)	(4.5)	(6.8)	—	—	2/8		
1060	7-1区	SD01		須恵器	杯身	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y6/1 灰	N7/ 灰白				(14.0)	—	—	—	—	1/8		
1061	7-1区	SD01		須恵器	杯	体部：回転ナデ 底部：回転ナデ 転ヘラ切り	回転ナデ・ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰				(14.9)	4.8	(9.7)	—	—	4/8		
1062	7-1区	SD01		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y5/2 灰 オリーブ				(9.6)	—	—	—	—	破片		
1063	7-1区	SD01		須恵器	こね鉢	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白				—	—	—	—	—	破片	東播系	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考					
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他							
1064	7-1区	SD01		備前焼	擂鉢	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・脚目	25Y4/2 暗灰黄	25Y4/3 オリーフ褐													破片			
1065	7-1区	SD01		備前焼	擂鉢	回転ナデ	回転ナデ・脚目	25Y3/1 黒褐	25Y4/1 黄灰														破片		
1066	7-1区	SD01		備前焼	甕	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	5Y4/1 灰														1/8		
1067	7-1区	SD01		白磁	碗	回転ナデ・削り出し高台	施釉・ヘラ描き沈線	7.5Y8/1 灰白	5Y7/2 灰白															2/8	
1068	7-1区	SD01		青磁	碗	施釉	施釉	10Y5/2 オリーフ灰	10Y5/2 オリーフ灰															1/8	
1071	7-1区	SD02		土師質土器	土鍋	ヨコナデ・指オサエ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙															1/8	
1072	7-1区	SD02		須恵器	こね鉢	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白															破片	東播系
1073	7-1区	SD02		須恵器	鉢	体部：ナデ底 部：回転茶きり	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰															1/8	
1074	7-1区	SD08		土師質土器	杯	体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰															2/8	
1075	7-1区	SD08		土師質土器	土釜	指オサエ後ナデ	ハケ後ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐															1/8	
1076	7-1区	SD08		土師質土器	土釜	指オサエ後ナデ	指オサエ後ハケ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙															1/8	
1077	7-1区	SD08		土師質土器	土釜	板ナデ・ナデ	ハケ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白															破片	厚さ3.1
1078	7-1区	SD08		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白															1/8	
1079	7-1区	SD08		須恵器	こね鉢	回転ナデ	回転ナデ・板ナデ	5YR6/1 褐灰	5YR6/1 褐灰															1/8	東播系、焼成不良
1082	7-1区	SX08		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ 描き斜行文	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙															2/8	
1083	7-1区	SX08		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線 3条・タタキ後 ハケ・刻み目	ヨコナデ・指 オサエ	5YR6/8 橙	5YR6/6 橙															2/8	
1084	7-1区	SX08		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ ケ・ハケ原体 による庄真文・ ヘラミミガキ	ヨコナデ・板ナデ・ 指オサエ後ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/6 明褐															4/8	
1085	7-1区	SX08		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線 3条・ハケ・ ヘラ描き庄真 文・ヘラミミガキ	ヨコナデ・ハ ケ・ヘラ削り	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙															4/8	
1086	7-1区	SX08		弥生土器	甕	体部：ヘラ ミミガキ 部：マメツ	ヘラ削り・指 オサエ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐															4/8	
1087	7-1区	SX08		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹線 3条(口縁端 部上面)・凹線 2条(口縁部外 面)・ヘラミミガキ	ヨコナデ・ハ ケ	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙															2/8	
1088	7-1区	SX08		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ケ	ヨコナデ・ハ ケ	5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙															1/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
1089	7-1区	SX08		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・マメツ・ヘラ描き沈線・穿孔(口形)・ヨコナデ	杯部：ヘラミガキ脚部：ヘラ削り	75YR7/4にぶい橙	10YR8/3浅黄橙	中・多	中・少				—	10.2	—	6/8		
1090	7-1区	SX08		弥生土器	高杯	マメツ・ヘラ描き沈線・回線3条(脚端部)	ヘラ削り	75YR6/4にぶい橙	5YR5/6明赤褐	中・並	細・並				—	12.6	—	2/8	(備中)	
1091	7-1区	SX04		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・回線2条	ヨコナデ・ヘン描き重弧文	25Y7/3浅黄	25Y7/3浅黄	中・並	中・並				—	—	—	1/8		
1092	7-1区	SX04		弥生土器	甕	ヨコナデ・回線3条	ヨコナデ	5YR5/6明赤褐	5YR5/8明赤褐	中・並	中・並				—	—	—	1/8		
1093	7-1区	SX01		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ	75YR6/4にぶい橙	75YR6/4にぶい橙	細・少	細・少				—	—	—	破片		
1094	7-1区	SX01		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙		細・少				—	—	—	1/8		
1095	7-1区	SX01		土師器	皿	回転ナデ・ナデ	回転ナデ	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐		細・少				—	—	—	破片	赤色塗彩	
1096	7-1区	SX01		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR5/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐		中・少				—	—	—	1/8		
1097	7-1区	SX01		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ	ハケ・指オサエ後ナデ	75YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐		中・少				—	—	—	1/8		
1098	7-1区	SX01		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ	ハケ・板ナデ	75YR7/6橙	5YR6/6橙	中・並	細・少				—	—	—	1/8		
1099	7-1区	SX01		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰		細・少				—	—	—	2/8		
1100	7-1区	SX01		須恵器	蓋	回転ヘラ削り・回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白		細・少				—	—	—	1/8		
1101	7-1区	SX01		須恵器	蓋	回転ヘラ削り後ナデ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰		細・少				—	—	—	2/8		
1102	7-1区	SX01		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白		細・少				—	—	—	1/8		
1103	7-1区	SX01		須恵器	蓋	回転ヘラ削り後ナデ・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰		細・多				1.5	—	—	5/8		
1104	7-1区	SX01		須恵器	蓋	回転ヘラ削り・回転ナデ	回転ナデ後ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰		細・少				—	—	—	1/8		
1105	7-1区	SX01		須恵器	蓋	回転ヘラ削り・回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰		細・少				—	—	—	1/8		
1106	7-1区	SX01		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	25Y7/2灰黄	N4/ 灰		細・少				—	—	—	1/8		
1107	7-1区	SX01		須恵器	杯	体部：回転ナデ底部：回転ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N3/ 暗灰	N4/ 灰		細・少				3.3	12.8	—	5/8	焼成不良	
1108	7-1区	SX01		須恵器	杯	体部：回転ナデ底部：回転ヘラ削り	回転ナデ	N5/ 灰	N4/ 灰		細・少				—	(11.6)	—	2/8		
1109	7-1区	SX01		須恵器	杯	体部：回転ナデ底部：回転ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	25Y7/2灰黄	25Y7/2灰黄		細・少				5.0	8.6	—	7/8	焼成不良	
1110	7-1区	SX01		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1灰	5Y6/1灰		中・少				—	—	—	破片		
1111	7-1区	SX01		須恵器	杯	回転ナデ・ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰		細・少				—	(12.2)	—	3/8		

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
1112	7-1区	SX01		須恵器	杯	外面：回転ナデ 底部：回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	外部・釉 5Y7/1灰白	内部・胎土 5Y7/1灰白						細・少	—	(9.6)	—	5/8	
1113	7-1区	SX01		須恵器	杯	外面：回転ナ デ底部：回 転ヘラ切り	回転ナデ	N6/灰	N8/灰白						細・少	—	(9.6)	—	3/8	
1114	7-1区	SX01		須恵器	杯	外面：回転ナ デ底部：回 転ヘラ切り	回転ナデ	N6/灰	N6/灰						細・少	—	8.2	—	5/8	
1115	7-1区	SX01		須恵器	杯	外面：回転ナ デ底部：回 転ヘラ切り	回転ナデ	N3/暗灰	N5/灰						細・少	(11.0)	6.3	(6.5)	3/8	
1116	7-1区	SX01		須恵器	杯	外面：回転ナ デ底部：回 転ヘラ切り	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						細・少	(10.2)	(5.0)	(7.0)	3/8	
1117	7-1区	SX01		須恵器	皿	外面：回転ナ デ底部：回 転ヘラ切り	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					中・少	(17.8)	2.6	(12.2)	—	3/8	
1118	7-1区	SX01		須恵器	壺	外面：回転ナ デ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					細・少	(11.6)	—	—	—	1/8	
1119	7-1区	SX01		須恵器	甕	外面：回転ナ デ	回転ナデ	N4/灰	N6/灰					細・多	(24.2)	—	—	—	1/8	
1123	7-1区	SR01		弥生土器	高杯	外面：回転ナ デ・ヘラ 描き洗線(斜格 子文、洗線10 条、斜行文)	ヨコナデ・ハ ケ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・少						—	(17.5)	—	1/8	
1124	7-1区	SR01		弥生土器	鉢	外面：回転ナ デ・ハケ	ヨコナデ・ナ デ	5YR5/4に ぶい赤褐	7.5YR6/4に ぶい橙	細・並				細・並	(11.0)	—	—	—	1/8	
1125	7-1区	SR01		弥生土器	広口壺	外面：凹 線2条・ナ デ・ハケ	ヨコナデ・ナ デ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・少						(16.4)	—	—	1/8	
1126	7-1区	遺構検出		弥生土器	二重口 縁壺	外面：凹 線7条・半 裁竹管文	ヨコナデ	5Y4/1灰	10YR8/2灰白	中・並	中・少					—	—	—	破片	
1127	7-1区	遺構検出		弥生土器	高杯	外面：回転ナ デ・ハケ 後ヘラミガキ	ヨコナデ・ハ ケ	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3に ぶい黄橙	中・多	中・少					—	(26.8)	—	1/8	職入品
1128	7-1区	遺構検出		弥生土器	飯蛸壺	外面：後板 状工具によ るオサエ・ナ デ・穿孔1	指オサエ後 ナデ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y8/4 淡黄	中・少						—	—	—	3/8	
1129	7-1区	遺構検出		須恵器	把手	外面：指オサ エ後ナデ	指オサエ後 回転ナデ	N5/灰	N5/灰					中・少	—	—	—	—	破片	
1133	7-3区	SH07		弥生土器	鉢	外面：ナデ・マ メツ	指オサエ後 ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・並					7.3	10.3	3.2	5/8	
1134	7-3区	SH07		弥生土器	甕	外面：ヨコナ デ	マメツ・ナ デ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・並					(15.8)	—	—	1/8	
1135	7-3区	SH13		弥生土器	高杯	外面：ヨコナ デ・ヘラ状 描き罫文	ヨコナデ・ヘ ラ状 工具による庄 痕	N3/暗灰	10YR6/2 灰黄褐	細・少						—	—	—	破片	
1136	7-3区	SH13		弥生土器	高杯	外面：ヨコナ デ	ヨコナデ	10YR6/8 明黄褐	2.5YR7/8橙	中・多	細・少					—	—	—	破片	
1137	7-3区	SH05	上層	弥生土器	広口壺	外面：ヨコナ デ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	7.5YR7/6橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	細・少				(14.7)	—	—	—	1/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量		残存率	備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)			その他
1138	7-3区	SH05	上層	弥生土器	壺底部	体部：マメツ・指オサエ 底部：ナデ	指オサエ・マメツ	10YR6/4に ぶい黄橙	内部・胎土	中・多	細・少				—	—	(58)	—	2/8	
1139	7-3区	SH05	上層	弥生土器	甕	ヨコナデ・タ タキ後ハケ	ヨコナデ・ハ ラ削り	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	粗・並	中・少				(15.6)	—	—	—	3/8	
1140	7-3区	SH05	上層	弥生土器	高杯	ハケ後ハラミ ガキ・ヨコナ デ・穿孔1	ナデ・ヨコナ デ	10YR7/4に ぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄	中・少	中・少				—	—	(17.8)	—	1/8	
1141	7-3区	SH05	上層	弥生土器	高杯	ハケ・ヨコナ デ	ナデ・ヨコナ デ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・並	細・少				—	—	(17.6)	—	破片	
1142	7-3区	SH05	上層	弥生土器	鉢	指オサエ後ナ デ	指オサエ後ナ デ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR5/3に ぶい黄褐	中・並	中・少		中・多		10.8	6.3	2.3	—	7/8	
1143	7-3区	SH05	上層	弥生土器	鉢	体部：ナデ・ 指オサエ・底 部：指オサエ	ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	細・少	細・少				—	—	3.5	—	2/8	
1144	7-3区	SH05	上層	弥生土器	器台	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	10YR7/2に ぶい黄橙	10YR7/2に ぶい黄橙	中・並	中・少				—	—	(12.0)	—	1/8	
1147	7-3区	SH05	床直	弥生土器	広口壺	マメツ	マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・並	中・並			(16.2)	—	—	—	2/8		
1148	7-3区	SH05	床直	弥生土器	甕底部	マメツ	ハラ削り	10YR6/4に ぶい黄橙	10YR6/4に ぶい黄橙	中・多	中・少			—	—	(7.9)	—	2/8		
1149	7-3区	SH05	床直	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ラミガキ	マメツ	2.5YR6/6橙	10R5/6赤	中・並	中・少			(30.0)	—	—	—	1/8		
1150	7-3区	SH05	床直	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・マ メツ	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	中・多	細・少			(22.5)	—	—	—	2/8		
1151	7-3区	SH05	床直	弥生土器	高杯	マメツ	ヨコナデ・マ メツ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR5/4に ぶい黄褐	中・多	細・少			(22.4)	—	—	—	1/8		
1152	7-3区	SH05	床直	弥生土器	高杯	ハケ・ハラミ ガキ・円形穿 孔(3方向か)	マメツ	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙	中・並	中・並		細・少	—	—	(16.3)	—	2/8		
1154	7-3区	SH05SF75		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ケ	マメツ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・並				(11.6)	—	—	—	1/8		
1155	7-3区	SH05SF75		弥生土器	甕	ヨコナデ・指 オサエ後板ナ デ	ヨコナデ・指 オサエ・ハラ削り	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少			(16.8)	—	—	—	1/8		
1156	7-3区	SH05SF75		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ケ	ヨコナデ・ハ ラ削り	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・少			(11.3)	—	—	—	4/8		
1157	7-3区	SH05SF75		弥生土器	甕	体部：ハケ後 ハラミガキ 底部：ハケ	指オサエ後 ハラ削り	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y7/2 灰黄	中・並	中・少			—	—	—	—	2/8	外面 焼成 時破裂痕	
1158	7-3区	SH05SF75		弥生土器	器台	ナデ・板ナ デ・透し穴	指オサエ後 ハラ削り	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	粗・並	中・少		細・少	—	—	—	—	1/8		
1159	7-3区	SH05SF74		弥生土器	甕	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・マ メツ	5YR6/8橙	5YR7/8橙	中・多	中・少			—	—	—	—	破片		
1160	7-3区	SH05SF74		弥生土器	鉢	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	5YR5/6明 赤褐	10YR6/4に ぶい黄橙	中・多	中・少			(12.3)	5.5	(3.6)	—	3/8		
1161	7-3区	SH05SF77		弥生土器	甕	ヨコナデ・擬 凹線2条	ヨコナデ	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	中・並	細・少			—	—	—	—	破片		
1162	7-3区	SH05SF77		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ケ	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	2.5YR7/6橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
1163	7-3区	SH11		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線3条・刻み目	ヨコナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・並			(25.4)	—	—	—	1/8		

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
1164	7-3区	SH11		弥生土器	甕	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ハケ	10YR6/4に ぶい黄橙	5YR6/6橙	中・多	中・並			(18.0)	—	—	—	1/8		
1165	7-3区	SH11		弥生土器	高杯	ナデ	ナデ	7.5YR4/3褐	7.5YR4/4褐	中・多	細・少			—	—	10.6	—	1/8		
1166	7-3区	SH11		弥生土器	鉢	マメツ	マメツ	10YR6/4に ぶい黄橙	10YR6/4に ぶい黄橙	中・多	中・並			(16.6)	—	—	—	1/8		
1167	7-3区	SH12		弥生土器	高杯	マメツ・ハケ	ハケ・ヘラミ ガキ・マメツ	10YR7/4に ぶい黄橙	5YR7/8橙	中・多	中・並			30.2	—	—	—	5/8		
1168	7-3区	SH12SD21		弥生土器	鉢	ヘラミガキ キ・マメツ	ヘラミガキ キ・マメツ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並	細・少			(12.0)	7.6	2.9	—	4/8		
1172	7-3区	SH10		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	中・並	中・少	中・少		(13.0)	—	—	—	1/8		
1173	7-3区	SH10SP83		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
1174	7-3区	SH10SD17		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/4に ぶい黄橙	7.5YR6/6橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
1177	7-3区	SH09SD16		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線2条・刻み 目・押捺突帯	ヨコナデ・ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・並	中・少			(27.7)	—	—	—	1/8		
1178	7-3区	SH09・ SH10		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ	7.5YR6/4 にぶい黄	5YR7/6橙	中・多	中・並			(14.6)	—	—	—	1/8		
1179	7-3区	SH09		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ	7.5YR6/4 にぶい黄	7.5YR6/4に ぶい黄	中・並	中・少			(15.8)	—	—	—	1/8		
1180	7-3区	SH09		弥生土器	甕	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・指オ サエ・ヘラ削り	2.5YR6/8橙	2.5YR6/8橙	中・並				(13.9)	—	—	—	1/8		
1181	7-3区	SH09		弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラ削り	7.5YR6/4 にぶい黄	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並	中・並			—	—	6.0	—	5/8		
1182	7-3区	SH09		弥生土器	高杯	ナデ・ヨコナ デ・凹線3条	ヘラ削り	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並	中・少			—	—	(10.2)	—	1/8		
1186	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR7/6橙	中・並	中・少			(14.0)	—	—	—	1/8		
1187	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ハ ケ	ヨコナデ	5YR6/8橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少			(24.5)	—	—	—	1/8		
1188	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・凹 線2条・ハケ	ヨコナデ・凹 線1条・指オ サエ後ナデ	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/4に ぶい褐	中・並	中・少			(11.6)	—	—	—	1/8		
1189	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	5YR7/6橙	7.5YR7/4に ぶい黄	中・並	中・少			(10.4)	—	—	—	1/8		
1190	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/6橙	2.5Y6/2灰黄	中・並	中・並			(32.0)	—	—	—	1/8		
1191	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	2.5Y4/1黄灰	5YR7/6橙	中・少	細・少			(18.4)	—	—	—	1/8		
1192	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	甕	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ハ ケ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	細・並	細・並			(9.9)	—	—	—	2/8		
1193	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	甕	指オサエ	指オサエ・ハ ケ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少	中・少			(10.8)	—	—	—	1/8		
1194	7-3区	SH08	覆土	土師器	甕	マメツ	マメツ	5YR6/8橙	2.5YR6/8橙	中・少				—	—	—	—	破片		
1195	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	高杯	マメツ	マメツ	5YR6/6橙	7.5YR7/4に ぶい黄	中・並				(34.8)	—	—	—	1/8		

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整			色調			胎土						残存率	備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)			その他
1196	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	鉢	外部：指オサエ・ハケ 内部：指オサエ	10YR7/4に ぶい黄橙	75YR7/6橙	中・並						(12.0)	5.0	(5.3)	—	2/8	
1197	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	75YR7/4に ぶい黄橙	75YR6/6橙	細・少						—	—	3.2	—	3/8	
1198	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	鉢	外部：ハケ 内部：ナデ	75YR4/2灰褐 ぶい黄橙	75YR6/4に ぶい黄橙	中・並	中・少					—	—	(5.8)	—	1/8	内面 赤色 顔料付着
1199	7-3区	SH08	覆土	弥生土器	鉢	ナデ	10YR8/4 浅黄橙	N3/暗灰	中・多	細・少					—	—	(5.3)	—	2/8	
1200	7-3区	SH08	覆土	土師器	甗	ナデ・板ナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・多	中・少					(15.6)	—	—	—	破片	
1201	7-3区	SH08	覆土	ミナチヌ ア土器 (底部)	土製品	外部：ハケ 内部：ナデ	75YR6/4に ぶい黄橙	75YR6/4に ぶい黄橙	中・少	細・少					—	—	1.1	—	8/8	
1203	7-3区	SH08	床直	弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハケ	10YR7/4に ぶい黄橙	5YR7/6橙	細・少	細・少					(20.8)	—	—	—	1/8	
1204	7-3区	SH08	床直	弥生土器	広口壺	ヨコナデ・円 形浮文・ハ ケ	10YR5/3に ぶい黄橙	75YR6/4に ぶい黄橙	中・並	中・少					—	—	—	—	破片	
1205	7-3区	SH08	床直	弥生土器	壺(底部)	ハケ	75YR6/6橙	75YR6/6橙	中・並	中・少					—	—	5.2	—	6/8	
1206	7-3区	SH08	床直	弥生土器	甗	ヨコナデ・ハケ	10YR5/2 灰黄褐	10YR7/4に ぶい黄橙	中・少	細・少					(17.4)	—	—	—	1/8	
1207	7-3区	SH08	床直	弥生土器	甗	ヨコナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並	細・少					(18.4)	—	—	—	1/8	
1208	7-3区	SH08	床直	弥生土器	甗	ヨコナデ	75YR7/4に ぶい黄橙	75YR7/4に ぶい黄橙	中・少						(17.8)	—	—	—	1/8	
1209	7-3区	SH08	床直	弥生土器	甗	ヨコナデ・ハ ケ後ヨコナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少	中・少					(15.1)	—	—	—	1/8	
1210	7-3区	SH08	床直	弥生土器	高杯	ハケ・ヨコナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR4/1褐灰	細・少	細・少					—	—	(14.6)	—	1/8	
1211	7-3区	SH08	床直	弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハ ケ後ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・少	中・少					(18.9)	—	—	—	1/8	
1212	7-3区	SH08	床直	弥生土器	鉢	ヨコナデ・ 板ナデ	75YR6/4に ぶい黄橙	75YR6/4に ぶい黄橙	細・少	細・少					11.0	—	—	—	1/8	
1213	7-3区	SH08	床直	弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハ ケ後ナデ	75YR7/3に ぶい黄橙	5YR6/4に ぶい黄橙	中・並	細・少					(25.6)	—	—	—	2/8	
1214	7-3区	SH08SP88		弥生土器	甗	ヨコナデ	10YR4/2 灰黄褐	5YR6/6橙	中・少	細・少					(11.0)	—	—	—	1/8	
1215	7-3区	SH08SP97		弥生土器	甗	ハケ後ヨコナデ	75YR8/4 浅黄橙	5YR7/6橙	細・少	細・少					—	—	—	—	破片	
1216	7-3区	SH08SP97		弥生土器	底部	外部：ヘラミギ キ 内部：ナデ	10YR4/2 灰黄褐	75YR3/2黒褐	中・並	中・並					—	—	(13.3)	—	1/8	
1217	7-3区	SH08SP68		弥生土器	甗	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・少	中・少					—	—	—	—	破片	
1218	7-3区	SH08SD20		弥生土器	甗	ヨコナデ	75YR5/4に ぶい黄橙	75YR5/4に ぶい黄橙	中・少						(12.6)	—	—	—	1/8	
1219	7-3区	SH08SD20		弥生土器	甗	ヨコナデ・ハケ	75YR6/4に ぶい黄橙	5YR6/6橙	中・少						—	—	—	—	破片	
1220	7-3区	SH01		土師器	高杯	ハケ・ヨコナデ	75YR7/4に ぶい黄橙	75YR7/4に ぶい黄橙							—	—	(14.6)	—	1/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		その他
1223	7-3区	SH06		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・苺線4条・刻み目	ヨコナデ・ヘラ描き斜格子文	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・少					(23.8)	—	—	1/8	
1224	7-3区	SH06		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR8/6 浅黄橙	75YR8/6 浅黄橙	中・並					(16.8)	—	—	1/8	
1225	7-3区	SH06		弥生土器	広口壺	指オサエ	ハケ・指オサエ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3 浅黄橙	細・少					(11.2)	—	—	1/8	
1226	7-3区	SH06		弥生土器	複合口縁壺	ヨコナデ・ 編織文	ヨコナデ	75YR8/6 浅黄橙	75YR8/6 浅黄橙	中・並	中・少				(22.0)	—	—	1/8	
1227	7-3区	SH06SP82		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラ描き斜格子文・刻み目・刻み目突帯	ヨコナデ	5YR5/3に ぶい赤褐	5YR5/3に ぶい赤褐	細・少					—	—	—	破片	
1228	7-3区	SH06		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹線2条・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	25YR6/8 橙	25YR6/8 橙	中・並					(22.4)	—	—	1/8	
1229	7-3区	SH06		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹線2条	ヨコナデ・ヘラ削り・ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・少	細・少				—	(13.0)	—	1/8	搬入品(備後?)
1230	7-3区	SH06		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・マメツ	10YR7/3に ぶい黄橙	75YR7/6 橙	中・多	中・少				(14.0)	—	—	1/8	
1231	7-3区	SH06		弥生土器	鉢	指オサエ・ナデ	板ナデ	5YR6/6 橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少				—	2.6	—	6/8	
1232	7-3区	SH06		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・マメツ	10YR6/4に ぶい黄橙	25Y3/1 黒褐	中・多	中・少				(30.7)	—	—	1/8	
1233	7-3区	SH06		弥生土器	台付鉢	ヘラミガキ	指オサエ後ナデ	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	細・並					(4.5)	—	—	5/8	
1235	7-3区	SH06SP73		弥生土器	短頸広口壺	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	75YR6/6 橙	75YR6/6 橙	中・並					(13.0)	—	—	1/8	
1236	7-3区	SH06SP73		弥生土器	鉢	ナデ	ハケ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR6/4に ぶい黄橙	中・並					—	1.5	—	7/8	
1237	7-3区	SP10		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線3条・ヘラ状工具による刻み目	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	中・並	中・少				(24.0)	—	—	1/8	
1238	7-3区	SP16		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並	中・少				—	—	—	破片	
1239	7-3区	SP39		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハケ後ヨコナデ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	75YR7/6 橙	25Y8/3 淡黄	中・並	中・少				(29.7)	—	—	1/8	
1240	7-3区	SP41		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰						—	(10.8)	—	1/8	
1241	7-3区	SP47		弥生土器	甕	ヨコナデ・ヘラ削り後ヨコナデ後ヘラミガキ	指オサエ後ヘラ削り	75Y2/1 黒	10YR6/4に ぶい黄橙	中・並	中・少				(11.4)	—	—	1/8	
1242	7-3区	SP50		土師器	把手	指オサエ・タタキ	不明	10YR7/3に ぶい黄橙	—	中・少					—	—	—	破片	
1243	7-3区	SP51		弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹線1条・穿孔	ヨコナデ・ハケ	10YR8/4 浅黄橙	75YR8/6 浅黄橙	中・少	中・少				—	(19.0)	—	1/8	
1244	7-3区	SP69		須恵器	杯	回転ナデ・貼り付け高台・回転ナデ後板ナデ	回転ナデ	75Y6/1 灰	75Y7/1 灰白						(13.1)	4.9	8.4	4/8	焼成不良

観文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
1245	7-3区	SP70		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ ヘラ削り 線・刻み目	ヘラ削り	25Y3/1 黒褐	25Y3/2 黒褐	中・少			細・少		—	—	—	破片		
1246	7-3区	SP71		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ ヘラ削り 線・刻み目	ヨコナデ・ 波状文・同心円文	25Y4/1 黄灰	75YR6/4に ぶい橙	細・少			細・少		(27.0)	—	—	1/8		
1247	7-3区	SP89		弥生土器	甕	ヨコナデ・ ヘラ削り 線・刻み目	指オサエ	10YR8/4 浅黄橙	5Y3/1オ リーブ黒	中・多				—	(46)	—	—	2/8		
1248	7-3区	SP92		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	75YR4/2 灰褐	75YR4/2 灰褐	中・並			細・並		(14.6)	—	—	1/8		
1249	7-3区	SP94		弥生土器	甕	ヨコナデ・ オサエ後ナデ	指オサエ	25Y6/8 明 黄褐	25Y6/8 明 黄褐	中・並			中・並		(16.6)	—	—	1/8		
1250	7-3区	SP98		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ オサエ後ナデ	ヘラミガキ	75YR6/6 橙	75YR6/6 橙	中・多			中・少		13.9	7.0	4.5	7/8	外面 茶色顔料	
1251	7-3区	SP99		弥生土器	甕	マメツ	マメツ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・多			中・並		(14.8)	—	—	1/8		
1252	7-3区	SP102		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6 橙	10YR5/3に ぶい黄褐	中・並				(9.6)	—	—	1/8			
1253	7-3区	SP103		弥生土器	甕	ヨコナデ	マメツ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並			中・並		(21.6)	—	—	破片		
1254	7-3区	SP110		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・並			中・少		—	—	—	破片		
1255	7-3区	SP111		弥生土器	把手	ヘラミガキ	不明	5YR5/6 明 赤褐	5YR6/6 橙	細・少			細・少		—	—	—	破片		
1256	7-3区	SP112		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ タタキ ヘラ削り 後ヘラミガキ	ヨコナデ・ ヘ ラミガキ	75YR6/6 橙	25Y7/4 浅黄	中・並			中・少		(19.5)	8.4	5.3	5/8		
1257	7-3区	SP113		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ 凹線文	ヨコナデ・ 凹線文	5YR7/6 橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並			細・少		—	—	—	破片		
1259	7-3区	SP151		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ ヨコナデ	ヘラ削り後 ヘラミガキ	10YR7/4に ぶい黄橙	N4/ 灰	中・並			細・少		—	(18.4)	—	1/8		
1260	7-3区	SK02		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					(13.2)	—	—	1/8	焼成不良		
1261	7-3区	SK04		須恵器	杯身	回転ナデ・ 回転ヘラ削り	回転ナデ	N4/ 灰	N5/ 灰					11.6	3.9	3.9	7/8			
1262	7-3区	SK04		須恵器	杯	回転ナデ・ 貼り 付け高台	回転ナデ	N7/ 灰白	5Y7/1 灰白				中・少		—	—	1/8			
1264	7-3区	SK07		弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ	10YR7/3に ぶい黄橙	5YR6/6 橙	中・少			中・少		(15.2)	—	—	1/8		
1265	7-3区	SK07		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	75YR7/6 橙	中・並			細・少		(16.6)	—	—	1/8		
1266	7-3区	SD02		須恵器	甕	回転ナデ・ カキ 目・沈線・ハケ 櫛描き波状文	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰				中・少		—	—	1/8			
1268	7-3区	SD03		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ マメツ	10YR6/4に ぶい黄橙	10YR6/4に ぶい黄橙	粗・並			細・少		(16.0)	—	—	1/8		
1269	7-3区	SD03		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/6 橙	25Y7/3 浅黄	中・並			細・少		(29.8)	—	—	1/8		
1270	7-3区	SD03		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ ナデ	ヨコナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並			細・多		(25.3)	—	—	1/8		

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
1271	7-3区	SD03		弥生土器	壺	ハケ 付け突帯	ハケ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並	中・並								1/8	
1272	7-3区	SD03		土師器	高杯	ナデ・ハケ	指オサエ・ナデ	10YR7/4 に ぶい黄橙	10YR7/4 に ぶい黄橙	中・少	中・少	細・少							8/8	
1273	7-3区	SD03		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ラミミガキ	5YR5/4 に ぶい赤褐	5YR5/4 に ぶい赤褐	中・並	中・少	中・多							1/8	
1274	7-3区	SD08		土師器	蓋	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	2.5Y3/1 黒褐	10YR7/3 に ぶい黄橙										破片	
1275	7-3区	SD10		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰										1/8	
1276	7-3区	SD10		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白										1/8	
1277	7-3区	SD10		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰										破片	
1283	7-3区	SD14		須恵器	杯	体部：回転ナ デ 底部：貼 り付け高台、 回転ヘラ切り	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白								3.1 (11.0)		2/8	
1284	7-3区	SD14		須恵器	杯	体部：回転ナ デ 底部：貼り 付け高台、 回転ヘラ切り	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白									10.3	4/8	
1285	7-3区	SD14		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白									7.3	6/8	
1286	7-3区	SX02		須恵器	杯身	回転ナデ・回 転ヘラ削り	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白										1/8	
1287	7-3区	SX02		須恵器	杯身	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白										1/8	
1288	7-3区	SX03		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰										6/8	
1289	7-3区	SX03		須恵器	高杯	マメツ	マメツ	7.5YR8/1 灰白	7.5YR8/1 灰白	細・少								(10.4)	1/8	
1291	7-3区	SX04		須恵器	杯身	体部：指オサエ 底部：ナデ	不明	5PB7/1 明 青灰	5PB7/1 明青灰										1/8	
1292	7-3区	SX05		土師器	高杯	ハケ・板ナ デ・ナデ	ハケ・ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	細・並	細・少	細・少						7.8	4/8	
1293	7-3区	SX10		弥生土器	甕	指オサエ後 ヨコナデ	板ナデ後ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並									1/8	
1294	7-3区	SX10		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ヘラ 描き沈黙2案	マメツ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・多	中・少								1/8	
1295	7-3区	SX10		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ラミミガキ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・並	中・並	細・少							1/8	
1296	7-3区	SX10		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	7.5YR6/4 に ぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	中・並	細・少							(4.0)	4/8	
1297	7-3区	SX08		弥生土器	鉢	ナデ・指オサエ	ナデ・マメツ	10YR7/4 に ぶい黄橙	10YR6/3 に ぶい黄橙	中・並	細・少							2.6	6/8	
1299	7-3区	SK14		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・刻 み目・ハケ・ ヘラミミガキ	ヨコナデ・ハケ	5YR6/2 灰褐	2.5Y2/1 黒	中・並									1/8	
1300	7-3区	SK14		弥生土器	鉢	ヨコナデ・指オ サエ後ヘラ削り	ヨコナデ・ハケ 後ヘラミガキ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	中・並	中・少							10.4 19.8	8/8	

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量		残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		
1301	7-3区	SR01	上層	弥生土器	細頸長頸壺	ヨコナデ・押捺文	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少		細・並	(10.4)	—	—	2/8		
1302	7-3区	SR01	上層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR5/6 明赤褐	10YR6/3に ぶい黄橙	細・並	細・少		細・少	—	—	—	破片		
1303	7-3区	SR01	上層	弥生土器	高杯	ハラミガキ	ハラミガキ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/2灰褐	中・並	—		細・少	—	—	—	1/8	赤色顔料	
1304	7-3区	SR01	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線3条・ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4に ぶい橙	細・並	細・少		—	(18.8)	—	—	1/8		
1305	7-3区	SR01	中層	弥生土器	甕	ハケ・ナデ	ハラ削り	7.5YR6/6橙	7.5Y5/1灰	中・並	中・少		—	—	4.1	—	3/8		
1306	7-3区	SR01	中層	弥生土器	台付鉢	ナデ・透し孔	杯部：ハラミガキ 脚部：ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/3淡黄	中・並	中・少		—	—	(9.4)	—	1/8		
1307	7-3区	SR01	中層	弥生土器	台付鉢	ハケ後ナデ・貼り付け突帯・透し孔	ハケ・ヨコナデ	2.5Y7/3浅黄	10YR7/3に ぶい黄橙	中・少	—		—	—	(12.0)	—	1/8		
1308	7-3区	SR01	中層	弥生土器	台付鉢	マメツ・貼り付け突帯・透し孔	指オサエ後ナデ	2.5YR7/8橙	2.5YR6/8橙	中・多	—		—	—	(14.6)	—	1/8		
1310	7-3区	SR01	下層	弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4	中・多	中・少		—	(15.3)	—	—	1/8		
1311	7-3区	SR01	下層	弥生土器	細頸長頸壺	ヨコナデ・刻み目	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	7.5YR6/6橙	中・並	—		—	—	100	—	1/8		
1312	7-3区	SR01	下層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹線2条・ハラミガキ	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	粗・並	細・少		—	(20.9)	—	—	1/8		
1313	7-3区	SR01	下層	弥生土器	高杯	ナデ・ハラ描き沈線4条・ヨコナデ・凹線1条	ハラ削り	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少		—	—	(9.1)	—	1/8		
1314	7-3区	SR01	下層	弥生土器	甕	マメツ・刻み目・指オサエ	マメツ	2.5YR6/6橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・多	細・少		—	(22.8)	—	—	1/8		
1315	7-3区	SR01	下層	弥生土器	甕	マメツ・刻み目・ハラ描き沈線1条	マメツ	5YR5/4に ぶい赤褐	2.5Y6/2灰黄	中・多	—		—	—	—	—	破片		
1317	7-4区	SH03		弥生土器	短頸広口壺	指オサエ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・並		細・少	(9.7)	—	—	1/8		
1318	7-4区	SH03		弥生土器	壺(底部)	ナデ	ハケ	7.5YR7/6橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少		—	—	4.9	—	4/8		
1319	7-4区	SH03		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ・マメツ	ヨコナデ・ハラ削り	10YR8/4 浅黄橙	2.5YR6/6橙	中・並	中・少		—	(17.0)	—	—	2/8		
1320	7-4区	SH03		弥生土器	甕	マメツ・ハケ	ヨコナデ・ハラ削り・マメツ	2.5Y6/6明黄褐	2.5Y6/6明黄褐	中・並	中・少		—	(14.4)	18.2	2.5	4/8		
1321	7-4区	SH03		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハラ削り	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/6明褐	中・少	細・少		細・少	(14.5)	—	—	1/8		
1322	7-4区	SH03		弥生土器	甕	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10 R 5/8 赤明赤褐	2.5 Y R 5/8 明赤褐	中・並	中・少		細・少	(10.9)	—	—	3/8		
1323	7-4区	SH03		弥生土器	高杯	ハラミガキ	杯部：ナデ 脚部：不明	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	—		—	—	—	—	2/8		
1324	7-4区	SH03		弥生土器	高杯	ハラミガキ	板ナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・少	細・少		—	—	(14.0)	—	2/8		
1325	7-4区	SH03		弥生土器	鉢	体部：ヨコナデ・マメツ・ハケ 底部：ナデ	ハケ・指オサエ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR6/6橙	中・並	—		—	(23.1)	11.3	(5.3)	5/8		

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		
1326	7-4区	SH03		弥生土器	鉢	外部：ナデ・ 指オサエ 底部：ナデ	ナデ	75YR8/4 浅黄橙	75YR7/6橙	細・少				10.1	7.1	5.1	—	6/8		
1329	7-5区	SH03		弥生土器	複合口 縁壺	ヨコナデ・ハ 描き細菌 文・ハケ	ヨコナデ	75YR4/3褐	5YR5/4に ぶい赤褐	中・少	細・少			—	—	—	—	—	破片	
1330	7-5区	SH03		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・並	中・少			(15.6)	—	—	—	1/8		
1331	7-5区	SH03		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ハケ	25Y3/1黒褐	75YR7/6橙	中・少				(15.5)	—	—	—	1/8		
1332	7-4区	SH01		弥生土器	壺(底部)	ハケ・ナデ	板ナデ	10 Y R 6/3 にぶい黄橙	75 Y R 6/6橙	粗・並	中・少			—	—	(10.0)	—	1/8		
1333	7-4区	SH01SP102		弥生土器	壺(底部)	外部：ハケ後 ヘラミガキ 底部：ナデ	板ナデ・ナデ	75YR7/6橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少			—	—	(10.0)	—	2/8		
1334	7-4区	SH01SP102		弥生土器	高杯	マメツ・ハ ラ削り	マメツ	75YR5/4 にぶい褐	75YR5/6明褐	中・多	中・少	中・少		17.0	—	—	—	2/8	香東川 下流域	
1335	7-5区	SH02		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ・マメツ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	中・多	中・少			(19.4)	—	—	—	破片		
1336	7-5区	SH02		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	75YR6/4に ぶい橙	中・並		細・少		(15.8)	—	—	—	1/8		
1337	7-5区	SH02		弥生土器	甕	マメツ	ナデ・指オサ エ・ヘラ削り	75Y2/1黒	75YR6/4に ぶい橙	中・多		細・少		(14.0)	—	—	—	1/8		
1338	7-5区	SH02		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	細・少			—	—	—	—	破片		
1339	7-5区	SH02		弥生土器	高杯	ヨコナデ後 ヘラミガキ・ 沈線2条	ヨコナデ後 ヘラミガキ	10YR8/4 浅黄橙	75YR8/4 浅黄橙	中・少		細・少		(20.6)	—	—	—	1/8		
1340	7-5区	SH02		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	75YR6/6橙	5YR6/8橙	中・並	中・少			(20.4)	—	—	—	1/8		
1341	7-5区	SH02		弥生土器	鉢	ハケ	指オサエ後ナデ	10YR8/3 浅黄橙	75YR7/6橙	中・並	中・少			9.6	5.0	2.5	—	6/8		
1342	7-5区	SH02		弥生土器	底部	外部：板ナデ 底部：指オ サエ後ナデ	ナデ	5YR5/6明 赤褐	25Y6/2灰黄	粗・多	中・並			—	4.2	—	—	7/8		
1343	7-5区	SH02		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヘラ削り後ハケ	5YR6/6橙	75YR7/4に ぶい橙	中・並	中・少			(28.4)	—	—	—	1/8		
1344	7-6区	SB01SP87		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹 線3条・刻み目	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR5/6明 赤褐	中・並	細・少			(13.4)	—	—	—	1/8		
1345	7-6区	SB01SP87		弥生土器	高杯	外部：ヘラミガ キ 内部：板 ナデ・マメツ	杯部：ヘラミガキ 脚部：ヘラ削り	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・並	中・並			—	—	—	—	3/8		
1346	7-4区	SB02SF38		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並	中・少			—	—	—	—	破片		
1347	7-4区	SB03SP44		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	75YR6/4に ぶい橙	中・少	細・少			(12.0)	—	—	—	1/8		
1348	7-4区	SB03SP110		弥生土器	甕	ヨコナデ・擬 凹線2条	ヨコナデ	75YR5/3 にぶい褐	75YR6/4に ぶい橙	細・少	細・少			—	—	—	—	破片		
1349	7-4区	SB03SP110		弥生土器	高杯	マメツ	マメツ	25Y6/2灰黄	5Y2/1黒	中・多	細・少			—	—	—	—	破片		
1350	7-5区	SB05SP64		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・擬凹 線2条・ナデ	ヨコナデ・ナデ	75YR7/4 にぶい橙	5YR6/6橙	中・少	細・少			(12.6)	—	—	—	1/8		

観文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						質量			備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	
1351	7-5区	SB05SP64		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ラミガキ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR7/6 橙	中・少	中・少	中・少	中・少	(12.3)	—	—	—	1/8	
1352	7-5区	SB05SP64		弥生土器	甕	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	中・少	—	—	—	(17.8)	—	—	—	1/8	
1353	7-5区	SB05SP64		弥生土器	高杯	ナデ・ヨコナ デ・凹線2条	ヘラ削り・ヨ コナデ	5YR5/6 明 赤褐	10YR6/4 に ぶい黄橙	中・並	細・少	—	—	—	—	—	—	破片	
1354	7-5区	SB05SP103		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹 線4条・稜状浮文	ヨコナデ	5YR6/6 橙	10YR7/3 に ぶい黄橙	中・並	—	—	—	(22.6)	—	—	—	1/8	
1355	7-5区	SB05SP103		弥生土器	甕	ヨコナデ・擬 壺2条・ナデ	ヨコナデ・マ メツ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・並	細・少	—	—	(18.0)	—	—	—	1/8	
1356	7-4区	SB05SP58		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 に ぶい赤褐	中・並	細・少	—	—	(10.8)	—	—	—	1/8	
1357	7-4区	SB05SP58		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ ヨコナデ・ハ ラミガキ	ヘラミガキ	2.5YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	細・少	—	細・少	—	(22.2)	—	—	—	1/8	
1358	7-4区	SB05SP19		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4 に ぶい黄橙	5YR6/6 橙	中・少	—	—	—	—	—	—	—	破片	
1359	7-5区	SB01SP98		弥生土器	壺(底部)	体部：ハケ後 ヘラミガキ 底部分：ナデ	ナデ・ヘラ削り	10YR6/3 に ぶい黄橙	7.5YR6/4 に ぶい黄橙	中・並	中・少	—	—	—	(10.4)	—	—	2/8	
1360	7-5区	SB01SP38		弥生土器	壺(底部)	体部：ヘラミガ キ	板ナデ後ナデ	7.5YR5/2 灰褐	10YR7/3 に ぶい黄橙	中・並	細・少	—	—	—	(8.6)	—	—	1/8	
1361	7-5区	SB01SP38		弥生土器	甕	ヨコナデ・ナ デ	ヨコナデ・ナ デ	10YR5/3 に ぶい黄褐	10YR6/4 に ぶい黄橙	中・並	細・少	—	—	(14.0)	—	—	—	1/8	
1362	7-5区	SB01SP38		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/3 に ぶい黄褐	7.5YR5/4 に ぶい褐	細・少	—	—	—	—	—	—	—	破片	
1363	7-5区	SB01SP102		弥生土器	高杯	ナデ・ヨコナ デ・凹線2条	ナデ・ヨコナ デ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい褐	中・並	中・少	—	—	—	(11.8)	—	—	1/8	
1364	7-5区	SB01SP100		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・板 ナデ	10YR7/4 に ぶい黄橙	7.5YR5/4 に ぶい褐	中・並	—	—	—	(20.7)	—	—	—	1/8	
1365	7-5区	SP11		弥生土器	甕	ヨコナデ	ナデ	10YR3/2 黒褐	10YR3/2 黒褐	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	破片	
1366	7-5区	SP13		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/8 明赤褐	中・少	—	—	—	—	—	—	—	破片	
1367	7-5区	SP13		弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並	—	—	—	—	—	—	—	破片	
1368	7-4区	SP83		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ケ	ヨコナデ・指 オサエ後ナ デ・ヘラ削り	7.5YR6/6 橙	5YR5/6 明 赤褐	—	—	—	中・多	(9.9)	—	—	—	2/8	
1369	7-5区	SP84		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・擬 壺2条・穿孔	ヨコナデ・凹 形 浮文・板ナ デ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・少	中・並	—	—	(7.7)	—	—	—	1/8	
1370	7-5区	SP84		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい橙	中・並	細・少	—	—	(10.6)	—	—	—	2/8	
1371	7-5区	SP84		弥生土器	壺	体部：ハケ・ ヘラミガキ 底部分：ナデ	指オサエ後ハ ケ	7.5YR7/6 橙	5Y2/1 黒	中・並	中・少	—	—	—	4.9	—	—	4/8	
1372	7-5区	SP84		弥生土器	甕	ヨコナデ・擬 壺2条・ハ ケ・ヘラミガ キ	ヨコナデ・指 オサエ後ハ ケ・ヘラ削り	10YR7/4 に ぶい黄橙	10YR7/4 に ぶい黄橙	中・並	—	—	—	(16.7)	—	—	—	1/8	
1373	7-4区	SP09		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	—	—	—	(13.2)	—	—	—	1/8	

報文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		その他
1374	74区	SP09		弥生土器	壺	ヨコナデ・凹線3条・ハケ	ヨコナデ・ナデ	75YR7/6 橙	75YR7/4に ぶい黄橙	中・少	中・少				—	—	—	破片	
1375	74区	SP09		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・凹線4条・刻み目・ナデ	ヨコナデ・指オサエ・ハケ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	細・少	細・少				(9.2)	—	—	2/8	
1376	74区	SP09		弥生土器	壺	体部：ハケ・底ヘラミガキ 部：ナデ	ハケ・ヘラ削り・指オサエ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並	中・並				—	—	80	3/8	外面 赤色顔料
1377	74区	SP09		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線2条・ハケ ガキ・刻み目	ヨコナデ・指オサエ・ヘラ削り	5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	中・並	中・並	中・少			(17.7)	—	—	4/8	
1378	74区	SP09		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線2条・ハケ ヘラミガキ	ヨコナデ・指オサエ後ハケ・ヘラ削り	10YR6/3に ぶい黄橙	5YR6/6 橙	中・並	細・少	中・少			(19.8)	—	—	2/8	
1379	74区	SP09		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線2条・ハケ ラミガキ	ヨコナデ・ヘラ削り	75YR7/6 橙	5YR6/6 橙	中・並	中・少	中・少			(18.0)	—	—	2/8	
1380	74区	SP09		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線2条・ハケ	ヨコナデ・指オサエ後板ナデ	5YR5/6 明赤褐	75YR5/4に ぶい褐	中・並	中・少				(15.0)	—	—	1/8	
1381	74区	SP09		弥生土器	甕(底部)	体部：ヘラミガキ 底部：指オサエ後ナデ	指オサエ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・並	中・少			—	—	5.9	4/8	
1382	74区	SP09		弥生土器	高杯	ヘラミガキ	杯部：マメツ 脚部：ヘラ削り	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・少	中・少			—	—	—	4/8	
1383	74区	SP09		弥生土器	高杯	ナデ・ヨコナデ	板ナデ・ヨコナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・多					—	—	(10.3)	1/8	
1384	74区	SP09		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラ削り	5YR5/6 明赤褐	5YR5/4に ぶい赤褐	中・並	中・並				(25.6)	—	—	3/8	
1385	74区	SP09		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・凹線2条	ヨコナデ	75YR6/4に ぶい橙	5YR6/6 橙	中・並	細・少	中・少			—	—	—	破片	
1386	74区	SP11		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・刻み目	ヨコナデ	25Y7/3 浅黄	25Y7/3 浅黄	中・並	中・並				—	—	—	破片	
1387	74区	SP12		弥生土器	甕	ヨコナデ・沈線2条	ヨコナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	中・少					—	—	—	破片	
1388	74区	SP15		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	ハケ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・並	中・並				(10.3)	7.4	3.0	5/8	
1389	74区	SP43		弥生土器	高杯	ナデ・ヨコナデ・凹線2条	ヘラ削り・指オサエ後ヨコナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・並				—	—	(15.8)	1/8	
1390	74区	SP54		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・頂部：凹線2条 体部：凹線2条	ヨコナデ	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	中・並	中・並				—	—	—	破片	
1391	74区	SP72		弥生土器	底部	指オサエ・ナデ	ハケ	10YR8/2 灰白	N4/ 灰	中・並	中・少	中・少			—	—	(6.2)	3/8	
1392	74区	SP85		弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR6/4に ぶい橙	5YR6/6 橙	中・並	細・少	中・少			(11.0)	—	—	破片	
1393	74区	SP85		弥生土器	底部	体部：ナデ・底ヘラミガキ 部：ナデ	指オサエ・ヘラ削り	75YR5/6 明褐	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・並				—	—	(8.4)	4/8	
1394	74区	SP90		弥生土器	高杯	ハケ後一部 ナデ・穿孔	杯部：マメツ 脚部：指オサエ後ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	75YR7/4に ぶい黄橙	中・少	細・少	中・少			—	—	—	6/8	

編文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
1395	74区	SP90		弥生土器	鉢	ナデ・マメツ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	75YR5/3にぶい褐	75YR6/6橙	中・多			細・少							破片
1396	74区	SP90		弥生土器	鉢	ナデ	ハケ	25YR6/6橙	25YR6/6橙	中・並										破片
1397	74区	SP100		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	細・少										破片
1398	74区	SP106		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線3条	ヨコナデ	10YR6/4にぶい黄橙	75YR6/6橙	中・並			細・少							1/8
1399	74区	SP107		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	75YR6/6橙	中・並			細・少							破片
1400	74区	SP119		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線2条	ヨコナデ	10YR5/3にぶい黄橙	10YR5/2灰黄橙	中・並										1/8
1401	74区	SK06		弥生土器	複合口縁壺	ヨコナデ・凹線2条・ハラ描き鋳断文	ヨコナデ	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	中・並										1/8
1402	75区	SP21		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	中・少										1/8
1403	75区	SP29		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ハケ後ヨコナデ・ハラ削り	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並			中・少							1/8
1404	75区	SP61		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹線2条	ヨコナデ・ナデ	75YR6/4にぶい橙	75YR6/4にぶい橙	中・並										1/8
1405	75区	SP76		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	75Y6/1灰	75Y6/1灰					中・少						破片
1406	74区	SK05		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹線2条	ヨコナデ・円形浮文	75Y R 6/4にぶい赤褐	5 Y R 5/4にぶい赤褐	細・少										1/8
1407	74区	SK05		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹線2条	ヨコナデ	10 Y R 8/4浅黄橙	10 Y R 7/3にぶい黄橙	中・並										1/8
1408	74区	SK05		弥生土器	甕	体部：ハラミガキ キ 底部：ハケ	ハラ削り	5 Y R 6/6橙	5 Y R 6/6橙	中・並										1/8
1409	74区	SK05		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ハラミガキ	ヨコナデ・ハラミガキ	10 Y R 7/4にぶい黄橙	10 Y R 6/3にぶい黄橙	中・並			細・少							1/8
1410	74区	SK01		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	中・並			中・少							1/8
1411	74区	SK01		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・櫛描波状文・ハケ	ハケ後ヨコナデ	25Y7/3浅黄	5YR6/6橙	中・並			細・少							破片
1412	74区	SK01		弥生土器	広口壺	ハケ後ハラミガキ	板ナデ	5YR6/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐	細・少										2/8
1413	74区	SK01		土師器	壺	ハケ	指オサエ後ハケ・ハラ削り	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並			中・少							1/8
1414	74区	SK01		弥生土器	甕	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR6/2灰黄橙	10YR4/1褐灰	細・並										1/8
1415	74区	SK01		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ後ハラミガキ	ヨコナデ・ハラ削り	5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	中・多										1/8
1416	74区	SK01		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ後ナデ	ヨコナデ・指オサエ後ハケ後ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	中・並			中・多							1/8
1417	74区	SK01		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハラ削り	10 Y R 6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並										1/8
1418	74区	SK01		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・指オサエ・ハラ削り	5 Y R 5/6明赤褐	5 Y R 5/6明赤褐	中・並										1/8
1419	74区	SK01		弥生土器	甕	指オサエ後ナデ・ハケ	指オサエ後ナデ	75 Y R 6/4にぶい橙	75 Y R 6/4にぶい橙	細・並			細・少							1/8

観文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
1420	74区	SK01		弥生土器	甕	ナデ・ハケ	ハケ・指オサエ後ナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	10YR6/3に ぶい黄橙	細・少	細・少	細・少	細・少	—	—	—	—	—	1/8	
1421	74区	SK01		弥生土器	甕	指オサエ後ナデ・ハケ 後ハレミガキ	指オサエ後ナデ・ 指オサエ後板ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少	中・並	中・並	—	—	—	—	—	1/8	
1422	74区	SK01		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ハケ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・少	—	—	—	—	—	—	—	—	破片	
1423	74区	SK01		土師器	甕	マメツ	指オサエ後板ナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	中・多	中・少	—	—	—	—	—	—	—	2/8	
1424	74区	SK01		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヘラ削り	2.5YR5/6 明赤褐	5YR5/6明 赤褐	中・並	中・並	—	—	—	—	(14.0)	—	—	1/8	
1425	74区	SK01		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ ケ・マメツ	指オサエ後ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1426	74区	SK01		弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	細・並	細・少	細・少	細・少	—	—	—	—	—	1/8	
1427	74区	SK04		須恵器	杯身	回転ナデ・回 転ハレ削り	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1428	75区	SD01		土師器	高杯	指オサエ後ナデ・ 板ナデ後ナデ	指オサエ・ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	中・少	細・少	—	—	—	—	—	(8.8)	—	6/8	
1429	75区	SD01		土師器	碗	ナデ	ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	細・少	細・少	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1430	74区	SX01		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ・凹 線4条・ナデ・ ハレミガキ	ヨコナデ・ヘラ ミガキ・指オ サエ後板ナデ	5YR6/8橙	2.5Y7/3浅黄	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1431	74区	SX01		弥生土器	細頸長 頸壺	ヨコナデ・ハ ケ・ハレミガキ	ヨコナデ・指オ サエ・板ナデ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	—	—	—	—	—	—	—	—	3/8	
1432	74区	SX01		弥生土器	長頸壺	ヨコナデ・凹 線2条・刻み 目・ハケ・ハ レミガキ	ヨコナデ・板ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並	—	—	—	—	—	—	—	—	4/8	
1433	74区	SX01		弥生土器	壺(底部)	体部：ハレミガ キ 底部：ナデ	板ナデ・指オサエ	5YR6/6橙	7.5Y2/1黒	中・並	中・少	—	—	—	—	—	(6.0)	—	2/8	
1434	74区	SX01		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線2条	ヨコナデ	10YR5/3に ぶい黄褐	10YR6/3に ぶい黄橙	中・並	—	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1437	74区	SR01	中層	弥生土器	広口壺	ハケ後ヨコ ナデ・ハケ	ハケ後ヨコ ナデ・ハケ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3に ぶい褐	中・少	—	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1438	74区	SR01	中層	弥生土器	無頸壺	ヨコナデ・貼 り付け突帯	ヨコナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1439	74区	SR01	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線3条・ハケ	ヨコナデ・板ナデ	5YR5/6明 赤褐	5YR5/6明 赤褐	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1440	74区	SR01	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線2条・ハケ	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3に ぶい黄橙	2.5Y7/3浅黄	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1441	74区	SR01	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ハケ	10YR6/3に ぶい黄橙	7.5YR6/6橙	中・並	—	—	—	—	—	—	—	—	1/8	
1442	74区	SR01	下層	弥生土器	壺	ナデ・ヘラ 掘き山形文	指オサエ後ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/1灰白	中・並	—	—	—	—	—	—	—	—	破片	
1443	74区	SR01	下層	弥生土器	壺	ナデ	ナデ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	中・多	細・少	—	—	—	—	—	—	—	破片	
1444	74区	SR01	下層	弥生土器	甕	ナデ・刻み目	ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	2.5Y7/3浅黄	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	—	1/8	

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量			備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	
1445	7-4区	SR01	下層	弥生土器	甕	ナデ・刻み目	指オサエ後ナデ	10YR7/2に ぶい黄橙	25Y7/3 浅黄	中・多	中・少				—	—	—	破片
1446	7-4区	SR01	下層	弥生土器	甕	ナデ・指オ サエ後ナデ	ナデ	25Y7/2 灰黄	25Y7/3 浅黄	粗・並	細・少				—	—	—	破片
1447	7-4区	SR01	下層	弥生土器	甕(底部)	ナデ	指オサエ後ナデ	5YR7/6 橙	25Y8/3 淡黄	中・多				(8.0)	—	—	—	2/8
1448	7-4区	SR01	下層	弥生土器	甕(底部)	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR8/4 浅黄橙	25Y8/2 灰白	中・多	中・並			(7.2)	—	—	—	2/8
1449	7-4区	SR01	下層	弥生土器	高杯	ヘラミガ キ・穿孔	マメツ	10YR7/4に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・多	中・並			(17.8)	—	—	—	1/8
1450	7-4区	SR01	下層	弥生土器	蓋	ナデ	ナデ	5Y8/1 灰白	25Y8/2 灰白	中・多	粗・並			(12.7)	—	—	—	1/8
1452	7-6区	SH05		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹 縁3条・ヘラ描 き斜行文・ハ ケ・ヘラミガキ	ヨコナデ・指オ サエ後ナデ・ヘ ラ削り・ハケ	10YR5/4に ぶい黄褐	7.5YR5/6 明褐	中・並	細・少			19.0	—	—	—	5/8
1453	7-6区	SH05		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 縁3条・ハケ・ ヘラミガキ	ヨコナデ・ナ デ・ヘラ削り	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並				14.5	—	—	—	4/8
1454	7-6区	SH05		弥生土器	甕	体部：ヘラミガ キ 底部：ナデ	ヘラ削り	7.5YR4/2 灰褐	25Y2/1 黒	中・並	中・少			(5.6)	—	—	—	4/8
1455	7-6区	SH05		弥生土器	甕(底部)	体部：板ナデ 底部：ナデ	板ナデ	5YR4/4に ぶい赤褐	5YR4/6 赤褐	中・並	中・少			—	—	(8.0)	—	1/8
1456	7-6区	SH05		弥生土器	底部	ナデ・ヨコナデ	体部：指オサエ 脚部：ヘラ削り	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並				(5.8)	—	—	—	1/8
1457	7-6区	SH05		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	25YR6/6 橙	25YR6/6 橙	中・並	中・少			9.4	2.5	—	—	6/8
1458	7-6区	SH05		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	中・少			7.9	2.1	2.1	—	7/8
1460	7-6区	SH01		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ・板ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・少	細・少			(17.6)	—	—	—	1/8
1462	7-6区	SH02SP111		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・ハ ケ・ヘラミガキ	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/4に ぶい黄橙	中・並	中・並			(16.6)	—	—	—	2/8
1463	7-6区	SH02	床直	弥生土器	甕	ハケ	指オサエ後ナ デ・ヘラ削り	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4に ぶい橙	中・並	中・少			—	—	—	—	2/8
1464	7-6区	SH02	覆土	弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4に ぶい黄橙	細・少	細・少			(15.0)	—	—	—	1/8
1465	7-6区	SH02	覆土	弥生土器	高杯	ナデ・ヘラ ミガキ	ハケ後ヘラミガキ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・並	中・少			—	—	—	—	1/8
1466	7-6区	SH02	覆土	弥生土器	高杯	ナデ・穿孔・ハ ケ・貼り付け突 帯(刻み目)ナデ	ハケ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR7/3に ぶい黄橙	中・並	細・少			—	—	(21.6)	—	1/8
1467	7-6区	SH02	覆土	弥生土器	紡錘車	ナデ	ナデ	10YR7/4に ぶい黄橙	25Y7/3 浅黄	中・並	細・少			現存長 4.5	現存幅 2.9	厚さ 0.8	—	4/8
1480	7-6区	SH03		弥生土器	甕	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	25Y8/2 灰白	7.5YR7/6 橙	中・並				(12.8)	—	—	—	1/8
1481	7-6区	SH03		弥生土器	鉢	指オサエ後 ナデ・ナデ	指オサエ後 ナデ・ナデ	25Y7/3 浅黄	25Y7/3 浅黄	中・並	中・少			(15.0)	—	—	—	2/8
1482	7-6区	SH03		弥生土器	鉢	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ヨコナデ・板 ナデ後ナデ	5YR6/8 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	中・少			12.7	4.4	3.1	—	7/8

観文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他		残存率
1483	7-6区	SH03		弥生土器	鉢	指オサエ・板ナデ	板ナデ	75YR6/4にぶい黄	75Y4/1灰	中・並					(10.6)	—	—	—	3/8	
1484	7-6区	SH03		弥生土器	鉢	ナデ	指オサエ後ハケ・ナデ	5Y2/1黒	25Y3/1黒褐	中・並	細・少				(7.7)	—	—	—	4/8	
1485	7-6区	SH04		土師器	小型丸底壺	ヨコナデ・指オサエ後ナデ・ハラ削り	指オサエ後ヨコナデ・ナデ	10YR7/4にぶい黄	75YR6/6橙	中・並	中・少				(10.8)	—	—	—	1/8	
1486	7-6区	SH04		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハラ削り	75YR6/6橙	75YR6/6橙	中・並	中・少	細・少			(15.4)	—	—	—	2/8	
1487	7-6区	SH04		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4にぶい黄	10YR7/4にぶい黄	中・並	中・少				(15.8)	—	—	—	1/8	
1488	7-6区	SH04		弥生土器	甕	ヨコナデ・タキ後ハケ	ハケ	75YR5/6明褐	5YR4/6赤褐	中・並	細・少				—	—	—	—	破片	
1489	7-6区	SH04		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	25Y5/1黄灰	10YR5/2灰黄	中・少	中・並	細・並			(15.2)	—	—	—	1/8	赤色顔料
1490	7-6区	SH04		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	25Y6/3にぶい黄	25Y7/4浅黄	中・並	中・少				(9.4)	5.1	2.5	—	6/8	
1491	7-6区	SH04		弥生土器	鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	75YR8/6浅黄	10YR8/4浅黄	中・並	中・少				(8.9)	3.0	—	—	2/8	
1492	7-6区	SH06		弥生土器	広口壺	ヨコナデ・凹線・3条・棒状浮文・貼り付け突帯	ヨコナデ・凹線・波状文・板ナデ	10YR8/4浅黄	10YR7/4にぶい黄	中・並	中・少				(12.0)	—	—	—	1/8	
1493	7-6区	SH06		弥生土器	壺	ハケ原体による刻み目・ハケ同心円文・ハケ	ナデ・指オサエ・板ナデ	10YR3/1黒褐	10YR2/1黒	中・並	細・少	細・少			—	—	—	—	1/8	
1494	7-6区	SH06		弥生土器	高杯	頂部：凹線2条 体部：凹線2条・ハラミミガキ	ヨコナデ・ハラ削り	75YR7/6橙	75YR7/6橙	中・並	細・少				(25.0)	—	—	—	1/8	
1495	7-6区	SB05SP69		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ハラ削り	75YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄	中・並	細・少				—	—	(14.0)	—	1/8	
1496	7-6区	SB05SP69		弥生土器	高杯	ナデ・凹線1条・穿孔	ハラ削り	10YR6/4にぶい黄	75YR6/6橙	中・並	細・少				—	—	8.5	—	1/8	
1497	7-6区	SB01SP03		土師器	杯	ヨコナデ・ハラ削り後ナデ	ヨコナデ・ハラ削り後ナデ	5YR7/6橙	75YR8/6浅黄						(16.6)	—	—	—	1/8	
1498	7-6区	SB02SP26		須恵器	皿	回転ナデ・凹線・ハラ切り後ナデ	回転ナデ	N7/灰白	5Y7/1灰白						—	—	—	—	破片	
1499	7-6区	SB02SP27		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						(17.8)	—	—	—	1/8	
1500	7-6区	SP34		弥生土器	甕	指オサエ後ナデ・マメツ	指オサエ・板ナデ・マメツ	5YR6/6橙	10YR6/3にぶい黄	粗・多	中・並				(17.4)	—	—	—	1/8	
1501	7-6区	SP34		弥生土器	壺(底部)	体部：ナデ 底部：マメツ	ハラ削り・マメツ	75YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	粗・多	中・並				—	—	(7.0)	—	4/8	
1502	7-6区	SP39		弥生土器	高杯	ヨコナデ・頂部：凹線3条 体部：凹線3条・ハラミミガキ	ヨコナデ・ハラ削り後ナデ	75YR5/4にぶい褐	10YR6/6明黄	中・並	中・少				(17.2)	—	—	—	1/8	
1503	7-6区	SP39		弥生土器	高杯	指オサエ後ナデ・ハラミミガキ	杯部：ナデ 脚部：指オサエ・ハラ削り	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・少	細・少				—	—	—	—	7/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量			残存率	備考	
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他			
1504	7-6区	SP47		須恵器	杯	回転ナデ・回転 ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					中・少	(13.5)	2.7	(8.9)	—	1/8		
1505	7-6区	SP50		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(13.2)	—	—	—	1/8		
1506	7-6区	SP52		弥生土器	鉢	ヨコナデ・指オ サエ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR4/3 褐					中・少	(16.4)	—	—	—	1/8		
1507	7-6区	SP54		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰					中・少	(8.8)	—	—	—	2/8		
1509	7-6区	SP57		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	—	(8.0)	—	1/8		
1510	7-6区	SP58		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少	(19.2)	—	—	—	1/8		
1511	7-6区	SP63		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					細・少	(17.0)	—	—	—	1/8		
1512	7-6区	SP64		弥生土器	短頸広 口壺	ヨコナデ・凹 線3条	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	5YR5/6 明 赤褐					中・少	(13.2)	—	—	—	1/8		
1513	7-6区	SP64		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線2条・ハケ	ヨコナデ・ハ ケ削り	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙					中・並	(12.4)	—	—	—	1/8		
1514	7-6区	SP66		弥生土器	高杯	マメツ・凹 線2条	ヘラ削り	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/1 黄灰					中・並	—	—	(7.2)	—	1/8		
1515	7-6区	SP68		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線3条	ヘラ削り	5Y3/1 オ リーブ黒	2.5Y4/1 黄灰					中・少	—	—	(9.9)	—	1/8		
1516	7-6区	SP77		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰					中・少	(16.8)	—	—	—	1/8		
1517	7-6区	SP85		須恵器	坏身	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片		
1518	7-6区	SP86		弥生土器	甕	ヨコナデ・縦 凹線2条	ヨコナデ	2.5Y8/4 淡黄	10YR7/4 に ぶい黄橙					中・並	(15.6)	—	—	—	1/8		
1519	7-6区	SP94		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙					細・少	—	—	—	—	破片		
1520	7-6区	SP99		弥生土器	壺(底部)	ヘラミガキ	指オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 に ぶい橙					中・並	—	—	(4.0)	—	2/8		
1521	7-6区	SP99		弥生土器	甕	ヨコナデ・縦 凹線2条	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 に ぶい褐					細・少	(12.0)	—	—	—	—	破片	
1522	7-6区	SP109		弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線2条	ヨコナデ	5YR6/6 橙	7.5YR7/4 に ぶい橙					細・少	(15.0)	—	—	—	1/8		
1523	7-6区	SP113		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハ ケ削り	ヨコナデ	5YR5/6 明 赤褐	5YR5/6 明 赤褐					細・少	(15.0)	—	—	—	1/8		
1524	7-6区	SK05		弥生土器	壺(底部)	体部：ヘラミ ガキ 底部： ハケ後ナデ	指オサエ	10YR6/4 に ぶい黄橙	5YR5/4 に ぶい赤褐					粗・多	5.9	—	—	—	8/8		
1525	7-6区	SK05		弥生土器	底部	体部：ハケ後 ナデ	板ナデ	2.5Y4/1 黄灰	10YR6/3 に ぶい黄橙					中・並	—	—	4.6	—	4/8		
1526	7-6区	SK05		弥生土器	底部	体部：ハケ・ナ デ 底部：ナ デ	ヘラ削り	5YR6/4 に ぶい黄橙	10YR7/3 に ぶい黄橙					中・並	—	—	6.4	—	5/8		
1527	7-6区	SK05		弥生土器	高杯	ヨコナデ・ マメツ	ヨコナデ・ハ ケ削り	2.5Y6/4 に ぶい黄	10YR6/4 に ぶい黄橙					中・並	(23.0)	—	—	—	1/8		
1528	7-6区	SK05		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・ハ ケ削り	ヨコナデ・指 オサエ後ハケ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・並	(13.6)	—	—	—	1/8		
1529	7-6区	SK05		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	ハケ後ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・並	(15.4)	—	—	—	2/8		

観文番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量				備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他	残存率	
1530	7-6区	SK05		弥生土器	不明土製品	指オサエ	—	10YR5/4に ぶい黄褐	—	細・少	細・少	細・少	細・少	現存長 3.1	幅1.1	厚さ 1.0	—	破片		
1531	7-6区	SK06		須恵器	杯身	回転ナデ・回 転へら削り	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					12.2	50	59	—	6/8		
1533	7-6区	SK01		土師質 土器	鉢	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	指オサエ後ヨ コナデ・ハケ	10YR8/2灰白	25Y8/2灰白					—	—	—	—	破片		
1534	7-6区	SD04		弥生土器	壺	ヨコナデ・ 板ナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/2に ぶい黄橙	細・少	細・少			(10.8)	—	—	—	2/8		
1535	7-6区	SD04		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・マメツ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少			(16.0)	—	—	—	1/8		
1536	7-6区	SD04		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					(13.8)	—	—	—	1/8		
1539	7-6区	SD02		土師器	鉢	ナデ	ナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙					(17.6)	—	—	—	1/8		
1540	7-6区	SD02		須恵器	杯身	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					(12.0)	—	—	—	1/8		
1541	7-6区	SD02		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y7/1灰白	7.5Y8/1灰白					(13.0)	—	—	—	1/8	焼成不良	
1542	7-6区	SD02		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰	中・並				(12.5)	—	—	—	1/8	焼成不良	
1543	7-6区	SD02		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					—	—	7.0	—	4/8		
1544	7-6区	SD02		須恵器	平瓶	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					(6.4)	—	—	—	2/8		
1545	7-6区	SD02		須恵器	平瓶	回転ナデ	回転ナデ	10Y4/2オ リーブ灰	10Y6/2オ リーブ灰					(6.2)	—	—	—	1/8		
1546	7-6区	SD02		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N8/灰白	N7/灰白					(16.0)	—	—	—	1/8	焼成不良	
1547	7-6区	SD06		土師器	甕	ヨコナデ・ナデ	マメツ	7.5YR8/4 浅黄橙	5YR7/6橙	中・並	中・並			—	—	—	—	破片		
1548	7-6区	SD06		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6橙	中・並	中・少			(9.8)	—	—	—	1/8		
1549	7-6区	SD03		土師器	皿	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6橙	5YR7/6橙	細・少	細・少			—	—	—	—	破片		
1550	7-6区	SD03		須恵器	杯	体部：回転ナデ 底部：貼り付 け高台：ナデ	回転ナデ	5Y7/1灰白	10YR7/3に ぶい黄橙					—	—	(9.2)	—	1/8	焼成不良	
1551	7-6区	SD01	3層	土師質 土器	土釜	板ナデ・ナデ	—	10YR8/3 浅黄橙	—					長さ 13.6	—	—	—	破片	太さ 3.7	
1552	7-6区	SD01	3層	須恵器	甕	回転ナデ・ カキ目	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					(20.8)	—	—	—	1/8		
1554	7-6区	SD01	4層	弥生土器	甕	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	中・並				(20.6)	—	—	—	1/8		
1555	7-6区	SD01	4層	弥生土器	支脚	指オサエ後ナデ	指オサエ	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・並				—	—	—	—	破片		
1556	7-6区	SD01	4層	黒色土器	椀	マメツ	マメツ	10YR6/4に ぶい黄橙	7.5Y2/1黒					—	—	6.6	—	1/8		
1557	7-6区	SD01	4層	須恵器	杯	回転ナデ・貼 り付け高台	回転ナデ・ナデ	N6/灰	N6/灰					—	—	(9.0)	—	1/8		
1558	7-6区	SD01	4層	須恵器	壺	回転ナデ・貼 り付け高台	板ナデ	N6/灰	N7/灰白					—	—	(9.1)	—	1/8		

編文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量				残存率	備考
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他			
1559	7-6区	SD01	4層	須恵器	甕	回転ナデ・ヘ ラ描き斜行文	回転ナデ	N5/ 灰	10Y5/1 灰											1/8	
1560	7-6区	SD01	4層	須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白											破片	
1561	7-6区	SD01	5層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ	杯部：マメツ 胴部：指オサ エ・ヘラ削り	10YR6/4に ふい黄橙	10YR6/4に ふい黄橙											4/8	
1562	7-6区	SD01	5層	弥生土器	高杯	マメツ	マメツ	7.5YR7/4 にふい橙	10YR7/3に ふい黄橙											8/8	
1563	7-6区	SD01	5層	須恵器	瓶	当て具痕・ 回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰											7/8	
1565	7-6区	SX06		弥生土器	甕	ヨコナデ・凹 線5条・マメ ツ・刻み目文・ ヘラミガキ	ヨコナデ・指オ サエ・マメツ	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/4に ふい黄橙											4/8	
1566	7-6区	SX06		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ・凹 線4条・ヘ ラミガキ	ヨコナデ・ハ ケ・ヘラミガキ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙											3/8	
1568	7-6区	SX02		弥生土器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・マメツ	5Y7/2 灰白	7.5YR7/6 橙											1/8	
1569	7-6区	SX02		土師器	甕	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/4 浅黄橙											1/8	
1570	7-6区	SX02		土師器	腿	ハケ・ヘラミ ガキ・穿孔(円 形)1・ナデ	指オサエ後へ ラミガキ・ハ ケ・指オサエ	7.5YR7/6 橙	5YR7/6 橙											7/8	
1571	7-6区	SX02		土製品	分銅型 土製品	櫛目文・刺突 文・重弧文	穿孔	10YR3/1 黒褐	10YR5/3に ふい黄褐											4/8	
1572	7-6区	SX02		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白											1/8	
1573	7-6区	SX02		須恵器	坏身	回転ナデ・ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰											1/8	
1574	7-6区	SX02		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白											1/8	
1575	7-6区	SX02		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白											1/8	
1576	7-6区	SX04		弥生土器	脚部	ヨコナデ・貼り 付け突帯・ヘラ 描き斜格子文	ナデ	2.5YR5/8 明赤褐	7.5YR5/3に ふい褐											破片	
1577	7-6区	SX04		土師器	高杯	指オサエ・ マメツ	指オサエ・マメツ	10YR6/6 明黄褐	5YR7/8 橙											破片	
1578	7-6区	SX04		土師器	甕	ナデ(底部 に有孔)	板ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白											1/8	
1579	7-6区	SX04		土製品	土鉢	指オサエ後ナデ	—	2.5Y8/2 灰白	—											8/8	
1580	7-6区	SX04		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白											2/8	
1581	7-6区	SX04		須恵器	杯	体部：回転ナデ 底部：回転ヘ ラ削り後ナデ	回転ナデ	7.5Y6/1 灰	N5/ 灰											2/8	
1582	7-6区	SX04		須恵器	杯	体部：回転ナデ 底部：回転ヘ ラ削り後ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白											6/8	

報文 番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量			備考		
						外面	内面	外部・釉	内部・胎土	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		その他	残存率
1583	7-6区	SX04		須恵器	杯	体部：回転ナ デ 底部：回 転ヘラ削り	回転ナデ	7.5Y6/1 灰	7.5Y7/1 灰白					中・少	(14.5)	2.9	(11.2)	—	1/8	
1584	7-6区	SX04		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少	(15.8)	—	—	—	1/8	
1585	7-6区	SX04		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/1 黄灰					中・少	(13.6)	—	—	—	1/8	
1586	7-6区	SX04		須恵器	壺	体部：回転ナ デ 底部：貼 り付け高台・ 回転ヘラ切り 後回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	—	—	6.4	—	5/8	見込みに 付着物有
1587	7-6区	SR01	上層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・凹 線3条・マメツ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	7.5YR5/2 灰褐	10YR7/2 に ぶい黄橙	中・少	細・少			細・少	(16.0)	—	—	—	1/8	
1588	7-6区	SR01	上層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ 凹線3条	ハラ削り	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	中・並	中・並			細・少	—	—	(11.3)	—	1/8	
1589	7-6区	SR01	中層	弥生土器	壺	ナデ・ハラ 削き沈瀬	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・多					(13.2)	—	—	—	1/8	
1590	7-6区	SR01	中層	弥生土器	細頸長 頸壺	ヨコナデ・削り 出し突帯・ハケ	ナデ	5YR6/8 橙	5Y3/1 才 リーフ黒	中・並	細・少				(10.0)	—	—	—	破片	
1591	7-6区	SR01	中層	弥生土器	広口壺	ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR5/4 に ぶい黄褐	10YR5/4 に ぶい黄褐	中・並	中・並				(17.4)	—	—	—	1/8	
1592	7-6区	SR01	中層	弥生土器	体部	ナデ・ハラ描 き山形文・ハ ラミガキ	指オサエ	10YR7/3 に ぶい黄橙	5YR6/4 に ぶい橙	中・並				細・少	—	—	—	—	破片	
1593	7-6区	SR01	中層	弥生土器	壺(底部)	体部：板ナ デ マメツ 底部：指オサ エ・マメツ	指オサエ・マメツ	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 に ぶい黄橙	中・多	中・少				—	—	9.0	—	4/8	
1594	7-6区	SR01	中層	弥生土器	壺(底部)	ナデ・マメツ	指オサエ・マメツ	10YR7/3 に ぶい黄橙	2.5Y7/1 灰白	中・多					—	—	8.5	—	8/8	
1595	7-6区	SR01	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ・ 凹線3条	ヨコナデ	7.5YR4/3 褐	5YR5/6 明 赤褐	中・並	中・少				(20.2)	—	—	—	1/8	
1596	7-6区	SR01	中層	弥生土器	甕(底部)	体部：ハラミガ キ 底部：ナデ	指オサエ後ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/3 に ぶい褐	細・少					—	—	(6.8)	—	2/8	
1597	7-6区	SR01	中層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ハ ラミガキ	ヨコナデ・ハ ラミガキ	7.5YR6/6 橙	10YR7/3 に ぶい黄橙	中・並	中・並			細・少	(24.8)	—	—	—	1/8	
1599	7-6区	遺構検出		緑釉陶器	椀	回転ナデ・削り 出し高台・施釉	回転ナデ・施釉	7.5Y7/3 浅黄	7.5Y7/3 浅黄	細・少					—	—	(7.2)	—	1/8	軟陶

表9 瓦観察表

観文番号	地区名	遺構名	層位	器種	調整(凸面)	調整(凹面)	色調(凸面)	色調(凹面)	白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	金銀砂粒	鉄錆	赤錆	黒錆	厚さ(cm)	段	形態・手摺の特徴	残存率	備考
722	6-2区	SD13		平瓦	板ナテ	布目圧痕、ヘラ削り	2.5Y6/2 灰黄	N4/ 灰	細・少			(11.5)	(7.9)	—	—	1.6	無		破片	土師質
728	6-2区	SD03	最上層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N5/ 灰	N5/ 灰	中・少			10.3	10.8	—	—	2.2	無		破片	須恵質
747	6-2区	SD03	最下層	平瓦	板ナテ	縄目・ハケ	N5/ 灰	N5/ 灰				(14.4)	(16.9)	—	—	1.8	無		破片	須恵質
750	6-2区	SD03	溝底	平瓦	板ナテ	指オサエ後ナテ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y6/1 黄灰	中・少			7.4	10.1	—	—	1.6	無		破片	土師質
1069	7-1区	SD01		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N6/ 灰	N6/ 灰	中・少			(12.7)	—	—	2.2	無		破片	須恵質	
1120	7-1区	SX01		丸瓦	ナテ・剥離	布目圧痕	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・少			9.5	—	—	1.7	無		破片	土師質	
1121	7-1区	SX01		平瓦	格子目タタキ・ナテ	布目圧痕	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・少	中・少		15.0	—	—	2.1	無		4/8	土師質	
1553	7-6区	SD01	3層	平瓦	ナテ	ナテ	5Y5/1 灰	5Y7/1 灰白	細・少			6.8	9.6	—	2.2	無		破片	土師質	

表10 石器観察表

観文番号	地区名	遺構名	層位	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
55	6-1区	SH22		石包丁	4.80	5.90	1.00	37.11	サスカイト	
56	6-1区	SH22		石包丁	5.30	4.00	0.60	17.70	サスカイト	
85	6-2区	SP54		石鏃	4.90	3.30	0.40	8.75	サスカイト	
95	6-2区	SH24		石錘	5.90	4.80	3.40	141.35	砂岩	
103	6-1区	SH18		砥石	9.50	4.10	0.90	61.78	結晶片岩	
112	6-1区	SH12		楔状石核	4.30	5.80	1.30	46.16	サスカイト	
127	6-1区	SH21		石鏃	3.00	2.60	0.50	2.82	サスカイト	
128	6-1区	SH21		石鏃	2.10	1.70	0.50	1.78	サスカイト	
129	6-1区	SH21		柱状片刃石斧	5.70	3.30	2.70	91.41	結晶片岩	
130	6-1区	SH21		砥石	6.50	3.00	3.00	69.70	砂岩	
165	6-1区	SH08		石鏃	3.50	1.50	0.50	2.51	サスカイト	
189	6-1区	SK23		楔状石核	5.30	4.30	1.70	50.06	サスカイト	
236	6-1区	SH05		扁平片刃石斧	4.20	2.50	0.75	16.18	結晶片岩	

報文番号	地区名	遺構名	層位	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
249	6-1区	SH01		石鏃	2.80	2.10	0.30	1.97	サスカイト	
250	6-1区	SH01		スクレイパー	6.40	4.90	0.80	54.67	サスカイト	
251	6-1区	SH01		二次加工のある剥片	3.95	3.00	1.00	11.30	サスカイト	
300	6-1区	SP48		石鏃	2.70	1.70	6.40	1.41	サスカイト	
320	6-1区	SK18		石鏃	2.10	0.90	0.30	0.48	サスカイト	
337	6-1区	SP101		石鏃	4.65	2.50	0.70	8.40	サスカイト	
338	6-1区	SX13		石包丁	4.90	4.70	1.10	29.81	サスカイト	
339	6-1区	SX13		砥石	4.40	3.20	2.90	58.77	流紋岩	
354	6-1区	SP134		砥石	4.15	1.90	1.40	20.55	流紋岩	
375	6-1区	SK49		石鏃	3.70	1.80	0.40	1.57	サスカイト	
385	6-1区	SD07		石鏃	2.60	2.10	0.30	1.77	サスカイト	
396	6-1区	SX08		石鏃	2.60	1.20	0.40	1.27	サスカイト	
404	6-1区	SP85		石鏃	2.95	4.90	2.00	37.29	砂岩	
414	6-1区	SX01		石鏃	2.70	1.80	0.45	2.07	サスカイト	
415	6-1区	SX01		砥石	5.30	3.15	0.70	22.74	砂岩	
435	6-1区	遺構検出		石鏃	1.60	1.00	0.20	0.32	サスカイト	
436	6-1区	遺構検出		石鏃	2.50	1.90	0.30	1.47	サスカイト	
437	6-1区	遺構検出		石鏃	2.50	1.20	0.30	1.16	サスカイト	
438	6-1区	遺構検出		石鏃	3.65	1.95	0.60	4.66	サスカイト	
439	6-1区	遺構検出		石鏃	2.60	1.10	0.40	1.05	サスカイト	
440	6-1区	遺構検出		石槍?	5.90	2.00	0.85	13.53	サスカイト	
441	6-1区	遺構検出		石包丁	5.05	3.60	0.95	21.87	サスカイト	
442	6-1区	遺構検出		スクレイパー	2.10	4.30	0.60	7.66	サスカイト	
443	6-1区	攪乱		鏡ミニチュア	3.90	2.70	0.40	5.33	結晶片岩	
447	6-1区	攪乱		石鏃	2.30	1.60	0.30	1.14	サスカイト	一部研磨
448	6-1区	攪乱		石鏃	2.30	1.60	0.40	1.68	サスカイト	
449	6-1区	攪乱		石鏃	2.60	2.30	0.50	2.25	サスカイト	
450	6-1区	攪乱		石鏃	3.90	1.60	0.50	2.88	サスカイト	
452	6-1区	攪乱		石鏃	5.60	4.30	4.40	139.78	砂岩	
479	6-2区	SH09		石鏃	1.65	1.70	0.20	0.27	サスカイト	
501	6-2区	SH07		石鏃	2.10	1.70	0.40	1.60	サスカイト	

報文番号	地区名	遺構名	層位	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
502	6-2区	SH07		砥石	23.05	20.60	6.40	4600.00	砂岩	
527	6-2区	SH03		磨製石斧	3.75	2.00	0.40	5.67	結晶片岩	
553	6-2区	SH04		石鏃	2.05	2.00	0.40	1.72	サスカイト	
581	6-2区	SH01		石鏃	3.80	2.30	0.55	7.25	サスカイト	
582	6-2区	SH01		楔状石核	4.00	3.20	0.90	16.80	サスカイト	
583	6-2区	SH01		楔状石核	4.00	2.80	1.00	12.60	サスカイト	
584	6-2区	SH01		スクレイパー	7.20	4.65	1.10	37.04	サスカイト	
589	6-2区	SH06		石鏃	2.70	2.00	0.60	3.41	サスカイト	
620	6-2区	SH14		石鏃	2.60	1.60	0.40	1.60	サスカイト	
621	6-2区	SH14		スクレイパー	7.90	2.90	1.00	26.84	サスカイト	
630	6-2区	SK15		石鏃	2.80	1.60	0.40	1.26	サスカイト	
648	6-2区	SK06		石鏃	2.50	1.80	0.50	1.78	サスカイト	
649	6-2区	SK06		石包丁	3.00	4.90	0.60	6.77	サスカイト	
650	6-2区	SK06		スクレイパー	4.20	4.60	0.80	20.16	サスカイト	
651	6-2区	SK06		石包丁	3.30	4.50	0.60	9.01	サスカイト	
665	6-2区	SP21		石鏃	2.40	2.00	0.45	2.45	サスカイト	
666	6-2区	SP41		石鏃	4.50	1.75	0.40	2.86	サスカイト	
683	6-2区	SH07SP01		二次加工のある剥片	3.55	2.60	0.55	7.66	サスカイト	
701	6-2区	SP55		砥石	3.00	1.60	1.00	6.76	流紋岩	
755	6-2区	SD03		石鏃	2.05	1.90	0.25	0.70	サスカイト	
756	6-2区	SD03		石鏃	2.70	1.50	0.36	1.52	サスカイト	
757	6-2区	SD03		石鏃	2.25	0.65	0.25	0.71	サスカイト	
758	6-2区	SD03		砥石	14.60	5.90	5.20	886.67	砂岩	
759	6-2区	SD03		石鏃	2.30	1.30	0.50	1.17	サスカイト	
760	6-2区	SD03		石鏃	2.50	1.80	0.40	2.03	サスカイト	
761	6-2区	SD03		石鏃	3.70	2.00	0.50	2.74	サスカイト	
762	6-2区	SD03		石鏃	2.80	1.80	0.45	1.88	サスカイト	
763	6-2区	SD03		石鏃	2.50	2.30	0.45	3.44	サスカイト	
764	6-2区	SD03		石鏃	2.80	1.20	0.40	1.45	サスカイト	
765	6-2区	SD03		楔状石核	3.80	4.10	1.20	31.16	サスカイト	
766	6-2区	SD03		石鏃	2.95	1.60	0.40	1.89	サスカイト	

報文番号	地区名	遺構名	層位	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
767	6-2区	SD03		石鏃	2.70	1.70	0.40	2.26	サスカイト	
769	6-2区	SR		砥石	3.30	3.70	1.50	34.00	砂岩	
775	6-2区	古代包含層		大型蛤刃石斧	14.00	7.50	4.70	948.87	不明(香川県産ではない?)	
787	6-2区	遺構検出		スクレイパー	6.00	3.70	0.70	18.94	"讃岐岩質安山岩(玄武岩に近い)"	
788	6-2区	遺構検出		砥石または石斧	6.50	4.20	2.00	90.35	結晶片岩	石斧の可能性高い
790	6-2区	攪乱		石鏃	1.60	1.30	0.30	0.58	サスカイト	
791	6-2区	攪乱		石鏃	2.40	1.90	0.30	1.57	サスカイト	
792	6-2区	攪乱		石鏃	4.90	2.10	0.80	9.90	サスカイト	
793	6-2区	攪乱		石包丁	15.60	5.90	1.30	134.56	サスカイト	
797	6-2区	遺構検出		石鏃	2.50	2.40	0.40	1.77	サスカイト	
798	6-2区	遺構検出		石鏃	4.10	2.10	0.70	4.50	サスカイト	
799	6-2区	遺構検出		石包丁	7.90	4.40	1.20	56.31	安山岩(讃岐岩質)	
800	6-2区	遺構検出		石包丁	6.40	4.50	1.10	33.37	サスカイト	
801	6-3区倉庫棟	包含層		石鏃	3.25	2.70	0.40	2.60	サスカイト	
802	6-3区倉庫棟	包含層		石鏃未成品	4.75	3.20	0.55	9.65	サスカイト	
803	6-3区南	SX02		砥石	12.70	9.45	8.70	1220.81	砂岩	
805	6-3区北	包含層		石鏃	3.40	2.40	0.45	3.86	サスカイト	
806	6-3区北	包含層		石鏃	5.25	2.80	0.85	10.70	サスカイト	
807	6-3区北	遺構検出		石鏃	2.80	2.05	0.40	2.34	サスカイト	
822	6-3区南	SH01		石鏃	3.50	2.30	0.40	3.42	サスカイト	
823	6-3区南	SH01		石鏃	2.50	1.40	0.25	1.00	サスカイト	
824	6-3区南	SH01		砥石	19.10	15.40	4.70	1919.52	流紋岩	
825	6-3区南	SH01SK02		砥石	20.00	11.70	8.30	3600.00	流紋岩	
846	7-1区	SH12		スクレイパー	5.60	3.05	0.50	10.95	サスカイト	
859	7-1区	SH05		有孔円盤	2.30	1.70	3.00	2.15	結晶片岩	
860	7-1区	SH05		石鏃	2.70	1.75	0.40	2.37	サスカイト	
888	7-1区	SH11		石鏃	3.10	2.15	0.60	3.24	サスカイト	
905	7-1区	SH01		石鏃	2.30	1.70	3.50	0.88	サスカイト	
906	7-1区	SH01		石鏃	2.55	1.75	0.35	1.70	サスカイト	
911	7-1区	SH16SP01		砥石の可能性	6.80	2.55	2.00	56.00	流紋岩	

報文番号	地区名	遺構名	層位	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
919	7-1区	SH02		石鏃	4.20	260	0.50	632	サスカイト	
920	7-1区	SH02		石鏃	2.50	215	0.50	353	サスカイト	
921	7-1区	SH02		石鏃	2.90	1.70	0.40	2.20	サスカイト	
922	7-1区	SH02		大型蛤刃石斧	10.75	6.90	3.90	415.16	ひん岩?	
926	7-1区	SB02SP234		石鏃	2.05	1.35	0.30	0.73	サスカイト	
938	7-1区	SK02		石包丁	5.60	3.50	0.90	19.59	サスカイト	
991	7-1区	SP258		(不明)	5.40	4.70	1.10	40.00	結晶片岩	
992	7-1区	SK03		楔形石器	4.10	3.60	1.10	19.70	サスカイト	
993	7-1区	SK06		砥石	8.70	3.95	1.30	70.30	流紋岩	
1032	7-1区	SD03		砥石	4.60	2.75	1.90	38.97	黒雲母角閃石安山岩	
1043	7-1区	SD03		石鏃	2.30	2.10	0.45	1.73	サスカイト	
1044	7-1区	SD03		石鏃	2.50	1.60	0.45	1.67	サスカイト	
1055	7-1区	SD31		砥石	6.50	4.45	1.90	56.67	流紋岩	
1070	7-1区	SD01		砥石	6.60	4.80	0.90	40.23	流紋岩	
1122	7-1区	SX01		有孔凹盤	2.00	1.55	0.20	1.33	結晶片岩	
1131	7-1区	SH10		二次加工のある剥片	7.80	4.70	1.30	48.06	サスカイト	
1132	7-1区	SH10		異形石器	6.80	4.10	0.90	16.00	サスカイト	
1146	7-3区	SH05	上層	石包丁	3.95	3.50	0.60	9.42	サスカイト	
1170	7-3区	SH12			6.10	6.90	4.10	40.00	軽石	
1171	7-3区	SH12			7.70	8.10	4.40	49.00	軽石	
1176	7-3区	SH10		楔形石器	5.00	4.10	1.50	36.65	サスカイト	
1185	7-3区	SH09		石鏃	2.75	1.45	0.45	1.40	サスカイト	
1258	7-3区	SP131		二次加工のある剥片	2.50	1.20	0.15	0.83	サスカイト	
1263	7-3区	SK08		石包丁	5.30	4.50	1.00	30.00	サスカイト	
1267	7-3区	SD02		石鏃	2.70	2.05	0.55	2.18	サスカイト	
1279	7-3区	SD10		石鏃	2.90	2.40	0.70	5.08	サスカイト	
1280	7-3区	SD10		石鏃	3.00	2.25	0.50	3.45	サスカイト	
1281	7-3区	SD10		石鏃	2.45	1.80	0.50	2.20	サスカイト	
1282	7-3区	SD10		楔状石核	6.30	4.30	1.05	28.70	サスカイト	
1298	7-3区	SX08		石鏃	1.95	1.75	3.00	0.77	サスカイト	
1309	7-3区	SR01	中層	石包丁	3.90	3.45	1.10	16.20	サスカイト	

報文番号	地区名	遺構名	層位	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	備考
1435	7-4区	SX02		スクレイパー	4.80	3.70	0.60	15.07	サスカイト	
1436	7-4区	SR01	上層	石鏃	4.60	2.70	0.60	6.30	サスカイト	
1451	7-5区	遺構検出		楔状石核	5.60	3.60	0.75	23.12	サスカイト	
1459	7-6区	SH05		砥石	16.20	9.60	5.15	1340.27	安山岩	
1468	7-6区	SH02	覆土	石鏃	4.55	2.05	0.50	4.60	サスカイト	
1469	7-6区	SH02	覆土	楔状石核	8.35	5.45	1.40	85.32	サスカイト	
1508	7-6区	SP54		石鏃	2.25	1.70	0.50	1.98	サスカイト	
1567	7-6区	SX06		石包丁	8.50	4.70	1.10	42.12	サスカイト	
1598	7-6区	SR01	下層	打製石斧	6.85	5.55	1.00	31.51	安山岩(讃岐岩質)	
1600	7-6区	遺構検出		磨製石鏃	2.60	1.10	0.20	0.81	泥岩または粘板岩	

表 11 玉類観察表

報文番号	調査区名	遺構名	層位	種類	色調(目視による)	色調(「日本の傳統色、その色名と色調」長崎盛輝による)	高さまたは長さ(cm)	直径または幅(cm)	厚さ(cm)	孔の最大径(cm)	孔の最小径(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考
18	6-1区	SH15		白玉	暗緑	3.5Y 3.5/1 赤みの暗い灰黄	0.40	0.55		0.23		0.12	滑石	完存	
19	6-1区	SH15		白玉	暗緑	5GY 6/2.5 明るい灰黄緑	0.35	0.45		0.15		0.07	滑石	端部欠損	
23	6-1区	SH06		管玉	緑	8.5GY 4/3 緑みの暗い黄緑	1.50	0.35		0.20	0.15	0.28	碧玉	完存	
32	6-1区	SH04		白玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	0.33	0.45		0.20		0.07	滑石	完存	
57	6-1区	SH22		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みのごく暗い黄緑	0.40	0.45		0.20		0.12	滑石	完存	
131	6-1区	SH21		白玉	暗緑	5G 3.5/1.5 暗い灰緑	0.25	0.50		0.20		0.10	滑石	完存	
132	6-1区	SH21		白玉	暗緑	1.5GY 4/2 黄みの暗い灰黄緑	0.18	0.35		0.15		0.02	滑石	完存	
152	6-1区	SH08		白玉	暗緑	1.5GY 4/2 黄みの暗い灰黄緑	0.48	0.55		0.25		0.13	滑石	端部欠損	
153	6-1区	SH08		白玉	暗緑	8BG 3.5/1.5 青みの暗い灰青緑	0.35	0.55		0.18		0.13	滑石	完存	
154	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	0.35	0.45		0.25		0.11	滑石	完存	
155	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みのごく暗い黄緑	0.35	0.55		0.20		0.12	滑石	完存	
156	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.30	0.40		0.25		0.06	滑石	半分欠損	
157	6-1区	SH08		灰白	灰白	2.5Y 7/1 赤みの明るい灰黄	0.20	0.60		0.25		0.07	滑石	端部欠損	

報文 番号	調査区名	遺構名	層位	種類	色調(目 視による)	色調(「日本の傳統色、その色 名と色調」長崎盛輝による)	高さまたは 長さ(cm)	直径または 幅(cm)	厚さ (cm)	孔の最大 径(cm)	孔の最小 径(cm)	重量 (g)	材質	残存状況	備考
158	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.20	0.50		0.20		0.08	滑石	完存	
159	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.30	0.55		0.20		0.10	滑石	完存	
160	6-1区	SH08		白玉	暗緑	8.5GY 4.5/3 緑みの暗い黄緑	0.30	0.45		0.20		0.06	滑石	完存	
161	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.20	0.40		0.20		0.02	滑石	端部欠損	
162	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みの ごく暗い黄緑	0.30	0.35		0.10		0.04	滑石	完存	
163	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.20	(0.35)				0.02	滑石	半分欠損	
164	6-1区	SH08		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.20	(0.25)				0.02	滑石	半分欠損	
187	6-1区	SH13		白玉	暗緑	2.5GY 4/3 黄みの暗い黄緑	0.35	0.48		0.25		0.09	滑石	完存	
227	6-1区	SH03		白玉	暗緑	2.5G 3.5/2.5 黄みの暗い緑	0.30	0.50		0.20		0.06	滑石	完存	
228	6-1区	SH03		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みの ごく暗い黄緑	0.30	(0.25) 残存				0.03	滑石	半分欠損	
229	6-1区	SH03		白玉	灰	2.5BG 5/2 灰青緑	0.20	0.40		0.10		0.05	滑石	端部欠損	
234	6-1区	SH02		白玉	暗緑	5GY 6/2.5 明るい灰黄緑	0.35	0.45		0.20		0.09	滑石	完存	
235	6-1区	SH02		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.30	0.20				0.03	滑石	半分欠損	
276	6-1区	SH19		白玉	暗緑	1.5GY 4/2 黄みの暗い灰黄緑	0.35	0.50		0.20		0.13	滑石	完存	
293	6-1区	SP17		白玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	0.25	(0.23)				0.02	滑石	半分欠損	
306	6-1区	SP07		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄み のごく暗い黄緑	0.15	0.38		0.10		0.02	滑石	完存	
365	6-1区	SX19		白玉	暗緑	5G 3.5/1.5 暗い灰緑	0.30	0.40		0.15		0.05	滑石	完存	
405	6-1区	SX04		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みの ごく暗い黄緑	0.35	0.48		0.20		0.11	滑石	完存	
406	6-1区	SX04		白玉	暗緑	10BG 3/3 青みの暗い灰青緑	0.30	0.40		0.15		0.05	滑石	完存	
407	6-1区	SX04		白玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	0.30	0.40		0.15		0.06	滑石	完存	
429	6-1区	遺構検出		勾玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	2.80	1.80	0.55	0.15		4.23	蛇紋岩	完存	
430	6-1区	遺構検出		白玉	やや透明が かった白	7.5Y 8/2.5 緑みのうすい黄	0.30	0.50		0.20		0.11	滑石	完存	
431	6-1区	遺構検出		白玉	暗緑	2.5GY 4/3 黄みの暗い黄緑	0.35	(0.20)				0.03	滑石	半分欠損	
432	6-1区	遺構検出		白玉	灰	5GY 4.5/1 灰黄緑	0.30	0.55		0.25		0.12	滑石	端部欠損	
433	6-1区	遺構検出		小玉	緑	8G 4.5/8 青みのさえた緑	0.30	0.43		0.20		0.07	ガラス	完存	
434	6-1区	遺構検出		白玉	灰	8.5G 5/1 青みの灰緑	0.40	0.50		0.20		0.10	滑石	端部欠損	
445	6-1区	撿乱		勾玉		2.5Y 8.5/1 赤み のごくうすい黄	3.83	3.00	1.90	0.65	0.35	15.27	土製	完存	
446	6-1区	撿乱		小玉	白	N 9.5 白	0.50	0.80		0.35		0.45	ガラス 色に風化	完存、風化	
487	6-2区	SH08		小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.48	0.45		0.25		0.12	ガラス	完存	

報文番号	調査区名	遺構名	層位	種類	色調(目視による)	色調(「日本の傳統色 名と色調」長崎盛輝による)	高さまたは長さ(cm)	直径または幅(cm)	厚さ(cm)	孔の最大径(cm)	孔の最小径(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考
504	6-2区	SH15		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.20	0.50		0.25		0.05	滑石	端部欠損	
505	6-2区	SH15		白玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	0.23	0.50		0.25		0.08	滑石	完存	
523	6-2区	SH03		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みのごく暗い黄緑	0.25	0.60		0.25		0.13	滑石	完存	
524	6-2区	SH03		白玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	0.28	0.43		0.10		0.08	滑石	完存	
525	6-2区	SH03		白玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	0.25	0.45		0.18		0.07	滑石	完存	
540	6-2区	SH02		白玉	暗緑	8BG 3.5/1.5 青みの暗い灰青緑	0.28	0.50		0.20		0.08	滑石	完存	
551	6-2区	SH04		白玉	暗緑	8BG 3.5/1.5 青みの暗い灰青緑	0.30	0.50		0.25		0.15	滑石	完存	
552	6-2区	SH04		丸玉		2.5Y 8.5/1 赤みのごくうすい黄	2.15	2.40		0.35		12.19	土製	完存	
571	6-2区	SH01		勾玉	暗緑	5B 3.5/3.5 緑みの暗い青	2.10	1.70	0.55	0.20		2.31	滑石	完存	
572	6-2区	SH01		勾玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みのごく暗い黄緑	0.95	0.60	0.25	0.15		0.12	蛇紋岩	完存	
573	6-2区	SH01		管玉	暗緑	5G 3.5/1.5 暗い灰緑	0.90	0.35		0.15		0.19	碧玉	完存	
574	6-2区	SH01		小玉	青緑	5B 4.5/3 緑みのにぶい青	0.35	0.40		0.10		0.05	ガラス	完存	
575	6-2区	SH01		小玉	青	5B 5.8 緑みのあざやかな青	0.20	0.40		0.15		0.06	ガラス	完存	
576	6-2区	SH01		白玉	暗緑	1.5GY 3.5/1.5 黄みの暗い灰黄緑	0.30	0.55		0.20		0.10	滑石	端部欠損	
577	6-2区	SH01		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.20	0.40		0.10		0.05	滑石	完存	
578	6-2区	SH01		白玉	暗緑	2.5G 6/1 黄みの明るい灰緑	0.33	0.50		0.15		0.18	滑石	完存	
604	6-2区	SH11		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みのごく暗い黄緑	0.20	0.45		0.15		0.06	滑石	完存	
605	6-2区	SH11		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みのごく暗い黄緑	0.30	0.43		0.15		0.06	滑石	完存	
606	6-2区	SH11		白玉	暗緑	5GY 4.5/1 灰黄緑	0.20	0.45		0.25		0.06	滑石	完存	
607	6-2区	SH11		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みのごく暗い黄緑	0.35	0.35		0.20		0.05	滑石	完存	
616	6-2区	SH14		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.30	(0.18)				0.02	滑石	半分欠損	
617	6-2区	SH14		小玉	青	6.5B 5/7 あざやかな青	0.35	0.40		0.15		0.07	ガラス	完存	
618	6-2区	SH14		白玉	暗緑	5G 3.5/1.5 暗い灰緑	0.30	0.50		0.20		0.10	滑石	完存	
619	6-2区	SH19		白玉	暗緑	1.5GY 4/2 黄みの暗い灰黄緑	0.35	0.50		0.20		0.12	滑石	端部欠損	
664	6-2区	SP35		小玉	青	5B 6.5/6.5 緑みのうすい青	0.30	0.30		0.10		0.05	ガラス	完存	
691	6-2区	SP29		小玉	白	N 9.5 白	0.30	0.55		0.25		0.22	ガラス	完存、風化	
692	6-2区	SP29		小玉	白	N 9.5 白	0.30	0.50		0.25		0.18	ガラス	完存、風化	
693	6-2区	SP29		小玉	白	N 9.5 白	0.35	0.55		0.25		0.19	ガラス	完存、風化	
694	6-2区	SP29		小玉	白	N 9.5 白	0.20	(0.30)				0.04	ガラス	半分欠損、風化	

報文番号	調査区名	遺構名	層位	種類	色調(目視による)	色調(「日本の傳統色、その色名と色調」長崎盛輝による) 高さまたは長さ(cm)	直径または幅(cm)	厚さ(cm)	孔の最大径(cm)	孔の最小径(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考
706	6-2区	SP31		白玉	暗緑	2.5GY 3/1 黄みのごく暗い黄緑	0.20	0.40	0.20		0.04	滑石	完存	
785	6-2区	遺構検出		白玉	暗緑	8BG 3.5/1.5 青みの暗い灰青緑	0.35	0.40	0.15		0.08	滑石	完存	
786	6-2区	遺構検出		白玉	暗緑	5GY 6/2.5 明るい灰黄緑	0.20	0.40	0.15		0.05	滑石	完存	
821	6-3区南	SH01		勾玉	緑	5G 5.5/6 あざやかな緑	1.25	0.80	0.20	0.40	0.68	ヒスイ	完存	
858	7-1区	SH05		白玉	暗緑	5B 4.5/0.5 緑みの灰青	0.30	0.55	0.20		0.12	滑石	完存	
862	7-1区	SH05SX06		白玉	暗緑	5G 3.5/1.5 暗い灰緑	0.20	0.38	0.15		0.05	滑石	完存	
869	7-1区	SH08		白玉	暗緑	1.5GY 3.5/1.5 黄みの暗い灰黄緑	0.30	0.45	0.20		0.08	滑石	完存	
887	7-1区	SH11		白玉	暗緑	8BG 3.5/1.5 青みの暗い灰青緑	0.30	0.50	0.20		0.15	滑石	完存	
902	7-1区	SH01		勾玉	暗緑	8BG 3/2 青みの暗い青緑	3.45	2.10	0.60	0.35	6.12	滑石	完存	
903	7-1区	SH01		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.25	0.45	0.20		0.06	滑石	端部欠損	
904	7-1区	SH01		白玉	暗緑	1.5GY 4/2 黄みの暗い灰黄	0.30	0.50	0.20		0.12	滑石	端部欠損	
917	7-1区	SH02		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.30	0.45	0.25		0.07	滑石	完存	
918	7-1区	SH02		白玉	暗緑	5G 3.5/1.5 暗い灰緑	0.20	0.40	0.15		0.05	滑石	端部欠損	
944	7-1区	SD31		管玉	暗緑	9G 3.5/4 青みの暗い緑	0.95	(0.60)			0.28	碧玉	半分欠損	
951	7-1区	SK08		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	0.30	0.53	0.20		0.12	滑石	完存	
969	7-1区	SP44		白玉	暗緑	1.5GY 3.5/1.5 黄みの暗い灰黄緑	0.40	0.45	0.25		0.11	滑石	完存	
1031	7-1区	SD03		小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.25	(0.18)			0.02	ガラス	半分欠損	
1046	7-1区	SD03		白玉	暗緑	2.5BG 5/2 灰青緑	3.00	4.00	2.00		0.03	滑石	完存	
1054	7-1区	SD31		白玉	暗緑	8BG 3.5/1.5 青みの暗い灰青緑	0.30	0.45	0.20		0.06	滑石	完存	
1081	7-1区	SD08		白玉	暗緑	5G 3.5/1.5 暗い灰緑	0.25	0.35	0.15		0.04	滑石	完存	
1130	7-1区	遺構検出		白玉	暗緑	8.5G 5/1 青みの灰緑	0.28	0.40	0.20		0.06	滑石	完存	
1153	7-3区	SH05		管玉	白	N 9.5 白	0.60	0.30	0.15		0.07	ガラス	端部欠損、風化	
1175	7-3区	SH10		管玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.50	0.35	0.20		0.04	ガラス	完存	
1221	7-3区	SH01		白玉	灰緑	5GY 6/2.5 明るい灰黄緑	0.20	(0.33)			0.05	滑石	半分欠損	
1222	7-3区	SH01		白玉	灰緑	5GY 6/2.5 明るい灰黄緑	0.20	0.40	0.15		0.03	滑石	端部欠損	
1234	7-3区	SH06		白玉	暗緑	7.5GY 4/1.5 緑みの暗い灰黄緑	0.20	0.35	0.15		0.04	滑石	完存	
1327	7-4区	SH03		管玉	暗緑	10G 3.5/3 青みの暗い緑	0.70	(0.15)			0.02	碧玉	半分欠損	
1461	7-6区	SH01		小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.40	(0.25)			0.03	ガラス	半分欠損	
1470	7-6区	SH02	覆土	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.25	0.35	0.15		0.08	ガラス	完存	
1471	7-6区	SH02	覆土	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.28	0.40	0.20		0.04	ガラス	完存	

報文番号	調査区名	遺構名	層位	種類	色調(目視による)	色調(「日本の傳統色、その色名と色調」長崎盛輝による)	高さまたは長さ(cm)	直径または幅(cm)	厚さ(cm)	孔の最大径(cm)	孔の最小径(cm)	重量(g)	材質	残存状況	備考
1472	7-6区	SH02	覆土	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.40	(0.20)				0.08	ガラス	半分欠損	
1473	7-6区	SH02	覆土	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.30	0.40		0.20		0.08	ガラス	完存	
1474	7-6区	SH02	覆土	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.15	0.20		0.15		0.01	ガラス	完存	
1475	7-6区	SH02	覆土	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.35	0.30		0.15		0.05	ガラス	完存、ややいびつ	
1476	7-6区	SH02	覆土	小玉	青	5B 6.5/6.5 緑みのうすい青	0.30	0.40		0.20		0.04	ガラス	完存	
1477	7-6区	SH02	床直	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.20	0.35		0.15		0.03	ガラス	完存	
1478	7-6区	SH02	床直	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.20	(0.23)				0.03	ガラス	半分欠損	
1479	7-6区	SH02	床直	小玉	青	5B 5/8 緑みのあざやかな青	0.40	0.40		0.20		0.07	ガラス	完存	
1532	7-6区	SK06		管玉	暗緑	10G 3.5/3 青みの暗い緑	0.60	(0.18)				0.04	碧玉	半分欠損	

表 12 金属器観察表

報文番号	調査区名	遺構名	層位	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	材質	備考
17	6-1区	SH15		(不明)	8.70	0.50	0.70	鉄	
31	6-1区	SH04		銅鏝	5.00	1.65 0.40	0.40 0.20	銅	
53	6-1区	SH22		鉄鏝?	4.25	2.90	0.75	鉄	
54	1区	SH22		鉄鏝	4.65	1.10	0.65	鉄	
125	6-1区	SH21		鉄釘	4.80	0.95	0.75	鉄	
126	6-1区	SH21		刀子?	6.65	1.40	0.30	鉄	
226	6-1区	SH03		鉄釘	4.60	1.45	1.70	鉄	
284	6-1区	SH20		鉄釘	2.75	0.35	0.35	鉄	
336	6-1区	SP09		鉄釘	2.00	0.55	0.45	鉄	
403	6-1区	SX04		(不明)	7.40	1.55	0.30	鉄	
444	6-1区	攪乱		銅銭	1.95	1.95	0.50	銅	
451	6-1区	攪乱		銅鏝	2.70	1.60	0.20	銅	
478	6-2区	SH09		鉄釘	3.55	0.70	0.70	鉄	

報文番号	調査区名	遺構名	層位	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	材質	備考
522	6-2区	SH02SP06		鉄釘	5.30	0.55	0.50	鉄	
526	6-2区	SH03		鉄釘	2.50	0.60	0.60	鉄	
528	6-2区	SH03		銅鏝	2.10	1.10 0.40	0.30 0.30	銅	
579	6-2区	SH01		不明	5.00	4.90	1.45	鉄	
580	6-2区	SH01		鉄釘	3.35	0.70	0.50	鉄	
588	6-2区	SH06		鉄釘	4.15	0.40	0.35	鉄	
602	6-2区	SH12		鉄鏝	3.50	2.30	0.25	鉄	
603	6-2区	SH11		鉄釘	5.40	0.70	0.70	鉄	
723	6-2区	SD13		(不明)	4.00	2.35	0.20	鉄	
751	6-2区	SD03		鉄釘	3.15	0.35	0.35	鉄	
752	6-2区	SD03		鉄釘	2.15	0.60	6.50	鉄	
753	6-2区	SD03		鉄釘	4.75	0.75	0.65	鉄	
754	6-2区	SD03		不明鉄製品	0.30	0.40	0.20	鉄	
796	6-2区	遺構検出		銅鏝	4.60	1.10 0.40	0.40 0.30	銅	
986	7-1区	SP230		鉄釘	4.30	0.45	0.60	鉄	
994	7-1区	SK11		鉄釘	6.25	0.50	0.40	鉄	
1009	7-1区	SK01		鉄釘	5.30	3.35	0.60	鉄	
1080	7-1区	SD08		鉄釘	2.20	0.70	0.45	鉄	
1145	7-3区	SH05	上層	銅鏝	3.70	1.55	0.40	銅	
1169	7-3区	SH12		鉄釘	4.10	0.80	0.70	鉄	
1183	7-3区	SH09		(不明)	12.50	1.90	0.75 1.20	鉄	
1184	7-3区	SH09		鉄釘?	4.95	0.85	0.60	鉄	
1202	7-3区	SH08	覆土	鉄釘	2.50	0.70	0.60	鉄	
1278	7-3区	SD10		銅鏝	2.05	1.60	0.40	銅	
1290	7-3区	SX03		鉄釘	11.00	1.10	0.90	鉄	
1316	7-3区	抛乱坑13		銅鏝	6.80	6.70	0.40	銅	
1328	7-4区	SH03		鉄釘	5.10	0.90	0.70	鉄	
1537	7-6区	SD04		鉄釘	7.10	0.70	0.50	鉄	
1538	7-6区	SD04		鉄釘	3.80	0.90	0.50	鉄	
1564	7-6区	SD01	5層	鉄釘	3.40	1.00	0.55	鉄	

表 13 動物遺存体一覧表

地区名	遺構名	種名	部位	部分	左右	その他	備考
6-1区	SH04	不明 哺乳類	不明			破片 焼骨(白)	
6-1区	SH08	不明	不明			破片 焼骨(白)	
6-1区	SH08	不明 哺乳類	不明			破片 焼骨(白,灰)	
6-1区	SH08	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		破片	
6-1区	SH10	不明 哺乳類	部位不明		不明	破片 焼骨(白)	
6-1区	SH16	ニホンジカ	遊離歯	臼歯	不明	破片	
6-1区	SH16	不明					
6-1区	SH21	ニホンジカ	遊離歯	上顎後臼歯	左	破片	写真図版掲載
6-1区	SB01SP128	不明	不明	破片			
6-1区	SK02	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		破片	
6-1区	SK18	ネズミ科	遊離歯	下顎切歯		破片	写真図版掲載
6-1区	SK18	不明 哺乳類	部位不明			破片	
6-1区	SK18	不明	不明破片	不明			
6-1区	SK18	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		破片	
6-1区	SP07	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		破片	
6-1区	SP17	ニホンジカ	中手骨もしくは中足骨	遠位端		破片 未化骨	写真図版掲載
6-1区	SP48	イノシシ	遊離歯	下顎後臼歯	左	M2?	写真図版掲載
6-1区	SP137	ニホンジカ	遊離歯	臼歯	不明	破片	
6-1区	SX08	不明 哺乳類	不明			破片 焼骨(白,灰)	
6-1区	SX08	不明	不明			破片 焼骨(白)	
6-1区	遺構掘削	イノシシ	遊離歯	下顎切歯		破片	
6-1区	遺構検出	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		破片	
6-1区	遺構検出	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		破片	
6-2区	SH01 かまど	鳥類	足根中足骨	遠位	右	焼骨	
6-2区	SH01	不明 哺乳類	不明			破片	
6-2区	SH01	タイ科	遊離歯				
6-2区	SH01	不明 魚類	椎骨			破片 焼骨(白)	
6-2区	SH01	①ニホンジカ	鹿角				
6-2区	SH01	②ニホンジカ	遊離歯	破片			
6-2区	SH01	ニホンジカ	鹿角	不明		焼骨	
6-2区	SH02 かまど	不明 哺乳類	不明	不明		破片 焼骨(白)	
6-2区	SH03	不明 哺乳類	不明	不明		破片 焼骨(白,灰)	
6-2区	SH09	イノシシ	遊離歯			破片	

地区名	遺構名	種名	部位	部分	左右	その他	備考
6-2区	SH09	不明 哺乳類	四肢骨			破片 焼骨(白)	
6-2区	SH11	ニホンジカ	下顎骨		左		
6-2区	SH12	ニホンジカ	遊離歯			破片	
6-2区	SH15	不明 哺乳類	不明			破片 焼骨(白,灰)	
6-2区	SK17	不明 哺乳類				(鹿角?)	
6-2区	SP42	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		破片	
6-2区	SH02SP06	不明 哺乳類	不明			破片 焼骨(白)	
6-2区	SH11SP05・SP06	不明 哺乳類	遊離歯			破片	
6-2区	SH11SP16	不明 魚類	棘(きょく)?			焼骨(白)	
6-2区	SD03	ウシもしくはウマ	遊離歯			破片	
6-2区	SD13	不明 哺乳類	不明			破片	
6-2区	遺構検出	ニホンジカ	遊離歯			破片	
6-2区	遺構検出	ウシもしくはウマ	遊離歯			破片	
6-2区	遺構検出	不明 哺乳類	不明			破片	
6-2区	遺構検出	不明 哺乳類	不明			破片 焼骨(白)	
6-3区北	包含層	ウマ		上顎臼歯	左		写真図版掲載
7-1区	SH01 焼土周辺	イノシシ	遊離歯	下顎後臼歯	不明		
7-1区	SH01	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SH01	ウシもしくはウマ	橈骨	近位			
7-1区	SH02 かまど	ニホンジカ	鹿角			破片	
7-1区	SH02 焼土上面	不明 哺乳類	不明			破片 焼骨(白)	
7-1区	SH02 焼土上面	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SH02 焼土上面	不明 哺乳類	四肢骨	骨幹部		破片 焼骨(灰)	
7-1区	SH02 焼土上面	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SH08	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SH13	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SB02SP246	シカもしくはイノシシ	四肢骨	骨幹部		消化痕あり(食肉目による咬み痕か)	
7-1区	SB05SX07	ニホンジカ?	遊離歯	臼歯		破片	
7-1区	SK08	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SK29	イノシシ	遊離歯	臼歯		破片	
7-1区	SK29	不明 哺乳類	四肢骨	骨幹部		破片 焼け(黒,茶)	
7-1区	SK29	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SP44	イノシシもしくはニホンジカ	寛骨			破片	
7-1区	SP80	ニホンジカ	末節骨	第3もしくは第4		破片	写真図版掲載

地区名	遺構名	種名	部位	部分	左右	その他	備考
7-1区	SD01	ウマもしくはウシ	四肢骨	骨幹部		破片	
7-1区	SD03	ウマ?	遊離歯			破片	
7-1区	SD03	ニホンジカ	距骨		右		写真図版掲載
7-1区	SD03	ウマ	遊離歯	下顎後臼歯	右	M3?	
7-1区	SD10	ニホンジカ	橈骨	近位端	左		
7-1区	SD10	ニホンジカ	鹿角				
7-1区	SR01	ニホンジカ	遊離歯	下顎後臼歯	不明		
7-1区	SX01	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SX01	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		破片	
7-1区	SX01	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SX04	イノシシ	遊離歯	上顎後臼歯		M3	写真図版掲載
7-1区	SX05	イノシシもしくはニホンジカ	肋骨			破片	
7-1区	SX05	イノシシ	遊離歯	下顎犬歯		破片	
7-1区	SX05	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	SX08	イノシシ	遊離歯	臼歯		破片	
7-1区	遺構検出	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	遺構検出	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	遺構検出	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	遺構検出	不明 哺乳類	不明			破片	
7-1区	遺構検出	ニホンジカ	遊離歯	下顎臼歯		破片	
7-1区	遺構検出	不明	不明	不明		焼骨(白,灰)	
7-1区	遺構検出	不明	不明			破片 焼骨(白)	
7-1区	包含層	イノシシ	遊離歯	下顎後臼歯		破片	
7-3区	SH11	イノシシ	遊離歯	臼歯		破片(焼けあり 黒)	
7-3区	SP135	不明	不明			破片	
7-3区	SX08	イノシシ	遊離歯	下顎後臼歯		破片	
7-4区	SH03	イノシシ	遊離歯	下顎後臼歯		破片	
7-4区	SD02	不明 哺乳類	不明			破片	
7-5区	SP84	不明 哺乳類	不明			破片	
7-5区	SP84	不明 哺乳類	不明			破片	



6-1 区調査区西壁断面



6-2 区地山の赤色土壌



6-1区SX09断面 (東から)



6-1区SH04、15等掘削状況 (南から)



6-1 区 S H 04、06 断面（西北から）



6-1 区 S H 22 完掘状況（西南から）



6-1 区SH 09 完掘、6-1 区SH 16 検出状況（西から）



6-1 区SH 12 完掘状況（西から）



6-1区SH 21等掘削状況（東から）



6-1区SH 01、07、08等検出状況（東から）



6-1 区SH 13 壁溝 遺物出土状況 (東から)



6-1 区SH 03 掘削状況 (南から)



6-1 区 S H 03 掘削状況 (南から)



6-1 区 S H 03 断面 (西から)



6-1 区 S H 05、S X 04 等検出状況（東から）



6-1 区 S P 17、48 遺物出土状況（南から）



6-1 区 S K 18 掘削状況 (東から)



6-1 区 S K 18 断面 (東から)



6-1 区SK 18 人骨完掘状況（北から）



6-1 区SK 18 人骨完掘状況（西から）



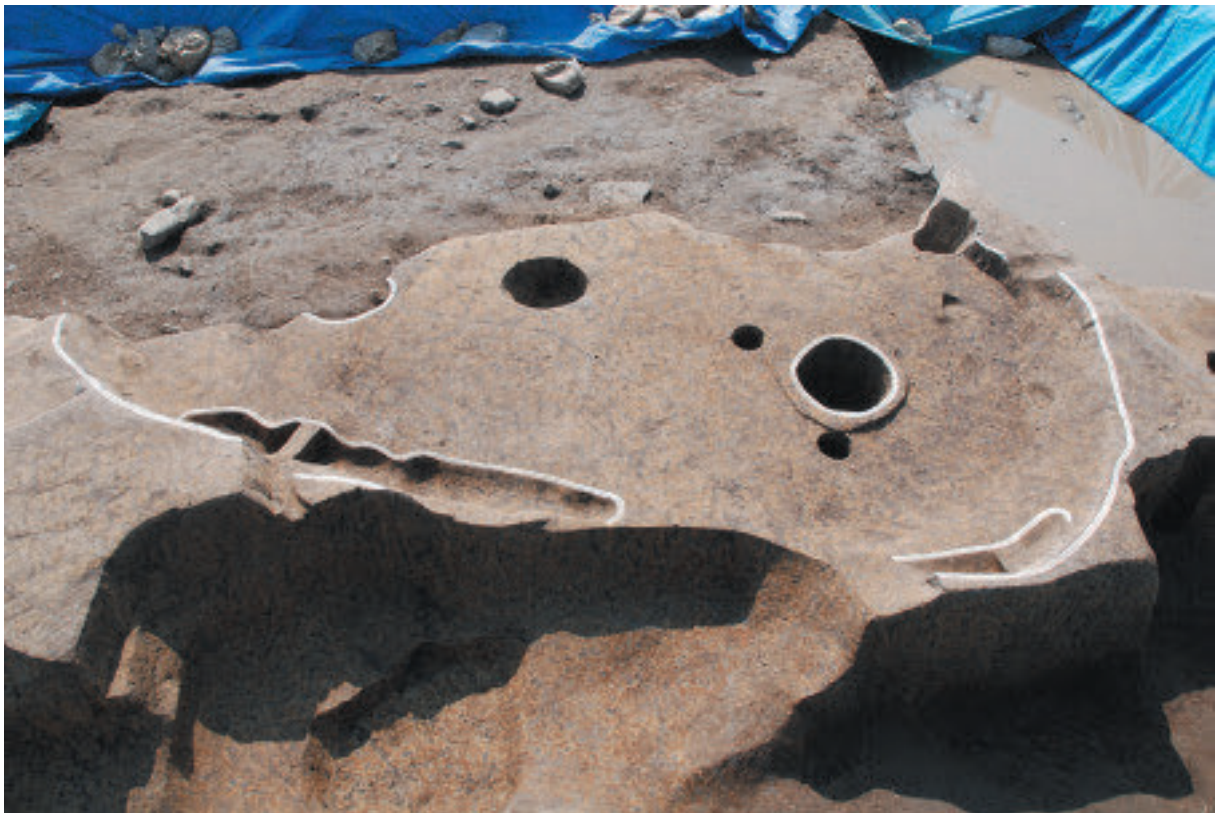
6-1 区SK 18 人骨完掘状況 (南から)



6-1 区SK 18 人骨完掘状況 (南から)



6-1 区 S X 08 掘削状況 (東から)



6-2 区 S H 09 完掘状況 (北から)



6-2区SH 07 遺物出土状況（南から）



6-2区SH 14、15等掘削状況（西から）



6-2区SH01等完掘状況(東から)



6-2区SK06(東から)



6-2区SD 13 検出状況 (西から)



6-2区SD 13 掘削状況 (東から)



6-3区(南)掘削状況(東から)



6-3区SH01完掘状況(西から)



6-3区(南)SH01、SP67断面(東から)



7-1区SH12完掘状況(南から)



7-1 区掘削状況（西から）



7-1 区SH 01、02 完掘状況（東から）



7-1 区SH 02 焼土集中状況 (東から)



7-1 区SB 05 (東北から)



7-1 区 S P 15 遺物出土状況 (東から)



7-1 区 S D 03 遺物出土状況



7-1 区 S D 03 検出状況 (西から)



7-1 区 S D 03 等掘削状況 (西から)



7-1 区 S D 03 等掘削状況 (東から)



7-1 区 S X 08 遺物出土状況 (北から)



7-1 区 S X 01 遺物出土状況 (西から)



7-1 区 S X 01 遺物出土状況 (東から)



7-1 区 S X 04 断面（北から）



7-1 区 S R 01 掘削状況（東北から）



7-3 区 S H 05 床面の遺物 (左の凹地は攪乱 13)



7-3 区 S H 05、08 完掘状況 (北から)



7-3区SH 12 遺物出土状況 (東から)



7-3区SH 09、10、11 掘削状況 (北から)



7-3 区 S H 06 ~ 08 掘削状況 (北から)



7-3 区 東部 遺構掘削状況 (北から)



7-3区SD 10、14 掘削状況（南から）



7-3区S X 08 遺物、焼土等検出状況（北から）



7-5 区完掘状況（北から）



7-5 区完掘状況（南から）



7-4 区南半 掘削状況（西から）



7-4 区S B 01 完掘状況（西から）



7-4 区 S P 93 掘削状況 (南から)



7-4 区 S P 93 掘削状況 (北から)



7-4 区 S P 93 掘削状況 (南から)



7-4 区 S P 09 遺物出土状況 (東南から)



7-4 区 S K 01 遺物出土状況 (東南から)



7-6 区 東部 掘削状況 (東から)



7-6区SH05 掘削状況（北から）



7-6区SH01、SB02、03 検出状況（南から）



7-6区SH 02、06等掘削状況（東北から）



7-6区SH 03、04掘削状況（西から）



7-6区SH06断面(東から)



7-6区SB01～03等掘削状況(南から)



7-6 区 S K 05 遺物出土状況（北から）



7-6 区 S X 04 遺物出土状況（東から）



140



185



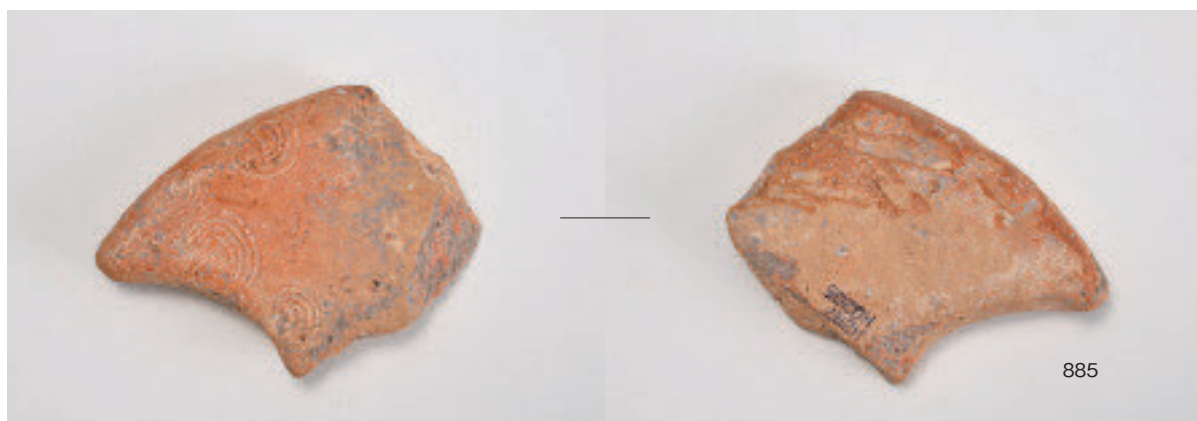
205



317



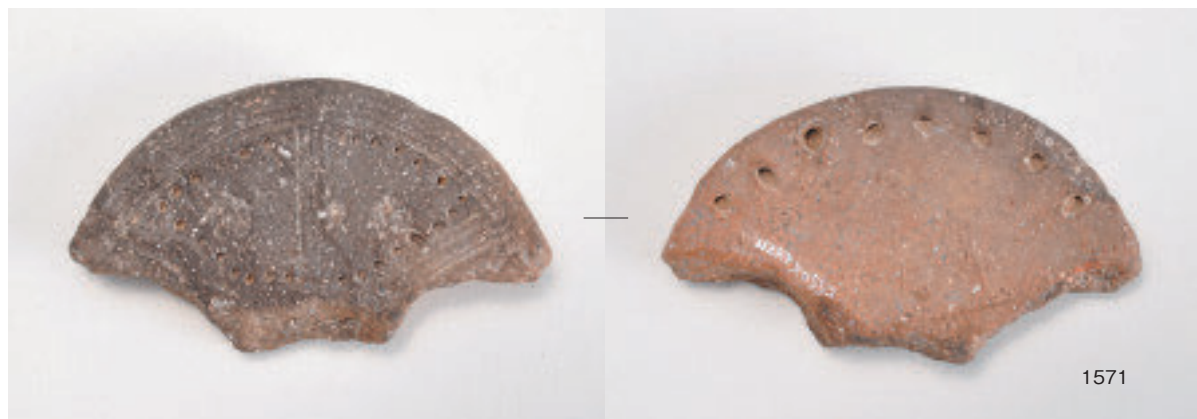
图版 40



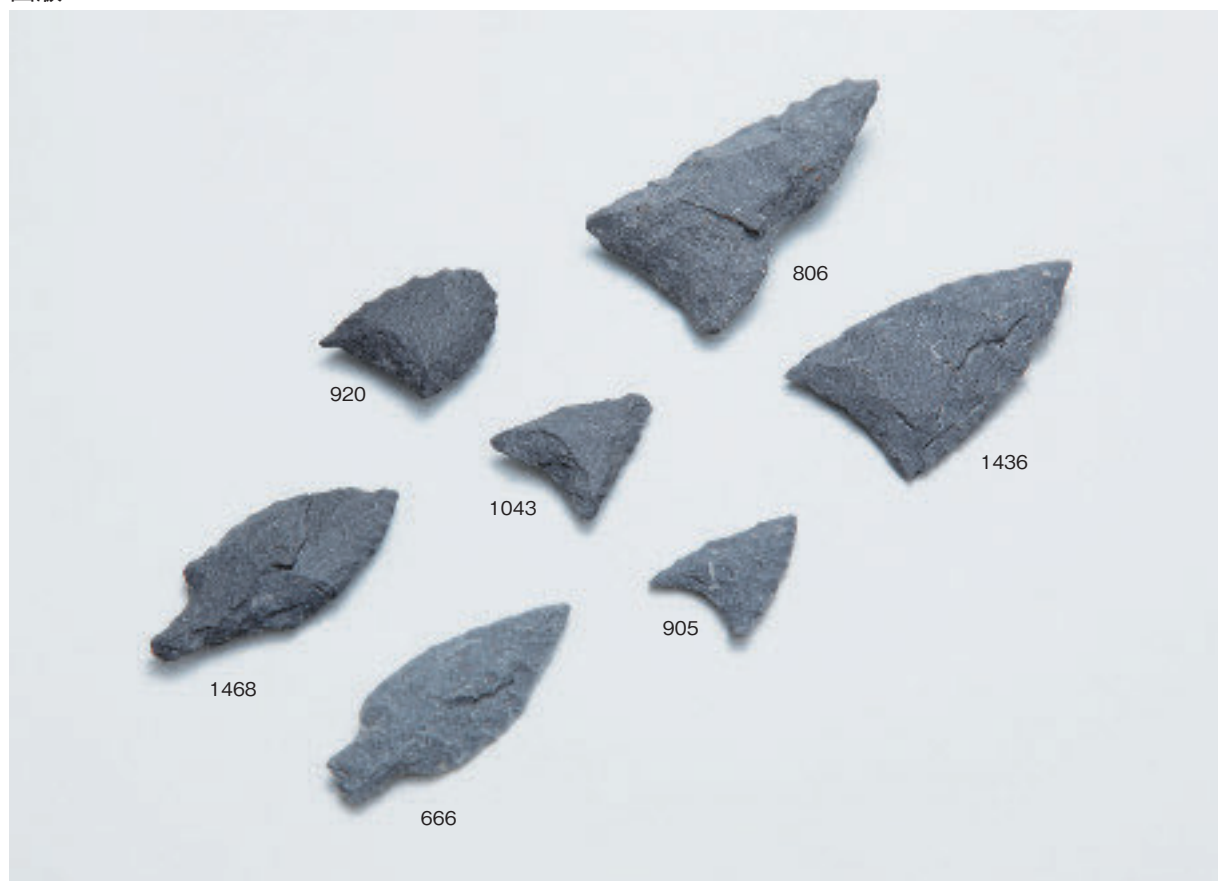


图版 42





图版 44









1183



444



1278



1316



443



602



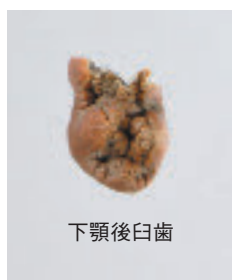


上顎臼歯

ウマ



上顎後臼歯



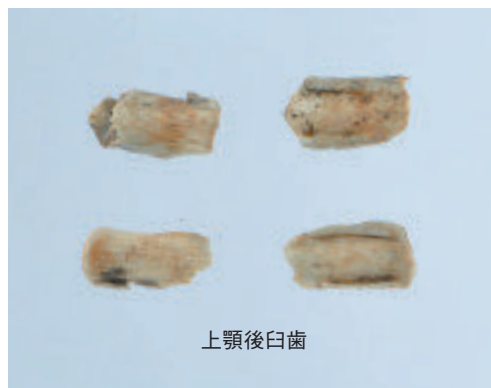
下顎後臼歯

イノシシ



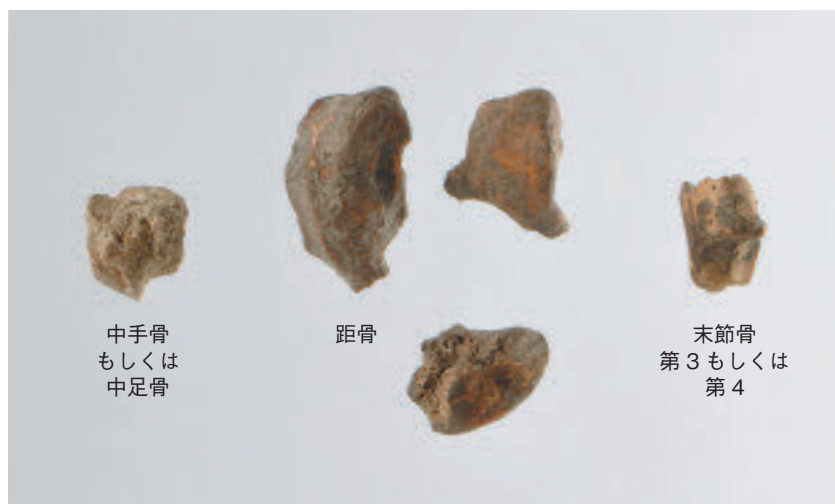
下顎切歯

ネズミ科



上顎後臼歯

ニホンジカ

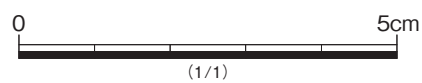


中手骨
もしくは
中足骨

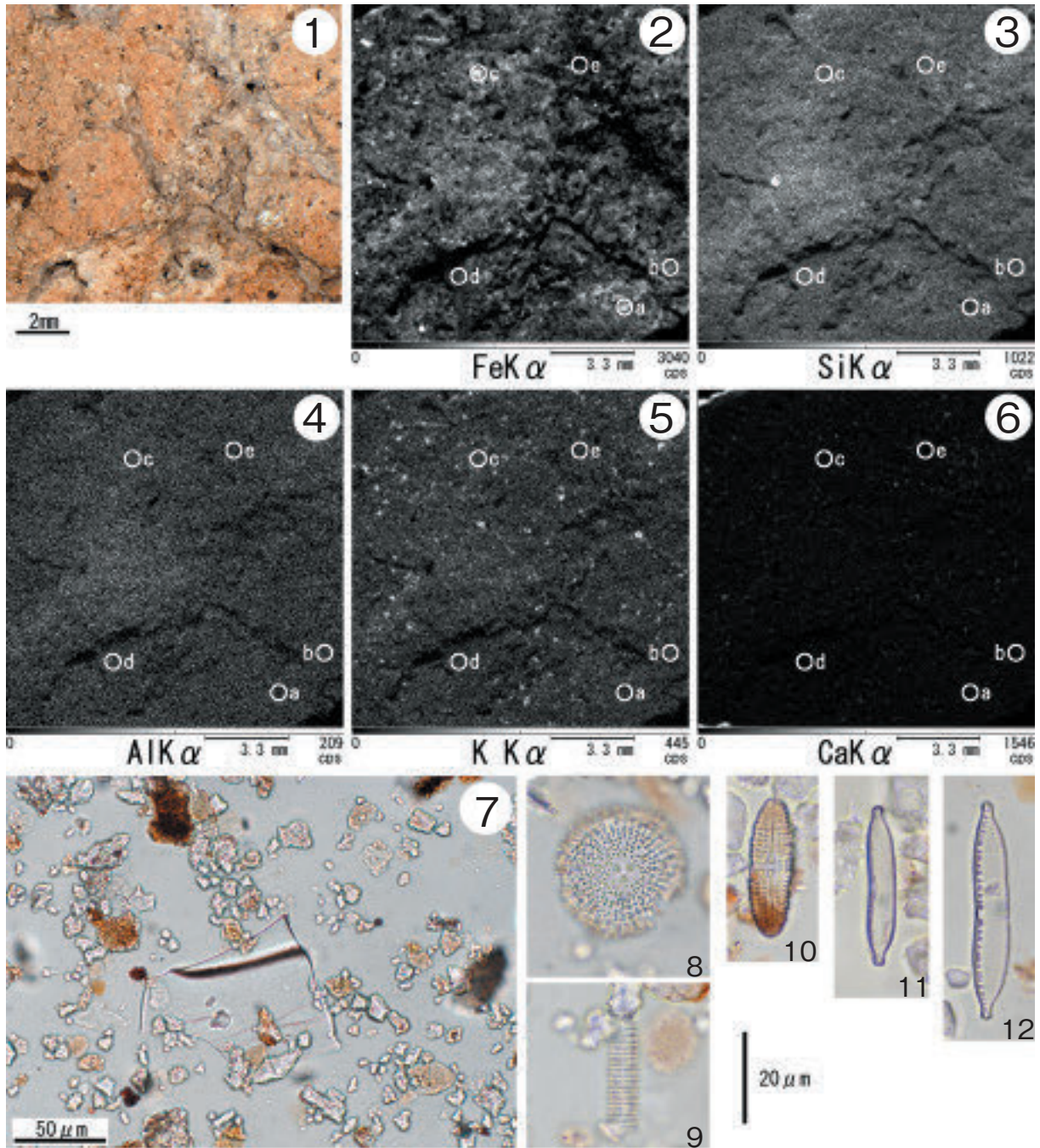
距骨

末節骨
第3もしくは
第4

ニホンジカ

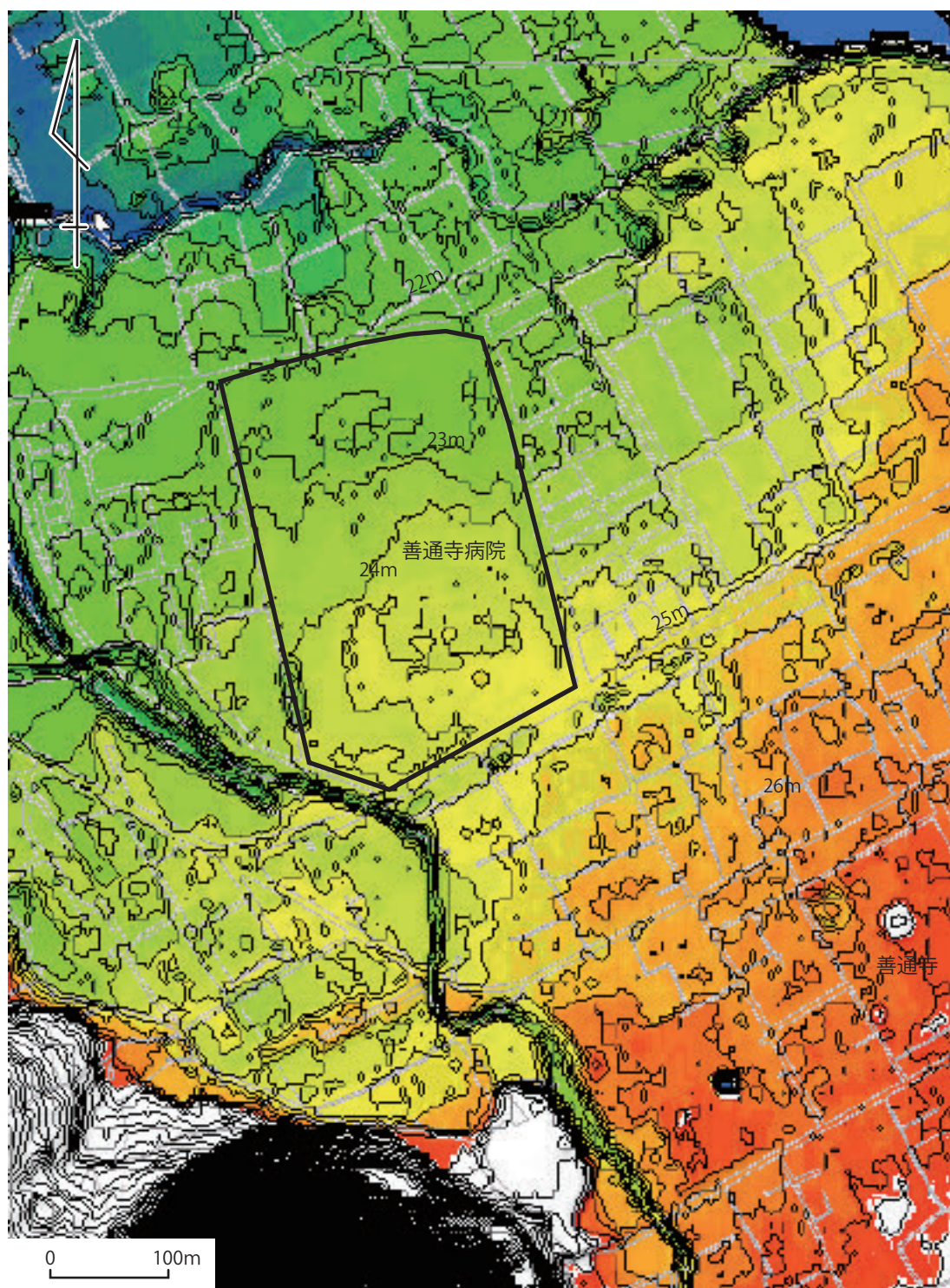


動物遺存体

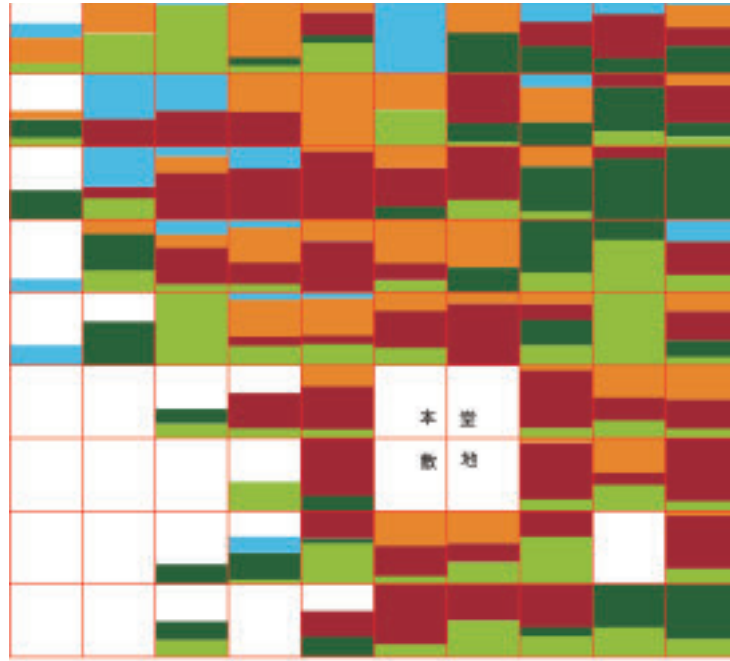


1. 元素マッピング試料の実体顕微鏡写真 2. 鉄 (Fe) 3. ケイ素 (Si) 4. アルミニウム (Al)
 5. カリウム (K) 6. カルシウム (Ca) 7. 状況写真 (中央: バブル型 Y 字状ガラス)
 8. 珪藻化石 *Melosira roeseana* 9. 珪藻化石 *Synedra ulna* 10. 珪藻化石 *Achnanthes crenulata*
 11,12. 珪藻化石 *Hantzschia amphioxys*

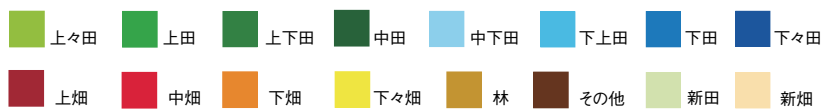
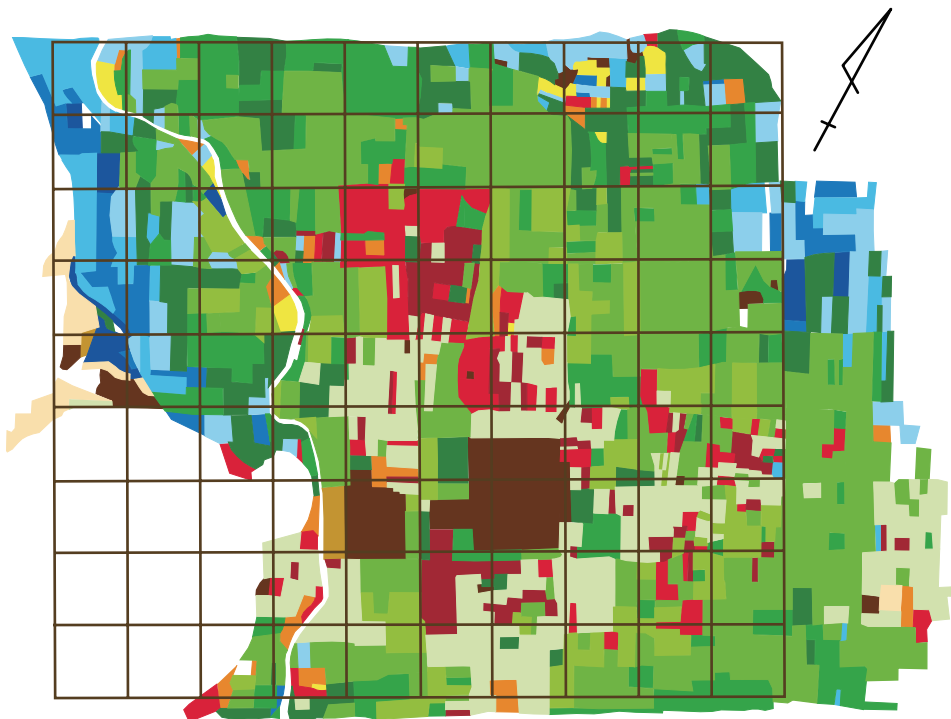
元素マッピング図および粒子・珪藻化石の顕微鏡写真



旧練兵場遺跡周辺 等高線図



久安元年における善通寺領の土地利用 (金田章裕氏による)



善通寺付近の明治前期の地目・地位等級

報告書抄録

ふりがな	きゅうれんぺいじょういせきよん							
書名	旧練兵場遺跡Ⅳ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊							
シリーズ番号								
編著者名	木下晴一・中橋孝博							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 TEL.0877-48-2191 Fax.0877-48-3249							
発行機関	香川県教育委員会・独立行政法人国立病院機構善通寺病院							
発行年月日	西暦2014年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きゅうれんぺいじょういせき 旧練兵場遺跡	かがわけん 香川県 ぜんつうじ 善通寺市 せんゆうちやう 仙遊町	37204		34° 13' 46"	133° 46' 14"	2009.12.1 ～ 2011.3.31	4,320m ² (部分)	独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
旧練兵場遺跡	集落跡	弥生～ 中世	竪穴住居、掘立柱建物、柱穴、土坑、溝状遺構、旧河道跡		弥生土器、土師器、須恵器、石器、青銅器			
要約	<p>旧練兵場遺跡は、縄文時代後期から中世にいたる複合遺跡である。中でも弥生時代中期後半から古墳時代前期に大規模集落が形成される。本書は、平成21、22年度に実施した第27、28次調査の成果の一部をまとめたもので、竪穴住居をはじめとした数多くの居住遺構が確認された。また、居住域に隣接する地点から弥生時代中期の墓が検出されている。</p>							

独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊

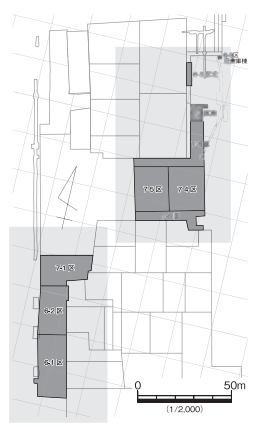
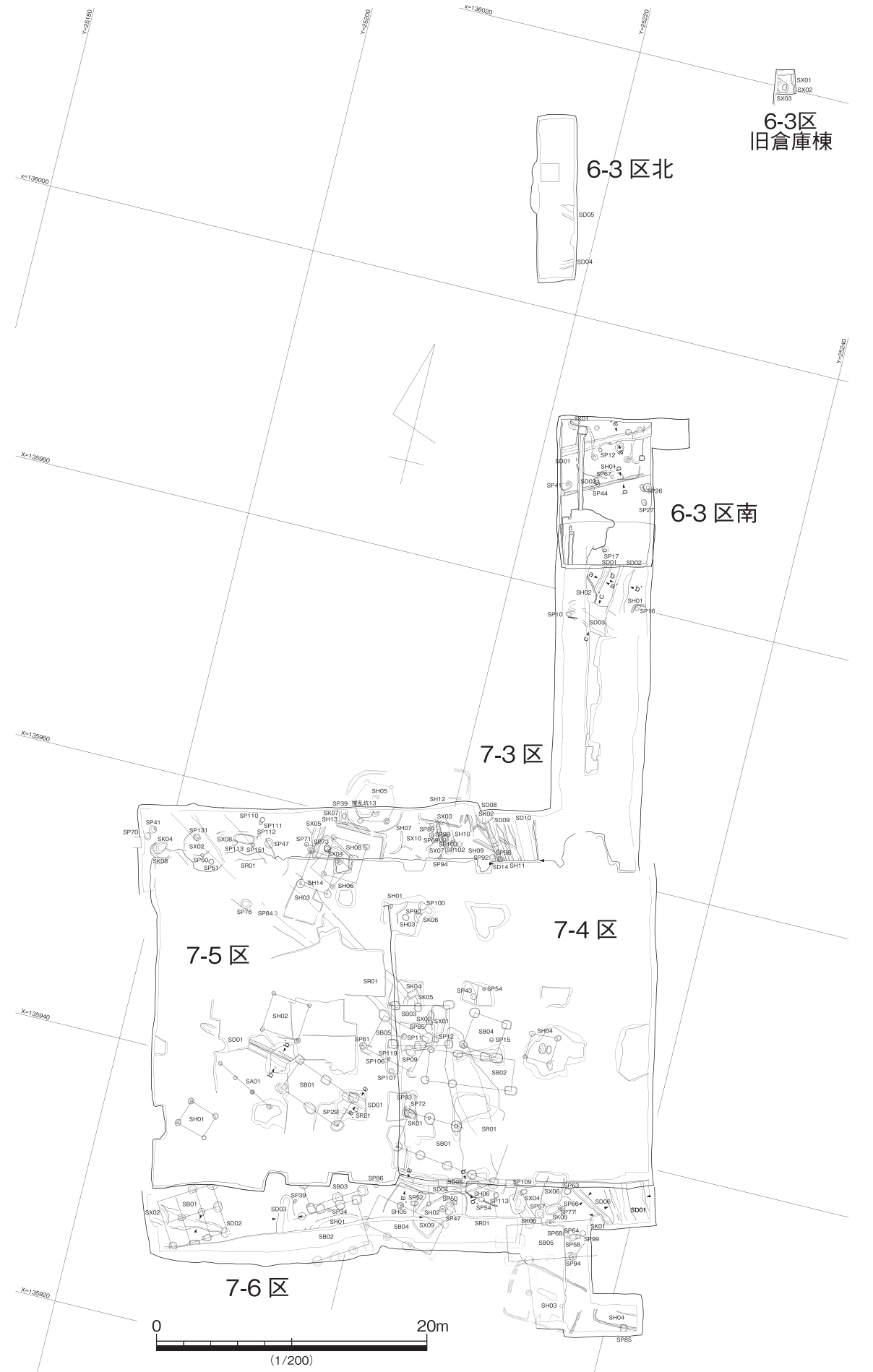
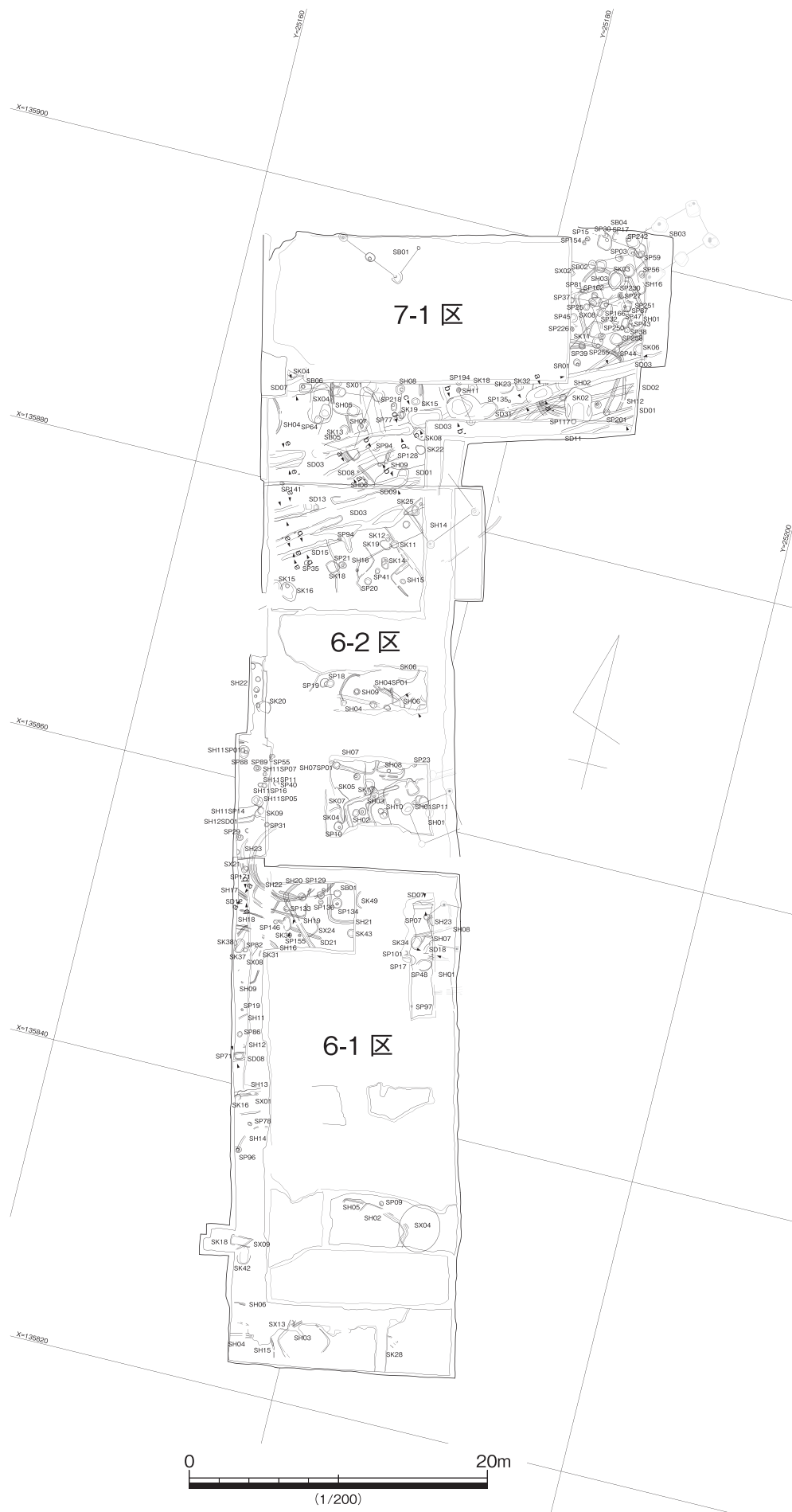
旧練兵場遺跡Ⅳ

平成26年3月20日発行

編集 香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中宇南谷5001-4
Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

印刷 株式会社 中央印刷所



付図 旧練兵場遺跡Ⅳ 遺構平面 (S=1/200)